



2015シラバス 多摩大学 経営情報学部

現代の志塾

多摩大学は「今を生きる時代についての認識を深め、課題解決能力を高める」ため、教育理念を「現代の志塾」と定め、教育・研究・社会貢献の全分野の共通理念としています。「現代の志塾」とは「アジア・ユーラシアダイナミズム」の「現代」、社会の不条理の解決のために自らの職業や仕事を通じて貢献をする「志」、人間的な触れ合いによる少人数制ゼミを中心とした「手作り教育」の「塾」を意味しています。実社会に活かすことのできる力を備え、問題解決の最前線に立つ「志」人材の育成に尽力し、個性と特色にあふれた「ゼミ力の多摩大」を形成しています。

学年暦

	月	火	水	木	金	土	日
4月			1	2	3	4	5
			オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション		入学式
	6	7	8	9	10	11	12
	① 履修登録開始	①	①	①	①	①	
	13	14	15	16	17	18	19
	②	②	②	②	② 履修登録終了	②	
	20	21	22	23	24	25	26
	③履修登録 確認期間開始	③	③	③	③履修登録 確認期間終了	③	
27	28	29	30				
④	④	④ (昭和の日)	特別研修日				

	月	火	水	木	金	土	日
5月					1	2	3
					特別研修日	特別研修日	憲法記念日
	4	5	6	7	8	9	10
	みどりの日	こどもの日	振替休日	④	④	④	
	11	12	13	14	15	16	17
	⑤履修登録 削除期間開始	⑤	⑤	⑤	⑤履修登録 削除期間終了	⑤	
	18	19	20	21	22	23	24
	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	
25	26	27	28	29	30	31	
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦		

	月	火	水	木	金	土	日
6月	1	2	3	4	5	6	7
	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	
	8	9	10	11	12	13	14
	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	
	15	16	17	18	19	20	21
	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	
	22	23	24	25	26	27	28
	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	
	29	30					
⑫	⑫						

※○の中に数字が記入されている日が授業日です。
 (例) 7月1日は授業があり、水曜日の授業の12回目です。

	月	火	水	木	金	土	日
7月			1	2	3	4	5
			⑫	⑫	⑫	⑫	
	6	7	8	9	10	11	12
	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	
	13	14	15	16	17	18	19
	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	
	20	21	22	23	24	25	26
	⑮ (海の日)	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	
27	28	29	30	31			
特別補講日 (1)	特別補講日 (2)	定期試験 (1)	定期試験 (2)	定期試験 (3)			

	月	火	水	木	金	土	日
8月						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30	

	月	火	水	木	金	土	日
9月	8月31日	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
					① 履修登録開始	① 秋学期卒業式	
	21	22	23	24	25	26	27
	① (敬老の日)	① (国民の休日)	① (秋分の日)	①	②	②	
28	29	30					
②	②	②					

	月	火	水	木	金	土	日
10月				1	2	3	4
				② 履修登録終了	③	③	
	5	6	7	8	9	10	11
	③履修登録 確認期間開始	③	③	③	④履修登録 確認期間終了	④	
	12	13	14	15	16	17	18
	④ (体育の日)	④	④	④	多摩祭準備	多摩祭	多摩祭
	19	20	21	22	23	24	25
	多摩祭片付け	⑤ (開学記念日*)	⑤	⑤	⑤	⑤	
26	27	28	29	30	31	11月1日	
⑤履修登録 削除期間開始	⑥	⑥	⑥	⑥履修登録 削除期間終了	⑥		

※1開学記念日： 本学の母体の学校法人田村学園は、昭和12年10月20日に田村國雄が設立した目黒商業女学校が起源となった。

	月	火	水	木	金	土	日
11月	2	3	4	5	6	7	8
	⑥	文化の日	⑦	⑦	⑦	⑦	
	9	10	11	12	13	14	15
	⑦	⑦	⑧	⑧	⑧	⑧	
	16	17	18	19	20	21	22
	⑧	⑧	⑨	⑨	⑨	⑨	
	23	24	25	26	27	28	29
	⑨ (勤労感謝の日)	⑨	⑩	⑩	⑩	⑩	
30							
⑩							

	月	火	水	木	金	土	日
12月		1	2	3	4	5	6
		⑩	⑪	⑪	⑪	⑪	
	7	8	9	10	11	12	13
	⑪	⑪	⑫	⑫	⑫	⑫	
	14	15	16	17	18	19	20
	⑫	⑫	⑬	⑬	⑬	⑬	
	21	22	23	24	25	26	27
	⑬	⑬	⑭ (天皇誕生日)				
28	29	30	31				

	月	火	水	木	金	土	日
1月					1	2	3
					元日		
	4	5	6	7	8	9	10
					⑭	⑭	
	11	12	13	14	15	16	17
	成人の日	⑭	⑮	⑭	センター試験準備	メモリアルデー ^{*2} センター試験	センター試験
	18	19	20	21	22	23	24
	⑭	⑮	⑮ 月曜日授業	⑮	⑮	⑮	
	25	26	27	28	29	30	31
	特別補講日 (1)	特別補講日 (2)	定期試験 (1)	定期試験 (2)	定期試験 (3)		

※ 2メモリアルデー： 創立者、田村國雄の命日。

	月	火	水	木	金	土	日
2月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
				建国記念の日			
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29						

	月	火	水	木	金	土	日
3月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
							卒業のつどい (春分の日)
	21	22	23	24	25	26	27
	振替休日						
	28	29	30	31			



1. 基本理念	1
2. カリキュラムポリシー	2
3. ディプロマポリシー	2
4. 学生生活	3
5. 授業	4
6. 履修登録・確認	5
7. 学期末試験	9
8. 成績	13
9. 学科選択	16
10. 進級・卒業要件	17
11. 教職課程	22
12. オフィスアワー制度について	27
13. 授業評価アンケート(VOICE)について	28
14. 単位互換科目について	28
15. アセスメント	30
16. TOEIC 試験補助について	30
17. 多摩大学学則(抜粋)	31
18. 多摩大学学生懲戒規程	39
19. 多摩大学履修規程(抜粋)	42
20. 多摩大学早期卒業規程(抜粋)	44
21. 多摩大学経営情報学部早期卒業細則(抜粋)	45
22. 多摩大学成績評価規程	46
23. 前提科目一覧	47
24. 授業科目一覧	49
25. シラバス	55

1. 基本理念

多摩大学の設立母体である学校法人田村学園建学の精神である「質実清楚・明朗進取・感謝奉仕」を礎とした本学の基本理念は「国際性・学際性・実索性」の三つのキーワードで表現されます。

<国際性>

日本は歴史上初めて国全体が本格的なグローバル化の波に洗われている。国内のみならず、国際社会で活躍できる人材、グローバル社会の一員として積極的な役割を果たす人材の育成が急務であるとの認識のもと、国際化のための教育カリキュラムの充実に取り組んでいる。

<学際性>

行き過ぎた専門化の弊害を是正するため、学際的な研究・教育への取組を重視。経営学と情報技術の進展が密接不可分の関係にあることから生まれた学際的な領域である「経営情報学」を設立する。

<実索性>

大学に対する「象牙の塔」批判を克服すべく、「社会に通用する大学」を標榜する。とくに、経営情報学という学問分野においては、実践的な最先端知識とアカデミックな研究の融合が不可欠であることから、教授陣については、アカデミックなキャリアを有する人材のみならず、実業界での最先端の実績を持つ人材を数多く集めてきた。

2. カリキュラムポリシー

本学の建学精神に基づき、以下の二つの柱で構成されたカリキュラムによって、学生自身が各自の「志」を実現できる力を付け、人間的成長を促す教育を実現します。

○ゼミ中心教育カリキュラム

双方向型少人数教育をゼミナールの形で行い、産業社会や地域社会の中で直面する問題を採り上げ、それらを分析し解決策を提案・実施する活動を通じて、問題解決の実践力を養う実学教育プログラムを展開します。

○実践的知識獲得のための講義カリキュラム

問題の分析・解決策提案・実践に必要な考え方や知識を幅広く学ぶため、学際性、国際性を考慮した科目群を配置します。講義内容は、知識断片の記憶を排し、どのような手法や知識がどのような問題解決に役立つかを中心に教える実学教育プログラムを展開します。

3. ディプロマポリシー

本学部の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、「志」を実現できる力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与します。

- ゼミ中心教育における科目の成績評価は、解決策の提案・実践の成果を公表することを前提とし、そこに至る過程で果たした学生の力を教員が評価することとします。
- 実践的知識獲得のための講義では、適切な問題解決に必要な知識や技術的手法がどれだけ身についたかを評価します。
- カリキュラムの多面的履修を通して、豊かな人格形成の基本と基礎的な学力を養い、特定の専門領域にこだわらずに問題を探求する姿勢を身につけることを重視します。
- 双方向型の少人数教育をとおしてコミュニケーション力や論理的説得力が身についたかどうかを評価します。
- 4年間にわたる教育課程をバランスよく学ぶことにより、国際的ビジネスの場で活躍するとともに、わが国の産業社会の健全たる発展に寄与できる能力を身に付けさせます。
- 志を持って周囲に感動を与え、遂行できる能力を身に付けさせます。

4. 学生生活

(1) 学生証

学生証は本学学生の身分を証明する重要なものです。請求があったときにはいつでも提示できるよう、常に携帯してください。

《提示が必要なとき》

- ・通学定期を購入するとき(2013年度以前に入学した入学生は学生証と、さらに通学証明書が必要です)
- ・多摩大学所定の学期末試験を受けるとき
- ・各種証明書の発行を受けるとき
- ・学割証の発行を受けるとき
- ・その他、本学教職員から請求があったとき

《学生証に関する注意》

- ・他人に貸与又は譲渡してはいけません。
- ・紛失や盗難にあった場合は、直ちに学生課に届け出て、再発行(有料)の申請をするとともに、必ず最寄りの警察に届け出てください。(再発行の手続きは学生課にて行って下さい。)
- ・破損、汚損した場合や記載事項に変更のある場合は、学生課に届け出てください。
- ・再発行する場合は、必ず最寄り駅にて再発行する旨伝えてください。(2013年度以前入学学生のみ)
- ・卒業、退学等により学籍を離れるときは、直ちに学生課に返却してください。

(2) 事務局窓口受付時間

平日 8:50~17:00

土曜日 8:50~12:30

(日曜日、祝祭日、その他大学所定の休日は休業)

(3) T-NEXT(多摩大学学生ポータル)

T-NEXTは多摩大学の学生と教職員だけが閲覧できる学内システムです。ウェブシラバス、履修登録/確認、学科選択、掲示板、講義サポート(講義資料掲示等)といった大学での重要な申請や通知を行います。T-NEXTへのログインの方法や個人のパスワード等については、入学時の説明会にて説明を実施しています。不明な場合はメディア・サービス・セクション(MSS)に問い合わせてください。

(4) 大学からの伝達・連絡事項の確認方法について

学生の皆さんに対する伝達・連絡等は、原則としてT-NEXTのみでお知らせします。掲示した事項については、周知されたものとして取扱います。大変重要な掲示をT-NEXTで行いま

すので**必ず毎日確認**してください。

(5) 伝言・照会

電話による伝言依頼、住所、電話番号の照会等を受け付けてはおりません。

5. 授 業

(1) セメスター制

1年を春学期と秋学期の2学期に分けて授業を行います。そして、本学では1学期毎に授業が完結するセメスター制を導入し、半期に集中して授業を行うことにより学習効果を高めています。

春学期 4月1日から9月17日まで

秋学期 9月18日から翌年3月31日まで

(2) 単位制

科目の履修には単位制が採用されています。単位制とは、科目毎に一定の基準により単位数が決められ、その科目を履修し、試験等に合格して単位を修得する制度です。その修得した単位数が卒業の要件として定められた基準を満たした場合に、卒業が認められます。

(3) 授業時間

授業時間は1時限90分で行います。

時 限	
1時限	9時00分 から 10時30分
2時限	10時40分 から 12時10分
昼休み	12時10分 から 13時00分
3時限	13時00分 から 14時30分
4時限	14時40分 から 16時10分
5時限	16時20分 から 17時50分
6時限	18時00分 から 19時30分

(4) 休講

教員の都合による休講はありません。病気や学会出張等止むを得ない事情の場合は、補講又は代講等により講義を行います。

(5) 補講

補講は休講等に対する措置として、平常授業を補うために行うものです。補講が行われる科目等についてはT-NEXTの掲示等にて連絡します。

(6) 欠席届の手続き

履修科目の単位認定には授業への出席が重視されます。科目によっては欠席が多いと単位の修得ができなくなります。止むを得ない理由で欠席をする(した)場合は、担当教員に欠席届(書式は自由)を提出して下さい。但し、欠席届を考慮するかしないかは、担当教員の判断に任されています。

6. 履修登録・確認

(1) 授業

春学期と秋学期の2セメスター制で行います。学期ごと15回の授業を実施します。授業は学年暦カレンダーに従って行われます。祝日に授業が実施されることもあります。また、特別補講日も授業を行うことがあります。十分注意してください。

(2) 履修登録とは

履修登録とは、授業を受けて単位を修得するために、毎学期の始めに、各自の履修計画に基づき、シラバスやその学期の時間割表等から履修科目を決定して、履修科目の登録をする手続きをいいます。履修登録を怠ったり、登録漏れや間違いがあったりした場合は、たとえ授業に出席し試験を受けたとしても単位は修得できません。従って、この手続きは、最も重要な手続きであることを認識して下さい。

また履修系統図をホームページに記載しており、卒業までに身に付けることができる知識・能力が、どのように授業に対応しているのかを図に示してあります。履修科目を選択する際の参考にしてください。

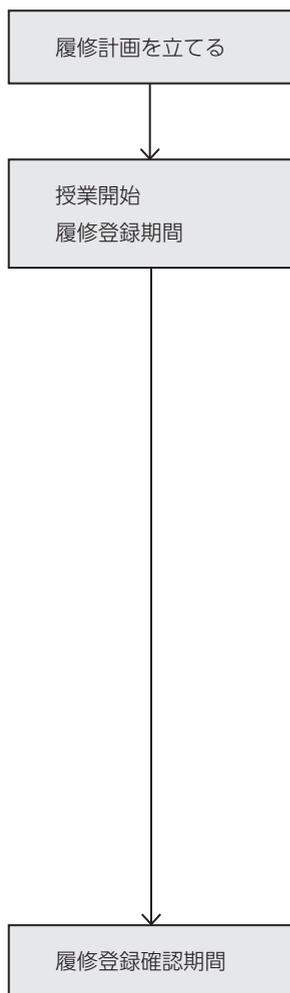
(3) 登録・確認方法

T-NEXT上から科目を登録・確認する方法により行います。なお、システムの利用にあたっては、多摩大学共通アカウント及び共通パスワードが必要です。

(4) 履修科目登録・確認上の注意

- ・履修科目登録及び確認は、配布パソコン、パソコン教室のパソコン及び自宅のパソコン等から行って下さい。
- ・登録・確認期間中(特に最終日)は学内のパソコン及び学内ネットワークの利用が混雑したり、パソコンの動作が遅くなったりすることが予想されます。登録にあたってはあらかじめ科目を決定した上で、十分に時間的な余裕を持って行って下さい。
- ・履修科目登録・確認に当たっての詳細な注意事項は別途指示します。

(5)履修登録・確認の流れ



前学期の成績結果、時間割、シラバス、学生生活ハンドブック等から、履修する科目を決定して下さい。

授業開始

春学期：4月6日（月）

秋学期：9月18日（金）

履修登録期間

春学期：4月6日（月）から4月17日（金）

秋学期：9月18日（金）から10月1日（木）

- ・クラス分けされている科目、選抜者のみが登録できる科目があるので注意して下さい。
- ・履修について卒業要件や進級要件で不明なことや確認したいことがある場合、提供されている資料を確認した後、教務課窓口まで相談に来て下さい。
- ・登録はT-NEXT上から行います。システム利用にあたっては、多摩大学共通アカウント及び共通パスワードが必要。不明な場合は、メディア・サービス・セクション(MSS)で再発行手続をして下さい。
- ・ネットワークの混雑を考え、登録は余裕を持って行って下さい。

履修登録確認期間

春学期：4月20日（月）から4月24日（金）

秋学期：10月5日（月）から10月9日（金）

履修登録削除期間

春学期：5月11日（月）から5月15日（金）

秋学期：10月26日（月）から10月30日（金）

(6)履修登録に関するルールについて

- ・履修登録確認期間中での科目追加、削除は、それぞれ8科目を上限とする。
- ・履修登録確認期間後の科目追加、削除は、4科目とする。ただし、履修登録確認期間最終日を含め、14日以内とする。その最終日が休業日の場合であっても手続き可能な日程は延長しない。
- ・履修登録期間後の科目追加、削除は当該学期中1度のみとする。
- ・履修登録確認期間中に、履修登録科目の追加や削除を希望する学生、または履修登録期間中に履修登録を行わなかった学生は、履修登録確認期間中に開催される「履修科目変更に関する説明会」に参加し、説明会の中で、指定の申請用紙にて変更及び登録申請を行うこととする。
- ・履修登録確認期間後に履修登録科目の追加や削除を希望する学生、または履修登録期間及び履修登録確認期間中の何れでも履修登録を行わなかった学生は、教務課にて所定の申請用紙にて変更及び登録申請を行うこととする。
- ・学生の履修登録変更に関しては、教授会への報告事項とする。

○履修登録状況及び変更申請時期における、追加、削除可能科目数マトリクス

履修登録確認期間中	履修登録確認期間後 14日以内	履修登録確認期間後 15日目以降
8科目まで	4科目まで	履修登録不可、削除は 履修登録削除期間のみ可

(7)履修制限科目

1 講義の履修登録者数の制限について

受講者が教室に収まりきれない事態の発生を防止するため、受講希望者が多数になると見込まれる科目について、履修登録の制限を実施します。履修を制限する科目については、T-NEXTにて掲示します。

履修制限の方法は、初回の講義に参加したものの中から、教室の規模に見合った受講者数になるように選抜を行い、履修登録を認める履修許可者を決定します。

履修許可者であっても、履修登録期間内にT-NEXTを使って履修登録をしなかった場合は、履修放棄と見なし履修許可を取り消します。また、履修許可がない者が履修登録していた場合には、その履修登録は抹消されます。

なお、履修制限を実施する科目に関しては、履修確認期間以降に認められている追加登録の対象とはしません。

2 履修許可者の選抜方法

履修許可の選抜は、各科目の最初の講義に出席した者に課題を課し、その評価により選抜します。初回の講義に出席しなかった者には履修許可は与えません。

ただし、初回講義の出席に関して正当な理由(病気や事故、交通機関の障害など)があって参加できなかった者で、履修登録期間中に担当教員にその旨を申し出、その理由が証明できる場合に限り、追加で履修許可の選抜を受けることができることとします。

7. 学期末試験

(1) 学期末試験の種類

① 定期試験

各学期末の試験期間中に実施する試験であり、春学期末試験と秋学期末試験の年2回実施します。

○ 試験期間

春学期末試験：7月29日(水) から7月31日(金)

秋学期末試験：1月27日(水) から1月29日(金)

○ 試験時間

試験時間は1時限60分間です。

時 限	試験時間	遅刻限度時間	途中退席可能時間
1 限	9:20～10:20	9:40	10:00
2 限	10:50～11:50	11:10	11:30
昼休み	11:50～12:30		
3 限	12:30～13:30	12:50	13:10
4 限	14:00～15:00	14:20	14:40
5 限	15:30～16:30	15:50	16:10
6 限	17:00～18:00	17:20	17:40

※平常講義の時間割と時間帯・教室・曜日が異なりますので発表された時間割に注意して下さい。

※試験開始後、20分以上遅刻した場合、受験を認めません。

※試験開始から40分経過以降、途中退席を認めず。

◎受験には学生証を必要としますが、試験当日持参しなかった場合、教務課にて仮学生証の交付を行います。その際には、手数料として、100円を徴収します。

- ・仮学生証の有効期限は当該試験期間内に限りです。
- ・いったん納入された手数料は、如何なる理由があっても返金しません。

② 授業内試験

◎各担当教員の判断により、講義時間中等に必要に応じて随時実施する試験をいいます。

◎仮学生証の発行は行いません。試験当日に学生証を持参しなかった場合には、各担当教員によって取扱いが異なります。

③定期試験の追試験

定期試験中に病気又は止むを得ない理由により、試験が受験できなかった者には、審査の上で追試験を許可することがあります。

○手続き期間

事前届出を原則としますが、事後となった場合は、当該科目の試験当日を含む3日以内とします。なお、3日目が休日の場合は、その翌業務日までとします。(期間の過ぎた申請は、一切受け付けません。)

○手続きの際に必要な書類

1. 追試験受験願(教務課に備付)
2. 理由を証明する添付書類
病気・ケガ・・・・・・・・医師の診断書
交通機関の遅延等・・遅延証明書等
忌引・・・・・・・・・・会葬礼状等
その他・・・・・・・・理由を詳細に記載した書類等

○追試験受験料(1科目につき1,000円。但し、1親等以内の忌引の場合は免除します。)

○試験日

春学期試験の追試験・・・・8月上旬頃

秋学期試験の追試験・・・・2月上旬頃

④再試験について

卒業年次の学生は、履修登録した科目のうち不合格になった科目に限り、多摩大学履修規程第5条に基づき、再試験を受験できる可能性があります。

(2) 多摩大学経営情報学部再試験実施要領 (抜粋)

この要領は、多摩大学履修規程第5条に基づき、再試験の実施に関する事項を定める。

- ① 再試験を実施する科目は、卒業年次の最終学期末試験を実施した科目を原則とする。
- ② 再試験は次の要件をすべて満たした者に受験を許可する。
 - ・ 学期末試験を受験して不合格となり卒業に必要な単位が不足してしまった場合
 - ・ 不足単位が3科目以内の場合
 - ・ 再試験を受験し合格(単位修得)することにより不足単位が満たされ「卒業」が可能となる場合
 - ・ 授業科目担当者が再試験受験を許可した場合
- ③ 再試験を受験できる科目数は、不足単位の科目数とする。
- ④ 再試験の受験が許可された者は、指定の期間内(発表日を含め3日以内、なお、3日目が休日の場合は、その翌業務日まで)に再試験料を納入し、受験手を完了しなければならない。
- ⑤ 再試験の合格評価は、履修規程第9条に定める合格最低評価をもって行う。

※詳細に関しては、別途T-NEXTの掲示等にて告知致します。

(3) 試験実施上の注意事項

受験できる科目は、「履修登録」をして許可を受けた科目に限る。受験に際して次のことに留意すること。

- 1 試験会場は講義が行われる講義室とは異なるので注意すること。
- 2 科目によっては、講義が行われる曜日・時限とは異なるので注意すること。
- 3 科目によっては講義室を2教室以上使用して試験を行うので、指示された講義室を間違えないように注意すること。
- 4 受験の際は、学生証を必ず持参し、試験中は机上の右上に置くこと。
- 5 学生証を持参しない場合は受験することはできない。但し仮学生証の交付を受けた場合は受験を認める。
- 6 答案には学部、学科、学籍番号、氏名を明瞭に記入すること。記入してない答案は無効となる。
- 7 受験中、机の上におくことのできる物品は、学生証のほかには次のとおり。
 - (1) 筆記用具(ボールペン、万年筆、鉛筆、鉛筆削り、消しゴム)
 - (2) 時計(ただし計算機、辞書機能付きは除く)
 - (3) 目薬・ティッシュペーパー
 - (4) 当該科目の持込許可条件で許可されたもの
- 8 試験会場には、携帯電話を持ち込まないこと。もし持参している場合は電源を必ず切りカ

バンの中にしまうこと。

- 9 荷物は床もしくは隣のイスの上に置くこと(机の中には入れないこと)。本やノート等は必ずカバンの中にしまうこと。
- 10 遅刻は試験開始後20分までであれば、認める。
- 11 その他、監督者の指示に従うこと。
- 12 試験時間中に不正行為をした者は、事実を確認の上多摩大学学則、多摩大学履修規程第8条及び多摩大学学生懲戒規程により処罰される。

不正行為とは

- ① 替え玉受験すること(依頼すること、引き受けること)。
- ② 答案を交換すること(双方)。
- ③ カンニングペーパー(器具)を使用すること。
(机上・机の中・衣服の中にあって例え使用していなくても不正行為とする)。
- ④ 机、その他(壁、床、手など)に記入し、これを利用しようとする事。
- ⑤ 他人の答案を見て写すこと及び故意に他人に見せること。
- ⑥ 試験中に携帯で話すこと。試験時間中に電話が鳴動した場合、理由に関らず、不正行為とみなす。
- ⑦ 「解答はじめ」の指示の前に問題冊子を開き解答を始めること。
- ⑧ 「解答やめ。鉛筆を置いて下さい。」の指示に従わず、鉛筆を持ち解答を続けること。
- ⑨ その他上記①～⑧に類似する行為。
- ⑩ 監督者の指示に理由なく従わないこと。

8. 成績

(1) 成績評価

成績評価は、学期末試験（定期試験・授業内試験）、レポート及び出席状況等を総合的に考慮して絶対評価で判定します。

	一般講義科目		演習科目	
	成績通知書	成績証明書	成績通知書	成績証明書
合格	A+	A+	P	P
	A	A		
	B	B		
	C	C		
不合格	F	表示しない	F	表示しない
認定※	N	N	N	N

※ 編入学における単位認定、他大学科目認定等の場合のみ付与する。

(2) 成績発表

成績は、「成績通知書」を学生及び保証人宛に発送します。

春学期「成績通知書」発送予定・・・9月中旬頃

秋学期「成績通知書」発送予定・・・3月中旬頃

(3) 成績評価に関する問合せ

当該学期の成績評価について確認をしたい場合は、次学期授業開始日より14日間以内の窓口受付時間までに、教務課に申し出て下さい。

(4) 評定平均(GPA)

成績評価方法の一種として授業科目ごとの成績評価を5段階(A+またはP、A、B、C、F)で評価し、それぞれに対して4、3、2、1、0のグレードポイントを付与し、この単位当たり平均(GPA、グレード・ポイント・アベレージ)を出します。認定(N)はGPA計算に算入しません。

GPAは成績優秀者奨学金や、早期卒業、退学勧告、学科選択の学生選考、教職課程の履修許可など幅広く活用されます。

(5) 褒賞制度

本学では学業や社会活動において優れた業績を上げた学生を褒賞する制度を設けています。

褒賞名	褒賞内容
最優秀学生賞 (Best Academic Achievement Award)	大学在学中4年間を通じて総合的に最も優秀な成績を収めた卒業予定者5名及び本学学生として模範的行為のあった者若干名
成績優秀学生賞 (Academic Achievement Award of the semester)	成績優秀者奨学金受給学生に該当する者
優秀学生賞 (Academic Achievement Award)	各講義科目において顕著に優れた成績を収めた学生（各科目1名） 教育補助(SA)として著しい功績があった者 成績向上が顕著な者(GPAの向上等を基準) 学業に対する取組みが真摯で他の模範となる者
社会・研究活動賞 (Outstanding Achievement Award in Research and Social Activities)	コンテスト等において優秀な成果をおさめた者または団体 課外活動で全国大会に出場する等顕著な成績をおさめた者または団体 在籍期間を通じて学生会等の活動にて特に貢献のあった者 優れた研究成果又は論文を発表した者または団体（SRC含む）
学長賞及び学部長賞 (President's Award, Dean's Award)	本学学生として模範的行為のあった者または団体

(6) 成績優秀者奨学金制度

学費減免を目的として各学期の評定平均(GPA)上位者20名に対して奨学金を付与する。

- ・ 区分1…各学期分の授業料
- ・ 区分2…5万円

(1) 評定平均算出方法

$$\frac{4.0 \times ([A+] \text{と} [P] \text{の修得単位数}) + 3.0 \times ([A] \text{の修得単位数}) + 2.0 \times ([B] \text{の修得単位数}) + 1.0 \times ([C] \text{の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数} ([F] \text{の単位数を含む})}$$

(2) 選定

選定数の確認

- ・ 入試合格時に選定され奨学金を支給されている者(1年次生)及び、支給日当日に在籍していない者は対象外とする。
- ・ 区分1の奨学生候補者数の選定
ア、教職に関する授業科目を除く5科目以上を履修していて評定平均が3.2以上の者とする。
イ、複数名が対象となった場合は、評定平均最上位の者とする。

- ウ、評定平均最上位の者が複数名の場合は、修得単位数同一者全員を区分1とし、奨学金は、区分1の定員を超える人数分については区分2の支給額を加え、均等に分配することとする。なお、均等に分配できない場合は、小数点を切り捨てる。
- ・ 区分2の奨学生候補者数は、教職に関する授業科目を除く5科目以上を履修している者とし、区分1と併せて各学期20名以内とする。

(7)成績不振者

「各学期の取得単位数が4単位未満の学生」を成績不振者として定義しています。

成績不振者は教員と今後の就学に関して面談を実施する場合があります。

(例)

- ・ 1つの学期で3単位取得→成績不振者として面談実施の可能性あり
- ・ 1つの学期で4単位取得→成績不振者として面談は実施しない

(8)退学勧告について

多摩大学成績評価規程により、在籍期間やGPA、修得単位数、修学の意思に応じて退学勧告を行っています。

9. 学科選択

(1) 学科選択とは

経営情報学部において入学後の1年間は、学生は学科には所属せず経営情報学部の学生として広く経営情報の素養を身につけることが期待されます。学生の皆さんは、2年進級時に経営情報学科もしくは事業構想学科に所属する事になり、これを学科選択と言います。学科選択においては学生の志望が優先されますが、志望者数が定員を超えた場合は、GPAによる選抜が行われます。

(2) 選抜方法

基本的に1年次の成績(1年間の※評定平均(GPA))をもとに選抜を行います。不本意な結果を招かないために、1年次に努力を払うようにして下さい。

※評定平均(GPA)算出方法

$$\frac{4.0 \times (\text{[A+]と[P]の修得単位数}) + 3.0 \times (\text{[A]の修得単位数}) + 2.0 \times (\text{[B]の修得単位数}) + 1.0 \times (\text{[C]の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数 (F]の単位数を含む)}}$$

(3) 申請手続きの流れ

仮選択

問題解決学入門Iで詳細連絡します。

学科説明会

プレゼミIIで詳細連絡します。

申請期間

プレゼミIIで詳細連絡します。

所属学科発表

2016年3月にT-NEXTにて通知

10. 進級・卒業要件

(1) 平成27(2015)年度入学生

1. 『進級要件』

<3年次から4年次への進級>

3年次終了時点で88単位以上修得していなければ、4年次に進級できません。

2. 『卒業要件』

卒業要件単位数については、以下の表のとおり単位を修得する必要があります。

科目群		区分				合計
		必修	特別選択 必修 ^{※1}	選択必修 ^{※1}		
産業社会	教養	4	2	20	(語学) 4	124
	ビジネス					
問題解決学	学科専門	4		30 ^{※2}		
	演習 ^{※3}	6		4		
合計		14	2	58	50	124

※1 「特別選択必修」「選択必修」区分の科目のうち、卒業要件単位を超えて履修した科目は、「選択科目」区分に算入されます。

※2 所属している学科以外の「選択必修」区分の科目を履修した場合は、「選択科目」区分に算入されます。

※3 「演習」科目群のうち、卒業要件として算入される単位数の上限は36単位までとします。

3. 『履修上限』

各学期24単位まで履修登録することができます。

なお、在学期間が36ヶ月以上の者は、24単位以上履修登録することができます。

※在学期間には、多摩大学学則第22条 3に基づき休学期間を含まないものとします。

※「インターンシップI・II」、「StudyAbroad I～VⅢ」、「A P 数学」、「キャリア・デザインII～IV」および教職に関する科目は履修上限除外科目とします。

また、「StudyAbroad I～VⅢ」、「キャリア・デザインII～IV」および教職に関する科目はGPA除外科目とします。

(2)平成26(2014)年度入学生

1.『進級要件』

<3年次から4年次への進級>

3年次終了時点で88単位以上修得していなければ、4年次に進級できません。

2.『卒業要件』

卒業要件単位数については、以下の表のとおり単位を修得する必要があります。

科目群	必修	特別選択 必修科目	選択必修 ^{※1}		選択科目	合計
基本科目	14	2	A区分	12	50	124
			B区分			
			C区分			
			D区分	4		
			E区分	2		
基礎科目						
専門科目				30		
演習科目 ^{※2}	6			4		
合計	20	2		52	50	124

※1 基本科目、専門科目、演習科目「選択必修」区分の科目のうち、卒業要件単位を超えて履修した科目は、「選択科目」に算入されます。

※2 演習科目群の卒業要件として算入される単位数の上限は36単位までとします。

3.『履修上限』

各学期24単位まで履修登録することができます。

なお、在学期間が36ヶ月以上の者は、24単位以上履修登録することができます。

※在学期間には、多摩大学学則第22条 3に基づき休学期間を含まないものとします。

※「インターンシップI・II」、「StudyAbroad I～V III」、「A P 数学」、「キャリア・デザインII～IV」および教職に関する科目は履修上限除外科目とします。

また、「StudyAbroad I～V III」、「キャリア・デザインII～IV」および教職に関する科目はGPA除外科目とします。

(3)平成25(2013)年度入学生**1.『進級要件』**

<3年次から4年次への進級>

3年次終了時点で88単位以上修得していなければ、4年次に進級できません。

2.『卒業要件』

卒業要件単位数については、以下の表のとおり単位を修得する必要があります。

科目群	必修	特別選択 必修科目	選択必修 ^{*1}		選択科目	合計
基本科目	14	2			44	124
			A区分	6		
			B区分	8		
			C区分	4		
			D区分	4 ^{*2}		
		E区分	2			
基礎科目						
専門科目				30		
演習科目 ^{*3}	6			4		
合計	20	2		58	44	124

※1 基本科目、専門科目、演習科目「選択必修」区分の科目のうち、卒業要件単位を超えて履修した科目は、「選択科目」に算入されます。

※2 基本科目群D区分の4単位は、同一言語で満たすものとします。

※3 演習科目群の卒業要件として算入される単位数の上限は36単位までとします。

3.『履修上限』

各学期24単位まで履修登録することができます。

なお、在学期間が36ヶ月以上の者は、24単位以上履修登録することができます。

※在学期間には、多摩大学学則第22条 3に基づき休学期間を含まないものとします。

※「インターンシップI・II」、「StudyAbroad I～VⅢ」、「A P数学」、「キャリア・デザインII～IV」および教職に関する科目は履修上限除外科目とします。

また、「StudyAbroad I～VⅢ」、「キャリア・デザインII～IV」および教職に関する科目はGPA除外科目とします。

(4)平成24(2012)年度入学生

1.『進級要件』

<3年次から4年次への進級>

3年次終了時点で88単位以上修得していなければ、4年次に進級できません。

2.『卒業要件』

卒業要件単位数については、以下の表のとおり単位を修得する必要があります。

科目群	必修	特別選択 必修科目	選択必修 ^{*1}		選択科目	合計
基本科目	12	2	A区分	6	46	124
			B区分	10		
			C区分	4		
			D区分	4 ^{*2}		
基礎科目						
専門科目				30		
演習科目 ^{*3}	6			4		
合計	18	2		58	46	124

※1 基本科目、専門科目、演習科目「選択必修」区分の科目のうち、卒業要件単位を超えて履修した科目は、「選択科目」に算入されます。

※2 基本科目群D区分の4単位は、同一言語で満たすものとします。

※3 演習科目群の卒業要件として算入される単位数の上限は36単位までとします。

3.『履修上限』

各学期24単位まで履修登録することができます。

なお、在学期間が36ヶ月以上の者は、24単位以上履修登録することができます。

※在学期間には、多摩大学学則第22条 3に基づき休学期間を含まないものとします。

※「インターンシップI・II」、「StudyAbroad I～V III」および、「キャリア・デザインII～IV」教職に関する科目は履修上限除外科目とします。

また、「StudyAbroad I～V III」、「キャリア・デザインII～IV」および教職に関する科目は GPA除外科目とします。

(5)平成23(2011)年度入学生**1.『進級要件』**

<3年次から4年次への進級>

3年次終了時点で88単位以上修得していなければ、4年次に進級できません。

2.『卒業要件』

卒業要件単位数については、以下の表のとおり単位を修得する必要があります。

科目群	必修	特別選択 必修科目	選択必修		選択科目	合計
基本科目	12	2	A区分	6	54 ^{*2}	124
			B区分	10		
			C区分	4		
			D区分	4 ^{*1}		
基礎科目						
専門科目				30		
演習科目 ^{*3}	2					
合計	14	2		54	54	124

※1 基本科目群D区分の4単位は、同一言語で満たすものとします。

※2 ①選択科目区分の中に、ホームゼミⅠからⅥの12単位を含むものとします。この条件が満たされない場合、卒業要件履修単位数は134単位とします。

②卒業要件履修単位数134単位の場合は、社会人カセミナー・プロジェクトゼミ・インターゼミ・ホームゼミの8単位の単位修得を含めるものとします。

※3 演習科目群の卒業要件として算入される単位数の上限は36単位までとします。

※4 基本科目、専門科目、「選択必修」区分の科目のうち、卒業要件単位を超えて履修した科目は、「選択科目」に算入されます。

3.『履修上限』

各学期24単位まで履修登録することができます。なお、在学期間が36ヶ月以上の者は、24単位以上履修登録することができます。

※在学期間には、多摩大学学則第22条 3に基づき休学期間を含まないものとします。

※「インターンシップⅠ・Ⅱ」、「StudyAbroadⅠ～ⅤⅢ」、「キャリア・デザインⅡ～Ⅳ」および教職に関する科目は履修上限除外科目とします。

また、「StudyAbroadⅠ～ⅤⅢ」、「キャリア・デザインⅡ～Ⅳ」および教職に関する科目は GPA除外科目とします。

1 1. 教職課程

卒業時に教員の免許状を取得したい学生は、教職課程を履修して必要な単位を修得して下さい。

(1) 多摩大学経営情報学部にて取得可能な免許状

学部	学科	種類	教科
経営情報学部	経営情報学科	高等学校教諭(一種)	情報

※事業構想学科を学科選択した学生は、多摩大学では高等学校教諭(一種)情報の教職免許を取得することはできません。

(2) 基礎資格及び最低修得単位数(教育職員免許法で定められている最低単位数)

免許状の種類	資格取得	基礎資格	大学において修得することを必要とする科目の最低単位数			
			教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目
高等学校教諭	一種免許状	学士の学位を有すること	8	20	23	16

(3) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目		
科目	単位数	科目	必修	選択必修
日本国憲法	2	法学(憲法)	○	
体育	2	スポーツ I	○	
※1) 外国語コミュニケーション	2	English Expression II		○
		韓国語 II		○
		中国語 II		○
※2) 情報機器の操作	2	ビジネスコミュニケーション入門 I	○	

※1) English Expression II、韓国語 II、中国語 II の3科目より1科目選択必修

※2) 2011年度入学生から2012年度入学生は、情報サービス II (シミュレーション)

2013年度入学生は、ビジネスコミュニケーション入門 I (読解力)

2014年度以降入学生は、ビジネスコミュニケーション入門 I

(4) 教職に関する科目

免許法施行規則に定める 科目区分	本学で開講している科目名			
	科目名	授業開始学期	単位数	必修
教職の意義等に関する科目	教職概論	2-春	2	○
教育の基礎理論に関する科目	教育原理	2-春	2	○
	教育史	3-春	2	○
	教育心理学	3-春	2	○
	教育制度論	2-秋	2	○
教育課程及び指導法に関する 科目	情報科教育法	3-秋	4	○
	特別活動	2-秋	1	○
	教職課程総論	2-秋	1	○
	教育方法	2-秋	2	○
生徒指導、教育相談及び 進路指導等に関する科目	生徒指導	2-春	2	○
	教育相談	3-秋	2	○
教職実践演習	教職実践演習	4-秋	2	○
教育実習	教育実習	4-集中 (春学期集中)	3	○
合計	27			

※ 教職に関する科目は、卒業要件単位に含まれません

(5) 教科に関する科目

[◎印は必修科目、○印は選択必修科目]

免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講している科目名											
	2011年度開講科目	単位	2012年度開講科目	単位	2013年度開講科目	単位	2014年度開講科目	単位	2015年度開講科目	単位		
情報社会及び情報倫理	◎情報社会論	2	◎情報社会論	2	◎情報通信と社会	2	◎情報通信と社会	2	◎情報通信と社会	2	◎情報通信と社会	2
	◎情報概論	2	○情報概論	2	◎情報概論	2	◎情報概論	2	◎情報セキュリティ	2	◎情報セキュリティ	2
コンピュータ及び情報処理(実習を含む)	◎情報法	2	◎情報法	2	◎情報法	2	◎情報法	2	◎情報法	2	◎情報法	2
	◎ビジネス数学基礎	1	◎ビジネス数学基礎	1	◎ビジネス数学基礎	2	◎ビジネス数学基礎	2	◎ビジネス数学基礎	2	◎ビジネス数学基礎	2
	◎ITリテラシー	1	◎ITリテラシー	1								
	◎情報サービスⅠ(ネットワーク)	2	◎情報サービスⅠ(ネットワーク)	2	◎Webサービス開発	2	◎Webサービス開発	2	◎Webサービス開発	2	◎Webサービス開発	2
	○プログラミング言語	2	○プログラミング言語	2	○プログラミング言語Ⅰ	2	○プログラミング言語Ⅰ	2	○プログラミング言語Ⅰ	2	○プログラミング言語Ⅰ	2
					○プログラミング言語Ⅱ	2	○プログラミング言語Ⅱ	2	○プログラミング言語Ⅱ	2	○プログラミング言語Ⅱ	2
	◎エビュタ概論	2	◎エビュタ概論	2	◎エビュタ概論	2	◎エビュタ概論	2	◎エビュタ概論	2	◎エビュタ概論	2
情報システム(実習を含む)	◎データベース	2	◎データベース	2	◎データベース	2	◎データベース	2	◎データベース	2	◎データベース	2
	◎システム分析概論	2	◎システム分析概論	2	◎システム分析概論	2	◎システム分析概論	2	◎システム分析概論	2	◎システム分析概論	2
	◎システム分析概論Ⅱ	2	◎システム分析概論Ⅱ	2	◎システム分析概論Ⅱ	2	◎システム分析概論Ⅱ	2	◎システム分析概論Ⅱ	2	◎システム分析概論Ⅱ	2
情報通信ネットワーク(実習を含む)	◎エビュタネットワーク活用	2	◎エビュタネットワーク活用	2	◎エビュタネットワーク活用	2	◎エビュタネットワーク活用	2	◎エビュタネットワーク活用	2	◎エビュタネットワーク活用	2
	◎情報ネットワーク概論Ⅰ	2	◎情報ネットワーク概論Ⅰ	2	◎情報ネットワーク概論Ⅰ	2	◎情報ネットワーク概論Ⅰ	2	◎情報ネットワーク概論Ⅰ	2	◎情報ネットワーク概論Ⅰ	2
Webサイトの表現及び技術(実習を含む)	◎Webデザイン	2	◎Webデザイン	2	◎WebデザインⅠ	2	◎WebデザインⅠ	2	◎WebデザインⅠ	2	◎WebデザインⅠ	2
	◎WebデザインⅡ	2	◎WebデザインⅡ	2	◎WebデザインⅡ	2	◎WebデザインⅡ	2	◎WebデザインⅡ	2	◎WebデザインⅡ	2
	◎経営科学Ⅰ	2	◎経営科学Ⅰ	2	◎経営科学Ⅰ	2	◎経営科学Ⅰ	2	◎経営科学Ⅰ	2	◎経営科学Ⅰ	2
	◎経営科学Ⅱ	2	◎経営科学Ⅱ	2	◎経営科学Ⅱ	2	◎経営科学Ⅱ	2	◎経営科学Ⅱ	2	◎経営科学Ⅱ	2
情報と職業	◎経営情報論Ⅰ	2	◎経営情報論Ⅰ	2	◎経営情報論Ⅰ	2	◎経営情報論Ⅰ	2	◎経営情報論Ⅰ	2	◎経営情報論Ⅰ	2
	◎情報と職業	2	◎情報と職業	2	◎情報と職業	2	◎情報と職業	2	◎情報と職業	2	◎情報と職業	2

※上記科目と教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目のうち必修科目を32単位履修し、選択必修科目を16単位以上履修して下さい。

(6) 教職課程における科目新旧対照表

	2011年度開講科目	2012年度開講科目	2013年度開講科目	2014年度開講科目	2015年度開講科目	備考
科目名					情報セキュリティ	新規
					IT活用法Ⅰ	新規
					IT活用法Ⅱ	新規
					データフィクションⅡ	科目名変更
		データベース	データベース	データベース	データベース	
		マルチメディア実践	マルチメディア実践	マルチメディア実践	マルチメディア実践	科目名変更
		情報ネットワーク概論Ⅰ →	情報ネットワーク概論Ⅰ →	情報ネットワーク概論Ⅰ →	情報ネットワーク概論Ⅰ →	科目名変更
		情報ネットワーク概論Ⅱ →	情報ネットワーク概論Ⅱ →	情報ネットワーク概論Ⅱ →	情報ネットワーク概論Ⅱ →	科目名変更
		経営科学Ⅰ →	経営科学Ⅰ →	経営科学Ⅰ →	経営科学Ⅰ →	科目名変更
		経営科学Ⅱ →	経営科学Ⅱ →	経営科学Ⅱ →	経営科学Ⅱ →	科目名変更
				ビジネス入門(読解力)	ビジネス入門(読解力)	
				ビジネス数学基礎	ビジネス数学基礎	
				Webサービス開発	Webサービス開発	
		プログラミング言語 →	プログラミング言語 →	プログラミング言語Ⅰ →	プログラミング言語Ⅰ →	
				プログラミング言語Ⅱ →	プログラミング言語Ⅱ →	
		エビュタネットワーク活用 →	エビュタネットワーク活用 →	エビュタネットワーク活用 →	エビュタネットワーク活用 →	
	情報サービスⅡ(マルチメディア)	情報サービスⅡ(マルチメディア)	廃止	廃止		
	ビジネス数学基礎ITリテラシー	ビジネス数学基礎ITリテラシー	廃止	廃止		
	情報サービスⅠ(ネットワークサービス)	情報サービスⅠ(ネットワークサービス)	廃止	廃止		
	情報社会論 →	情報社会論 →	廃止	廃止		

(7) 教職課程の履修について

①教職課程の履修要件は2年次以上で、原則として教員採用試験の受験を希望していること。

②教職課程の履修が認められる者

・1年次終了時

2年次に進級する際に、原則として、1年次中に修得した単位が40単位以上で、かつその成績の評定平均が2.1以上に達した者。

評定平均の算出方法

$$\frac{4.0 \times ([A+] \text{と} [P] \text{の修得単位数}) + 3.0 \times ([A] \text{の修得単位数}) + 2.0 \times ([B] \text{の修得単位数}) + 1.0 \times ([C] \text{の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数} ([F] \text{の単位数を含む})}$$

・2年次終了時

・80単位以上(教職に関する科目は除く)修得していること。

・原則として、教科に関する基礎及び専門科目の必修単位の内22単位以上、選択必修16単位の内10単位以上修得のこと。なお必修科目22単位の中には、法学・スポーツI・ビジネスコミュニケーション入門Iの14単位を含めるものとする。(少ない場合は、教職担当教員より教職の履修を中止させられる場合もある。)

・3年次終了時

・110単位以上(教職に関する科目は除く)修得していること。

・原則として、教職に関する科目の必修科目(教育実習を除く)をすべて修得していること。

・原則として、教科に関する基礎及び専門科目の必修単位の内32単位以上修得していること。また、選択必修16単位の内14単位以上修得していること。

③「教育実習3単位」のうち1単位は「事前・事後指導」とし、これに出席しなければ教育実習の単位は認定されない。

(8) 教育実習について

①教育実習の目的

教育実習は、学校教育の実状や教員の実務を理解し、これまで大学で身につけた知識や理論を背景に、実習校において、教育職員として必要な現場の知識や技術、態度等を身につけるための実地修練の場です。

②教育実習の実施時期

教育実習の実施時期は4年次の6月を原則とするが、実習校の都合により、他の時期に行うこともあります。

③教育実習の説明会

4年次の教育実習履修有資格者を対象に、4月に教育実習説明会を実施し、教育実習申込書、教育実習日誌等を配布します。

④教育実習手数料

教育実習手数料は、教育実習申込みの際に納入してください。 → 教育実習手数料
20,000円

⑤実習校との事前打ち合わせ会

教育実習開始前に、教育実習についての打ち合わせが実習校で行われます。実習に際しての指示を受けたり、実習生の準備状況の報告を行ったりするもので、実習同様に大切な行事ですから必ず出席してください。日時は実習校から直接本人に連絡があります。

(9) 教員免許状の申請について

卒業と同時に教育職員免許状を取得しようとする場合は、個人申請によって免許状の取得に必要な手続を行ってください。

個人申請は全国どこでも行えますが、将来にわたって継続的に居住する可能性のある都道府県の教育委員会に授与申請するのが一般的です。

申請方法や申請時期については、当該教育委員会に直接問い合わせてください。

また、申請に当たっては大学の証明が必要になりますので、教務課に相談してください。

なお、個人申請によって教育委員会より免許状が授与されたら、速やかに免許状の写しを教務課に提出してください。

12. オフィスアワーについて

【オフィスアワーとは】

多摩大学経営情報学部では、オフィスアワーを実施しています。オフィスアワーとは、本学の経営情報学部の学生が受講する授業科目に関し、担当の教員に直接質問等をし、教員が返答するために行う面談の時間のことです。1週間の中に必ず90分以上設定し、公表した上で、学生からの相談を受けられるように待機しています。予約は不要です。

※担当授業科目には、ホームゼミを含みます。

※上記「学生」とは、経営情報学部生に加え、経営情報学部の科目を受講している科目等履修生と聴講生を含みます。

※非常勤教員については、随時電子メールで質問を受け付けています。詳細は別途配布する資料で確認して下さい。

【基本原則】

- ・面談内容は授業内容に関するものとします。
- ・面談場所は3階教育サポート室奥のラウンジを使用します。
- ・オフィスアワー情報(曜日、時間)については、教育サポート室とホームページで公表します。URL : <http://www.tama.ac.jp/student/smis/011.html>
- ・一人の面談時間単位は、15分です。

【予約希望の場合】

面談は、予約なしでも可ですが、事前に予約することもできます。希望する学生は、3階教育サポート室カウンターにて、面談予約希望の旨を申し出て下さい。また申し込む場合は、申込用紙を受け取り、必要事項を記入して提出して下さい。

※予約申込時間：月曜日～金曜日午前9:30～午後4:30

※直接教員と約束をした場合でも、該当する時間に予約があった場合には予約した学生を優先します。

※曜日や時間、面談場所が変更になる場合があります。

※予約可能な時間は15分間を限度とします。

予約した場合には、面談当日指定された場所に遅れない様に直接行ってください。もしも予約時間定刻に予約した学生がいない場合、他の学生が優先されます。

13. 授業評価アンケート(VOICE)について

演習科目以外の講義科目について、学生による授業評価アンケート(VOICE)を実施しています。よりよい講義の実施のために、学生から真面目で率直な意見を聞くマークシートによる無記名式アンケートです。詳細は掲示にてお知らせしますので、積極的に回答して下さい。

なお、過去の授業評価アンケート(VOICE)結果については、3階図書館にて公開しています。受講する講義を選択する際などに参考にして下さい。

14. 単位互換科目について

● 申請資格

多摩大学経営情報学部に在学する学生

● 履修期間・履修単位制限

1. ネットワーク多摩単位互換制度によって開講されている他大学の科目(産学連携科目を含む)を履修することが出来ます。開講科目の詳細については、T-NEXTにて確認して下さい。
2. 単位互換制度により他大学の科目を履修し、単位を修得できるのは在学中30単位までとし、各学期の履修単位数上限に含まれます。また、修得した単位は「単位互換科目」の単位として卒業要件に含まれます。

● 履修申請

1. 履修登録は当該科目受講の翌学期に行い、単位認定されます。つまり、他大学の春学期開講科目を受講した場合、多摩大学で秋学期に履修登録し、秋学期の成績となります。
2. 履修申請は、春学期は3月19日(木)～4月10日(金)、秋学期は9月7日(月)～9月18日(金)までに「履修申請書」を顔写真添付のうえ教務課に提出して下さい。申請期間内であっても、開設大学の受付期間が終了している場合には受付が出来ません。原則として、受付期間外の受付は出来ませんので、申請は余裕を持って行って下さい。
3. 「履修申請書」を提出し、開設大学より許可を受けた科目は成績等に関わらず必ず履修することとします。
4. 履修許可者の発表はT-NEXTにて行います。

● 履修上の注意

1. 履修科目は、ネットワーク多摩単位互換制度により開講されている、単位互換科目及び産学連携事業科目のうち、半期完結の科目に限ります。
2. 在籍年次よりも上級年次に配当されている科目を履修することは出来ません。
3. 履修に当たっては移動時間を考慮し、他大学科目を履修する前後の時間に配置された多摩大学科目または他大学科目を履修することは出来ません。ただし、昼休みを挟む場合はこ

の限りではありません。

● 授業

1. 休講・補講等の授業及び試験日程等に関する通知は、開設大学が通常所属大学の学生に対する通知方法により行われますので、各自の責任において確認してください。
2. 出席状況によっては、学期の途中であっても開設大学から履修の許可を取り消されたり、試験の受験資格が取り消されることがあります。
3. 学年暦の差異により、多摩大学と開設大学での授業・補講(代講)の日時が重複した場合、どちらの授業に出席するかは自身で判断してください。

● 試験

1. 開設大学の試験と多摩大学の試験の日時が重複した場合は、その事実が判明したら直ちに本学の教務課に相談してください。相談が無い場合、対応措置を講じることができません。
2. 病気等により開設大学の試験を欠席したときは、追試験の受験を認められることがあります。その場合の手続き等は開設大学の定めに従います。
3. 開設大学における授業及び試験の詳細については、開設大学が配布する資料などで確認してください。

● 成績

1. 成績評価は開設大学の基準及び表示方法により行い、多摩大学の基準及び表示方法に置き換えて認定します。
2. 成績の質問は、開設大学の定めるところによるものとします。

● 特別聴講学生証

1. 特別聴講学生証は、開設大学において交付されます。
2. 有効期限は開設大学が必要と定める期間とします。また、有効期限内であってもこれを必要としなくなったとき、または有効期限が満了したときは特別聴講学生証を多摩大学教務課まで返却してください。

● その他

1. ネットワーク多摩単位互換制度を利用して履修する授業科目の聴講料は免除されます。ただし、教材費や実習費が必要な授業科目については、実費を徴収されることがあります。
2. 開設大学における図書館等の施設・設備の利用範囲、自転車・バイクの利用、開設大学で特に注意する事項などについては、開設大学が配布する資料等で確認してください。
3. 開設大学において急病になった、または事故にあった場合など、急を要する治療が必要な場合は、開設大学の診療施設を利用することが出来ます。また、直ちに救急措置を講じる必要がある場合、本学の判断により保険情報を含めた個人情報を開設大学の診療施設に提供することがあります。

なお、通学及び授業中に事故にあった場合、「学生教育研究災害傷害保険」の適用を受けることが出来る場合がありますので本学の学生課に問い合わせてください。

大学名	初回授業開始日		大学提供科目／ 産学連携科目
	前期	後期	
明星大学	4/9 木 12:55～14:25	——	特別講義 1【読売新聞提携講座】
中央大学	——	9/2 木5 16:40～18:10	専門総合講座 A 1 現代社会と新聞(読売新聞提携講座)

15. アセスメント

アセスメントとは、専攻・専門に関わらず、大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向を育成するためのプログラムです。1年生と3年生の春学期のオリエンテーションでアセスメントテストを実施します。外部の一般化された試験を用いて社会で求められる一般的な能力等を測定し、自身の現状を客観的に把握することが出来ます。1年生と3年生の両方で受験することで、カリキュラムによる学修成果を、大学の成績とは異なる視点で確認できます。試験での気づきを通して、大学での学びをより主体的なものにする原動力としてください。

16. TOEIC 試験補助について

大学から補助を受けて、無料で学内TOEICを受けることができます。就職や留学に行く際の目安、また自分の英語の実力がどの程度伸びたかを見るよいチャンスです。積極的に活用して、自身の成長の指標にしてください。申し込みの詳細については随時更新しますので、教育サポート室で最新情報を確認してください。

17. 多摩大学 学則(抜粋)

第1章 総則

(目的)

第1条 多摩大学(以下「本学」という。)は、永年に及び産業教育における経験を基盤とし、国際化・情報化時代に即応して、学生に高度な外国語能力と世界に通用する教養・最新の経営知識及び的確な情報処理能力を修得せしめ、国際的ビジネスの場で活躍できる人材の育成を目指すとともに、わが国の産業社会の健全たる発展に寄与する指導的人材を育成することを目的とする。

(自己点検及び評価)

第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、大学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 自己点検及び評価について必要な事項は、別に規程で定める。

(個人情報保護)

第3条 本学は、教育・研究活動等の適正かつ円滑な運営を図り、個人情報の有用性に配慮するため、個人の権利及び利益を保護する。

2 個人情報保護について必要な事項は、別に規程で定める。

(ハラスメントの防止)

第4条 本学は、ハラスメントの防止及びハラスメントに起因する問題が生じた場合に、適切な対応を行うための措置を講じ、学生、教育職員及び事務職員等の快適な環境を作り、教育、研究及び就業の機会と権利を保障する。

2 ハラスメントの防止について必要な事項は、別に規程で定める。

第3章 修業年限、在学年限、学年、学期及び休業日

(修業年限)

第10条 本学の修業年限は、4年とする。ただし、第38条の規定により卒業を認められた者については、この限りでない。

(在学年限)

第11条 学生は、8年を超えて在学することができない。

2 編入学、転入学及び再入学の許可を得た者の在学年限は、第20条第2項に定める。

(学年)

第12条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。ただし、秋学期入学生については、10月1日に始まり、翌年9月30日に終る。

(学期)

第13条 学年を次の2学期に分ける。

(1)春学期 4月1日から 9月30日まで

(2) 秋学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第14条 授業を行わない日(以下「休業日」という。)は、次のとおりとする。ただし、学長が必要と認めるときは、休業日を変更又は臨時に休業日を定めることができる。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3) 本学の開学記念日 10月20日

(4) メモリアルデー 1月16日

(5) 夏季休業 8月10日から9月20日まで

(6) 冬季休業 12月25日から 翌年1月5日まで

(7) 春季休業 翌年2月10日から3月31日まで

2 休業日の変更又は臨時の休業日については、その都度公示する。

第4章 学籍

(入学の時期)

第15条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学及び転入学については、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第16条 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者

(3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で、文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(8) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者

(9) 本学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者

(入学の出願)

第17条 本学に入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。

(入学者の選考)

第18条 前条の入学志願者に対しては、試験を行いその成績等により選考する。

(入学手続き及び入学許可)

第19条 入学者の選考に合格した者は、所定の期日までに入学誓約書その他所定の書類を提出し、第42条に規定する、所定の学費を納付しなければならない。

2 学長は、正当な事由なくして期日までに前項の手続きを完了しない者の合格を取消することができる。

3 学長は、第1項の入学手続きを完了した者に入学式において入学を許可し、学生証を交付する。

(編入学、転入学及び再入学)

第20条 次の各号の一に該当し、本学に入学を志願する者は、次のとおりとする。

(1) 大学を卒業した者又は退学した者

(2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(3) 専修学校専門課程を卒業した者

(4) 他の大学に在学中の者で、現に在学する大学の学長による転学の承認を得た者

また、学長は次の各号の一において、入学を許可することができる

(1) 編入学については、編入学定員内において、選考の上、入学を許可することができる。

(2) 転入学及び再入学については、定員に欠員のある場合に限り、選考の上、相当年に入学を許可することができる。

2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

3 前3条の各規定は、第1項の入学に準用する。

(休学)

第21条 疾病その他特別の事由により修学することができない者は、1学期又は1年間(2学期)を区分として、様式第1に規定する休学願を提出し学長の許可を得て休学することができる。

2 学長は、疾病その他特別の事由により修学することが適当でないと認めるときに、教授会の議を経て、休学を命ずることができる。

(休学の期間)

第22条 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事由があるときは、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

3 休学期間は、第10条の修業年限及び第11条の在学年限に算入することができない。

(復学)

第23条 休学期間中にその事由が消滅したときは、様式第2に規定する復学願を提出し学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第24条 他の大学又は短期大学に入学又は転入学を志願しようとする者は、様式第3に規定する転学願を提出し学長の許可を得なければならない。

(転学部)

第25条 転学部を願い出る者は、選考し各教授会の議を経て、学長がこれを許可する。

2 転学部について必要な事項は、別に規程で定める。

(留学)

第26条 外国の大学又は短期大学で修学することを志願する者は、様式第4に規定する留学願を提出し学長の許可を得なければならない。

2 第36条の規定は、前項の留学の場合に準用する。

3 第1項の許可を得て留学した期間は、第11条に定める在学年限に含めることができる。

(願い出による退学)

第27条 病気その他の事由により退学しようとする者は、様式第5に規定する退学願を提出し学長の許可を得なければならない。

(除籍)

第28条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

(1) 第11条に定める在学年限を超えた者

(2) 第22条第2項に定める休学期間を超えてなお修学できない者

(3) 長期間にわたり行方不明の者

(4) 学費の納付を怠り、催促してもなお納付しない者

第5章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第29条 授業科目は、基礎教育科目及び専門教育科目とする。

2 授業科目の種類及び単位数等は、別表第1及び第5のとおりとする。

(単位の計算方法)

第30条 各授業科目の単位は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

2 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行う。ただし、学長が本学で教育上特別の必要があると認められるときは、教授会の議を経て、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(履修方法)

第31条 学生は、所属する学部及び学科の所定の授業科目を履修しなければならない。

- 2 学生は、当該年度又は当該学期に履修する授業科目を選択し、指定期間内に所定の方法により履修科目を届出なければならない。
- 3 履修について必要な事項は、別に規程で定める。

(単位修得等の認定)

第32条 単位修得の認定その他授業科目履修の認定は、試験その他の審査により行う。

- 2 試験及び審査の方法について必要な事項は、別に規程で定める。

(第1年次に入学した者の既修得単位の認定)

第33条 本学の第1年次に入学した者が大学又は短期大学を卒業又は中途退学している場合、本学で教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、学長が既に修得した単位から、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目について、合計30単位を超えない範囲において、本学で修得したものとして認定することができる。

(成績の評価)

第34条 授業科目の成績は、一般講義科目は、A+、A、B、C、Fの5段階、ゼミナール科目はP、Fの2段階の評語をもって表示する。

- 2 表示した成績は、Fを不合格としその他を合格とする。
- 3 第33条、第35条及び第36条により認定された授業科目の成績は、認定(N)の評語をもって表示する。
- 4 成績評価について必要な事項は、別に規程で定める。

(他学部科目の履修)

第35条 学生は、他の学部開設されている授業科目のうち定められた科目を、24単位を超えない範囲において履修することができる。ただし、履修を希望する者は、あらかじめ学部長の許可を得なければならない。

- 2 前項の履修により修得した単位は、卒業に必要な修得単位数に算入することができる。

(他の大学の授業科目の履修)

第36条 学生は、他の大学、短期大学又は外国の大学との協議に基づき、授業科目を履修又は外国の大学に留学することができる。

- 2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、教授会の議を経て、学長が60単位を限度として認定することができる。
- 3 本学を休学时に他の大学、短期大学又は外国の大学で修得した単位の認定については、別表第2に掲げる単位認定料を徴収する。

(教育職員免許状取得のための課程)

第37条 本学に教育職員免許状取得のための課程を置く。

- 2 本学において資格の取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科は、別表第3のとおりとする。
- 3 教育職員免許状を得ようとする者は、別表第4に定める「教科に関する基礎及び専門科

目]及び別表第5に定める「教職に関する科目」を履修しなければならない。

4 別表第5に定める「教職に関する科目」は、卒業に必要な単位数に算入することができない。

第6章 卒業及び学位

(卒業)

第38条 本学に4年以上在学し、別表第1に定める所定の単位数以上を修得した者は、教授会の議を経て、学長が卒業を認める。

2 当該学部 of 学生として3年以上在学した者が、別表第1に定める所定の単位数以上を優秀な成績で修得したと認めるとき、前項の規定にかかわらず教授会の議を経て、学長が早期卒業として認めることができる。

3 早期卒業について必要な事項は、別に規程で定める。

(学位)

第39条 学長は、卒業を認めた者に次の学位を授与し、「卒業証書・学位記」を交付する。

(1) 経営情報学部 学士(経営学)

(2) グローバルスタディーズ学部 学士(グローバルスタディーズ学)

第7章 賞罰

(表彰)

第40条 人物及び学業の優秀な者又は本学の学生として表彰に値する功績があった場合は、教授会の議を経て、学長が表彰する。

(懲戒)

第41条 本学則若しくは本学で定める諸規則に違反した者又はその他学生としての本分に反する行為があった場合は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 懲戒について必要な事項は、別に規程で定める。ただし、定めた規程は、本学則と同様の取扱で公開する。

第8章 学費

(学費の種類及び額)

第42条 学生は、学年毎に授業料その他所定の学費を納付しなければならない。

2 学費の種類及びその額は、別表第2のとおりとする。

(学費の納付)

第43条 授業料は、年額の二分の一ずつを次の2学期に分けて納付しなければならない。

(1) 春学期(4月から 9月まで)：納期 4月中

(2) 秋学期(10月から翌年3月まで)：納期 10月中

2 施設費(維持費)及び図書教材費は、学年始めの月に一括して納付しなければならない。

(復学等の場合の学費)

第44条 春学期又は秋学期の中途において復学又は入学した者は、復学又は入学した月から当該期末までの授業料並びに当学年度分の施設費(維持費)及び図書教材費が未納の場合は、これ等を含め一括して復学又は入学した月に納付しなければならない。

(退学等の場合の学費)

第45条 春学期又は秋学期の中途で退学又は除籍された者の当該学期分の学費は、徴収する。
2 停学期間中の学費は、徴収する。

(休学の場合の学費)

第46条 休学を許可された者又は命ぜられた者は、休学期間が1学期以上にわたる場合においてその学期分の授業料を免除する。ただし、休学在籍料として別表第2に定める額を納付しなければならない。

(研究生等の学費)

第47条 研究生、聴講生及び特別聴講学生の入学検定料、入学金及び授業料等の学費については、別に定める。

(既納の学費)

第48条 既納の入学検定料、入学金及び授業料等の学費は、返還しない。ただし、入学式までに入学を辞退した場合には、既納した入学手続納付金のうち、入学金を除く金額を返還する。

第9章 奨学

(奨学)

第49条 能力があるにもかかわらず経済的理由によって就学が困難な者及び特に学力が優れている者に対して、奨学の方法を講ずることができる。
2 奨学の方法は、奨学金の給付又は貸与とする。
3 奨学について必要な事項は、別に規程で定める。

第10章 研究生、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生及び外国人留学生

(研究生)

第50条 本学の特定の専門事項について、研究することを志願する者がいるときは、教育研究に支障のない場合に限り、選考し学長が研究生として入学を許可することができる。
2 研究生について必要な事項は、別に規程で定める。

(特別聴講学生)

第51条 他の大学又は外国の大学の学生で、協議に基づき本学の特定の授業科目を履修することを志願する者がいるときは、学長が特別聴講学生として入学を許可することができる。
2 特別聴講学生について必要な事項は、別に規程で定める。

(科目等履修生)

第52条 本学の特定の授業科目を履修することを志願する者がいるときは、教育研究に支障のない場合に限り、選考し学長が科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生について必要な事項は、別に規程で定める。

(聴講生)

第53条 本学の特定の授業科目を聴講することを志願する者がいるときは、教育研究に支障のない場合に限り、選考し学長が聴講生として入学を許可することができる。

2 聴講生について必要な事項は、別に規程で定める。

(外国人留学生)

第54条 外国人であって、外国において通常の過程による12年の学校教育課程を修了した者又はこれと同等以上の資格ある者が、本学に入学を志願するときは、日本政府、日本政府の承認した外国政府若しくは日本駐在の外国公館の発行した身分証明書又はこれに準ずる証明書のある者に限り、選考し学長が入学を許可することができる。

2 外国人留学生について必要な事項は、別に規程で定める。

第11章 公開講座

(公開講座)

第55条 地域社会の発展に寄与し、社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

2 公開講座について必要な事項は、別に規程で定める。

第12章 寄付講座

(寄付講座)

第56条 学外の機関等から授業科目の運営に必要な経費の寄付を受け、本学の教育研究に資するため、本学に寄付講座を開設することができる。

2 寄付講座について必要な事項は、別に規程で定める。

18. 多摩大学学生懲戒規程

(目的)

第1条 この規程は、多摩大学学則(以下「学則」という。)第41条の規定に基づき学生の懲戒について必要な事項を定めることを目的とする。

(懲戒の定義)

第2条 懲戒対象者は、学則に規定する学部学生、研究生、特別聴講生、科目等履修生、聴講生及び外国人留学生(以下「学生」という。)とする。

- 2 懲戒は、本学で学生の本分を全うさせるために、学校教育法及び学校教育法施行規則に基づき行う。
- 3 懲戒は、総合的に検討し教育的見地に基づき行う。
- 4 懲戒により学生に科す不利益は、懲戒目的を達成するため必要最小限とする。

(懲戒の種類)

第3条 学則第41条第2項で規定した懲戒の種類は、次の各号の一に該当する内容とする。

- (1)退学は、学生としての身分を奪う事。
- (2)停学は、無期又は有期としその期間の登校を禁止する事。
 - ア 停学の期間は、在学年限に含め修業年限に含めない。
 - イ 停学の期間が1カ月以下でかつ特別の事情がある場合は、学生委員会で審議し第7条に規定する学長の決定において修業年限に含めることができる。
 - ウ 有期停学は6ヶ月以下とする。
- (3)訓告は、口頭及び文書により厳重な注意を行い、期限を定めて反省文の提出をさせる事。

(懲戒の基準)

第4条 前条に定める懲戒の基準は、次の各号の一に該当する内容とする。

- (1)退学
 - ア 本学及び社会秩序を乱し、本学の教育研究活動を妨げる行為を行った場合で特に悪質と判断した場合
 - イ 学内又は学外において重大な非違行為を行った場合で特に悪質と判断した場合
 - ウ 本学の規則等又は命令に違反する行為を行った場合で特に悪質と判断した場合
 - エ 本学が実施する試験等において、不正行為を行った場合で特に悪質と判断した場合
 - オ その他退学を受けた者の行為を教唆若しくは幫助した場合
- (2)停学
 - ア 本学及び社会秩序を乱し、本学の教育研究活動を妨げる行為を行った場合
 - イ 学内又は学外において悪質な非違行為を行った場合
 - ウ 本学の規則等又は命令に違反する行為を行った場合で悪質と判断した場合
 - エ 本学が実施する試験等において、悪質な不正行為を行った場合
 - オ その他懲戒処分をしても改善の見込みがない場合

(3)訓告

- ア 学内又は学外において非違行為を行った場合
- イ 本学の規則等又は命令に違反する行為を行った場合
- ウ 本学が実施する試験等において、不正行為を行った場合

(審議)

第5条 学部長は、学生が懲戒の対象となりうる事項があったと認められるとき、学生委員会に調査を命ずる。

- 2 学生委員会は、事実関係の調査及び懲戒の種類の審議を行い、結果を教授会へ報告する。

(調査)

第6条 学生委員会は、当該学生及び関係者等から資料の提出を求め、事情及び意見を聴くことができる。

- 2 学生委員会は、当該学生に弁明の機会を与える。
- 3 当該学生は、弁明の場において必要な証拠を提出し証人の喚問を求めることができる。また、当該学生は、補佐人を指名し補佐を受けることができる。
- 4 当該学生が、弁明の場を正当な理由なく欠席したとき、弁明の権利を放棄したものとする。
- 5 学生委員会は、懲戒処分決定前に謹慎を命ずることができる。ただし、謹慎の期間は、3ヶ月以内とする。
- 6 謹慎は、当該学生の行為が第4条で定める懲戒基準に該当するとき行うことができる。
- 7 謹慎期間は、停学期間に通算することができる。
- 8 謹慎期間中は、本学の教育課程の履修登録、履修、試験等の受験及び課外活動へ参加することはできない。ただし、学部長が教育指導上必要と認めた場合は、参加ができる。
- 9 謹慎期間中に休学又は退学を申し出た場合は、これを認めない。

(懲戒の決定及び解除)

第7条 懲戒は、教授会の議を経て、学長が行う。

- 2 懲戒は、様式第1に定める懲戒通知書に理由も添えて当該学生に通知する。ただし、有期停学の場合は、停学解除日も通知する。
- 3 無期停学の解除行う場合は、教授会の議を経て、学長が行う。学長は、決定により停学解除を当該学生に文書で通知する。

(再審査)

第8条 懲戒を受けた学生は、事実誤認、新事実の発見又はその他正当な理由があるとき、それらを示す資料を添えて文書にし、学長に再審査の申請を行うことができる。

- 2 再審査の申請は、懲戒通知書の決定日から1ヶ月以内とする。
- 3 学長は、再審査を行うかどうか判断し教授会の議を経て決定する。
- 4 学長は、再審査の必要があると決定したとき、学部長に再審査を命じる。
- 5 学長は、再審査の必要がないと決定したとき、当該学生に文書で通知する。
- 6 再審査の申請を行い学長が教授会の議を経て、懲戒の決定又は解除行うまでは、すでに決

定された懲戒内容の変更はできない。

7 再審査の調査は、第6条の規定を準用する。

(停学期間中の措置)

第9条 停学期間中は、当該学生が本学の教育課程の履修登録、履修、試験等の受験、及び課外活動へ参加することはできない。ただし、学部長が教育指導上必要と認めた場合は、この限りではない。

2 停学期間中は、当該学生に対して定期的な面談及び指導を行う。

3 停学期間中に休学又は退学を申し出た場合は、これを認めない。

(事務)

第10条 学生課は、学生の懲戒についての庶務を担当する。

(規程の公開)

第11条 本規程は、学生の不利益等につながる重要な規程であることから、本学のホームページ、学生ハンドブック等に学則と同様の取扱で公開する。

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

様式第1

19. 多摩大学履修規程(抜粋)

(目的)

第1条 この規程は、多摩大学学則(以下「学則」という。)第31条、第32条及び第34条の規定に基づき、授業科目(以下「科目」という。)の履修、試験及び成績評価について必要な事項を定めることを目的とする。

(科目の履修)

第2条 学生は、学則第31条第2項の履修科目届により、履修しようとする科目を登録しなければならない。

2 登録した科目の変更又は追加は認めない。

3 学科・年次・クラスが指定された科目については、その指定に従い履修するものとする。ただし、科目担当者が特に認めた場合はこの限りでない。

4 同一科目を同一年度に重複して履修することはできない。ただし、教育課程表及び授業時間割表において指示する特定の科目についてはこの限りでない。

5 すでに単位を修得した科目を履修することはできない。

6 履修に関するその他の事項については、教育課程表、講義要綱及び時間割表に定める方法によるものとする。

(定期試験)

第3条 定期試験は、学期末に行う。

2 定期試験を受験することができる者は、履修科目届けを提出したものに限る。

3 受験できる科目は、登録した科目とする。

4 授業料その他の納付金の未納者は、受験することができない。

(追試験)

第4条 追試験は、定期試験を実施した科目(レポートにより実施した科目を除く。)を、病気その他やむを得ない理由により受験できなかった者に対し、本学が指定する日にこれを行うことができる。

2 追試験を希望する者は、医師の診断書等理由を証明するに足る書類を添え、原則として当該科目の試験日を含む3日以内(ただし、日曜日、祝日は除く。)にその申請をし、教務委員会の許可を得なければならない。

3 追試験を許可された者は、所定の期日までに追試験料を納付しなければならない。

(再試験)

第5条 卒業年次の学生及び進級年次の学生が、履修登録した科目のうち不合格になった科目に対し、再試験を実施することがある。

2 再試験についての必要な事項は、別に定める。

3 再試験を許可された者は、所定の期日までに再試験料を納付しなければならない。

(試験の実施)

第6条 第3条、第4条及び第5条の試験に関する事項は別に定める。

(臨時試験)

第7条 臨時試験は、各科目担当者が随時これを行うことがある。

(不正行為)

第8条 第3条及び第4条並び第5条に定める試験において、不正行為を行なった者は多摩大学学生懲戒規程に基づき処分する。

2 受験中に答案を持ち出した者については、その受験科目を不合格とする。

(成績照会)

第10条 前条に定める成績評価について疑問がある場合は、成績の照会を申出ることができる。

2 成績照会は、次学期授業開始後2週間以内に事務局担当窓口に出なければならぬ。

20. 多摩大学早期卒業規程(抜粋)

(対象学生)

第2条 早期卒業の対象学生は、学則第38条第2項に規定する者とする。ただし、再入学、編入学及び転入学した学生又は教職課程科目の履修者は、対象とならない。

(早期卒業要件)

第5条 早期卒業の要件は、3年又は3年半在学して所定の科目を履修し、多摩大学履修規程に規定する卒業要件単位数以上を修得しなければならない。ただし、休学した期間は在学期間に含まれない。

2 早期卒業要件について必要な事項は、別に細則で定める。

(申請の取下げ)

第6条 早期卒業希望者は、卒業の1ヶ月前までに早期卒業申請を取下げることができる。

(卒業の時期)

第7条 早期卒業の時期は、春季入学生にあつては3年次の3月以降、秋季入学生にあつては3年次の9月以降とする。

21. 多摩大学経営情報学部早期卒業細則(抜粋)

(認定要件)

第2条 早期卒業の認定要件は、早期卒業規程第3条第1項に定めるもののほか、2年次終了時において、以下のすべての要件を満たしていなければならない。

(1)以下の単位を修得していること。

卒業に必要な必修・特別選択必修科目の単位の全てと卒業に必要な合計単位数の75%以上。

(小数点以下の端数は切り上げとする)

(2)GPAが3.2以上であること。

(3)ホームゼミナールに所属し、担当教員の推薦を得ていること。ホームゼミナールに所属しない場合は専任教員2名の推薦状を得ていること。

(4)早期卒業の意志及び理由が明確であること。

(学習指導体制)

第3条 学習指導体制として、ホームゼミナール担当教員、教務委員長及びホームゼミナール担当教員が指名した教員1名(合計3名)又はホームゼミナール未所属の場合は教務委員長及び学生を推薦した専任教員2名(計3名)を配置する。

(早期卒業要件)

第4条 早期卒業の要件は、早期卒業規程第5条第1項に定めるもののほか、以下のすべての要件を満たしていなければならない。

(1)GPAが3.2以上であること。

(2)本学大学院の入学許可を得ていること。

(GPA)

第5条 成績評価の評定平均値(GPA)は、次の方法で算出する。

$$\{(4.0 \times A + P \text{の修得単位数}) + (3.0 \times A \text{の修得単位数}) + (2.0 \times B \text{の修得単位数}) + (1.0 \times C \text{の修得単位数})\} \div \text{総履修登録単位数 (「F」の単位数を含む)}$$

22. 多摩大学成績評価規程

(目的)

第1条 この規程は、多摩大学学則第34条に基づき、成績評価について必要な事項を定めることを目的とする。

(GPA)

第2条 成績評価の評定平均値(GPA)は、次の方法で算出する。

$$\{(4.0 \times A + P \text{の修得単位数}) + (3.0 \times A \text{の修得単位数}) + (2.0 \times B \text{の修得単位数}) + (1.0 \times C \text{の修得単位数})\} \div \text{総履修登録単位数} (\text{「F」の単位数を含む})$$

(卒業)

第3条 卒業判定にGPAを使用する場合、多摩大学早期卒業規程による。

(面談の実施)

第4条 成績不振者の基準は、各学期の修得単位数が4単位未満の者とし、成績不振者に対する履修指導面談、就学的意思確認面談は、各年度に1回以上行い、3月31日までに実施する。

(退学勧告)

第5条 5年を越えて在籍し、GPAが1.0以下、かつ修得単位数が60単位未満の学生については、就学的意思確認面談を実施し、必要に応じて退学勧告を行うものとする。

(規程の改廃)

第6条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成26年7月1日から施行する。

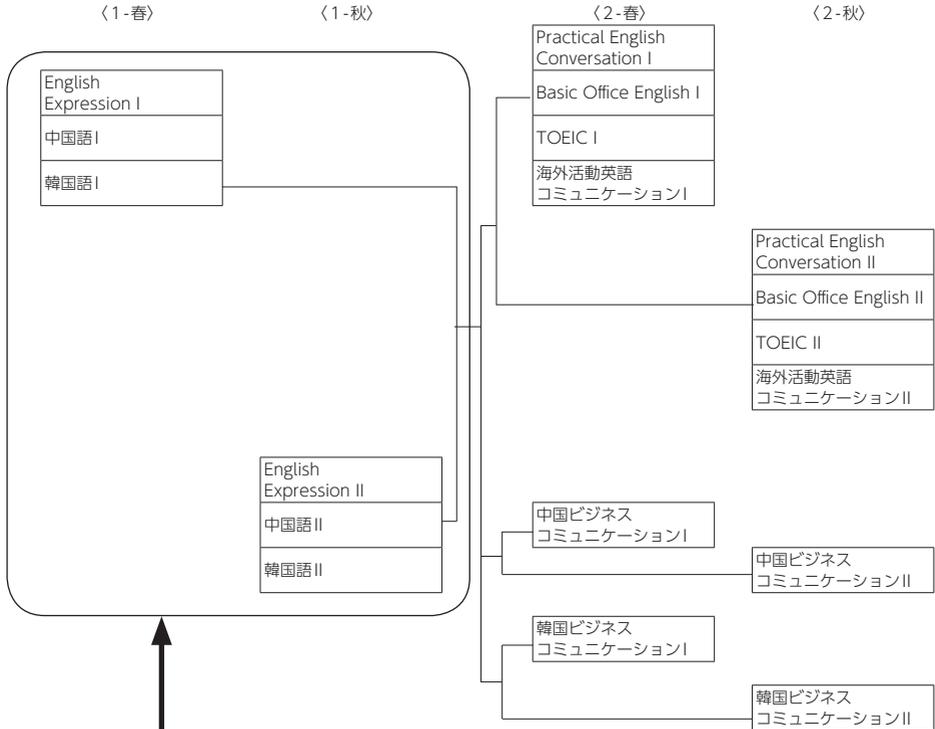
この規定は、平成27年4月1日から施行する。

23. 前提科目一覧

◆◇2014・2015年度以降入学生用◇◆

2015年度 前提科目一覧

【語学系】<2014～2015年度以降入学生適用>



※2011年度入学生～2013年度入学生は同一言語にて4単位修得してください。
2014～2015年度入学生は、同一言語にこだわらず、4単位修得してください。

※既に2013年度までに上記の2年次以降に配当されている科目を履修した学生の皆さん

2014年度より上記ルールに則り履修登録が必要となるものであり2013年度までに履修された科目が取り消されることはありません。

(例：中国語 I を履修していない学生が2013年度に中国ビジネスコミュニケーション I の単位を取得した場合、2014年度以降もその単位が取り消されることはない。)

【会計・財務系】<全入学年度適用>

<1-春>

<1-秋>

<2-春>

<2-秋>



【情報系・その他】<全入学年度適用>

<1-春>

<1-秋>

<2-春>

<2-秋>



※上記科目以外に関しては、前提科目として特に定めておりませんが、単位修得を前提として講義を進めていく場合があります。シラバスをよく参照してください。



24. 授業科目一覽

群	識別/領域	1年 春学期		1年 秋学期		2年 春学期		2年 秋学期	
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位
産業 社会 科目 群	必修科目	問題解決学入門Ⅰ	2	問題解決学入門Ⅱ	2	特別講座Ⅰ	2	特別講座Ⅱ	2
	特別選択必修科目								
	選択必修科目	ビジネスコミュニケーション入門Ⅰ	2	ビジネスコミュニケーション入門Ⅱ	2	ビジネスコミュニケーションⅠ	2	ビジネスコミュニケーションⅡ	2
		文章伝達入門	2	文章伝達入門	2	日本語表現Ⅰ	2		
		立志論Ⅰ	2	立志論Ⅱ	2	立志論Ⅲ	2	立志論Ⅳ	2
		ビジネス入門Ⅰ	2	ビジネス入門Ⅱ	2	グローバルヒストリーⅠ	2	立志論Ⅴ	2
						グローバルヒストリーⅡ	2	グローバルヒストリーⅡ	2
						多摩学Ⅰ	2	世界の宗教	2
	選択必修科目 (語学)	ビジネス数学基礎	2	多摩学Ⅰ	2	多摩学Ⅱ	2		
		English Expression Ⅰ	2	English Expression Ⅱ	2	Practical English Conversation Ⅰ	2	Practical English Conversation Ⅱ	2
						Basic Office English Ⅰ	2	Basic Office English Ⅱ	2
						海外活動英語コミュニケーションⅠ	2	海外活動英語コミュニケーションⅡ	2
		韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2	韓国ビジネスコミュニケーションⅠ	2	韓国ビジネスコミュニケーションⅡ	2
		中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2	中国ビジネスコミュニケーションⅠ	2	中国ビジネスコミュニケーションⅡ	2
						TOEIC Ⅰ	2	TOEIC Ⅱ	2
						フランス語Ⅰ	2	フランス語Ⅱ	2
						ドイツ語Ⅰ	2	ドイツ語Ⅱ	2
						ドイツ語Ⅱ	2	ドイツ語Ⅱ	2
	ビ ジ ネ ス	日本語講座(初級) ※留学生用	2	日本語講座(中級Ⅰ) ※留学生用	2				
		日本語講座(中級Ⅱ) ※留学生用	2	日本語講座(上級) ※留学生用	2				
		ミクロ経済学	2	マクロ経済学	2				
		経営基礎Ⅰ	2	経営基礎Ⅱ	4				
		マーケティング入門	2	マーケティングマネジメント論	2				
		リサーチ入門	2						
		キャリア・デザイン入門	2	キャリア・デザイン入門	2	キャリア・デザインⅠ	2	キャリア・デザインⅡ	2
		ライフ・デザイン	2	ライフ・デザイン	2	女性のためのキャリアデザイン	2	実践的企業経営特講 インターンシップⅠ	2
				法学(憲法)	2	ビジネス法	2	インターンシップⅡ	2
							社会心理	2	
IT活用法Ⅰ		2	IT活用法Ⅱ	2					
情報探査法		2	コンピュータ概論	2					
AP数学		2	AP数学 数学力で語る	2					
スポーツⅠ		2	スポーツⅠ	2	スポーツと健康 スポーツⅡ	2	スポーツⅡ	2	
					余暇マネジメントⅠ	2	余暇マネジメントⅡ	2	
自然科学概論Ⅰ	2	自然科学概論Ⅱ	2						
必修科目				Study AbroadⅠ～Ⅴ(単位2)、 単位互換科目Ⅰ～Ⅴ(単位2)					
問 題 解 決 学 科 専 門 科 目 群	選択必修科目					経営情報論Ⅰ	2	経営情報論Ⅱ	2
						マーケティング・データ分析Ⅰ	2	マーケティング・データ分析Ⅱ	2
						マーケティング・データ分析Ⅱ	2	マーケティング・リサーチ	2
						データサイエンスⅠ	2	データサイエンスⅡ	2
						ビジネス数学Ⅰ	2	ビジネス数学Ⅱ	2
						ITマネジメントⅠ	2	ITマネジメントⅡ	2
						ITアドミニストレータ	2		
						データフィクションⅠ	2	データフィクションⅡ	2
						WebデザインⅠ	2	WebデザインⅡ	2
						デザインワークショップⅠ	2	デザインワークショップⅡ	2
						クリエイティブデザインⅠ	2	クリエイティブデザインⅡ	2
						コンピュータサイエンス	2	システムデザイン	2
						情報法	2		
						初級簿記	2	初級簿記	2
						中級簿記	2	中級簿記	2
					財務会計Ⅰ	2	財務会計Ⅱ	2	
						2	原価分析	2	
選 択 科 目						事業構想論Ⅰ(2016年度開講予定)	2	事業構想論Ⅲ(2016年度開講予定)	2
						グローバルエコノミーⅠ	2	グローバルエコノミーⅡ	2
						アメリカ経済論	2	ヨーロッパ経済論	2
						経営学概論Ⅰ	2	経営学概論Ⅱ	2
						国際経営入門Ⅰ	2	国際経営入門Ⅱ	2
								グローバルマーケティングⅠ	2
								ベンチャー企業論	2
								消費心理	2
							NPO・NGO論	2	
							地域政策プランニング	2	
演習科目	必修科目	プレゼミⅠ	2	プレゼミⅡ	2	ホームゼミⅠ	2	ホームゼミⅡ(※再履修者用)	2
選択必修科目						ホームゼミⅡ～Ⅵ	2		
選択科目						インターゼミⅠ～Ⅶ	2	インターゼミⅠ～Ⅶ	2
						プロジェクトゼミⅠ～Ⅱ	2	プロジェクトゼミⅠ～Ⅱ	2
就職専門科目群	就職に関する科目					教育原理	2	教育制度論	2
						教育史	2	教育方法	2
						生徒指導	2	教職課程総論	1
								特別活動	1

※ホームゼミナールは、各学期ごとに1科目のみ履修可能とし、1から順番にⅥまで履修するものとします。

群	識別/領域	1年 春学期		1年 秋学期		2年 春学期		2年 秋学期		
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	
産業 社会 科目 群	必修科目	問題解決学入門Ⅰ	2	問題解決学入門Ⅱ	2	特別講座Ⅰ	2	特別講座Ⅱ	2	
	特別必修科目									
	選択必修科目	ビジネスコミュニケーション入門Ⅰ	2	ビジネスコミュニケーション入門Ⅱ	2	ビジネスコミュニケーションⅠ	2	ビジネスコミュニケーションⅡ	2	
		文章伝達入門	2	文章伝達入門	2	日本語表現Ⅰ	2			
		立志論Ⅰ	2	立志論Ⅱ	2	立志論Ⅲ	2	立志論Ⅳ	2	
		ビジネス入門Ⅰ	2	ビジネス入門Ⅱ	2	グローバルヒストリーⅠ	2	グローバルヒストリーⅡ	2	
				多摩学Ⅰ	2	多摩学Ⅱ	2	世界の宗教	2	
	選択必修科目 (語学)	English Expression Ⅰ	2	English Expression Ⅱ	2	Practical English Conversation Ⅰ	2	Practical English Conversation Ⅱ	2	
						Basic Office English Ⅰ	2	Basic Office English Ⅱ	2	
						海外活動英語コミュニケーションⅠ	2	海外活動英語コミュニケーションⅡ	2	
		韓国語Ⅰ	2	韓国語Ⅱ	2	韓国ビジネスコミュニケーションⅠ	2	韓国ビジネスコミュニケーションⅡ	2	
		中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2	中国ビジネスコミュニケーションⅠ	2	中国ビジネスコミュニケーションⅡ	2	
						TOEIC Ⅰ	2	TOEIC Ⅱ	2	
						フランス語Ⅰ	2	フランス語Ⅱ	2	
						ドイツ語Ⅰ	2	ドイツ語Ⅱ	2	
						ドイツ語Ⅱ	2	ドイツ語Ⅱ	2	
	ビジネス	選択科目	日本語講座(初級) ※留学生用	2	日本語講座(中級Ⅰ) ※留学生用	2				
			日本語講座(中級Ⅰ) ※留学生用	2	日本語講座(上級) ※留学生用	2				
			ミクロ経済学	2	マクロ経済学	2				
			経営基礎Ⅰ	2	経営基礎Ⅱ	4				
			マーケティング入門	2	マーケティングマネジメント論	2				
			リサーチ入門	2						
			キャリア・デザイン入門	2	キャリア・デザイン入門	2	キャリア・デザインⅠ	2	キャリア・デザインⅡ	2
			ライフ・デザイン	2	ライフ・デザイン	2	女性のためのキャリアデザイン	2	実践的企業経営特講 インターンシップⅠ	2
					法学(憲法)	2	ビジネス法	2	社会心理	2
					IT活用Ⅰ	2				
					IT活用Ⅱ	2				
					情報探索Ⅰ	2				
					AP数学	2				
					数学力で語る	2				
				スポーツⅠ	2	スポーツⅡ	2	スポーツⅡ	2	
				スポーツⅡ	2	余暇マネジメントⅠ	2	余暇マネジメントⅡ	2	
				自然科学概論Ⅰ	2	自然科学概論Ⅱ	2			
Study AbroadⅠ～Ⅴ(単位2)、Study AbroadⅥ～Ⅷ(単位4)、 単位互換科目Ⅰ～Ⅴ(単位2)										
事業 構想 学科 専門 科目 群	必修科目					事業構想論Ⅲ(2016年度開講予定)	2	事業構想論Ⅲ(2016年度開講予定)	2	
						グローバルエコノミー	2	グローバルエコノミーⅡ	2	
						アメリカ経済論	2	ヨーロッパ経済論	2	
	選択必修科目						経営学概論Ⅰ	2	経営学概論Ⅱ	2
							国際経営入門Ⅰ	2	国際経営入門Ⅱ	2
							グローバルマーケティングⅠ	2	ベンチャー企業論	2
							消費心理	2	NPO・NGO論	2
	選択科目						地域政策プランニング	2		
							初級簿記	2	初級簿記	2
							中級簿記	2	財務会計Ⅱ	2
							財務会計Ⅰ	2	原簿分析	2
	演習 科目	必修科目	プレゼミⅠ	2	プレゼミⅡ	2	ホームゼミⅠ	2	ホームゼミⅡ(※再履修者用)	2
		選択必修科目			インターゼミⅠ～Ⅶ	2	インターゼミⅠ～Ⅶ	2	ホームゼミⅡ～Ⅵ	2
		選択科目			プロジェクトゼミⅠ～Ⅻ	2	インターゼミⅠ～Ⅶ	2	インターゼミⅠ～Ⅶ	2
						プロジェクトゼミⅠ～Ⅻ	2	プロジェクトゼミⅠ～Ⅻ	2	
						教育原理	2	教育制度論	2	
						教育史	2	教育方法	2	
						生徒指導	2	教職課程総論	2	
								特別活動	1	
									1	

※ホームゼミナールは、各学期ごとに1科目のみ履修可能とし、1から順番にⅥまで履修するものとします。



25. シラバス

【2015年度シラバス 目次】

《一般科目》	現代メディア論I.....	70
ITアドミニストレータ.....	国際経営入門I.....	73
IT活用法I.....	国際経営入門II.....	74
IT活用法II.....	国際公共政策.....	75
ITデザインI.....	コンピュータ概論.....	77
ITデザインII.....	コンピュータサイエンス.....	78
ITマネジメントI.....	コンピュータネットワーク活用.....	79
ITマネジメントII.....	財務会計I.....	81
アジア経済論I.....	財務会計II.....	82
アジア経済論II.....	財務管理.....	83
アメリカ経済論.....	財務諸表分析.....	85
English ExpressionI.....	事業デザイン論I.....	86
English ExpressionII.....	事業デザイン論II.....	87
インターンシップ・I.....	システムデザイン.....	88
Webサービス開発.....	システム分析概論.....	89
WebデザインI.....	自然科学概論I.....	90
WebデザインII.....	自然科学概論II.....	92
Webプログラミング.....	実践の事業経営特講.....	93
AP数学.....	社会心理.....	94
NPO・NGO論.....	社会調査士実習I・II.....	95
エネルギー・環境論I.....	消費心理.....	97
エネルギー・環境論II.....	情報セキュリティ.....	98
海外活動英語コミュニケーションI.....	情報探索法.....	99
海外活動英語コミュニケーションII.....	情報通信と社会.....	101
韓国経済論.....	情報と職業.....	102
韓国語I.....	情報法.....	103
韓国語II.....	初級簿記.....	104
韓国ビジネスコミュニケーションI.....	女性のためのキャリアデザイン.....	106
韓国ビジネスコミュニケーションII.....	数字力で語る.....	108
管理会計入門.....	スポーツI・II.....	109
キャリア・デザインI.....	スポーツと健康.....	110
キャリア・デザイン入門.....	世界の宗教.....	112
クリエイティブデザインI.....	多国籍企業I.....	113
クリエイティブデザインII.....	多国籍企業II.....	114
グローバルエコノミーI.....	多摩学I.....	115
グローバルエコノミーII.....	多摩学II.....	116
グローバルエコノミーIII.....	地域観光論.....	117
グローバルエコノミーIV.....	地域産業論I.....	118
グローバルエコノミーV.....	地域産業論II.....	119
グローバル歴史I.....	地域政策プランニング.....	121
グローバル歴史II.....	中級簿記.....	122
グローバル歴史III.....	中国経済論.....	124
グローバル歴史IV.....	中国語I.....	126
グローバルマーケティングI.....	中国語II.....	127
グローバルマーケティングII.....	中国ビジネスコミュニケーションI.....	128
経営学概論I.....	中国ビジネスコミュニケーションII.....	130
経営学概論II.....	データサイエンスI.....	132
経営基礎I.....	データサイエンスII.....	133
経営基礎II.....	データサイエンスIII.....	134
経営情報論I.....	データサイエンスIV.....	135
経営情報論II.....	データフィクションI.....	136
経営組織I.....	データフィクションII.....	137
経営組織II.....	デザインワークショップI.....	139
原価分析.....	デザインワークショップII.....	140
現代メディア論I.....		

TOEIC I.....	141	立志論III.....	219
TOEIC II.....	143	立志論IV.....	221
特別講座I.....	145	立志論V.....	222
特別講座II.....	147		
日本経営史I.....	149	《演習科目》	
日本経営史II.....	150	プレゼミ.....	224
日本経済史I.....	151		
日本経済史II.....	152	〈ホームゼミナール (立志セミナー) 〉	
日本語講座 (初級).....	153	金子・栢原・浜田(正).....	225
日本語講座(中級I).....	155		
日本語講座(中級II).....	157	〈ホームゼミナール〉	
日本語講座 (上級).....	159	飯田 健雄.....	226
日本語表現法.....	161	石川 晴子.....	227
認知心理.....	162	出原 至道.....	228
ビジネスコミュニケーションI.....	163	今泉 忠.....	229
ビジネスコミュニケーションII.....	164	梅澤 佳子.....	230
ビジネスコミュニケーション入門I.....	165	大森 映子.....	231
ビジネスコミュニケーション入門II.....	166	大森 拓哉.....	232
ビジネス数学I.....	167	奥山 雅之.....	233
ビジネス数学II.....	168	金子 邦博.....	234
ビジネス数学基礎.....	169	金 美徳.....	235
ビジネス戦略I.....	170	清松 敏雄.....	236
ビジネス戦略II.....	171	久保田 貴文.....	237
ビジネスソフトウェア活用.....	172	小林 英夫.....	238
ビジネス特講II.....	174	彩藤 ひろみ.....	239
ビジネス入門I.....	175	齋藤 S.裕美.....	240
ビジネス入門II.....	176	酒井 麻衣子.....	241
ビジネス法.....	177	椎木 哲太郎.....	242
ビッグデータ活用法.....	178	志賀 敏宏.....	243
Practical English ConversationI.....	179	下井 直毅.....	244
Practical English ConversationII.....	181	杉田 文章.....	245
ブランドマネジメント.....	183	趙 佑鎮.....	246
文章伝達入門.....	184	常見 耕平.....	247
Basic Office EnglishI.....	185	豊田 裕貴.....	248
Basic Office EnglishII.....	187	中庭 光彦.....	249
ベンチャー企業論.....	189	中村 その子.....	250
法学 (憲法).....	190	中村 有一.....	251
マーケティングデータ分析I.....	191	バートル.....	252
マーケティングデータ分析II.....	193	浜田 正幸.....	254
マーケティング入門.....	195	樋口 裕一.....	255
マーケティングマネジメント論.....	196	久恒 啓一.....	256
マーケティングモデリング.....	197	増田 浩通.....	257
マーケティングリサーチ.....	198	松本 祐一.....	258
マクロ経済学.....	200	村山 貞幸.....	259
ミクロ経済学.....	202	諸橋 正幸.....	260
問題解決学入門I.....	203		
問題解決学入門II.....	204	〈インターゼミナール〉	
問題解決メソッドI.....	205	寺島・久恒・諸橋・金・中庭・バートル・奥山・	
問題解決メソッドII.....	206	小林・久保田・中澤・木村・荻野・(SGS:安田・	
問題解決メソッドIII.....	207	市岡)・(大学院:河野).....	261
ヨーロッパ経済論.....	208		
余暇マネジメントI.....	210	〈プロジェクトゼミナール〉	
余暇マネジメントII.....	211	荒木 恵理子.....	262
ライフ・デザイン.....	212	伊藤 暢人.....	263
リサーチ入門.....	214	大風 薫.....	264
立志論I.....	215	荻野 博司.....	265
立志論II.....	217	栢原 伸也.....	266

梶原 裕.....	267
河合 敦.....	268
木村 知義.....	270
田口 正剛.....	272
田中 雄.....	273
富田 直美.....	274
鳥山 茂.....	275
中野 未知子.....	276
浜田 健史.....	277
原田 曜平.....	278
福田 健一.....	279
見山 謙一郎.....	280
もしもしホットライン.....	282
森本 美行.....	283

《認定科目》

キャリア・デザインⅡ.....	284
キャリア・デザインⅢ.....	285
キャリア・デザインⅣ.....	286
スタディーアプロードⅠ～Ⅷ.....	287

《教職に関する科目》

教育原理.....	288
教育史.....	289
教育実習.....	290
教育心理学.....	291
教育制度論.....	292
教育方法.....	293
教職課程総論.....	295
教職実践演習.....	297
教職概論.....	298
情報科教育法.....	299
生徒指導.....	301
教育相談.....	303
特別活動.....	304

《認定科目（地域学生センター）》

スタディーアプロード（地域学生センター）Ⅰ～Ⅷ.....	307
------------------------------	-----

《認定科目（地域実習）》

スタディーアプロード（地域実習）Ⅰ～Ⅷ.....	308
--------------------------	-----

科目名 ITアドミニストレータ(IT Administrator)

サブタイトル

担当教員 トランスコスモス

■講義目的

今日の社会では企業での業務に限らず、日常の生活においても情報通信技術(ICT)が欠かせないものとなっており、今後も ICT の必要性はより増大していく傾向にある。この科目ではその情報通信技術を、特にコンピュータ基礎知識とネットワーク基礎知識を中心に修得する。尚、本講座を提供するトランスコスモスでは、春季期に「ビジネスソフトウェア活用」の ICT 講座を提供しており、これらの講座をトータルに受講することにより、ITの基礎能力を育成し、IT人材への成長を目指す構成となっている。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

- (1) コンピュータの仕組みについて説明できる
- (2) コンピュータの各コンポーネントについて、その役割を説明できる
- (3) ネットワークの通信の仕組みについて説明できる

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

- ・ITパスポート(資格)試験概要の確認
- ・PCの準備

■講義の概要

<第1講>
概要：<第1講> ITとコンピュータ
概要：コンピュータの世界はデジタルであることを学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語【2進数、基数変換、ビット、バイト】

<第2講>
概要：<第2講>内部表現
概要：データの表現について学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【1の補数、2の補数、ASCIIコード】

<第3講>
概要：<第3講>論理演算・論理回路
概要：コンピュータの計算の仕組みを学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【論理和、論理積、真偽値表、ベン図】

<第4講>
概要：<第4講>コンピュータの構成
概要：コンピュータを構成する装置(コンポーネント)を学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【制御装置、演算装置、記憶装置、入出力装置】

<第5講>
概要：<第5講>コンピュータの外部周辺装置
概要：外部記憶装置とコンピュータに接続して利用する周辺装置について学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【ハードディスク、インターフェース、USB】

<第6講>
概要：<第6講>オペレーティングシステム
概要：コンピュータの動きを制御、管理する基本ソフトウェア(OS)について学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【マルチタスク、仮想記憶、ファイルのツリー構造】

<第7講>
概要：<第7講>表計算とデータベース
概要：ソフトウェアとしてよく利用される表計算ソフトとデータベースについて学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【RDB、主キー、外部キー】

<第8講>
概要：<第8講>ネットワーク
概要：ローカルエリアネットワークの構築について学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【LAN、パケット、トポロジ、プロトコル】

<第9講>
概要：<第9講>IPアドレス

概要：インターネットで通信相手特定するためのIPアドレスについて学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【IPアドレス、サブネットマスク】

<第10講>
概要：<第10講>ネットワーク演習
概要：PCのネットワーク設定について学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【ローカルエリア接続のIPロバティ】

PCを充電して持参すること

<第11講>
概要：<第11講>サーバとクライアント
概要：クライアントサーバシステムについて学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【ポート番号、サーバ、クライアント、URL】

<第12講>
概要：<第12講>ネットワークセキュリティ
概要：ネットワークセキュリティとしてファイアウォールと暗号化について学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【ファイアウォール、共通鍵方式、公開鍵方式】

<第13講>
概要：<第13講>開発技術
概要：システム開発の流れを学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【アルゴリズム、基本設計、ウォーターフォール型】

<第14講>
概要：<第14講>システムの評価
概要：システムの信頼性や可用性、障害対策について学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【稼働率、MTBF、MTTR、RAID】

<第15講>
概要：<第15講>企業と法務、ストラテジ
概要：ICTにおける法規則および企業の経営戦略、システム戦略について学ぶ
事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント【著作権、変動費、固定費、仕訳、アロダイアグラム】

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

評価は、出席率70%以上の者に対し、期末定期試験(100%)により行う。
注1) 遅刻・早退は欠席扱いとする。電車遅延の際は遅延証明書を提出すること
注2) 就職活動等による止むを得ない欠席は証明書の提出により3回まで認める

■評価基準

評価A+ (90点以上)：期末定期試験100点満点中90点以上
評価A (89～80点)：期末定期試験100点満点中80点以上90点未満
評価B (79～70点)：期末定期試験100点満点中60点以上80点未満
評価C (69～60点)：期末定期試験100点満点中40点以上60点未満
評価F (59点以下)：期末定期試験100点満点中40点未満

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

留意点 / Additional Information

他履修、飲食、授業と関係のないPC操作、携帯電話操作、帽子・サンガラス着用、その他履修態度としてふさわしくない行為を禁止する。また著しく履修態度の悪い者にはその後の出席ならびに期末試験の受験資格を認めないことがある。

科目名 IT活用法I(Utilizing method of IT I)

サブタイトル ゲームと商品開発を通してデータに触れる

担当教員 出原、久保田、島田

■講義目的

本講義の目的は、ゲームや商品開発の実験を通して、実社会で活躍するために必要な情報の捉え方、考え方を身につけることにある。

■講義分類

ビジネスICT
ビジネス環境理解
ビジネス創造
社会人力育成

■到達目標

チームでさまざまな意見を出し合う中で、主体的に意思決定に関与できる。表面的に観察される現象に対して、戦略的な行動をとることができる。データに基づいた議論ができ、そのために表計算ソフトウェアを活用できる。自分の意見が分かりやすく伝えることができる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（学習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる具体的な学習内容

各回に示す内容について、チームごとに90分の議論を行い、記録する。（一部個人課題）

■講義の概要

<第 1 講>

概要：オリエンテーション

事前,事後学習ポイント：講義後、チームメンバーを決定する

<第 2 講>

概要：ゲームルールの解説

事前,事後学習ポイント：講義後、ゲームルールを正確に理解する。

<第 3 講>

概要：ゲームの実験

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：チームのゲーム戦略を検討する

<第 4 講>

概要：ゲームのデータ分析

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：チームのゲーム戦略を決定し、プレゼンテーションできるように準備する。

<第 5 講>

概要：チーム戦略のプレゼンテーション

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：自チームのゲーム戦略について分析・考察を行い、レポートを提出する（個人課題）。

<第 6 講>

概要：プロトタイプによる商品開発

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：必要があればチームの再編成を行う。

<第 7 講>

概要：プロトタイプ（実践）

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：プレゼンテーションを準備する。

<第 8 講>

概要：プロトタイプ（実践と分析）

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：自チームの商品開発プロセスについて分析・考察を行い、レポートを提出する（個人課題）。

<第 9 講>

概要：プロトタイプ プレゼンテーション

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：プロトタイプについて理解を深める。

<第 10 講>

概要：データに基づいた商品開発（概説）

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：ピボットテーブルなどの集計手法について理解を深める。

<第 11 講>

概要：プロトタイプ（実験計画）

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：自チームの商品開発に必要なアンケートを設計し、公開する。

<第 12 講>

概要：プロトタイプ（実験・分析）

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：自チームへのアンケートを評価し、まとめる。

<第 13 講>

概要：プロトタイプ（分析）

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：プロトタイプを行う。必要であれば、追加のアンケートを実施する。

<第 14 講>

概要：プロトタイプ（分析）

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：60秒プレゼンテーションを行う資料を作成する。

<第 15 講>

概要：プロトタイプ プレゼンテーション

事前,事後学習ポイント：事前：（前回の事後学習と同じ）

事後：自チームの商品開発について分析・評価を行う（個人課題）。

■教科書

■指定図書

プロトタイプ実践ガイド スマホアプリの効率的なデザイン手法 2014/7/11 深津 貴之、荻野 博章、丸山 弘詩

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

欠席理由を問わず3分の2以上の出席を前提として、平常点40点、レポート（3回）各20点で評価する。

■評価基準

評価A+（90点以上）：数値評価で90点以上

評価A（89～80点）：数値評価で80点以上90点未満

評価B（79～70点）：数値評価で70点以上80点未満

評価C（69～60点）：数値評価で60点以上70点未満

評価F（59点以下）：数値評価で60点未満

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

第1回講義でチームビルディングを行う。受講希望者は必ず出席すること。コンピュータを持参すること。

科目名 IT活用法II(Utilizing method of IT II)

サブタイトル

担当教員 出原、田中(雄)

■講義目的

本講義の目的は、情報技術を用いた新しいビジネス(ゲームなどを含むサービス全般)の発想と提案を行うことができるようになることである。そのためには、マーケット視点と、コンピュータの要素技術の理解の両方が必要であり、しかもそれは社会において大きな競争力になる。前半は、技術からの積み上げ型の発想力を鍛え、後半はマーケティング的発想法を学ぶ。

■講義分類

ビジネスICT
ビジネス創造
社会人育成

■到達目標

新しい情報サービスについて、そこで使用されている情報技術が理解できる。また、新しい情報技術を用いて、新たなサービスが提案できる。その過程で、戦略的な発想方法を身につける。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各回に示す内容について、チームごとに90分の議論を行い、記録する。(一部個人課題)

■講義の概要

<第1講>

概要：ガイダンス・チーム決定を行う。チームに加わっていないと今後の講義に参加できないため、必ず出席すること。

事前、事後学習ポイント：講義後、チームメンバーを決定する

<第2講>

概要：講義時点で最新の興味深い情報サービスについて、要素技術を解説する。また、それらの技術について、実験を行う。

事前、事後学習ポイント：講義後、要素技術について実験を行いチームでレポートにまとめる。

<第3講>

概要：講義時点で最新の興味深い情報サービスについて、要素技術を解説する。また、それらの技術について、実験を行う。

事前、事後学習ポイント：講義後、要素技術について実験を行いチームでレポートにまとめる。

<第4講>

概要：講義時点で最新の興味深い情報サービスについて、要素技術を解説する。また、それらの技術について、実験を行う。

事前、事後学習ポイント：講義後、要素技術について実験を行いチームでレポートにまとめる。

<第5講>

概要：講義時点で最新の興味深い情報サービスについて、要素技術を解説する。また、それらの技術について、実験を行う。

事前、事後学習ポイント：講義後、要素技術について実験を行いチームでレポートにまとめる。

<第6講>

概要：各チームで一つ、ここまでで取り上げていないサービスについて、要素技術を推定しレポートにまとめる。

事前、事後学習ポイント：講義後、議論をチームでレポートにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。

<第7講>

概要：最新のサービスについて、その実現手法と想定マーケットについて、チームプレゼンテーションを行う。

事前、事後学習ポイント：講義前に、プレゼンテーションの準備を行う。

<第8講>

概要：制限要素を用いた発想法について学ぶ。テーマは、講義時に指定する。

事前、事後学習ポイント：講義後に、チームごとに与えられた制限要素に基づいて、サービスを考案する。

<第9講>

概要：チームのサービスについて、ミニプレゼンテーションと議論を行う。有用な要素技術があれば教員が助言する。

事前、事後学習ポイント：講義後に、議論に基づいてチームのサービスを改良する。

<第10講>

概要：チームのサービスについて、プレゼンテーションと議論を行う。

事前、事後学習ポイント：講義後に、議論に基づいてチームのサービスレポートを作成する。

<第11講>

概要：携帯電話やコンピュータ、ネットワークですでに提供されているAPIを用いたサービスについて、簡単なプログラムを作成して理解するとともに、それをりようしたサービスのマーケットについて考察する。

事前、事後学習ポイント：講義後に、実際の操作について十分復習する。

<第12講>

概要：携帯電話やコンピュータ、ネットワークですでに提供されているAPIを用いたサービスについて、簡単なプログラムを作成して理解するとともに、それをりようしたサービスのマーケットについて考察する。

事前、事後学習ポイント：講義後に、実際の操作について十分復習する。

<第13講>

概要：チームで一つ、新しいサービスを考案し、その実現手法とマーケットについて議論する。考案の過程を必ず記録すること。

事前、事後学習ポイント：講義後も議論を継続する。

<第14講>

概要：チームのサービスについて、ミニプレゼンテーションと議論を行う。教員が助言する。

事前、事後学習ポイント：講義後に、議論に基づいてチームのサービスを改良する。

<第15講>

概要：プレゼンテーション大会。

事前、事後学習ポイント：最終レポートをまとめる(個人課題)

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

前年度までに実施した「ビジネスコミュニケーション入門」の電子報告書のアドレスを授業中に教える

■評価方法

欠席理由を問わず3分の2以上の出席を前提として、平常点60点、個人レポート40点で評価する。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：数値評価で90点以上

評価A (89~80点)：数値評価で80点以上90点未満

評価B (79~70点)：数値評価で70点以上80点未満

評価C (69~60点)：数値評価で60点以上70点未満

評価F (59点以下)：数値評価で60点未満

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

第1回目の講義で全体のオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

第1回日からノートPC(タブレットを含む)と電源をもってこること。

科目名 ITデザインI (IT Design I)

サブタイトル コンピュータネットワーク

担当教員 高橋 佑輔

■講義目的

コンピュータネットワークの仕組みを説明できる。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

コンピュータネットワークの基礎的項目を理解し、それぞれを組み合わせた思考ができる。

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

前週の授業内容を簡単に説明できるようにしておく。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：コンピュータネットワークの全体像をつかむ

事前,事後学習ポイント：クライアント、サーバ、ピアツーピア、SaaS、ネットワークポロジ

<第 2 講>

概要：ネットワークの機能を分け、通信ルールを定める

事前,事後学習ポイント：OSI基本参照モデル、プロトコル、標準化

<第 3 講>

概要：Webや電子メールの仕組み

事前,事後学習ポイント：HTTP、HTML、SMTP、POP、DNS

<第 4 講>

概要：様々なネットワークアプリケーション

事前,事後学習ポイント：FTP、TELNET、DHCP、MIME

<第 5 講>

概要：TCPとUDPと信頼性

事前,事後学習ポイント：TDP、UDP、ポート番号

<第 6 講>

概要：TCPの詳細

事前,事後学習ポイント：自宅でも実験してみよ

<第 7 講>

概要：IPアドレスにより目的のコンピュータにデータを届ける

事前,事後学習ポイント：IPアドレス、サブネットマスク、IPv4、ブロードキャスト

<第 8 講>

概要：ルーティングによる経路の探索

事前,事後学習ポイント：OSPF、BGP、ルーティングテーブル

<第 9 講>

概要：ネットワーク層の問題解決手法

事前,事後学習ポイント：有線・無線特有の制御方式に加え、実際の電気・電波の送受信手法の理解を行う。

<第 10 講>

概要：LAN

事前,事後学習ポイント：MACアドレス、イーサネット、LAN、スイッチ、ARP

<第 11 講>

概要：有線・無線ネットワーク

事前,事後学習ポイント：FTTH、スパンニングツリー、伝送制御、TDMA、CSMA/CD、

モバイル通信

<第 12 講>

概要：電気信号とビット

事前,事後学習ポイント：CRC、信号同期方式、符号理論、ビット誤り率

<第 13 講>

概要：セキュリティ

事前,事後学習ポイント：暗号化、電子署名、ファイアウォール、脆弱性

<第 14 講>

概要：新世代ネットワーク

事前,事後学習ポイント：受講者の理解度、専門を考慮し、適時指定します。

<第 15 講>

概要：期末試験

事前,事後学習ポイント：第十四講までの授業を基に出題します。

■教科書

リプロワークス，“スラスラわかるネットワーク&TCP/IPのきほん，”SBクリエイティブ，2014.

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

適時、授業中に紹介します。

■評価方法

期末テスト50%、課題・レポート 50%。

但し、極めて優秀な回答やレポートには加点を行う場合がある。

■評価基準

評価A+（90点以上）：コンピュータネットワークの仕組みを説明できる。試験の結果が非常によい。

評価A（89～80点）：基礎的な項目を理解し、それぞれを組み合わせた思考がきちん

とできる。試験の結果がよい。

評価B（79～70点）：基礎的な項目を理解し、それぞれを組み合わせた思考ができ

る。試験の結果、基準点をおおむね上回る。

評価C（69～60点）：基礎的な項目をきちんと理解している。試験の結果、基準点に達している。

評価F（59点以下）：基礎的な項目を理解しているように見える

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

コンピュータを用いた演習を行うので、ノートパソコンを持参すること。

科目名 ITデザインII (IT Design II)**サブタイトル****担当教員** 増田 浩通**■講義目的**

ICTを基盤とした高度情報社会における実情やさまざまな問題を、社会との関係に重点をおいた視点で学ぶ。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

高度情報化社会における問題と社会のかかわりについて、常識として知っておくべき事項を体系的に理解することを目標とする。

■講義形態

講義のみ

■単履修学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ビジネスICTに関連する事項

■講義の概要

<第1講>

概要：ガイドランスおよび情報化社会の問題点

事前,事後学習ポイント：情報システムのリスク

<第2講>

概要：情報が変わっていく社会

事前,事後学習ポイント：携帯電話の多様化、メディアのソーシャル化

<第3講>

概要：情報社会が抱える問題

事前,事後学習ポイント：情報格差（デジタルデバイド）

<第4講>

概要：情報倫理

事前,事後学習ポイント：知的財産権の尊重と個人情報保護

<第5講>

概要：ウイルスの問題とその対策

事前,事後学習ポイント：フィッシング、不正アクセス

<第6講>

概要：情報とコミュニケーション

事前,事後学習ポイント：情報の定義、情報通信分野でのコミュニケーション

<第7講>

概要：中間レポートの作成

事前,事後学習ポイント：特になし

<第8講>

概要：コミュニケーションモデル

事前,事後学習ポイント：階層モデル

<第9講>

概要：ヒューマンコンピュータインタラクション

事前,事後学習ポイント：グラフィカルユーザーインターフェイス

<第10講>

概要：インターネットの仕組み

事前,事後学習ポイント：インターネット技術の歴史

<第11講>

概要：WEBサービス

事前,事後学習ポイント：WebサーバとWebブラウザ

<第12講>

概要：データベースの基本概念

事前,事後学習ポイント：データベース管理システム

<第13講>

概要：データマイニングの基礎

事前,事後学習ポイント：クラスタリング

<第14講>

概要：情報システム

事前,事後学習ポイント：POSシステム、バーコード

<第15講>

概要：期末テスト

事前,事後学習ポイント：特になし

■教科書

情報とネットワーク社会、駒谷・山川・中西ら著、オーム社

■指定図書**■参考文献・参考URL / Reference List****■評価方法**

中間レポート 50%

期末テスト 50%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：テストとレポートの合計で判断する。

評価A (89~80点)：テストとレポートの合計で判断する。

評価B (79~70点)：テストとレポートの合計で判断する。

評価C (69~60点)：テストとレポートの合計で判断する。

評価F (59点以下)：テストとレポートの合計で判断する。 中間レポートの提出がない、もしくは期末テストを受けないと評価はFになる。

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

実施しない

■留意点

科目名 IT マネジメント I (IT Management I)

サブタイトル

担当教員 村上 治

■講義目的

ビジネスマンを目指す学生を対象に、経営とITの関わりについてわかりやすく解説する。この講義を通じて、ITは経営と密接に関わっていることを理解してもらうことが狙いである。

ITマネジメントでは「リスクマネジメント」を基本にして、ITという経営ツールをいかに管理すればよいのかをマネジメントシステム（管理のしくみ）の学習を通じて学ぶ。PDCAモデル、ライフサイクルモデル、情報セキュリティマネジメントのマネジメントシステム、事業継続のマネジメントシステム、内部統制のマネジメントシステム、ITサービスマネジメントのマネジメントシステムなどを解説。以上の学習を通して、経営においてITをどのように管理していけばよいのかを考える。

難しい話や数学的な話はないので、楽しんで学んでもらえれば幸いである。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

ITの様々なマネジメント手法を理解できていること。

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

前回講義資料および講義記録ノートによる復習

■講義の概要

<第 1 講>

概要：講義全体を通して目的、内容を解説

事前、事後学習ポイント：企業経営においてITをどのようにマネジメントすべきかを理解すること。講義前半では、現代のマネジメントで基本的な要素となっているリスクマネジメントについて学ぶ。後半はその応用としての様々なITマネジメントの例を学ぶ。

<第 2 講>

概要：リスクの概念の理解

事前、事後学習ポイント：リスクの基本的な定義、リスクと類似の概念などを理解する。具体的なリスクの例からリスクの構成要素が何かを考え、リスクの理解を深める。

<第 3 講>

概要：リスク評価の方法の理解

事前、事後学習ポイント：リスクを評価する方法をいくつかのパリエーションを通して理解する。実際の事例に基づきリスク評価を行っている。

<第 4 講>

概要：インパクト分析の方法の理解

事前、事後学習ポイント：リスクとインパクトの違い、リスク管理と危機管理の違いを理解する。事業インパクト分析を通じて、インパクト分析の概念、方法を理解する。

<第 5 講>

概要：リスクマネジメントの概念の理解

事前、事後学習ポイント：リスクマネジメントのプロセスを理解する。リスクマネジメントのプロセスにしたがいリスクマネジメントを机上で行ってみる。

<第 6 講>

概要：マネジメントシステムの概念の理解

事前、事後学習ポイント：マネジメントプロセスとマネジメントシステムの違いを理解する。事例をもとに簡単なマネジメントシステムを作ってみる。

<第 7 講>

概要：PDCAの概念の理解

事前、事後学習ポイント：PDSから発展したPDCAの概念を理解する。事例をもとに簡単なPDCAを机上で行ってみる。

<第 8 講>

概要：インシデントマネジメントの概念の理解

事前、事後学習ポイント：インシデントマネジメントの概念を理解する。世界で標準となっているインシデントマネジメントの考え方を学ぶ。

<第 9 講>

概要：情報セキュリティマネジメントの概念の理解

事前、事後学習ポイント：企業における情報セキュリティマネジメントとは、どのようなものであるかを理解する。情報セキュリティマネジメントにおけるリスク評価の方法を理解する。また情報セキュリティマネジメントの体系とそれの中での対策の内容を学ぶ。

<第 10 講>

概要：事業継続マネジメントの概念の理解

事前、事後学習ポイント：企業の危機管理としての事業継続マネジメントとは、どのよう

なものであるかを理解する。事業継続マネジメントにおける、事業インパクト分析の方法を理解する。また事業継続マネジメントの導入のプロセスを学ぶ。

<第 11 講>

概要：内部統制の概念の理解

事前、事後学習ポイント：内部統制の概念を理解し、それが必要とされるに至った歴史的背景を解説する。内部統制の体系を理解し、企業は内部統制においてどのような活動をするのかを学ぶ。

<第 12 講>

概要：コンピュータと通信の歴史の中での>集中と分散の変化

事前、事後学習ポイント：現在、クラウドコンピューティングが進展しつつあるといわれているが、ここに至るまでのコンピュータと通信の歴史を紐解いていく。

<第 13 講>

概要：ITサービスマネジメントの概念の理解

事前、事後学習ポイント：現在、ITビジネスがハード・ソフトの提供から、サービスの提供に変わっており。サービス時代のITサービスをマネジメントする方法を、IT L1フレームワークを基本に学ぶ。

<第 14 講>

概要：ITと環境問題の関係の理解

事前、事後学習ポイント：環境に優しい産業と言われてきたIT業界も、環境問題に悩んでいる。IT業界における環境問題への取り組みの状況を解説する。

<第 15 講>

概要：半年間の講義全体を通して、そのポイントを確認する。

事前、事後学習ポイント：半年間の授業資料をレビューする。

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席 60%、期末試験 40%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：卓越して優秀。

評価A (89~80点)：優秀。

評価B (79~70点)：良好。

評価C (69~60点)：普通。

評価F (59点以下)：不合格。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

再試験あり。

■留意点

科目名 IT マネジメント II (IT Management II)

サブタイトル

担当教員 村上 治

■講義目的

ビジネスシステムを目指す学生を対象に、経営とITの関わりについてわかりやすく解説する。この講義を通じて、ITは経営と密接に関わっていることを理解してもらおうことが狙いである。

ITマネジメントIでは「ロジカルシンキング」を基本にして、戦略の策定方法の解説、eビジネスの戦略のケーススタディ、IT戦略の変遷と将来の方向性などの解説を行う。以上の学習を通して、経営においてITをどのように利用していけばよいかを考える。難しい話や数学的な話はしないので、楽しく学んでもらえれば幸いである。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

ITと経営戦略について理解できていること。

■講義形態

講義のみ。

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

巡回講義の講義資料及び講義記録ノートのレビュー。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：講義全体を通して目的、内容を解説。

事前,事後学習ポイント：ITを利用したビジネスの現状と方向性を理解すること。講義前半では、ビジネス戦略を構築するうえで必要な要素となっているロジカルシンキングについて学ぶ。後半はその応用としての様々なITビジネス、IT戦略の現状と方向性を学ぶ。

<第 2 講>

概要：コミュニケーションの概念の理解。

事前,事後学習ポイント：コミュニケーションの基本的な定義、経営戦略とコミュニケーションの関係を理解する。コミュニケーションの構成要素からコミュニケーションがうまくいかない時の問題点を考える。

<第 3 講>

概要：情報の整理の仕方の理解

事前,事後学習ポイント：コミュニケーションにおいてメッセージを正しく伝えるためにはMECEの概念が大切である。MECEの概念を理解し、例題によってMECEに情報を整理する演習を行う。

<第 4 講>

概要：論理のつながりの理解

事前,事後学習ポイント：論理の飛躍を防ぐSo What /Why Soの概念を理解する。例題で論理の飛躍のチェックの方法と論理展開の方法を理解する。

<第 5 講>

概要：論理構造の概念の理解

事前,事後学習ポイント：MECE、So What /Why Soを組み合わせた論理パターンを理解する。例題によって論理の構造化の演習を行う。

<第 6 講>

概要：戦略策定のプロセスの理解

事前,事後学習ポイント：戦略の定義を理解する。戦略策定のプロセスを理解する。例題をもとに簡単なIT戦略を策定してみる。

<第 7 講>

概要：戦略分析のツールの理解

事前,事後学習ポイント：さまざまな戦略分析のツールを理解する。事例をもとに簡単な戦略分析を机上で行ってみる。

<第 8 講>

概要：ITと経営の変遷を学ぶ

事前,事後学習ポイント：ITと経営は密接に関連しあって発展、変遷してきたことを学ぶ。

<第 9 講>

概要：ITと経営戦略の関係を学ぶ

事前,事後学習ポイント：経営戦略発展の歴史を理解する。その中でITと経営戦略が互いに影響し合って発展してきたことを学ぶ。

<第 10 講>

概要：クラウドコンピューティングの概念の理解

事前,事後学習ポイント：現在進展しているクラウドコンピューティングとは何か、またその現状と方向性を学ぶ。

<第 11 講>

概要：セミ・グローバル化の概念の理解

事前,事後学習ポイント：企業のグローバル化の問題点とその克服に当たっての考え方を学ぶ。

<第 12 講>

概要：IT業界の世代交代とその意味を理解する

事前,事後学習ポイント：現在、IT業界の世代交代が進展しているが、その意味と向かっている先には何かがあるのかを学ぶ。

<第 13 講>

概要：現状のITビジネス各社の状況を理解する

事前,事後学習ポイント：ITビジネスの現状を理解し、ITビジネスはこれからどこに向かうのか、その将来像を学ぶ。

<第 14 講>

概要：ビッグデータとは何かを学ぶ

事前,事後学習ポイント：ビッグデータとは何か。これまでのデータ分析の変遷とビッグデータの可能性を学ぶ。

<第 15 講>

概要：半年間の講義全体を通して、そのポイントを確認する。

事前,事後学習ポイント：半年間の講義内容をレビュー。

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席 60%、期末試験 40%。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：卓越して優秀。

評価A (89-80点)：優秀。

評価B (79-70点)：良好。

評価C (69-60点)：普通。

評価F (59点以下)：不合格。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

再試験 あり。

■留意点

科目名 アジア経済論Ⅰ(Asia EconomyⅠ)

サブタイトル アジア・ユーラシアダイナミズムと企業戦略

担当教員 金 美徳

■講義目的

今や日本企業は、アジア市場に進出するか、アジアのヒト・モノ・カネ・情報を取り込まずしては、生き残れない。換言すれば「ビジネス=アジア」、「人生=アジア」の時代と言っても過言でない。

したがって本講義では、アジア経済の体系的な知識・理論やアジアの企業・産業・市場情報の収集・分析方法を学ぶ。また、「アジア」をキーワードにして、日本企業の戦略・営業・経営企画・ビジネスモデルや日本経済の課題を考える。さらに、アジア経済論で学んだことを「いかに就活や起業に活かせるか」シミュレーションする。

本講義のキーワードは、アジア・ユーラシアダイナミズム、アジア企業、アジア戦略、アジア情報、アジア市場、アジア消費者、アジアマーケティング、中小・ベンチャー企業のアジアへの販路拡大、アジア企業やアジア観光客の日本誘致、新興国ビジネスモデル、アジアの知恵と日本の知恵の融合、地政学的知と地政学的戦略、アジアマインド、アジアセンス。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

ビジネスマネジメント

社会力育成

グローバルビジネス

■到達目標

- ①アジアの政治外交・経済ビジネス・文化社会に関する基礎的な知識・理論を習得する。
- ②アジア発の国際情報の収集力・分析力・発信力を身に付ける。
- ③アジアの潮流・論理・視点に基づく経営戦略力やビジネスモデル構築力の向上を図る。

■講義形態

講義、ディスカッション、プレゼン

■準備学習(予習・復習等)に必要な読書またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

- ①アジア情勢やアジアビジネスに関するニュースやネット情報を調べること。
授業開始時に3~5名の学生に報告してもらう。
- ②就活を希望している、もしくは関心のある企業や業界のアジア戦略の情報を調べること。
授業開始時に2~3名の学生に報告してもらう。

■講義の概要

<第1講>

概要:アジア経済論Ⅰガイダンス

事前,事後学習ポイント:アジアに関する情報を図書館・本屋や新聞・ネットで探す

<第2講>

概要:アジア・ユーラシアダイナミズムといかに向き合うか(1)

事前,事後学習ポイント:日本の強みとアジアの強みについて調べる。

<第3講>

概要:アジア・ユーラシアダイナミズムといかに向き合うか(2)

事前,事後学習ポイント:アジアビジネスとグローバル人材について調べる。

<第4講>

概要:アジア・ユーラシアダイナミズムといかに向き合うか(3)

事前,事後学習ポイント:アジア(中央アジア、西アジア、南アジア、東アジア、東南アジア、北アジア)の概念について調べる。

<第5講>

概要:ビジネスに重要な平和に対する感受さ(1)

事前,事後学習ポイント:北東アジアの概念について調べる。

<第6講>

概要:ビジネスに重要な平和に対する感受さ(2)

事前,事後学習ポイント:北東アジアの経済と世界の経済圏について調べる。

<第7講>

概要:ビジネスに重要な平和に対する感受さ(3)

事前,事後学習ポイント:北東アジアの情勢について調べる。

<第8講>

概要:日本企業の現状と課題(1)

事前,事後学習ポイント:日本企業の実態について調べる。

<第9講>

概要:日本企業の現状と課題(2)

事前,事後学習ポイント:日本企業の課題と解決策について調べる。

<第10講>

概要:アジア市場とアジア戦略(1)

事前,事後学習ポイント:アジア経済の実態について調べる。

<第11講>

概要:アジア市場とアジア戦略(2)

事前,事後学習ポイント:日本と韓国の経済関係について調べる。

<第12講>

概要:アジア市場とアジア戦略(3)

事前,事後学習ポイント:中国とロシア、韓国とロシア、中国と韓国の経済関係について調べる。

<第13講>

概要:アジア市場とアジア戦略(4)

事前,事後学習ポイント:中国と北朝鮮、ロシアと北朝鮮、韓国と北朝鮮の経済関係について調べる。

<第14講>

概要:アジア戦略レポートのテーマ発表①

事前,事後学習ポイント:テーマ、設定理由、目次(パワーポイント1枚)を全員が発表する。

<第15講>

概要:アジア戦略レポートのテーマ発表②

事前,事後学習ポイント:テーマ、設定理由、目次(パワーポイント1枚)を全員が発表する。

■教科書

- ①『大中華圏・ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る』(寺島実郎、NHK出版、2012年)
- ②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年)
- ③『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)

■指定図書

- ①『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最新線-』(金美徳、PHP新書、2012年)
- ②『図解 韓国四大財閥わかり方』(金美徳、中経出版、2012年)
- ③『日本企業没落の真実-日本再浮上27核心-』(金美徳、中経出版、2013年)

■参考文献・参考URL / Reference List

随時、参考文献・URLの配布や紹介を行う。

■評価方法

評価は、出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の割合で行う。

- ①出席と毎回提出する講義メモを重視(35%+35%=70%)する。
- ②講義メモは、最低限の記述内容が記載されていない場合は、減点する。また、採点后、講義の最終段階で返却する。
- ③最終レポート(30%)は、A4用紙3枚以上とする。尚、図表の活用や枚数が増える場合は、高く評価する。15回の講義終了後、指定された提出期限までに提出すること。
- ④質問や意見は、講義への積極的な参加・貢献として加点する。発言者は、講義終了後に発言者リストに学籍番号と氏名を記入すること。

■評価基準

評価A+(90点以上):出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の合算点が、90%以上であること。また、最終レポートがオリジナリティーや高い問題意識があること。

評価A(89~80点):出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の合算点が、89~80%であること。

評価B(79~70点):出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の合算点が、79~70%であること。

評価C(69~60点):出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の合算点が、69~60%であること。

評価F(59点以下):出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の合算点が59%以下の場合は、不合格とする。

■履修していることが望ましい科目

グローバルビジネス系科目を積極的に履修すること。

■卒業年度生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

- ①携帯電話・パソコンは、使用を禁止する。
- ②私語、帽子着用、飲食は、禁止する。
- ③遅刻および途中退室は、厳禁とする。途中退室は、必ず入退室を記録（日付・時間・学籍番号・氏名）すること。また、大幅な減点を行う。虚偽記録をした場合は、不合格扱いとする。
- ④就職活動による欠席は、公平性を保つため欠席扱いとする。
- ⑤講義メモの不正提出は、即刻、不合格とする。友人への提出依頼や欠席したにも関わらず講義終了時に提出するなどの行為。
- ⑥最終レポートの不正提出は、不合格とする。友人のレポートのコピーや他科目のレポートを提出する行為。

科目名 アジア経済論Ⅱ(Asia EconomyⅡ)

サブタイトル

担当教員 バートル

■講義目的

時代は今、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を抽出して分析し、未来を洞察していくことが求められている。

本講義では、世界経済の牽引役として、また政治や外交面でも国際的プレゼンスの高まりを見せている中国を中心としながら、大中華圏（中国・台湾・香港・シンガポール）や中国の辺境経済圏を立体的かつ複眼的な視点で理解するための基礎知識の習得と知見の広がり、そして日本をめぐる世界潮流、日本企業のビジネス環境を「読む」力の養成を目指す。

具体的には最前線事例を取りあげながら産業界が求める問題発見能力及問題解決能力及び高度なコミュニケーション能力を備えた人材育成を念頭に置いた講義を行う。受講生は、本講義を通じて習得した知識を自分の将来に向けて活用できるようにすることが求められる。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

ビジネスマネジメント

社会人育成

グローバルビジネス

■到達目標

①中国・大中華圏・中国辺境経済圏のビジネスに関する基礎的な知識の習得。

②中国・大中華圏・中国辺境経済圏の特徴と関連企業の経営戦略を分析し、日本企業の新たな経営戦略・ビジネスモデルの立案、企業間の協力の可能性について考える。

■講義形態

講義のみ

■研修学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

日頃から中国や日中関係および大中華圏と中国辺境地域に関する時事問題を始め、自分自身が関心をもつ特定の分野や業界ないし産業および企業に関する情報を常に収集、分析、調査する習慣をつけ、その過程の中で、自分自身や社会にとって将来役立つであろう問題の発見・解決力・コミュニケーション能力を身につける努力を惜しまない。

■講義の概要

<第1講>

概要：大中華圏（1）～台湾編

台湾の歴史、文化、経済状況

事前、事後学習ポイント：中華民国、台湾、中台関係、日台関係について調べ、疑問に思ったことを講師への質問として準備すること。

<第2講>

概要：大中華圏（2）～香港編

香港の歴史、文化、華人財閥

事前、事後学習ポイント：香港の歴史、華僑、華人財閥について調べる。

<第3講>

概要：大中華圏（3）～シンガポール編

シンガポールの歴史、文化、経済状況

事前、事後学習ポイント：シンガポール、華僑、中国とシンガポール関係について調べ、疑問に思ったことを講師への質問として準備すること。

<第4講>

概要：中国の「辺境経済圏」（1）

「新シルクロード経済圏」

事前、事後学習ポイント：新疆ウイグル自治区・中央アジアについて調べ、疑問に思ったことを講師への質問として準備すること。

<第5講>

概要：中国の「辺境経済圏」（2）

「グレート・メコン経済圏」

事前、事後学習ポイント：広西チワン族自治区・雲南省・GMS、ASEANについて調べ、疑問に思ったことを講師への質問として準備すること。

<第6講>

概要：中国の「辺境経済圏」（3）

「北東アジア経済圏」

事前、事後学習ポイント：内モンゴル自治区・東北三省・ロシア極東地域・モンゴル国について調べる。

<第7講>

概要：中国の「辺境経済圏」（4）

「ヒマラヤ経済圏」

事前、事後学習ポイント：チベット自治区、チベット仏教、中印、中国ネパール関係について調べる。

<第8講>

概要：中国企業の経営戦略

国営企業と民営企業

事前、事後学習ポイント：中国の企業形態：国営企業と私有企業の違いなどを調べる。

<第9講>

概要：中国企業の対外投資の現状と課題

中国企業の海外進出の目的と成果

事前、事後学習ポイント：中国の「走出去」政策、国営企業・私営企業について調べ、疑問に思ったことを講師への質問として準備すること。

<第10講>

概要：中国の対外関係（1）～米中関係

米中戦略・経済対話

事前、事後学習ポイント：米中関係の現状と米中戦略経済対話について調べ、疑問に思ったことを講師への質問として準備すること。

<第11講>

概要：中国の対外関係（2）～中露関係

中国とロシア両国の経済・外交関係、SCO

事前、事後学習ポイント：中露関係の歴史、経済関係、SCO（上海協力機構）について調べ、疑問に思ったことを講師への質問として準備すること。

<第12講>

概要：中国の対外関係（3）中国と中東・アフリカ関係

中国と中東アフリカ関係の現状

事前、事後学習ポイント：中国と中東アフリカ関係、中国・アフリカフォーラム、中国・アラブフォーラムについて調べる。

<第13講>

概要：中国の対外関係（4）～中国と欧州関係

中国と欧州関係の現状

事前、事後学習ポイント：EU、中国と欧州（特にドイツ）の関係について調べる。

<第14講>

概要：日中経済関係の現状と課題

日中経済関係の最新状況

事前、事後学習ポイント：日中外交、政治、経済の最新動向について調べ、疑問に思ったことを講師への質問として準備すること。

<第15講>

概要：秋学期の講義内容の総まとめ

大中華圏・中国の辺境経済圏の最新動向・秋学期の総括

事前、事後学習ポイント：大中華圏・中国の辺境経済圏の最新動向、秋学期の総括（感想）について把握・準備すること。

■教科書

■指定図書

関志雄『チャイナ・アズ・ナンバールワン』（東洋経済新報社、2009年）

寺島実郎『世界を知る力』（PHP新書、2010年）

寺島実郎『世界を知る力 日本創生編』（PHP新書、2011年）

寺島実郎『大中華圏』（NHK出版、2012年）

真家陽一『中国経済の実象とゆくえ』（ジェトロ、2012年）

三井物産戦略研究所『アジアを見る眼』（共同通信社、2012年）

久恒啓一『日本—わかりやすい 図解 日本史』（PHP、2014年）

瀬口清之『日本人が中国を嫌いにないこれだけの理由』（日経BP、2014年）

杉浦松寛『日本の経済史を知る』（八千代出版、2014年）

トマ・ペケティ『21世紀の資本』（みすず書房、2014年）

宮家邦彦『語れざる中国の結末』（PHP新書、2015年）

■参考文献・参考URL / Reference List

以下の機関の発表資料や情報を随時確認すること。

日本外務省HP：http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/index.html

日本貿易振興機構HP：http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/

日本財務省貿易統計HP : <http://www.customs.go.jp/toukei/info/>
 日本銀行HP : <http://www.boj.or.jp/statistics/index.htm/>
 (独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構<http://www.jogmec.go.jp/>
 (株) 三井物産戦略研究所<http://mitsui.mgssi.com/>
 東京財団<http://www.tkfd.or.jp/>
 キヤノングローバル戦略研究所<http://www.canon-igs.org/>
 上記の他、「東洋経済」「エコノミスト」「日経BPオンライン」等雑誌類も常時チェックすること。

■評価方法

出席(30点)、毎回提出の講義メモ(30点)、最終レポート(30点)、講義内の質問・意見(10点)により行う。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 絶対評価 出席(30点)、毎回提出する講義メモ(30点)、最終レポート(30点)、講義内の質問・意見(10点)の100点満点のうち、評価点が90点以上。

評価A (89~80点) : 出席(30点)、毎回提出する講義メモ(30点)、最終レポート(30点)、講義内の質問・意見(10点)の100点満点のうち、評価点が89点~80点の間。

評価B (79~70点) : 出席(30点)、毎回提出する講義メモ(30点)、最終レポート(30点)、講義内の質問・意見(10点)の100点満点のうち、評価点が79点~70点の間。

評価C (69~60点) : 出席(30点)、毎回提出する講義メモ(30点)、最終レポート(30点)、講義内の質問・意見(10点)の100点満点のうち、評価点が69点~60点の間。

評価F (59点以下) : 出席(30点)、毎回提出する講義メモ(30点)、最終レポート(30点)、講義内の質問・意見(10点)の100点満点のうち、評価点が59点以下。

■履修していることが望ましい科目

【アジア経済論】Ⅰ
 【中国経済論】
 【韓国経済論】
 【特別講座】など、グローバルビジネス関連科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しないが、外部講師を招いての講演会実施ならびに履修者に有益な外部セミナー等は随時紹介する。

■留意点

- ①講義中のルール順守の徹底。
- ②推薦された書籍や情報等は必ずチェックすること。
- ③レポート等の提出期限を必ず順守すること。
- ④成績評価について
 出席と毎回提出する講義メモを重視(30点+30点=60点)する。最終レポート(30点)は、A4用紙3枚以内。講義内の質問・意見(10点)は、講義への積極的な参加・貢献として評価し、発言回数に基づいて1点~10点の評価を加える。講義メモは、講義内容を理解し、かつ独自の問題意識を持ち、問題解決へ向けての取り組み姿勢が顕著に表れているかを重視する。採点后、最後に返却する。

科目名 アメリカ経済論 (America Economy)

サブタイトル 映像資料からアメリカの「今」を知る

担当教員 千原 則和

■講義目的

本講義の目的は、国内外の良質な映像資料を通じて、世界経済を牽引（あるいは翻弄）しているアメリカ経済を把握することにある。「100年に一度しか起こらない大事件」と称された金融危機を引き起こしてもなお、世界最大の経済大国として君臨するアメリカとは一体どういう国なのか。最新事例を通じて、アメリカ経済の強靱性と脆弱性を明らかにする。

本講義では、現在のアメリカで起こっている様々な問題をより深く理解するために、映像資料（国内外のドキュメンタリー番組）や報道資料（新聞、ニュース番組）を積極的に活用する。「リーマンショック（金融危機）」「オバマケア（医療保険改革）」「1%対99%（格差社会）」といった最新のトピックを取り上げ、めまぐるしく変化するアメリカ経済の動向を把握しつつ、激変する世界潮流や産業社会の変容を浮き彫りにしていく。

■講義分類

ビジネス環境理解、社会力養成、グローバルビジネス

■到達目標

1. 最新事例を通じてアメリカ経済の諸問題を理解し、問題解決のための実践的知識を獲得する
2. アメリカの価値観・倫理観を理解し、アメリカの企業や消費者の行動原理を把握する
3. アメリカ経済の「今」を知るためのツールを使いこなせるようにする

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業内容を整理・理解するために、授業後に、視聴した映像資料の内容・要点をまとめたPDFファイルを配布する。スマートフォン、タブレットなどの携帯端末で見られるように作成しているので、授業後に、空いている時間をうまく利用して、復習をしてもらいたい。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：アメリカの「今」を知るためのイントロダクション

事前,事後学習ポイント：GDP平均、雇用統計、F R B、ドル円相場

<第 2 講>

概要：【アメリカの「企業」を知る】 ①アメリカを築いた企業家たち（19世紀後半～20世紀初頭）

事前,事後学習ポイント：資本主義、熾烈な競争、ロックフェラー、カーネギー、モルガン

<第 3 講>

概要：【アメリカの「企業」を知る】 ②第二次世界大戦後のアメリカ企業（20世紀中葉）

事前,事後学習ポイント：寡占企業、自動車産業、メディア戦略、企業の海外進出

<第 4 講>

概要：【アメリカの「企業」を知る】 ③自動車産業の危機（20世紀後半～21世紀初頭）

事前,事後学習ポイント：GM、フォード、クライスラー、日米貿易摩擦、日本車

<第 5 講>

概要：【アメリカの「企業」を知る】 ④アメリカ経済を牽引するIT産業（20世紀末～現在）

事前,事後学習ポイント：IT革命、ソフトウェア、携帯電話、インターネット

<第 6 講>

概要：【アメリカ発の「金融危機」を知る】 ①金融危機はなぜ起こったか

事前,事後学習ポイント：サブプライムローン、住宅バブル、金融商品、リーマンショック

<第 7 講>

概要：【アメリカ発の「金融危機」を知る】 ②巨大金融機関の暴走と年金基金

事前,事後学習ポイント：投資銀行、金融商品、サブプライムローン、機関投資家

<第 8 講>

概要：【アメリカ発の「金融危機」を知る】 ③アメリカの金融政策の問題点

事前,事後学習ポイント：F R B（連邦制度準備理事会）、財務省、金融緩和、バブル景気

<第 9 講>

概要：【アメリカ発の「金融危機」を知る】 ④金融危機の世界経済への影響

事前,事後学習ポイント：世界同時不況、世界的な信用収縮、欧州債務危機（ギリシャ危機）

機)

<第 10 講>

概要：【アメリカの「今」を知る】 ①経済：アメリカのマネーが世界経済を翻弄する

事前,事後学習ポイント：量的緩和、ゼロ金利、出口戦略、新興国からの資金引き揚げ

<第 11 講>

概要：【アメリカの「今」を知る】 ②IT産業：世界をリードする企業家たち

事前,事後学習ポイント：ビル・ゲイツ、スティーブ・ジョブズ

<第 12 講>

概要：【アメリカの「今」を知る】 ③ネット社会：ネットビジネスの功罪

事前,事後学習ポイント：SNS、検索システム、個人情報流出、電子図書館

<第 13 講>

概要：【アメリカの「今」を知る】 ④貧困・格差：世界最大の経済大国で深刻化する貧困・格差問題

事前,事後学習ポイント：1%対99%、中産階級の没落、生活保護、人種格差

<第 14 講>

概要：【アメリカの「今」を知る】 ⑤医療：オバマ政権の医療保険改革

事前,事後学習ポイント：オバマケア、無保険者、財政問題、医療保険引取所

<第 15 講>

概要：アメリカ経済の現状・問題点の把握

事前,事後学習ポイント：アメリカ経済の現状・問題点の把握

■教科書

なし

■指定図書

授業時に提示する

■参考文献・参考URL / Reference List

授業時または授業後に提示する

■評価方法

定期試験（80%）、授業内の課題の取り組み・出席など（20%）

■評価基準

評価A+（90点以上）：評価方法配分の要素を合算した100%を100点に換算し、90～100点

評価A（89～80点）：評価方法配分の要素を合算した100%を100点に換算し、80～89点

評価B（79～70点）：評価方法配分の要素を合算した100%を100点に換算し、70～79点

評価C（69～60点）：評価方法配分の要素を合算した100%を100点に換算し、60～69点

評価F（59点以下）：評価方法配分の要素を合算した100%を100点に換算し、59点以下

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業後に、視聴した映像資料の内容・要点をまとめたPDFファイルを配布する。授業後に、このPDFファイルを積極的に学習に活用してもらいたい。
履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 English Expression I (English Expression I)

サブタイトル グローバルビジネス、地域ビジネスで志を実現するために必要な英語力養成

担当教員 中村(そ)、石川、ローズ、太田、市川、加藤、尾崎

■講義目的

経営と情報に関係した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効率的なコミュニケーションを図れるようになる。

最初は自己紹介、自由時間の過ごし方と好きなこと、自分の長所や短所、成功体験、失敗談などを語るところから始め、スモールトークや日常会話を円滑に行えるようにする。徐々に、アルバイトやボランティア活動、自分の住んでいる町の特徴などについて話す練習、ものごとの起源やプロセスを説明する練習に移り、英語力の社会的な幅を広げて行きたい。また、単なる和文英訳的な会話をするに終わらず、なんらかの調査や研究を行って自分の考えをまとめ、それを英語で学生同士話し合ったり、プレゼンテーションとして発表する場も設ける予定である。グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーションなどの活動を重視し、産業社会の最新事例や問題解決シミュレーションなども積極的に取り入れる。大学の学びでは、学習したものを自分なりにまとめて、自分の将来に向けて活用できるようになることを必須である。

経営と情報に関係した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効率的なコミュニケーションを図れるようになる。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

経営と情報に関係した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効率的なコミュニケーションを図れるようになる。以下がこの授業のゴールとなる。

- (1) 自分たちの意見、考え方、アイデアをしっかりとした形で伝え、提案できる = 発信
- (2) 相手からの発信を正確に理解し、状況に応じた的確な処理が行える = 受信
- (3) 自分が必要な情報(WEB/論文をはじめとする資料や文献など)を検索し、内容を読み取って利用できる = 情報理解
- (4) 社会の課題をビジネスの現場で解決していく力の一つとして英語でのコミュニケーション能力を身につける

■講義形態

講義
グループディスカッション
グループワーク
プレゼンテーション

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

学期中の土曜日を1回か2回程度使用し、外部組織と連携したフィールドワーク、またそれに関連した授業を行う場合がある。

■講義の概要

<第1講>

概要: <第1・2講>

自己紹介 ~~~ でも普通の自己紹介では印象に残りません。アピール度を増すためのちょっとしたスライスを加えましょう。

以下のモデル文を練習し、お互い実際に自己紹介、他人紹介をします。

以下の英文に用いられている語を事前学習しておきましょう。

How do you do? Nice to meet you.

My name is Taro Tama and I am from Hachioji, Tokyo.

Please call me Taro.

I am 18 years old. There are 5 people in my family: my father, my mother, my brother, my sister and me. I have a pet dog whose name is Pochi.

In my free time, I enjoy listening to Japanese pops and playing football (soccer).

My favorite foods are Korean barbecue (焼肉) and Pizza.

I'm a big fan of Ronaldo and SMAP.

My favorite school subject (科目) is history, and my least favorite is science.

In English Expression, I would like to talk with my friends and

EE teachers in as much as possible and study how to make a presentation in English.

(In Tama University, I would like to study marketing and accounting (会計) and join the soccer club.)

In the future, (After graduating from Tama University,) my goal is to set up a travel agency (旅行社を設立する) .

I also have a dream of building the largest theme park in the world.

(世界で一番大きいテーマパークを建設する)

I look forward to studying with you at Tama University.

事前,事後学習ポイント: 上記の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第2講>

概要: 上記第1講を続ける

事前,事後学習ポイント: 上記の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第3講>

概要: 以下の教室英語表現を学び、英語で英語を学ぶ世界を体験すると同時に、下記の内容の中を用いられている表現文型を学びます。以下の英語表現を事前学習しておきましょう。

- 1) Excuse me? / Pardon? / Sorry?
- 2) How do you say _____ in English?
- 3) How do I spell _____ ?
- 4) What does _____ mean?
- 5) How do you pronounce this/?that
- 6) Could you repeat that please? / Could you say that again? / What did you say?
- 7) I'm not sure what to do. / Could you tell me what to do?
- 8) I have a question. / Could I ask a question?
- 9) Could I go to the restroom?
- 10) I don't understand.
- 11) I don't know.
- 12) Do you have a partner?
- 13) Let's be partners.
- 14) Could you please explain _____ ?
- 15) Could you please slow down?
- 16) Could you please speak up?
- 17) I'm sorry I'm late.
- 18) I overslept.
- 19) I missed the train.
- 20) The train/bus was delayed.
- 21) I was sick. / I had to go to the hospital.
- 22) What is the assignment/homework?
- 23) When is the assignment/homework due?

事前,事後学習ポイント: 上記の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第4講>

概要: スモールトークは、人間関係を円滑に運び、スムーズなコミュニケーションを行うための「世間話」です。世間話と言っても、してもしなくてもよいからいしゃやりではなく、その人の社会での人間力を左右するものです。上手にスモールトークができることはビジネスパーソンの必須素養の一つでもあり、相手がどこの国の人であれ、お互いの理解と親密さを深め、ひいてはビジネスを成功させる重要な要素でもあるのです。

基礎的なスモールトーク表現を学び、さらに初対面の相手にいい印象を与える練習をします。

スモールトークに必要な英語表現を調べ、単語リストを作り事前学習しておくこと。

事前,事後学習ポイント: 上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第5講>

概要: スモールトークの話題としては、天気、旅行、スポーツ、音楽、映画、芸術、などが無難だと言われてます。これらの話題について話す練習を取り入れ、さらにスモールトーク力を磨きます。

上記の話題に類出の単語を事前に調べ学習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第 6 講>

概要：あなたの「イけている」ところ「イけていない」ところ = 長所と短所を語る
自分、もしくは他人の性格を描写する表現を学び、人間の内面、長所と短所を語る練習をします。これは将来、英語で面接を受ける時の準備でもあります。またそこから発展させて、同じく定番質問である Tell me about yourself. に対する受け答えなど、英語の面接に必要な基礎的表現を同時に学びます。

面接でよく用いられる単語を事前に調べ、予習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第 7 講>

概要：上記第6講の内容を続ける

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第 8 講>

概要：あなたが犯人の目撃者になってしまったら、あなたが英語テレビショッピングで商品紹介をするなら、という想定で人間の外形描写、モノの形状・機能・特徴描写の表現を学びます。以下のような表現を取り上げます。上記のトピックでよく用いられる単語を事前に調べ、予習しておくこと。

Introduce your new products

Today I take great pleasure in introducing our new electric fan called Ecofan. Let me tell you about some of the features of this new product.....

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第 9 講>

概要：第8講の内容を続ける

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第 10 講>

概要：自由時間の過ごし方とあなたが好きなもの、こだわっているものを語ります。
単に語るだけでなく、自分のこだわりや、自分が好きなものの魅力を他の人にもわかりやすく語るコツと表現を学びます。インターネット上のブログやTwitter, Facebookなどで自分のことについて発信することを見据えた授業活動です。上記のトピックでよく用いられる単語を事前に調べ、予習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第 11 講>

概要：第10講の内容を続ける

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第 12 講>

概要：映画、ドラマ、アニメーション、小説、などストーリーのあるものの内容（あらすじ）を語る練習をします。これは自分は知っているけれど、他人は知らないストーリーをわかりやすく、かつ魅力的に語る練習です。上記のトピックでよく用いられる単語を事前に調べ、予習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第 13 講>

概要：ものごとの手順を英語で説明する練習をします。英語で指示を出す、指示を受ける、という状況に的確に対処できるようになるための学習項目です。PCへのソフトのインストール、ソフトの使用方法、トラブルシューティングなどが主要なものになりますが、PC関係には特にこだわらず、学生から要望を集めて授業内容を柔軟に決めていきます。料理やお菓子の作り方、日常生活のちょっとしたアイデア技、短時間テックなどみなさんからの提案を歓迎します。上記のトピックで用いられる単語を事前に調べ、予習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記の英トピックに関連して配布される教材の語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われるテストに備える。

<第 14 講>

概要：総まとめのスピーチテスト、および期末試験

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われるテストに備える。

<第 15 講>

概要：総まとめのスピーチテスト、および期末試験

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。

■教科書

授業内で指示

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席 20% 授業内小テスト 20%

宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、90点以上の場合
評価A (89~80点)：出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、80点から89点の場合
評価B (79~70点)：出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、70点から79点の場合
評価C (69~60点)：出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、60点から69点の場合
評価F (59点以下)：出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、59点以下の場合

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

指定されたクラスに履修登録をして出席すること。

なお、E-ラーニングオプション、およびTOEICオプションで English Expression I または II の単位を取得しようとする学生に対しては、学期初めに T-next で説明を掲示するのでそれをよく読んで指示にしたがうこと。E-ラーニングオプションとTOEICオプションは原則として再履修の学生のみを対象としている。年度初めのオリエンテーションでプレースメントテストを行い、能力別クラス編成を行う。

科目名 English ExpressionII(English Expression II)

サブタイトル グローバルビジネス、地域ビジネスで志を実現するために必要な英語力養成

担当教員 中村(そ)、石川、ローズ、太田、市川、加藤、尾崎

■講義目的

経営と情報に関係した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効果的なコミュニケーションを図れるようになる。

最初は自己紹介、自由時間の過ごし方と好きなこと、自分の長所や短所、成功体験、失敗談などを語るところから始め、スモートークや日常会話を円滑に行えるようにする。徐々に、アルバイトやボランティア活動、自分の住んでいる町の特徴などについて話す練習、ものごとの起源やプロセスを説明する練習に移り、英語力の社会的な幅を広げて行きたい。また、単なる和文英訳的な会話をすることに終わらず、なんらかの調査や研究を行って自分の考えをまとめ、それを英語で学生同士話し合ったり、プレゼンテーションとして発表する場も設ける予定である。グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーションなどの活動を重視し、産業社会の最新事例や問題解決シミュレーションなども積極的に取り入れる。大学の学びでは、学習したものを自分なりにまとめて、自分の将来に向けて活用できるようになることを必須である。

経営と情報に関係した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効果的なコミュニケーションを図れるようになる。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

経営と情報に関係した様々な社会的活動に英語をどう活かしていくかを常に追求し、自分をとりまく情報を的確に処理しながら、自分の考えやアイデアを正しく伝えて、相手との効果的なコミュニケーションを図れるようになる。以下がこの授業のゴールとなる。

- (1) 自分のたごの意見、考え方、アイデアをしっかりとした形で伝え、提案できる = 発信
- (2) 相手からの発信を正確に理解し、状況に応じた的確な処理が行える = 受信
- (3) 自分が必要な情報(WEB/論文をはじめとする資料や文献など)を検索し、内容を読め取って利用できる = 情報理解
- (4) 社会の課題をビジネスの現場で解決していく力の一つとして英語でのコミュニケーション能力を身につける

■講義形態

講義
グループディスカッション
グループワーク
プレゼンテーション

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる具体的な学習内容

学期中の土曜日を1回か2回程度使用し、外部組織と連携したフィールドワーク、またそれに関連した授業を行う場合がある。

■講義の概要

<第1講>

概要：今までの成功体験と恥ずかしい失敗談

自分の経験を感想を交えて生き生きと英語で語る練習をします。この練習では、英語の時に感想・感情表現を中心に学びます。自分や経験談・エピソードを、ユーモアも交えて魅力的に語れるようにすると同時に、他人の経験談・エピソードを聞いたときに、ふざけた意味ではなく上手に「突っ込んで」場を盛り上げるテクニックも身につけます。上記トピックに関するテキスト、プリントにある英語表現を事前に学習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第2講>

概要：第1講の続きとして、次は一番遅かったこと、腹が立ったことを語りますが、今度は個人的なことではなく、自分が客として利用した会社やお店の顧客サービスについて語ります。これにより、エピソードを語る技術に加えて、基礎的な顧客サービスに関する英語表現も習得することが出来ます。上記トピックに関するテキスト、プリントにある英語表現を事前に学習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第3講>

概要：慣用語やその他の事物の起源、使用プロセス、理由を語るプチプレゼンテーシ

ン。
何らかのビジュアル(現物も含めて)を効果的に見せながら上記を人前で語る練習をします。プレゼンテーションに必要な英語表現だけでなく、姿勢、アイコンタクト、声の調子、ジェスチャー、聴衆をひきつけるその他の工夫など付随した技術も学びます。上記トピックに関するテキスト、プリントにある英語表現を事前に学習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第4講>

概要：あなたの住んでいる(またはあふさとの)町について語ります。ただ単に説明するだけでなく、市民としての目線をもって、その町の歴史や風土、行政(サービス)、産業、住民の性質、その他いろいろの特徴を語ります。ちょうどテレビの旅行紀行番組を作るような気持ちになって自分の町を語ります。次に、もし自分が町を改善、開発、PRするとしたら、またビジネスを始めるとしたらどのようにするか(ビジネスチャンスの発見)について考え小さいプレゼンテーションを行います。

(例、あなたの住んでいる町に1軒屋を作るとしたらどんな店？

住居はどんな会社かどんな商品、サービスを提供してくれることを望んでいる？住民はどんな行政サービスを望んでいる？

上記トピックに関するテキスト、プリントにある英語表現を事前に学習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第5講>

概要：第5講の内容を続ける

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第6講>

概要：ココロVSペニ 明治VS森永 カルピ VS 湖池屋
永遠のライバル対決に終止符を打つのはキミだ！ ラインドレーステイニングで勝負！
自分の職業を英語で表現する練習から始め、そのあと、アンケート作成、実施、集計、販売計画立案など一連の販売促進活動をシミュレーションし、必要な英語表現
上記トピックに関するテキスト、プリントにある英語表現を事前に学習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第7講>

概要：上記第6講の内容を続ける

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第8講>

概要：英語プレゼンテーションに必要な英語表現やジェスチャー、アイコンタクトなどの非言語表現を学びます。

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第9講>

概要：英語でのインタビュー、フィールドワーク、ミーティングに必要な英語表現の習得
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第10講>

概要：アイスクリーム新商品開発。
市場リサーチと分析、アンケート作成と実施、結果分析、企業見学、新製品開発、プレゼンテーション、コマニシャル(キャッチコピー)作成、販売促進戦略作成、などの一連の活動を英語で行います。
上記トピックに関するテキスト、プリントにある英語表現を事前に学習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第11講>

概要：第10講の内容を続ける

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の

授業で行われる小テストに備える。

<第 12 講>

概要：コンビニエンスストアにはよく行きますか？

～～～大手のコンビニエンスストアを比較して、それぞれの特徴について考えてみましょう。

その結果を友達と話し合い、プレゼンテーションにまとめてみましょう。誰も気づかなかったコンビニエンスストアの秘密、発見できるかも知れません。上記トピックに関するテキスト、プリントにある英語表現を事前に学習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第 13 講>

概要：最近、流行しているものについて調べ、それが流行した原因から現在の状況に至るまでのプロセスを説明しましょう。自分なりの分析や、ユニークな視点なども加えるように心がけてください。また、成功している外食産業、旅行代理店、お肉屋さん、美容院、などなど、そしてそれらのお店の独自のアイデアを調べ、その秘訣を英語で話したり、書いたりしてみましょう。

上記トピックに関するテキスト、プリントにある英語表現を事前に学習しておくこと。

事前、事後学習ポイント：上記の英トピックに関連して配布される教材の語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われるテストに備える。

<第 14 講>

概要：総まとめのスピーチテスト、および期末試験

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われるテストに備える。

<第 15 講>

概要：総まとめのスピーチテスト、および期末試験

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。

■教科書

授業内で指示

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席 20% 授業内小テスト 20%
宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、90点以上の場合
評価A (89～80点)：出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、80点から89点の場合
評価B (79～70点)：出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、70点から79点の場合
評価C (69～60点)：出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、60点から69点の場合
評価F (59点以下)：出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、59点以下の場合

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

指定されたクラスに履修登録をして出席すること。

なお、E-ラーニングオプション、およびTOEICオプションでEnglish Expression IまたはIIの単位を取得しようとする学生に対しては、学期初めにT-nextで説明を掲示するのでそれをよく読んで指示にしたがうこと。E-ラーニングオプションとTOEICオプションは原則として再履修の学生のみを対象としている。

科目名 インターンシップ I・II (Internship I・II)

サブタイトル 職業体験

担当教員 浜田 正幸

■講義目的

実際に社会で働く会社の人たちとの職業体験を通じて、「働く」ことの実感を持つ。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

- ① 社会人としての基本的な行動ができるようになる（マナー、報連相）
- ② 朝から夜まで、一つの仕事に集中して取り組むことができ、毎日それが続けられる
- ③ 社会人として認められる、最低限の仕事のレベルに到達する

■講義形態

その他（インターン先の会社において、与えられた課題の遂行）

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

春学期に実施されるキャリア支援講座の次の回に出席しなければならない。

- ① オリエンテーション（第1回目）
- ② マナー講座
- ③ 履歴書の書き方

■講義の概要

<第1講>

概要：インターンシップ説明会

事前、事後学習ポイント：インターンシップの内容を調べてくる

<第2講>

概要：キャリア支援講座「マナー講座」に出席

事前、事後学習ポイント：社会人マナーや身だしなみについて、事前に調べておく

<第3講>

概要：キャリア支援講座「履歴書の書き方」に出席

事前、事後学習ポイント：履歴書の書き方を調べておく

<第4講>

概要：インターンシップ先の会社で実習

事前、事後学習ポイント：インターンシップの内容について、その日の日報作成。

<第5講>

概要：インターンシップ先の会社で実習

事前、事後学習ポイント：インターンシップの内容について、その日の日報作成。

<第6講>

概要：インターンシップ先の会社で実習

事前、事後学習ポイント：インターンシップの内容について、その日の日報作成。

<第7講>

概要：インターンシップ先の会社で実習

事前、事後学習ポイント：インターンシップの内容について、その日の日報作成。

<第8講>

概要：インターンシップ先の会社で実習

事前、事後学習ポイント：インターンシップの内容について、その日の日報作成。

<第9講>

概要：インターンシップ先の会社で実習

事前、事後学習ポイント：インターンシップの内容について、その日の日報作成。

<第10講>

概要：インターンシップ先の会社で実習

事前、事後学習ポイント：インターンシップの内容について、その日の日報作成。

<第11講>

概要：インターンシップ先の会社で実習

事前、事後学習ポイント：インターンシップの内容について、その日の日報作成。

<第12講>

概要：インターンシップ先の会社で実習

事前、事後学習ポイント：インターンシップの内容について、その日の日報作成。

<第13講>

概要：インターンシップ先の会社で実習

事前、事後学習ポイント：インターンシップの内容について、その日の日報作成。

<第14講>

概要：インターンシップ・レポートの作成

事前、事後学習ポイント：大学で定められた「インターンシップ・レポート」を作成し、提出する。

<第15講>

概要：インターンシップ報告会への出席

事前、事後学習ポイント：報告資料の事前作成

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

インターンシップ先の会社の評価と講座への参加を総合的に評価する

■評価基準

評価A+（90点以上）：キャリア支援講座、インターンシップ報告会など、すべての説明会や講座に出席していること。インターンシップに無遅刻無欠席であること インターンシップ先の評価を重視する。

評価A（89～80点）：キャリア支援講座、インターンシップ報告会など、すべての説明会や講座に出席していること。インターンシップに無遅刻無欠席であること インターンシップ先の評価を重視する。

評価B（79～70点）：キャリア支援講座、インターンシップ報告会など、すべての説明会や講座に出席していること。インターンシップに無遅刻無欠席であること インターンシップ先の評価を重視する。

評価C（69～60点）：キャリア支援講座、インターンシップ報告会など、すべての説明会や講座に出席していること。インターンシップに無遅刻無欠席であること インターンシップ先の評価を重視する。

評価F（59点以下）：要件を満たしていない場合

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

科目名 Webサービス開発(Web Service Building)

サブタイトル

担当教員 彩藤 ひろみ

■講義目的

Webデザインを習得した後、Webプログラミングの前段になる科目として、Webサービス開発を学んでもらう。世の中に散らばる様々なデータを自動で(プログラミングで)集めてきて、使いやすい形にまとめる。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

XML形式のデータ構造が理解できること
応用Webプログラミングが出来るようになること
クラウドコンピュータの概念を理解し、自由に使えるような自信をつけること。
Webサービス開発の新しい提案ができること。

■講義形態

講義 + PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

WEBデザインⅠ、Ⅱの復習。もし受講していない者は、オンラインや図書館資料などで、WEBデザインの基礎 (HTMLファイルとCSSの理解) まで終わらせること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：世の中に散らばる様々なデータを探す
データ形式 (XML,jsonなど) の違いをみる

事前,事後学習ポイント：WEBサービス開発という言葉を検索してみる
WEBデザイン (1および2の範囲) を復習しておく。

<第 2 講>

概要：クライアントスクリプトjQueryをまず使ってみる

事前,事後学習ポイント：jQueryについて調べておく

<第 3 講>

概要：APIに関する基礎知識

事前,事後学習ポイント：APIとは何か調べる。

面白いサイトを探す。

<第 4 講>

概要：Googleの提供するAPI

事前,事後学習ポイント：Googleのサービスを調べておく

<第 5 講>

概要：Google Maps APIを使う

事前,事後学習ポイント：Google Mapについて調べておく

<第 6 講>

概要：Graphを使う

事前,事後学習ポイント：GoogleAPIについて復習しておく

<第 7 講>

概要：ストリートビューの利用

事前,事後学習ポイント：ストリートビューでいろいろな街を観察しておく

<第 8 講>

概要：画像SNSが提供しているAPIを利用する

事前,事後学習ポイント：前回の授業の復習をしておく

<第 9 講>

概要：中間課題作業日

事前,事後学習ポイント：これまでの講義の復習と既存WEBサービスの収集

<第 10 講>

概要：中間作品発表日

事前,事後学習ポイント：作品制作

<第 11 講>

概要：iTunes APIの利用

事前,事後学習ポイント：itunesでできることを調べておく

<第 12 講>

概要：Amazon APIの利用

事前,事後学習ポイント：Amazonでできることを調べておく

<第 13 講>

概要：作品準備作業日

事前,事後学習ポイント：2名以内のメンバーによる新しいWEBサービスの提案準備
<第 14 講>

概要：最終作品発表会

事前,事後学習ポイント：2人以内のメンバーで新しいWEBサービスを開発する。アイデアだけでなく、実際に動くものになるよう努力する
<第 15 講>

概要：全講義の復習とまとめ

事前,事後学習ポイント：全講義の復習とまとめ

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

<http://pub.edu.tama.ac.jp/hiro/> (学内からのみ参照可能)

■評価方法

出席 (10%)、授業内レポート (30%)、作品 (20%)、試験 (40%)

■評価基準

評価A+ (90点以上)：基準A+先進的なWebサービス開発の提案

評価A (89~80点)：基準B+新しい考え方への挑戦

評価B (79~70点)：基準C+Webサービスの新しい提案

評価C (69~60点)：Webサービス開発の基本の理解

評価F (59点以下)：評価結果59点以下

■履修していることが望ましい科目

WebデザインⅠまたはWebデザインⅡ。

絶対ではないが、事前履修が強く推奨される。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

原則として、3年次からの履修を想定している。

2年次生で履修希望する者は、事前にレポート提出による理解度試験 (Webデザイン、Webプログラミング) に合格する必要があるため、相談にくること。

科目名 WebデザインI(Web Design I)

サブタイトル

担当教員 齋藤 S.裕美

■講義目的

Webデザインでは、HTMLおよびCSSを用いて中級レベルのWebサイトを自分の手でつくりあげてを最終目標とする。演習を通じて、Webページを記述するためのマークアップ言語のひとつであるHTMLとCSSの記述方法、それぞれの特徴と使い方を習得し、あわせてWebページのデザインに関する基礎的な知識およびWebサイトの管理運営に関して必要な知識を身につける。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

HTML5とCSSを用いたWebサイト構築技術の習得およびWebページのデザインに関する基礎的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各講を受講するにあたり、前講までの学習内容を理解しておくこと。ほぼ毎講課題を出すので、その課題作成を通じてHTMLとCSSの記述方法について必ず復習すること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：HTMLの構造

事前,事後学習ポイント：課題を作成し、HTMLの基本構造、HTMLタグの使い方を理解する。

<第 2 講>

概要：Webページのレイアウトと構成要素

事前,事後学習ポイント：課題を作成し、CSSの働き、CSSの記述方法、HTMLとCSSの関係を理解する。

<第 3 講>

概要：トップページの作成

事前,事後学習ポイント：課題を作成し、各ボックス内の表示を変化させ、ボックスモデルを理解する。

<第 4 講>

概要：色彩設計

事前,事後学習ポイント：課題を作成し、CSSによる色の指定方法、色の特徴や働きを理解する。

<第 5 講>

概要：フォントの特徴

事前,事後学習ポイント：課題を作成し、CSSによるフォントの指定、フォントやポイント数による印象の違いなどを理解する。

<第 6 講>

概要：画像の取扱い

事前,事後学習ポイント：課題を作成し、HTMLによる画像の挿入方法、CSSによる背景画像の指定方法、ファイル形式による情報量や表示の違い、画像の大きさによる印象の違いなどを理解する。

<第 7 講>

概要：写真の取扱い

事前,事後学習ポイント：各自の課題で使用する写真を撮影し、構図の大切さや視覚度などについて理解する。

<第 8 講>

概要：テーブルの取り扱い

事前,事後学習ポイント：課題を作成し、HTMLを用いたテーブル作成の方法、グリッドレイアウトの効果などを理解する。

<第 9 講>

概要：Webのアクセシビリティ

事前,事後学習ポイント：課題を作成し、色や画像、フォントなどによって使いやすさ・使いにくさが左右されることを理解する。

<第 10 講>

概要：ファイルのアップロードと著作権

事前,事後学習ポイント：課題を作成し、リンクの記述、ファイルの参照方法を理解する。

<第 11 講>

概要：課題制作

事前,事後学習ポイント：各グループ内で相談し、適宜課題作成を進めること。

<第 12 講>

概要：課題制作

事前,事後学習ポイント：各グループ内で相談し、適宜課題作成を進めること。

<第 13 講>

概要：課題制作

事前,事後学習ポイント：各グループ内で相談し、適宜課題作成を進めること。

<第 14 講>

概要：課題制作

事前,事後学習ポイント：各グループ内で相談し、適宜課題作成を進めること。

<第 15 講>

概要：課題の相互評価

事前,事後学習ポイント：Webサイトのアップロードをしておくこと。

■教科書

株式会社アソク著 『HTML5&CSS3辞典』 翔泳社

■指定図書

赤間公広他 『HTML5+CSS3の新しい教科書 基礎から覚える、深く理解できる』 エムティエヌコーポレーション

■参考文献・参考URL / Reference List

エビコム著 『HTML5&CSS3デザインブック』 ソジム

■評価方法

課題作品40%、期末試験45%、出席状況15%を基本とし、授業への参加態度などを加味して総合的に評価する。

作品は、次の3点を中心に評価する。

- (1)技術の基本を理解しているか。
- (2)デザイン的に見所のある作品か(内容の深さ・表現の美しさ)。
- (3)著作権に配慮しているか。

また、期末試験は、次の2点を中心に評価する。

- (1)Webデザインに関わる基礎知識を正しく理解しているか。
- (2)HTML、CSSについて基本的な使い方を理解しているか。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容について十分に理解し、評価方法に示した5つの観点全てを満たしたWebページを作成する知識と技能がある。

評価A (89～80点)：講義内容について理解し、評価方法に示した5つの観点のうちいずれか4つ以上を満たしたWebページを作成する知識と技能がある。

評価B (79～70点)：講義内容について理解し、評価方法に示した5つの観点のうちいずれか3つ以上を満たしたWebページを作成する知識と技能がある。

評価C (69～60点)：講義内容について理解し、評価方法に示した5つの観点のうちいずれか2つ以上を満たしたWebページを作成する知識と技能がある。

評価F (59点以下)：講義内容について著しく理解が不足している。

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する。

但し、最終課題を提出していない履修生、期末試験を受験していない履修生、出席回数が3分の2以上に達していない履修生に対しては実施しない。

■留意点

第1講・第2講において実習を行うためのソフトウェアや各種設定についての説明を行うので、履修希望者は第1講・第2講に必ず出席すること(第1講・第2講以外では説明しない)。

積み重ねが大切な授業であるから、途中で欠席しないこと。

科目名 WebデザインII (Web Design II)

サブタイトル HTML/CSS/ j QueryによるWEBデザイン

担当教員 彩藤 ひろみ

■講義目的

html,CSSといったWebデザインの基本を1で学んだ後、クライアントサイドのWebプログラミングである、JavaScriptとそのライブラリであるjQueryについて基礎的なことを学ぶ。応用としては、次の学期に用意されているWebサービス開発やWebプログラミングで学ぶことを推奨する。

■講義分類

ビジネス創造
ビジネスICT

■到達目標

Webとプログラミング言語 (JavaScript)との関係について学ぶ。自由にホームページを作成できるような技術力を身につける。サーバーとの関係についても理解を深め、セキュリティについても関心を持つようになる。

■講義形態

講義 + PR

■準履修学習 (学習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ホームページを巡回し、よいデザイン、惹かれるデザインをもつアドレスをメモしておく。普段から、広告、宣伝画面に興味をもって観察しておく。

■講義の概要

<第 1 講>

概要: HTMLとCSSの復習

事前,事後学習ポイント: Webデザイン1で勉強した範囲を復習しておく。

<第 2 講>

概要: JavaScript体験

事前,事後学習ポイント: HTMLとCSSの関係をきちんと把握しておく。

<第 3 講>

概要: j Queryの導入体験

事前,事後学習ポイント: HTMLとCSSとjavascriptの役割を復習しておく。

<第 4 講>

概要: googleサービスの利用

事前,事後学習ポイント: googleにあるサービスにどのような種類があるか、調べておく。

<第 5 講>

概要: 復習と練習

事前,事後学習ポイント: これまでの授業内容を復習しておく。

<第 6 講>

概要: j Queryによるスライドショー実装

事前,事後学習ポイント: jQueryのプラグインをいろいろ調べてみる。

<第 7 講>

概要: jQuery実装のための中間課題

事前,事後学習ポイント: 中間課題が出るので、そのための準備を行う

<第 8 講>

概要: 中間課題のチェックとjQuery所作の確認

事前,事後学習ポイント: jQueryの動き方の確認

<第 9 講>

概要: 画像処理の練習とスライドショーの構築

事前,事後学習ポイント: 画像を表示するタグ、表組みを表示するタグなど、HTMLの基本的なことを復習しておく。

<第 10 講>

概要: jQueryプラグインの話

事前,事後学習ポイント: jQueryの説明サイトを探し、内容を理解しておく。

<第 11 講>

概要: Googleのブログ作成サービス Blogger制作練習

事前,事後学習ポイント: googleサービスのうち、ブログ制作方法の練習

<第 12 講>

概要: Googleのブログ作成サービス Bloggerカスタマイズ

事前,事後学習ポイント: googleサービスのうち、ブログ制作方法の復習と練習

<第 13 講>

概要: Googleサイト カスタマイズ

事前,事後学習ポイント: gooleサービスのうち、サイト制作方法の復習と練習

<第 14 講>

概要: jQueryでできることあれこれ

事前,事後学習ポイント: jQueryプラグイン探索

<第 15 講>

概要: 講義全体の復習と期末試験範囲の伝達

事前,事後学習ポイント: 講義全体の復習

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

<http://pub.edu.tama.ac.jp/hiro>

授業用ホームページ (学内ネットワークのみからアクセス可能)

■評価方法

出席 (10%) + 中間作品 (10%) + 最終作品 (40%) + 期末試験 (40%)

■評価基準

評価A+ (90点以上) : HTML、CSS、javascriptの役割分担をきちんと理解している。 作品が特に優れている。 試験結果がよい。

評価A (89~80点) : ホームページ作成の基本を押さえている。 試験結果がよい。

評価B (79~70点) : 習ったものを少し応用したホームページを組み立てることができる。 試験が普通にできている。

評価C (69~60点) : 習ったとおりの基本を押さえることができる。 試験が合格得点に達した。

評価F (59点以下) : 作品と試験結果の両方でいい点がみられなかった。

■履修していることが望ましい科目

WEBデザインI

条件ではないが、強く履修を勧める

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

初回からPC必須である。

科目名 Webプログラミング(Web Programming)

サブタイトル

担当教員 出原 至道

■講義目的

この講義は、ビジネスICTの開発系スキルの集大成として、実践を通じて、Webプログラミング環境構築、HTML、CSS、PHPプログラミング、データベースシステムとの連携を習得し、Webプログラミングの全体像を理解することを目的とする。これにより、受講生は、さまざまなシーンで高度にWebを活用して問題解決に資する能力を得ることができ、実社会で高く評価される。講義にはPCを持参すること。受講生の技術レベル・進度に応じて、講義内容を調整することができる。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

- (1) Webプログラミング環境を構築できる
- (2) HTMLを使ったWebページを作成できる
- (3) HTMLにCSSを組み込んでWebページを作成できる
- (4) PHPプログラムを作成できる
- (5) PHPプログラムによりHTMLのフォームを作成し処理できる
- (6) PHPプログラムによりウェブデータベースシステムが構築できる。

■講義形態

講義+実習

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各回の講義では、実習時間が不十分である。各回、90分程度の実習を通して、説明した要素技術について習熟を深めること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：Webの基礎と環境構築

講義の目標、進め方および評価基準の説明、Webの基礎の習得、講義用Webサイトの使い方の説明

事前,事後学習ポイント：講義の目標、進め方および評価基準を説明する。また、Webの基礎を学習し、講義で使用するWebサイトの使い方も紹介する。

<第 2 講>

概要：HTMLの基礎 (タグの概念)

HTMLの基礎の習得およびHTMLを使ったWebページの作成

事前,事後学習ポイント：HTMLの基礎を学習し、Webサーバ上にHTMLページを作成して表示する。簡単な自己紹介ページを作成して表示されることを確認する。

<第 3 講>

概要：HTMLの基礎 (アンカー)

HTMLの基礎の習得およびHTMLを使ったWebページの作成

事前,事後学習ポイント：HTMLの基礎を学習し、複数のページをリンクする仕組みについて理解する。

<第 4 講>

概要：CSSの基礎

CSSの基礎の習得およびCSSを使ったWebページの作成

事前,事後学習ポイント：CSSの基礎を学習し、Webサーバ上にCSSを組み込んだHTMLページを作成して表示する。第3講で作成したHTMLページにCSSを組み込んで表示されることを確認する。

<第 5 講>

概要：CSSの応用

CSSの習得およびCSSを使ったWebページの作成

事前,事後学習ポイント：CSS を利用したデザインと論理構造の分離について理解し、さまざまな CSS デザインテクニックについて習熟する。

<第 6 講>

概要：PHPの基礎(1)

PHPの基礎の習得およびPHPを使ったプログラムの作成

事前,事後学習ポイント：PHPの基礎を学習し、PHPプログラムを作成して実行する。PHPのプログラム作成方法、画面表示、変数、演算などを習得する。

<第 7 講>

概要：PHPの基礎(2)

PHPの基礎の習得およびPHPを使ったプログラムの作成

事前,事後学習ポイント：PHPの配列などを習得する。

<第 8 講>

概要：PHPの基礎(3)

PHPの基礎の習得およびPHPを使ったプログラムの作成

事前,事後学習ポイント：PHPの制御構造を習得する。

<第 9 講>

概要：PHPの基礎(4)

PHPの基礎の習得およびPHPを使ったプログラムの作成

事前,事後学習ポイント：PHPの関数の呼び出しについて習得する。

<第 10 講>

概要：PHPとHTMLの連携

事前,事後学習ポイント：HTML からの入力としての FORM タグの利用について理解し、PHP 側でデータを受け取る処理について習得する。また、セッション管理について理解する。

<第 11 講>

概要：PHPとデータベースの連携(1)

事前,事後学習ポイント：PHP からウェブデータベースへの接続とデータの取り出しについて理解し、必要な SQL 言語を習得する。

<第 12 講>

概要：PHPとデータベースの連携(2)

事前,事後学習ポイント：PHP からウェブデータベースへのデータの書き込み・変更について理解し、必要な SQL 言語を習得する。

<第 13 講>

概要：PHPとデータベースの連携(3)

事前,事後学習ポイント：ウェブデータベースのサニタイズについて、必要性と実装法を理解する。

<第 14 講>

概要：統合

これまでの知識を統合し実装する

事前,事後学習ポイント：ウェブデータベースを利用したシステムを実装する。簡単な実装可能なメッセージングソフトを想定する。

<第 15 講>

概要：試験

事前,事後学習ポイント：試験

■教科書

なし (講義用ウェブサイトで資料を配布する)

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

講義内で複数回出題される課題提出(60%)、試験(40%)

試験は講義の最終回に実施する予定

■評価基準

評価A+ (90点以上)：数値評価で90点以上

評価A (89~80点)：数値評価で80点以上90点未満

評価B (79~70点)：数値評価で70点以上80点未満

評価C (69~60点)：数値評価で60点以上70点未満

評価F (59点以下)：数値評価で60点未満

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

コンピュータを持参すること。

日常的にWebを使用し、Webプログラミングに興味をもっていることを期待したい。前提知識として、①Webの使い方、②基礎的なプログラミングの知識・能力を持っていること。

扱う内容が多岐にわたる (HTML、CSS、PHPなど)、それらの知識を積み上げていく必要があるため、理解が難しいと感じた場合は自らWebや参考書籍などで調べてフォロ

一する姿勢を期待したい。

講義への出席は評価には影響しないが、課題や試験に関連する内容は講義用Webシステムで紹介するので、出席できなかった場合は講義ページを使用して大学あるいは自宅で学習することを期待したい。

課題提出が評価に大きく影響し、最終試験のみでは及第は難しい可能性があるので注意されたい。

科目名 AP 数学 (Advanced Practical Mathematics)

サブタイトル

担当教員 大森 拓哉

■講義目的

経営情報学部においては、複合領域での知識や技術の修得が必要となる。このような複合領域を対象とする分野で必要になるデータを扱う数学的手法の基礎について、演習と講義により身に付けることが本講義の目的である。本講義では、課題を解決するためにどのようなデータの取り扱いをするとよいか、中学から高校1年程度の数学を基点として、問題解決方法の理解とそれを応用した問題解決演習を行い、産業界において必要な数理技能の基礎を完全習得する。

■講義分類

ビジネス創造
 ビジネスマネジメント
 社会人力育成
 ビジネスICT

■到達目標

経営情報学部で学ぶ上での必要な数学の十分な能力が身についているか。

■講義形態

講義 + 演習

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業内に示される課題について、授業内で完答できなかったものについて完成させておくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：連立方程式
 事前、事後学習ポイント：連立方程式が完全に溶けるかどうか。

<第 2 講>

概要：損益分岐点・優劣分岐点
 事前、事後学習ポイント：損益分岐点の意味の理解・計算による解の導出ができてい

<第 3 講>

概要：損益分岐点・優劣分岐点の応用問題
 事前、事後学習ポイント：損益分岐点の応用問題を解けるかどうか。

<第 4 講>

概要：損益分岐点・優劣分岐点の確認
 事前、事後学習ポイント：損益分岐点の確実な理解ができるかどうか。

<第 5 講>

概要：線形計画法
 事前、事後学習ポイント：線形計画法のしくみが理解できてい

<第 6 講>

概要：線形計画法の応用問題
 事前、事後学習ポイント：線形計画法を用いて実際問題が解けるかどうか。

<第 7 講>

概要：線形計画法の確認
 事前、事後学習ポイント：線形計画法を用いて応用問題が解けるかどうか。

<第 8 講>

概要：指数・対数
 事前、事後学習ポイント：指数関数・対数関数について完全に理解でき

<第 9 講>

概要：複利計算
 事前、事後学習ポイント：金利計算が確実

<第 10 講>

概要：指数・対数を用いて、金利計算を行う。
 事前、事後学習ポイント：指数関数・対数関数を用いて、金利計算の応用問題が解ける

<第 11 講>

概要：指数・対数・複利計算の確認
 事前、事後学習ポイント：指数・対数を用いて、複雑な金利計算が

<第 12 講>

概要：微分法
 事前、事後学習ポイント：微分の意味、計算の手続きが

<第 13 講>

概要：最適化問題
 事前、事後学習ポイント：最適化問題の基本的な意味が理解でき

<第 14 講>

概要：最適化問題の確認
 事前、事後学習ポイント：関数最適化問題の応用が解ける

<第 15 講>

概要：まとめ
 事前、事後学習ポイント：これまでの内容をきちんと理解して

■教科書

■指定図書

『社会科学系の数学入門』若尾良男、水谷昌義共著 ムイスリ出版
 『高校数学がまるごとわかる』岡地秀三著 ベレ出版
 『文系数学超入門』大川隆夫他著 学術図書出版社
 『経済学が数学がイッキにわかる』石川秀樹著 学習研究社
 『計算力が身に付く数学基礎』佐野公朗著 学術図書出版社
 『まんがDE入門経済学』西村和雄著 日本評論社

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

80%以上の出席を単位取得の条件とし、その上で試験 (90%)、平常点 (10%) により評価する。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容を完全に理解できている
 評価A (89~80点)：講義内容を理解できている
 評価B (79~70点)：講義内容をおおむね理解できている
 評価C (69~60点)：最低限の理解ができてい
 評価F (59点以下)：講義科目の履修目標に達していない

■履修していることが望ましい科目

ビジネス数学基礎

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は集中科目である。春学期に開講されているビジネス数学基礎において優秀な成績を取った者のみが履修することができる。履修許可については別途連絡する。

科目名 NPO・NGO論(NPO・NGO Theory)

サブタイトル 社会的事業の組織論

担当教員 松本 祐一

■講義目的

社会的な問題の解決の主体であるNPOやNGO（以下、2つの概念を合わせて便宜上NPOと表記）が登場した歴史的背景、組織原理を学ぶ。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

NPO特有の組織原理を理解すること

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習（学習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

興味のあるNPOの事例の収集

■講義の概要

<第1講>

概要：講義の目的と内容を共有する。（オリエンテーション）

事前,事後学習ポイント：NPO、NGO、非営利組織、ボランティア

<第2講>

概要：NPOという概念の起源と内容について理解する。

事前,事後学習ポイント：非営利組織、3つのセクター

<第3講>

概要：社会的事業の性格を理解する。

事前,事後学習ポイント：社会問題、問題解決、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス

<第4講>

概要：NPOを経営する上での特徴を理解する。

事前,事後学習ポイント：NPOのマネジメント、組織と環境、資源動員

<第5講>

概要：NPOのマーケティングのポイントを理解する。

事前,事後学習ポイント：マーケティング、顧客志向、価値志向、論理志向

<第6講>

概要：NPOのマーケティングのポイントを理解する。

事前,事後学習ポイント：マーケティング、顧客志向、価値志向、論理志向

<第7講>

概要：NPOにおけるICT活用について理解する。

事前,事後学習ポイント：クラウドファンディング、ソーシャルメディア

<第8講>

概要：NPO個別事例を検討し、NPOの組織原理の理解を深める。

事前,事後学習ポイント：福祉、社会福祉法人

<第9講>

概要：NPO個別事例を検討し、NPOの組織原理の理解を深める。

事前,事後学習ポイント：環境

<第10講>

概要：NPO個別事例を検討し、NPOの組織原理の理解を深める。

事前,事後学習ポイント：教育

<第11講>

概要：NPO個別事例を検討し、NPOの組織原理の理解を深める。

事前,事後学習ポイント：国際協力

<第12講>

概要：NPO個別事例を検討し、NPOの組織原理の理解を深める。

事前,事後学習ポイント：まちづくり

<第13講>

概要：NPO個別事例を検討し、NPOの組織原理の理解を深める。

事前,事後学習ポイント：中間支援

<第14講>

概要：NPOという組織が抱える課題と今後の可能性を考える。

事前,事後学習ポイント：ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、リーンスタート

アップ

<第15講>

概要：授業の振り返りを行う。

事前,事後学習ポイント：全十四回の授業のポイント

■教科書

なし

■指定図書

授業中に指示

■参考文献・参考URL / Reference List

授業中に指示

■評価方法

授業中提出のワークシート40% 中間レポート20% 最終レポート40%

■評価基準

評価A+（90点以上）：すべて出席し、それぞれの授業でのアウトプットが要求されていることを網羅していて、独自性がある。NPOの組織原理を理解している。

評価A（89～80点）：9割以上出席し、それぞれの授業でのアウトプットが要求されていることを網羅している。NPOの組織原理を理解している。

評価B（79～70点）：8割以上出席し、それぞれの授業でのアウトプットが要求されていることを網羅している。NPOの組織原理を理解している。

評価C（69～60点）：6割以上出席し、それぞれの授業でのアウトプットが要求されていることある程度、答えられている。

評価F（59点以下）：5割以下の出席率で、それぞれの授業でのアウトプットが要求されていることに答えられていない。

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 エネルギー・環境論I (Energy Environment Theory I)

サブタイトル

担当教員 十市 勉

■講義目的

東日本大震災と福島第一原発事故を契機に、電力や石油など国民生活、経済活動に不可欠なエネルギー需要と供給のあり方が国民的な課題になっています。本講義では、石油や天然ガス、石炭の化石燃料、原子力発電や再生可能エネルギー、省エネルギーなどの基礎知識を学び、社会人基礎力と問題解決能力を身につけることを目的とします。

■講義分類

■到達目標

エネルギー問題の基礎知識を習得し、世界潮流の中で日本のエネルギー問題を理解できるようにする。

■講義形態

講義 + PR (学生のPRが2回、外部講師のPRが1回)

■準備学習 (学習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎回の授業で用いるPPT資料を事前にT-NEXTに掲載するので、予習と復習に活用すること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：オリエンテーションとしての教員自己紹介、講義の進め方、講義全体の要点の説明
事前、事後学習ポイント：できるだけ受講生が興味を持つテーマを取り上げるため、講義時間の最後に、各人の関心事項や疑問点などを毎回アンケート用紙に記入してもらい、次回授業の冒頭で答える。その記載内容を採点して、テストに代わる評価点とする。

<第 2 講>

概要：経済活動とエネルギーについての基礎
事前、事後学習ポイント：経済成長とエネルギー、暮らしとエネルギー

<第 3 講>

概要：大震災・原発事故と日本のエネルギー問題
事前、事後学習ポイント：日本のエネルギー政策、原子力発電、再生可能エネルギー

<第 4 講>

概要：石油資源はいつ枯渇するか
事前、事後学習ポイント：世界の石油の埋蔵量や生産、貿易、原油価格などの基礎

<第 5 講>

概要：21世紀は天然ガスの黄金時代か
事前、事後学習ポイント：世界の天然ガスの埋蔵量や生産、消費、貿易、ガス価格などの基礎

<第 6 講>

概要：石炭の役割をどう考えるか
事前、事後学習ポイント：石炭火力発電、クリーンコール技術

<第 7 講>

概要：受講生によるプレゼンテーション
事前、事後学習ポイント：授業で学んだエネルギー問題の現状と課題を踏まえて、複数の受講生が自分の意見についてプレゼンテーションを行い、全員参加による議論を行う。

<第 8 講>

概要：高まる再生可能エネルギーへの期待と現実
事前、事後学習ポイント：水力、太陽光、風力、地熱、バイオマス、固定価格買取制度

<第 9 講>

概要：原子力発電の仕組みと電力供給力としての役割
事前、事後学習ポイント：原子力発電の仕組み、核燃料サイクル、発電コスト、福島第一原子力発電所の事故原因、安全対策の強化策や新しい規制基準

<第 10 講>

概要：エネルギー企業の現場での取り組みの現状
事前、事後学習ポイント：首都圏でエネルギー供給事業を担っている大手企業の実務者から、経営戦略の現状と課題などを学習する。

<第 11 講>

概要：高まる省エネルギーの役割
事前、事後学習ポイント：電力不足が深刻化する中、省エネルギー、省電力の重要性が高まっており、産業や家庭・業務、輸送分野の取り組みの現状を学習する。

<第 12 講>

概要：省エネルギー技術と政策の現状と課題
事前、事後学習ポイント：省エネルギーや省電力を促進するため、省エネルギー法の強化、スマートメーターの導入などITCを活用した取り組みの現状を学習する。

<第 13 講>

概要：日本の電力産業のあり方
事前、事後学習ポイント：電気料金、電力システム改革、発送電分離

<第 14 講>

概要：日本のエネルギー戦略を考える
事前、事後学習ポイント：エネルギー基本計画、エネルギー安全保障、地球温暖化問題

<第 15 講>

概要：受講生によるプレゼンテーション
事前、事後学習ポイント：授業で学んだエネルギー問題の現状と課題を踏まえて、複数の受講生が自分の意見についてプレゼンテーションを行い、全員参加による議論を行う。

■教科書

■指定図書

シェール革命と日本のエネルギー
著者：十市 勉
出版社：日本電気協会新聞部、2013年10月 (2015年2月に増補版予定)

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席 (50%) + アンケート記入 (50%)、意見発表者に特別加算

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容が良く理解出来ており、かつ自ら更に学んでいる
評価A (89~80点)：講義内容が良く理解出来ている。
評価B (79~70点)：講義内容が理解出来ている。
評価C (69~60点)：講義内容が理解出来ているものの、不十分な部分もある
評価F (59点以下)：講義内容が理解出来ていない

■履修していることが望ましい科目

■卒業生対生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

遅刻や授業中の私語などは厳禁、違反者には場合によっては単位を付与しない。

科目名 エネルギー・環境論Ⅱ (Energy Environment Theory II)

サブタイトル

担当教員 十市 勉

■講義目的

資源小国の日本は、世界のエネルギー情勢によって非常に大きな影響を受けます。本講義では、石油や天然ガスの化石燃料、原子力発電や再生可能エネルギー、省エネルギーなど最新の国際政治、経済、企業活動、技術の動向などについて、グローバルな視点と過去の歴史を踏まえて、世界および主要国の現状と課題を分析し、今後日本が取り組むべきエネルギー問題の解決策について考えていく。

■講義分類

■到達目標

エネルギー問題を巡る国内外の最新・最先端の動向を習得し、世界潮流の中で日本のエネルギー・温暖化政策・戦略のあり方、および企業の課題などを考えられるようにする。

■講義形態

講義 + プレゼンテーション PR (学生のPRが2回、外部講師のPRが1回)

■準備学習 (予習・復習) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業で用いるPPT資料を、事前にT-NEXTに掲載し、予習と復習に役立てる。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：オリエンテーション

事前、事後学習ポイント：できるだけ受講生が興味を持つテーマを取り上げるため、講義時間の最後に、各人の関心事項や疑問点などを毎回アンケート記入出してもらい、次回授業の冒頭で答える。その記載内容を採点して、テストに代わる評価点とする。

<第 2 講>

概要：世界が直面するエネルギー問題の課題と解決策を考える

事前、事後学習ポイント：中国やインドなど新興国の経済発展と深刻化するエネルギー不足、開発途上国のエネルギー貧困問題など

<第 3 講>

概要：日本のエネルギー問題を考える

事前、事後学習ポイント：エネルギー基本計画、原子力政策、固定価格買取制度

<第 4 講>

概要：石油の政治・経済学

事前、事後学習ポイント：国際石油市場におけるOPECの役割、国際政治と原油価格の関係など

<第 5 講>

概要：世界と日本の石油産業とその経営戦略

事前、事後学習ポイント：かつて世界の石油市場を支配した石油メジャーの歴史的な変遷とその経営戦略を分析し、日本の石油産業のあり方を考える。

<第 6 講>

概要：エネルギーと地球温暖化問題

事前、事後学習ポイント：今後とも途上国のエネルギー需要が増加する中、世界のCO2排出量の削減をどう進めるか、そのために日本が果たすべき役割は何かを考える。

<第 7 講>

概要：受講生によるプレゼンテーション

事前、事後学習ポイント：授業で学んだエネルギー問題の現状と課題を踏まえて、複数の受講生が自分の意見についてプレゼンテーションを行い、全員参加による議論を行う。

<第 8 講>

概要：ドイツの脱原子力政策と日本への教訓

事前、事後学習ポイント：福島事故後、ドイツは脱原発政策に転じたが、その政治的、社会的、歴史的背景と、現在ドイツが直面している諸問題と課題を検討し、日本にとつての教訓を学ぶ。

<第 9 講>

概要：中国のエネルギー問題

事前、事後学習ポイント：資源不足に直面する中国は、国を挙げて資源確保に奔走しており、世界のエネルギー情勢に大きな影響を与えており、日本の取り組むべき課題と対応策を考える。

<第 10 講>

概要：インドのエネルギー問題

事前、事後学習ポイント：深刻な資源不足、電力不足に直面するインドは、5カ年計画に基づきエネルギー政策に取り組んでいる。中国と並んで世界のエネルギー・温暖化問題に大きな影響を与えるインドの現状と将来を展望し、日本との協力の可能性を考える。

<第 11 講>

概要：エネルギー企業関係者による講演

事前、事後学習ポイント：首都圏でエネルギー供給事業を担っている大手企業の実務者から、経営戦略の現状と課題などを学習する。

<第 12 講>

概要：米国のエネルギー戦略

事前、事後学習ポイント：シェールガス革命の進展で、天然ガスの自給化を実現し、石油輸入も減少に転ずる米国のエネルギー需給と国際市場、中東政策への影響などを考える。

<第 13 講>

概要：ロシアのエネルギー戦略

事前、事後学習ポイント：資源大国のロシアは、石油や天然ガスの輸出を武器に周辺諸国への政治的影響力を強めている。サハラ以南と極東ロシアのエネルギー開発と日本の戦略を考える。

<第 14 講>

概要：欧州のエネルギー戦略

事前、事後学習ポイント：ドイツ、フランス、イギリスなど各国で多様なエネルギー政策を進めるEUの現状と課題を分析し、日本が参考とすべき点などについて考える。

<第 15 講>

概要：受講生によるプレゼンテーション

事前、事後学習ポイント：授業で学んだエネルギー問題の現状と課題を踏まえて、複数の受講生が自分の意見についてプレゼンテーションを行い、全員参加による議論を行う。

■教科書

■指定図書

シェール革命と日本のエネルギー

著者：十市 勉

出版社：日本電気協会新聞部、2013年10月 (2015年2月に増補版予定)

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席 (50%) + アンケート記入 (50%)、意見発表者に特別加点

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容が良く理解出来ており、かつ自ら更に学んでいる

評価A (89~80点)：講義内容が良く理解出来ている

評価B (79~70点)：講義内容が理解出来ている

評価C (69~60点)：講義内容が理解出来ているものの、不十分な部分もある

評価F (59点以下)：講義内容が理解出来ていない

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

遅刻や授業中の私語などは厳禁、違反者には場合によっては単位を付与しない。

科目名 海外活動英語コミュニケーションI(English communication I)

サブタイトル 真の国際化とは自分の国を知ること Be a global business person!

担当教員 中村(そ)、渡辺(幸)

■講義目的

社会人としての基礎力をつけるため、国内外で活躍する各分野での最新事例を直接知ることは大変貴重である。この科目では企業や団体で活躍する現役ビジネスパーソンから直接「社会の現実」を聞き、日々の課題を解決している現場の雰囲気を感じ取り、問題解決手法、各分野に必要な英語表現を学習する。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解
 ビジネス創造 ビジネスマネジメント 社会人力育成
 グローバルビジネス

■到達目標

社会環境を知り、問題解決力とともに時代感覚を養い、将来のビジネスライフを想像し、準備学習する為の自分なりの入り口と道筋を見つける。

■講義形態

講義
 グループディスカッション

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義に招かれるゲスト、学外での研修、見学、フィールドワークの内容について事前に十分に調査研究をし、授業後は教員からの指示に従ってフォロー学習を行う。

■講義の概要

<第1講>

概要:<第1講> オリエンテーション 今後の予定

渡辺の自己紹介と昨年の講座内容説明

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第2講>

概要:ゲストスピーカーの話 (1)

渡辺がインタビューしてお聞きする形式

当該企業・団体の事業分野、歴史、特色、市場での評価、将来展望

課題とその解決の為にしている事

若者、若手社員に臨む資質

学生時代に何を取得しておいたら良いか

質疑応答 などを想定している。

(候補ゲスト:民間企業、団体、外務省等の社員職員を想定、)

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第3講>

概要:<第3講> ゲストスピーカーの話 (2)

進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第4講>

概要:<第4講> ゲストスピーカーの話 (3)

進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第5講>

概要:<第5講> ゲストスピーカーの話 (4)

進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第6講>

概要:<第6講> ゲストスピーカー(企業・団体・官僚等)の話 (5)

進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第7講>

概要:<第7講> 前半終了時の総括 及び、「自分の国を知ること大切さ」の講義

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第8講>

概要:<第8講> ワークショップ 訪問 (1)

企業訪問 または渡辺主催のイベントに参加、聴講

訪問場所、ゲストの話題により当然内容は変化する

(訪問想定先:外務省などの役所を想定)

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第9講>

概要:<第9講> ワークショップ 訪問 (2)

・雑誌編集者、又はテレビ番組制作者のセミナー&意見交換会 を想定

(訪問想定企業:出版社、テレビ局等、)

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第10講>

概要:<第10講> ワークショップ 訪問 (3)

企業訪問 または渡辺主催のイベントに係員として参加、聴講

進行は第8講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第11講>

概要:<第11講> ワークショップ 訪問 (4)

企業訪問 または渡辺主催のイベントに係員として参加、聴講

進行は第8講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第12講>

概要:<第12講> ワークショップ 総括

訪問、参加した企業や団体、イベント現場での現実を総括し、

特にコミュニケーションカアップの為にテクニックを学ぶ

情報取集術、企画立案術、イベント実施ノウハウ 等

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第13講>

概要:<第13講> 真の国際化とは自分の国を知ること(1)

自分達の周囲の生活文化を学ぶ

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第14講>

概要:<第14講> 真の国際化とは自分の国を知ること(2)

自分達の周囲の生活文化を学ぶ

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第15講>

概要:<第15講> グローバルビジネス養成講座 総括

グループでテーマを決め、自らの将来のために何が役に立ったか、

今後もし引き続き興味を持って注目したい分野、企業、活動などを発表し、

それを担当教員が総括し、アドバイスを行う。

納会実施予定

上記はあくまでも予定であり、ゲストとの調整が出来れば現場に向向き、直接交流した上で出張学習も実施する。

事前,事後学習ポイント:授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

■教科書

■指定図書

授業内で指示の予定

■参考文献・参考URL / Reference List

<http://www.gillie.co.jp/>

■評価方法

出席50%、中間レポート20%、期末レポート30%

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 出席(授業での積極性と真摯な態度を含む)、中間レポート

(課題宿題を含む)、期末レポート(課題宿題含む)、プレゼンテーションのクオリティを点数化し、それが90点以上の場合

評価A(89~80点) : 出席(授業での積極性と真摯な態度を含む)、中間レポート(課題宿題を含む)、期末レポート(課題宿題含む)、プレゼンテーションのクオリティを点数化し、それが89~80点の場合

評価B(79~70点) : 出席(授業での積極性と真摯な態度を含む)、中間レポート(課題宿題を含む)、期末レポート(課題宿題含む)、プレゼンテーションのクオリティを点数化し、それが79~70点の場合

評価C(69~60点) : 出席(授業での積極性と真摯な態度を含む)、中間レポート(課題宿題を含む)、期末レポート(課題宿題含む)、プレゼンテーションのクオリティを点数化し、それが69~60点の場合

評価F(59点以下) : 出席(授業での積極性と真摯な態度を含む)、中間レポート(課題宿題を含む)、期末レポート(課題宿題含む)、プレゼンテーションのクオリティを点数化し、それが59点以下の場合

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

企業のトップ、役員、マネージャーから現場担当まで広い階層で、外交官を含む各官庁の現役官僚など、メインの学習テーマ「真の国際化とは自分の国を知ること」に沿った講師をお呼びします。

若者の好奇心と軽快なネットワークで、自分の将来を考えて、ビジネスマインド、センスをつける為に貴重な時間になります。受講学生の将来の為、日本の未来の為へと協力依頼をし、多忙な時間を割いて頂く方ばかりですので、話を聞かせて貰う場に最低の礼儀をわきまえない非常識な態度はその時点で失格となります。“志を持った多摩大学学生”としての態度で臨まれる事を希望します。

父兄も参加出来る特別オープン企画も実施します。

科目名 海外活動英語コミュニケーションII (English communication II)

サブタイトル 真の国際化とは自分の国を知ること Be a global business person!

担当教員 中村(そ)、渡辺(幸)

■講義目的

社会人としての基礎力をつけるため、国内外で活躍する各分野での最新事例を直接知ることは大変貴重である。この科目では企業や団体で活躍する現役ビジネスパーソンから直接「社会の現実」を聞き、日々の課題を解決している現場の雰囲気を感じ取り、問題解決手法、各分野に必要な英語表現を学習する。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解
 ビジネス創造 ビジネスマネジメント 社会人力育成
 グローバルビジネス

■到達目標

社会環境を知り、問題解決力とともに時代感覚を養い、将来のビジネスライフを想像し、準備学習する為の自分なりの入り口と道筋を見つける。

■講義形態

講義
 グループディスカッション

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義に招かれるゲスト、学外での研修、見学、フィールドワークの内容について事前に十分に調査研究をし、授業後は教員からの指示に従ってフォロー学習を行う。

■講義の概要

<第1講>

概要：<第1講> オリエンテーション 今後の予定

渡辺の自己紹介と昨年の講座内容説明

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第2講>

概要：ゲストスピーカーの話 (1)

渡辺がインタビューしてお聞きする形式

当該企業・団体の事業分野、歴史、特色、市場での評価、将来展望

課題とその解決の為にしている事

若者、若手社員に臨む資質

学生時代に何を取っておいたら良いか

質疑応答 などを想定している。

(候補ゲスト：民間企業、団体、外務省等の社員職員を想定、)

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第3講>

概要：<第3講> ゲストスピーカーの話 (2)

進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第4講>

概要：<第4講> ゲストスピーカーの話 (3)

進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第5講>

概要：<第5講> ゲストスピーカーの話 (4)

進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第6講>

概要：<第6講> ゲストスピーカー(企業・団体・官僚等)の話 (5)

進行は第2講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第7講>

概要：<第7講> 前半終了時の総括 及び、「自分の国を知ること」の講義

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第8講>

概要：<第8講> ワークショップ 訪問 (1)

企業訪問 または渡辺主催のイベントに参加、聴講

訪問場所、ゲストの話題により当然内容は変化する

(訪問想定先：外務省などの役所を想定)

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第9講>

概要：<第9講> ワークショップ 訪問 (2)

・雑誌編集者、又はテレビ番組制作者のセミナー&意見交換会 を想定

(訪問想定企業：出版社、テレビ局等、)

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第10講>

概要：<第10講> ワークショップ 訪問 (3)

企業訪問 または渡辺主催のイベントに係員として参加、聴講

進行は第8講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第11講>

概要：<第11講> ワークショップ 訪問 (4)

企業訪問 または渡辺主催のイベントに係員として参加、聴講

進行は第8講に準じるが、ゲストの話題により当然内容は変化する

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第12講>

概要：<第12講> ワークショップ 総括

訪問、参加した企業や団体、イベント現場での現実を総括し、

特にコミュニケーションカアップの為にテクニックを学ぶ

情報取集術、企画立案術、イベント実施ノウハウ 等

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第13講>

概要：<第13講> 真の国際化とは自分の国を知ること(1)

自分達の周囲の生活文化を学ぶ

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第14講>

概要：<第14講> 真の国際化とは自分の国を知ること(2)

自分達の周囲の生活文化を学ぶ

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

<第15講>

概要：<第15講> グローバルビジネス養成講座 総括

グループでテーマを決め、自らの将来のために何が役に立ったか、

今後もし引き続き興味を持って注目したい分野、企業、活動などを発表し、

それを担当教員が総括し、アドバイスを行う。

納会実施予定

上記はあくまでも予定であり、ゲストとの調整が出来れば現場に向向き、直接交流した上で出張学習も実施する。

事前,事後学習ポイント：授業の前、または後、に配布する課題を行い、指定された日時に提出すること

■教科書

■指定図書

授業内で指示の予定

■参考文献・参考URL / Reference List

<http://www.gillie.co.jp/>

■評価方法

出席50%、中間レポート20%、期末レポート30%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：出席(授業での積極性と真摯な態度を含む)、中間レポート

(課題宿題を含む)、期末レポート(課題宿題含む)、プレゼンテーションのクオリティを点数化し、それが90点以上の場合

評価A(89~80点) : 出席(授業での積極性と真摯な態度を含む)、中間レポート(課題宿題を含む)、期末レポート(課題宿題含む)、プレゼンテーションのクオリティを点数化し、それが89~80点の場合

評価B(79~70点) : 出席(授業での積極性と真摯な態度を含む)、中間レポート(課題宿題を含む)、期末レポート(課題宿題含む)、プレゼンテーションのクオリティを点数化し、それが79~70点の場合

評価C(69~60点) : 出席(授業での積極性と真摯な態度を含む)、中間レポート(課題宿題を含む)、期末レポート(課題宿題含む)、プレゼンテーションのクオリティを点数化し、それが69~60点の場合

評価F(59点以下) : 出席(授業での積極性と真摯な態度を含む)、中間レポート(課題宿題を含む)、期末レポート(課題宿題含む)、プレゼンテーションのクオリティを点数化し、それが59点以下の場合

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

企業のトップ、役員、マネージャーから現場担当まで広い階層で、外交官を含む各官庁の現役官僚など、メインの学習テーマ「真の国際化とは自分の国を知ること」に沿った講師をお呼びします。

若者の好奇心と軽快なフットワークで、自分の将来を考えて、ビジネスマインド、センスをつける為に貴重な時間になります。受講学生の将来の為、日本の未来の為へと協力依頼をし、多忙な時間を割いて頂く方ばかりですので、話を聞かせて貰う場に最低の礼儀をわきまえない!非常識な態度はその時点で失格となります。“志を持った多摩大学学生”としての態度で臨まれる事を希望します。

父兄も参加出来る特別オープン企画も実施します。

科目名 韓国経済論 (Korean Economy)

サブタイトル 日韓ビジネス

担当教員 金 美徳

■講義目的

一つは、韓国企業について学ぶ。日本企業(中小・ベンチャー企業含む)が韓国進出するか否か、韓国企業をライバルにするかパートナーにするか、韓国入観光客や韓国企業の日本の誘致策を考える。また、韓国企業と日本企業の経営スタイルやグローバル戦略を比較研究することにより、新たな経営戦略やビジネスモデルを考察する。さらに、韓国企業を通じて、アジア企業やアジアビジネスについて学ぶことである。

もう一つは、朝鮮半島情勢を知る。朝鮮半島は、韓国と北朝鮮、南北に分断されており、緊迫かつ不安定な情勢である。そのため、日本の平和や企業のリスクマネジメントを考える上で、朝鮮半島の情勢分析は必要不可欠である。

本講義のキーワードは、日韓ビジネスと日韓企業連携、韓国企業とアジア企業、韓流マーケティングとアジアマーケティング、アジアビジネスと新興国ビジネス、激動する朝鮮半島とアジアダイナミズムである。

■講義分類

- 顧客理解
- ビジネス環境理解
- ビジネス創造
- ビジネスマネジメント
- 社人力育成
- グローバルビジネス

■到達目標

- ①韓国と北朝鮮の政治外交・経済ビジネス・文化社会に関する基礎知識を習得する。
- ②韓国企業の経営スタイルやグローバル戦略などの特徴を分析し、日本企業の新たな経営戦略やビジネスモデルを立案する。または日韓ビジネスのアイデアを考える。
- ③朝鮮半島問題に対する問題意識の向上を図り、国際情勢や平和に敏感になる。

■講義形態

講義、ディスカッション、プレゼン

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

- ①朝鮮半島情勢や日韓ビジネスに関するニュースやネット情報を調べること。授業開始時に3～5名の学生に報告してもらう。
- ②就活を希望している、もしくは関心のある企業や業界の韓国ビジネス(生産・販売・調達の状況)を調べる。授業開始時に2～3名の学生に報告してもらう。

■講義の概要

- <第 1 講>
概要：韓国経済論ガイダンス
事前、事後学習ポイント：韓国と北朝鮮に関する知識や情報を図書館・本屋や新聞・ネットに探す。
- <第 2 講>
概要：韓国政治の基礎(1)
事前、事後学習ポイント：韓国政治の基礎データを調べる。例えば外務省のHPを見る。
- <第 3 講>
概要：韓国政治の基礎(2)
事前、事後学習ポイント：北朝鮮政治の基礎データを調べる。例えば外務省のHPを見る。
- <第 4 講>
概要：韓国政治の基礎(3)
事前、事後学習ポイント：日韓関係を調べる。
- <第 5 講>
概要：韓国政治の基礎(4)
事前、事後学習ポイント：日韓を取り巻く国際情勢(日中、日ロ、日朝、南北朝鮮)を調べる。
- <第 6 講>
概要：韓国政治の基礎(5)
事前、事後学習ポイント：日韓を取り巻く国際情勢(米中、中韓、中ロ、日米)関係を調べる。
- <第 7 講>
概要：韓国経済の基礎(1)
事前、事後学習ポイント：韓国経済の現状について調べる。
- <第 8 講>
概要：韓国経済の基礎(2)
事前、事後学習ポイント：韓国の経済政策について調べる。

<第 9 講>

概要：韓国経済の基礎(3)
事前、事後学習ポイント：韓国企業(サムスン、LG、現代自動車、SK)について調べる。

<第 10 講>

概要：韓国経済の基礎(4)
事前、事後学習ポイント：日本企業と韓国企業の強みについて調べる。

<第 11 講>

概要：韓国経済の基礎(5)
事前、事後学習ポイント：日韓企業連携の事例について調べる。

<第 12 講>

概要：日韓関係の改善策
事前、事後学習ポイント：日韓関係の改善策を調べる。

<第 13 講>

概要：北朝鮮の最新動向と展望
事前、事後学習ポイント：北朝鮮の情勢について調べる。

<第 14 講>

概要：最終レポートのテーマ、設定理由、目次の発表①
事前、事後学習ポイント：最終レポートのテーマ、設定理由、目次(パワーポイント1枚)を全員が発表する。

<第 15 講>

概要：最終レポートのテーマ、設定理由、目次の発表②
事前、事後学習ポイント：最終レポートのテーマ、設定理由、目次(パワーポイント1枚)を全員が発表する。

■教科書

- ①『日本企業没落の真実-日本再浮上27核心-』(金美徳、中経出版、2013年)
- ②『図解 韓国四大財閥早わかり』(金美徳、中経出版、2012年)
- ③『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』(金美徳、PHP新書、2012年)

■指定図書

- ①『世界を知る力 日本創生論』(寺島実郎、PHP新書、2011年)
- ②『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)

■参考文献・参考URL / Reference List

随時、参考文献・URLの配布や紹介を行う。

■評価方法

- 出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の割合で評価する。
- ①出席と毎回提出する講義メモを重視(35%+35%=70%)する。
- ②講義メモは、最低限の記述内容が記載されていない場合は、減点する。また、採点后、講義の最終段階で返却する。
- ③最終レポート(30%)は、A4用紙3枚以上とする。尚、図表の活用や枚数が増える場合は、高く評価する。15回の講義終了後、指定された提出期限までに提出すること。
- ④質問や意見は、講義への積極的な参加・貢献として加点する。発言者は、講義終了後に発言者リストに学番番号と氏名を記入すること。

■評価基準

- 評価A+ (90点以上)：出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の合算点が、90%以上であること。また、最終レポートがオリジナリティーや高い問題意識があること。
- 評価A (89~80点)：出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の合算点が、89~80%であること。
- 評価B (79~70点)：出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の合算点が、79~70%であること。
- 評価C (69~60点)：出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の合算点が、69~60%であること。
- 評価F (59点以下)：出席(35%)、毎回提出の講義メモ(35%)、最終レポート(30%)の合算点が59%以下の場合は、不合格とする。

■履修していることが望ましい科目

グローバルビジネス系科目を積極的に履修すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

- ①携帯電話・パソコンは、使用を禁止する。
- ②私語、帽子着用、飲食は、禁止する。
- ③遅刻および途中退室は、厳禁とする。途中退室は、必ず入退室を記録(日付・時間・学籍番号・氏名)すること。また、大幅な減点を行う。虚偽記録をした場合は、不合格扱いとする。
- ④就職活動による欠席は、公平性を保つため欠席扱いとする。
- ⑤講義メモの不正提出は、即刻、不合格とする。友人への提出依頼や講義には出席していないのに終了時に提出するなどの行為。
- ⑥最終レポートの不正提出は、不合格とする。友人のレポートのコピーや他科目のレポートを提出する行為。

科目名 韓国語I (Korean I)

サブタイトル

担当教員 趙 佑鎮、朴 浩烈

■講義目的

多摩大学では世界潮流としてのアジアダイナミズムを体得すべく諸々の教育プログラムを提供しているが、アジアの第一関門は隣国韓国であろう。本講義では韓国語をはじめて学ぶ学生を対象に、ハングル文字と発音、基礎的文法やコミュニケーションを学ぶことを目的とする。韓国語の単語一つ知ること、フレーズ一つ学ぶことに、学生の目に見える韓国や韓国人は変わってくるものである。韓国語のみならず韓国や韓流を知りたい意欲ある学生の参加を望む。本講義を1年間積極的に参加することで、中級レベルの韓国語も扱う韓国ビジネスコミュニケーション・IIの学習につながることを期待するものである。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス

■到達目標

- ・ハングル文字や発音を徹底してマスターした後に、基本的文法を理解する
- ・韓国ビジネスコミュニケーション・II・韓国経済論・アジア経済論Iを学ぶ際の土台づくり

■講義形態

講義のみ
その他(韓国語と韓国を扱ったビデオ・視聴覚教育)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業前には、その回の該当課の本文をスムーズに読めるようにすること。また、その回の小テストを行う際には、その回の授業が始まる前に教科書の練習問題を復習すること。

■講義の概要

- <第 1 講>
概要: オリエンテーション、韓国語について
事前,事後学習ポイント: 「ハングル」とは、語順と語彙
- <第 2 講>
概要: 基本母音
事前,事後学習ポイント: 基本母音10個を発音できるようにする
- <第 3 講>
概要: 基本子音
事前,事後学習ポイント: 基本子音19個を発音できるようにする
- <第 4 講>
概要: 複合母音
事前,事後学習ポイント: 子音と母音を組み合わせ文字を書けるようになる
- <第 5 講>
概要: パッチム
事前,事後学習ポイント: パッチムの形と発音を理解する
- <第 6 講>
概要: 発音の変化
事前,事後学習ポイント: 有声化、連音化
- <第 7 講>
概要: 第1課(以降、教科書順) 私は浅井ゆかりです
事前,事後学習ポイント: 「~は」、「~です」
- <第 8 講>
概要: 第2課 出身はソウルですか
事前,事後学習ポイント: 「~が」、「~ですか」
- <第 9 講>
概要: 第3課 図書館ではありますか
事前,事後学習ポイント: 「~ではありますか」、「~ではありませんか」
- <第 10 講>
概要: 第4課 時間がありますか
事前,事後学習ポイント: 「ありますか」、「ありませんか」
- <第 11 講>
概要: 第5課 何をしますか
事前,事後学習ポイント: 「します」、「しますか」
- <第 12 講>
概要: 第6課 貿易会社で働いています

事前,事後学習ポイント: 「します/しますか」、「います/ありますか」、「いません/ありませんか」

<第 13 講>

概要: 第7課 服を買います

事前,事後学習ポイント: 「~です」、「~ます」調の文章

<第 14 講>

概要: 第8課 スーパーでよく買います

事前,事後学習ポイント: 用言、縮訳変化のパターン

<第 15 講>

概要: 総括、期末小テスト

事前,事後学習ポイント: これまでの学習ポイントを試験内容とする小テストを実施

■教科書

木内 明著『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』2013年改訂、国書刊行会
2100円＋税

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

- ・授業での毎回の小テストの総計点(100%)＋授業態度(加算点＋α)
- ・出席を疎かにすると毎回実施する小テストを受けられないことになるので、結果的には成績に著しく不利になることを留意されたい。よって、出席が一定未満だとF処理されることを警告する。

■評価基準

- 評価A+ (90点以上) : ・ハングル文字や発音を完全にマスターしており、基本的文法を高度に理解している ・韓国語の基本ボキャブラリーが豊富である
- 評価A (89~80点) : ・ハングル文字や発音をかなりマスターしており、基本的文法を良く理解している ・韓国語の基本ボキャブラリーをかなり習得している
- 評価B (79~70点) : ・ハングル文字や発音を一定程度マスターしており、基本的文法を一定程度理解している ・いくつかの韓国語のボキャブラリーを読んで意味がわかる
- 評価C (69~60点) : ・ハングルの基本的なスムーズには読めて、基本的文法のいくつかを習得している
- 評価F (59点以下) : ・ハングルのスムーズに読めず、あるいは読めるものの欠陥が多かったため小テストを受ける機会が少ないことで総計点が不足した結果の不合格

■履修していることが望ましい科目

■卒業年度生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・授業態度における私語、携帯電話(をいじること)、本授業とは無関係のパソコン使用、途中退室は絶対に不可であり、徹底的に厳しく注意する。これらの注意は学生の社会人としての常識涵養のための不可避なものであるが、このような注意と授業態度を静粛に保つ教員の姿勢がいやであれば、本講義の履修は勧められない。
- ・語学の学習には地道さ、根気強さが必要であるため、なるべく毎回の出席を望む。これまでの経験だと、出席が良好な学生が成績も上位であり、毎回の出席こそ語学上達の近道である。一定の出席に満たない場合、学期途中においてもF なる可能性を警告する。
- ・復習を重視すること
- ・授業では随時、筆記や発音の小テストがあるが、決して高いハードルではない

科目名 韓国語Ⅱ(Korean II)

サブタイトル

担当教員 趙 佑鎮、朴 浩烈

■講義目的

多摩大学では世界潮流としてのアジアダイナミズムを体得すべく諸々の教育プログラムを提供しているが、アジアの第一関門は隣国韓国である。本講義では韓国語をはじめて学ぶ学生を対象に、ハングル文字と発音、基礎的文法とコミュニケーションを学ぶことを目的とする。韓国語の単語を一つ知るごとに、フレーズを一つ学ぶごとに、学生の目に見える韓国や韓国人は変わってくるものである。韓国語のみならず韓国や韓流を知りたい意欲ある学生の参加を望む。本講義を1年間積極的に参加することで、中級レベルの韓国語も扱う韓国ビジネスコミュニケーションⅡの学習につながることを期待するものである。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス

■到達目標

- ・ハングル文字や発音を徹底してマスターした後に、基本的文法を理解する
- ・韓国ビジネスコミュニケーションⅡ・韓国経済論・アジア経済論を学ぶ際の土台づくり

■講義形態

講義のみ

その他(韓国語と韓国を扱ったビデオ・視聴覚教育)

■単元学習(予習・復習等)に必要な事項またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業前には、その回の該当課の本文をスムーズに読めるようにすること。また、その回に小テストを行う際には、その回の授業が始まる前に教科書の練習問題を復習すること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：第9課 1万ウォンです

事前,事後学習ポイント：漢数詞

<第 2 講>

概要：第10課 今、何時ですか

事前,事後学習ポイント：固有数詞で数える助数詞

<第 3 講>

概要：第11課 日本語を話されますか

事前,事後学習ポイント：敬語、敬語の特殊例

<第 4 講>

概要：第12課 バスは行きません

事前,事後学習ポイント：「～する」とい、「～すればいいです」

<第 5 講>

概要：第13課 いつ韓国に来ましたか

事前,事後学習ポイント：用言の過去形

<第 6 講>

概要：第14課 一緒にお昼を食べてみましょう

事前,事後学習ポイント：「～しましょう」、「～しよう」、「何の～」

<第 7 講>

概要：第15課 パーティーの準備をしています

事前,事後学習ポイント：「～している」、「～してください」

<第 8 講>

概要：第16課 何も食べられませんでした

事前,事後学習ポイント：「～できる」、「～できない」

<第 9 講>

概要：第17課 陶磁器が見たいです

事前,事後学習ポイント：「～したい」という表現

<第 10 講>

概要：第18課 写真を撮ってもいいですか

事前,事後学習ポイント：「～してもいい」、「～しないでください」

<第 11 講>

概要：第19課 帰国しなければいけません

事前,事後学習ポイント：「～しなければならぬ」

<第 12 講>

概要：第20課 手紙を書きますよ

事前,事後学習ポイント：「～と思います」、「～するつもりです」

<第 13 講>

概要：韓国の映画を見ながらのビデオ学習、韓国語の文法とボキャブラリー(I)

事前,事後学習ポイント：これまで学んだ重要なボキャブラリーと助詞のまとめを学習す

る

<第 14 講>

概要：韓国の映画を見ながらのビデオ学習、韓国語の文法とボキャブラリー(II)

事前,事後学習ポイント：変則活用の用言、連体形まとめを学習する

<第 15 講>

概要：総括、小テスト

事前,事後学習ポイント：1年間のこれまで教員が強調した重要な文法ポイントとボキャブラリー

■教科書

木内 明著「基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版」2013年改訂、国書刊行会
2100円＋税

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

- ・授業での毎回の小テストの総計点(100%)＋授業態度(加算点＋α)
- ・出席を疎かにすると毎回実施する小テストを受けられないことになるので、結果的には成績に著しく不利になることを留意されたい。よって、出席が一定未満だとF処理されることを警告する。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：・ハングル文字や発音を完全にマスターしており、基本的文法を高度に理解している ・韓国語の基本ボキャブラリーが豊富である
評価A (89～80点)：・ハングル文字や発音をかなりマスターしており、基本的文法を良く理解している ・韓国語の基本ボキャブラリーをかなり習得している
評価B (79～70点)：・ハングル文字や発音を一定程度マスターしており、基本的文法を一定程度理解している ・いくつかの韓国語のボキャブラリーを読んで意味がわかる

評価C (69～60点)：・ハングルを基本的にスムーズには読めて、基本的文法のいくつかを習得している

評価F (59点以下)：・ハングルをスムーズに読めず、あるいは読めるものの欠席が多かったため小テストを受ける機会が少ないことで総計点が不足した結果の不合格

■履修していることが望ましい科目

韓国語 I

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・授業態度における私語、携帯電話(をいじること)、本授業とは無関係のパソコン使用、途中退室は絶対に不可であり、徹底的に厳しく注意する。これらの注意は学生の社会人としての常識涵養のための不可避なものであるが、このような注意と授業態度を疎かに保つ教員の姿勢がいやであれば、本講義の履修は勧められない。
- ・語学の学習には地道さ、根気強さが必要であるため、なるべく毎回の出席を望む。これまでの経験だと、出席が良好な学生が成績も上位であり、毎回の出席こそ語学上達の近道である。一定の出席に満たない場合、学期途中においてもF なる可能性を警告する。
- ・復習を重視すること
- ・授業では随時、筆記や発音の小テストがあるが、決して高いハードルではない

科目名 韓国ビジネスコミュニケーションⅠ(Korean Business Communication Ⅰ)

サブタイトル 韓国語中級

担当教員 朴 浩烈

■講義目的

教材と配布資料を使って、読む、書く、話す、聞くのレベルにおいて「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を履きた上での韓国語中級を目指す。外国語マスターへの道は根気と不屈の努力以外にはあり得ないので、適宜小テストを行い韓国語向上を目指す。板書はすべて韓国語とし、講義の際の対話や解説もできるだけ日本語を排する。受講生たちにはイングリッシュ能力検定試験(1級～5級)の受験を奨励する。しかし外国語レベルとコミュニケーションレベルは必ずしも比例するとは言えない。したがって「ことばと文化」を通して韓国(朝鮮半島)を幅広く理解することによって、様々なビジネスシーンや国際交流などにおけるコミュニケーションを能動的に行う上での自信やヒントを得ようとするのも講義目的である。ことばと文化における日韓間の類似点や相違点を双方向的に捉えることは、お互いの心理的距離を縮める接近法ともなる。「ことばと文化」を幅広く理解するための手段として関連する政治、社会、歴史、教育、芸能、スポーツ、ナショナリズム、時事問題など最新事例も適宜トピックとして扱いつつ、個々人が疑問に思うことなども議題に取り上げ、ディスカッションも行う。楽しく白熱した議論になれば幸いである(自信がなくてもできるだけ韓国語を使ってみる)。一切タブーはない。その過程において集団(国家・民族・企業など)として、又は人間個々人として日韓間に存在する問題点を発見し、受講生なりの解決へのアプローチを見いだすことも目的とする。下に掲載した教材・参考文献以外にも韓国の新聞記事やコラムなどを利用し、それを读んだり書いたりしながら韓国語能力の向上を図るとともに思考力や想像力を高める。

■講義分類

社会人育成
ビジネス環境理解
グローバルビジネス

■到達目標

1. 「韓国語Ⅰ、Ⅱ」を履きた上での 韓国語中級レベルの達成
2. ディスカッションを通しての自己主張とコミュニケーション能力の向上
3. 「韓流」と「日流」を通してのビジネス事情理解(最新事例理解)
4. 異文化理解力の向上とグローバル化における他者認識の方法論習得
5. 総合的韓国(朝鮮半島)学に対する知的蓄積と問題意識の涵養

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

CDを聞きながら練習し、教科書が読めるようにすること、練習問題を解いて来ること。

■講義の概要

<第 1 講>
概要: 「韓国ビジネスコミュニケーション」ガイダンス
事前,事後学習ポイント: 「韓国語」Ⅰの復習と理解が難しかったところのチェック
<第 2 講>
概要: 「韓国語」Ⅱの復習と理解が難しかったところのチェック
事前,事後学習ポイント: 日本語と韓国語の類似点や相違点を「韓国語」Ⅰ,Ⅱを学んだ土台から考えてみる
<第 3 講>
概要: 「第1課 遅れて申し訳ありません」と日韓のことばと文化①
事前,事後学習ポイント: 第1課の予習(予習は毎回CDを聞きながら読む練習を行って行くこと)
<第 4 講>
概要: 「第2課 この背の高い人がご主人ですか」と日韓のことばと文化②
事前,事後学習ポイント: 第1課の練習問題とCDを使って第2課の読む練習
<第 5 講>
概要: 「第3課 付き合っている人はいませんでした」と韓流について①
事前,事後学習ポイント: 第2課の練習問題とCDを使って第3課の読む練習
<第 6 講>
概要: 「第4課 通いながらずっと学びましたが」と韓流について②
事前,事後学習ポイント: 第3課の練習問題とCDを使って第4課の読む練習
<第 7 講>
概要: 「第5課 どこへ行くつもりですか」と日流について
事前,事後学習ポイント: 第4課の練習問題とCDを使って第5課の読む練習
<第 8 講>
概要: 「第6課 小学校で習ったことがありますよ」として「韓韓」、「反日」とナショナリズムを考える①

事前,事後学習ポイント: 第5課の練習問題とCDを使って第6課の読む練習
<第 9 講>
概要: 「第7課 韓国が勝ちそうです」として「嫌韓」、「反日」とナショナリズムを考える②
事前,事後学習ポイント: 第6課の練習問題とCDを使って第7課の読む練習。「嫌韓」「反日」、「ナショナリズム」をキーワードにディスカッションの準備を行って行くこと
<第 10 講>
概要: 「第8課 見ようと思います」を学ぶ。そして「グローバル人材とコミュニケーション能力」を講義する。
事前,事後学習ポイント: 第7課の練習問題、CDを使って第8課の読む練習
<第 11 講>
概要: 「第9課 雨が降り始めました」を学ぶ。そして「多文化共生社会」を考える。
事前,事後学習ポイント: 第8課の練習問題、CDを使って第9課の読む練習
<第 12 講>
概要: 「第10課 食事も申しに行きましようか」そして 日韓文化交流史を初解①
事前,事後学習ポイント: 第9課の練習問題、CDを使って第10課の読む練習
<第 13 講>
概要: 第1課～第10課までの復習①、そして日韓文化交流史を初解②
事前,事後学習ポイント: 第1課～第10課までのCDを聞きながら読む練習を行って講義に参加すること
<第 14 講>
概要: 第1課～第10課までの復習②
事前,事後学習ポイント: これまで習得した韓国語文法知識の総点検
<第 15 講>
概要: 春学期のまとめと夏休みの課題を提示する。
事前,事後学習ポイント: 教科書 第1課～第10課まで学んだ単語の暗記

■教科書

木内明「基礎から学ぶ韓国語講座 中級」国書刊行会

■指定図書

田中宏・坂垣太玄[編](2007)『日韓新たな始まりのための20章』岩波書店

■参考文献・参考URL / Reference List

なし

■評価方法

出席50%、講義参加態度50%

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 欠席が0～1回で講義参加態度が最優であること(講義参加態度にはレポート、小試験含む)
評価A (89～80点) : 欠席が1～2回で講義参加態度が優であること
評価B (79～70点) : 欠席が2～3回で講義参加態度が良であること
評価C (69～60点) : 欠席が3～4回で講義参加態度が良であること
評価F (59点以下) : 欠席が4回以上で講義参加態度が消極的な場合

■履修していることが望ましい科目

「韓国語」Ⅰ、Ⅱ

■卒業年度生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名

韓国ビジネスコミュニケーションII (Korean Business Communication II)

サブタイトル

中級韓国語

担当教員

朴 浩烈

■講義目的

教材と配布資料を使って 読む、書く、話す、聞くのレベルにおいて「韓国語Ⅰ・Ⅱ」を踏まえた上での韓国語中級を目指す。外国語マスターへの道は根気と不断の努力以外にあり得ないので、適宜小テストを行い韓国語向上を目指す。板書はすべて韓国語とし、講義の際の対話や解説もできるだけ日本語を排する。受講生にはハングル能力検定試験（1級～5級）の受験を奨励する。しかし外国語レベルとコミュニケーションレベルは必ずしも比例するとは言えない。したがって「ことばと文化」を通して韓国（朝鮮半島）を幅広く理解することによって、様々なビジネスシーンや国際交流などにおけるコミュニケーションを能動的に行う上での自信やヒントを得ようとするのも講義目的である。ことばと文化における日韓間の類似点や相違点を双方向的に捉えることは、お互いの心理的距離を縮める接近法ともなる。「ことばと文化」を幅広く理解するための手段として関連する政治、社会、歴史、教育、芸能、スポーツ、ナショナリズム、時事問題など最新事例も適宜トピックとして扱いつつ、個々人が疑問に思うことなども議題に取り上げ、ディスカッションも行う。楽しく自然な議論になれば幸いである（自信がなくてもできるだけ韓国語を使ってみる）。一切アサーションはない。その過程において集団（国家・民族・企業など）として、又は人間個々人として日韓間に存在する問題点を発見し、受講生なりの解決へのアプローチを見いだすことも目的とする。下に掲載した教材・参考文献以外にも韓国の新聞記事やコラムなどを利用し、それらを讀んだり書いたりしながら韓国語能力の向上を図るとともに思考力や想像力を高める。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会力育成
グローバルビジネス

■到達目標

1. 「韓国語Ⅰ、Ⅱ」を踏まえた上での 韓国語中級レベルの達成
2. ディスカッションを通しての自己主張とコミュニケーション能力の向上
3. 「韓流」と「日流」を通してのビジネス事情理解（最新事例理解）
4. 異文化理解力の向上とグローバル化における他者認識の方法論習得
5. 総合的韓国（朝鮮半島）字に対する知の蓄積と問題意識の涵養

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

CDを聞きながら練習し、教科書が読めるようにすること、練習問題を解いて来ること。

■講義の概要

<第1講>

概要：「韓国ビジネスコミュニケーションⅡ」ガイダンス、課題発表とディスカッション
事前、事後学習ポイント：夏休みの課題である韓国映画を視聴してのレポート作成済みのこと

<第2講>

概要：「第11課 実現したいのですが」、韓国映像文化（映画・ドラマ）からのリスニング
事前、事後学習ポイント：CDを聞きながら読む練習と練習問題

<第3講>

概要：「第12課 高校の時に修学旅行で来ました」、そして日韓の食文化の特徴とマナー
事前、事後学習ポイント：CDを聞きながら読む練習と練習問題

<第4講>

概要：「第13課 開かれるといいますが」、現代韓国の社会事情①

事前、事後学習ポイント：CDを聞きながら読む練習と練習問題

<第5講>

概要：「第14課 すごくきれいになりましたよ」、現代韓国の社会事情②

事前、事後学習ポイント：CDを聞きながら読む練習と練習問題

<第6講>

概要：「第15課 建てられて以来どのくらい経ちましたか」、韓国の世界遺産と国宝、観光名所

事前、事後学習ポイント：CDを聞きながら読む練習と練習問題

<第7講>

概要：「第16課 健康そうですね」、「アイデンティティ、ナショナリズム」を考える。

事前、事後学習ポイント：CDを聞きながら読む練習と練習問題

<第8講>

概要：「第17課 同じ年かもしません」、海外の韓国人とグローバルネットワーク

事前、事後学習ポイント：CDを聞きながら読む練習と練習問題

<第9講>

概要：「第18課 タレでも作っておいで」、在日コリアンと商業活動

事前、事後学習ポイント：CDを聞きながら読む練習と練習問題

<第10講>

概要：「第19課 瘦せるためには我慢しなくちゃ」、日韓ネット事情を考える。

事前、事後学習ポイント：CDを聞きながら読む練習と練習問題

<第11講>

概要：「第20課 私もいから」、日韓ベストセラーから見えるもの。

事前、事後学習ポイント：CDを聞きながら読む練習と練習問題

<第12講>

概要：教科書の復習①

事前、事後学習ポイント：CDを聞きながら読む練習と練習問題

<第13講>

概要：教科書の復習②

事前、事後学習ポイント：今まで学んだ文法を復習すること

<第14講>

概要：教科書の復習③

事前、事後学習ポイント：今まで解いた練習問題の復習

<第15講>

概要：まとめとディスカッション

事前、事後学習ポイント：異質な他者とのコミュニケーションにおいて重要なことは何かを考えてくる、そして指定図書に関するレポート作成

■教科書

木内明（基礎から学ぶ韓国語講座 中級）日書刊行会

■指定図書

和田春樹（2010）「これだけは知っておきたい日本と朝鮮の100年史」平凡社

■参考文献・参考URL / Reference List

なし

■評価方法

出席50%、講義参加態度50%

■評価基準

評価A+（90点以上）：欠席が0～1回で講義参加態度が最優であること（講義参加態度にはレポート、小試験含む）

評価A（89～80点）：欠席が1～2回で講義参加態度が優であること

評価B（79～70点）：欠席が2～3回で講義参加態度が良であること

評価C（69～60点）：欠席が3～4回で講義参加態度が良であること

評価F（59点以下）：欠席が4回以上で講義参加態度が消極的な場合

■履修していることが望ましい科目

韓国語Ⅰ、Ⅱ

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 管理会計入門(Introduction to Management Accounting)

サブタイトル 意思決定と業績管理に関する会計の手法を学ぶ。

担当教員 金子 邦博

■講義目的

本講義は、産業社会を支える企業などの組織体の経営・管理活動における問題発見や問題解決に役立つ情報を提供するためのシステムとしての管理会計について、最新の理論と手法を学習することで、企業の戦略的な経営に資することを目指して会計情報を活用していくことの意義を理解することを目的とする。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業で使われている意思決定への情報提供システムとしての管理会計における理論と手法についての基礎的な知識を習得すること。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義を受講するにあたっては、毎回の講義で学習したことを整理し、理解を深めておくことが必要です。今回の講義のなかで、前回講義の理解度を問う復習テストを行います。また、次回講義の内容を把握するため、テキストの該当部分を事前に一読しておくことも必要です。講義内容の復習と次回講義の準備には概ね1時間程度の取り組みが必要です。

■講義の概要

<第1講>

概要：序 管理会計とは
管理会計の意義について学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第2講>

概要：1 管理会計の諸概念
管理会計で使われる諸概念について学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第3講>

概要：2 事業部別の業績管理
責任センターの意義と業績管理の考え方を学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第4講>

概要：3 損益分岐点分析
損益分岐点分析の手法を学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第5講>

概要：4 利益計画と予算
利益計画と予算管理について学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第6講>

概要：5 原価企画
原価企画について学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第7講>

概要：6 ABC
活動基準原価計算(ABC)について学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第8講>

概要：7 コストのマネジメント
コストのマネジメント技法を学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第9講>

概要：8 経営意思決定

短期的意思決定の手法を学ぶ。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第10講>

概要：9 戦略的意思決定
戦略的意思決定手法を学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第11講>

概要：(計算問題の総まとめ)
損益分岐点分析、経営意思決定、戦略的意思決定の問題演習。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第12講>

概要：10 戦略的・戦術的価格決定
商品・製品の価格決定の手法を学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第13講>

概要：11 経営戦略と管理会計
経営戦略と管理会計のつながりを学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第14講>

概要：12 バランス・スコアカード
バランス・スコアカードの仕組みを学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第15講>

概要：13 無形資産とコーポレート・レピュテーション
無形資産とコーポレート・レピュテーションについて学ぶ。
事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

■教科書

櫻井通晴『管理会計 基礎編』同文館出版

■指定図書

- [1]上埜 進『管理会計の基礎 税務経理協会』
- [2]浅田孝幸ほか『管理会計・入門(第3版)』有斐閣
- [3]川野克典『管理会計の理論と実務』中央経済社
- [4]千賀秀信『管理会計の基本』日本実業出版社
- [5]古 武幸『エッセンシャル管理会計』中央経済社

■参考文献・参考URL / Reference List

- [1]古田清和ほか『基礎からわかる管理会計の実務』商事法務
- [2]林 悠『150円のコスト削減と100円の値上げでは、どちらが儲かるか?』ダイヤモンド社
- [3]中元文徳『豆大福分析』中央経済社
- [4]浅田孝幸・鈴木研一・川野克典『固定収益マネジメント』中央経済社

■評価方法

期末試験の成績により評価する(100%)。なお、期末試験の成績が70点に満たない者は、期末試験の成績に復習テストの成績を加算して成績判定を行う。
ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、期末試験の成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

- 評価A+ (90点以上)： 期末試験の得点が90点以上
- 評価A (89~80点)： 期末試験の得点が80点以上90点未満
- 評価B (79~70点)： 期末試験の得点が70点以上80点未満
- 評価C (69~60点)： 期末試験と復習テストの合計得点が60点以上
- 評価F (59点以下)： 期末試験と復習テストの合計得点が60点未満

■履修していることが望ましい科目

この講義の受講に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしないが、「原価分析」が履修済みであることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

- (1) この科目は履修登録の制限を行います。履修登録できる者を選抜しますので、履修希望者は必ず第1回目の講義に出席してください。選抜方法は別途周知します。第1回目の講義に出席しない者の履修は原則認めないので注意すること。
- (2) 講義資料は、TNEXTの「授業資料」に掲示するので各自ダウンロードすること。
- (3) 期末試験は、受講者の人数によっては定期試験期間中ではなく、第15講の時間内に授業内試験として実施する場合があります。その際は、その旨の掲示をTNEXTで行いません。

科目名 キャリア・デザインI(Career Design I)

サブタイトル 社会人になる準備

担当教員 浜田 正幸

■講義目的

社会人と学生は根本的にちがう。
学生から社会人になるためには、シフトチェンジが必要である。
本講をきっかけに、社会人になるためのシフトチェンジすることが目的である。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

- ① 自己分析ができていて、自己PRのスピーチができる
- ② 履歴書を適正に書くことができる
- ③ 社会人基礎力を理解し、日々の生活でその能力を獲得する努力ができる

■講義形態

講義+GW+GD

■準備学習 (学習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎時間、レポートを課す。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：本講全体の内容と、取り扱う範囲の説明。

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・キャリアデザイン、社会人基礎力、就職活動カレンダー

<第 2 講>

概要：自分を伝える①

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・自己分析、社会人基礎力、自己PR

<第 3 講>

概要：自己分析

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・自己分析、マインドマップ、自分史

<第 4 講>

概要：履歴書の書き方

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・マインドマップ、自己分析、自己PR、履歴書、エントリーシート

<第 5 講>

概要：自分の適性、やりたいことを特定する

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・適性、ホランドの六角形、自分史分析、CAN、WILL、MUST

<第 6 講>

概要：業種・業界・会社探索

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・業種・業界、業界マップ、会社四季報、就職四季報

<第 7 講>

概要：志望動機

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・志望動機、企業理念・ビジョン、エントリーシート

<第 8 講>

概要：社会人になる時間軸

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・就活解禁、企業の採用活動・時期、インターンシップ、会社説明会、エントリー、SPI、選考

<第 9 講>

概要：会社の仕組み「社員区分」

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・総合職、一般職、正規社員、契約社員、派遣社員

<第 10 講>

概要：会社の仕組み「評価制度」

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・評価制度、成果主義、能力評価、成果(業績)評価、人物評価

<第 11 講>

概要：会社の仕組み「賃金制度」

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・基本給、手当、賞与、賃金テーブル、昇給、評価制度、ベースアップ、初任給、税金、社会保険

<第 12 講>

概要：会社の仕組み「キャリアシステム」

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・昇進、昇格、評価制度、ジョブエントリー、就社、人事異動、適材適所

<第 13 講>

概要：グループディスカッションの演習

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・グループディスカッションの進め方、グループワークの進め方、グループディスカッションの評価、役割分担

<第 14 講>

概要：グループディスカッションの演習

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・前回の反省と改善ポイント。

<第 15 講>

概要：確認テスト

事前,事後学習ポイント：第1講から第14講までの、理解度確認テストを実施するので、すべての講義録を復習しておくこと。

■教科書

■指定図書

「就職四季報」東洋経済新報社

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

毎回課外レポート、出席、講義への積極的参加、確認テストを総合的に100%として評価する。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：社会人として認められるレベルに達している場合。

評価A (89~80点)：出席、レポート、確認テストすべてに十分到達している場合。

評価B (79~70点)：出席、レポート、確認テストのいずれかが不十分な場合。

評価C (69~60点)：出席、レポート、確認テストとも十分ではないが、今後の努力を期待する場合。

評価F (59点以下)：出席、レポート、確認テストすべてが未達の場合

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名

キャリア・デザイン入門(Introduction to Career Design)

サブタイトル

「自分の人生」を考える

担当教員

浜田 正幸

■講義目的

社会人になるイメージを形成するとともに、具体的な自立の方法、自分にとっての幸せな人生、それを実現するための大学生生活の計画を立案することが本講の目的である。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

- ① 自立イメージの確立
- ② 自分にとっての「幸せな人生」のイメージ化
- ③ 大学生生活の計画立案

■講義形態

講義+GW+GD

■準備学習(予習・復習等)に必要時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎回の講義でレポートを課す。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：本講で扱う「キャリアデザイン」の範囲について説明する。

また周辺領域の学問との関連性についても開設する。

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・キャリア、キャリアデザイン、人生、将来設計、生涯発達

<第 2 講>

概要：社会人として求められる能力である「社会人基礎力」を学ぶ

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・社会人基礎力、前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)

<第 3 講>

概要：自分の人生を考える(イメージしてみる)

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・キャリアゴール、キャリアの形成のさげ方(キャリア理論)、20代

<第 4 講>

概要：自立するために、おカネはいくら必要か。

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・キャリア自立、初任給、年収、生涯所得。

<第 5 講>

概要：おカネの稼ぎ方「起業」

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・起業、事業計画、資本金、初期投資、販売費及び一般管理費、給与

<第 6 講>

概要：キャリア形成の3要素 MUST WILL CAN

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・キャリア形成、MUST、WILL、CAN

<第 7 講>

概要：キャリア形成。自分の得意なこと、やり続けられることは何か。

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・キャリア形成の要素、CAN、人生天気図、

<第 8 講>

概要：働くということ、バイトと何がちがうのか。

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・フルタイム、付加価値の創造、インターンシップ

<第 9 講>

概要：なんのために働くのか？

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・孤立死、飢餓、食料自給率、ストリートチルドレン、

<第 10 講>

概要：大きな社会を動かす小さな仕事

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・社会の分業、地域の分業、社会を回す仕組み

<第 11 講>

概要：人生を考えてみる

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・20歳代、特攻隊、戦争、富の配分

<第 12 講>

概要：仕事(働く)とおカネ、趣味

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・趣味と仕事の違い、笹部新太郎、荘川桜

<第 13 講>

概要：さまざまな労働観

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・キリスト教の労働観、プロテスタント、日本の労働観、農耕民族

<第 14 講>

概要：社会で生きていくための自衛策

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・格差社会、資本主義、階級、権利と義務

<第 15 講>

概要：確認テスト

事前,事後学習ポイント：これまでの第1講から14講までの理解度確認テストを実施するので、すべての復習をすること。

■教科書

■指定図書

「夢に日付を」渡邊美樹著 あさ出版

「それでも僕は夢をみる」水野敦也著 文響出版

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席、毎回のレポート、確認テストを総合的に100%として評価する。

■評価基準

評価A+(90点以上)：ラーニングゴールに十分到達している。

評価A(89~80点)：ラーニングゴールにほぼ到達している場合。

評価B(79~70点)：ラーニングゴールへの到達が十分とは言えない場合。

評価C(69~60点)：ラーニングゴールに到達していないが、キャリアデザインに関する理解が少しはできている場合。

評価F(59点以下)：ラーニングゴールにはるかに到達しておらず、キャリアデザインに關して理解できていない場合。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 クリエイティブデザインI(Creative Design I)

サブタイトル マルチメディア実践 / 動画制作ほか

担当教員 彩藤 ひろみ

■講義目的

動画を作成する機会が増えてきた。PCを使って動画編集をする方法を学ぶ。完成ムービーを使う方法として、SNSやAR化にチャレンジする。さらに、魅力的なシナリオ構築の方法を身につける。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

動画編集について基本的な知識を習得する。
その周辺で、デジタル図形の描き方、使い方、色の仕組み、著作権フリーの映像や音楽の探し方、使い方を理解する。
シナリオの作り方、それを実現する方法についても演習を通じて理解する。

■講義形態

講義 + GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

好きな映画やアニメ、CMなどをよく見て、どこが面白いポイントなのか、自分なりに分析してみる。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：6秒ムービーの鑑賞

事前、事後学習ポイント：6秒ムービーの鑑賞と面白いポイントをレポート

<第 2 講>

概要：gifアニメーションの作成

事前、事後学習ポイント：画像フォーマットの勉強。

GIFアニメーション作品づくり。

<第 3 講>

概要：ムービー編集はじめの一步

事前、事後学習ポイント：シナリオ作り

<第 4 講>

概要：ムービーの特殊効果について

事前、事後学習ポイント：動画編集手法を調べておく

<第 5 講>

概要：音楽やサウンド効果について

事前、事後学習ポイント：音楽利用の際の著作権について調べておく

<第 6 講>

概要：第 1 作品 6秒ムービーの完成と鑑賞

事前、事後学習ポイント：作品づくり

<第 7 講>

概要：イラスト作成方法の習得

事前、事後学習ポイント：動植物、人物観察とテッサン

<第 8 講>

概要：ベクトルデータの活用

事前、事後学習ポイント：動画面素材として図形を使うことを考え、ベクトル形式の図形を作成する方法を学ぶ

<第 9 講>

概要：3DCGの活用

事前、事後学習ポイント：動画面素材として3DCGを使うことを想定し、作品の作り方、動画への組み込み方法を学ぶ。

<第 10 講>

概要：第 2 作品の構想

事前、事後学習ポイント：第 2 作品のための作業

<第 11 講>

概要：第 2 作品 イラストと実写の組み合わせ、または、3DCGと実写の組み合わせ
編集した動画を発表する。

事前、事後学習ポイント：第 2 作品仕上げ

<第 12 講>

概要：動画編集基礎知識確認

事前、事後学習ポイント：基礎知識の習得

<第 13 講>

概要：グループ作品シナリオ作り

事前、事後学習ポイント：グループ登録とシナリオ作成

<第 14 講>

概要：作品中間チェックと仕上げのための作業

事前、事後学習ポイント：編集済み動画のCD (またはDVD) 焼き付け

<第 15 講>

概要：作品発表会

事前、事後学習ポイント：動画編集と作品の完成

■教科書

■指定図書

「テンプレート式 超ショート小説の書き方」 高橋フミアキ 総合科学出版 (2014/10/24)

「物語の法則 強い物語とキャラを作るハリウッド式創作術」 クリストファー・ボグラー (著)、デイビッド・マックナ (著)、府川由美恵 (翻訳) アスキー・メディアワークス (2013/9/26)

■参考文献・参考URL / Reference List

<http://pub.edu.tama.ac.jp/hiro>

(授業用HP,ただし、学内ネットワークからのみ参照可能)

■評価方法

授業内基礎知識テスト (20%)

作品の技術点 (40%) と芸術点 (40%) をあわせて判断する。

課題が順番に設定されるので、それを途中放棄した場合には、到達目標に達したとみなさない。

課題ごとに評価を行い、最終得点に加算していく。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 動画編集に対する基本的知識を習得しているもの。各課題での技術点と芸術点が特に優れているもの。

評価A (89~80点) : 動画編集をできるもの。各課題での技術点と芸術点が優れているもの。

評価B (79~70点) : 普通程度の動画編集知識があり、作品づくりが出来たもの。

評価C (69~60点) : 頑張ったことがわかる作品を作れたもの。

評価F (59点以下) : 課題の放棄、修正を行わなかったもの。

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

マルチメディア実践の読み替え科目になる。

最初からPCは必須になる。マウスを準備するほうがよい。

科目名 クリエイティブデザインII (Creative Design II)

サブタイトル

担当教員 増田 浩通

■講義目的

コンピュータ、通信技術、通信網の発達とその融合によって、インターネットなどの通信ネットワークが急速に発達してきた。本講義では、情報ネットワークの概念と役割、基礎技術、LAN、インターネットの概要について学ぶ。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

本講義で説明する情報理論については、ビジネスサポート等の情報技術者試験の問題を解くことができるレベルに到達することを目標とする。

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

教科書をよく読んでおくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：ガイダンスと課題の提示

事前,事後学習ポイント：情報ネットワーク

<第 2 講>

概要：情報化時代のルールとマナー

事前,事後学習ポイント：ライフログ、情報セキュリティ

<第 3 講>

概要：通信ネットワークとは

事前,事後学習ポイント：アナログ、デジタル、情報格差（デジタルデバイド）

<第 4 講>

概要：モバイル通信のネットワーク

事前,事後学習ポイント：bps、サーバー、クライアント

<第 5 講>

概要：コンピュータとネットワークの歴史

事前,事後学習ポイント：フォンノイマン、チューリングマシン

<第 6 講>

概要：コンピュータの原理

事前,事後学習ポイント：二進法の計算、論理演算

<第 7 講>

概要：通信技術の概要

事前,事後学習ポイント：A-D変換、D-A変換、パルス符号変調

<第 8 講>

概要：中間レポートの作成

事前,事後学習ポイント：なし

<第 9 講>

概要：データネットワーク技術

事前,事後学習ポイント：同期・非同期、伝送制御、プロトコル、IPパケット

<第 10 講>

概要：誤り制御

事前,事後学習ポイント：パリティチェック方式、CRC方式

<第 11 講>

概要：ネットワークの接続形態とOS I 参照モデル

事前,事後学習ポイント：ノード、リンク、OS I 参照モデル。

<第 12 講>

概要：情報ネットワークの使われ方

事前,事後学習ポイント：WAN、LAN、IPネットワーク

<第 13 講>

概要：インターネットの仕組み

事前,事後学習ポイント：TCP/IP、IPアドレス

<第 14 講>

概要：ネットワークセキュリティ

事前,事後学習ポイント：コンピュータウイルス、情報セキュリティ

<第 15 講>

概要：期末テスト

事前,事後学習ポイント：なし

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

中間レポート50%

期末テスト50%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：中間レポートと期末テストで評価する。

評価A (89~80点)：中間レポートと期末テストで評価する。

評価B (79~70点)：中間レポートと期末テストで評価する。

評価C (69~60点)：中間レポートと期末テストで評価する。

評価F (59点以下)：中間レポートと期末テストで評価する。 中間レポートの提出がないか、または期末テストを受けないと評価はFとする。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 グローバルエコノミー I (Global Economy I)

サブタイトル 国際経済 (International Economics)

担当教員 下井 直毅

■講義目的

この講義では、最新事例を紹介しつつ、国際経済をめぐる問題をとりあげる。国際経済は日本経済に大きな影響を及ぼしている。グローバル化という言葉をよく耳にするが、世界の経済状況がめまぐるしく変わる中で、その動きを理解することはとても大切である。日頃、目や耳にしている出来事や現象を通して、日本や世界を取り巻く産業社会における経済動向の仕組みやメカニズムについて学んでほしい。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス

■到達目標

世界経済の現状と課題についての基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業内資料の熟読

■講義の概要

<第 1 講>

概要：国際化の中の日本－日本経済の状況を概観する
事前、事後学習ポイント：ポーターズ化、グローバル

<第 2 講>

概要：戦後の国際経済体制の流れについて－戦後の国際経済体制の流れをおさえる
事前、事後学習ポイント：先進国、途上国、新興国、GATT、IMF

<第 3 講>

概要：貿易の基本的メカニズムについて(1)－貿易の基本的メカニズムについて理解する
事前、事後学習ポイント：交易条件、絶対優位、比較優位

<第 4 講>

概要：貿易の基本的メカニズムについて(2)－貿易の基本的メカニズムについて理解する
事前、事後学習ポイント：ヘクシャー＝オリーンの貿易理論

<第 5 講>

概要：保護貿易や自由貿易の功罪－保護貿易や自由貿易について理解する
事前、事後学習ポイント：関税、輸入数量制限、非関税障壁、貿易の利益

<第 6 講>

概要：外国為替について－外国為替について理解する
事前、事後学習ポイント：外国為替市場、為替レート

<第 7 講>

概要：為替レートの決定理論 (1)－短期の為替レートの決定理論について理解する
事前、事後学習ポイント：金利裁定

<第 8 講>

概要：為替レートの決定理論 (2)－長期の為替レートの決定理論について理解する
事前、事後学習ポイント：購買力平価、ビッグマック指数

<第 9 講>

概要：為替相場制度について－様々な為替相場制度について理解する
事前、事後学習ポイント：固定相場制度、通貨バスケット制度、変動相場制度

<第 10 講>

概要：国際収支表の見方 (1)－国際収支表の見方を理解する
事前、事後学習ポイント：経常収支、貿易収支、サービス収支、第一次所得収支、第二次所得収支

<第 11 講>

概要：国際収支表の見方 (2)－国際収支表の見方を理解する
事前、事後学習ポイント：金融収支、直接投資

<第 12 講>

概要：貿易摩擦について－貿易摩擦の歴史を振り返る
事前、事後学習ポイント：ダンピング、輸出自主規制、集中豪雨の輸出、セーフガード

<第 13 講>

概要：GATT/WTOの原則と例外について－GATT/WTOの原則と例外について理解する
事前、事後学習ポイント：自由貿易協定、農業自由化問題、セーフガード協定、FTA

<第 14 講>

概要：開放経済における経済政策について－開放経済における経済政策について理解する
事前、事後学習ポイント：財政政策、金融政策、マンデル＝フレミングモデル

<第 15 講>

概要：まとめ－これまでの復習

事前、事後学習ポイント：貿易、為替レート、国際収支、貿易摩擦、GATT/WTO体制

■教科書

特になし

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出底点あるいは授業の平常点 (30%)、試験 (70%)。合計100%で100点満点。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：世界経済の現状と課題についての基本的な知識をほぼすべて修得できている

評価A (89～80点)：世界経済の現状と課題についての基本的な知識をかなり修得できている

評価B (79～70点)：世界経済の現状と課題についての基本的な知識を十分に修得できている

評価C (69～60点)：世界経済の現状と課題についての基本的な知識をある程度修得できている

評価F (59点以下)：世界経済の現状と課題についての基本的な知識を修得できていない

■履修していることが望ましい科目

ミクロ経済学、マクロ経済学

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名

グローバルエコノミーⅠⅠ (Global Economy ⅠⅠ)

サブタイトル

金融論 (Finance)

担当教員

下井 直毅

■講義目的

この講義では、金融の理論と仕組みの基礎知識について学ぶ。また、産業社会にとっても重要である金融の役割を理解する。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

日本の金融の現状と課題についての基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ

■準備学習 (学習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

教科書の該当する範囲の熟読

■講義の概要

<第 1 講>

概要：金融の基本的な機能－金融の基本的な機能を理解する

事前,事後学習ポイント：ファイナンス、証券市場、金融資産、負債、直接金融、間接金融

<第 2 講>

概要：企業と政府のファイナンス－企業と政府のファイナンスを理解する

事前,事後学習ポイント：資金調達、内部資金、外部資金、財政赤字、国債

<第 3 講>

概要：日本の金融機関と金融市場－日本の金融機関や金融市場について理解する

事前,事後学習ポイント：日本銀行、金融仲介機関、証券会社、金融市場

<第 4 講>

概要：貨幣とインフレ－貨幣とインフレについて理解する

事前,事後学習ポイント：マネーストック、マネタリーベース、インフレ、デフレ

<第 5 講>

概要：金融政策の運営－金融政策の運営について理解する

事前,事後学習ポイント：金融政策、公開市場操作、貨幣創造、量的緩和政策

<第 6 講>

概要：債券市場と金利－債券市場と金利について理解する

事前,事後学習ポイント：国債市場、社債、転換社債、ワラント債、現在価値

<第 7 講>

概要：株式市場と株価－株式市場と株価について理解する

事前,事後学習ポイント：証券取引所、上場、日経平均株価、TOPIX、バブル

<第 8 講>

概要：金融規制の課題と仕組み－金融規制の課題と仕組みについて理解する

事前,事後学習ポイント：金融規制、情報の非対称性、ブルーデンジャール規制、自己資本規制、インサイダー取引

<第 9 講>

概要：金融危機の発生－金融危機の発生について理解する

事前,事後学習ポイント：金融危機、不良債権、信用収縮、預金保険制度、サブプライムローン危機、証券化

<第 10 講>

概要：国際金融－国際金融について理解する

事前,事後学習ポイント：外国為替市場、為替レート、投機、資本流出、資本流入

<第 11 講>

概要：金融派生商品とリスク－ハッジ－金融派生商品とリスク・ハッジについて理解する

事前,事後学習ポイント：金融派生商品、リスク・ハッジ、先物、差金決済、プット・オプション、コール・オプション

<第 12 講>

概要：日本の金融をめぐる諸問題 (Ⅰ)－日本の金融をめぐる諸問題を理解する

事前,事後学習ポイント：円の国際化、グローバル、アジア

<第 13 講>

概要：日本の金融をめぐる諸問題 (Ⅱ)－日本の金融をめぐる諸問題を理解する

事前,事後学習ポイント：金融機能、金融市場

<第 14 講>

概要：講義前半の復習－金融の基本的な機能や金融市場について復習する

事前,事後学習ポイント：金融、直接金融、間接金融、金融機関

<第 15 講>

概要：講義後半の復習－金融規制の課題や金融危機発生メカニズムを復習する
事前,事後学習ポイント：金融規制、自己資本比率規制、金融危機、バブル

■教科書

谷内満「入門金融の現実と理論」(第2版) センゲージラーニング (2013年)

■指定図書

池尾和人「現代の金融入門」(ちくま新書) 筑摩書房 (2010年)

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席点あるいは授業の平常点 (30%)、試験 (70%)。合計100%で100点満点。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：日本の金融の現状と課題についての基本的な知識をほぼすべて修得できている

評価A (89～80点)：日本の金融の現状と課題についての基本的な知識をかなり修得できている

評価B (79～70点)：日本の金融の現状と課題についての基本的な知識を十分に修得できている

評価C (69～60点)：日本の金融の現状と課題についての基本的な知識をある程度修得できている

評価F (59点以下)：日本の金融の現状と課題についての基本的な知識を修得できていない

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名 グローバルエコノミーⅢ (Global Economy Ⅲ)

サブタイトル プレゼンと討論による学び

担当教員 椎木 哲太郎

■講義目的

日本経済を分析対象とし、経済学の視点、歴史的視点、社会経済システム論的視点からアプローチする。さらに産業、貿易、労働、金融、財政、社会保障といった各分野毎の切り口からも接近を試みる。それによって、日本経済の現状と課題をトータルに把握したい。その上で、経済政策の果たした役割についても具体的事例に即して検討し、日本経済を取り巻く大きな環境変化に対応して、国民生活の質を高めていくための「問題解決策」として、制度改革も含めた経済政策のあり方を考える。グループワークによる調査・報告(プレゼンテーション)と討論(ディスカッション)を中心に進めていく予定である。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

経済学の理論を援用して日本経済の現状・因果連関を分析し、環境変化に伴って解決すべき課題を明らかにする中で、企業活動と市民生活に不可欠な日本経済に関するトータルな認識を深め、「問題解決」に通じる望ましい経済政策を構想することができる。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

1人最低20分の報告(プレゼンテーション)のために、シラバスを参考に報告テーマに該当する日本経済に関連した2冊以上の専門書を読み、入念な準備として4時間以上費やすこと。

毎週(全員)の報告に対して、必ずコメント・質問を記入したペーパーを提出すること。

■講義の概要

<第1講>

概要：日本経済論の課題
日本経済が直面する諸課題と、本講座全体を貫く問題意識を明確にする。

事前,事後学習ポイント：日本経済をめぐる諸問題

<第2講>

概要：日本経済へのアプローチ
日本経済にアプローチするための三つの視点を提起する。

事前,事後学習ポイント：経済システム、制度、ISバランス、経済成長、TFP、マクロ経済学(経済学入門の後半部分を復習しておくこと)

<第3講>

概要：世界経済の中の日本経済
第二次世界大戦後の世界経済の展開の中における日本経済の史的分析を試みる。

事前,事後学習ポイント：ブレトンウッズ体制、IMF-GATT体制、流動性のデレンマ、石油危機、変動相場制、スタグフレーション、プラザ合意、グローバル市場経済化、WTO、アジア通貨危機、リーマンショック、バブルIII

<第4講>

概要：日本型経済システムの起源と展開
日本型経済システムの速くない起源とその後展開過程、直面する課題を明らかにする。

事前,事後学習ポイント：近代経済成長、日本型経済システム、歴史的依存性、制度補完性、1940年体制論、日本の経営

<第5講>

概要：高度経済成長とその終焉
1955年から1973年にかけての非西欧諸国で最初の高度経済成長の要因、そしてその終焉に至る過程・要因について考える。

事前,事後学習ポイント：高度経済成長、産業政策、貿易・為替自由化、特定産業振興法案、公害、オイルショック、スタグフレーション、減量経営、行政改革、臨調路線

<第6講>

概要：バブル経済とその崩壊
「バブル経済」の発生と崩壊の原因、その影響を中心に1980年代以降の日本経済を考える。

事前,事後学習ポイント：貿易摩擦、円高不況、土地神話、バブル経済、(逆)資産効果、総量規制、住専処理、不良債権

<第7講>

概要：長期デフレ不況といわゆる「構造改革」
1990年代以降の長期デフレ不況の原因と、いわゆる「構造改革」の意義・成果について

考える。

事前,事後学習ポイント：デフレ不況、構造改革、信用収縮、ブルーデンス政策、量的緩和政策、インフレ・ターゲティング政策、リフレ派、アベノミクス

<第8講>

概要：日本の貿易と直接投資
日本の貿易収支・貿易構造、対内・対外直接投資について考える。

事前,事後学習ポイント：貿易・サービス収支、所得収支、比較優位、貿易依存度、非関税障壁、FTA、TPP、直接投資

<第9講>

概要：日本の産業構造
日本の産業構造といわゆる「リーディング産業論」、産業組織、産業政策について考える。

事前,事後学習ポイント：産業構造、リーディング産業、サービス産業、産業政策、ターゲティング政策、産業集積、規制緩和、特区、構造調整政策

<第10講>

概要：日本の労働市場
日本の労働市場の特質・問題点を明らかにし、改革の方向性を考える。

事前,事後学習ポイント：内部労働市場、長期雇用慣行、年功賃金、労働力人口、ワークライフバランス、非正規雇用、ワーキングプア、M字カーブ、移民問題

<第11講>

概要：日本の金融
日本の金融システムの現状・特質と、グローバルな金融自由化の中での課題について考える。

事前,事後学習ポイント：金融市場、直接金融、間接金融、日本版金融ビッグバン、システムリスク、コミットメント、マイクロ・ファイナンス、ベンチャーキャピタル、GPIF

<第12講>

概要：日本の財政
日本の財政の現状と、財政赤字等の諸課題、財政改革の方向性について考える。

事前,事後学習ポイント：プライマリー・バランス、中立命題、国民負担率

<第13講>

概要：日本の税制
日本の税制の現状と、グローバル化、少子高齢化の中での制度改革の方向性を考える。

事前,事後学習ポイント：シャウプ税制、租税負担率、直接税と間接税、世代間公平、水平的公平、課税ベース、納税者番号制度、所得控除と税額控除、累進税率、世帯課税、消費税、所得税、法人税、相続税、地方税、環境税、寄付税制

<第14講>

概要：日本の社会保障と経済
日本の社会保障制度の概要と政策の特質を明らかにし、経済との関係を考える。

事前,事後学習ポイント：ジニ係数、相対的貧困率、子どもの貧困、人生前半の社会保障、社会支出、年金制度、積立方式、賦課方式、生活保護制度、医療制度、診療報酬、プライマリケア、障害者福祉、介護保険、税と社会保障の一体改革

<第15講>

概要：日本経済の全体像
歴史的分析と各論からのアプローチを踏まえて、日本経済の全体像、将来像を考える。

事前,事後学習ポイント：講義・報告全体のみまとめ

■教科書

使用しない(資料を毎回配布する)。発表に際しては、必ず2冊以上の参考文献を読み、明示すること。

■指定図書

今年度：なし

■参考文献・参考URL / Reference List

[1] 浅子和美、篠原総一編(2011)『入門日本経済』(第4版)有斐閣
[2] 小峰隆夫・村田啓子(2012)『最新日本経済入門』(第4版)日本評論社
[3] 橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・藤森直(2011)『現代日本経済』(第3版)有斐閣アルマ
[4] 大宋洋一(2010)『戦後日本経済論 成長経済から成熟経済への転換』東洋経済新報社
[5] 中村隆英(1990)『日本経済』(第3版)東京大学出版会
[6] 正村公宏(1990)『戦後史』(上・下)ちくま文庫[原著：1985]
[7] 椎木武徳(2009)『戦後世界経済史 自由と平等の視点から』中公新書
[8] 香西泰(1981)『高度成長の時代』日本評論社(←日経ビジネス人文庫)

- [9]岡崎哲二 (1997) 『工業化の軌跡 (20世紀の日本 (5))』読売新聞社
 [10]川崎洋 (1997) 『高度成長 (20世紀の日本 (6))』読売新聞社 (←中公文庫)
 [11]橋本寿朗 (2000) 『現代日本経済史』岩波テキストブックス
 [12]橋本俊昭編 (2003) 『戦後日本経済を検証する』東京大学出版会
 [13]奥本又郎 (1999) 『企業家たちの挑戦 (日本の近代11)』中央公論新社
 [14]小宮隆太郎 (1988) 『現代日本経済 マクロ的展開と国際経済関係』東京大学出版会
 [15]企業行動研究グループ編 (1995) 『日本企業の適応力』日本経済新聞社
 [16]村松政夫・奥野正寛編 (2002) 『平成パブルの研究』(上・下) 東洋経済新報社
 [17]奥村洋彦 (1999) 『現代日本経済論』東洋経済新報社
 [18]田中隆之 (2002) 『現代日本経済 パブルとポスト・パブルの軌跡』日本評論社
 [19]若田紀久男・宮川努編 (2003) 『失われた10年の原因は何か』東洋経済新報社
 [20]浜田宏一・堀内昭義・内閣府経済社会総合研究所編 (2004) 『論争 日本の経済危機』日本経済新聞社
 [21]小川一夫 (2009) 『「失われた10年」の真実』東洋経済新報社
 [22]小峰隆夫 (2006) 『日本経済の構造変動』岩波書店
 [23]深尾宗司 (2012) 『「失われた20年」と日本経済 構造的要因と再生への原動力の解明』日本経済新聞出版社
 [24]鶴光太郎 (2006) 『日本の経済システム改革 「失われた15年」を超えて』日本経済新聞社
 [25]浦田秀次郎・財務省財務総合研究所編 (2009) 『グローバル化と日本経済』勁草書房
 [26]森川正之 (2014) 『サービス産業の生産性分析 ミクロデータによる実証』日本評論社
 [27]鹿野嘉昭 () 『日本の金融制度』(第2版) 東洋経済新報社
 [28]白川光明 (2008) 『日本の金融政策: 理論と実際』日本経済新聞出版社
 [29]穂田和男 (2005) 『ゼロ金利との闘い: 日銀の金融政策を総括する』日本経済新聞出版社
 [30]田中隆之 (2008) 『「失われた15年」と金融政策 日銀は何を行い何をなしたか』日本経済新聞出版社
 [31]池尾和人 (2006) 『開発主義の暴走と保身 金融システムと平成経済』NTT出版
 [32]山本勲・黒田祥子 (2014) 『労働時間の経済分析 高齢社会の働き方を展望する』日本経済新聞出版社
 [33]可部哲生編 (2014) 『図説日本の財政 平成26年度版』東洋経済新報社
 [34]森信茂樹 (2010) 『日本の税制 何が問題か』岩波書店
 [35]須藤時仁・野村容康 (2014) 『日本経済の構造変化 長期停滞からなぜ抜け出せないのか』岩波書店
 [36]駒村康平 (2014) 『日本の年金』岩波新書
 [37]林文夫編 (2007) 『経済制度の実証分析と設計 第1巻 経済停滞の原因と制度』勁草書房
 [38]林文夫編 (2007) 『経済制度の実証分析と設計 第2巻 金融の機能不全』勁草書房
 [39]林文夫編 (2007) 『経済制度の実証分析と設計 第3巻 経済制度設計』勁草書房
 [40]内閣府経済社会総合研究所企画・監修 (深尾宗司編) (2009) 『パブル/デフレ期の日本経済と経済政策1 マクロ経済と産業構造』慶應義塾大学出版会
 [41]内閣府経済社会総合研究所企画・監修 (吉川洋編) (2009) 『パブル/デフレ期の日本経済と経済政策2 デフレ経済と金融政策』慶應義塾大学出版会
 [42]内閣府経済社会総合研究所企画・監修 (伊藤元重編) (2009) 『パブル/デフレ期の日本経済と経済政策3 国際環境の変化と日本経済』慶應義塾大学出版会
 [43]内閣府経済社会総合研究所企画・監修 (池尾和人編) (2009) 『パブル/デフレ期の日本経済と経済政策4 不良債権と金融危機』慶應義塾大学出版会
 [44]内閣府経済社会総合研究所企画・監修 (井堀利宏編) (2010) 『パブル/デフレ期の日本経済と経済政策5 財政政策と社会保障』慶應義塾大学出版会
 [45]内閣府経済社会総合研究所企画・監修 (樋口義雄編) (2010) 『パブル/デフレ期の日本経済と経済政策6 労働市場と所得分配』慶應義塾大学出版会
 [46]内閣府経済社会総合研究所企画・監修 (寺西重郎編) (2010) 『パブル/デフレ期の日本経済と経済政策7 構造問題と規制緩和』慶應義塾大学出版会

■評価方法

最終レポート (60%)、報告・討論 [×モ]・出席 (40%)

■評価基準

- 評価A+ (90点以上) : 発表・討論ともに極めて優秀である
 評価A (89~80点) : 発表・討論ともに優秀である
 評価B (79~70点) : 発表・討論ともに良い
 評価C (69~60点) : 発表・討論ともに普通
 評価F (59点以下) : 発表・討論ともに不十分

■履修していることが望ましい科目

経済学入門 (産業社会論入門: 経済学)

マクロ経済学

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

報告 (プレゼン) に際しては、何冊かの参考文献を読んで頂く。第1~第3回の講義で分担任決定するので、必ず出席すること。この間の講義に出席しなかった (分担任決定に参加しなかった) 諸君には、履修を許可しない。

プレゼン、最終レポート作成にあたっては、MS Office、Excelを使いこなすことを目標とする。最終レポートには必ずExcelで作成したデータを挿入すること。

科目名 グローバルエコノミーⅣ(Global EconomyⅣ)

サブタイトル 経済統計学(Economic Statistics)

担当教員 下井 直毅

■講義目的

産業社会を分析する上では多種多様な問題が提起される。経済成長の見通しはどうかの、中高年層の雇用の予想はどうかの、為替相場の動向はどう予想されるのか、等々である。こうした問題について経済理論はもちろん必要だが、経済統計データもあわせてみる必要がある。この講義では、日本経済の現状および日本経済が抱える課題について学び、最新事例を紹介しつつ、その際に必要なデータについての基礎知識を身につけることを目的としている。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス

■到達目標

日本経済の現状と課題についての基本的な知識や経済データに関する必要な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

教科書の該当する範囲の熟読

■講義の概要

<第 1 講>

概要：日本経済の全体像－日本経済の全体像を把握する
事前,事後学習ポイント：GDP、経済成長

<第 2 講>

概要：戦後日本の経済成長－戦後日本の経済成長の推移を理解する
事前,事後学習ポイント：経済成長、需要、供給

<第 3 講>

概要：景気循環の姿とそのとらえ方－景気循環について理解する
事前,事後学習ポイント：景気循環、先行指数、一致指数、先行指数

<第 4 講>

概要：ストックから見た日本経済－ストック面から日本経済を概観する
事前,事後学習ポイント：資産、実物資産、金融資産

<第 5 講>

概要：雇用の変動と日本型雇用慣行の行方－雇用環境について理解する
事前,事後学習ポイント：完全失業率、有効求人倍率、終身雇用制度、年功賃金制度

<第 6 講>

概要：企業行動と日本型企業経営の行方－日本の企業行動について理解する
事前,事後学習ポイント：合意の誤謬、バブル、日本型企業経営

<第 7 講>

概要：産業構造の変化と将来のリーディング産業－産業構造の変化や将来のリーディング産業について考える
事前,事後学習ポイント：アジア、グローバル、サービス化

<第 8 講>

概要：物価の変動とデフレ問題－物価の変動とデフレの問題について理解する
事前,事後学習ポイント：消費者物価指数、インフレ、デフレ

<第 9 講>

概要：円レートの変動と日本経済－為替相場の変動や日本経済に及ぼす影響について理解する
事前,事後学習ポイント：為替レート、交易条件、Jカーブ

<第 10 講>

概要：貿易と国際収支の姿－貿易と国際収支の姿を概観する
事前,事後学習ポイント：比較優位、経常収支

<第 11 講>

概要：直接投資と空洞化をめぐる議論－直接投資と空洞化をめぐる議論を概観する
事前,事後学習ポイント：対外直接投資、対内直接投資、空洞化

<第 12 講>

概要：財政をめぐる諸問題－財政をめぐる諸問題について考える
事前,事後学習ポイント：クラウディング・アウト、リカードの等価定理、プライマリー・バランス

<第 13 講>

概要：経済再生の鍵を握る金融－経済再生の鍵を握る金融について考える
事前,事後学習ポイント：安全資産、危険資産、金融政策、間接金融、直接金融

<第 14 講>

概要：講義前半の復習
事前,事後学習ポイント：経済成長、景気循環、雇用

<第 15 講>

概要：講義後半の復習
事前,事後学習ポイント：産業構造、デフレからの脱却、為替相場、国際収支

■教科書

小峰隆夫「最新 日本経済入門」(第4版) 日本評論社(2012年)

■指定図書

日経ビジネス『日経ビジネス 日本経済入門』日経BP社(2014年)

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席点あるいは授業の平常点(30%)、試験(70%)。合計100%で100点満点。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：日本経済の現状と課題についての基本的な知識や経済データに関する必要な知識をほぼすべて修得できている

評価A (89~80点)：日本経済の現状と課題についての基本的な知識や経済データに関する必要な知識をかなり修得できている

評価B (79~70点)：日本経済の現状と課題についての基本的な知識や経済データに関する必要な知識を十分に修得できている

評価C (69~60点)：日本経済の現状と課題についての基本的な知識や経済データに関する必要な知識をある程度修得できている

評価F (59点以下)：日本経済の現状と課題についての基本的な知識や経済データに関する必要な知識を修得できていない

■履修していることが望ましい科目

グローバルエコノミーⅠ(国際経済)、グローバルエコノミーⅡ(金融論)、グローバルエコノミーⅢ(日本経済論)

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名 グローバルヒストリーⅠ(Global History Ⅰ)

サブタイトル 歴史と文化

担当教員 大森 映子

■講義目的

歴史を学ぶことは、過去の事実を明らかにするだけでなく、現代社会を客観化することでもある。ここでは、過去の日本社会の特質を歴史的に振り返りながら、現代社会がかかえている矛盾点を明らかにし、問題解決の方法を探る糸口を考える。今年度扱う問題は、次の2点である。第一は、先端技術に支えられた文化の復元である。これまで漠然と「思い込み」で理解されてきた日本文化の実像を明らかにし、文化的特質を再検討する。また第二には、世界遺産の問題を取り上げる。世界遺産は、観光資源として位置づけられがちであるが、その本来の意味はどこにあるのか。世界遺産を通して、過去の日本社会が「自然」に対してどのように向き合ってきたのかを明らかにする。

■講義分類

社会力育成
地域ビジネス
グローバルビジネス

■到達目標

- (1)過去の事実に向き合うことの重要性を理解する。
- (2)歴史認識は、現代社会の矛盾点を浮き彫りにするものであることを理解する。
- (3)歴史を踏まえて、自分なりの意見をもてるようにする。

■講義形態

講義

■準備学習（学習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎回の授業前に、取り上げる時代についてあらかじめ学んでおく。また、復習を重視し、授業内で示されたキーワードについて理解を深めておく。

■講義の概要

<第1講>

概要：15回の授業の方針と概要

事前,事後学習ポイント：高校の日本史の教科書、あるいはそれに準じる日本史関係の文献を把握しておく。

<第2講>

概要：古代の部 一発掘調査の成果とCG技術による復元

事前,事後学習ポイント：日本の古代史を復習し、7世紀頃の時代像を把握しておく。

<第3講>

概要：寺院と仏像の復元 一奈良～平安時代の寺院のイメージ

事前,事後学習ポイント：奈良時代の政治史的な流れを把握し、時代像を確認しておく。

<第4講>

概要：CG技術による絵画の復元 一源氏物語絵巻と屏風絵

事前,事後学習ポイント：平安時代の政治史的な流れを把握しておく。

<第5講>

概要：沈没船の調査 一水中考古学の世界

事前,事後学習ポイント：鎌倉時代の歴史を学び、当時のアジア社会との関係を概観しておく。

<第6講>

概要：消滅した城の復元(1) 一信長の居城

事前,事後学習ポイント：戦国時代の時代的特徴を学んでおく。

<第7講>

概要：消滅した城の復元(2) 一朝鮮侵略の前線基地

事前,事後学習ポイント：15世紀後半の歴史的な流れを把握しておく。

<第8講>

概要：CG技術の限界

事前,事後学習ポイント：1～7講までの復習

<第9講>

概要：世界遺産と自然災害 一台風被害

事前,事後学習ポイント：世界遺産に登録されている日本の諸物件について確認しておく。

<第10講>

概要：世界遺産とは何か 一国際協力の発端

事前,事後学習ポイント：前回の授業の復習とともに、世界の遺産登録について概観しておく。

<第11講>

概要：危機遺産」と登録抹消事例

事前,事後学習ポイント：前回の授業内容を整理し、世界遺産登録の現状を確認しておく。

<第12講>

概要：日本の世界文化遺産 一木造建造物の特徴

事前,事後学習ポイント：前回の授業内容を復習し、世界遺産に対する考えをまとめておく。

<第13講>

概要：伝統的建造物と地震

事前,事後学習ポイント：前回の復習を中心に、日本の伝統的建造物の特徴についてまとめておく。

<第14講>

概要：自然災害と日本列島

事前,事後学習ポイント：前回の授業を復習し、日本の伝統的建造物の特質について確認する。

<第15講>

概要：まとめ 一文化の維持と継承

事前,事後学習ポイント：授業で扱った内容を振り返り、まとめておく。

■教科書

とくに指定しないが、事前学習、および復習のために、高校の日本史教科書、あるいは下記の指定図書のうちいずれかを手許においておくことが望ましい。

■指定図書

五味文彦・島海靖編『もう一度読む 山川日本史』(山川出版社)

その他の文献については、授業内で適宜指示する。

■参考文献・参考URL / Reference List

授業内で適宜指示する。

■評価方法

平常点60%(出席15%、授業内で求める簡単なレポート45%)、中間・最終レポート40%を原則とする。ただし受講者数によっては、2回のレポートのうち1回を授業内試験とする場合がある。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：授業の趣旨と内容を十分に理解し、自分の意見を持てるようになった。

評価A (89～80点)：授業の趣旨と内容を、基本的に理解し、自分の意見を持てるようになった。

評価B (79～70点)：授業の趣旨と内容を、一応理解できた。

評価C (69～60点)：不十分なところはあるが、授業の趣旨は一応理解できた。

評価F (59点以下)：授業の趣旨、内容ともに理解できていない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

再試は行わない。

■留意点

初回は、授業の方向性を確認する場であるので、必ず出席すること。なお、受講者数によって、一部内容を変更する場合があるので、注意すること。

科目名 グローバルヒストリーII(Global History II)

サブタイトル グローバル近現代史：世界と日本

担当教員 椎木 哲太郎

■講義目的

本講義は、史学科的な歴史研究ではなく、若い諸君が確固たる歴史(時代)認識を持ち、これからの人生にどう向き合うかを考えるための一つの契機となることをめざしている。そして、現代の世界が直面する諸課題とその歴史的背景を知り、複雑な相互連関の中にある国際関係や経済問題を考察するための共通認識を深め、未来への選択につなげていけるような歴史的教訓を得ることをねらいとしている。歴史を動かすものは何かと問いかげよう。さらに、日本の近現代についても、世界史の流れの中で再検討したい。幕末・明治維新以後の日本は、西洋近代の大きな歴史的潮流に抗えず飲み込まれたが、その一方で、渦中に消すことのできない楔を打ち込み、近現代世界史の一頁を飾る主体へ変身した。

グローバル化の中を生き抜くためには、他者を知らねばならない。世界の各地域、欧米や中国、アジア、ロシアやイスラーム世界について理解を深めるには、地政学的視点とともに、その歴史に遡って考察することが不可欠であろう。アジア・太平洋地域の協力関係のあり方をめぐっては議論が分かれているが、仮に「東アジア共同体」といった枠組みを志向するのであれば、EUへの道のりがどのようなるかに満ちたものであったかを追跡しておく必要があるのではないだろうか。少子・高齢社会、「持続可能な社会」への取り組みは、北欧諸国等の「実験」からも示唆を得ることができよう。

半期15回という限られた時間の中で、歴史を扱う際の時代的制約(現代の価値基準で評価することの危険性、等)を十分意識しつつ、こうした現代的問題意識に沿って、通史よりもテーマ中心の大胆なアプローチを試みたい。前半で歴史を動かす諸要因について検討し、後半では欧州、米欧、ロシア、アジア・アフリカ、イスラーム世界、そして日本の近現代史について概観する。20世紀的原理とはいかなるものであったのだろうか。21世紀において、それはどのように展開、変容を遂げていくのであろうか。配布資料の事前の読解(字習)を前提に、ディスカッションを交えた密度の高い講座となるよう心がけた。また諸君にも、自らが歴史を創る主体に他ならないことを銘記して臨んで頂くことを期待する。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会力育成
グローバルビジネス

■到達目標

世界と日本の相互作用、光と影に満ちた近現代史を学ぶことを通じて、現代社会の直面する諸課題の解決につながる豊富な示唆を獲得し、学問としての社会研究の基盤と、グローバル社会に生き、グローバルビジネスを円滑に進めるために有効な視座(歴史観)を構築することができる。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習(字習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる具体的な学習内容

第2回講義以降、毎回翌週分の講義資料(8ページ)を配布する。これを講義まで必ず読了して受講すること。全く読んでこなかった者の参加は認めない。

■講義の概要

<第1講>

概要：近現代史と現代社会

現代とのつながりを意識し、近現代史を学ぶ意義を考える。

事前,事後学習ポイント：近代、現代、第二次世界大戦、国際連合(連合国)、G20

<第2講>

概要：近現代通史を紐解く

近代の始まりから時系列的に近現代史の流れを辿りつける。

事前,事後学習ポイント：近世、ルネサンス、宗教改革、大航海時代、主権国家、科学革命、近代合理主義、市民革命、産業革命、国民国家、議会制民主主義、資本主義、帝国主義、近代経済成長、共産主義、コミンテルン、国家社会主義、ファシズム

<第3講>

概要：歴史からの教訓

歴史からの教訓を得ることの重要性について、第一次世界大戦後のドイツ、「ヴァイマル共和政」を例に考える。「教訓」の引き出し方は、論者によって異なることも学ぶ。

事前,事後学習ポイント：第一次世界大戦、ヴェルサイユ条約、ヴァイマル共和政、ハイパー・インフレーション、ヴァイマル憲法、ヴァイマル文化、社会民主党、シュトレーゼマン、ナチ党

<第4講>

概要：リーダーシップの役割

歴史の動向を決定づけたリーダーたちの決断について、その当否と成否を考える。「歴史

と云えば司馬遼太郎をはじめとする歴史小説」という多くの日本人(経営者)が陥りがちな「英雄史観」の陥穽についても注意深く検討する。

事前,事後学習ポイント：スペイン内戦、ミュンヘン会談、チャーチル、東西「冷戦」、ベルリン危機、キューバ危機、ケネディ、ベトナム戦争、渋澤栄一、英雄史観

<第5講>

概要：近代経済成長と社会経済思想の役割

「豊かさ」を追い求めた近代経済成長の軌跡を概観し、近現代史を動かした(今も動かしている)いくつかの社会経済思想とその影響について掘り下げる。

事前,事後学習ポイント：重商主義、アダム・スミス、自由放任、社会民主主義、共産主義、国家社会主義、ケインズ、混合経済、ブレントウツス体制、ハイエク、フリードマン、新自由主義

<第6講>

概要：欧州の近現代

EU統合に至る帝国主義と二つの世界大戦を経たヨーロッパの近現代史について学ぶ。

事前,事後学習ポイント：EEC、NATO、EU、マーストリヒト条約、欧州議会、社会民主主義、キリスト教民主主義、福祉国家

<第7講>

概要：アメリカの近現代

アメリカとはいかなる国か。自由と民主主義、孤立主義は、200年の歴史の中でどう変貌を遂げたか。

事前,事後学習ポイント：建国宣言、トクヴィル、WASP、モンロー主義、ニューディール連合、公民権運動、ベトナム戦争、対抗文化、レーガノミクス

<第8講>

概要：ロシアの近現代

世界初の共産主義革命を起こした大ロシアの集権制の背景には、何が存在し続けたのか。ソビエト連邦の解体は、いかなる歴史の意味を有するのか。

事前,事後学習ポイント：ロマノフ王朝、ロシア正教会、農奴解放、ロシア革命、ボリシエヴィキ、スターリン、計画経済、独ソ戦、スターリン批判、ペレストロイカ、ソ連解体

<第9講>

概要：中国の近現代

帝国主義の侵略を受け、清朝崩壊から辛亥革命、中華人民共和国の建国、文化大革命を経て高度成長に至る近現代史を考察する。

事前,事後学習ポイント：華夷秩序、冊封体制、清朝、乾隆帝、マカートニー、アヘン戦争、辛亥革命、孫文、国民党、蒋介石、中国共産党、五反田運動、国共内戦、毛沢東、大躍進運動、文化大革命、鄧小平、改革開放、天安門事件

<第10講>

概要：日本の近現代(1)

日本の近代化はどのように実現され、日本人の世界認識はどう変わっていったのか。

事前,事後学習ポイント：江戸時代、「勤王」運動、明治維新、文明開化、自由民権運動、脱亞入欧、大日本帝国憲法、統帥権、家父長制、男尊女卑、日露戦争、韓国併合、普通選挙運動(大正デモクラシー)、治安維持法、在郷軍人会、憲政の常道、無産政党

<第11講>

概要：日本の近現代(2)

アジア・太平洋戦争はなぜ起きたのか。その惨禍はどのようなものであったのか。反省すべき教訓とは何か。戦前と戦後で何が変わったのか。高度経済成長とその終焉から何を学ぶことができるのか。

事前,事後学習ポイント：ワシントン体制、近衛文麿、北一輝、石原莞爾、満州事変、国体、二二六事件、日中戦争、国家総動員法、アジア・太平洋戦争、日本国憲法、占領改革、1955年体制、高度経済成長

<第12講>

概要：アジア・アフリカの近現代

19世紀に欧米の植民地とされたアジア・アフリカ諸国の独立運動とその後の国家経営の軌跡を考察する。貧困からの脱却に成功するためには、何が必要だったのか。

事前,事後学習ポイント：国民会議派、ワイルソンの14カ条、ガンディー、スワデージ、ネルー、ヒンドゥー・ナショナリズム、ASEAN、ベルリン会議、コングム、アバルトハイト、ANC、AU

<第13講>

概要：イスラーム世界の近現代

アフリカから中東、アジアに至る広大なイスラーム世界の近現代史を「復興・改革運動」を軸に展望する。

事前,事後学習ポイント：ワッハブ運動、シオニズム、バルフォア宣言、トルコ革命、汎アラブ主義、中東戦争、イラン革命、イラク戦争、アラブ革命

<第14講>

概要：20世紀から21世紀へ

20世紀とはいかなる世紀であったのか。近現代史の学びを通して、21世紀は何を受け継ぎ、発展させ、何を変えねばならないのかを考える。
事前,事後学習ポイント：産業主義、国民国家、ナショナリズム、大衆民主主義、ポピュリズム、地球環境問題、知識＝情報社会、グローバル化

<第 15 講>

概要：再び、近現代史と現代産業社会

本講座を通じて、我々は近現代史から何を学んだのか。

事前,事後学習ポイント：歴史の潮流、歴史の教訓、歴史観

■教科書

使用しない(毎回、8ページの講義資料を配布する)。

■指定図書

- [1]正村公宏(1995)『現代史』筑摩書房
[2]T.C.W.プランニング編[望月幸男・山田史郎監訳](2009)『オックスフォードヨーロッパ近代史』ミネルヴァ書房
[3]久保亨・山田哲夫・高田幸男・井上士(2008)『現代中国の歴史 兩岸三地100年のあゆみ』東京大学出版会
[4]正村公宏(1996)『世界史のなかの日本近現代史』東洋経済新報社
[5]正村公宏(2010)『日本の近代と現代 歴史をどう読むか』NTT出版

■参考文献・参考URL / Reference List

- [1]須藤真志編(2005)『20世紀現代史』一藝社
[2]ポール・ジョンソン[別宮貞徳訳](1992)『現代史：1917-1991』共同通信社
[3]ウィリアム・H・マクニール[増田義郎・佐々木昭夫訳](2008)『世界史』(上・下)中公文庫
[4]『世界の歴史』[全30巻]中央公論社(1996-1999)
[5]『岩波講座 世界歴史』[全28巻]岩波書店(1997-2000)
[6]『興亡の世界史』[全21巻]講談社(2006-2010)
[7]『世界史資料』[全12巻]岩波書店(2006-刊行中)
[8]J.M.ロバーツ(2003)『世界の歴史』[全10巻]創元社
[9]『新版 世界各国史』[全28巻]山川出版社
[10]ケンブリッジ版世界各国史 創社上(2005-刊行中)
[11]岩波書店『ヨーロッパ史入門』
<第I期>
アンドリュース・ポーター[福井憲彦訳]『帝国主義』
ロバート・サーヴィス[中嶋毅訳]『ロシア革命 1900-1927』他
<第II期>
オリヴァー・ジマー[福井憲彦訳](2009)『ナショナリズム 1890-1940』
マイケル・L・ドックリル/マイケル・F・ホプキンス[伊藤裕子訳]『冷戦 1945-1991』他
[12]望田幸男・野村達朗・藤本和貴夫・川北稔・若尾祐司・阿河雄二郎編(2006)『西洋近現代史研究入門』(第3版)名古屋大学出版会
[13]フェルナン・ブローデル[浜名優美訳](1991-1995)『地中海』[全5巻]藤原書店
[14]イマニュエル・ウォーラステイン[川北稔訳](1993-2013)『近代世界システム』[全4巻]名古屋大学出版会
[15]アンドリュー・グンター・フランク[山下範久訳](2000)『リオリエント：アジア時代のグローバル・エコノミー』藤原書店[原著：1998]
[16]K.ボームラング/S.トピック[堀田邦夫・吉田敦訳](2013)『グローバル経済の誕生』筑摩書房
[17]水嶋司編(2008)『グローバル化の挑戦』山川出版社
(『ヴァイマル共和政』)
[18]ハンス・モムゼン[関口宏道訳](2001)『ヴァイマル共和国史』水声社[原著：1989]
[19]アートルフ・ポイカート [小野清美・田村米子・原田一美訳](1993)『ヴァイマル共和国 古典的近代の悲劇』名古屋大学出版会 [原著：1987]
[20]平島健司(1991)『ヴァイマル共和国の崩壊』東京大学出版会
[21]K.D.ブラッハー[山口成・高橋進訳](2009)『ドイツの独裁1 ナチズムの生成・構造・帰結』岩波モダンクラシックス[原著：1969]
[22]小野清美(2004)『ナチズムと保守革命』名古屋大学出版会
[23]H・A・ウィッソラー [後藤俊明・奥田隆男・中谷敏・野田幸吾訳](2008)『自由と統一への長い道 I ドイツ近現代史 1789-1933年』昭和堂 [原著：2000]
[24]ピーター・ゲイ[亀崎庸一訳](1987)『ヴァイマル文化』みすず書房
[25]モードリッチ・エクスタインズ[金利光訳](2009)『春の祭典 第一次世界大戦とモダン・エポックの誕生』(新版)みすず書房[原著：1989]
[26]石田勇治編(2007)『図説ドイツの歴史』河出書房新社
(リデーショップ)
[27]河合秀利(1998)『チャーチル 増補版』中公新書[初版：1979]

- [28]E・H・カー[原久次訳](2011)『危機の二十年 理想と現実』岩波文庫[原著：1939]
[29]A・J・P・テイラー[吉田輝夫訳](2011)『第二次世界大戦の起源』講談社学術文庫[原著：1964]
[30]グレアム・T・アリソン(1977)『決定の本質 キューバ・ミサイル危機の分析』中央公論社[原著：1971]
[31]アーンスト・メイ[進藤榮一訳](2004)『歴史の教訓 アメリカ外交はどう作られたか』岩波現代文庫[原著：1977]
(近代経済成長・社会経済思想)
[32]ロンドン・キャムロン/ラリー・ニール[速水融監訳](2013)『概説世界経済史 I - II 東洋経済新報社 [原著第4版：2003]
[33]ミシェル・ボー[鎌宝康之・勝原誠訳](1996)『資本主義の世界史』藤原書店
[34]E.L.ジョーンズ[天野雅敏訳](2007)『経済成長の世界史』名古屋大学出版会
[35]C.P.キンドルバーガー[中島健二訳](2002)『経済大興亡史1500-1995』岩波書店[原著：1996]
[36]アンソニー・マディン[金森久雄監訳](2004)『経済統計で見る世界経済2000年史』柏書房
[37]ロバート・ハイルブローナー/ウィリアム・ミルバーグ[菅原歩訳](2009)『経済社会の形成』(原著第12版)ピソソ・エデュケーション[原著：2008]
[38]金井雄一・中西聡・福澤直樹編(2010)『世界経済の歴史 グローバル経済入門』名古屋大学出版会
[39]ウィリアム・バーンスタイン[徳川家広訳](2006)『「豊かさ」の誕生』日本経済新聞社[原著：2004]
[40]ロバート・L・ハイルブローナー(2001)『入門経済思想史 世俗の思想家たち』ちくま学芸文庫
[41]猪木武徳(2009)『戦後世界経済史』中公新書
[42]ダニエル・ヤークン/ジョゼ・スタニスロー[山岡洋一訳](2001)『市場対国家 世界を作り変える歴史的攻防』(上・下)日経ビジネス人文庫[原著：1998]
(ヨーロッパ近現代史)
[43]トニー・ジャット[森本壽訳](2008)『ヨーロッパ戦後史』(上・下)みすず書房[原著：2005]
[44]ジェームズ・ジョル[池田清訳](1975-1976)『ヨーロッパ100年史』(上・下)みすず書房[原著：1973]
[45]福井憲彦(2010)『近代ヨーロッパ史 世界を変えた19世紀』ちくま学芸文庫
[46]遠藤純編(2008)『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会
[47]遠藤純編(2008)『原典ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会
[48]ノーマン・デイヴィス[別宮貞徳訳](2000)『ヨーロッパⅢ 近世』共同通信社
[49]ノーマン・デイヴィス[別宮貞徳訳](2000)『ヨーロッパⅣ 現代』共同通信社
[50]近藤純編(2010)『イギリス史研究入門』山川出版社
[51]ピーター・クラウ[西沢保・市橋秀夫・橋建也・長谷川淳一・姫野順一・米山優子訳](2004)『イギリス現代史 1900-2000年』名古屋大学出版会[原著：1996]
[52]フランク・フェル[大津真作訳](1989)『フランス革命を考える』岩波書店[原著：1978]
[53]ジモーナ・コラリーツィ[村上信一郎監訳/橋本勝雄訳](2010)『イタリア20世紀史 熱狂と恐怖と希望の100年』名古屋大学出版会
(アメリカ近現代史)
[54]有賀賢一・紀平英作・油井大三郎(2010)『アメリカ史研究入門』山川出版社
[55]秋元英一・豊英輝(2003)『アメリカ20世紀史』東京大学出版会
[56]亀井俊介・鈴木健次監修(2005-2006)『史料で読むアメリカ文化史』[全5巻]東京大学出版会
[57]アレクシス・ド・トクヴィル[松本礼二訳](2005)『アメリカのデモクラシー』[第1巻上・下]岩波文庫[原著：1835]
[58]アレクシス・ド・トクヴィル[松本礼二訳](2008)『アメリカのデモクラシー』[第2巻上・下]岩波文庫[原著：1835]
[59]宇野重現(2007)『トクヴィル 平等と不平等の理論家』講談社選書メテエ
[60]松本礼二(1991)『トクヴィル研究 家族・宗教・国家とデモクラシー』東京大学出版会
[61]エリック・フォーナー [横山辰次地訳](2008)『アメリカ 自由の物語 植民地時代から現代まで』(上・下)岩波書店 [原著：1998]
[62]J.フアスティン[新川健三郎・木原武一訳](1976)『アメリカ人 大量消費社会の生活と文化』(上・下)河出書房新社
[63]デイヴィッド・ハルバースタム[浅野補訳](2009)『ベスト&ブラーテスト』(上・中・下)二女社 [原著：1969,1971,1972,1982]
(ロシア近現代史)
[64]エレン・S・カレル・マダンコース[谷口侑訳](2008)『未完のロシア 10世紀から今日まで』藤原書店
[65]ロイ・アレクサンドロヴィッチ・メドヴェージェフ[石井裕尚・沼野充義監訳/北川和美・横山陽子訳](1998)『1917年のロシア革命』現代思想叢書[原著：1997]
[66]サイモン・セバーグ・モンテフィオーリ[染谷徹訳](2010)『スターリン 赤い皇帝と廷臣たち』(上・下)白水社

[67]水木達雄全訳解説(1977)『フリンショフ秘密報告「スターリン批判」』講談社学術文庫[原著:1956]

[68]ミハイル・ゴルバチョフ[工藤精一郎・鈴木康雄訳](1996)『ゴルバチョフ回想録』新潮社[原著:1995]
(中国近現代史) 指定図書[3]に加えて

[69]鶴渡 岸本美緒・杉山正明編(2006)『中国歴史研究入門』名古屋大学出版会

[70]岩波新書『シリーズ中国近現代史』[全6巻]

[71]『中国の歴史』[全12巻]講談社(2004-2005)

[72]『原典中国現代史』[全8巻、別巻1]岩波書店(1994-1995)

[73]『新編原典中国近代思想史』[全7巻]岩波書店(2010-)

[74]飯島渉・久保亨・村田雄二郎編(2009)『シリーズ20世紀中国史』[全4巻]東京大学出版会

[75]溝口雄三・丸山松幸・池田知久編(2001)『中国思想文化事典』東京大学出版会

[76]マカートニー [坂野正高訳] (1975)『中国訪問使節日記』平凡社[東洋文庫]

[77]リシアン・ヒアニコ [坂野正高訳/坪井善明補訳] (1989)『中国革命の起源 1915-1949』東京大学出版会

[78]敬家 高 [コウ] [辻康吾監訳] (2002)『文化大革命十年史』(上・中・下) 岩波現代文庫 [原著:1986]

[79]コン・チアン/ジョン・ハリデイ [土屋京子訳] (2005)『マオ 誰も知らなかった毛沢東』(上・下) 講談社

[80]エズラ・F・ヴァーゲル [益尾知佐子・杉本孝訳] (2013)『現代中国の父鄧小平』(上・下) 日本経済新聞出版社
(日本近現代史) 指定図書[4]・[5]に加えて

[81]『日本の近代』[全6巻]中央公論新社

[82]岩波新書『シリーズ日本近現代史』[全10巻]

[83]渡辺京二(2005)『逝きし世の面影』平凡社ライブラリー[原著:1998]

[84]テッサ・モリス・鈴木[藤井隆至訳](2010)『日本の経済思想 江戸期から現代まで』岩波モダンクラシックス[原著:1991]

[85]南亮進[牧野文夫協力](2002)『日本の経済発展』(第3版) 東洋経済新報社

[86]アンダールー・ゴードン[] (2006)『日本の200年 徳川時代から現代まで』(上・下) みずす書房

[87]松本三之介(2011)『近代日本の中国認識』以文社

[88]坂野潤治(2012)『日本近代史』ちくま新書

[89]中村隆英(1993)『昭和史』I・II 東洋経済新報社

[90]中村隆英・伊藤隆編(2012)『近代日本研究入門』(増補版・) 東京大学出版会 [初版:1983]

[91]三和良・原編(2010)『近現代日本経済史要覧』(補訂版) 東京大学出版会

[92]井上寿一(2012)『政友会と民政党』中公新書

[93]山口真澄・山口二郎(2010)『戦後政治史』(第3版) 岩波新書 (アジア近現代史)

[94]『岩波講座東アジア近現代史』

[95]秋田茂(2012)『イギリス帝国の歴史 アジアから考える』中公新書

[96]加納啓良(2012)『東大講義 東南アジア近現代史』めこん

[97]杉原薫(1996)『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房

[98]スミット・サルカール[長崎暢子・白田雅之・中里成章・栗屋利江訳](1993)『新しいインド近代史 下からの歴史の試み』I・II 研文出版

[99]O・A・ウェスタッド[佐々木雄太監訳](2010)『グローバル冷戦史 第三世界への介入と現代世界の形成』名古屋大学出版会 (アフリカ近現代史)

[100]宮本正典・松田素二編(1997)『新書アフリカ史』講談社現代新書

[101]小倉充夫(2009)『南部アフリカ社会の百年 植民地支配・冷戦・市場経済』東京大学出版会 (イスラーム世界の近現代史)

[102]小杉泰・林佳世子・東長靖編(2008)『イスラーム世界研究マニュアル』名古屋大学出版会

[103]羽田正(2005)『イスラーム世界の創造』東京大学出版会

[104]ユージン・ローガン[白須英子訳](2013)『アラブ500年史』(上・下) 白水社[原著:2009]

[105]新井政美(2001)『トルコ近現代史』みずす書房

[106]タミム・アンサーリー [小沢千重子訳] (2011)『イスラームから見た「世界史」』紀伊國屋書店 (20世紀論)

[107]正村公宏(1993)『産業主義を越えて』講談社学術文庫[原著:1986]

[108]木畑洋一(2014)『20世紀の歴史』岩波新書

[109]E.J.ホプスボーム [河合秀和訳] (1996)『20世紀の歴史 極端な時代』(上・下) 三書堂

[110]P.F.ドラッカー[上田厚生訳](2008)『傍観者の時代 ドラッカー名著集12』ダイヤモンド社

[111]ニール・ファーガン[山名紀訳](2007)『憐愍の世紀』(上・下) 早川書房[原著:2006]

[112]アーサー・ブラウン[下斗米伸夫監訳](2012)『共産主義の興亡』中央公論新社

■評価方法

期末試験(70%)、レポート・小テスト・出席(30%)

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 試験の成績、質疑の内容、ともに顕著に優れており、講義を通じて現代社会の課題の歴史的解明、社会研究の基盤の構築、歴史観の醸成につながる認識の獲得という高次の水準に到達できている

評価A (89~80点) : 試験の成績、質疑の内容、ともに優れている

評価B (79~70点) : 試験の成績、質疑の内容、ともに良い

評価C (69~60点) : 試験の成績、質疑の内容、ともに普通

評価F (59点以下) : 試験の成績、質疑の内容、ともに不十分

■履修していることが望ましい科目

グローバルヒストリー I

マクロ経済学

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

講義は毎回、前週に配布した資料を読み込んでいることを前提として進行する。資料の持参を忘れた者、読んでこなかった者は、原則として当日の受講を認めない。また、第2回までに重要不可欠な点を説明するとともに、連続性を重視した積み上げ型の講義であるため、第2回の講義までに全く出席しなかった者、さらに途中で欠席3回を超えた者は、本講座の履修を認めない。

科目名 グローバルヒストリーⅢ(Global History Ⅲ)

サブタイトル 上海・内山書店をめぐる日中交流史

担当教員 中澤 弥

■講義目的

20世紀の前半、1910年代から1945年までの日中交流史を、上海という都市をフィールドとしてたどっていく。その際に呼び出されるのは、内山完造という一人の日本人であり、彼が開いた内山書店である。当初、副業として開店した内山書店は、店を拡大していくと共に、日中の文化人が集うサロンへと変貌していく。また内山完造は、作家の魯迅を一時かまうなど、中国の歴史の流れにも関わりを持っていく。そうした歴史に学ぶことで、中国、あるいはアジアの各国との交流に関する課題を発見、解決していく力を身に付けてもらいたい。

■講義分類

社会人育成

■到達目標

大正から昭和前半における日本と中国との関係について歴史的視座を獲得し、主に文化的交流において何が必要なのか、思考力と判断力を身につける。

■講義形態

講義

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

中国、特に上海の歴史を事前に学習しておく。魯迅の小説、芥川龍之介・谷崎潤一郎の上海紀行文、横光利一の小説「上海」などを事前に読んでおく。

■講義の概要

<第1講>

概要：講義の内容・目標を知る。

事前、事後学習ポイント：内山書店・内山完造についての概略をインターネットなどで調べておく。

<第2講>

概要：租界都市・上海

事前、事後学習ポイント：上海の位置・歴史などを調べておく。上海の地図などを参照する。

<第3講>

概要：内山完造と上海

事前、事後学習ポイント：1910年代の日中関係について調べておく。

<第4講>

概要：内山書店出発と発展

事前、事後学習ポイント：1920年代の日本の出版状況、とくに円本全集について調べておく。

<第5講>

概要：作家・魯迅について

事前、事後学習ポイント：魯迅の生涯について調べ、いくつかの作品を読んでおく。

<第6講>

概要：魯迅と内山書店

事前、事後学習ポイント：上海での魯迅と内山完造との交流をまとめる。

<第7講>

概要：文化サロンとしての内山書店

事前、事後学習ポイント：サロン文化の役割について知る。

<第8講>

概要：日本の出版文化と上海

事前、事後学習ポイント：20世紀前半における出版社の役割について知る。

<第9講>

概要：芥川龍之介の「上海遊記」

事前、事後学習ポイント：芥川龍之介「上海遊記」を事前に読んでおく。授業後、芥川龍之介の中国観についてまとめる。

<第10講>

概要：谷崎潤一郎の上海滞在

事前、事後学習ポイント：谷崎潤一郎の中国旅行記を読んでおく。

<第11講>

概要：横光利一と五三〇事件

事前、事後学習ポイント：五三〇事件の概要と、その歴史定義を調べておく。

<第12講>

概要：横光利一の「上海」を読む

事前、事後学習ポイント：横光利一「上海」を読んでおく。小説の表現法についてまとめる。

<第13講>

概要：上海における映画と文化政策

事前、事後学習ポイント：李香蘭主演の映画など、戦中期の映画を鑑賞する。

<第14講>

概要：上海事変後の内山書店

事前、事後学習ポイント：上海事変について調べておく。

<第15講>

概要：まとめ・課題提出

事前、事後学習ポイント：まとめ・課題提出

■教科書

なし

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

評価は3分の2以上の出席を必須とし、各回の講義内容に基づく小レポートや小テスト50%、OFFICE(Word)を使用した課題レポート50パーセントにより行う。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：日中交流史における内山完造と内山書店が果たした役割を理解し、文化交流における課題を自ら発見・解釈した上で、文章によって論理的に説明できる。

評価A (89～80点)：日中交流史における内山完造と内山書店が果たした役割を理解し、文化交流における課題を自ら発見し、文章によって説明できる。

評価B (79～70点)：日中交流史における内山完造と内山書店が果たした役割を理解し、文化交流における課題を文章によって説明することができる。

評価C (69～60点)：日中交流史における内山完造と内山書店が果たした役割を理解し、文章によって示すことができる。

評価F (59点以下)：日中交流史における内山完造と内山書店が果たした役割を正しく理解できていない。出席不良で、小テストなどの得点が低い。課題未提出。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 グローバルヒストリーⅣ(Global History Ⅳ)

サブタイトル 日本政治史 ー前近代の国際関係ー

担当教員 大森 映子

■講義目的

対外政策を軸としながら、前近代における日本の政治史を概観する。古代から近代までを視野に入れて授業を進めるが、主に江戸時代の対外関係を扱う。前近代の国際関係を考える時、中国や朝鮮半島をはじめ、アジア諸地域との密接な結びつきを無視することはできない。この点は現代社会にも通じるところであり、アジアの中の日本という立場からの歴史認識は、政治的・経済的・国際的な諸問題を解決に導く糸口となるものであろう。このような側面を意識しながら、前近代における日本の対外政策および海外認識について検討する

■講義分類

問題解決
問題解決のための方法
グローバルビジネス
社会人基礎力

■到達目標

- (1)日本の前近代における国際関係、対外認識について理解する。
- (2)前近代、および明治期における外交政策が、現代日本に及ぼした影響について考える。
- (3)現代社会を考える上で、歴史的認識が大切であることを認識する。

■講義形態

講義

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎回の授業前に、取り上げる時代についてあらかじめ学んでおく。また、復習を重視し、授業内で示されたキーワードについて理解を深めておく。

■講義の概要

- <第 1 講>
概要：授業の方針、取り扱うテーマの紹介。
事前、事後学習ポイント：高校の日本史の教科書、あるいはそれに準じる日本史関係の文献を確認する。
- <第 2 講>
概要：古代における国際関係 ー大陸との交流ー
事前、事後学習ポイント：日本の原始～7世紀頃までの歴史を概観しておく。
- <第 3 講>
概要：東大寺大仏建立とその背景 ー国際環境と国際戦略ー
事前、事後学習ポイント：奈良時代の歴史を概観しておく。
- <第 4 講>
概要：中世社会の諸相 ー武家政権の対外政策ー
事前、事後学習ポイント：鎌倉時代の歴史を概観しておく。
- <第 5 講>
概要：中世の交易ルート ー明の成立とアジア世界における国際秩序ー
事前、事後学習ポイント：室町時代の歴史を概観しておく。
- <第 6 講>
概要：16世紀におけるヨーロッパ勢力と東アジア世界
事前、事後学習ポイント：戦国時代の歴史、とくに対外関係について概観しておく。
- <第 7 講>
概要：豊臣秀吉の朝鮮侵略
事前、事後学習ポイント：安土・桃山時代の歴史を概観しておく。
- <第 8 講>
概要：古代～中世の国際関係
事前、事後学習ポイント：1～7講までの復習
- <第 9 講>
概要：江戸時代初期の国際関係
事前、事後学習ポイント：江戸時代初期の政治過程を概観しておく。
- <第 10 講>
概要：江戸幕府の外交政策（1）ー「鎖国」とは？ー
事前、事後学習ポイント：前回の復習を中心に、当時の国際関係をまとめておく。
- <第 11 講>
概要：江戸幕府の外交政策（2）ー「4つの口」ー
事前、事後学習ポイント：前回の復習を中心に、当時の国際関係をまとめておく。
- <第 12 講>
概要：江戸幕府の対外政策（3） ー参府する外国人と国際認識ー
事前、事後学習ポイント：前回の復習を中心に、当時の対外関係をまとめておく。

<第 13 講>

概要：江戸時代の海外情報と日本の技術
事前、事後学習ポイント：前回の復習を中心に、当時の対外関係をまとめておく。

<第 14 講>

概要：近代日本の問題点
事前、事後学習ポイント：江戸時代に関する5回の授業をまとめておく。

<第 15 講>

概要：近代日本と周辺地域
事前、事後学習ポイント：14回目までの授業内容を復習する。

■教科書

特に指定はないが、事前学習および復習のために、高校の教科書、あるいは柿の楯図書を手許においておくことが望ましい。

■指定図書

五味文彦・鳥海靖編『もう一度読む 山川日本史』（山川出版社）
その他の図書については、授業時に適宜指示する。

■参考文献・参考URL / Reference List

授業内で適宜指示する。

■評価方法

平常点60%（出席15%、授業内で求める簡単なレポート45%）、中間・最終レポート40%を原則とする。ただし受講者数によっては、2回のレポートのうち1回を授業内試験とする場合がある。

■評価基準

- 評価A+（90点以上）：授業の趣旨と内容を十分に理解し、自分の意見を持てるようになった。
- 評価A（89～80点）：授業の趣旨と内容を基本的に理解し、自分の意見を持てるようになった。
- 評価B（79～70点）：授業の趣旨と内容を、一応理解できた。
- 評価C（69～60点）：不十分ところがあるが、一応授業内容を理解できた。
- 評価F（59点以下）：授業の趣旨を理解できていない。

■履修していることが望ましい科目

グローバルヒストリーⅠ（歴史と文化）を履修していることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

再試験は行わない。

■留意点

初回は、授業の方向性を確認する重要な場であるので、必ず出席すること。なお受講者数によって、一部内容を変更する場合があります（レポートを授業時におけるまとめに変更する、など）。

科目名 グローバルマーケティングI(Global Marketing I)

サブタイトル

担当教員 細川 淳

■講義目的

グローバルマーケティングは、自分と関係のないどこかの会社の人びとがやがやっている事ではない。グローバルズはいつの間にか私たちの生活を取り囲んでしまっており、マーケティング概念はそのままたちの人生のポジショニング・戦略に結びつく考え方を提供してくれる。本講義ではグローバルマーケティングの基本理論の体系的習得を目指す。同時に同概念の習得を通じて、各自の志を意欲・設定した上で生活・キャリア、人生の設計に肝要なグローバル志向、戦略指向を身につけてもらうべく、「企業」と「個人」を往來した授業を展開する。

■講義分類

顧客理解
ビジネス創造
グローバルビジネス
ビジネス環境理解
ビジネスマネジメント
社会力育成

■到達目標

①グローバルマーケティングの基本理論を体系的に理解する。
②その概念習得を通じて、各自の志を意欲・設定し、将来の生活・キャリアの設計・選択・戦略を構築する実践的知識・能力を涵養する。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

国際的なビジネスやブランドに関する書籍、雑誌のうち、学生自身の興味を喚起するものを読み込み、また日常生活で触れるグローバル・ブランドや商品が展開される店舗やURLを観察する事により、各自の国際ビジネスへの興味を喚起、グローバルマーケティングというものについての各自のイメージ、疑問、仮説を整理、考察しておく。

■講義の概要

<第1講>

概要：オリエンテーション グローバル・マーケティングの概要、マーケティング戦略、企業と個人・自分自身

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：マーケティング、グローバルゼーション

<第2講>

概要：マーケティングの基本概念とグローバルマーケティング(1)

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：マーケティング・ミックス、ビジネス・ドメイン、顧客、SWOT

<第3講>

概要：マーケティングの基本概念とグローバルマーケティング(2)

事前、事後学習ポイント：授業の前後に、歴史書、雑誌、URL等で世界の通商の歴史を読み、興味を喚起する箇所をコピーなどで保存し、時折読み直してみる。授業の進展とともに見たか変わってくるかを確認する。

<第4講>

概要：加速・深化するグローバルマーケティング

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：情報技術、物流、ライフスタイル

<第5講>

概要：グローバルズムとローカリズム

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：グローバルズム、ローカリズム、グローバル

<第6講>

概要：グローバル市場でのセグメンテーションとポジショニング

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：セグメンテーション、市場参入、マーケティング・ミックス、デモグラフィック

<第7講>

概要：プロダクト・ライフサイクル、ポートフォリオ、コア・コンピタンス

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：プロダクト・ライフサイクル、ポートフォリオ、コア・コンピタンス

<第8講>

概要：ブランディング

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：ブランド、ブランディング

<第9講>

概要：文化とマーケティング

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：文化、異文化、組織文化
<第10講>

概要：グローバル市場参入戦略

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：ターゲット市場、市場参入、出口戦略

<第11講>

概要：グローバル製品政策

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：財、サービス、価格政策
<第12講>

概要：グローバル・コミュニケーション戦略

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：広告、販売促進、ダイレクト・マーケティング

<第13講>

概要：グローバル・ロジスティクス、流通

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：ロジスティクス、小売業
<第14講>

概要：ケース・スタディ：リーバイ・ストラウス社の戦略転換

事前、事後学習ポイント：授業の前後にリーバイスの店やいろいろなジーンズを販売している店舗を訪問し、それぞれの商品の内容、質、価格、店舗の内装、店員さんの対応などを比較して、自分の印象をメモに書きとめ、自分自身の知見を整理しておく。

<第15講>

概要：総括

事前、事後学習ポイント：これまで学習してきた事を見直し、できればノートに要約して整理しておく。その際、各講3行以内にも要約する事を推奨する。

■教科書

資料配布

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

小田部正明、K・ヘルセン「国際マーケティング」創学舎

小川孔輔「マーケティング入門」日本経済新聞出版社

近藤文男、陶山計介、青木俊昭「21世紀のマーケティング戦略」ミネルヴァ書房

E. Jerome McCarthy [Basic Marketing] Richard D. Irwin

Philip R. Cateora, John M. Hess [International Marketing]

Richard D. Irwin

■評価方法

期末試験80%

授業参画20% (コメント・ペーパー(随時実施)の提出、発言、質問、問いかけへの応答、各1回につき5点。)

■評価基準

評価A+(90点以上)：グローバルマーケティングの各概念やキーワードをほぼ完全に理解し、使いこなせる。授業参画回数が多い。授業参画の点数は参画回数1回5点の加点方式。最大20点(ただし参画の内容、授業態度により、減点もあり得る。)

評価A(89~80点)：グローバルマーケティングの各概念やキーワードを充分理解している。授業参画回数が比較的多い。

評価B(79~70点)：グローバルマーケティングの各概念やキーワードを平均以上に理解している。授業参画回数がやや多い。

評価C(69~60点)：グローバルマーケティングの各概念やキーワードある程度理解しているが欠落している部分も多い。授業参画回数がやや少ない。

評価F(59点以下)：グローバルマーケティングの各概念やキーワードの理解度が必要レベルに達していない。授業参画回数が少ないかいない。

■履修していることが望ましい科目

マーケティング関連の授業を履修していることが望ましいが、必須ではない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 グローバルマーケティングII(Global Marketing II)

サブタイトル

担当教員 小祝 啓士夫

■講義目的

グローバルビジネスにおいて存在感を増すアジア地域。この地域の特長は人口ボリュームの多い若者たちが消費をリードし、今後も伸びゆく市場であること。その中でも注目されるASEANの若者たちを理解し、マーケティングしていくための基本事項や最新事例を各国テーマ別(食、ファッション、暮らし、健康、美容、メディア、結婚や恋愛、日本との関係など)に講義します。各国独自のライフスタイル、国民性、宗教、コミュニティなどの理解がマーケティングの現場でどう活用されていくのかを学んでいきましょう。後半は、国別にグループを分け、学校外でのフィールドワーク(取材、調査、交流会など)を実施予定。グループ別にテーマを設けてアジアの若者マーケティングを研究していきますよ。フィールドワークを通じて、コミュニケーション力、問題解決のための方法、マーケティング調査設計などビジネス現場の実践的な知識も高めていきましょう。70ヶ国以上の海外ネットワークを持つマーケティング会社の経営者として、多数の海外案件に携わってきた私の現場経験を皆さんに共有させていただきます。また、講義では内容に合わせた適宜、現地事情に詳しい有識者、進出企業の担当者、アジアからの留学生、現地在住者なども交えていく予定です。

■講義分類

ビジネス環境理解
 ビジネス創造
 ビジネスマネジメント
 グローバルビジネス
 地域ビジネス

■到達目標

- グローバルマーケティングの基礎スキルを身につけるための、
- 各国最新事情の把握と理解
- 各国生活者のリアルな実像を把握と理解
- 各種調査や取材など実践的手法の理解

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
 GD:グループディスカッション
 GW:グループワーク
 PR:プレゼンテーション

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各国の基礎情報の収集や課題作業など

■講義の概要

- <第1講>
 概要: ASEAN各国の基礎知識(ライフスタイル、宗教、民族など)
 事前,事後学習ポイント: ASEAN各国におけるライフスタイル、トレンド、世代論、宗教や民族の違いなど
- <第2講>
 概要: ASEAN各国の基礎知識(ライフスタイル、宗教、民族など)
 事前,事後学習ポイント: ASEAN各国におけるライフスタイル、トレンド、世代論、宗教や民族の違いなど
- <第3講>
 概要: ASEANの食マーケティング
 事前,事後学習ポイント: 現地の食事情、食トレンド、食品企業のマーケティング、ローカルブランドについてなど
- <第4講>
 概要: ASEANの食マーケティング
 事前,事後学習ポイント: 現地の食事情、食トレンド、食品企業のマーケティング、ローカルブランドについてなど
- <第5講>
 概要: ASEANの健康・美容マーケティング
 事前,事後学習ポイント: 現地の健康・美容事情、健康・美容トレンド、健康・美容企業のマーケティング、ローカルブランドについてなど
- <第6講>
 概要: ASEANの健康・美容マーケティング
 事前,事後学習ポイント: 現地の健康・美容事情、健康・美容トレンド、健康・美容企業のマーケティング、ローカルブランドについてなど
- <第7講>
 概要: ASEANのインバウンドマーケティング
 事前,事後学習ポイント: 現地の旅行事情、旅行トレンド、諸外国のインバウンドマー

- ケティング、日本の各自治体のインバウンドマーケティングについてなど
- <第8講>
 概要: ASEANのインバウンドマーケティング
 事前,事後学習ポイント: 現地の旅行事情、旅行トレンド、諸外国のインバウンドマーケティング、日本の各自治体のインバウンドマーケティングについてなど
- <第9講>
 概要: ASEAN生活者とメディアについて
 事前,事後学習ポイント: 現地のメディア事情、SNS利用実態、各メディアを活用した企業キャンペーン実例、各企業のメディアマーケティングについてなど
- <第10講>
 概要: ASEAN生活者とメディアについて
 事前,事後学習ポイント: 現地のメディア事情、SNS利用実態、各メディアを活用した企業キャンペーン実例、各企業のメディアマーケティングについてなど
- <第11講>
 概要: グループワーク・ディスカッション・発表会
 事前,事後学習ポイント: グループワークのテーマ設定、ワークフロー、ゴールイメージなど
- <第12講>
 概要: グループワーク・ディスカッション・発表会
 事前,事後学習ポイント: グループワークのテーマ設定、ワークフロー、ゴールイメージなど
- <第13講>
 概要: グループワーク・ディスカッション・発表会
 事前,事後学習ポイント: グループワークのテーマ設定、ワークフロー、ゴールイメージなど
- <第14講>
 概要: グループワーク・ディスカッション・発表会
 事前,事後学習ポイント: グループワークのテーマ設定、ワークフロー、ゴールイメージなど
- <第15講>
 概要: 総括
 事前,事後学習ポイント: 発表会など

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

- 日経BP&TNC著『シゴトタビ』シリーズ
- ライフスタイル・リサーチャーウェブサイト
<http://lifestyle.tenace.co.jp/>

■評価方法

出席=50%
 課題レポート、グループワーク評価=50%
 を基準として、100点満点で得点し、絶対評価により評価する。

■評価基準

- 評価A+ (90点以上) : 講義で扱うテーマ (ASEANにおけるマーケティング) について正しい理解がある。 講義で得た情報や理解をベースに応用力があり、自分なりの意見やアイデアを持っている。 グループワークやディスカッションにリーダーシップを発揮し、積極的に参加している。 出席率および課題レポートの評価がともによい。
- 評価A (89~80点) : 講義で扱うテーマ (ASEANにおけるマーケティング) について正しい理解がある。 講義で得た情報や理解をベースに応用力があり、積極的に学ぶ姿勢がある。 グループワークやディスカッションに積極的に参加している。 出席率および課題レポートの評価が良い。
- 評価B (79~70点) : 講義で扱うテーマ (ASEANにおけるマーケティング) について平均以上の理解がある。 グループワークやディスカッションに積極的に参加している。 出席率および課題レポートの評価が平均以上である。
- 評価C (69~60点) : 講義で扱うテーマ (ASEANにおけるマーケティング) について理解がある。 グループワークやディスカッションに積極的に参加している。 出席率および課題レポートの評価が合格得点に達した。
- 評価F (59点以下) : 講義で扱うテーマ (ASEANにおけるマーケティング) について理解がない。 グループワークやディスカッションに消極的である。 出席率および課

題しポートの評価が合格得点に達していない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しません

■留意点

【履修者制限について】

本講義は履修者制限を実施いたします。初回の講義に参加したの中から選抜き、選抜結果は速やかに公表することとします。選抜方法は初回の講義で説明する課題しポートの内容評価で教員の判断により行うことといたします。選抜に関しては公平性を担保するように心がけることとします。なお、初回講義に関して正当な理由があつて参加できなかった者に関しては、その理由が証明できる場合に限り追加の選抜実施の内容により履修登録を認めることができることとします。初回の受講者が目標数を下回っていた場合でも、初回講義以降に追加で履修登録を認めると公平性の担保と混乱が見込まれるため、基本、追加の履修許可はしないこととします。

科目名 経営学概論I(Introduction to Management I)

サブタイトル

担当教員 常見 耕平

■講義目的

経営学の理論について理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

経営学の理論について理解すること。

■講義形態

講義

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

経済社会の現実にはむろく目を向けること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：経営学の理論的理解 (その1)

事前,事後学習ポイント：事前学習：現実社会の動向に広く目を向ける。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 2 講>

概要：経営学の理論的理解 (その2)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 3 講>

概要：経営学の理論的理解 (その3)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 4 講>

概要：経営学の理論的理解 (その4)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 5 講>

概要：経営学の理論的理解 (その5)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 6 講>

概要：経営学の理論的理解 (その6)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 7 講>

概要：経営学の理論的理解 (その7)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 8 講>

概要：経営学の理論的理解 (その8)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 9 講>

概要：経営学の理論的理解 (その9)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 10 講>

概要：経営学の理論的理解 (その10)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 11 講>

概要：経営学の理論的理解 (その11)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 12 講>

概要：経営学の理論的理解 (その12)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 13 講>

概要：経営学の理論的理解 (その13)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 14 講>

概要：講義の振り返り

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 15 講>

概要：最終試験

事前,事後学習ポイント：事前学習：最終試験の受験に備える。

事後学習：受験した問題について再検討する。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

特になし

■評価方法

最終試験結果のみで評価する(100%)

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容を90%以上理解していること

評価A (89~80点)：講義内容を80~89%理解していること

評価B (79~70点)：講義内容を70~79%理解していること

評価C (69~60点)：講義内容を60~69%理解していること

評価F (59点以下)：講義内容の理解が60%に満たないこと

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

経営学理論のうち、古典的(あるいは伝統的)管理論と呼ばれるものを学ぶ。

授業は文章を読み、内容を理解することを中心にすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというのではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。

ちなみに、2013年度の単位取得率は57.7% (31名中51名)である。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。

講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。

試験は、2015年7月23日(木)第2時限に実施する予定である。

但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

科目名

経営学概論Ⅱ(Introduction to Management II)

サブタイトル

担当教員

常見 耕平

■講義目的

経営学理論を理解する。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

経営学理論を理解すること。

■講義形態

講義

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

現実社会の動向に広く目を向けること。

■講義の概要

<第1講>

概要：経営学の理論的理解(その1)

事前,事後学習ポイント：事前学習：現実社会の動向に広く目を向ける。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第2講>

概要：経営学の理論的理解(その2)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第3講>

概要：経営学の理論的理解(その3)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第4講>

概要：経営学の理論的理解(その4)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第5講>

概要：経営学の理論的理解(その5)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第6講>

概要：経営学の理論的理解(その6)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第7講>

概要：経営学の理論的理解(その7)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第8講>

概要：経営学の理論的理解(その8)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第9講>

概要：経営学の理論的理解(その9)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第10講>

概要：経営学の理論的理解(その10)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第11講>

概要：経営学の理論的理解(その11)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第12講>

概要：経営学の理論的理解(その12)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第13講>

概要：経営学の理論的理解(その13)

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第14講>

概要：ふり返り

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第15講>

概要：最終試験

事前,事後学習ポイント：事前学習：最終試験の受験に備える。

事後学習：受験した問題について再検討する。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

特になし

■評価方法

最終試験結果のみで評価する(100%)

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容を90%以上理解していること

評価A (89~80点)：講義内容を80~89%理解していること

評価B (79~70点)：講義内容を70~79%理解していること

評価C (69~60点)：講義内容を60~69%理解していること

評価F (59点以下)：講義内容の理解が60%に満たないこと

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。

ちなみに、2013年度の単位取得率は60.8% (51名中31名) である。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。

義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。

試験は、2016年1月21日(木)第2時間実施する予定である。

但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

科目名 経営基礎Ⅰ(Introduction to Business I)

サブタイトル

担当教員 常見 耕平

■講義目的

企業経営の基礎を学ぶ。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業経営の基礎を理解する。

■講義形態

講義

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ふだんの生活の中で、企業の動向、経済の動きに関心を持ち、主体的に努力する。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：ビジネスを始める。

事前、事後学習ポイント：事前学習：身の回りにあるビジネスに関心を持つ。

事後学習：講義で指示された課題に取り組む。

<第 2 講>

概要：ビジネスを続ける。

事前、事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 3 講>

概要：戦略を考える。

事前、事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 4 講>

概要：競争の戦略

事前、事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 5 講>

概要：マーケットをつかまえるために

事前、事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 6 講>

概要：マーケティングを理解する

事前、事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 7 講>

概要：ライフサイクルとマーケティング戦略

事前、事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 8 講>

概要：中間試験

事前、事後学習ポイント：事前学習：中間試験の受験に備える。

事後学習：受験した問題について再検討する。

<第 9 講>

概要：戦略を考える (その1)

事前、事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 10 講>

概要：戦略を考える (その2)

事前、事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 11 講>

概要：組織と組織の階層を理解する

事前、事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 12 講>

概要：人々の力を引き出すために

事前、事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 13 講>

概要：企業の価値を把握する

事前、事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 14 講>

概要：企業経営を分析する

事前、事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 15 講>

概要：最終試験

事前、事後学習ポイント：事前学習：最終試験の受験に備える。

事後学習：受験した問題について再検討する。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

特になし

■評価方法

試験による評価が100%となる。

その他、欠点は合否(単位取得)に算入しない。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容を90%以上理解していること

評価A (89~80点)：講義内容を80~89%理解していること

評価B (79~70点)：講義内容を70~79%理解していること

評価C (69~60点)：講義内容を60~69%理解していること

評価F (59点以下)：講義内容の理解が60%に満たないこと

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年度生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

(1)講義は、受講者(2015年入学者)を3つのグループに分け、実施する。
グループ分けは、語学(必修)の時間割によって決定する予定である。グループ分けは、2015年春学期のオリエンテーション期間または講義開始前日に掲示等で指示する。
2014年度以前の入学者でこの科目履修を希望する学生は、他の科目も含めた自分の履修計画に応じて、クラスを選ぶことができる。

(2)講義は、座席指定で実施する。講義開始前に、必ず指定された座席に着席していることを求める。

(3)時間を守ること
講義開始時(第1時限は9時、第2時限は10時40分)に指定された座席に着席していることを要求する。

したがって、次の時刻以降は、教室に入ることはいけません。

第1時限 8時59分 (講義開始時刻にかかわらず、講義時間は90分間である)

第2時限 10時39分 (講義開始時刻にかかわらず、講義時間は90分間である)

これは、定刻に指定された座席に着席し、受講する学生の講義を受ける権利を最大限擁護するためである。

スクールバス(学バス)・公共交通機関などの遅延を含め、理由の如何を問わず、遅刻者の受講はいついそい認めない。

(4)遅刻者の入室を認めないため、いわゆる延着証明書、病気の診断書等は受け取らない
欠席者あるいは遅刻者への配慮はいついそい行わないので、延着証明書、診断書等を出す必要はない。提出された証明書等はその後廃棄される。ゴミ減量のためにも余計な書類を提出しないことを求める。

(5)5月半ば以降、履修登録が完了次第、あらかじめ教室での座席を指定する予定である。

合否(単位取得)は、講義時間内で合計2回実施する試験成績のみで判定する。

(6)試験日程・内容等は、講義開始後に、より詳細に指示する。

試験開始後、20分間は、試験実施教室への入室を禁止する。

いかなる理由による遅刻・欠席でも、受験機会の喪失、解答作成時間の減少等への配慮は行わない。

(7)以上の注意点などは経営基礎Ⅰのみに適用される

評価基準や出欠席の取り扱い、診断書提出の有無、開講日、講義の休みの日、試験方法など、他科目の方針、指示と異なっている点があることに注意すること。

科目名 経営基礎II(Basic Management II)

サブタイトル

担当教員 出原・常見・杉田(文)

■講義目的

多摩大学の学生が将来進んでいくであろう、方向を考えると、二つの教育的課題が想定される。

第一は産業社会における企業活動の全体像を、いかにして(それも出来るだけ早い段階で)理解してもらうか、ということであり、第二は、「主体的に問題解決に取り組み、成功させる能力」をいかにして修得してもらうか、という点である。

本講義は、この二つの課題を解決するために、開設されている。

具体的には、受講学生は、(1)講義を受講し、(2)「多摩大式経営経営シミュレーター」ゲームへ参加する。この2点が、本講義の概要である。

ゲームでは、一定のルールにのっとり、ゲーム上に作られた仮想の市場において、参加者すべてが、企業経営者と消費者の役を果たす。複数業種の中から選んだある業種に属する会社を設立、経営し、経営理念に従った経営を展開し、利益の確保を目指す。まさに、これらの行為すべてが、問題発見と問題解決の実践である。

講義では、当初の述べたような目的を達成するのに必要な、具体的もしくは抽象的な情報を学生諸君に伝えんとする。そしてこれを踏まえ、ゲームの中で企業経営を、自らたてた経営目標に合致するように進める。

受講学生の理解度に応じて、講義内容・進度を調整する。

■講義分類

ビジネスICT
ビジネス環境理解
ビジネス創造
社会人力育成

■到達目標

- ① 企業経営の全般について理解し、表現できるようにすること。
- ② 自分が経営にかかわった企業や、他の企業の経営の概要を把握、分析することができるようになること
- ③ 受講後、自分の専攻分野がより明確に絞り込むことができ、さらに、その専攻分野が全体の中でのどのような位置にあるのかについて理解できるようになること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

- ・講義外の時間で、シミュレータは継続的に動作する。常に市場動向に気を配り、対応することが求められる。
- ・講義パートの内容については、次回講義でテストを行う。復習をしっかり行うこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：(講義)「オリエンテーション」
(ゲーム)「経営シミュレーションゲームの説明」
事前,事後学習ポイント：この講座の目的について理解しておくこと

<第 2 講>

概要：(講義)「企業の経営理念と経営戦略」
(ゲーム)「試しバージョンの初期投入」
事前,事後学習ポイント：「経営基礎 I」において学んだ、「経営の目的」「経営理念」について、今一度よく理解し、それらをめぐる現実的課題について整理しておくこと。

<第 3 講>

概要：(講義)「企業内での役割分担と組織」
(ゲーム)「試しバージョンの初期投入結果の読み取り、評価、次期投入の検討」
事前,事後学習ポイント：会計上の基礎概念について、復習しておくこと。とくに、「固定費」「変動費」「販売管理費」等の概念について予習しておくことが望ましい。

<第 4 講>

概要：(講義)「会社数字の読み方」
(ゲーム)「試しバージョン2期目の結果の評価、検討と、本ゲームの開始」
事前,事後学習ポイント：損益分岐売上上の概念について、受講の前にぜひ理解しておきたい。

<第 5 講>

概要：(講義)「会社数義の読み方(2)」
(ゲーム)「経営会議」
事前,事後学習ポイント：損益分岐売上上の概念について、受講の前にぜひ理解しておきたい。

<第 6 講>

概要：(講義)「製品政策と価格政策」

(ゲーム)「経営会議」

事前,事後学習ポイント：テキストとして配布された資料から、価格を上げること・下げることが、決算にどのように影響するかについて理解しておくことが望ましい。

<第 7 講>

概要：(講義)「経営活動報告のしかた」
(ゲーム)「中間報告書の作成と、戦略の再構築」
事前,事後学習ポイント：経営報告のあらましについて、概要を把握しておくことが望ましい。

また、講義後、実際の経営報告書の事例をあたり、理解に努めること。

<第 8 講>

概要：(講義)「競争戦略」など
(ゲーム)「経営会議」
事前,事後学習ポイント：① 理論としての競争戦略について、今一度復習する。
② ゲームにおける、同業種の戦略を比較してみる。

<第 9 講>

概要：(講義)「事業報告書の書き方と、報告の技術」
(ゲーム)「事業報告書の作成」
事前,事後学習ポイント：講義後、事業報告書に必要な数値資料・討議資料をまとめ、事業報告書のドラフトを完成させる。

<第 10 講>

概要：(講義)「まとめ」
(ゲーム)「資料の作成作業」
事前,事後学習ポイント：収益性、安全性、成長性などの概念について今一度復習し、理解することが望ましい。

<第 11 講>

概要：「株主総会」
事前,事後学習ポイント：経営報告が誰に対してなんの目的に応じた活動であるかを理解し、そのうえで、あるべき報告について考察しておく。

<第 12 講>

概要：「経営分析」
事前,事後学習ポイント：他社の報告にも積極的に耳を傾け、報告の内容、方法等についてよりよいありかたについてメンバー間相互で討議する。

<第 13 講>

概要：クラス別「株主総会」本番
事前,事後学習ポイント：講義前に、株主総会資料を準備する。

<第 14 講>

概要：全体での「株主総会」本番
事前,事後学習ポイント：講義前に、クラス別株主総会での指摘を反映した株主総会資料を準備する。

<第 15 講>

概要：講義内でのテスト、理解のみきわめを行う。
事前,事後学習ポイント：これまでの復習を行う。

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

- (1)ゲームへの参与の度合い(出席を含む) 30%
 - (2)レポート 40%
 - (3)試験(ゲームのオペレーションおよび、ゲームを通じて得た企業経営に関する知識の理解がなされているかどうかを判定する) 30%
- を総合して評価を行う。このほか、シミュレーションゲームの結果を成績に加算する。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：(1)ゲームへの参与の度合い(出席を含む)(2)レポート(3)試験において、一定の基準を上回ることを条件に、数値評価で90点以上
評価A (89～80点)：(1)ゲームへの参与の度合い(出席を含む)(2)レポート(3)試験において、一定の基準を上回ることを条件に、数値評価で80点以上90点未満
評価B (79～70点)：(1)ゲームへの参与の度合い(出席を含む)(2)レポート(3)試験において、一定の基準を上回ることを条件に、数値評価で70点以上80点未満

評価C (69～60点) : (1)ゲームへの参加の度合い (出席を含む) (2)レポート(3)試験において、一定の基準を上回ることを条件に、数値評価で60点以上70点未満

評価F (59点以下) : (1)ゲームへの参加の度合い (出席を含む) (2)レポート(3)試験において、一定の基準を上回ることを条件に、数値評価で60点未満

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

すべての授業に出席・参加することが単位取得の基本条件であることを銘記されたい。
また、言うまでもなく、ネットワーク上のゲームにアクセスすることで、経営シミュレーションを行うのであるから、PCと、電源ケーブルは必須である。必ず持参して参加されたい。

科目名 経営情報論I(Management Information Systems I)

サブタイトル

担当教員 今泉・志賀・諸橋

■講義目的

企業内の情報や顧客情報いかにタイムリーにかつ正確に集め、企業活動に利用していくかについて理解する。

企業内のIT化というときに常に取り上げられる情報収集・活用の一般的な方法を学ぶ。情報の蓄積についてはデータベース利用が確立された手段として現在も重要な役割を果たしているが、情報の活用手段としては、集合知やビッグデータといった新たな手法が開発され、企業戦略や新たなビジネスモデル開拓に使われる。また、情報収集手段も、かつてのアンケートからインターネットを利用した自動収集に重きが置かれるようになった。それらを含む概括的手法を紹介する。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネスマネジメント
ビジネスICT

■到達目標

- (1) 企業が、基幹業務において如何に生産効率を上げ、また、事務処理効率を上げるための工夫を行っているかを理解する。
- (2) 企業が顧客側により満足を与えるサービスを提供する目的で活用している現状を理解する。

■講義形態

講義+GW,GP

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

企業では、情報システムの活用を通じて、戦略的優位を確保しようとしている。2015年度は、以下の業種での情報システムに関して講義する。知識のみ習得では不十分であるので、毎回事前に、業種研究や企業研究に関する課題についてまとめておくことが求められる。

■講義の概要

- <第 1 講>
概要：企業活動と情報システム
事前,事後学習ポイント：企業の基幹業務を際除く情報システムの役割を説明する
- <第 2 講>
概要：流通業における情報システム
事前,事後学習ポイント：流通業について理解しまとめておくこと(まとめの用紙はTnextよりダウンロードすること)
- <第 3 講>
概要：自動車産業や運輸業における情報システム
事前,事後学習ポイント：自動車産業や運輸業について理解しまとめておくこと(まとめの用紙はTnextよりダウンロードすること)
- <第 4 講>
概要：医療産業における情報システム
事前,事後学習ポイント：医療産業について理解しまとめておくこと(まとめの用紙はTnextよりダウンロードすること)
- <第 5 講>
概要：農業における情報システム
事前,事後学習ポイント：農業について理解しまとめておくこと(まとめの用紙はTnextよりダウンロードすること)
- <第 6 講>
概要：サービス業における情報システム
事前,事後学習ポイント：サービス産業について理解しまとめておくこと(まとめの用紙はTnextよりダウンロードすること)
- <第 7 講>
概要：製造業における情報システム
事前,事後学習ポイント：製造業について理解しまとめておくこと(まとめの用紙はTnextよりダウンロードすること)
- <第 8 講>
概要：SISの活用について
事前,事後学習ポイント：戦略的情報システムについてまとめておく
- <第 9 講>
概要：BPRの活用について
事前,事後学習ポイント：BPR (Business Process Reengineering) についてまとめておく

<第 10 講>

概要：SCMの活用について
事前,事後学習ポイント：サプライチェーン・マネージメントについてまとめておく

<第 11 講>

概要：KMの活用について
事前,事後学習ポイント：ナレッジ・マネージメントについてまとめておく

<第 12 講>

概要：CRMの活用について
事前,事後学習ポイント：B2B, B2Cについてまとめておく

<第 13 講>

概要：DBMSの発展
事前,事後学習ポイント：リレーショナルDBについてまとめておく

<第 14 講>

概要：演習
事前,事後学習ポイント：情報システム、企業での実際

<第 15 講>

概要：まとめ
事前,事後学習ポイント：情報システム、業界

■教科書

講義用テキストを用いる

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

各回の講義内容に応じて、適宜紹介する。

■評価方法

評価は、講義中の理解度確認テストおよびレポート課題(50%)、期末試験またはレポート(50%)により行う。統計検定試験の結果を成績評価の一部として評価する。

■評価基準

- 評価A+ (90点以上)：以下の内容について十分理解している (1)企業が、基幹業務において如何に生産効率を上げ、また、事務処理効率を上げるための工夫を行っているかを理解している。(2)企業が顧客側により満足を与えるサービスを提供する目的で活用している現状を理解している。
- 評価A (89~80点)：以下の内容について理解している (1)企業が、基幹業務において如何に生産効率を上げ、または、事務処理効率を上げるための工夫を行っているかを理解している。(2)企業が顧客側により満足を与えるサービスを提供する目的で活用している現状を理解している。
- 評価B (79~70点)：以下の内容のいずれかについて理解している (1)企業が、基幹業務において如何に生産効率を上げ、または、事務処理効率を上げるための工夫を行っているかを理解している。(2)企業が顧客側により満足を与えるサービスを提供する目的で活用している現状を理解している。
- 評価C (69~60点)：以下の内容のいずれかについて理解している (1)企業が、基幹業務において如何に生産効率を上げているかを理解している。(2)事務処理効率を上げるための工夫を行っているかを理解している。(3)企業が顧客側により満足を与えるサービスを提供する目的で活用している現状を理解している。
- 評価F (59点以下)：以下の内容のいずれかについても理解していない。(1)企業が、基幹業務において如何に生産効率を上げているかを理解していない。(2)事務処理効率を上げるための工夫を行っているかを理解していない。(3)企業が顧客側により満足を与えるサービスを提供する目的で活用している現状を理解していない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

この科目での履修者各自が企業の情報システムをまとめるので、資料検索技術が求められる。

科目名

経営情報論Ⅱ(Management Information Systems Ⅱ)

サブタイトル

担当教員 今泉・出原・増田

■講義目的

企業活動を効果的に行うには顧客嗜好や社会動向をタイムリーかつ的確につかむ必要がある。ウェブの発達により安価に多量のデータを「ビッグデータ」として収集することが可能になった。これらの技術の利用法とその実例を紹介する。

ウェブ2.0の登場によりウェブ上には一部の専門家や企業ばかりでなく一般多数の人々の意見・心情が公開できる場になった。そうした意見・心情の中から人々の考え方、流行に対する受け入れ方を分析し、企業活動に活かす方法について学ぶ。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネスマネジメント

グローバルビジネス

ビジネスICT

■到達目標

- (1) 「ビッグデータ」時代での最新技術の動向を理解する。
- (2) どのような企業がそれをどのように活用しているかを理解する。
- (3) ユーザとして利用することで社会全体がどのような変化を起こしつつあるかを理解する。
- (4) 「ビッグデータ」時代での企業と顧客の関係について理解する。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(予習・復習等)に必要時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

この科目は、企業におけるWebベースビジネスをテーマとする。したがって、各自に特定の企業活動について、各回の講義内容に関してもまとめることが求められる。

■講義の概要

<第1講>

概要：情報ネットワークとは

事前,事後学習ポイント：情報ネットワーク活用の歴史を振り返り、ネットワークが必要とされてきた背景と要求の変化を知る。

<第2講>

概要：「ビッグデータ」時代

事前,事後学習ポイント：「ビッグデータ」時代の企業と顧客の関係、B2C、C2C、B2B、O2O

<第3講>

概要：クラウドコンピューティング

事前,事後学習ポイント：クラウド、分散処理

<第4講>

概要：センサー情報の活用

事前,事後学習ポイント：センサー、健康産業、カーセンサー

<第5講>

概要：Webベースビジネス

事前,事後学習ポイント：人工知能、集合知

<第6講>

概要：Webベースビジネスを支える技術：DB

事前,事後学習ポイント：構造化データベース、非構造化データベース

<第7講>

概要：Webベースビジネスを支える技術：Sensor

事前,事後学習ポイント：個人移動情報、SNS

<第8講>

概要：Webベースビジネスを支える技術：Cloud Computing

事前,事後学習ポイント：分散計算

<第9講>

概要：CGMの活用

事前,事後学習ポイント：SNS、ネットワークモデル

<第10講>

概要：レポート作成

事前,事後学習ポイント：Webベースビジネスモデル

<第11講>

概要：Webベースビジネス：セキュリティ

事前,事後学習ポイント：安心、安全

<第12講>

概要：Webベースビジネス：データ

事前,事後学習ポイント：Webアンケートデータ、信頼性

<第13講>

概要：インターネット時代の会計

事前,事後学習ポイント：時価資本総額、無形資本

<第14講>

概要：演習

事前,事後学習ポイント：講義で触れた実例などをもとに、10年後のWebビジネスの展開プロセス、シナリオについてレポート作成などを行う。

<第15講>

概要：まとめ

事前,事後学習ポイント：Webベースビジネス、要素技術、企業と社会、CGM

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

講義中の理解度確認テストおよびレポート課題(50%)、期末試験/レポート(50%)により行う。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：(1)「ビッグデータ」時代での最新技術の動向を理解して利活用を提案できる。(2)どのような企業がそれをどのように活用しているかを理解して利活用を提案できる。(3)ユーザとして利用することで社会全体がどのような変化を起こりつつあるかを説明できる。(4)「ビッグデータ」時代での企業と顧客の関係について理解して利活用を提案できる。

評価A (89~80点)：(1)「ビッグデータ」時代での最新技術の動向を理解して利活用を提案できる。(2)どのような企業がそれをどのように活用しているかを理解して利活用を提案できる。(3)「ビッグデータ」時代での企業と顧客の関係について理解して利活用を提案できる。

評価B (79~70点)：以下の4つのうち2つについて実施できる。(1)「ビッグデータ」時代での最新技術の動向を理解して利活用を提案できる。(2)どのような企業がそれをどのように活用しているかを理解して利活用を提案できる。(3)ユーザとして利用することで社会全体がどのような変化を起こりつつあるかを説明できる。(4)「ビッグデータ」時代での企業と顧客の関係について理解して利活用を提案できる。

評価C (69~60点)：以下の4つのうち1つについて実施できる。(1)「ビッグデータ」時代での最新技術の動向を理解して利活用を提案できる。(2)どのような企業がそれをどのように活用しているかを理解して利活用を提案できる。(3)ユーザとして利用することで社会全体がどのような変化を起こりつつあるかを説明できる。(4)「ビッグデータ」時代での企業と顧客の関係について理解して利活用を提案できる。

評価F (59点以下)：上記の内容について、理解不十分か、実施を提案できない

■履修していることが望ましい科目

経営情報論I

■卒業年次生対象再試験の実施

無し

■留意点

科目名 経営組織I(Management Organization I)

サブタイトル 組織の実践的理解

担当教員 小林 英夫

■講義目的

企業は最も重要な経営資源である人(々)を一つの組織としてまとめあげ、直面する内外の課題を解決し、成果をあげ続けることを目指す存在である。時代とともに変遷する組織のあり方、組織を構成する人的資源を最大に発揮する方法などを考える科目である。

経営組織Iでは、この問題に関する基礎的項目について最新事例を踏まえて学び、実践的知識を獲得する。

■講義分類

ビジネス環境理解
 ビジネスマネジメント
 社会人力育成
 グローバルビジネス
 地域ビジネス

■到達目標

- ・ 組織とは何であり企業組織はどのように運営されているのかを理解し説明できる。
- ・ 組織の主要構成要素である人的資源が組織の中でどのように活かされているのかを理解し説明できる。
- ・ 自らが組織を通じてキャリアを築き産業社会へ貢献することのイメージを描くことができる。

■講義形態

講義
 その他(クラスディスカッション)

■単元学習(予習・復習等)に必要な事項またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業前には、事前学習しておくべき用語やポイントを自分なりに調べその意味を考えてくるとともに、T-NEXTにアップされる授業資料に事前に目を通し、疑問点を明確にしておくこと。

授業後は、授業資料に再度目を通して疑問点が解消されたかを確認し、解消されていない場合は次の授業までに教員に質問するなどにより解消すること。

■講義の概要

<第1講>

概要：様々な組織観
 事前、事後学習ポイント：事前学習：組織
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第2講>

概要：経営、個人と組織
 事前、事後学習ポイント：事前学習：企業、経営、企業の機能
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第3講>

概要：企業統治～会社は誰が動かしているのか
 事前、事後学習ポイント：事前学習：株式会社、コーポレート・ガバナンス
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第4講>

概要：組織構造～会社はどのような仕組みで動いているのか
 事前、事後学習ポイント：事前学習：職能別組織、事業部制組織、持株会社
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第5講>

概要：職務設計～社員は仕事をどのように分担しているのか
 事前、事後学習ポイント：事前学習：分業、調整、権限、職務設計
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第6講>

概要：企業集団～会社は他の会社とどのように協力しているのか
 事前、事後学習ポイント：事前学習：系列、サプライ・チェーン・マネジメント
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第7講>

概要：ネットワーク組織～社会的ネットワークは組織でどのように活かされているのか
 事前、事後学習ポイント：事前学習：ソーシャルキャピタル
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第8講>

概要：企業理念と組織文化～会社はどのような方針で動いているのか
 事前、事後学習ポイント：事前学習：経営理念、組織文化
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第9講>

概要：組織社会化～人はどのように会社に染まってくるのか
 事前、事後学習ポイント：事前学習：組織社会化
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消
 <第10講>
 概要：キャリア・マネジメント～人はどのようにキャリアを選択していくのか
 事前、事後学習ポイント：事前学習：キャリアマネジメント
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第11講>

概要：人の管理とはどのようなことか
 事前、事後学習ポイント：事前学習：人的資源、人事労務管理
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第12講>

概要：動機づけ～組織は人どのように捉えるのか
 事前、事後学習ポイント：事前学習：人間モデル、モチベーション
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第13講>

概要：影響力～人はどのように動かされるのか
 事前、事後学習ポイント：事前学習：認知、持論
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第14講>

概要：リーダーシップ～人をどのように動かすか
 事前、事後学習ポイント：事前学習：人間として一皮むけるということ
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第15講>

概要：学習成果の確認～授業内期末試験
 事前、事後学習ポイント：事前学習：本講座で扱った全内容の復習
 事後学習：全授業内容の包括的理解

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

講義内で適宜紹介する

■評価方法

授業貢献点(59点)、期末試験(41点)
 単位取得には60点以上の得点が必要であり、授業に殆ど出席しない場合や、期末試験を受験しない場合は、単位取得は認められない。

毎回の授業においてコメントシートまたはミニレポートの提出を求め、その内容をA(授業を聴き良い気づきがあった)、B(授業を聴いていた)、C(授業を聴いていたとは思われない)の3段階評価し、授業貢献点とする。Aは加点対象(6点)、Bが標準(4点)、Cは減点(-4点)、欠席は0点とする。従って、授業に出席していても、受講態度が悪い場合は欠席以下の評価となる。授業貢献点は最大59点とする。

■評価基準

評価A+(90点以上)：授業貢献点と期末試験の合計が90点以上 授業貢献点は単なる出席点ではなく、授業を聴き、更に自ら考えることができているかを評価する。また、授業を改善していくための建設的提言も授業への貢献として評価する。期末試験では、経営組織に関する知識の習得度とともに、組織を通じてキャリア形成イメージが描けるようになっているかを評価する。

評価A(89～80点)：授業貢献点と期末試験の合計が80点以上90点未満
 評価B(79～70点)：授業貢献点と期末試験の合計が70点以上80点未満
 評価C(69～60点)：授業貢献点と期末試験の合計が60点以上70点未満
 評価F(59点以下)：授業貢献点と期末試験の合計が60点未満

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名

経営組織Ⅱ(Management Organization II)

サブタイトル

組織の理論的理解

担当教員

小林 英夫

■講義目的

企業は最も重要な経営資源である人(々)を一つの組織としてまとめあげ、直面する内外の課題を解決し、成果をあげ続けることを目指す存在である。時代とともに変貌する組織のあり方、組織を構成する人的資源を最大に発揮する方法などを考える科目である。

経営組織Ⅱでは、この問題に対してこれまでの学術的成果を踏まえ理論的側面からの検討を行うとともに、理論を実務に適用する際の考慮点を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

- ・1900年代より現在に至る経営組織理論の進展を体系的に説明することができる。
- ・経営組織の理論と実際の組織運営における課題を結び付けて考え、理論を用いて実務的な問題解決方法を考えることができる。
- ・自らが組織を通じてキャリアを築き産業社会へ貢献することのイメージを描くことができる。

■講義形態

講義
その他(クラスディスカッション)

■理解学習(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業前には、事前学習しておくべき用語やポイントを自分なりに調べその意味を考えてくるとともに、T-NEXTにアップされる授業資料に事前目を通し、疑問点を明確にしておくこと。

授業後には、授業資料に再度目を通して疑問点が解消されたかを確認し、解消されていない場合は次の授業までに教員に質問するなどにより解消すること。

■講義の概要

<第1講>

概要：経営組織論の体系
事前、事後学習ポイント：事前学習：マクロ組織論、ミクロ組織論
事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第2講>

概要：様々な組織と官僚制
事前、事後学習ポイント：事前学習：官僚制、ウェーバー

<第3講>

概要：古典的組織論：科学的管理法と管理過程論
事前、事後学習ポイント：事前学習：テイラー、ファブール

<第4講>

概要：新古典派組織論：人間関係論
事前、事後学習ポイント：事前学習：ホーソーン実験、集団力学

<第5講>

概要：近代組織論：バーナード革命と意思決定論
事前、事後学習ポイント：事前学習：経営者の役割、限定合理性

<第6講>

概要：コンティンジェンシー理論：組織の環境適応と組織構造設計
事前、事後学習ポイント：事前学習：条件適合理論、組織問題解決論

<第7講>

概要：制度派組織論：組織と制度
事前、事後学習ポイント：事前学習：経営学における制度

<第8講>

概要：行動科学的管理論1：モチベーションの強度
事前、事後学習ポイント：事前学習：欲求階層理論

<第9講>

概要：行動科学的管理論2：モチベーションの方向性と持続性
事前、事後学習ポイント：事前学習：内発的動機づけ

<第10講>

概要：行動科学的管理論3：リーダーシップの定義
事前、事後学習ポイント：事前学習：リーダーに求められる資質と行動

<第11講>

概要：行動科学的管理論4：リーダーシップ・スタイル
事前、事後学習ポイント：事前学習：リーダーシップ行動の2つの軸

<第12講>

概要：科学的管理論5：職業人としてのキャリア
事前、事後学習ポイント：事前学習：キャリア・マネジメント

<第13講>

概要：行動科学的管理論6：キャリアの形成要素
事前、事後学習ポイント：事前学習：キャリア・アンカー

<第14講>

概要：ラップアップ：経営組織の展望
事前、事後学習ポイント：事前学習：組織理論の体系、現代組織

<第15講>

概要：学習成果の確認－授業内期末試験
事前、事後学習ポイント：事前学習：本講座で扱った全内容の復習

事後学習：全授業内容の包括的理解

<第9講>

概要：行動科学的管理論2：モチベーションの方向性と持続性
事前、事後学習ポイント：事前学習：内発的動機づけ

<第10講>

概要：行動科学的管理論3：リーダーシップの定義
事前、事後学習ポイント：事前学習：リーダーに求められる資質と行動

<第11講>

概要：行動科学的管理論4：リーダーシップ・スタイル
事前、事後学習ポイント：事前学習：リーダーシップ行動の2つの軸

<第12講>

概要：科学的管理論5：職業人としてのキャリア
事前、事後学習ポイント：事前学習：キャリア・マネジメント

<第13講>

概要：行動科学的管理論6：キャリアの形成要素
事前、事後学習ポイント：事前学習：キャリア・アンカー

<第14講>

概要：ラップアップ：経営組織の展望
事前、事後学習ポイント：事前学習：組織理論の体系、現代組織

<第15講>

概要：学習成果の確認－授業内期末試験
事前、事後学習ポイント：事前学習：本講座で扱った全内容の復習

事後学習：全授業内容の包括的理解

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

講義内で適宜紹介する

■評価方法

授業貢献点 (59点)、期末試験 (41点)

単位取得には60点以上の得点が必要であり、授業に殆ど出席しない場合や、期末試験を受験しない場合は、単位取得は認められない。

毎回の授業においてコメントシートまたはミニレポートの提出を求め、その内容をA(授業を聴き良い気づきがあった)、B(授業を聴いていた)、C(授業を聴いていたとは思われない)の3段階評価し、授業貢献点とする。Aは加点対象(6点)、Bが標準(4点)、Cは減点(-4点)、欠席は0点とする。従って、授業に出席していても、受講態度が悪い場合は欠席以下の評価となる。授業貢献点は最大59点とする。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：授業貢献点と期末試験の合計が90点以上 授業貢献点は単なる出席点ではなく、授業を聴き、更に自ら考えることができているかを評価する。また、授業を改善していくための建設的提言も授業への貢献として評価する。期末試験では、経営組織に関する理論的理解度とともに、組織を通じたキャリア形成イメージが描けるようになっているかを評価する。

評価A (89~80点)：授業貢献点と期末試験の合計が80点以上90点未満

評価B (79~70点)：授業貢献点と期末試験の合計が70点以上80点未満

評価C (69~60点)：授業貢献点と期末試験の合計が60点以上70点未満

評価F (59点以下)：授業貢献点と期末試験の合計が60点未満

■履修していることが望ましい科目

経営組織Ⅰを履修していることが望ましいが、必須ではない

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 原価分析(Management Accounting)

サブタイトル 原価の計算方法と分析方法を学ぶ

担当教員 渡辺 智信

■講義目的

本講義では、製造業者が損益計算書や貸借対照表といった財務諸表を作成する上で必要となる原価計算（製品原価計算）の基本的な手続を理解すること、および標準原価計算や直接原価計算、CVP分析といった管理会計の基本的な計算手法を理解することが目的である。

■講義分類

ビジネスマネジメント
社会人育成

■到達目標

製品原価計算と管理会計のための計算手法について、基本的な計算ができるようになることが目標である。

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

1時間程度の復習（計算練習）

■講義の概要

<第 1 講>

概要：イントロダクション、原価計算の意義等
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：損益計算書、貸借対照表
事後学習のポイント：原価計算の役割、原価の意義と分類

<第 2 講>

概要：個別原価計算と総合原価計算
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：受注生産、見込生産
事後学習のポイント：個別原価計算・総合原価計算の適用企業と計算方法

<第 3 講>

概要：費目別計算
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：原価の分類、個別原価計算
事後学習のポイント：材料費、労務費、経費の計算方法

<第 4 講>

概要：製造間接費の配賦計算
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：間接材料費、間接労務費、間接経費
事後学習のポイント：製造間接費の配賦基準、実際配賦と予定配賦

<第 5 講>

概要：部門別計算
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：製造間接費の配賦計算
事後学習のポイント：部門別計算の一連の計算手続

<第 6 講>

概要：総合原価計算（その1）
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：総合原価計算
事後学習のポイント：先入先出法・平均法、工程別総合原価計算

<第 7 講>

概要：総合原価計算（その2）
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：総合原価計算
事後学習のポイント：組別総合原価計算、等級別総合原価計算

<第 8 講>

概要：製品原価計算の総括
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：第七講目までの講義を復習してくること。

事後学習のポイント：製品原価計算の一連の計算手続

<第 9 講>

概要：製造業者の財務諸表
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：損益計算書、貸借対照表
事後学習のポイント：原価計算と財務諸表の作成

<第 10 講>

概要：標準原価計算
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：総合原価計算
事後学習のポイント：標準原価差異分析

<第 11 講>

概要：直接原価計算（その1）
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：総合原価計算
事後学習のポイント：直接原価計算の意義と計算方法

<第 12 講>

概要：直接原価計算（その2）
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：直接原価計算
事後学習のポイント：直接原価計算と全部原価計算の利益の特徵

<第 13 講>

概要：CVP分析（その1）
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：直接原価計算
事後学習のポイント：CVP図表、損益分岐点

<第 14 講>

概要：CVP分析（その2）
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：損益分岐点
事後学習のポイント：安全余裕率、損益分岐点比率、経理レバレッジ係数

<第 15 講>

概要：後半の総括
事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント：第九講目から第十四講目までの講義を復習してくること。

事後学習のポイント：管理会計のための様々な会計手法

■教科書

なし（必要に応じて講義中に指定する）。

■指定図書

上埜進他(2008)「原価計算の基礎 -理論と計算- (第2版)」税務経理協会

■参考文献・参考URL / Reference List

なし（必要に応じて講義中に指定する）。

■評価方法

講義中に行う課題70%（出席点15%を含む）

授業内中間・期末テスト30%

■評価基準

評価A+（90点以上）：製品原価計算、管理会計のための計算手法を網羅的にマスターしている。

評価A（89～80点）：製品原価計算、管理会計のための計算手法を、概ね網羅的にマスターしている。

評価B（79～70点）：製品原価計算、管理会計のための計算手法の半分超をマスターしている。

評価C（69～60点）：製品原価計算、管理会計のための計算手法の半分程度をマスターしている。

評価F（59点以下）：製品原価計算、管理会計のための計算手法をわずしかマスターしていない。

■履修していることが望ましい科目

ビジネス入門Ⅱ、初級簿記、財務会計Ⅰ

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

毎時間の講義の理解度を確認するための小テストを実施する（小テストと合わせて出席をとる）。

本講義は履修制限が付されていることに留意すること。選抜方法は別途周知する。

科目名

現代メディア論Ⅰ(Contemporary Media StudiesⅠ)

サブタイトル

メディアを読む、世界を読む

担当教員

木村 知義

■講義目的

感じる空間、考える教室へ！ 世界と時代に向き合う知のジャーワーを！
 いま、マスメディア・ジャーナリズムは崩壊の危機に直面している。とりわけ昨年の新聞の「読者問題」をはじめ放送の「公共性」をめぐる論議など、メディアへの信頼が揺らぎ、そのあり方が根底的に問われる状況に直面している。
 こうした「メディアの危機」は情報の「送り手」の問題にとどまらない。情報の「受け手」としての、我々のメディアとの向き合い方もまた大きく問われる時代を迎えている。
 一方、インターネット・メディアの急速な台頭、とりわけソーシャルメディアが若者世代を中心に生活の一部になるなど、いま、メディアは歴史的な転換期を迎えている。これらのメディア状況の変容の中で、これまで情報の受け手として存在してしかなかった私たちが、メディアを活用して、情報の発信者として生活するフィールドも広がっている。
 このような時代状況の中で、一体何が情報で、その背後にある「構造」は何かを見抜き、読み解くことがますます重要になっている。つまり、我々のメディアリテラシー（メディアを的確かつ批判的に読み解き、活用する能力）の重要性が一層増しているということである。

長年におわたって放送の現場で教養、文化および報道分野の仕事を重ね、ラジオの朝の「報道・情報番組」のアンカーを務めてきた経験に立って、メディアから日々伝えられるニュースや話題をもとに、情報とは何かということを考えるとともに、メディアをどう読み解くのかを実践的に深く、時代と世界を読み解く力を鍛えていく。これらの学びを総合して、情報感度を高め、問題発見能力、論理的思考力、問題解決能力にいたる。現代社会を生きるうえで必要となる人間としての基礎的な意識にチャレンジする。

教室では、具体事例をおとしてそれぞれが考え、意見発表を行いながら学びを深め、現代の情報社会を生きる力としてのメディアリテラシーと創造性豊かな知性の獲得をはかる。

こうして、世界潮流と時代環境への理解を深め、同時にコミュニケーション能力を鍛えることで、大学から社会に巣立つ際に不可欠な新たなリベラルアーツというべき創造的な学びの場を築かず。

■講義分類

社会力育成 ビジネスICT
 ビジネス環境理解 グローバルビジネス

■到達目標

1. 現在のメディア状況について知見を広げ、メディアと社会に対して深い問題意識を持つことができる。
2. 日々、世界と日本で起る出来事、ニュースについて、自分の頭で考え、分析し、自分の言葉で語るができる。
3. メディアにおける情報表現とその背後にある認識、問題意識の関係について、具体事例を通じて解説できる。
4. メディアのあり方について、自分の意見、見識を持って向き合うことができる。
5. 情報を読み解く力、問題発見能力を鍛え、問題解決のための実践的知識を獲得して、社会生活の中で活用できる。
6. 現代社会を生きる上で不可欠なコミュニケーション能力を鍛え、実生活で実践、活用できる。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習（学習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎回教室で配布する報道記事やメディア関連資料を読み込み、それに対する自分の意見を持って授業に臨むことを義務づける。資料の読了が授業の前提となる。加えて、毎回、次回に備えて調べる事前学習課題を設定し、随時指名して教室で発表を求める。

■講義の概要

<第1講>

概要：メディアの「現在地」とメディアリテラシー

昨年、メディアにかかわる大きな問題として浮上した「朝日新聞問題」をもとに、現在の「メディアの風景」を俯瞰し、そこでの問題のありか考える。

事前、事後学習ポイント：「朝日新聞問題」について調べる。さらに「メディア危機」にかかわる言説について調べ、整理する。

なぜこの講義に関心を持ったのかなど、各自、受講の動機について発言できるよう考えを整理しておく。

<第2講>

概要：メディアにおける「公正の実践」とは

前回の「メディアの現在地」から見てきた重要な課題、メディアにおける事実認識と「公正の実践」について考える。

事前、事後学習ポイント：前週配布した資料を読み込んで「公正の実践」とはどのようなことなのかについて考え、問題意識を整理しておく。また、事実と価値判断、意見の関係について報道記事などの具体事例をもとに考える。

<第3講>

概要：事実とは何か、事実をどう読み解く

メディアの報道に何が欠けているのか。「誤報」の原因は何か、何が問題なのか。メディアが「事実」をどう伝えているのかを検証しながら、事実の読み解き方とメディアリテラシーについて考える。

事前、事後学習ポイント：前週配布した資料を読み込み、「ありのまま伝える」というメディアの営みについて考える。同時に「一次情報」「二次情報」ということばの意味について調べ、具体的な事例に即して読み分けてみて、メディアにおける「事実」とは何かについて整理しておく。

<第4講>

概要：変わるメディア（1）

アメリカのメディアに起きた変化と新しいトレンドを例に、何がどう変わったのかを整理し、認識を深める。同時に日本のメディアに起きている変化、変容を探り、いま傾向に変わりつつあるメディアの現在と未来について考える。

事前、事後学習ポイント：配布資料などとともに、アメリカの新聞の「産刊」事例について整理するとともに、ニューヨークタイムズの「Snow Fall」などデジタルとの融合メディアの具体事例や「ハイブリッド報道」ということばについても調べておく。また、日本におけるWebメディアの現状について調べるとともに、そこにどのような課題が存在するのかについて考えてみる。

<第5講>

概要：変わるメディア（2）

デジタルとの融合、Webメディアへの展開の中で生まれしてきた、アメリカの「NPOによるメディア」や「専門分野を前面に打ち出したメディア」さらには「オビニオン型メディア」について具体事例を見ながら学び、これからのメディアの可能性と課題について深める。

事前、事後学習ポイント：アメリカにおける「NPOメディア」「プロパブリカ」「ポリテイコ」「ハフィントン・ポスト」など、ネットジャーナリズムの現状について調べる。同時に、日本におけるWebメディアの現状について、「スマホ体験」などもまえて整理すると同時に、Webメディアの可能性と課題について考えてみる。

第五講を終えたところで、一回目のミニレポートの課題を提示、次週、教室で提出とする。

<第6講>

概要：新聞は読めるか！？（1）

若者世代の「新聞離れ」がはなはだしい。旧来型メディアの代表ともいえる新聞だが、ではなぜ朝の電車内で新聞を読むサラリーマンの姿は減らないのか・・・。あらためて問う、新聞は読めるのか！？新聞は誰でも読める。しかし誰も読めるわけではない、ではどうする・・・。

事前、事後学習ポイント：とにかく、新聞を手にする、読んでみるということからはじめる。次回の教室まで毎日、新聞を読み続け、関心を持った記事についてスクラップ（コピー）するとともに、その記事について考えたことを記録する。

注）授業当日の「朝刊」を必ず教室に持参すること。

<第7講>

概要：新聞は読めるか！？（2）

新聞をさらに深く読み込み、新聞を読む意味をしっかりとつかみ、情報をどう読み解いていくのかを具体事例を通して実践的に学ぶことで、メディアを読み解く力をさらに鍛える。

事前、事後学習ポイント：さらに新聞を読み続け、関心を持った記事のスクラップと考えたことの記録を続ける。同時に、新聞各紙の一面トップ記事の比較、対照から何が見えてくるのかを考える。また同じニュースの扱いの違いや、ニュアンスの違いを読み分ける。さらに紙面の記事同士の相関、連関について考えてみる。

<第8講>

概要：放送90年（1） ラジオに何が可能か

今年、放送開始90年を迎える。この90年の歴史はラジオの歴史でもあった。TV放送の興隆とともに一見「マイナーメディア」に甘んじるようになったラジオだが、実に深いメディアだといえるべきである。ラジオをどう「読み解くのか」という問題意識で放送の歴史とラジオについて考える。

事前、事後学習ポイント：日本における放送の歴史について調べる。1925年3月22日、JOAK（東京放送局の放送開始における後藤平総裁の「無線放送に対する予抱負」）で何を述べたか調べてみる。ここからメディアと社会の関係、とりわけ放送メディアが果たす社会的機能、役割について考えてみる。また、直近の東日本大震災とラジオの関係についても調べる。

<第9講>

概要：特別講義：メディアの現場から～日本発アジアへ！
日本で活動するアジアのすぐれたジャーナリストを講師に招き、体験にもとづく「メディア論」を聴く。

事前、事後学習ポイント：香港鳳凰電視台（フェニックスTV）など、日本発アジアにむけての情報発信に積極的に取り組むメディアについて調べる。

特別講義の「感想文」を二回目ミニレポートとして課し、次週教室で提出とする。

<第10講>

概要：放送90年～（2） ビッグデータ時代のテレビは
ビッグデータの解析を駆使して新たな「情報」を発掘し、読者や視聴者に新たな世界を見せていくビッグデータの潮流がメディアの世界を席巻し始めていた。テレビにおける先行事例を見ながら、ビッグデータ時代のテレビの可能性を考える。

事前、事後学習ポイント：ビッグデータの解析をもとに制作された注目を集めているNHKスペシャル「震災ビッグデータ」のシリーズについて調べ、従来の番組と何が異なるのかを整理し、ビッグデータとテレビの関係について考察を深めてみる。

<第11講>

概要：戦争とメディア（1）「検証 ミディアムのイラク戦争報道」から
2003年のイラク戦争開戦から一年後、欧米メディアにおいてイラク戦争報道への検証の目が向けられるようになった。そのひとつ、NHKBSドキュメンタリー「検証 ミディアムのイラク戦争報道」(2005年)をとらえて「戦争とメディア」について考える。

事前、事後学習ポイント：イラク戦争、サダム・フセイン、プッシュ大統領、大量破壊兵器、アブレイブ刑務所などイラク戦争にかかわる重要なキーワードについて調べる。加えて、ベトナム戦争や湾岸戦争とメディアの関係についての言説に当たり、戦争とメディアについて問題意識を深めておく。

<第12講>

概要：戦争とメディア（2）戦争報道の現場では
戦争報道とメディアについて、ベトナム戦争にかかわる歴史を振り返りながら、戦地でメディアに何が起きていたのかを具体事例を通じて学ぶとともに戦争とメディアについてさらに深めて考える。

事前、事後学習ポイント：、「エンベッド取材」について調べる。また、ベトナム戦争、湾岸戦争、アフガン・イラク戦争とメディアの関係について、どんな議論があったのかを整理する。これらとあわせて、戦争とメディアのあり方についての論点、課題について認識、問題意識を深める。

授業終了時に最終レポートの課題を提示する。提出は最終回の授業終了時、教室にて。

<第13講>

概要：メディアを読み解く遠近法（1） いま、エドワード・サイードに学ぶ
「オリエンタリズム」「イスラム報道」などを学んだエドワード・W・サイードの問題提起をもとに、メディアがはらむ問題について深く、国際報道をどう読み解くのかを考える。

事前、事後学習ポイント：エドワード・W・サイードと「オリエンタリズム」について調べ、彼がどのような問題提起を重ねてきたのかまとめてみる。また、「イスラム報道」における、メディアが内包する問題についての指摘、問題提起を、日常の国際ニュースと我々の受けとめ方に引きつけて考えてみる。

<第14講>

概要：メディアを読み解く遠近法（2） 歴史意識と想像力
メディアと向き合う際に不可欠な歴史意識について考えてみる。同時にそこで求められる想像力とはどのような力なのかを考え、メディアを読み解く力＝メディアリテラシーを鍛える。

事前、事後学習ポイント：歴史意識とはどのようなことか、なぜ歴史意識は大事なのかを考え、自分のことばでまとめてみる。さらに、この時代に必要な想像力とはどのような力なのかについても深めて考える。

<第15講>

概要：今日のニュースは明日の歴史～春学期のまとめに代えて
さまざまな具体事例をとおして、メディアと向き合う力、メディアを活用して生きる力、すなわちメディアリテラシーを鍛えるために学んできた春学期のポイントについて整理しながら、再確認する。同時に、秋学期への「架け橋」とすべき問題意識、課題についても整理して確認する。

事前、事後学習ポイント：あらためて、メディアリテラシーとはどういうことなのか、なぜ必要なのか、問題意識と論点について整理する。とりわけ、メディアを批判的に読み解くとはどういうことなのかについて認識を深める。その上、現代社会におけるメディアリテラシーの意味について再確認しておく。

■教科書

なし。毎回、講義リジュメを作成、配布するとともに、スライドによる教材を準備、提示する。

■指定図書

『図説日本のメディア』藤竹曉編著（NHK出版2012年）
『メディアリテラシー～世界の現場から～』菅谷明子（岩波新書2000年）
『アメリカ・メディア・ウォーズ～ジャーナリズムの現在地～』大治朋子（講談社現代新書2013年）

『ラジオの時代 ラジオは茶の間の主役だった』竹山昭子（世界思想社2002年）
『メディアは戦時どうにかわってきたか～日露戦争から対日戦争まで』木下和規（朝日選書2005年）
『そして、メディアは日本を戦争に導いた』半藤一利・阪正康（東洋経済新報社2013年）

『イスラム報道』エドワード・W・サイード（みすず書房2003年）
『エンビクソペディア 現代ジャーナリズム』早稲田大学ジャーナリズム教育研究所編（早稲田大学出版部2013年）

■参考文献・参考URL / Reference List

『どうする情報 報道改革の分水嶺』藤田博司（リベルタ出版2010年）
『ジャーナリズムの可能性』原 寿雄（岩波新書2009年）
『メディアと日本人～変わりゆく日常』橋元文明（岩波新書2011年）
『ジャーナリズムが減る日』熊鷹建夫（花伝社2011年）
『「本当のこと」を伝えない日本の新聞』マーチン・ファクラー（双葉新書2012年）
『勝てないアメリカ「対テロ戦争」の日常』大治朋子（岩波新書2012年）
『テレビの危機 一億総博知化への系譜』佐藤幸己（NTT出版2008年）
『これだけのいかに！日本のメディア』岡本厚か（あけび書房2013年）

■評価方法

学期末の課題レポート：50パーセント、ミニレポート（2回）：30パーセント
教室での発言、発表など積極性：20パーセント。

なお、レポートはMicrosoft Office のWordで作成のこと。
また、レポートの評価にあたっては、講義内容をふまえてそれぞれが考えをどう深め、何にどう触発されて自己の思考を発展させたのかを重視し、なによりも自分で考え、自分のことばで語る。各自のオリジナリティーを重視して評価、採点する。引用を逸脱するWebなどからのコピー・アンド・ペーストによるレポート作成は評価の対象外として不合格とする。またWebや文庫からの引用にあたっては必ず典拠を明示すること。

■評価基準

評価A+（90点以上）：講義を通して得たメディアにかかわる知見をもとに、独自の考えに深め、発展させて、自分のことばで説得力のある論を展開できる。同時に、現在のメディア状況に対する的確な問題提起と解決に向けての提案がある。学んだことを、現代のメディア状況に対して、オリジナリティーに富む独自の視点からの問題提起に深化、発展させているかどうか、社会性と説得力のある「論」（の萌芽）に到達しているかどうかをも重視し、判断する。

評価A（89～80点）：講義で得た知見をもとに、メディアによって伝えられるニュースや「できごと」に対して、自分の頭で考え、分析し、自分の言葉で語ることができる。またそれをもとに、現在のメディアのあり方に対して自分なりの切り口、発想で考えようと努力していて問題意識の深まりが顕著で、見るべき問題提起も含まれる。

評価B（79～70点）：講義を真摯に聴講し、メディアにかかわる諸問題についての知見の獲得に努力したことがうかがえ、それをもとに、一定程度の知見の深化、発展への努力が認められる。同時に、メディアのあり方について自分の意見、見識を持って向き合う努力している（ことがわかってくる）水準に到達している。

評価C（69～60点）：講義から最低限の知見の獲得の努力のあはうかがえるが、そのこととどまっただけで、さらに知見を広げたり、自分の考えを深める点では不十分である。また、学んだこととが自分のことばに正確に語るところに到達できていない。

評価F（59点以下）：講義による知見の獲得への真摯さと、それをもとにした自分の考えを深めることに努力のあはうかがえない。いうまでもないことだが、Webからのコピー・アンド・ペーストをはじめ、他人の論文や言説の剽窃、切張りによるレポート作成は論外。

■履修していることが望ましい科目

日頃から、政治、経済にとどまらず歴史、芸術、文化、さらには自然科学に及ぶ、広く多様な領域に関心をもち、問題意識を深め、総合的な「全体知」の獲得に努力すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

日々世界と日本で起きるできごとやニュースを具体事例として活用しビビッドな学びの場とするため、全体としては講義計画の内容を把握、包括することを前提にするが、臨機応変に講義内容を組み変えていくことありうることをあらかじめ承知、理解しておくこと。

また教室では意見発表や討論を組み込んで進めていくので、普段からメディアへの関心を持ち、積極的に発言することを心がけること。

レポートはMicrosoft Office のWordで作成のこと。

科目名

現代メディア論Ⅱ(Contemporary Media Studies II)

サブタイトル

メディアを読む、世界を読む

担当教員

木村 知義

■講義目的

春学期の「現代メディア論Ⅰ」をふまえて、さらに問題意識を深めていく。

春学期は、昨年大きな問題として浮上した「朝日新聞問題」を入口にして「メディアにおける公正の実践」、あるいは「事実」をどう読み解き、どう認識するのかという問題を探ることに始めた。そこでは、メディアの「現在地」を確認し、情報の「受け手」としての我々に求められる力とはどのようなものかを具体事例にもとめて考えた。こうした「メディアの危機」に対する認識を深めるのと同時に、メディアの世界に起きている新たな動き、トレンド、特にビッグデータの解析にもとづく新たなデータ・ジャーナリズムの取り組みに注目して、メディアの転換期についての知見と問題意識を深めた。また、新聞をはじめとする従来からのメディアを通して、情報をどう読み解き、時代や世界についての認識をどう深めるのかを考えた。それはとりもなおさず、情報の受け手としての我々に必要とされるメディアリテラシーを鍛える営みであった。その核心は「メディアが形作る『現実』を批判的に読み取る力」であり、「建設的な批判力」の獲得、練磨であった。

こうした営みに通底する問題意識は、日々洪水のように押し寄せる情報の波に翻弄されてはならない! ということである。あるいはメディアは「鏡舌」なまでに語るが、伝えられるべきことは語られていないのではないかという問題意識でもある。メディアの危機が語られる現代のメディア状況を前に、世界で、日本で、いま一体何が起きているのか、時代はどこに向かうのかなどを的確に読み解き、認識できる力をもとに獲得し、鍛えるのかということでもある。

秋学期は、特に、「スクープ報道」「客観報道」「調査報道」「放送90年」といったテーマを重要な柱に据えて、新聞記事や国内、海外のテレビ・ドキュメンタリー番組などを活用しながら、いまメディアに問われるものは何かについてさらに深めていく。

同時に、春学期にも掲げたように、大学という場から社会に巣立つ際に不可欠な情報への態度を高め、情報の解析能力、さらにはそれらにもとづくコミュニケーション能力を鍛え、現代社会を生きるための新たなリテラーツというべき創造的な学びの場をめざす。

合言葉は春学期同様、感じる空間、考える教室! そして、世界と時代に向き合うことのシヤラを! である。

■講義分類

社会力育成 ビジネスICT
ビジネス環境理解 グローバルビジネス

■到達目標

1. 現在のメディア状況について知見を広げ、メディアと社会に対して深い問題意識を持つことができる。
2. 日々、世界と日本で起きている出来事、ニュースについて、自分の頭で考え、分析し、自分の言葉で語ることができる。
3. メディアにおける情報表現とその背後にある認識、問題意識の関係について、具体事例を通じて解析できる。
4. メディアのあり方について、自分の意見、見識を持って向き合うことができる。特に「客観報道」と「調査報道」にかかわる知見と問題意識を深め、これからのメディアのあり方について自分の考えを持って語ることができる。
5. 情報を読み解く力、問題発見能力を鍛え、問題解決のための実践的知識を獲得して、社会生活の中で活用できる。
6. 現代社会を生きる上で不可欠なコミュニケーション能力を鍛え、実生活で実践、活用できる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

春学期同様、毎回教室で配布する報道記事やメディア関連資料を読み込み、それに対する自分の意見を持って授業に臨むことを義務づける。したがって、資料の読了が授業の前提となる。加えて、毎回、次週に備えて調べる事前学習課題を設定し、随時指名して教室で発表を求める。

■講義の概要

<第1講>

概要: なぜ、メディアリテラシーは必要なのか—現代メディア論Ⅱがめざすもの—「メディア危機」と「メディアリテラシー」という二つのキーワードを手がかりに、現在のメディア状況について俯瞰し、メディアの何が問題として横たわっているのかを整理する。

事前、事後学習ポイント: 昨年の「朝日新聞問題」の経緯と今後の展開について整理しておく。同時に「メディア危機」「メディアリテラシー」について調べ、論点を整理す

る。また、なぜこの講義に関心を持ったのかなど、各自の受講の動機について発表できるように考えを整理しておく。

<第2講>

概要: 事実とはなにか、事実をどう読み解く(Ⅱ)

春学期、「朝日新聞問題」について考える中で「メディアの公正の実践」という問題意識で事実とどう向き合うのか、事実の読み解きとはどういうことかを考えた。この問題意識をふまえて、さらに事実を読み解くとはどういうことなのかについて深め、確認しておく。

事前、事後学習ポイント: メディアに対する批判や問題点の指摘の事例について調べ、それらのなかで、事実と意見、情報に対する「評価」「論評」などの「書き分け」について問題となっている具体事例を探し、何がどう問題なのかを考えてみる。

<第3講>

概要: いま、メディアの危機とは

「メディアの危機」が各所で語られる。しかし、そこでいう「危機」とはいかなるものなのか。とらえかたはさまざま。現在の「メディアの危機」について論点、問題を整理しながら、危機の実体は何かについて認識、問題意識を深める。

事前、事後学習ポイント: 「メディアの危機」をめぐる多様な言説に当たって、論点を整理してみる。そのうえで、それぞれが「メディア危機」をどうとらえるのか各自の考えを深める。また、テレビの「総バリエーション化」現象についても調べるなど、具体事例(番組)に沿って、何が問題なのかを考えてみる。

<第4講>

概要: 特ダネ、スクープの畏(Ⅰ)

新聞やテレビの特ダネ、スクープ記事がはらむ「落とし穴」について、具体事例をもとに考える。近年の「IPS総論報道」など具体事例についてふり返りながら、「スクープ」(誤報)がはらむ問題について考え、そこでのメディアリテラシーの重要性について認識を深める。

事前、事後学習ポイント: 「IPS総論報道」など、過去のメディアの「スクープ」と誤報問題の具体事例について調べる。同時に、さらには「誤報」をもたらしたのはなぜなのか、何が原因なのかを考え、整理してみる。さらには、それらの問題への各メディアの対応にどんな問題が潜んでいるのかについても考えてみる。

<第5講>

概要: 特ダネ、スクープの畏(Ⅱ)

新聞やテレビの特ダネ、スクープ記事がはらむ「落とし穴」についてさらに考える。特に企業、経済ニュースの「スクープ」について具体事例をもとに、どういった問題が隠されているのか、問題意識を深める。

事前、事後学習ポイント: 「企業合併」などの経済・産業に関わるスクープの具体事例と「報道、その後」について調べる。また企業情報、経済ニュースの報道における問題は何かについて調べ、論点を整理してみる。

* 図書館でかならず、週刊ダイヤモンド2013年5月25日号「経済ニュースを疑え—報道現場の裏側を明かす」に当たり、論点を整理する。

授業終了時に第一回のミニレポート課題を提示。次週、教室で提出。

<第6講>

概要: 「客観報道」とは何か(Ⅰ)

メディアの「伝える」という機能、営為を考えるとき選べて通れない「客観報道」とはどういうことかについて考える。まず、客観報道はどう議論されてきたのかに目を向け、論点を整理をしながら、客観報道の要件と内包する問題について考える。

事前、事後学習ポイント: 客観報道をめぐるさまざまな考え方、議論について調べ、論点を整理する。また近年なぜ客観報道が粗上りになるのかについても調べ、考えてみる。

<第7講>

概要: 「客観報道」とは何か(Ⅱ)

前回の「客観報道」をめぐる言説と論点の整理をふまえて、メディアにおける「客観報道主義」に内在する問題についてさらに深めて考える。そのうえで、メディアで「客観的に伝えられること」を批判的に吟味、検証できる力を鍛えるために何が必要かを考える。

事前、事後学習ポイント: さらに「客観報道主義」とそれをめぐる議論、言説について調べ、整理する。同時に、なぜ「客観報道主義」をめぐる議論されるのか、指定図書や参考図書に当たり、メディア関係者、研究者をはじめとする論者の論点について整理しておく。

<第8講>

概要: 放送90年、放送メディアの明日をどう描く(Ⅰ)

今年は放送開始90年の節目の年に当たる。春の「放送記念日」以来、放送メディアが果たしてきた役割と今後の課題について、さまざまな伝えられ続けている。こうした放送番組や調査資料をもとに、放送メディアの過去と未来について考えてみる。

事前、事後学習ポイント: 放送開始90年に関するNHKの番組やNHK放送文化研究所による調査資料について調べてみる。

特集企画番組については、<http://www.nhk.or.jp>
NHK放送文化研究所については、<http://www.nhk.or.jp/bunken/index.html>

を参照。
<第9講>

概要：メディアの現場から
メディアの現場で仕事に取り組みむ人々を特別講師に招き、メディア最前線の動向や仕事への思いや問題提起など体験的メディア論を聴く。

事前、事後学習ポイント：＊秋学期の初週、講師が確定した段階で読み込むべき参考資料の配布を含め、別途提示する。

特別講義を聴いての「感想文」を二回目のミニレポートの課題とし、次週教室で提出。
<第10講>

概要：放送90年、放送メディアの明日をどう描く(2)
放送開始90年の今年、メディアの未来の姿について展望するさまざまな企画番組も放送されている。それらの中には世界的な広がりのおかげでメディアに起きている新たな潮流をたらし、「メディアの明日」について考えるものがある。こうした企画番組をもとに、歴史的ともいえるメディアの大きな変化と未来の姿について視界を広げ、問題意識を深める。

事前、事後学習ポイント：Webサイト「NHKメディアの明日」などで、これまでどのような企画が放送され、どんな考察、議論がおこなわれたのかを調べ、論点の整理をして、メディアの未来の姿について、それぞれの考えをまとめる。

「メディアの明日」<http://www.nhk.or.jp/mediasu/>
<第11講>

概要：調査報道とメディアの可能性(1) - 客観報道のむこうへ
これまで考えてきた「客観報道」の限界をふまえて、今日目される「調査報道」とは一体どういうものか、ジャーナリスト、メディア研究者らの言説や最新の事例をもとに考える。

事前、事後学習ポイント：ウオーターゲート事件報道とフックスンボスト、リクルート事件、ロッキード事件報道について調べる。あわせて、「発表報道」と「調査報道」について、どのような言説が重ねられているのかを調べ、論点の整理をする。
<第12講>

概要：調査報道とメディアの可能性(2) - 「調査報道は生き方である」をめくって
いわゆる「発表報道」に依存せず、独自の視点と取材によって事実を掘り起し、積み重ねた調査報道にこそメディア再生の可能性を見出すことができるという指摘がある。しかもこうした営みには取材者の生き方そのものが投影され、密接不可分なものである。こうした考え方について深く、調査報道の意義と可能性について考える。

事前、事後学習ポイント：資料として配布した、調査報道の事例を読み込み、そこでの「善き手」と取材対象の関係について考えてみる。また、同じく資料として配布する調査報道をめぐる言説について読み込みとともに、それぞれが書物や新聞資料に当たって、調査報道の事例について読み込み、考えたこと、触発されたことなどをまとめる。

最終レポートの課題を提示。提出は最終週の講義終了時、教室にて。
<第13講>

概要：「速音」を聴く感性と世界を見つめる力
世界にあって、戦火や貧困などにあえぎ、苦しむ人々が発する、はるかな「速音」を聴く力を持たなければならない。前回までの「調査報道」をめぐる考察を発展させ、「メディア」を読み解く力、メディアリテラシーの重要な構成部分としての「歴史意識」を「メキつめる力」「想像力」をとりあげ、これらの意味と相互の関係について考える。

事前、事後学習ポイント：「歴史意識」とはどのようなことを意味するのかについて書物、文献に当たって調べ、考える。
<第14講>

概要：情報の「受け手」から「主役」へ!
これまでメディアリテラシーの重要性について考えを重ねてきた。その核心的な問題意識は、単に情報を受け取りそのままに受け入れるだけの受動的な存在から、情報を批判的に吟味、検証しながらメディアと向き合うこと、能動的な存在への変換をめざすところにある。このことを日常化するためにどうすればいいのか、さらに考えてみる。

事前、事後学習ポイント：「パブリックアクセス」の意味や具体的な事例について調べてみる。とりわけ「市民発の情報発信」の実践例について調べるとともに、そこでのメディアの顔と「受け手」(オーディエンス)の関係についても調べる。
<第15講>

概要：「きょうのニュースは明日の歴史」
秋学期を通じて学んできたこととまとめ、新たな「旅立ち」に向けて、問題意識を整理するとともに課題について確認する。
事前、事後学習ポイント：あらためて、メディアリテラシーとは何かを考える。さらに、メディアについて学んだ意味を深めて血肉化する。

■教科書

なし。毎回、講義レジュメを作成、配布するとともに、スライドによる教材を準備、提示する。

■指定図書

『図説日本のメディア』藤竹曉編著(NHK出版2012年)

『「客観報道」とは何か-戦後ジャーナリズム研究と客観報道論争』中正樹(新泉社2006年)

『ジャーナリズムの社会学』ブライアン・マクネア(リベルタ出版2006年)
『権力VS調査報道』高田昌幸・小黒純(旬報社2011年)
『調査報道がジャーナリズムを変える』田島泰彦他編(花伝社2011年)
『斎藤英男-ジャーナリズムの可能性』斎藤英男・内藤寛一・筑紫哲也・原寿雄編(共同通信社2001年)
『危機』と向き合うジャーナリズム』谷藤悦史ほか(早稲田大学出版部2013年)

■参考文献・参考URL / Reference List

『クラウド 増殖する悪意』森澤也(dZERO:インプレスコミュニケーションズ2013年)
『事実が私を救える』斎藤英男(太郎次郎社1981年)
『官報合体』牧野洋(新潮社2012年)
『怯えの時代』内山節(読書社2009年)
『テレビ的教養-一億総博知化への系譜-』佐藤卓己(NTT出版2008年)
『メディアリテラシー-世界の現場から-』菅谷明子(岩波新書2000年)
『アバター・テレビジョン・スタディーズ』伊藤守・毛利孝典(せりか書房2014年)

■評価方法

学期末の課題レポート:50パーセント、ミニレポート(2回):30パーセント
教室での発言、発表など積極性:20パーセント。
なお、レポートはMicrosoft OfficeのWordで作成のこと。
また、レポートの評価にあたっては、講義内容をふまえてそれぞれが考えをどう深め、何にどう発露させて自己の思考を発展させたのかを重視し、なによりも自分で考え、自分のことばで語る。各自のオリジナリティーを重視して評価、採点する。引用を逸脱するWebなどからのコピー・アンド・ペーストによるレポート作成は評価の対象外として不合格とする。またWebや文献からの引用にあたっては必ず真偽を明示すること。

■評価基準

評価A+(90点以上)：講義を通して得た知見をもとに、独自の考えに深め、発展させて、自分のことばで説得力のある論を展開できる。特に、「客観報道」がはらむ問題点と「調査報道」の可能性について、授業での学びをもとに問題意識を深く、自分なりの意見を解決して語ることができている。同時に、現在のメディア状況に対する的確な問題提起と課題に向けての提案ができる。学んだことを、現代のメディア状況に対する、オリジナリティーに富む独自の視点からの問題提起に深化、発展させていくかどうか、社会性と説得力のある「論」(の萌芽)に到達しているかどうかを最も重視し、判断する。

評価A(89~80点)：講義で得た知見をもとに、現在のメディアのあり方に対して自分なりの切り口、発意で考えようとして努力していることがうかがえる。さらに「客観報道」がはらむ問題点と「調査報道」の可能性について、授業での学びをもとに問題意識を深く、自分なりの意見を持って語ることができる。全体として、メディアについての問題意識の深まりが顕著で、自分のことばによって、見るべき問題提起もできている。

評価B(79~70点)：講義を真摯に聴講し、メディアにかかわる諸問題についての知見の獲得に努力したことがうかがえ、それをもとに、一定程度の知見の深化、発展への努力が認められる。同時に、「客観報道」にかかわる問題点、課題についても理解できていて、「調査報道」の可能性についても一定の理解に達している。総合的に、メディアのあり方について自分の意見、見識を持って向きあおうと努力している(ことが伝わってくる)水準に到達している。

評価C(69~60点)：講義から、最低限の知見の獲得の努力のあととはうかがえるが、そこにとどまっていた、さらに知見を広げたり、自分の考えを深めたりすることが十分とはいえない。特に「客観報道」から「調査報道」へという論理展開について、認識や問題意識の深まりに課題を残している。総じて、学びに対する一定程度の努力のあととはうかがえるが、学んだことがらを咀嚼して、自らの考えに深く語るところに到達できていない。

評価F(59点以下)：講義による知見の獲得への真摯さと、それをもとにした自分の考えを深めることに努力のあとがうかがえない。いうまでもないことだが、Webからのコピー・アンド・ペーストをはじめ、他人の論文や言説の剽窃、切張りによるレポート作成は除外。

■履修していることが望ましい科目

春学期同様、日頃から、政治、経済にとどまらず歴史、芸術、文化、さらには自然科学に及び、広く多様な領域に関心を持ち、問題意識を深め、総合的な「全体性」の獲得に努力すること。

■卒業生年次生対象再試験の実施

なし。ただし、就職などの事情については別途本人と話し合っている課題設定などを考慮する場合もある。

■留意点

『現代メディア論』に続くこの講義も、概観的なメディア論をめざすのではなく、メディアによって日々伝えられるニュースや放送番組を素材に、情報の読み解き方を学び、それを通して時代や世界を見る目を鍛え、同時に現代のメディアのあり方考えることを

めざしていく。新聞の企画報道やテレビのドキュメンタリー番組を通してメディアの現在と未来について考えることに力点を置くことから、その時々最新の具体事例、新聞記事やテレビ番組をピビッドに取り上げるため、当初の講義計画に沿いながらも柔軟に変更することがあることをあらかじめ承知しておくこと。

なお、意見発表や討論によって問題意識を深めていくことを重視していくので、教室で、積極的に発言して、自らのことばで論理的に語る力を鍛えることが重要になる。

履修にあたっては以上のことをあらかじめ理解、承知しておくこと。

科目名 国際経営入門I(Introduction to International Management I)

サブタイトル

担当教員 飯田 健雄

■講義目的

国際経営は世界政治・経済に利益を求めてダイナミックに動くトランスナショナルな超国家的組織体です。この組織を外部・内部から探究していきます。

■講義分類

グローバルビジネス

■到達目標

国際経営の基礎を包括的に学んでいく。

■講義形態

講義のみ

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

NHKの経済ニュースを見よう。また、日本経済新聞を毎日、読む習慣をつけよう。隔週ごとの項目に関して、指定教科書を事前に読み、講義後、板書された項目を理解している。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：国際経営とは何か

事前,事後学習ポイント：多国籍企業を検索してみよう。どのような企業がスクリーン上に現れるであろうか。講義後、トヨタの海外工場の数やその地理的位置をネットでみてみよう。

<第 2 講>

概要：国際経営組織 I

事前,事後学習ポイント：経営組織を検索してみよう。講義後、本社と海外子会社の関係を商社を例にネットで調べてみよう。

<第 3 講>

概要：国際経営組織 II

事前,事後学習ポイント：日本企業の海外組織図をネットで探してみよう。講義後、ウォルマートやネスレ等の巨大多国籍企業の組織図をネットで調べてみよう。

<第 4 講>

概要：国際人事管理 I

事前,事後学習ポイント：人事管理を検索してみよう。講義後、人事管理という仕事を考えてみよう。

<第 5 講>

概要：国際人事管理 II

事前,事後学習ポイント：国際人事を検索してみよう。講義後、日本企業でも海外で現地スタッフが社長になっている企業を調べてみよう。

<第 6 講>

概要：国際マーケティング I

事前,事後学習ポイント：マーケティングを検索してみよう。講義後、マーケティングの4Pについて考えてみよう。

<第 7 講>

概要：国際マーケティング II

事前,事後学習ポイント：マーケティングを検索してみよう。講義前、マーケティングの4Pについて考えてみよう。

<第 8 講>

概要：国際生産管理 I

事前,事後学習ポイント：生産管理を検索してみよう。講義後、なぜ、日本企業は海外で生産をしたがるのか考えてみよう。

<第 9 講>

概要：国際生産管理 II

事前,事後学習ポイント：国際生産管理を検索してみよう。講義後、アメリカにおいてのトヨタの生産方式をネットで調べてみよう。

<第 10 講>

概要：異文化経営論 I

事前,事後学習ポイント：異文化経営を検索してみよう。講義後、中国から来ている留学生に日本と中国の生活様式の違いについて尋ねてみよう。

<第 11 講>

概要：異文化経営論 II

事前,事後学習ポイント：異文化インターフェイスを検索してみよう。講義後、文化の違いによって、経営組織内にどのようなトラブルが発生しやすいか考えてみよう。その参考として東洋水産の海外進出を描いた映画「燃ゆるとき」をみてみよう。

<第 12 講>

概要：国際提携戦略 I

事前,事後学習ポイント：企業提携を検索してみよう。そして、どのような企業同士の提携があるかみてみよう。講義後、提携の戦略的意義について考えてみよう。

<第 13 講>

概要：国際提携戦略 II

事前,事後学習ポイント：国際提携を検索してみよう。どのような国際提携があるかみてみよう。講義後、提携がどの分野で頻発におこなわれているかネットで調べてみよう。

<第 14 講>

概要：国際研究開発

事前,事後学習ポイント：研究開発を検索してみよう。講義後、IT産業における製品の陳腐化の速さを考えてみよう。

<第 15 講>

概要：まとめ

事前,事後学習ポイント：試験に備えて、配布されたコピーをチェックしよう。講義後、理解できない部分があったら積極的に先生に質問しよう。

■教科書

飯田健雄「これならわかる国際経営入門」中央経済社。

■指定図書

飯田健雄「夢づくり国家 日本」中央経済社。

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

試験 (70%) 出席 (30%) 試験では書いた分量だけではなく、問題を満たしたその正確さと質を問う。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：出席は15回中、ほとんど講義にでている学生。試験は5問中、すべてに解答し、90点以上を取得すること。

評価A (89~80点)：出席は、15回中、ほとんど講義に出ている学生。試験は5問中、すべてに解答し、80点以上を取得すること。

評価B (79~70点)：出席は、15回中、10回以上講義に出ている学生。試験は5問中、4問すべてに解答し、70点以上を取得すること。

評価C (69~60点)：出席は15回中、7回以上講義に出ている学生。試験は5問中、3問すべてに解答し、50点以上を取得すること。

評価F (59点以下)：出席が15回中、5回以下、および、試験は5問中、3問以下で50点以下の水準にあること。

■履修していることが望ましい科目

多国籍企業論Iおよび II

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名

国際経営入門II(Introduction to International Management II)

サブタイトル

担当教員

飯田 健雄

■講義目的

国際経営の基礎を包括的に学んでいく。国際経営とは国内で履行される経営の海外適用・応用という考えをもつてよい。しかし、その海外事業展開には国内競争では想像もできなかった複雑性・困難な問題が待ち受けている。その理由を解き明かしていくのがこの講義の最大の目的である。学生は、経営の基礎をきちんと学んでから履修することを希望する。

■講義分類

グローバルビジネス

■到達目標

国際経営の各領域や業務部門を理解していく。

■講義形態

講義

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

前期に学習した教科書の1章から7章までをよく読んでおく。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：国際SCM I

事前,事後学習ポイント：物流・ロジスティクス・SCMを検索してみよう。講義後、コロネコヤマトの企業発展を図式化してみよう。

<第 2 講>

概要：国際SCM II

事前,事後学習ポイント：FedExを検索してみよう。講義後、空港を描いた映画「ターミナル」をみてみよう。

<第 3 講>

概要：国際M&A I

事前,事後学習ポイント：M&Aを検索してみよう。講義後、買収劇がなぜ人々の興味を引くか考えてみよう。

<第 4 講>

概要：国際M&A II

事前,事後学習ポイント：鉄鋼業やビール業界の国際M&Aをネットで調べてみよう。講義後、2000年代における大型買収をネットで調べてみよう。

<第 5 講>

概要：国際ブランディング管理 I

事前,事後学習ポイント：予習としてブランドを定義しているサイトをネットで見つけよう。講義後、どうすれば多摩大学がブランドするか考えてみよう。

<第 6 講>

概要：国際ブランディング管理 II

事前,事後学習ポイント：国際的なブランドであるルイ・ヴィトンのサイトをみてみよう。講義後、ユニクロのグローバルブランド戦略を考えてみよう。

<第 7 講>

概要：国際法務

事前,事後学習ポイント：企業法務を検索してみよう。講義後、海外で課徴金を支払わねばならなかった日本企業を調べ、その原因を探ってみよう。

<第 8 講>

概要：国際財務管理 I

事前,事後学習ポイント：財務という用語を検索してみよう。講義後、企業活動における財務の重要性を考えてみよう。

<第 9 講>

概要：国際財務管理 II

事前,事後学習ポイント：国際財務を検索してみよう。講義後、企業活動のグローバルな節税展開について考えてみよう。

<第 10 講>

概要：国際会計

事前,事後学習ポイント：国際会計を検索してみよう。講義後、IFRSという新しい国際会計の流れをネットで調べてみよう。

<第 11 講>

概要：国際経営戦略 I

事前,事後学習ポイント：ダイヤモンド図式戦略を検索してみよう。講義後、酒業界(ウイスキー・ビール・日本酒・焼酎・ワイン)をめぐるダイヤモンド図式を構築してみよう。

<第 12 講>

概要：国際経営戦略 II

事前,事後学習ポイント：バリューチェーンを検索してみよう。講義後、バリューチェーンの図式をIT企業に適用してみよう。

<第 13 講>

概要：国際経営戦略 III

事前,事後学習ポイント：VRIO戦略を検索してみよう。講義後、VRIOを使って仮想的な企業を設立してみよう。

<第 14 講>

概要：国際経営戦略 IV

事前,事後学習ポイント：製品差別化を検索してみよう。講義後、製品の差別化戦略を多摩大学に適用してみよう。

<第 15 講>

概要：まとめ

事前,事後学習ポイント：試験に備えて、配布されたコピーをチェックしよう。講義後、理解できない部分があったら積極的に先生に質問しよう。

■教科書

飯田健雄「これならわかる国際経営入門II」中央経済社。

■指定図書

飯田健雄「夢づくり国家 日本」中央経済社。

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

試験(70%) 出席(30%) 試験では書いた分量だけではなく、問題を満たしたその正確さと質を問う。

■評価基準

評価A+(90点以上)：出席は15回中、ほとんど講義にでている学生。試験は5問中、すべてに解答し、90点以上を取得すること。

評価A(89~80点)：出席は、15回中、ほとんど講義に出ている学生。試験は5問中、すべてに解答し、80点以上を取得すること。

評価B(79~70点)：出席は、15回中、10回以上講義に出ている学生。試験は5問中、4問すべてに解答し、70点以上を取得すること。

評価C(69~60点)：出席は15回中、7回以上講義に出ている学生。試験は5問中、3問すべてに解答し、50点以上を取得すること。

評価F(59点以下)：出席が15回中、5回以下、および、試験は5問中、3問以下で50点以下の水準にあること。

■履修していただくことが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名 国際公共政策

サブタイトル

担当教員 椎木 哲太郎

■講義目的

「世界全体が幸福にならな限り、個人の幸福はあり得ない」(宮沢賢治)というのは少し極端としても、我々の生活が地球社会の在りようや密接に関連していることは紛れもない事実である。このことは、最近の事例で言えば、エボラ出血熱の深刻化や難民問題の例で明らかである。国際医療協力によって、伝染病を現地で封じ込め、終焉させない限り、すべての地球市民は生命の危機に晒されることとなる。

国際公共政策とは、平和、安全保障、開発、人権、基本的自由といった国際的共通価値、「国際公益」を実現するための政策の総称[高坂章編(2008)『国際公共政策学入門』大塚大学出版会、p.1]である。グローバル環境政策、グローバル開発政策のようにグローバルな目標設定を必要とする公共政策を「グローバル公共政策」、単に国家間の共通の目標設定によって成立する公共政策を「国際公共政策」として区別する見方もあるが[佐真司・宮脇編(2011)『新グローバル公共政策』晃洋書房pp.12-13]、本講義では主として前者に重点を置いて「国際公共政策」の名称の下に一括して把握、考究する。

人々の生命が守られ、生活の質が向上していくためには、国連をはじめとした国際機関、国家やNGOによる国際協力に基づく規制度の活用のみならず、新たな制度の創出も必要となる。そうした取り組みを地球レベルで進めていくためには、グローバルに行動する各主体や政策形成過程の研究にアプローチしなければならず、法学・政治学・経済学の活用が欠かせない。本講座は昨年度まで経済学・経済政策論の知見をベースとした「社会経済政策」として展開されてきた。その成果を引き継ぎながら、さらに法学・政治学・国際関係論等の先端研究、2004年度まで開講されていた「市民活動論」の蓄積も援用して、「グローバルな視点からの「総合政策論」の発展を企図している。

「ポスト産業社会」を生きている市民の生活の質を高めるためにも、成熟した、途上国と共生できる真の意味で「持続可能な社会」を実現するための体系的な社会経済政策が不可欠である。経済社会を完全に制御できるような万能性を持ち合わせている訳ではないが、政策選択を誤った場合には災厄が待ち受けていることは歴史が教えてくれる。これからの企業活動においても、自国のみならず各国政府の時代を先取りした政策展開を予想することが重要となってくる。途上国市民の生活を犠牲にする企業行動は最早許されない。また、市民生活に直結する労働政策や教育政策は言うに及ばず、社会保障政策や環境政策、さらには文化政策までもが経済と産業のあり方を規定するものが現代である。そうした重層的認識に立ち、広い視野から社会問題解決学としての活用方法を習得したい。

日本よりも先に「産業化以後」の課題に直面することとなった欧米諸国の社会経済政策から学ぶべき点は多い。制度改革等の社会的イノベーションについて、豊富な知見を提供してくる。また、日本に就いて高齢化や少子化の進むアジア諸国の取り組みに対しては、現状分析を踏まえた積極的提言が必要となる。そして何よりも、世界政府が存在しない中で、国際機関、政府、NGO、市民組織等が協力し合って新たな枠組み、制度、国際公共政策を創出し問題解決に取り組んでいることを、自らの問題として、当事者意識を持って臨んで頂きたい。専門能力を伴った人的貢献こそが、地球社会に必要とされているのである。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人育成
グローバルビジネス

■到達目標

先進国、途上国双方を視野に入れた幅広い国際公共政策、社会経済政策を学ぶことによって、成熟した「持続可能な社会」を実現するための総合的な視座を身に着け、高い志を持って地球市民、主催者たる日本国民として連帯し、「国際機関やNGOで仕事をすることも含めて」積極的グローバルな行動・貢献ができるようになる。企業で働く際にも、国際ルールを遵守し、よき企業市民としてグローバルに活動、社会的貢献を行うことが容易となる。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(予習・復習)に必要時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

初回講義時に配布する講義計画に従って、必ず予習しておくこと

■講義の概要

<第1講>

概要: 国際公共政策と社会経済政策

事前,事後学習ポイント: グローバル公共性、国際公益、sustainability、非物質的価値、国際公共財、経済政策、財政の三機能、社会政策、政策レジーム、コミットメント

<第2講>

概要: 経済と社会

事前,事後学習ポイント: ソーシャル・キャピタル、Weak Ties

<第3講>

概要: 経済成長と生活の質、幸福度

事前,事後学習ポイント: 1人当たりGNI、豊かさ、生活の質(QOL)、幸福度

<第4講>

概要: 経済成長政策

事前,事後学習ポイント: 成長会計、TFP(全要素生産性)、イノベーション、人的資本、新古典派成長理論、内生的成長理論、アイデアの非競合性、スピル・オーバー

<第5講>

概要: 貿易・通商政策

事前,事後学習ポイント: 比較優位、幼稚産業保護論、産業政策、戦略的貿易政策、産業集積、直接投資、技術移転、関税、非関税障壁、要素価格均等化定理、WTO、FTA、貿易創出効果、ASEAN(東南アジア諸国連合)

<第6講>

概要: 労働政策

事前,事後学習ポイント: ILO(国際労働機関)、ILO1号条約、積極的労働政策、フレキシビリティ、ワーラティブランス、GEM、クオータ制、EUシengen協定、ソーシャル・ダンピング

<第7講>

概要: 社会保障政策

事前,事後学習ポイント: 福祉レジーム論、自由主義(アングロサクソン)レジーム、保守主義(大陸ヨーロッパ)レジーム、社会民主主義(スカンジナビア)レジーム、ジニ係数、社会支出、逆選択、モラルハザード、負の所得税、給付付き税額控除、積立方式、賦課方式、プライマリーケア、ノーマライゼーション、社会的包摂

<第8講>

概要: 国際協力、人間の安全保障

事前,事後学習ポイント: UN、安全保障理事会、経済社会理事会、人権理事会、国際レジーム、G8、G20、人間の安全保障、人権保障、軍備規制、PKO、平和構築、国連グローバル・コンパクト

<第9講>

概要: NGOとCSO

事前,事後学習ポイント: ECOSOC(国連経済社会理事会)、TAN(トランスナショナル・アポカシー・ネットワーク)、オタワプロセス、BRAC、非分配制約

<第10講>

概要: 国際公財と国際課税

事前,事後学習ポイント: 国際公財、タックス・ヘイブン、国際連帯税、トーピン税、金融取引税

<第11講>

概要: 国際通貨制度とブルーデンス政策

事前,事後学習ポイント: IMF、ブレトンウッズ体制、国際通貨制度、マンデルの実現不可能な三角形、ワシントン・コンセンサス、システムック・リスク、マクロ・ブルーデンス政策、バーゼルⅢ、自己資本比率規制、預金保険制度

<第12講>

概要: 開発援助政策

事前,事後学習ポイント: DAC(開発援助委員会)、ODA、WB、直接借款、技術協力、レミアム開発目標、マイクロ・ファイナンス、BOPビジネス

<第13講>

概要: 少子化対策と教育文化政策

事前,事後学習ポイント: 合計特殊出生率、女性労働力率、公的教育支出、文化資本、クリエイティブ・シティ

<第14講>

概要: 地球環境政策

事前,事後学習ポイント: UNEP(国連環境計画)、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)、COP(締約国会議)、環境税、排出権取引、予防原則、グローバル・コモンズ

<第15講>

概要: 国際公共政策: 総括

事前,事後学習ポイント: sustainability

■教科書

今年度: なし

■指定図書

[1]イング・カール/イザベル・グルンベルグ/マーク・A・スタン編[FASID国際開発研究センター訳](1999)『地球公共財 グローバル時代の新しい課題』日本経済新聞

社

[2]水嶋治郎 (2012) 『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波書店

■参考文献・参考URL / Reference List

- 1]庄司真理子・宮脇昇編 (2011) 『新グローバル公共政策』晃洋書房
 [2]進藤栄一 (2010) 『国際公共政策 「新しい社会」へ』(国際公共政策叢書) 日本経済評論社
 [3]高坂章編 (2008) 『国際公共政策学入門』大阪大学出版会
 [4]福田耕治 (2011) 『国際行政学 国際公益と国際公共政策』有斐閣
 [5]飯田幸裕・大野裕之・寺崎克志 (2010) 『国際公共経済学』創成社
 [6]ロバート・D・パットナム[柴内康文訳] (2006) 『孤独なボウリング 米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房
 [7]『世界銀行[白鳥正善監訳/海外経済協力基金開発問題研究会訳] (1994) 『東アジアの奇跡 経済成長と政府の役割』東洋経済新報社
 [8]正村公宏 (2000) 『福祉国家から福祉社会へ』筑摩書房
 [9]G. エスピー＝アンデルセン[岡沢憲夫・宮本太郎監訳] 『福祉資本主義の三つの世界 比較福祉国家の理論と動態』ミネルヴァ書房
 [10]イェスタ・エスピー＝アンデルセン[大沢真理監訳] (2011) 『平等と効率の福祉革命 新しい女性の役割』岩波書店
 [11]大泉啓一郎 (2007) 『老いてゆくアジア 繁栄の構図が変わるとき』中公新書
 [12]諸富啓 (2013) 『私たちはなぜ税金を納めるのか 租税の経済思想史』新潮選書
 [13]トマ・ピケティ[山形浩生・守岡桜・森本正史訳] (2014) 『21世紀の資本』みすず書房
 [14]山田満・中野洋一・吉川健治・滝澤三郎・桑名恵・椎木哲太郎 (2010) 『新しい国際協力論』明石書店
 [15]巖上敏樹 (2006) 『国際機構論』(第2版) 東京大学出版会
 [16]人間の安全保障委員会 (2003) 『安全保障の今日的課題 人間の安全保障委員会報告書』朝日新聞社
 [17]目加田説子 (2003) 『国境を越える市民ネットワーク トランスナショナル・シビルソサエティ』東洋経済新報社
 [18]目加田説子 (2009) 『行動する市民が世界を変えた クラスタ爆弾禁止条約とグローバルNGOパワー』毎日新聞社
 [19]下村恭民・西畑昭・辻一人 (2009) 『開発援助の経済学』(第4版) 有斐閣
 [20]下村恭民 (2011) 『開発援助政策』(国際公共政策叢書) 日本経済評論社
 [21]大塚啓二郎・櫻井武司 (2007) 『貧困と経済発展』東洋経済新報社
 [22]白井早由里 (2005) 『マクロ開発経済学 対外援助の新潮流』有斐閣
 [23]戸堂康之 (2008) 『技術伝播と経済成長 グローバル化時代の途上国経済分析』勁草書房
 [24]ベン・S・バーナンキ[栗原潤・中村亨・三宅敦史訳] (2013) 『大恐慌論』日本経済新聞出版社
 [25]翁早百合 (2010) 『金融危機とブルーデンス政策 金融システム・企業の再生に向けて』日本経済新聞出版社
 [26]加藤久和 (2011) 『世代間格差』ちくま新書
 [27]前田章 (2010) 『ゼミナール環境経済学入門』日本経済新聞出版社
 [28]龜山康子 (2010) 『新・地球環境政策』昭和堂

■評価方法

期末試験の結果 (70%)、小テスト・レポート・出席 (30%)

■評価基準

- 評価A+ (90点以上) : 試験の成績、通常の取り組みとともに顕著に優れている
 評価A (89~80点) : 試験の成績、通常の取り組みとともに優れている
 評価B (79~70点) : 試験の成績、通常の取り組みとともに良い
 評価C (69~60点) : 試験の成績、通常の取り組みとともに普通
 評価F (59点以下) : 試験の成績、通常の取り組みともに不十分

■履修していることが望ましい科目

マクロ経済学

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は連続性を重視した積み重ね型の講義であり、最初に重要な点を概説する。これらの理解なくしてその後の学習は困難である。したがって、第3回目までに全く出席しなかった者は原則として履修を許可しない。

2008年度以降、2011年度以前の入学生は、「産業社会論入門(経済学入門)」、「経済学基礎」の単位取得者に限り履修することができる。

科目名 コンピュータ概論(Introduction to Computers)

サブタイトル

担当教員 出原 至道

■講義目的

この講義の目的は「コンピュータはどういう機械か」ということを学び、「情報技術の専門家ではないが一通り技術を知っている人」を育てることである。この講義によって、情報技術やコンピュータの雑誌記事・ニュースなどが理解できるようになることを目指す。

この講義の主な対象は、「情報技術も一通り理解しています」と言えるようになりたい一般の学生である。情報技術を活用して勝負したい学生は、講義の中で、より深いテーマを話題として提供するので、各自自習の上で質問や議論を持ってきてもらいたい。ただし、これは成績評価とは無関係である。

学生の理解度に応じて、講義内容・進度を調整することがある。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

コンピュータに関する基礎的な用語が理解できていること。コンピュータの仕組みが大体わかって把握できていること。2進数などの演算の仕方が理解できていること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各回について、講義後提出課題を課す。90分程度の学習を想定する。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：コンピュータの種類にはどのようなものがあるか。また基本的な構成要素は何か？

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 2 講>

概要：様々なハードウェア

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 3 講>

概要：2進数とは何か、なぜ2進数がコンピュータの基礎なのかをここで学ぶ。

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 4 講>

概要：2進数と10進数の対応について学ぶ。

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 5 講>

概要：16進数と2進数・10進数の対応について学ぶ。また、浮動小数点数についても学ぶ。

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 6 講>

概要：コンピュータ内部のデータについて学ぶ

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 7 講>

概要：ここまでの内容について確認テストを行う

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 8 講>

概要：コンピュータのマルチメディアデータについて学ぶ

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 9 講>

概要：インターネットを支える基礎技術について学ぶ

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 10 講>

概要：インターネットの周辺技術について学ぶ。

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 11 講>

概要：オペレーティングシステムと周辺技術について学ぶ

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 12 講>

概要：コンピュータの歴史を概観する。

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 13 講>

概要：「0か1か」は「真か偽か(true or false)」ということでもある。「真か偽」を扱う論理演算について学ぶ。

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 14 講>

概要：2進数と論理演算の関係について学ぶ。

事前,事後学習ポイント：講義後、オンライン小テストを行う。

<第 15 講>

概要：期末試験模擬試験

事前,事後学習ポイント：講義前に、これまでの復習を行う。

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

ITパスポート試験の参考書

基本情報処理技術者試験の参考書

■評価方法

学期末試験70%・ミニテスト・レポートなど30%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：数値評価で90点以上

評価A (89~80点)：数値評価で80点以上90点未満

評価B (79~70点)：数値評価で70点以上80点未満

評価C (69~60点)：数値評価で60点以上70点未満

評価F (59点以下)：数値評価で60点未満

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

コンピュータを持参すること。

授業と並行して、日経コンピュータ、週刊アスキーなどの入門雑誌や、ITMedia などのインターネットニュースサイトを読むことを推奨する。

科目名 コンピュータサイエンス(Computer Science)

サブタイトル

担当教員 中村 有一

■講義目的

コンピュータの仕組みを深く理解するには、機械語を使った経験が力になる。機械語はコンピュータの内部構造を反映したものであり、その可能性と限界を示すものでもある。このような視点から簡単な機械語のプログラムを解説することを通して、コンピュータの構造を理解し、高級言語とのギャップを実感することから始めよう。

数値をコンピュータで扱うための表現方法として2進数が使われるが、それはなぜか。またなぜ整数型と浮動小数点数型が主に使われるのかなど、単に仕組みがどうなっているだけでなく、その理由も考えてみよう。

前半ではコンピュータの仕組みに重点が置かれるが、後半ではアルゴリズムとデータ構造を中心として、実際にプログラムを動かしながらコンピュータによる問題解決の手法を学んでいくことにする。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

ハードウェアの基礎を理解したうえで、基本的なアルゴリズムとそのプログラムを使いこなせる。

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

用語の意味を理解し、ミニテストなどの結果を振り返る。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：コンピュータサイエンス入門：コンピュータサイエンスでは何を扱うか。どのような問題があるか概説する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：コンピュータサイエンス

<第 2 講>

概要：ハードウェアの仕組み：現在主流であるコンピュータのハードウェアの大まかな仕組みを理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：ハードウェア、CPU、メモリ

<第 3 講>

概要：ソフトウェアの基礎：ソフトウェアの役割、関連した用語などをまとめる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：OS、言語処理系、コンパイラ、インタープリタ

<第 4 講>

概要：機械語と高級言語：機械語プログラムの解釈方法と演習のための環境整備

事前,事後学習ポイント：予習用語：なし

<第 5 講>

概要：数値の表現方法：2進数・16進数について理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：2進数、16進数

<第 6 講>

概要：負数・固定小数点数の表現：2進数では負数はどのように表現されるか。固定小数点数とはどのようなものか。

事前,事後学習ポイント：予習用語：負数、2の補数、固定小数点数

<第 7 講>

概要：浮動小数点数：浮動小数点数について理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：浮動小数点数、丸め誤差、打ち切り誤差

<第 8 講>

概要：関数と再帰的定義：関数の概念と再帰的定義の意味を理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：関数、再帰的定義

<第 9 講>

概要：ポインタと動的データ構造：ポインタの仕組みを理解し、動的データ構造の意味を考える。

事前,事後学習ポイント：予習用語：ポインタ、動的データ構造、構造体

<第 10 講>

概要：探索のアルゴリズム：配列の中からデータを見つけ出す探索のアルゴリズムを学ぶ。

事前,事後学習ポイント：予習用語：逐次探索、2分探索、番兵

<第 11 講>

概要：ソートのアルゴリズム（1）：簡単なソートのアルゴリズムを紹介する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：バブルソート、単純選択ソート

<第 12 講>

概要：ソートのアルゴリズム（2）：高速なソートのアルゴリズムを理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：クイックソート、バケットソート
<第 13 講>

概要：線形リスト：線形リストと呼ばれるデータ構造について理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：線形リスト、動的データ構造

<第 14 講>

概要：ツリー：ツリーと呼ばれるデータ構造について理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：ツリー、二分木、AVL木、Bツリー、動的データ構造

<第 15 講>

概要：期末テスト：全体を通して期末テストを行う。

事前,事後学習ポイント：予習用語：なし

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

授業中に適宜紹介する。

■評価方法

学期末試験70% レポートなど平常点30%

■評価基準

評価A+（90点以上）：ほぼ完璧な理解度と評価

評価A（89～80点）：上位の評価

評価B（79～70点）：中位の評価

評価C（69～60点）：下位の評価

評価F（59点以下）：不十分な理解度と評価

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対面再試験の実施

実施しない

■留意点

プログラミングに関する科目をすでに履修していること、あるいは同時に履修することが望ましい。

科目名 コンピュータネットワーク活用(Utilization of Computer Network)

サブタイトル

担当教員 中村 有一

■講義目的

ネットワーク技術は、いま世の中でもっとも必要とされる技術の1つである。単に概念を理解するだけでなく、具体的にネットワークにコンピュータを接続し、システムとして機能するようにしなければならない。さらに安定してネットワークを利用するには、セキュリティや信頼性の面にも配慮しておく必要がある。これらのことを、1つ1つ意味を理解しながらできるようにしていくのがこの講義の目的である。

受講にあたっては、基本的な用語とその概念を理解し、実習を通して、具体的なネットワーク構築に必要な知識を習得する。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

現在主流として使われているネットワーク技術TCP/IPの基礎的な仕組みを理解し、実際にネットワークを利用したり、トラブルに対処したりできるように、知識とスキルを身につける。

■講義形態

講義のみ

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

用語の意味を理解し、ミニテストなどの結果を振り返る。

■講義の概要

<第1講>

概要：プロトコルとは：プロトコルとは何か。一般的な事項を学ぶ。

事前,事後学習ポイント：予習用語：プロトコル、OSI参照モデル、TCP/IP、パケット、ヘッダ、RFC

<第2講>

概要：物理層、データリンク層の仕組み：階層モデルで、下位の2層に対応する物理層とデータリンク層の仕組みについて学ぶ。有線LAN、無線LANの規格についても、現状と今後の方向性について理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：物理層、データリンク層、Ethernet、ADSL、光ファイバ、無線LAN

<第3講>

概要：IPアドレスの仕組み：ネットワーク層 (IP層) について、その役割を理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：インターネット層、IPアドレス、グローバルIPアドレス、ローカルIPアドレス、プライベートIPアドレス、クラス、ネットワーク部、ホスト部、CIDR

<第4講>

概要：IPアドレスの知識：プリフィックス、ネットマスクの概念、ネットワークアドレス、ブロードキャストアドレスの意味について理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：プリフィックス、CIDR表記、ネットマスク、サブネットマスク、ネットワークアドレス、ブロードキャストアドレス、ipconfigコマンド、ブロードキャスト、マルチキャスト、ユニキャスト、ループバックアドレス

<第5講>

概要：MACアドレスとインターネット層のプロトコル：MACアドレスとインターネット層のプロトコルARP、RARP、ICMPの仕組みを理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：MACアドレス、ARP、RARP、ICMP、arpコマンド、pingコマンド、tracertコマンド、16進数、PPP、PPPoE

<第6講>

概要：トランスポート層の役割とホスト名・ドメイン名の仕組み：トランスポート層の役割について学ぶ。ホスト名・ドメイン名の仕組みと、その配布・管理方式について学習する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：トランスポート層、TCP、UDP、ポート番号、ウエルノウンポート番号、コネクション、セッション、ウィンドウ制御、ホスト名、ドメイン名、FQDN

<第7講>

概要：アプリケーション層の役割：アプリケーション層が扱う代表的アプリケーションとそこで行なう仕事の概略について学ぶ。DNSとHTTPの仕組みを理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：DNS、名前解決、正引き、逆引き、ルートDNSサーバ、HTTP、WWW、Webブラウザ、Webサーバ、クッキー、SSL、HTTPS、Web2.0

<第8講>

概要：アプリケーション層のプロトコル (メール、FTP、文字端末)：メールサーバの仕組みについて学習する。また、SMTP、POP、IMAPなどのプロトコルの役割につい

ても学ぶ。さらにFTP、TELNET、SSHについても学ぶ。

事前,事後学習ポイント：予習用語：電子メール、メールサーバ、SMTP、POP、IMAP、SPAMメール、不正中継、SMTP拡張、POP before SMTP、FTP、匿名FTP、Passiveモード、ファイアウォール、telnet、SSH、ポートフォワードینگ、文字コード

<第9講>

概要：その他のアプリケーションプロトコル (DHCP、NNTP、SNMP、NTP)：その他のアプリケーションプロトコルの中から、DHCP、NNTP、SNMP、NTPを取り上げる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：DHCP、NNTP、SNMP、NTP

<第10講>

概要：ルーティングの仕組み：ルーティングの仕組みの基本を理解する。各種ルーティングプロトコルの特徴を知る。

事前,事後学習ポイント：予習用語：ルーティング、ルータ、ブロードバンドルータ、経路選択、ゲートウェイ、ルーティン グテーブル、メトリック、スタティックルーティング、ダイナミックルーティング、ルーティングプロトコル、ディスタンスベクタ方式、リンクサポート方式、RIP、OSPF、IGRP、自律システム

<第11講>

概要：アドレス変換の仕組み：組織内のプライベートアドレスをインターネットの世界で使えるグローバルアドレスに変換するためのアドレス変換の仕組みについて理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：アドレス変換、プライベートアドレス、グローバルアドレス、NAT、NAPT、IPマスカレード、静的アドレス変換、静的NAT、静的NAPT

<第12講>

概要：プロキシサーバとファイアウォール：インターネットに潜む危険性についてある程度認識したうえで、その対応策としてのプロキシサーバおよびファイアウォールについて解説する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：プロキシサーバ、ファイアウォール、パケットフィルタリング方式、アプリケーションゲートウェイ方式、ステートフルパケットインスペクション方式、DMZモデル

<第13講>

概要：VPNとIP電話：VPNとそれに関連する技術を解説する。またIP電話の仕組み、通信品質の確保に関する話題を取り上げる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：VPN、トンネリング、広域Ethernet、IP電話、音声符号化、P2P、QoS、IPv6

<第14講>

概要：パケットキャプチャ：パケットキャプチャツールを使って、実際にネットワークを流れているパケットをキャプチャし、解析してみる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：パケット、パケットキャプチャ、ヘッダ、IPアドレス、ポート番号

<第15講>

概要：期末テスト：全体を通して期末テストを行う。

事前,事後学習ポイント：予習用語：なし

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

渡邊郁郎 「TCP/IPをめぐる88問88答」 オーム社 (2010)

■評価方法

学期末試験70% レポートなど平常点30%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：ほぼ完璧な理解度と評価

評価A (89~80点)：上位の評価

評価B (79~70点)：中位の評価

評価C (69~60点)：下位の評価

評価F (59点以下)：不十分な理解度と評価

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

コンピュータを使った演習については、自分で必ず実際に動かしてみること。単に本を読むだけでは得られない知識が得られるはずである。

科目名 財務会計Ⅰ(Principle of Accounting I)

サブタイトル 財務諸表の基礎理論を学ぶ

担当教員 清松 敏雄

■講義目的

本講義は、「ビジネス入門Ⅱ」の講義内容(会計部分)に関する理解を深化させることが目的である。具体的には、財務諸表のうち、損益計算書と貸借対照表(特に資産)に焦点を当て、会計処理の背後にある理論をマスターすることが目的である。

■講義分類

ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

損益計算書および貸借対照表(特に資産)に関する論点を理解することが目標である。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ほぼすべての授業後には課題を提出すること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要: イントロダクション。会計の種類と役割。

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 財務諸表

事後学習のポイント: 会計情報の役割、財務諸表の名称

<第 2 講>

概要: 損益会計の基礎

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 損益計算書、発生、実現

事後学習のポイント: 発生基準、実現基準、費用収益対応の考え方が、現金基準の考え方とどのように異なっているのか。

<第 3 講>

概要: 損益計算書の区分と表示

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 売上高、売上総利益、営業利益、経常利益、税引前当期純利益、当期純利益

事後学習のポイント: 損益計算書の各段階利益

<第 4 講>

概要: 損益計算書を用いた財務諸表分析の基礎

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 売上高利益率

事後学習のポイント: 実際の財務諸表を用いて売上高利益率を計算してみる

<第 5 講>

概要: 貸借対照表の区分と表示

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 貸借対照表、資産、流動資産、固定資産、繰延資産

事後学習のポイント: 実際の財務諸表で貸借対照表の項目や金額を確認すること

<第 6 講>

概要: 資産評価の基本原則

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 取得原価基準(取得原価主義)

事後学習のポイント: それぞれの評価基準の内容を確認すること

<第 7 講>

概要: 金銭債権の評価

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 貸倒引当金

事後学習のポイント: 回収可能価額を示すために、なぜ貸倒引当金を用いるのか

<第 8 講>

概要: 費用性資産の会計処理とその背景にある考え方

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 費用配分の原則、取得原価基準(取得原価主義)

事後学習のポイント: 会計上、なぜ費用性資産の原則的な評価基準として取得原価基準を用いているのかを確認すること。

<第 9 講>

概要: 棚卸資産

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 棚卸資産、先入先出法、平均法

事後学習のポイント: 棚卸資産の処理プロセスを確認後、取得原価の決定、費用配分がどのように行われるかを確認すること。

<第 10 講>

概要: 有形固定資産

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 減価償却

事後学習のポイント: 減価償却とはどのような手続か説明できるようにすること。

<第 11 講>

概要: 低価基準(低価法)

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 低価基準

事後学習のポイント: 低価基準とはどのような評価基準か、その目的はなにか確認すること。

<第 12 講>

概要: 減損会計

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 減損

事後学習のポイント: 減損が生じているのはどのような状態なのか、減損処理の手続はどのようなものかを確認すること。

<第 13 講>

概要: 無形固定資産

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 特許権、のれん

事後学習のポイント: 無形固定資産の処理の流れを確認すること。また、無形固定資産の例を確認すること。

<第 14 講>

概要: 繰延資産と研究開発費等

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 研究開発費、繰延資産

事後学習のポイント: 研究開発費について、資産計上する方法、一括費用化する方法、その他の方法について確認すること。

<第 15 講>

概要: 全体のまとめを行う。

事前,事後学習ポイント: 事前学習しておくべき用語やポイント: 第14回までの講義を復習してよること。

■教科書

なし(必要に応じて講義中に指定する)。

■指定図書

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

■参考文献・参考URL / Reference List

なし(必要に応じて講義中に指定する)。

■評価方法

講義中に行う課題 50%

授業内期末テスト 50%

■評価基準

評価A+(90点以上): 損益計算書、貸借対照表(特に資産)に関する基本的な論点を網羅的にマスターしている。

評価A(89~80点): 損益計算書、貸借対照表(特に資産)に関する基本的な論点について、概ね網羅的にマスターしている。

評価B(79~70点): 損益計算書、貸借対照表(特に資産)に関する入門者レベルの知識を有した上で、基本的な論点について、半数超をマスターしている。

評価C(69~60点): 損益計算書、貸借対照表(特に資産)に関する入門者レベルの知識を有した上で、基本的な論点について、半数程度をマスターしている。

評価F(59点以下): 損益計算書、貸借対照表(特に資産)に関する入門者レベルの知識を有していない、あるいは、入門者レベルの知識を有しているものの、基本的な論点についてわずかしこマスターできていない。

■履修していることが望ましい科目

ビジネス入門Ⅱ

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

本講義は履修制限が付されていることに留意すること。選抜方法は別途周知する。

本講義は、秋学期に行われる「財務会計Ⅱ」の事前履修科目である。

科目名 財務会計Ⅱ(Principle of Accounting II)

サブタイトル 財務諸表の基礎理論を学ぶ

担当教員 清松 敏雄

■講義目的

本講義は、財務会計Ⅰの内容に関する理解を深化させることが目的である。具体的には、財務諸表のうち、貸借対照表（特に負債・純資産）の会計処理の背後にある理論をマスターすることが目的である。

■講義分類

ビジネスマネジメント
社会人育成

■到達目標

貸借対照表（特に負債・純資産）に関する論点を理解することが目標である。

■講義形態

講義のみ

■準備学習（学習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ほぼすべての授業後には課題を提出すること。

■講義の概要

<第1講>

概要：イントロダクション。貸借対照表の概要の復習。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：貸借対照表

事後学習のポイント：貸借対照表が示す内容や、具体的項目（特に資産）について確認すること。

<第2講>

概要：財務会計Ⅰの復習

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：資産、取得原価基準、貨幣性資産と費用性資産

事後学習のポイント：財務会計Ⅰのノート等を参考に、資産の会計処理の背後にある基礎理論を確認すること。

<第3講>

概要：負債会計その1

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：負債、流動負債、固定負債、金銭債務

事後学習のポイント：負債の分類、金銭債務の例、金銭債務の評価について確認すること。

<第4講>

概要：負債会計その2

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：未払費用、引当金

事後学習のポイント：未払金と未払費用の異同、引当金の意義を確認すること。

<第5講>

概要：負債会計その3

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：製品保証引当金、賞与引当金、退職給付引当金

事後学習のポイント：個々の引当金の内容、未払金等との異同について確認すること。

<第6講>

概要：負債会計その4

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：金銭債務、前受金、引当金

事後学習のポイント：性質に着目して負債がどのように分類できるのか確認すること。

<第7講>

概要：純資産の構成要素その1

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：純資産、株主資本

事後学習のポイント：純資産、特に株主資本の分類について確認すること。

<第8講>

概要：純資産の構成要素その2

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：資本金、資本剰余金、利益剰余金

事後学習のポイント：損益計算書と利益剰余金のつながりについて確認すること。

<第9講>

概要：自己株式

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：自己株式

事後学習のポイント：自己株式の取得時、処分時の会計処理とその背後の考え方を確認すること。

<第10講>

概要：その他有価証券評価差額金

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：その他有価証券、その他有価証券評価差額金
事後学習のポイント：有価証券の保有目的別分類、その他有価証券の会計処理の背後にある考え方を確認すること。

<第11講>

概要：純資産に関する復習

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：純資産、株主資本、利益剰余金と当期純利益

事後学習のポイント：純資産について、分類から会計処理を各自でまとめること。

<第12講>

概要：株主資本等変動計算書

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：損益計算書、貸借対照表、株主資本等変動計算書

事後学習のポイント：株主資本等変動計算書と、貸借対照表・損益計算書との関連性について確認すること。

<第13講>

概要：包括利益

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：その他の包括利益、包括利益

事後学習のポイント：包括利益の導入の背景と、位置づけについて確認すること。

<第14講>

概要：連結財務諸表

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：連結財務諸表、連結の範囲

事後学習のポイント：連結財務諸表の作成意義、連結の範囲、連結財務諸表の作成の流れ

<第15講>

概要：全体のまとめを行う。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：第14回までの講義を復習しておくこと。

■教科書

なし（必要に応じて講義中に指定する）。

■指定図書

桜井久勝「財務会計講義」中央経済社

■参考文献・参考URL / Reference List

なし（必要に応じて講義中に指定する）。

■評価方法

講義中に行う課題 50%

授業内期末テスト 50%

■評価基準

評価A+（90点以上）：貸借対照表（特に負債・純資産）に関する基本的な論点を網羅的にマスターしている。

評価A（89～80点）：貸借対照表（特に負債・純資産）に関する基本的な論点について、概ね網羅的にマスターしている。

評価B（79～70点）：貸借対照表（特に負債・純資産）に関する入門者レベルの知識を有した上で、基本的な論点について、半数超をマスターしている。

評価C（69～60点）：貸借対照表（特に負債・純資産）に関する入門者レベルの知識を有した上で、基本的な論点について、半数程度をマスターしている。

評価F（59点以下）：貸借対照表（特に負債・純資産）に関する入門者レベルの知識を有していない、あるいは、入門者レベルの知識は有しているものの、基本的な論点についてわずかしかマスターできていない。

■履修していることが望ましい科目

ビジネス入門Ⅱ

財務会計Ⅰ

初級簿記

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

本講義は履修制限が付けられていることに留意すること。選抜方法は別途周知する。本講義の履修のためには、「財務会計Ⅰ」の単位を修得済みでなければならない。

科目名 財務管理(Financial Management)

サブタイトル 個人の財務計画と企業の資金管理

担当教員 清松 敏雄

■講義目的

本講義は、前半と後半で講義内容が異なっている。
 まず前半では、個人の財務管理について解説する(具体的には、ファイナンシャル・プランナー3級の試験の内容を取り上げる)。個人の財務計画に関する基礎知識をマスターすることが目的である。

後半では、企業の財務管理の基礎として、企業が存続していくために不可欠な資金繰りについて概観することを通じ、財務管理の基礎的事項について検討を行っていく。講義を通じ、企業のキャッシュ・フローと会計上の利益との相違についての知識を身に付けることが目的である。

■講義分類

ビジネスマネジメント
 社会人力育成

■到達目標

①個人の財務計画の策定のために必要な基礎知識を習得すること、②企業の資金繰りの理解の一環として、利益とキャッシュ・フローの相違に関する知識および計算能力を習得することが目標である。

■講義形態

講義 + GD・GW

■単独学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ほぼすべての授業後には課題を提出すること

■講義の概要

<第 1 講>

概要：イントロダクション。貨幣の時間価値と割引計算について解説する。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：将来価値、現在価値

事後学習のポイント：将来価値と現在価値、単利と複利の意味を確認すること。

<第 2 講>

概要：貨幣の時間価値と割引計算(第1講の続き)について解説する。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：年金将来価値、年金現在価値

事後学習のポイント：年金将来価値と年金現在価値について確認すること。

<第 3 講>

概要：社会保険と公的年金

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：社会保険、公的年金

事後学習のポイント：社会保険の仕組み、公的年金の仕組みを確認すること。あわせて、基礎用語を覚えること。

<第 4 講>

概要：個人のリスクマネジメント

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：生命保険、損害保険

事後学習のポイント：生命保険、損害保険の仕組みや種類等について確認すること。

<第 5 講>

概要：個人の金融資産運用

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：セーフティネット、債券、株式、投資信託

事後学習のポイント：債券や株式等について、その特徴を確認すること。

<第 6 講>

概要：個人のタックスプランニング

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：所得の種類、課税標準の計算、税額計算

事後学習のポイント：所得の種類、所得控除、税額控除、税額の計算について確認すること。

<第 7 講>

概要：不動産の取引・関連法令・税金

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：不動産、借地権、不動産取得税、固定資産税

事後学習のポイント：不動産についてどのような取引があるか、また、それに関連してどのような税金が発生するかを確認すること。

<第 8 講>

概要：相続と事業承継

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：相続、遺留、贈与、路線債

事後学習のポイント：相続について、相続人、遺産分割、遺留分、相続税の計算について

確認すること。

<第 9 講>

概要：会計上の利益と資金繰り(キャッシュ・フロー)との相違について解説する。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：利益、キャッシュ・フロー

事後学習のポイント：掛け販売や仕入、在庫の存在が利益とキャッシュ・フローにどのような相違をもたらすかを確認すること。

<第 10 講>

概要：会計上の利益と資金繰り(キャッシュ・フロー)との相違について、減価償却のような会計上の手続によって生じる項目を解説する。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：減価償却、引当金

事後学習のポイント：減価償却費や引当金繰入額が、利益計算上は費用としてマイナスされるのに対し、支出を伴わないことを確認すること。

<第 11 講>

概要：ビジネスゲーム①

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：売上、費用、収入、支出

事後学習のポイント：利益、キャッシュ・フローに影響を与える要因が、具体的にどのような影響を及ぼしているのかを確認すること。

<第 12 講>

概要：ビジネスゲーム②

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：売上、費用、収入、支出

事後学習のポイント：利益、キャッシュ・フローに影響を与える要因が、具体的にどのような影響を及ぼしているのかを確認すること。

<第 13 講>

概要：ビジネスゲーム③

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：在庫、売上原価、製造費用

事後学習のポイント：利益、キャッシュ・フローに影響を与える要因が、具体的にどのような影響を及ぼしているのかを確認すること。

<第 14 講>

概要：ビジネスゲーム④

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：在庫、売上原価、製造費用、在庫管理コスト

事後学習のポイント：利益、キャッシュ・フローに影響を与える要因が、具体的にどのような影響を及ぼしているのかを確認すること。

<第 15 講>

概要：全体のまとめを行う。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント：第14回までの内容を復習しておくこと

■教科書

滝澤ななみ『FPの教科書3級』TAC出版

■指定図書

なし(必要に応じて講義中に指定する)。

■参考文献・参考URL / Reference List

なし(必要に応じて講義中に指定する)。

■評価方法

講義中に行う課題 50%

授業内に行う試験 50%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：到達目標に示した①・②の内容について、基本的な論点を網羅的にマスターしている。

評価A (89~80点)：到達目標に示した①・②の内容について、基本的な論点を概ね網羅的にマスターしている。

評価B (79~70点)：到達目標に示した①・②の内容について、入門者レベルの知識を有した上で、基本的な論点を半数超をマスターしている。

評価C (69~60点)：到達目標に示した①・②の内容について、入門者レベルの知識を有した上で、基本的な論点を半数程度をマスターしている。

評価F (59点以下)：到達目標に示した①・②の内容について、入門者レベルの知識を有していない、あるいは、入門者レベルの知識は有しているものの、基本的な論点につ

いてわずかしかマスターできていない。

■履修していることが望ましい科目

財務会計Ⅰ

初級簿記

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

本講義は履修制限が付されていることに留意すること。選抜方法は別途周知する。

科目名 財務諸表分析(Financial Analysis)

サブタイトル 財務諸表分析の方法を学ぶ

担当教員 渡辺 智信

■講義目的

企業経営に関する情報は多方面から寄せられている。これらの情報を収集・分析して企業の実態を明らかにしようとするのが経営分析である。情報のなかでも企業が作成する財務諸表を対象とする分析を財務諸表分析という。本講義では、財務諸表から得られる財務データを中心に、経営分析のために会計情報を適切に読み取るための知識・技法を習得することを目的としている。

■講義分類

ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

財務諸表分析のための基本的な分析指標を理解し計算できるようになること、それによって企業の収益性や安全性について評価できるようになることが目標である。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

1時間程度の復習(計算練習)

■講義の概要

<第1講>

概要: イントロダクション

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 財務諸表(損益計算書、貸借対照表)

事後学習のポイント: 財務諸表分析、分析主体、分析目的、比較の対象

<第2講>

概要: 売上収益性の分析(その1)

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 損益計算書

事後学習のポイント: 売上収益性に関する指標

<第3講>

概要: 売上収益性の分析(その2)

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 売上収益性に関する指標

事後学習のポイント: 産業や戦略の相違が売上収益性に与える影響

<第4講>

概要: CVP分析(その1)

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 損益計算書

事後学習のポイント: CVP図表、損益分岐点

<第5講>

概要: CVP分析(その2)

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 損益分岐点

事後学習のポイント: 安全余裕率、損益分岐点比率、経営レバレッジ係数

<第6講>

概要: CVP分析(その3)

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 損益分岐点比率、経営レバレッジ係数

事後学習のポイント: CVP分析の適用手順

<第7講>

概要: 資本収益性の分析(その1)

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 貸借対照表

事後学習のポイント: 資産利益率と2指標分解

<第8講>

概要: 前半の総括

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 第七講までの講義を復習していただくこと。

事後学習のポイント: デュボン・チャート

<第9講>

概要: 資本収益性の分析(その2)

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 資産利益率、2指標分解

事後学習のポイント: 産業や戦略の相違が資本収益性に与える影響

<第10講>

概要: 資本収益性の分析(その3)

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 資産利益率、2指標分解

事後学習のポイント: 資産別の回転率

<第11講>

概要: 資本収益性の分析(その4)

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 資産利益率、2指標分解

事後学習のポイント: 株主資本利益率、3指標分解

<第12講>

概要: 資本収益性の分析(その5)

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 株主資本利益率、3指標分解

事後学習のポイント: 産業や戦略の相違が株主資本利益率に与える影響

<第13講>

概要: 安全性分析(その1)

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 貸借対照表

事後学習のポイント: 安全性の分析指標

<第14講>

概要: 安全性分析(その2)

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 安全性の判断指標

事後学習のポイント: 収益性と安全性を判断するための指標と意味

<第15講>

概要: 後半の総括

事前,事後学習ポイント: 事前学習のポイント: 第九講目から第十四講目までの講義を復習していただくこと。

事後学習のポイント: なし

■教科書

なし(必要に応じて講義中に指定する)。

■指定図書

青木茂男(2012)「要説 経営分析 [四訂版]」森山書店

■参考文献・参考URL / Reference List

なし(必要に応じて講義中に指定する)。

■評価方法

講義中に行う課題70%(出席点15%を含む)

授業内中間・期末テスト30%

■評価基準

評価A+(90点以上): 財務諸表分析における指標の計算方法とその意味を網羅的にマスターしている。

評価A(89~80点): 財務諸表分析における指標の計算方法とその意味を、概ね網羅的にマスターしている。

評価B(79~70点): 財務諸表分析における指標の計算方法とその意味の半分超をマスターしている。

評価C(69~60点): 財務諸表分析における指標の計算方法とその意味の半分程度をマスターしている。

評価F(59点以下): 財務諸表分析における指標の計算方法とその意味をわずしかマスターしていない。

■履修していることが望ましい科目

初級簿記、原簿記、財務会計Ⅰ、Ⅱ

■卒業年度次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

毎時間の講義の理解度を確認するための小テストを実施する(小テストと合わせて出席をとる)。

本講義は履修制限が付されていることに留意すること。選択方法は別途周知します。

科目名 事業デザイン論I(Business design theory I)

サブタイトル 事業開発の方法論

担当教員 松本 祐一

■講義目的

企業、行政、NPOの組織が行う営みを、「事業」という同じ枠組みでとらえ、その歴史や特徴を理解し、自分でデザインするための方法論を学ぶ。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会力育成
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

事業開発に関する理論と方法を理解し、自分で事業をデザインできるようになること。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ビジネスプランを立案するための情報収集等

■講義の概要

<第 1 講>

概要：講義の目的と内容の共有（オリエンテーション）

事前,事後学習ポイント：事業開発

<第 2 講>

概要：「事業」の歴史とその本質を理解する。

事前,事後学習ポイント：人類の歴史、利他行動

<第 3 講>

概要：「事業」をとらえる理論的枠組みを理解する。

事前,事後学習ポイント：事業開発マネジメント、戦略論

<第 4 講>

概要：事業をデザインするための新しい枠組みを理解する。

事前,事後学習ポイント：戦略論、自己認識

<第 5 講>

概要：事業をデザインするための新しい枠組みを理解する。

事前,事後学習ポイント：デザイン思考

<第 6 講>

概要：環境変化のとらえ方を理解する。

事前,事後学習ポイント：環境、市場、パラダイムシフト

<第 7 講>

概要：環境変化をとらえるための調査手法を理解する。

事前,事後学習ポイント：定性調査、フィールドワーク、エスノグラフィ

<第 8 講>

概要：事業の顧客を設定する。

事前,事後学習ポイント：マーケティング、ペルソナ、顧客価値

<第 9 講>

概要：事業の志を考える。

事前,事後学習ポイント：理念、ビジョン、ミッション、目的工学

<第 10 講>

概要：事業主体の強み・弱み、競争力を考える。

事前,事後学習ポイント：コアコンピタンス

<第 11 講>

概要：これまでの検討要素をコンセプトに統合する。

事前,事後学習ポイント：コンセプト、顧客価値

<第 12 講>

概要：仕組み（ビジネスモデル）を検討する。

事前,事後学習ポイント：ビジネスモデル、ビジネスシステム

<第 13 講>

概要：事業内容・商品をデザインする。

事前,事後学習ポイント：マーケティングの4P

<第 14 講>

概要：顧客との接点をデザインする。

事前,事後学習ポイント：流通、チャンネル、プロモーション

<第 15 講>

概要：授業内容のふりかえり

事前,事後学習ポイント：全十四回のポイント

■教科書

なし

■指定図書

授業中に指示

■参考文献・参考URL / Reference List

授業中に指示

■評価方法

授業中提出のワークシート40% 中間レポート20% 最終レポート40%

■評価基準

評価A+（90点以上）：すべて出席し、自分でビジネスプランを組み立てることができる。また、それぞれの授業でのアウトプットが要求されていることを網羅していて、独自性がある。

評価A（89～80点）：9割以上出席し、自分でビジネスプランを組み立てることができる。また、それぞれの授業でのアウトプットが要求されていることを網羅している。

評価B（79～70点）：8割以上出席し、それぞれの授業でのアウトプットが要求されていることを網羅している。ビジネスプランももれなく作成することができる。

評価C（69～60点）：6割以上出席し、それぞれの授業でのアウトプットが要求されていることある程度答えられている。

評価F（59点以下）：5割以下の出席率で、それぞれの授業でのアウトプットが要求されていることに答えられていない。

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 事業デザイン論II(Business design theory II)

サブタイトル

担当教員 手塚 貞治

■講義目的

ビジネスモデルを考えるフレームワークを解説したうえで、ビジネスモデルの各種パターンを事例とともに解説する。後半では、演習に準じた形で実際にグループワークを通じて自分たちのビジネスモデル案を構築してもらう。

■講義分類

ビジネス創造/ビジネスマネジメント

■到達目標

自分で事業アイデアを考え、それをビジネスモデルキャンパス等のフォーマットを活用してレポートにとりまとめられるようになる。

■講義形態

講義+GD/GW/PR
その他(レポート作成)

■学習指導(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業前には前回講義の内容を復習しておくこと。特に取り上げた事例についてはネット等で確認しておくことが望ましい。

■講義の概要

<第1講>

概要: 事業デザインとビジネスモデル

事前,事後学習ポイント: ビジネスモデルキャンパス

<第2講>

概要: 顧客セグメント

事前,事後学習ポイント: 顧客の多様性

<第3講>

概要: 価値提案の設計

事前,事後学習ポイント: ニーズ/ウォンツ/ソリューション

<第4講>

概要: チャネル構築

事前,事後学習ポイント: O2O/オムニチャネル

<第5講>

概要: 顧客との関係基盤

事前,事後学習ポイント: 顧客接点

<第6講>

概要: 主要資源

事前,事後学習ポイント: VRIOフレームワーク

<第7講>

概要: 主要活動

事前,事後学習ポイント: バリュチェーン

<第8講>

概要: パートナー

事前,事後学習ポイント: アライアンス/プラットフォーム

<第9講>

概要: 利益構造

事前,事後学習ポイント: ジレットモデル/フリーミアム

<第10講>

概要: ビジネスモデル検討のためのフレームワーク①環境分析

事前,事後学習ポイント: PEST分析/5F分析

<第11講>

概要: ビジネスモデル検討のためのフレームワーク②アイデア創出

事前,事後学習ポイント: ブルーオーシャン/オズボーンのチェックリスト

<第12講>

概要: レポート発表

事前,事後学習ポイント: 各種ビジネスモデルのパターン

<第13講>

概要: グループワーク①

事前,事後学習ポイント: 顧客及び提供価値の検討(顧客・価値提案・チャネル・顧客との関係基盤)

<第14講>

概要: グループワーク②

事前,事後学習ポイント: 実現方法(主要資源・主要活動・パートナー・利益構造)

<第15講>

概要: 発表・まとめ

事前,事後学習ポイント: プレゼンテーションスキル

■教科書

開講時に指示する

■指定図書

開講時に指示する

■参考文献・参考URL / Reference List

『フォロワーのための競争戦略論』手塚貞治(日本実業出版社)

■評価方法

授業点(毎回の小レポート提出状況・発言状況)60% + 演習点(グループワーク取り組み・発表、小テスト)40%

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 授業内容を十分理解し、秀逸な独自のビジネスモデル案を考えることができる。

評価A (89~80点) : 授業内容を十分理解し、A+までは到達していないものの、自分なりのビジネスモデル案を考えることができる。

評価B (79~70点) : 自分なりのビジネスモデル案を作成することまでは難しいものの、授業内容は理解している。

評価C (69~60点) : 一部不十分な点もあるものの、授業内容を理解している。

評価F (59点以下) : 授業内容を理解できていない。

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

- ・授業中の私語や携帯、飲食等他人に迷惑をかける行為は厳禁。即刻退出してもらう。
- ・後半では演習も予定しているため、定員50名で想定している。大幅に定員を上回る場合は、小テストによる選抜も検討する。また参加人数や参加者の理解度に応じて、演習の進め方は変更の可能性がある。
- ・演習にてビジネスモデル案を検討するなど、相当の負荷がかかるため、起業家志望者やビジネスに強い関心のある者を歓迎する。
- ・履修制限を行う。選抜方法は別途周知する。

科目名 システムデザイン(System Design)

サブタイトル

担当教員 中村 有一

■講義目的

システム設計において重要なことは、与えられた問題(システム化の要求)を抽象化し、それを最もうまく処理するモデルを選択することである。本講義では、ビジネスアプリケーションによく用いられる(おもに部品としての)モデルを紹介し、それらを当てはめて要求仕様を満たす具体的なシステム設計を行い、それを仕様書として作成する手順および記述法を実習形式で学ぶ。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

システム設計の基本的な方法が理解されていること。DFD、ERD、流れ図などの従来の図的表現手法に加えて、オブジェクト指向の設計手法UMLにおける図的表現(ユースケース図など)が描けるようになること。

■講義形態

講義のみ

■準履修学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

用語の意味を理解し、ミニテストなどの結果を振り返る。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：コンピュータシステムとは：システムの設計に入る前提として、その対象となるコンピュータシステムについて概観しておく。

事前,事後学習ポイント：予習用語：システム、コンピュータシステム、システム化、システム開発、ダウンサイジング、オープン化、POS端末、ATM、非接触型ICカード、組み込みシステム

<第 2 講>

概要：システム開発の工程：システム開発工程の全体的な流れを学ぶ。開発の各段階における仕様書とテストの関係について理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：システム開発工程、上流工程、下流工程、要求仕様、要件定義、外部設計、内部設計、プログラム設計、プログラム作成、テスト、運用、保守

<第 3 講>

概要：開発モデル：開発モデルによる開発手順の違いを理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：開発モデル、ウォーターフォールモデル、プロトタイププログラミングモデル、スパイラルモデル、アジャイルソフトウェア開発

<第 4 講>

概要：上流工程(要求仕様から要件定義まで)：システム開発の上流工程の話にはいる。上流工程における仕様書の意味について学ぶ。ここでは要求仕様書と要件定義書がどのようなものであるか理解することに重点が置かれる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：要求仕様書、要件定義書

<第 5 講>

概要：開発計画と業務的図的表現手法：開発計画について概観する。またデータの流れを記述するDFD(Data Flow Diagram)とデータの関係を記述するERD(Entity Relationship Diagram)の書き方を習得する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：開発計画、DFD、ERD

<第 6 講>

概要：機能の設計手法：UMLの手法の中からユースケース図とアクティビティ図を取り上げる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：UML、ユースケース図、アクティビティ図、ユースケースシナリオ、ユースケース記述

<第 7 講>

概要：外部設計(前編)：外部設計では、ユーザ側の人も知っておく必要のある項目を設計する。出力設計、性能面の設計、コード設計などが含まれる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：外部設計、HIPO

<第 8 講>

概要：外部設計(後編)：外部設計の中で、コード設計、論理データ設計などを取り上げる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：出力設計、コード設計、誤り検出、論理データ設計

<第 9 講>

概要：内部設計：外部設計がシステムを外側から見た利用者の立場で作られるのに対して、内部設計は、それをどのように実現するかの詳細を設計することである。

事前,事後学習ポイント：予習用語：内部設計、物理データ設計、リレーションアルデータベース

<第 10 講>

概要：プログラム設計：プログラム設計はプログラムを作成する直前の段階であり、ここまで準備すればプログラミングに取り掛かれる。レビューの方法についても学ぶ。

事前,事後学習ポイント：予習用語：プログラム設計、モジュール、独立性、強度、結合度、レビュー、机上レビュー、ウォークスルー、インスペクション。

<第 11 講>

概要：プログラム作成：プログラムのコーディング、構造化プログラミングなどについて学ぶ。

事前,事後学習ポイント：予習用語：下流工程、コーディング、構造化プログラミング

<第 12 講>

概要：テスト：単体テストから運用テストに至る一連のテスト工程について学ぶ。

事前,事後学習ポイント：予習用語：テスト、ブラックボックステスト、ホワイトボックステスト、単体テスト、結合テスト、システムテスト、運用テスト、ドライバ、スタブ

<第 13 講>

概要：運用と保守：運用・保守の基本的な考え方について理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：運用、保守

<第 14 講>

概要：全体のまとめとレポート作成：全体を見通してまとめを行う。残りの時間でレポートの仕上げを行う。

事前,事後学習ポイント：予習用語：なし

<第 15 講>

概要：期末テスト：全体を通して期末テストを行う。

事前,事後学習ポイント：予習用語：なし

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

[1] 松永俊雄、中村太一、亀田弘之「コンピュータシステム開発入門」オーム社(2008)

[2] 平澤 章「オブジェクト指向でなぜつくるのか 第2版」日経BP社(2011)

■評価方法

学期末試験70% レポートなど平常点30%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：ほぼ完ぺきな理解度と評価

評価A (89~80点)：上位の評価

評価B (79~70点)：中位の評価

評価C (69~60点)：下位の評価

評価F (59点以下)：不十分な理解度と評価

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予習としては、予習用語について調べておく。これにより、授業中の理解度が高まるだろう。また疑問点があれば、事前に調べておいてもよい。復習は、配布される資料などを見直し、疑問点がないか確認すること。疑問点はできるだけ授業中に質問して、解決しておく。教職課程の必修である。

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 システム分析概論(Systems Analysis)

サブタイトル

担当教員 下山 智明

■講義目的

ビジネスICTを利用する情報システムの構築を前提としたシステム分析を学ぶ。システム分析は情報システムを構築(または開発)する最初の段階であり、現状の課題発見と問題解決案を作り出すという重要な位置づけにある。本講義では具体的な事例を通してDFDやERDといった技法を使うことで、システム分析を実践的に理解することを目的とする。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

- (1) システム分析は何を目的として、どのようなプロセスをたどり、各プロセスではどのような技法を使うのかを理解する。
- (2) システム分析で使うDFD、ERDなどの表現を理解し、読み取れるようにする。
- (3) システムを抽象化し、論理的に把握する方法を理解する。
- (4) システム分析ドキュメントを理解し、現行もしくはこれから構築する将来のシステムについて概要を把握できる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

宿題として出題される課題や復習等で、30分から60分程度。

■講義の概要

<第1講>

概要：講義の概要と進め方

事前,事後学習ポイント：復習としてテキストに記述されている仮想企業“タマハン”の業務内容を理解する。

<第2講>

概要：システムを分かり易く他人に説明する。

事前,事後学習ポイント：タマハンの受注業務の内容を理解しておく。

<第3講>

概要：情報の流れに注目してシステムをDFDで表現する。

事前,事後学習ポイント：DFDとはどのような技法なのかを予めWebなどで情報収集しておく。また、課題にて身の回りの“システム”をDFDで表現してみる。

<第4講>

概要：具体的な事例を使ってDFDによる表現方法を学ぶ。

事前,事後学習ポイント：講義の内容を十分理解できるように復習する。

<第5講>

概要：色々な情報をデータ定義で表現する。

事前,事後学習ポイント：“学生証”にはどのような情報が記載されているのか、また、それを他人にどう説明すれば分かりやすいかを考えておく。

<第6講>

概要：タマハンの業務をDFDで表現する。

事前,事後学習ポイント：課題を通してタマハン業務内容を十分に理解しておく。

<第7講>

概要：システム分析の全体像を把握する。

事前,事後学習ポイント：課題を通してタマハンの現在の業務を表したDFDを十分に理解しておく。

<第8講>

概要：ERDを使って情報と情報の関連を表現する。

事前,事後学習ポイント：テキストを使い“医者”という情報と“患者”という情報の関係を理解しておく。

<第9講>

概要：情報を正規化することで複雑な情報を整理する。

事前,事後学習ポイント：“データの正規化”とは何かをWeb等の調査しておく。また、課題を通してEDRと正規化について復習する。

<第10講>

概要：タマハンの現行業務をスリム化して本質を理解する。

事前,事後学習ポイント：テキストを使い講義内容を十分に理解しておく。

<第11講>

概要：タマハンの現行業務をスリム化して本質を理解する。(2回目)

事前,事後学習ポイント：テキストを使いタマハン業務内容を復習しておく。また、課題を通して物理モデルから論理モデルへの変換を理解しているか確認する。

<第12講>

概要：タマハンの新しい業務の概要を作る。

事前,事後学習ポイント：テキストを使いタマハン業務の改善ポイントをまとめておく。

<第13講>

概要：タマハンの新しい業務の概要を作る。(2回目)

事前,事後学習ポイント：課題を通してタマハン業務改善のポイントを理解する。

<第14講>

概要：タマハンの新しい業務の具体案を作る。

事前,事後学習ポイント：タマハン業務改善案の内、物理モデルで実現する項目を確認しておく。

<第15講>

概要：タマハンの新しい業務の具体案を作る。(2回目)

事前,事後学習ポイント：テキストを使い、システム分析の流れや最終ドキュメント(将来物理モデルのドキュメント)を十分に理解する。

■教科書

適宜資料を配布して講義する。

■指定図書

無し

■参考文献・参考URL / Reference List

[1]「構造化分析とシステム仕様」 Tom DeMarco著 高梨智弘・黒田純一郎監訳 日経MGUウエブ 1986

[2]「情報システムの分析と設計」 G. Cutts著 浦照二監訳 培風館 1995

[3]「情報資源管理の技法-ERDモデルによるデータベース設計-」 酒井博敬著 オーム社 1987

[4]「データ中心システム設計」 堀内一著 オーム社 1988

主としてDFDに関する参考書が[1][2]で、ERDに関する参考書が[3][4]である。[1]はDFDに関する古典的な書物、[2]はDFD・ERDを含み、英国が設定したシステム分析標準手法SSADM(Structured Systems Analysis and Development Methodology)の解説書。[3]がERD中心に書かれているのに対し、[4]はERDに関連してデータの標準化や正規化に詳しい。DFDについては、その他ソフトウェア工学、システム分析、システム開発、ソフトウェア設計開発に関する書物が、またERDについては、データベース関係の書物が参考になる。

■評価方法

配分(合計100%)：日常課題50点、期末試験50点の合計100点満点で評価を行う。(尚、日常課題は宿題として出題される各課題の総得点を、満点を50点として換算する。また、期末試験も満点を50点として換算する。)

■評価基準

評価A+ (90点以上)：システム分析の進め方、各モデルの役割、システム分析で利用する各技法について非常に良く理解しており、下記評価方法にて90点以上を取得した。

評価A (89～80点)：システム分析の進め方、各モデルの役割、システム分析で利用する各技法について良く理解しており、下記評価方法の結果が80点以上90点未満であった。

評価B (79～70点)：システム分析の進め方、各モデルの役割、システム分析で利用する各技法について理解しており、下記評価方法の結果が70点以上80点未満であった。

評価C (69～60点)：システム分析の進め方、各モデルの役割、システム分析で利用する各技法について概ね理解しているが、下記評価方法の結果が60点以上70点未満であった。

評価F (59点以下)：下記評価方法の結果が60点未満であり、システム分析の進め方、各モデルの役割、システム分析で利用する各技法についての理解が不足している。

■履修していることが望ましい科目

無し

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

出欠は取らないが約8割程度は出席していないと講義内容を理解することは難しい。就職活動などで欠席の場合は、欠席した講義内容に関してテキスト・配布資料の復習、講師への質問や講義メモを手する等で理解しておく必要がある。また、欠席した場合、後日でも構わないので課題は必ず提出すること。

科目名

自然科学概論I(Introduction to Natural Science I)

サブタイトル

地球と私たち

担当教員

山本 博聖

■講義目的

誕生から46億年経過している私たちの住む地球の大切さをその成り立ちから今までを学ぶ。学びを通して地球に住む人としての基本的思考力を身につけることで社会人力の育成を図る。講義前半は、身近な地球環境について、太陽紫外線とのつきあい、地球上での生命を守るオゾンとの役割とその将来、オーロラ現象などを取り上げ、後半は、地球上での生命の誕生から私たちへの歩みについて学ぶ。この講義を通して、一般によく用いられている「地球に優しい」の表現が持つ危うさにも気づいて欲しい。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

地球が生まれてからの歴史をたどると私たち人類が現在住んでいるこの地球環境がいかに人類にとって優しい環境であるかに気づく。この講義を学ぶことで、私たちはよく語られる「地球に優しい」の表現が何を意味するのか、地球に住み始めて数十年にしか知らない人類と、誕生から46億年経過し多くの極限状況をくりぬけてきた地球とを対比することで、自分の言葉でその表現が適切かどうかを語る。

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各回の予習・復習等に必要な時間はほぼ1時間程度

■講義の概要

<第1講>

概要：<第1講> はじめに

概要：本講義全体の流れを説明し、現在にいたるまでならびに現在の地球を概説する。

事前,事後学習ポイント：宇宙、地球

<第2講>

概要：<第2講> 太陽と私たち

概要：母なる星の太陽の輝きの度合いによっては私たちは生まれてくることはなかった可能性もある。太陽は暖かさを届けてくれると同時に有害な紫外線や荷電粒子も地球に降ってくる。

事前,事後学習ポイント：太陽系の成り立ち、太陽の活動

<第3講>

概要：<第3講>太陽紫外線

概要：太陽は私たちに無限大とも思えるエネルギーを供給している。太陽から地球に届く光のうち私たちに大きな害を及ぼし得るのは太陽からの紫外線である。紫外線の浴びすぎや浴びなすぎも問題。そして太陽紫外線と大気オゾンとの関係についても学ぶ。

事前,事後学習ポイント：太陽紫外線、ビタミンD

<第4講>

概要：<第4講> 大気オゾン

概要：地球大気には極めて微量であるがオゾンが含まれている。このオゾンが大気に存在することで生物は地球上で生存可能となる。

事前,事後学習ポイント：大気オゾンと酸欠

<第5講>

概要：<第5講>大気中の様々な現象

概要：靄空や雨上がりに見える虹、気がつくところと不思議な木漏れ日の形など身近で起こる様々な現象の多くは太陽からの光が生み出している。

事前,事後学習ポイント：可視光線、虹

<第6講>

概要：<第6講>オーロラ現象

概要：地球で最も美しい自然現象の一つにオーロラがある。オーロラがよく見える場所や季節、またその命名からの歴史を学ぶ。そのすばらしさは決して映像では伝えることは困難であり、一度は体験したい現象である。

事前,事後学習ポイント：オーロラ

<第7講>

概要：<第7講>授業内テストその1

概要：前半で学習したことについて復習をかねてテストを実施する。

事前,事後学習ポイント：前半で学習したこと

<第8講>

概要：<第8講>プレートテクトニクス

概要：地球の大陸はゆっくりとはあるが移動している。大陸が移動しているとのウエグナーの考えは当初はまったく見向きもされなかった。彼が提示した多くの証拠は無視されたが、彼の死後になってその考えをもとにしたプレートテクトニクス理論が成立した。

事前,事後学習ポイント：大陸移動説、ウエグナー<第9講>

概要：<第9講>生命の誕生

概要：地球上の生命は太古の海から誕生したのか、それとも宇宙に漂う暗黒星雲にその起源があるのか。まだまだ結論は出ていない。

事前,事後学習ポイント：生命の起源、生命とは

<第10講>

概要：<第10講>光合成のはじまりと地球環境

概要：地球環境は太陽からのエネルギーと地球の性質で決まっている。その環境を支配しているシステムは地球内部の仕組みや光合成生物の働きが大きく関わっている。

事前,事後学習ポイント：炭素循環、シアノバクテリア

<第11講>

概要：<第11講>スノーボール・アース

概要：地球は氷河期を幾度も経験してきている。もっとも過酷な状況がスノーボール・アースと呼ばれる全地球凍結である。

事前,事後学習ポイント：スノーボール・アース

<第12講>

概要：<第12講>カンブリア爆発

概要：アメーバの世界でしかなかったこの地球上に5億4千万年前に突然多種多様な形ある生物が誕生した。地球史からみるときわめて短時間に起こったこの現象を「カンブリア大爆発」と呼ぶ。

事前,事後学習ポイント：カンブリア紀

<第13講>

概要：<第13講>生物大量絶滅事件

概要：1億5千万年以上にも渡って地球を支配していた史上もっとも強大な生物である恐竜は6600万年前に突然この地球上から消え去ることになる。最も被害が大きかった2億5千万年前の絶滅事件も含めて証拠をもとにその原因を考察する。

事前,事後学習ポイント：恐竜、隕石衝突

<第14講>

概要：<第14講>人類の出現

概要：我々ホモ・サピエンスは現在地球上に存在する唯一の人類である。人類が地球に誕生してほぼ700万年、しかし文明はわずか1万年に始まったばかりである。その人類が地球と共存できるのか、その発生から探る。

事前,事後学習ポイント：ホモ・サピエンス、ネアンデルタール人

<第15講>

概要：<第15講>授業内テストその2

概要：後半で学んだことを中心に問う。

事前,事後学習ポイント：後半の復習

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

授業内で提示する。

■評価方法

毎回の授業後に提出するコメントカードで授業参加度を見る(50%)、授業内で実施する2回のテストで理解度を見る(各回とも25%、合計50%)

■評価基準

評価A+(90点以上)：授業内容について十分理解し、それらを関連づけて自分の考えをもとに的確にその内容を表現し伝えることができる

評価A(89~80点)：A+までは到達しないが個々のテーマについての的確に内容を伝えることができる

評価B(79~70点)：内容把握は的確だが、その内容を十分伝えるまでには到達していない。

評価C(69~60点)：学んだ内容について十分に理解していない。

評価F(59点以下)：著しく理解が不十分である

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施せず

■留意点

授業環境を乱すような行動には厳しく対処する。
私語や携帯使用などは厳禁とし退室させる場合がある。
15分を越えての遅刻は入室を許可しない。

科目名 自然科学概論II(Introduction to Natural Science II)

サブタイトル 暮らしの中の生命科学

担当教員 松山 伸一

■講義目的

自然科学の一分野である生命科学の基礎を学び、日常生活や社会との密接な関わりを通して、「科学の眼」と「持続的な好奇心」を養う。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

日常生活の中で生命科学がいかに多くの事柄と結びついているのかを知り、学んだ知識が机上にとどまることなく、実生活の中で生かせるようになる。また、世間にあふれる玉石混濁の情報の中から有益なものを選択できる基礎力を身につけ、恒常的に科学リテラシーの向上をはかることができる。

■講義形態

講義のみ

■準講義学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

高校「生物」の教科書や生物資料集を一読して講義に臨むこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：細胞の構造と機能

事前,事後学習ポイント：原核細胞、真核細胞、動物細胞、植物細胞、細胞小器官、核、ミトコンドリア、葉緑体、DNA、ATP、光合成

<第 2 講>

概要：生殖と遺伝

事前,事後学習ポイント：ゲノム、卵子、精子、優性、劣性、メンデルの法則、伴性遺伝、複対立遺伝子、体細胞分裂、減数分裂、細胞周期、染色体、紡錘体、微小管、動物原体、対合、二価染色体、相同染色体、常染色体、性染色体、極体

<第 3 講>

概要：アミノ酸とタンパク質

事前,事後学習ポイント：生体高分子、重合体(ポリマー)、アミノ酸配列、高次構造、タンパク質の折りたたみ、酵素

<第 4 講>

概要：糖質

事前,事後学習ポイント：単糖、二糖、多糖、ブドウ糖(グルコース)、ショ糖、乳糖、麦芽糖、グリコーゲン、デンプン、肝臓、筋肉

<第 5 講>

概要：脂質

事前,事後学習ポイント：脂肪酸、飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、必須脂肪酸、脂肪、リン脂質、コレステロール、生体膜

<第 6 講>

概要：ビタミンとミネラル

事前,事後学習ポイント：水溶性ビタミン、脂溶性ビタミン、補酵素、ナトリウム、カリウム、カルシウム、鉄、亜鉛、電解質

<第 7 講>

概要：環境と生物

事前,事後学習ポイント：サンゴ、ホシズナ、ホッキョクグマ、地球温暖化、二酸化炭素、性決定、特定外来生物

<第 8 講>

概要：ダイエットの科学

事前,事後学習ポイント：タンパク質、糖質、脂質、ATP、解糖系、糖新生、アンモニア、肥満ホルモン、脂肪細胞、肝臓、筋肉

<第 9 講>

概要：生活習慣病

事前,事後学習ポイント：恒常性(ホメオスタシス)、ホルモン、インスリン、血糖、心臓、血管、肝臓、腎臓、脂肪細胞

<第 10 講>

概要：食と栄養

事前,事後学習ポイント：食の安全・安心、農薬、食品添加物、野菜、漢方薬、有機栽培、生物毒

<第 11 講>

概要：遺伝子

事前,事後学習ポイント：ゲノム、染色体、DNA、RNA、複製、転写、翻訳、ポリペプチド鎖、遺伝暗号、突然変異、常染色体、性染色体

<第 12 講>

概要：がんの科学

事前,事後学習ポイント：細胞、染色体、DNA、突然変異、交叉(乗換え)、細胞分裂、細胞周期、ブドウ糖、解糖系、血管

<第 13 講>

概要：皮膚の科学

事前,事後学習ポイント：表皮、角層、基底層、真皮、角質バリア、角質細胞、天然保湿因子、メラニン色素、ニキビ、アトピー性皮膚炎

<第 14 講>

概要：筋肉の科学

事前,事後学習ポイント：筋繊維、筋原繊維、カルシウム、筋小胞体、ATP、ブドウ糖、解糖系、酸素、タンパク質、脂質、神経

<第 15 講>

概要：神経の科学

事前,事後学習ポイント：神経細胞(ニューロン)、伝導と伝達、ナトリウムとカリウム、イオンチャネル、神経伝達物質、シナプス

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

毎回、参考図書を紹介する。

■評価方法

出席(25%) + 毎回の課題(25%) + 期末試験(50%)

■評価基準

評価A+(90点以上)：相対評価

評価A(89~80点)：相対評価

評価B(79~70点)：相対評価

評価C(69~60点)：相対評価

評価F(59点以下)：相対評価

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

私語などの迷惑行為は退室させる。

15分以上の遅刻者は原則入室させない。

科目名 実践的事業経営特講(Practical Business Management)**サブタイトル** 業界研究**担当教員** 村山 貞幸**■講義目的**

日本のさまざまなビジネス業界は、業界固有の課題と日々戦いながら、あらゆる問題解決に挑んでいる。講義では、各業界からゲストをお招きし、その生々しい状況をご説明いただく。リアルな最前線事例を聴くことを通じて、さまざまな業界を具体的に理解することを目的とする。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成

■到達目標

- (1) 業界の現状、将来性を理解する。
- (2) 自分のキャリアと結びつけて、業界を理解する。

■講義形態

講義
パネルディスカッション
質疑応答

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

予習不要。
解説された業界における特徴的企業を調査する。

■講義の概要

<第 1 講>

概要: オリエンテーション

事前,事後学習ポイント: 業界研究の意義を確認する。

<第 2 講>

概要: 日本経済新聞を利用した業界研究

事前,事後学習ポイント: 日本経済新聞を実際に手にし、その構成を確認し、興味のある業界の観察研究を実施する。

<第 3 講>

概要: 金融業界の解説

事前,事後学習ポイント: 信用金庫業界の特徴を確認し、興味のある企業を調査する。

<第 4 講>

概要: 不動産業界の解説

事前,事後学習ポイント: 不動産業界の特徴を確認し、興味のある企業を調査する。

<第 5 講>

概要: IT業界の解説

事前,事後学習ポイント: IT業界の特徴を確認し、興味のある企業を調査する。

<第 6 講>

概要: コンサルティング業界の解説

事前,事後学習ポイント: コンサルティング業界の特徴を確認し、興味のある企業を調査する。

<第 7 講>

概要: 福祉業界の解説

事前,事後学習ポイント: 訪問介護業界の特徴を確認し、興味のある企業を調査する。

<第 8 講>

概要: 福祉業界の解説

事前,事後学習ポイント: 施設介護業界の特徴を確認し、興味のある企業を調査する。

<第 9 講>

概要: 部品業界の解説

事前,事後学習ポイント: 部品業界の特徴を確認し、興味のある企業を調査する。

<第 10 講>

概要: 通信業界の解説

事前,事後学習ポイント: 通信業界の特徴を確認し、興味のある企業を調査する。

<第 11 講>

概要: 税理士業界の解説

事前,事後学習ポイント: 税理士業界の特徴を確認し、興味のある企業を調査する。

<第 12 講>

概要: 小売業界の解説

事前,事後学習ポイント: スーパーマーケット業界の特徴を確認し、興味のある企業を調査する。

<第 13 講>

概要: 卸業界の解説

事前,事後学習ポイント: 卸業界の特徴を確認し、興味のある企業を調査する。

<第 14 講>

概要: 物流業界の解説

事前,事後学習ポイント: 物流業界の特徴を確認し、興味のある企業を調査する。

<第 15 講>

概要: 講義内試験

事前,事後学習ポイント: 学んだ業界の特徴を自分のキャリア視点を加えて、再確認する。

■教科書

講義における配布資料など。

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

なし

■評価方法

試験 100%

■評価基準

評価A+ (90点以上): 業界を完全に理解し、自分のキャリアに適切に結び付けられている。
 評価A (89~80点): 業界を8割理解し、自分のキャリアに適切に結び付けられている。
 評価B (79~70点): 業界を7割理解し、自分のキャリアに適切に結び付けられている。
 評価C (69~60点): 業界を6割理解し、自分のキャリアに適切に結び付けられている。
 評価F (59点以下): 業界の理解が6割を下回っている。

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

実施しない

■留意点

- (1) 外部講師を意識した行動をとること。マナーに反する学生は退室させることがある。
- (2) 授業中の私語、携帯電話、飲食等授業を妨げる行為は禁止する。
- (3) 遅刻は認めない。
- (4) 講師のご都合により、日程、業界が変更されることがある。
- (5) 履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 社会心理 (Social Psychology)

サブタイトル

担当教員 近藤 隆雄

■講義目的

人間の社会関係を対象とし、その関係における個人の欲求、認知、感情、価値などの心理システムを分析し理解する。取り上げる社会関係は、個人を中心とする対人関係、集団、組織、社会などである。

具体的事例を挙げて説明し、学生が社会心理学の基礎概念を理解し、それを知って実際の社会関係を分析できるようになることを目的とする。

■講義分類

顧客理解
社会人育成

■到達目標

- ①人間関係において、相手の気持ちを理解できるようになること。
- ②人間関係において、その状況に適切な行動を取ることができるようになること。

■講義形態

講義のみ

■準講学習 (学習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業後少なくとも1時間、学習内容を復習すること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：社会心理学はどんな学問か (1)

概要：自分にとって人間関係はどんな意味をもっているかを考える。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[価値、行動]

<第 2 講>

概要：社会心理学はどんな学問か (2)

概要：社会心理学と他の学問との関係や位置、特徴。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[科学、社会科学、行動科学]

<第 3 講>

概要：社会化:ヒトはどうやって人間になるか。

概要：人間は自然に放置されては人間にならない。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[野生児、社会化]

<第 4 講>

概要：社会化のメカニズム

概要：社会化のメカニズムにはどんなものがあるか。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[条件付け理論、ジェンダー]

<第 5 講>

概要：他者についての理解と判断

概要：他人を理解するうえで認知枠組みの理解

事前,事後学習ポイント：

事前学習しておくべき用語やポイント[欲求段階説、性格の分類]

<第 6 講>

概要：欲求、性格、態度

概要：人間行動の原因となり、その行動の特徴を形作るのとは何か。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[欲求段階説、性格の分類]

<第 7 講>

概要：動機付け理論

概要：行動を動機付けるメカニズムの理解

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[期待価値理論、二要因理論]

<第 8 講>

概要：リーダーシップ論

概要：リーダーシップとは何で、どんなパターンがあるのか。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[状況適応理論、民主的リーダーシップ]

<第 9 講>

概要：コミュニケーション

概要：人が他人とコミュニケーションを取るとはどんなことか。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[チャネル、メッセージ、ボディランゲージ]

<第 10 講>

概要：マス・コミュニケーション

概要：マスコミの影響力の内容。その真実と影響する社会的要因。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[信頼性、世論]

<第 11 講>

概要：態度の姿容

概要：態度とは何で、態度を変えるためにはどんな方法があるか。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[認知不協和理論]

<第 12 講>

概要：対人魅力

概要：人を好きにさせる要素とその条件とは何か。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[好意の返報性、錯誤帰属説]

<第 13 講>

概要：援助行動

概要：人が他人を援助する行動とはなにか、またその条件とはなにか。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[援助行動]

<第 14 講>

概要：攻撃行動

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[攻撃行動の種類、その条件]

<第 15 講>

概要：集団

概要：集団とはなんであり、どんなタイプがあるか。また集団はその成員の行動にどんな影響をあたえるか。

事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[集団の機能、役割]

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

レポート30%、出席20%、期末試験50%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：社会心理の理論を十分に理解しており、それを応用することができる。また試験の結果が特に優れている。

評価A (89~80点)：社会心理の理論を十分に理解している。また試験の結果が優れている。

評価B (79~70点)：社会心理の理論をおおまか理解している。

評価C (69~60点)：社会心理の理論を部分的に理解している。

評価F (59点以下)：社会心理の理論をほとんど理解していない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

再試験は実施しない。

■留意点

科目名 社会調査実習Ⅰ・Ⅱ(practical training for social ResearcherⅠ・Ⅱ)

サブタイトル

担当教員 酒井 麻衣子

■講義目的

社会調査を適切に用いるためには、問題の設定の仕方、調査設計、調査方法、分析方法、そして結果の解釈などの様々な専門知識を学習する必要がある。ただし、これらの知識を覚えたとしても、必ずしも効果的な調査が行えるとは限らない。これは、社会調査が現実の社会の問題を取り扱うものであり、基本を踏まえつつ柔軟に応用する力が必要となるためである。社会調査を学ぶ上で欠かすことのできない、実際にそれらの知識を関連させ、実際に調査しとめるという調査に関する総合力を身につけることを目的とする。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
社人力育成
ビジネスICT

■到達目標

社会調査に関連する知識を総合的に活用し、実際に社会調査の一連の流れを実施できるようになる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

社会調査の一連の流れの中で随時必要となる情報収集、調査テーマに関連する基礎知識の修得等

■講義の概要

<第1講>

概要：※本講義は、調査設計から報告書の作成・発表までをグループ演習という形で学習する。

社会調査実習Ⅰ・Ⅱを連続して受講するため、毎週2コマ×15週の計30コマの活動時間が基本となる。

よって第1～15講の各講の内容は、それぞれ2コマ分の内容を記載する。

※進捗によっては内容・スケジュールを変更することがある。

<第1講>オリエンテーション、グループ決め、調査テーマ案のディスカッション

事前,事後学習ポイント: ※グループ学習の過程で適宜以下のような内容を学習する必要がある。

- ・量的調査・質的調査、データ分析(基礎統計量、検定、多変量解析)、質問紙作成、定量調査の実施手順、母集団と標本の考え方、統計処理ソフトの操作に関する基礎的な知識
- ・調査テーマに関連する基礎知識、先行研究の探索・読了

<第2講>

概要：<第2～3講>調査テーマ案の検討(二次データ、先行研究等の探索・確認)

事前,事後学習ポイント: 調査テーマに関連する基礎知識の習得、先行研究の探索・読了

<第3講>

概要：<第2～3講>調査テーマ案の検討(二次データ、先行研究等の探索・確認)

事前,事後学習ポイント: 同上

<第4講>

概要：<第4～6講>仮説・調査内容の確定、調査項目の具体化

事前,事後学習ポイント: 質問紙の作成に関する基礎知識

<第5講>

概要：<第4～6講>仮説・調査内容の確定、調査項目の具体化

事前,事後学習ポイント: 同上

<第6講>

概要：<第4～6講>仮説・調査内容の確定、調査項目の具体化

事前,事後学習ポイント: 同上

<第7講>

概要：<第7～9講>調査項目の確定、予備調査の実施、本調査票の確定

事前,事後学習ポイント: 定量調査の実施手順、母集団と標本の考え方に関する基礎的な知識

<第8講>

概要：<第7～9講>調査項目の確定、予備調査の実施、本調査票の確定

事前,事後学習ポイント: 同上

<第9講>

概要：<第7～9講>調査項目の確定、予備調査の実施、本調査票の確定

事前,事後学習ポイント: 同上

<第10講>

概要：<第10～11講>本調査の実施、データ作成

事前,事後学習ポイント: 定量調査の実施手順、母集団と標本の考え方、データ入力、統計処理ソフトの操作に関する基礎的な知識

<第11講>

概要：<第10～11講>本調査の実施、データ作成

事前,事後学習ポイント: 同上

<第12講>

概要：<第12～13講>データ分析(基礎集計、本分析)

事前,事後学習ポイント: データ分析(基礎統計量、検定、多変量解析)、統計処理ソフトの操作に関する基礎的な知識

<第13講>

概要：<第12～13講>データ分析(基礎集計、本分析)

事前,事後学習ポイント: 同上

<第14講>

概要：<第14～15講>調査結果の発表(準備・プレゼンテーション)

事前,事後学習ポイント: 発表内容・資料の精査

<第15講>

概要：<第14～15講>調査結果の発表(準備・プレゼンテーション)

事前,事後学習ポイント: 同上

■教科書

適宜資料を配付する。なお、以下の書籍を指定図書としておくので、必要に応じて参照すること。

■指定図書

- ・飽戸弘(1987)『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社
- ・ティム・メイ(著)、中野正太(訳)(2005)『社会調査の考え方―論点と方法』世界思想社
- ・谷岡一郎(2000)『「社会調査」のウソソリサー・リテラシーのすすめ』文藝春秋
- ・石川洋志・佐藤健二・山田一成(1998)『見えないものを見る力』八千代出版
- ・河合彰彦(2002)『知的権限思考法』講談社
- ・堀洋道監修『心理測定尺度集Ⅰ～Ⅵ』サイエンス社

■参考文献・参考URL / Reference List

一般社団法人 社会調査協会(<http://jasr.or.jp/>)
その他適宜指示・推薦する

■評価方法

実習での取り組み状況50%、発表および個人レポート50%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：以下の項目について社会調査を実行する上で必要となるスキルが身に付いたかどうかの到達水準に基づいて評価する。(1)問題意識を調査可能な形に具体化し、適切な調査設計ができたか(2)調査設計に従い、適切な実査が行えたか(3)実査の結果を適切に分析し、解釈することができたか(4)グループでの取り組みに積極的に参加し、他のメンバーと適切な協力体制を築くことができたか <A+> 顕著にすべた水準に達している
評価A (89～80点)：到達すべき水準を十分に超えている
評価B (79～70点)：到達すべき水準に達している
評価C (69～60点)：十分とは言えないが最低限の水準を満たしている
評価F (59点以下)：本講義で到達すべき水準に達していない

■履修していることが望ましい科目

以下の「社会調査士」資格認定科目のうち、各分野について1科目以上を事前に履修していることを強く推奨する。

- A分野：リサーチ入門
- B分野：マーケティングリサーチ
- C分野：統計、マーケティング・データ分析Ⅰ
- D分野：統計学Ⅰ、統計学Ⅱ
- E分野：データ解析、マーケティング・データ分析Ⅱ

■卒業年生を対象再試験の実施

なし

■留意点

・本講義を履修する場合は、1および11を両方履修すること(片方のみの履修はできない)

- ・社会調査士認定科目(G分野)に該当するため、資格を取得したい場合には、必ず履修すること。
- ・実習を効果的に行うため、他の社会調査士資格認定科目を修得し、ある程度の事前知識があることが望ましい。
- ・調査の実施にあたっては、講義時間外の活動が必要となる。

注1) 選抜試験について

本科目は、実習科目のため、履修上限人数を20名とする。そのため、履修に際しては、選抜試験を実施し、その成績によって受講者を選抜する。選抜方法などについては、随時発表するので、T-NEXT掲示板などを確認すること。

注2) 社会調査士については、一般社団法人 社会調査協会(<http://jasr.or.jp/>)を参照のこと。

科目名 消費心理 (Consumer Psychology)**サブタイトル** 消費者理解とそれを仕掛ける企業側の心理学**担当教員** 浜田 正幸**■講義目的**

- ① 消費者行動の理解の一助として心理学が有効であることを学ぶ
- ② 企業は消費者に対して、心理学を駆使して、購買をプロモートしていることを学ぶ
- ③ 心理学が、ビジネスの世界で多様に織り込まれていることを理解する

■講義分類

顧客理解

■到達目標

- ① 消費心理に関する一般的テーマや理論を把握する
- ② 消費心理を把握する方法を身につける
- ③ 消費心理や消費行動の分析方法を知る

■講義形態

講義+GW+GD

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各講ごとにレポートを課す

■講義の概要

<第 1 講>

概要：「消費心理」で扱う範囲の説明

事前,事後学習ポイント：全講義で取り扱う内容について、特にどのテーマに関心があるかレポートを書く

<第 2 講>

概要：化粧の心理

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・化粧の歴史、文化人類学、生物学、錯視、社会学

<第 3 講>

概要：化粧の心理

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・化粧の歴史、文化人類学、生物学、錯視、社会学

<第 4 講>

概要：ブランドの心理

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・ブランド、因子分析

<第 5 講>

概要：流行の心理

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・ティフュージョンセオリー (普及学)、イノベータ、アーリーアダプタ、アーリーマジョリティ、レイマジョリティ、ラガード

<第 6 講>

概要：価格の心理

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・フレーミング効果、プロスペクト理論、ノベル経済学賞ダニエル・カーネマン

<第 7 講>

概要：価格の心理

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・フレーミング効果、プロスペクト理論、ノベル経済学賞ダニエル・カーネマン

<第 8 講>

概要：消費心理へのアプローチ方法

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・経済指標、質問紙法、面接法、観察法、実験法、パターン認識

<第 9 講>

概要：消費心理へのアプローチ方法

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・経済指標、質問紙法、面接法、観察法、実験法、パターン認識

<第 10 講>

概要：広告と消費心理

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・カクテルパーティ効果、サブリミナル効果、閾値、プラセボ効果、欲求認知、認知的不協和理論

<第 11 講>

概要：広告と消費心理

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・カクテルパーティ効果、サブリミナル効果、閾値、プラセボ効果、欲求認知、認知的不協和理論

<第 12 講>

概要：ティズニールランドの心理学

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・サービスの特徴、顧客満足、遠近法、錯覚、

プリンティング

<第 13 講>

概要：小売業の心理学

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・店舗レイアウト、棚割り、売れ筋商品、死に筋商品、品切れ、リピート、水平陳列、垂直陳列、バラエティシキング

<第 14 講>

概要：小売業の心理学

事前,事後学習ポイント：キーワード・・・店舗レイアウト、棚割り、売れ筋商品、死に筋商品、品切れ、リピート、水平陳列、垂直陳列、バラエティシキング

<第 15 講>

概要：確認テスト

事前,事後学習ポイント：ここまでの14講の理解度確認のテストなので、すべての講義録を復習しておくこと。

■教科書**■指定図書**

『化粧品心理学』資生堂ビューティーサイエンス研究所

『消費者理解のための心理学』福村書店

『消費行動の社会心理学』北大路書房

■参考文献・参考URL / Reference List**■評価方法**

確認テスト100%

ただし、毎講義のレポートを出席確認に代え、その内容も100%考慮する

■評価基準

評価A+ (90点以上)：ラーニングゴールに十分に達していること

評価A (89~80点)：ラーニング・ゴールが概ね理解できている

評価B (79~70点)：ラーニング・ゴール直前の理解

評価C (69~60点)：ラーニング・ゴール未達

評価F (59点以下)：消費心理を全く理解できていない

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

なし

■留意点

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 情報セキュリティ (Information Security)

サブタイトル 利用者の立場から必要となる情報セキュリティの知識とスキル

担当教員 諸橋 正幸

■講義目的

企業や組織における情報セキュリティ技術者の重要性が高まっている。本講義では、IPAの情報セキュリティスキルマップを下敷きに、事例研究や演習を利用しながら、情報セキュリティプロフェッショナルに求められる知識を習得する。これにより、情報セキュリティに関連する問題を解決する能力を身に付けることを目標とする。

授業は、基本的に座学でおこなう。講義内容によっては、教室設置のPCや携帯機器を使用する場合もある。

■講義分類

社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

- (1) 情報セキュリティとは何かを説明できる
- (2) 情報セキュリティへの脅威を認識し、対策をすることができる

■講義形態

講義のみ
その他(PCや携帯を使用した実験も実施予定)

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

教科書、配布レジュメで十分な予習・復習をしておく。また、第14講にて全体の復習をする。

■講義の概要

<第1 講>

概要：情報セキュリティの基本概念、情報セキュリティ侵害の現状の理解

事前,事後学習ポイント：情報セキュリティ

<第2 講>

概要：リスク要因

事前,事後学習ポイント：リスク、インシデント

<第3 講>

概要：リスク要因

事前,事後学習ポイント：リスク、インシデント

<第4 講>

概要：個人レベルのセキュリティ対策(1)[マルウェアの理解、共通の対策方法の理解]

事前,事後学習ポイント：マルウェア

<第5 講>

概要：個人レベルのセキュリティ対策(1)[マルウェアの理解、共通の対策方法の理解]

事前,事後学習ポイント：マルウェア

<第6 講>

概要：個人レベルのセキュリティ対策(2)[攻撃手法と対策の理解、無線LANのセキュリティの理解]

事前,事後学習ポイント：無線LAN

<第7 講>

概要：個人レベルのセキュリティ対策(2)[攻撃手法と対策の理解、無線LANのセキュリティの理解]

事前,事後学習ポイント：無線LAN

<第8 講>

概要：組織のセキュリティ対策

事前,事後学習ポイント：PDCAサイクル

<第9 講>

概要：情報セキュリティ関連の法規と制度

事前,事後学習ポイント：情報セキュリティマネジメント、知的財産、迷惑メール

<第10 講>

概要：セキュリティ技術：基礎[インターネット通信の基礎、アカウント管理、通信データ閲覧のデモ]

事前,事後学習ポイント：TCP/IP、インターネット通信、パスワード

<第11 講>

概要：セキュリティ技術：基礎[インターネット通信の基礎、アカウント管理、通信データ閲覧のデモ]

事前,事後学習ポイント：TCP/IP、インターネット通信、パスワード

<第12 講>

概要：セキュリティ技術：基礎(2)[攻撃手法、ルータ関連技術、暗号技術の理解]

事前,事後学習ポイント：ポート、ファイアウォール、暗号化

<第13 講>

概要：セキュリティ技術：基礎(2)[攻撃手法、ルータ関連技術、暗号技術の理解]

事前,事後学習ポイント：ポート、ファイアウォール、暗号化

<第14 講>

概要：復習

事前,事後学習ポイント：これまでの授業内容を復習しておき、講義にて再確認する

<第15 講>

概要：試験

事前,事後学習ポイント：これまでの授業内容を復習しておく

■教科書

「情報セキュリティ読本 ?IT時代の危機管理入門- 四訂版」(ISBN978-4-407-33076-2) 実教出版株式会社
毎回の講義時にレジュメ配布を予定

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

<http://www.ipa.go.jp/security/index.html>

■評価方法

試験60% 平常点40%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：日常生活でITを利用する際に必要とされる情報セキュリティの基礎的な知識とスキルが十分に身についている

評価A (89~80点)：日常生活でITを利用する際に必要とされる情報セキュリティの基礎的な知識とスキルが身についている

評価B (79~70点)：日常生活でITを利用する際に必要とされる情報セキュリティの基礎的な知識とスキルがそこそこに身についている

評価C (69~60点)：日常生活でITを利用する際に必要とされる情報セキュリティの基礎的な知識がある程度身についている

評価F (59点以下)：十分な知識がない。出席していない。試験を受けていない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

就活等の理由により出席できなかった学生については申請があれば、その回の配布資料に基づいた質疑を行った上、出席扱いをする(病欠等についても同様)

試験は講義の最終回に実施する予定

科目名 情報探索法 (Information Serching Methods)

サブタイトル アウトプット重視の情報探索法

担当教員 泉澤 恭子

■講義目的

本講義では、実習とディスカッション・スモールプレゼンテーションを繰り返し行うことにより、情報探索法の実践的知識を獲得するとともに、情報の加工・伝達力をつけることを目的とする。

■講義分類

ビジネスICT、社会力育成

■到達目標

- ①データベース、図書館を目的に応じて活用できる。
- ②著作権法等、情報倫理を遵守した情報の取り扱いができる。
- ③情報の蓄積、取捨選択の実践的知識を獲得する。
- ④パワーポイント資料が作成できる。
- ⑤ディスカッションやプレゼンテーションを通じて情報探索結果を伝達できる。

■講義形態

講義+個人実習+GW+GD+PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎授業後には原則として、授業内の実習においてMicrosoft Office(Word, Excel, Powerpoint)等を用いて作成した提出物を提出すること。各回の実習で十分な情報探索結果を得られない場合や、講義を休んだ場合には、実習課題を宿題とする。

■講義の概要

<第1講>

概要：1. オリエンテーション

2. 伝わるプレゼン術I導入編

事前,事後学習ポイント：プレゼンテーションの基本

<第2講>

概要：1. スモールプレゼン (自己紹介)

2. ビジネス情報ニーズと情報源、データベース検索

3. データベース検索(検索エンジン)

事前,事後学習ポイント：キーワード「検索エンジン」「Google」「Yahoo」「人物情報」「企業情報」「業界・市場情報」「消費者情報」「専門情報」、参考として指定図書「情報調査力のプロフェッショナル」

<第3講>

概要：データベース検索II

1. 多摩メディア&インフォメーションセンターのデータベース紹介

2. 新聞記事データベース①関連、新聞情報の特徴と情報探索における位置づけ

3. 検索結果の取り扱いの留意点

事前,事後学習ポイント：キーワード「多摩メディア&インフォメーションセンター(MIC)」「関連」「新聞」「情報の取り扱い」

<第4講>

概要：データベース検索III

1. 新聞記事データベース②日経テレコン21、日本で発行されている新聞の種類と特徴

2. 情報の蓄積方法 (マイデータベースの構築)

事前,事後学習ポイント：キーワード「日経テレコン21」「四大紙」「業界紙」「情報の蓄積」

<第5講>

概要：データベース検索IV

1. 一般雑誌記事データベース①東洋経済デジタルコンテンツライブラリー、一般雑誌情報の特徴と情報探索における位置づけ

2. 企業・人物情報の情報源と特徴、情報探索における位置づけ

事前,事後学習ポイント：キーワード「東洋経済デジタルコンテンツライブラリー」「一般雑誌」「企業情報」「人物情報」

<第6講>

概要：データベース検索V

1. 一般雑誌記事データベース②日経BP記事検索サービス、日本で発行されている一般雑誌の種類と特徴

2. 学術雑誌記事データベース (CINii)、一般雑誌情報と学術雑誌情報の違い

事前,事後学習ポイント：キーワード「日経BP記事検索サービス」「CINii」「学術雑誌」「専門情報」

<第7講>

概要：1. 図書館の利用について (多摩図書館、地域の図書館、ビジネスライブラリ、国会図書館)

2. 業界・市場情報の情報源と特徴、情報探索における位置づけ

3. データベース検索VI国会リサーチナビ

事前,事後学習ポイント：キーワード「多摩図書館」「ビジネスライブラリ」「国会図書館」「国会リサーチナビ」「業界情報」「市場情報」「業界団体」「業界地図」

<第8講>

概要：データベース検索VII民間調査会社等のレポート

事前,事後学習ポイント：講義・実習・グループディスカッション等を通して、民間調査会社等のレポートの検索を習得し、民間調査会社等のレポートの特徴と情報探索における位置づけを実感する。

<第9講>

概要：データベース検索VIII総括

事前,事後学習ポイント：データベースの種類と特徴、目的に応じたデータベースの選択と検索式の選択

<第10講>

概要：1. 中間小試験

2. 伝わるプレゼン術IIプレゼンの目的把握と骨格づくり

事前,事後学習ポイント：プレゼンの目的把握と骨格づくり

<第11講>

概要：伝わるプレゼン術III信頼される資料づくり：情報の見極め、著作権法、個人情報保護法の遵守

事前,事後学習ポイント：キーワード「情報の見極め」「鮮度」「出所」「著作権法」「個人情報保護法」、参考)指定図書「情報探索術」

<第12講>

概要：伝わるプレゼン術IV～目で伝わる資料づくり

事前,事後学習ポイント：キーワード「表紙」「タイトル」「書体と文字」「箇条書き」「レイアウト」「配色」「パリアフリー」「図形と図表」「出典」

<第13講>

概要：伝わるプレゼン術V伝わる口頭発表

事前,事後学習ポイント：キーワード「聴衆」「目的」「キーワード」「ベネフィット」「説明順序」「体験」「共感」「数字」「時間」

<第14講>

概要：期末試験：プレゼン

事前,事後学習ポイント：-

<第15講>

概要：期末試験：プレゼン

事前,事後学習ポイント：-

■教科書

なし

■指定図書

1. 上野住恵著、『情報調査力のプロフェッショナル～ビジネスの質を高める「調べる力」』、ダイヤモンド社、2009
2. 関口和一著、『情報探索術 (日経文庫)』、日本経済新聞社、2006
3. 長尾真也ほか、『大学生と「情報の活用」～情報探索入門 (京大大学全学共通科目講義録)』、京都大学図書館情報学研究学会、2001
4. 天野暢子著、『プレゼンは資料作りで決まる! 意思決定を引き寄せる6つのステップ』、実業之日本社、2014
5. 原尻淳一著、『読書HACKS! 知的アウトプットにつながる超インプット術 (講社+α文庫)』、講社、2013

■参考文献・参考URL / Reference List

講義において紹介する。

■評価方法

- ・授業貢献 (出席、発言等) 30%、講義課題提出物 (提出、内容等) 35%、中間・期末試験 (いずれも講義中に行う予定) 35%
- ・ただし、授業への出席率や授業態度が著しく悪く、授業全体に悪影響を及ぼしていると講師が判断する場合には不合格とする。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：試験結果や提出物、授業態度の総合評価が特に優良である。

評価A (89～80点)：試験結果や提出物、授業態度の総合評価が優良である。

評価B (79～70点)：試験結果や提出物、授業態度の総合評価が良好。

評価C (69～60点)：試験結果や提出物、授業態度の総合評価が一定の条件を満たしている。

評価F(59点以下) : ・授業貢献、講義課題提出物、試験結果の総合評価が一定の条件を満たしていない。 ・授業への出席率や授業態度が著しく悪く、授業全体に悪影響を及ぼしていると講師が判断する場合。

■履修していることが望ましい科目

—

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・情報探査技術の習得状況等に応じて講義の内容やスケジュールを適宜変更する。

科目名 情報通信と社会(Advanced to Telecommunication)

サブタイトル 情報社会におけるIT技術の利用と行動倫理

担当教員 諸橋 正幸

■講義目的

ICTを基礎とした高度情報社会の実情を知り、実社会との関係に重点をおいた視座で、実際に起こっている様々な問題を学び解決策を考える。また、個人として情報技術を正しく利用できる力を身につける。

■講義分類

ビジネス環境理解
 ビジネスマネジメント
 ビジネスICT

■到達目標

情報通信事業について、常識として知っておくべき事項を体系的に理解すること
 社会人として仕事をしていく上で必要となる、通信を利用したコミュニケーションについて理解を深めること

■講義形態

講義とレポート課題

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

教科書、配布レジュメで十分な予習・復習をしておく。また14講にて全体の復習をする。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：ガイダンス、情報が変えていく社会
 事前,事後学習ポイント：身の回りの道具、サービスについて気がついたものを並べ上げ、整理する。情報社会が発展する以前とどう違うかを考えてみる。

<第 2 講>

概要：情報が変えていく社会
 事前,事後学習ポイント：情報化社会の到来により起きた変化を実感として受け止め、整理してみる。

<第 3 講>

概要：情報社会が抱える問題
 事前,事後学習ポイント：情報化社会の到来により起きたと思われる社会問題について具体的な事例を調べておく。それらの問題の背景にあるものを理解する。

<第 4 講>

概要：情報倫理
 事前,事後学習ポイント：知的財産権と著作権について、それらを保護しなければならない理由を押さえておく。また、過剰な保護に依る社会発展への阻害要件を考えてみる。両者の長所・短所から新しい流れの中の提案を考えてみる。

<第 5 講>

概要：ウイルスの問題とその対策
 事前,事後学習ポイント：ウイルスに利用されている技術の本質を知ることと、技術の悪用として、コンピュータウイルスを捉えなおす。さらには、ウイルスに影響されない技術の利用法を知る。

<第 6 講>

概要：コミュニケーションの基本
 事前,事後学習ポイント：コミュニケーションは情報化社会到来の前から必要とされてきたことである。その本質を改めて考えて見る。

<第 7 講>

概要：情報とコミュニケーション
 事前,事後学習ポイント：情報化の技術や情報システムがコミュニケーションにどのような影響を与えたかを学ぶ。

<第 8 講>

概要：コミュニケーションモデル
 事前,事後学習ポイント：コミュニケーションの本質をモデルという視点から整理する。

<第 9 講>

概要：ヒューマンコンピュータインタラクション
 事前,事後学習ポイント：コンピュータを使うという行為が「ヒューマンコンピュータインタラクション」という観点でどのような設計思想が採用されているものなのかを具体例と思想の両面から検証してみる。

<第 10 講>

概要：インターネットの仕組み
 事前,事後学習ポイント：普段、なにげなく使っているインターネットの基礎知識を学び、具体的利用法と結びつけて整理する。

<第 11 講>

概要：WEBサービス
 事前,事後学習ポイント：ビジネス活動の中でのインターネットの利用法を整理・分類する。

<第 12 講>

概要：データベースの基本概念
 事前,事後学習ポイント：インターネット構築以前から存在するデータベースの理論を理解し、それが、インターネット上でどう活用されているのかを整理する。

<第 13 講>

概要：データマイニング/ビッグデータの基礎
 事前,事後学習ポイント：データベースを、個人や組織の活動の記録としてとらえ、その行動様式を明らかにするというデータマイニングの特徴を理解し、それがビッグデータの解析技術によってどこまで利用できるのかを知る。

<第 14 講>

概要：情報システム
 事前,事後学習ポイント：13講までの内容を概括し、情報システムとビジネスの結びつきを改めて整理しておく。

<第 15 講>

概要：期末テスト
 事前,事後学習ポイント：

■教科書

IT TEXT (一般教育シリーズ) 情報とネットワーク社会
 駒谷・山川・中西等著、オーム社

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

新聞記事等、講義の中で適宜紹介する。

■評価方法

課題50%、期末テスト50%で評価する。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容の理解だけでなく、提出課題で自らの考えも明確に主張できている
 評価A (89～80点)：講義内容の理解十分、提出課題で他人の意見に同調するのみ
 評価B (79～70点)：期末テストの結果不良、提出課題の結論が他人の意見のまったくの引用
 評価C (69～60点)：期末テストの結果不良、提出課題の結論が外的である
 評価F (59点以下)：期末テストを受けていない、または、講義内容の理解ができていない。 課題提出を行っていない、または、内容が非常にpoorである。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する。

■留意点

科目名 情報と職業(Information and Profession)

サブタイトル

担当教員 齋藤 S. 裕美

■講義目的

本講義は、情報と職業についての関わり、情報に関係する職業人(情報処理技術者、ネットワーク技術者など)の役割と責任について理解することを目的とする。

現代の社会において、IT(情報技術)は必要不可欠な存在である。情報技術の進展によって生まれた産業の特徴や情報システムが一般社会生活のなかでどのように使われているかなど、情報技術の現状を把握するとともに、私たちの生活や既存の産業が受けた情報化の影響などについても学習する。

また、情報システムを構築し運用する上で、情報処理技術者やネットワーク技術者が果たすべき役割や責任について理解し、情報技術の専門家に求められる勤務観や職業観を身につけることも目的のひとつである。

さらに本講義によって、将来、情報に関係する職業人を目指す高校生に対して、適切な教育指導が出来るようになることを目指す。

■講義分類

ビジネス環境理解、社会人力育成

■到達目標

情報技術が産業社会や人々の生活に対して及ぼした影響を理解し、情報技術の専門家に求められる倫理観や職業観を身につけることをめざす。

■講義形態

講義

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各講を受講するにあたり、前講までの資料をよく読んでおくこと。

講義資料に記載されているデータの出所を確認し、当該データや関連のデータにもあたっておくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：情報社会までの歴史の変遷

事前,事後学習ポイント：情報革命がもたらした社会構造の変化とはどのようなものであるか。

<第 2 講>

概要：戦後の産業構造の変化

事前,事後学習ポイント：情報革命がもたらした社会構造の変化とはどのようなものであるか。

<第 3 講>

概要：情報社会における職業観

事前,事後学習ポイント：職場・雇用環境・就業形態が変化したこと、人々の意識はどのように変わったか。

<第 4 講>

概要：情報社会と職業教育

事前,事後学習ポイント：これからの社会で求められる職業人としての素養やスキルは何か、なぜそのような素養やスキルが求められるようになったのか。

<第 5 講>

概要：情報産業における職業教育と資格

事前,事後学習ポイント：人々の資格取得の背景にはどのような心理が働いているのか、また情報人材と資格との関わりはどのようなものであるか。

<第 6 講>

概要：情報産業の誕生と発展

事前,事後学習ポイント：情報産業の発展の経緯と様々な職種との関係はどのようなものか。

<第 7 講>

概要：情報産業の実像

事前,事後学習ポイント：情報産業の特徴とはどのようなものか、そこで働く人々の仕事とそこから生じる職業意識や職業観とはどのようなものか。

<第 8 講>

概要：企業における情報化

事前,事後学習ポイント：情報技術への投資規模はどのような要因で決定されるのか、また大企業と中小企業の相違はどのような要因によるものか。

<第 9 講>

概要：情報技術と犯罪

事前,事後学習ポイント：情報技術に関わる犯罪とそれに対する対応はどのようなものであるか、技術者に必要な倫理観とはどのようなものであるか。

<第 10 講>

概要：情報技術とリスクマネジメント

事前,事後学習ポイント：リスクマネジメントとはどのようなことであるか。

<第 11 講>

概要：リスクマネジメントの背景

事前,事後学習ポイント：リスクマネジメントの背景にある社会状況の変化とはどのようなものであるか、またそれらが雇用環境・就業形態とどのような関係にあるか。

<第 12 講>

概要：リスクマネジメントとCSR

事前,事後学習ポイント：CSRとはどのようなことか、個人情報保護法や不正アクセス禁止法、公益通報者保護法などはどのようなものか。

<第 13 講>

概要：CSRと企業の取り組み

事前,事後学習ポイント：取り組みを行う契機となったことなどがらなどはあるか。

<第 14 講>

概要：職業人として必要な倫理観

事前,事後学習ポイント：職業人として必要な倫理観とはどのようなものであるか、個人の倫理的行動を後押しするものとして社会や企業にどのような制度が必要か、制度以外に必要なものは何か。また、職業人としてどのような職業観、心構えを持って働くべきか。

<第 15 講>

概要：職業人として必要な倫理観

事前,事後学習ポイント：職業人として必要な倫理観とはどのようなものであるか、個人の倫理的行動を後押しするものとして社会や企業にどのような制度が必要か、制度以外に必要なものは何か。また、職業人としてどのような職業観、心構えを持って働くべきか。

■教科書

授業の際にプリントを配布する。

■指定図書

駒谷昇一・楠本範明・辰己丈夫著 『情報と職業』 オーム社

近藤熱著 『情報と職業』 丸善

■参考文献・参考URL / Reference List

田中弘弘・加藤尚武・立花隆著 『現代社会の倫理を考える<5> 職業の倫理学』 丸善

小国力著 『情報社会の基盤—基礎技術から職業、倫理まで』 丸善

斉藤雄武・田中善美・依田有弘・佐々木 英一著 『ノンキャリア教育としての職業指導』 学文社

■評価方法

期末試験45%、学期中のレポートや課題40%、出席状況15%を基本とし、授業への参加態度などを加味して総合的に評価する。

レポートや期末試験は、次の4点を中心に評価する。

- (1)情報社会に至る産業社会の変遷を理解しているか。
- (2)情報社会における人々の勤務観や職業観を理解しているか。
- (3)情報産業の特徴や技術動向を理解しているか。
- (4)情報産業に関わる職業人としての役割や責任を理解し、必要な倫理観を身につけているか。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容について十分理解し、評価方法に示した4つの観点について、その内容を関連づけ、自分の考察を含めてそれらの内容を的確に説明できる。

評価A (89~80点)：講義内容について理解し、評価方法に示した4つの観点について、その内容を個別に、自分の考察を含めてそれらの内容を説明できる。

評価B (79~70点)：講義内容について理解し、評価方法に示した4つの観点について、いずれか2つ以上の内容を説明できる。

評価C (69~60点)：講義内容について理解し、評価方法に示した4つの観点について、いずれか1つ以上の内容を説明できる。

評価F (59点以下)：講義内容について著しく理解が不足している。

■履修していることが望ましい科目

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する。

但し、期末試験を受験していない履修生、出席回数が3分の2以上に達していない履修生に対しては実施しない。

■留意点

特になし。

科目名 情報法 (Information Law)

サブタイトル 知的財産法

担当教員 石岡 克俊

■講義目的

この講義では、「知的財産」に関わる法制度全般を説明していきます。一口に「知的財産」と言っても、しばしば耳にするわりに、それがどんなものであるか案外知られていません。ましてや、何故これらを保護しなければならないのか、また、これらの保護のためにどのような仕組みが用意されているのかに至っては、ほとんど初耳でしょう。この講義では、知的財産に関する法制度の理解を深めていくことを目的としています。

■講義分類

ビジネス環境理解
 ビジネス創造
 グローバルビジネス
 ビジネスICT

■到達目標

この講義の到達目標としては、しばしば話題にのぼる知的財産の問題について自ら考えていくことができるようになることです。

■講義形態

講義のみ

■準備学習 (学習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

事前に配布する講義資料 (原則A4サイズ1枚) に目を通しておき、ポイントや疑問点などを確認しておくこと (正味1時間程度)。

■講義の概要

<第 1 講>
 概要：イントロダクション
 事前,事後学習ポイント：シラバスの内容に目を通しておくこと
 <第 2 講>
 概要：知的財産 (権) とは何か？
 事前,事後学習ポイント：知的財産・知的財産権・知的財産基本法
 <第 3 講>
 概要：知的財産権の特徴
 事前,事後学習ポイント：創作法・標識法
 <第 4 講>
 概要：新たな技術的成果を保護する特許制度
 事前,事後学習ポイント：発明奨励説・公開奨励説
 <第 5 講>
 概要：発明とは何か？
 事前,事後学習ポイント：発明・自然法則・技術的思想・創作
 <第 6 講>
 概要：特許の出願手続について
 事前,事後学習ポイント：出願公開・特許査定
 <第 7 講>
 概要：特許の技術的範囲と特許権の差止請求及び損害賠償
 事前,事後学習ポイント：補正・差止請求・損害賠償請求
 <第 8 講>
 概要：発明者にはどのような権利が認められるのか？
 事前,事後学習ポイント：発明者権
 <第 9 講>
 概要：実用新案と営業秘密
 事前,事後学習ポイント：考案・営業秘密・ノウハウ
 <第 10 講>
 概要：意匠制度とはどんなもの？
 事前,事後学習ポイント：工業デザイン
 <第 11 講>
 概要：商標制度とはどんなもの？
 事前,事後学習ポイント：商標・自己商品サービス識別力・顧客吸引力
 <第 12 講>
 概要：商標権を取得しなくても保護される場合がある。
 事前,事後学習ポイント：不正競争・不正競争行為
 <第 13 講>
 概要：著作権とはどのような権利か？著作権によって保護される著作物とは？
 事前,事後学習ポイント：著作物・著作財産権・著作人格権・著作隣接権
 <第 14 講>
 概要：著作者となるのは誰か？著作者にはどのような権利が発生するのか？

事前,事後学習ポイント：複製権・公衆送信権・上映権
 <第 15 講>

概要：著作権が制限される場合。著作権侵害。著作隣接権とはどのような権利か？
 事前,事後学習ポイント：私的使用としての複製・実演・放送・放送事業者・レコード・レコード制作者

■教科書

なし

■指定図書

特定の図書を指定しない。適宜、参照することが有益であるとする文献については、講義内において紹介する。

■参考文献・参考URL / Reference List

特定の図書を指定しない。適宜、参照することが有益であるとする文献については、講義内において紹介する。

■評価方法

期末に実施する試験において評価を行う (100パーセント)。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：本講義で取り扱われた内容について、ほとんどすべて正確に理解している。
 評価A (89~80点)：本講義で取り扱われた内容について、概ね正確に理解している。
 評価B (79~70点)：本講義で取り扱われた内容について、ほとんど理解している。
 評価C (69~60点)：本講義で取り扱われた内容について、概ね理解している。
 評価F (59点以下)：本講義で取り扱われた内容について、あまり理解していない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名

初級簿記(Introductory Level Bookkeeping)

サブタイトル

【簿記入門】

担当教員

金子 邦博

■講義目的

本講義は、産業界において企業が行うさまざまな取引を会計情報として記録するための技法である「簿記」の基本原理を習得し、日本商工会議所が主催する簿記検定試験の3級(日商簿記3級)に合格できる知識と能力を習得することを目的とする。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業の経済活動を会計情報として記録するための技法である「複式簿記」の仕組みについての基礎的な知識を習得すること。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義を受講するにあたっては、毎回の講義で学習した内容の理解度を確認するため、配付した宿題を解いておくことが必要です。次回講義のなかで、前回講義の理解度を問うミニテストを行います。

また、次回講義の内容を把握するため、テキストの該当部分を事前に一読しておくことも必要です。講義内容の復習と次回講義の準備には概ね1時間程度の取り組みが必要です。

■講義の概要

<第1講>

概要：1.簿記の意味・目的・種類

2.簿記の基礎概念

簿記の基本事項について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第2講>

概要：3.仕訳のルール

会計記録の仕組みである「仕訳」の仕方を学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第3講>

概要：4.現金預金取引

現金及び預金の受け払いに伴う取引について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第4講>

概要：5.商品売買

販売用の商品の受け払いに伴う取引について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第5講>

概要：5.商品売買(続き)

6.手形取引

商品の戻りなどの特殊な処理と手形取引について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第6講>

概要：7.有価証券

有価証券の受け払いに伴う取引について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第7講>

概要：8.固定資産

9.租税公課

10.資本と引出金

固定資産、税金、資本にかかる取引について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第8講>

概要：11.その他の債権・債務

各種の債権・債務の取引について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第9講>

概要：12.転記のルール

13.帳簿

仕訳により会計記録した情報を整理するための転記と帳簿の作成を学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第10講>

概要：14.伝票会計

伝票を使った会計記録の処理を学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第11講>

概要：15.試算表の作成

全ての勘定記録の一覧表である「試算表」の使い方を学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第12講>

概要：16.決算整理の処理方法

決算整理のための仕訳について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第13講>

概要：17.精算表の作成

決算整理のワークシートである「精算表」の使い方を学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第14講>

概要：18.帳簿の締め切り

決算の確定をするための帳簿の締め切りについて学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

<第15講>

概要：(総まとめ)

日商簿記検定の過去の出題問題を使い総合問題の演習を行う。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行うておくこと。

■教科書

- [1] 福島三千代『サクッとわかる日商3級商業簿記 テキスト』ネットスクール
[2] 福島三千代『サクッとわかる日商3級商業簿記 トレーニング』ネットスクール

■指定図書

- [1] 福島三千代『すいすい簿記マンガみてGO! 日商簿記3級』ネットスクール
[2] 滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の教科書日商3級商業簿記』TAC出版
[3] 滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の問題集日商3級商業簿記』TAC出版
[4] ネットスクール『日商簿記3級過去問題集 出題パターンと解き方』ネットスクール
[5] 滝澤ななみ『日商簿記3級みんなが欲しかった問題演習の本』TAC出版

■参考文献・参考URL / Reference List

適宜、講義のなかで指定する。

■評価方法

期末試験の成績により評価する(100%)。なお、期末試験の成績が80点に満たない者は、期末試験の成績にミニテストの成績を加算して成績判定を行う。

ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 期末試験の得点が90点以上

評価A (89~80点) : 期末試験の得点が80点以上90点未満

評価B (79~70点) : 期末試験のミニテストの合計得点が70点以上

評価C (69~60点) : 期末試験とミニテストの合計得点が60点以上70点未満

評価F (59点以下) : 期末試験とミニテストの合計得点が60点未満

■履修していることが望ましい科目

この講義の受講に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしないが、講義の受講にあたっては、「ビジネス入門Ⅱ」若しくは「産業社会論入門Ⅱ(会計)」の科目が履修済みであることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

1.この科目の単位取得のためには、宿題及び講義内容の復習を通じて知識の定着を図り、問題演習の積み重ねにより会計処理能力の向上をさせるなどの自主的な学習が必要である。

2.講義の際には、教科書のほかに、必ず「電卓」を持参すること。

なお、「電卓」に関しては、初回講義のなかで、選び方などを説明するので、初回講義前に事前に用意しておく必要はない。

3.講義の理解度合いを各自で確認してもらうことを目的に、講義では毎回ミニテストを実施する。

4.講義の資料については、TNEXTの授業資料に掲示する。

5.本講義は、半期(15回の講義)で完結する講義を春学期と秋学期の年2回開講する。内容は全く同じなのでどの学期に受講しても構わないが、この科目の発展科目である「中級簿記」は秋学期にしか開講しないので、連続して受講を希望する場合、「初級簿記」は春学期に履修することが望ましい。

科目名

女性のためのキャリアデザイン (Career Design for Women)

サブタイトル

女性の幸せな生き方を考える

担当教員

住吉 美紀

■講義目的

今は女性も一生仕事を持ち、働く時代です。男女共に生涯就職も減り、転職は普通のこと、また定年後の充実した生き方も問われます。そんな中、早いうちからキャリアデザインについて主体的に考える手法を学び、磨くをつけることは、社会人基礎力になるだけでなく、幸せを設計する上で一生役に立ちます。この講義では、講師自らの経験とネットワークを利用した最新線事例に触れながら、実践的知識獲得を目指す。一人一人が社会に出て仕事をしてみたいというクリエイティブな気持ちを育て、さらに、今後人生に迷ったときに、人生を舵取りしているノウハウや考え方を身につけるものです。

■講義分類

ビジネス環境理解、ビジネス創造、社会人育成、グローバルビジネス

■到達目標

キャリアはそれぞれが自分でデザインしていくことの出来るものであることを理解する。自らのキャリアをデザインしていける視点、考え方の基礎を身につける。主体的な物の見方の修得。

■講義形態

講義+GD・GR・PW、場合によってはゲストスピーカーを招いて話を聞く。

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

前回授業のノートを復習する、自分の場合はどうか考える時間を持つ

■講義の概要

<第 1 講>

概要：キャリアとは？キャリアデザインとは？

事前、事後学習ポイント：自分が現時点で「キャリア」というものについてどう思っているかを考えておく

<第 2 講>

概要：キャリアデザインで人生は変わるのか？

事前、事後学習ポイント：前回の復習。

<第 3 講>

概要：キャリアの選択肢について、どう調べ？

事前、事後学習ポイント：インタビュー、身の周りの人のキャリア、仕事について調べてみる。

<第 4 講>

概要：自分に合うキャリアとは、どんなものだろう？

事前、事後学習ポイント：自分についての資料集め、周りにインタビューしてみる、自己分析

<第 5 講>

概要：自分に合うキャリアとは、どんなものだろう？

事前、事後学習ポイント：自分に合うキャリアについてさらに検討してみる、検討方法を探る、周りの人のキャリアについて取材

<第 6 講>

概要：キャリアは途中で変更できるのか？

事前、事後学習ポイント：気になる人物のキャリアルートを調べてみる、「適応障害」

<第 7 講>

概要：男女平等ってなんだろう？

事前、事後学習ポイント：男女平等等の定義についてそれぞれに事前に考えてみる。【差別】「区別」、「批評的意識」【フェミニズム】

<第 8 講>

概要：仕事VS結婚、出産、子育て・・・どう考える？

事前、事後学習ポイント：「ワーキングマザー」、「待機児童」

<第 9 講>

概要：ライフステージとキャリアの関係って？

事前、事後学習ポイント：【定年】【70歳まで現役】【90歳まで現役】【組織VSプライベート】・【自営業】

<第 10 講>

概要：男性から見た、女性のキャリアって？

事前、事後学習ポイント：【男女平等】、【男女協力】、【イクメン】

<第 11 講>

概要：海外の事情はどうなっている？

事前、事後学習ポイント：女性のキャリア先進国、日本の世界の中での状況

<第 12 講>

概要：自分に合ったキャリアデザインとは？

事前、事後学習ポイント：前回までの復習。生まれた疑問や、変わらず答えが出ないキー

ワードなどを挙げておく。

<第 13 講>

概要：キャリアデザイン、私の優先順位 1

事前、事後学習ポイント：プレゼンテーションの準備

<第 14 講>

概要：キャリアデザイン、私の優先順位 2

事前、事後学習ポイント：プレゼンテーションの準備

<第 15 講>

概要：キャリアデザインで、幸せな生き方をデザインできる？

事前、事後学習ポイント：前回までの復習など。

■教科書

なし

■指定図書

リチャード・ボウルズ著、古川奈々子訳『適職と出会うための最強実践ガイド 求人を見つけ方から自己分析まで』辰巳出版、2014年

ペル・フックス著、大須久恵監訳、柳沢圭子訳『アメリカ黒人女性とフェミニズム—ペル・フックスの「私は女ではないの？」—』世界人権問題叢書73』明石書店、2010年

ペル・フックス著、堀田碧訳『フェミニズムはみんなのもの—情熱の政治学（ウイメンズブックス（2-11））』新水社、2003年

ペル・フックス著、里見美訳、堀田碧訳、朴和美訳、吉原令子訳『とびこえよ、その思いを—自由の実践としてのフェミニズム教育』新水社、2006年

ペル・フックス著、清水久美訳『ブラック・フェミニストの主張—周縁から中心へ』勁草書房、1997年

南嶋智子『不格好経営—チームDeNAの挑戦』日本経済新聞出版社、2013年

笹本恒子『100歳の幸福論。ひとりで楽しく暮らす、5つの秘訣』講談社、2014年

ラリー・キング著、船名紀訳『CNNラリー・キングの話し上手のコツ』東急エージェンシー出版部、1995年

ジョン・サマービル著、林岳彦/立木勝訳『ニュースを見るとバカになる10の理由』PHP研究所、2001年

茂木健一郎&NHK『プロフェッショナル』制作班編『プロフェッショナル仕事の流儀 3』NHK出版、2006年

茂木健一郎&NHK『プロフェッショナル』制作班編『プロフェッショナル仕事の流儀 5』NHK出版、2006年

茂木健一郎&NHK『プロフェッショナル』制作班編『プロフェッショナル仕事の流儀 6』NHK出版、2006年

茂木健一郎&NHK『プロフェッショナル』制作班編『プロフェッショナル仕事の流儀 12』NHK出版、2007年

茂木健一郎&NHK『プロフェッショナル』制作班編『プロフェッショナル仕事の流儀 15』NHK出版、2007年

茂木健一郎&NHK『プロフェッショナル』制作班編『プロフェッショナル仕事の流儀—あえて、困難な道を行け』NHK出版、2008年

茂木健一郎&NHK『プロフェッショナル』制作班編『プロフェッショナル仕事の流儀—失敗の救済は、人生は楽しい』NHK出版、2008年

リド・ホフマン著、ベン・カスノーラ著、有賀裕子訳『スタートアップ! シリコンバレー成功する自己実現の秘訣』日経BP社、2012年

前川裕明『僕は、だれの真似もしない』アスコム、2012年

住吉美紀『自分へのごほう』幻冬舎

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席25%、エッセイや授業内外のミニレポート55%、プレゼンテーション15%、クラスやグループディスカッション等への参加度・発言度5%

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 授業内容について十分理解し、それらを関連づけて、自分の考えをトラスし、的確に、さらに創造的に、その内容を表現し、伝えることが出来る。

評価A (89~80点) : A+までは到達しないが、個々のテーマに付いて十分理解し、的確に内容を伝えることが出来る。

評価B (79~70点) : 内容把握は的確だが、その内容を十分に伝えるまでは到達していない。

評価C (69~60点) : 学んだ内容について、十分には理解できていない。

評価F (59点以下) : 著しく理解が不十分である。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名

数字力で語る (How Basic Mathematics apply to the World)

サブタイトル

担当教員

深沢 真太郎

■講義目的

数字で語れないビジネスパーソンがなぜこもも多いのか。
理由はいったてサンプル。
ビジネスで使う数的思考が何かを指導する場がないからだ。
「学校数学は苦手だったから私は数字に弱い」と自動的に認識してしまうビジネスマンが多いことも問題であろう。
この科目は、受験や就職活動に通るための数学的知識ではなく、社会で生きていくために必要な数的思考とは何かを基礎から学ぶものである。

■講義分類

社会人育成

■到達目標

- (1) 四則演算の意味や操作術など根本から理解し、数字＝ビジネスでの言語と捉える
- (2) 良いのか悪いのか、高いのか安いのか、数的根拠をもって評価できる
- (3) 数字やグラフを用いて、説得力ある説明ができる
- (4) 就職活動時に受験するSPI試験対策の基礎を終える

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる具体的な学習内容

前回講義の復習

■講義の概要

<第 1 講>

概要：レクチャーフェーズ：四則演算、分数、小数の扱い
事前、事後学習ポイント：四則演算、分数、小数の計算

<第 2 講>

概要：レクチャーフェーズ：割合を自在に操る
事前、事後学習ポイント：割合、食塩水の濃度、%（百分率）

<第 3 講>

概要：レクチャーフェーズ：お金の計算（損益算、清算、分割払い等）
事前、事後学習ポイント：定価・原価・利益・割引・清算

<第 4 講>

概要：レクチャーフェーズ：場合の数、順列、組み合わせ
事前、事後学習ポイント：場合の数、順列、組み合わせ

<第 5 講>

概要：レクチャーフェーズ：3種類の確率、期待値
事前、事後学習ポイント：確率、期待値

<第 6 講>

概要：レクチャーフェーズ：集合、推論
事前、事後学習ポイント：集合、推論、命題、対偶

<第 7 講>

概要：レクチャーフェーズ：単位変換、速さ、仕事算
事前、事後学習ポイント：速さ、距離、時間、出会い算、流水算、仕事算

<第 8 講>

概要：レクチャーフェーズ：平均値、その他統計指標の意味
事前、事後学習ポイント：平均値、移動平均、加重平均、中央値、標準偏差

<第 9 講>

概要：レクチャーフェーズ：グラフの活用
事前、事後学習ポイント：円グラフ、折れ線グラフ、棒グラフ、散布図

<第 10 講>

概要：演習フェーズ：フェルミ推定・データ分析基礎
事前、事後学習ポイント：フェルミ推定

<第 11 講>

概要：演習フェーズ：グラフ・単位変換の活用によるプレゼンテーション術
事前、事後学習ポイント：単位変換、〇〇あたり

<第 12 講>

概要：演習フェーズ：数字を情報に変える（割合・指数の活用）
事前、事後学習ポイント：割合、指数

<第 13 講>

概要：演習フェーズ：SPI試験対策
事前、事後学習ポイント：レクチャーフェーズすべての講義内容

<第 14 講>

概要：演習フェーズ：総合演習

事前、事後学習ポイント：演習フェーズの講義内容を復習
<第 15 講>
概要：期末試験（講義内で実施）
事前、事後学習ポイント：すべての講義内容を復習

■教科書

なし

■指定図書

『「仕事」に使える数学』（ダイヤモンド社）
『こまったら、「数学的」に考えよう。』（ずばる舎）
『たった9時間でSPIの基礎が身につく!!』（一ツ橋書店）
『数字女子智香が教える 仕事で数字を使うってこういうことです。』（日本実業出版社）
『数字を使えば9割伝わる!』（秀和システム）
『数字女子智香が教える こうやって数字を使えば、仕事はもっとうまくいきます。』（日本実業出版社）
『営業マンにホントに必要な「数字」の話をします。』（U-CAN・自由国民社）

※すべて、深沢真太郎 著

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

期末試験 50%
レポート 30%
出席 20%

■評価基準

評価A+（90点以上）：90点以上
評価A（89～80点）：89～80点
評価B（79～70点）：79～70点
評価C（69～60点）：69～60点
評価F（59点以下）：59点以下

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

指定の教科書はない。
毎回オリジナルのレジュメを配布して講義は進行し、模範解答のようなものも配布しない。
したがい、毎回出席し講義内容を聞いておかないと、期末試験やレポートはまったく答えられないので注意すること。
きちんと出席し、その日の講師のメッセージをしっかりインプットすることが極めて重要な講義である。

科目名 スポーツI・II(Sports I・II)**サブタイトル** 2015年度種目として、ウエアキング、ボディワークシェイプアップフィットネスフットサルバドミントンゴルフなどの開講を予定しています。詳しくは、T-NEXTを通じて、サイト閲覧の形で通知します。**担当教員** 梅澤、大澤、杉田(文)、福角**■講義目的**

スポーツは文化です。スポーツをたしなむこと、スポーツを知ること、自分や社会を健康にし、また幸福にするのに有益なことです。スポーツが幸福につながるのだと仮定するならば、それは、人を幸せにするビジネスともつながることでしょう。そこで、多摩大学では、以下のような目的で、「スポーツ」を設置し、学生諸君の履修を促しています。

(1) 自分の体を知り、自ら「育てる」「つくる」「維持する」ことができる知識や能力を身につけること。

(2) 生涯にわたってスポーツ文化を楽しむ能力(「する」だけでなく、「みる」「よむ」などの楽しみかたもあります)を身につけること。

(3) スポーツ文化を通じて、仕事生活、家庭生活、その他余暇生活など、人生全体を豊かにしていくための資質を、授業内外のさまざまな体験を通じて獲得していくこと。

(4) スポーツの価値についての知見を深めること

多摩大学は、ビジネスパーソンを育てる大学ですが、「スポーツ」も、よき社会人、よき市民として生きていくための最も基本的な要素を形成するものとして、位置づけられています。授業として、種目設定はもちろんありますが、その種目が上達すればよい、ということではありません。この授業プログラムを通じて、上の(1)~(4)のような目的が達成されることにこそ重要であることを理解してもらいたいと願っています。

また、スポーツは、現代社会における、重要なビジネスコンテンツのひとつにもなっています。その意味でも、スポーツへの知見を深めておくことは有益であると考えます。

詳細は、学生諸君に与えられた本学IDアカウントからのログインにより閲覧できるGoogleSiteに掲載し、その閲覧方法についてT-NEXTによって通知するので、それ

に従ってください。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

「講義目的」に記載されている目的に即した、個々人の発展が見られることが、講義としての目標であり、学生一人一人の状況に応じた課題を達成することが個人の到達目標となる。

■講義形態

講義、実技、GW

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

スポーツのプレイヤーとしてのスキル開発もさることながら、スポーツの意義や社会的な存在価値について理解することが重要なので、スポーツに関する文献や、報道、その他の情報を十分に蒐集し、理解し、個人の資質向上に結び付ける学習内容を想起しておいてもらいたい

■講義の概要

<第1講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。(以下同様)。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。(以下同様)

<第2講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第3講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第4講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第5講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第6講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第7講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第8講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第9講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第10講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第11講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第12講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第13講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第14講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

<第15講>

概要：講義概要については、個々のクラスの教員の指示に従ってください。事前、事後学習ポイント：各クラスの担当教員の指示等に従ってください。

■教科書

必要に応じて指示する

■指定図書

特に指定はしないが、必要があれば講義内で担当教員より指示される。

■参考文献・参考URL / Reference List

必要に応じて講義内で指示する

■評価方法

以下による総合評価とする。

(1) 授業へのコミットの深度、参加態度

(2) 講義目的である

- ①スキルの修得
- ②知識の修得
- ③自分や他者に資する①②のマネジメント能力を修得した度合いを評価します。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：技能の開発が十分行われたと同時に、その社会的意義や、有効性について深く理解し、将来自分のキャリアやレジャーライフを通じてこれを十分生かすことができるまでになったと認められること。

評価A (89~80点)：技能の開発が十分行われたと同時に、その社会的意義や、有効性について深く理解したと認められること。

評価B (79~70点)：技能や知識、態度の形成が行われ、今後の取り組みによってこれが人生にわたって活かされる資質が形成されたと認められること

評価C (69~60点)：講義における種目やスポーツについての体験をし、一定の経験値とこれに対する自己理解、態度形成が行われたと認められること。

評価F (59点以下)：「スポーツ」の講義目的に沿った活動ができなかったとみられる場合、F評価とします。

■履修していることが望ましい科目

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ① 高校までの「体育」とコンセプトが異なることに留意して履修してもらいたい。
- ② 各講義において、指示が異なるので、これによく留意して受講してもらいたい。
- ③ 原則として、受講希望者は、学期の第1講の日時に、指定された教室に集合しなければならぬ。(T-NEXTにて指示する)

科目名 スポーツと健康(Sports and Health)

サブタイトル

担当教員 梅澤 佳子

■講義目的

運動やスポーツを日常生活の中で習慣化し健康を維持・向上させていくことは、学生の皆さんが社会に貢献していくために、皆さん自身の人生を豊かに過ごすためにも重要なことです。

また、社会全体としても、あらゆる世代の人々が、身体も心も社会的にも健康で、それぞれの人生を十分に生きることが重要です。

講義では、安全に、効果的に、楽しく運動やスポーツを実施するために必要な基本的知識を学ぶこと、社会的な視点からスポーツや健康についての幅広い知識を学ぶことを目的としています。

■講義分類

社会人基礎力育成

■到達目標

1. 日常生活を健康で快適に過ごすための健康管理方法、運動、スポーツとの関わり方を理解すること。生活習慣病に対する運動の効果、運動処方の実践について理解する。
2. 運動、スポーツ、レジャー、レクリエーションの享受能力を高める。
3. 健康、運動、スポーツに関する課題を解決する能力を身につけること。

■講義形態

講義

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

事前事後の学習ポイントを参考に、指定図書で事前事後の学習を行って下さい。

■講義の概要

<第1講>

概要：ガイダンス

授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、評価基準、講義内容について説明します。シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準等について確認しておいて下さい。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：特にありません。

<第2講>

概要：健康について考える

1. 人は誰しも「健康でありたい」と願うものです。「健康である」とは、どのような状態なのでしょう。【健康】の条件はあるのでしょうか。国際的な健康の定義、日本における健康のとらえ方について学びます。

2. 健康産業とは何か。健康産業の現状と今後の課題、方向性について学びます。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：WHO健康の定義、健康の条件、健康産業

<第3講>

概要：現代社会における健康、スポーツの現状と課題

現代社会における健康、スポーツの現状と課題について学びます。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：健康長寿、高齢化社会、子どもたちの健康課題、生活習慣病

<第4講>

概要：子どもの健康、スポーツの課題

生活環境の変化に伴い、子どもたちは自由な外遊びができない状況にあり、年々運動能力の低下が問題となっています。子どもたちの健康、スポーツの現状と課題を取り上げ、どのような取り組みが必要か、望ましいか考えます。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：バーンアウト、子どもたちのスポーツ障害

<第5講>

概要：思春期・青年期の健康、スポーツの課題と解決策

思春期・青年期は、身体が完成する極めて重要な時期です。また同時に外部からのさまざまな情報に影響を受けやすい時期でもあります。この時期における課題を取り上げ、どのような取り組みが必要か、望ましいか考えます。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：モラトリアム、ドラッグ・アルコール・タバコの与える身体的影響

<第6講>

概要：中年期・壮年期の健康、スポーツの課題と解決策

健康長寿を目指して、中年期・壮年期における運動やスポーツとの関わりを学びます。また、関係するスポーツ、健康産業やその役割についても学びます。

運動の種類と生理的変化、運動と肥満、運動と糖尿病、運動と脂質代謝、運動と高血圧、運動と骨粗鬆症について学習します。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：生活習慣病、内臓脂肪型肥満、皮下

脂肪型肥満、リバンド、2型糖尿病、インスリン、脂質代謝異常、トリグリセリド(中性脂肪)、HDLコレステロール、LDLコレステロール、高血圧症

<第7講>

概要：老年期の健康、スポーツの課題と解決策

皆さんの家族、地域社会で実践できる健康長寿のための運動と食事、ライフスタイルについて学びます。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：老化、骨粗鬆症、認知症、脳梗塞

<第8講>

概要：食の重要性について

食品の栄養素、栄養素の働きと運動、糖質と脂質の利用、グリコーゲンの補給、タンパク質の働きについて学習します。

また、何を、いつ、どのように食べるのが重要か。それぞれの目的にあった食のタイミングについて学びます。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、必須アミノ酸、グリコーゲン、中性脂肪、GULT4、基礎代謝、食事パランスガイド(厚生労働省)、など

<第9講>

概要：トレーニングの理論

トレーニングとは、トレーニングの原理・原則、全身持久力のトレーニング、筋力のトレーニング、スキルのトレーニング、ウォームアップとクールダウン、トレーニングと休息について学習します。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：筋力、筋パワー、筋持久力、ウォームアップ、クーリングダウン、超回復の法則、積極的休息、メンタルトレーニング、健康づくりのための運動指針(厚生労働省)

<第10講>

概要：スポーツとは何か①

スポーツの本来の意味、文化としてのスポーツについて学びます。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：フェアプレー、スポーツマンシップ

<第11講>

概要：スポーツとは何か②

現代社会におけるスポーツの意味と役割、スポーツの価値、科学技術の進歩や情報技術がスポーツに与えた影響について学びます。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：特にありません。

<第12講>

概要：社会的からだについて

科学的な根拠に基づかない、社会的なからだというのも私たちの健康に大きな影響を与えています。その意味について学習します。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：特にありません。

<第13講>

概要：まとめ

次週の試験に向けて、授業のまとめを行います。配布した資料をすべて持参してください。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：特にありません。

<第14講>

概要：<第14講>授業内テスト

第2講から第13講までに学習した内容の理解度を確認する授業内テストを実施します。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語： これまでに学習した内容をすべてを把握しておく下さい。

<第15講>

概要：全体のまとめ

授業内テストの解答と解説を行います。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：特にありません。

■教科書

ありません。

■指定図書

1. 広瀬一郎『スポーツマンシップを考える』小学館、2005年
2. 山口幸雄『スポーツ・ボランティアへの招待』世界思想社、2004年
3. 松田義幸『スポーツ産業論』大修館書店、1996年
4. 井上俊『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房、2012年
5. J. ビーバー『余暇と祝祭』講談社学術文庫、1988年
6. 吉田良彦『ライフスタイルフィットネス-自立のためのスポーツ教育』岩波ジュニア新書、2013年
7. スーザン・スミス・ジョーンズ『フィットネス・バイブル』日本教文社、1993年

8. 宮下充正『スポーツインテリジェンス』大修館、1996年
9. 宮下充正『健康寿命を延ばす運動の科学 - 筋肉を鍛えて健やかに生きる』明和出版、2014年
10. 宮下充正『子どものときの運動が一生の身体をつくる』明和出版、2010年
11. 寒川恒夫『教養としてのスポーツ人類学』大修館書店、2004年
12. 金子明友『スポーツ運動学』明和出版2009年
13. 白木 仁『白木式コアトレ』学研、2011年
14. 辻 秀一『痛快! みんなのスポーツ学』集英社、2001年
15. 杉原 隆『生涯スポーツの心理学 - 生涯発達の視点から見たスポーツの世界』福村出版、2011年
16. アラン・トムリンソン『スポーツの世界地図』丸善出版、2012年

■参考文献・参考URL / Reference List

1. 日本応用心理学会編『応用心理学事典』丸善、2007年
2. 稲垣正浩他『近代スポーツのミッションは終わったか』平凡社、2009年

■評価方法

出席状況(態度・取組状況を含む)が30%、第14講で実施する授業内テストが70%を基本としつつ、事前学習への取組状況などの積極性をプラスに評価します。

相対評価: 学内の基準に基づいた相対評価方法にて評価します。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 授業内容について十分に理解し、自分の考えもまとめて表現できている。また自らの考えにオリジナリティが発揮されている。

評価A (89~80点) : 授業の内容について十分に理解し、自分の考えもまとめて表現できている。

評価B (79~70点) : 授業の内容について理解しているが、その内容の表現が不十分である。

評価C (69~60点) : 学んだ内容について理解していない。

評価F (59点以下) : 著しく理解が不十分である。

■履修していることが望ましい科目

特にありません。

■卒業年次生対象再試験の実施

卒業年次生については、再試験を実施します。

■留意点

出席は、評価のための前提条件とします。講義終了時に提出する小レポートによる出席状況および小レポートの記載内容による取組状況の評価が含まれます。

科目名 世界の宗教 (Religions of the world)

サブタイトル 宗教の知識をビジネスにつなげよう

担当教員 石田 友梨

■講義目的

宗教とビジネスの関係について知ることが目的です。宗教には悪い印象をもっている人が多くあってもいいかもしれません。しかし、宗教的知識は、ビジネスに必要な政治経済、歴史、文化などの理解に役立ちます。宗教的知識がビジネスにいかにかけるかの。講師の貿易業務経験や海外生活経験と一緒に紹介していきます。

■講義分類

グローバルビジネス
社会人力育成

■到達目標

世界三大宗教についての基本的知識を習得すること。また、その知識を活かしたビジネスを考案すること。

■講義形態

講義

■準備学習（予習・復習）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

復習用の考察課題と予習用の参考文献を記載したプリントを配布しますので、プリントの指示に従って準備学習を行ってください。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：導入

事前、事後学習ポイント：世界にはどのような宗教があるか調べてみましょう。また、宗教や文化の違いをうまく利用したビジネスがないか探してみましょう。高校で世界史や論理を履修した人は、宗教に関連した部分を読み直してきましょう。

<第 2 講>

概要：イスラーム教①

事前、事後学習ポイント：イスラーム教はいつ、どこで、誰によって始まった宗教なのか確認しましょう。イスラーム教徒は、どこに住み、どのような信仰をもってきたのか、まとめてみましょう。

<第 3 講>

概要：イスラーム教②

事前、事後学習ポイント：イスラーム教徒の文化の多様性を、地域ごとにまとめてみましょう。

<第 4 講>

概要：イスラーム教③

事前、事後学習ポイント：イスラーム教徒に関するニュースを調べてみましょう。彼らが直面している問題は何か、どうすれば解決できるのかを、自分なりに考えてみましょう。

<第 5 講>

概要：キリスト教①

事前、事後学習ポイント：キリスト教はいつ、どこで、誰によって始まった宗教なのか確認しましょう。キリスト教徒は、どこに住み、どのような信仰をもってきたのか、まとめてみましょう。

<第 6 講>

概要：キリスト教②

事前、事後学習ポイント：キリスト教は、ユダヤ教とイスラーム教とともに一神教と呼ばれています。これら三つの宗教の関係を整理し、多神教と呼ばれる宗教とは何が違うのかをまとめてみましょう。

<第 7 講>

概要：キリスト教③

事前、事後学習ポイント：西洋文化が生み出した芸術作品には、キリスト教のモチーフが隠れていることがあります。そのような芸術作品のいくつかを知り、自分でも探してみましょう。

<第 8 講>

概要：仏教①

事前、事後学習ポイント：仏教はいつ、どこで、誰によって始まった宗教なのか確認しましょう。仏教徒は、どこに住み、どのような信仰をもってきたのか、まとめてみましょう。

<第 9 講>

概要：仏教②

事前、事後学習ポイント：日本の仏教のたどってきた歴史を整理してみましょう。また、日本の仏教の各宗派の違いをまとめてみましょう。

<第 10 講>

概要：仏教③

事前、事後学習ポイント：日本以外に仏教徒が住んでいる国を探し、その国の仏教の歴史や、日本の仏教との違いについて調べてみましょう。

<第 11 講>

概要：インドにおける宗教①

事前、事後学習ポイント：仏教よりも信者の数が多いといわれているヒンドゥー教について、いつ、どこで、誰によって始まった宗教なのか確認しましょう。ヒンドゥー教徒は、どこに住み、どのような信仰をもってきたのか、まとめてみましょう。

<第 12 講>

概要：インドにおける宗教②

事前、事後学習ポイント：インドは多くの宗教が共存する国のひとつです。インドには、ヒンドゥー教のほかにもどのような宗教があり、それぞれどのような信仰をもち、いかに他の宗教と共存してきたのかを調べてみましょう。

<第 13 講>

概要：日本における宗教

事前、事後学習ポイント：日本にはどのような宗教があるのか調べてみましょう。また、自分の宗教は何でしょうか。なぜその宗教を信仰しているのでしょうか。自分には宗教がないとしたら、なぜでしょうか。考えてみましょう。

<第 14 講>

概要：そのほかの宗教

事前、事後学習ポイント：これまでの講義で取り上げられなかった宗教には何があるか調べてみましょう。信者の数が少ない宗教や、信者がいなくなってしまう宗教を探し、その宗教の歴史や文化についてまとめてみましょう。

<第 15 講>

概要：期末試験

事前、事後学習ポイント：①これまでの講義を復習し、世界三大宗教を中心とした宗教に関する基本的知識を身につけましょう。②自分の好きな宗教をひとつ選び、誰かに説明できるようにしましょう。③宗教に関連した現代社会の問題をひとつ挙げ、自分の意見を説明できるようにしましょう。④宗教の知識を活用して、何かビジネスを提案してみましょう。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

必要に応じて講義中に指示する

■評価方法

平常点（出席回数と受講態度）40%、期末試験60%

■評価基準

評価A+（90点以上）：宗教的知識を学ぼうとする積極性に優れ、宗教的知識の習得にも優れている。平常点40点かつ期末試験50点以上、合計90点以上。

評価A（89～80点）：宗教的知識を学ぼうとする積極性が、宗教的知識の習得に優れている。平常点40点あるいは期末試験50点以上で、合計89～80点。

評価B（79～70点）：宗教的知識を学ぼうとする積極性があり、宗教的知識の習得もできている。平常点と期末試験の点数の合計が79～70点。

評価C（69～60点）：宗教的知識を学ぼうとする積極性が、宗教的知識の習得に欠けている。平常点が24点以下あるいは期末試験が36点以下で、合計が69～60点。

評価F（59点以下）：宗教的知識を学ぼうとする積極性にも、宗教的知識の習得にも欠けている。一度も出席しなかった場合、あるいは期末試験を正当な理由なく受けなかった場合。

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

歴史や文化に興味がある方はもちろん、どうやって一般教養を身につければいいかわからずに困っている方や、海外とのビジネスがどのようなものか知りたい方も歓迎いたします。

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 多国籍企業 I (Multinational Corporations I)

サブタイトル

担当教員 飯田 健雄

■講義目的

準備学習（予習・復習等）に必要な時間に準じる程度の具体的な学修内容

■講義分類

■到達目標

前期は世界の代表的多国籍企業を学んでいく。特に、アメリカのICT企業に的を絞り、理解する。

■講義形態

講義

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学修内容

NHKをはじめとする民放各社の経済ニュースで日本企業や外国企業の動向を知っていただく。日本経済新聞を読んで、世界の企業の動向を知ろう。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：IT産業—ゲーム業界(SCE)

事前,事後学習ポイント：1980年代 1990年代 2000年代の人気があったゲーム機器をネット調べてみよう。講義後、ゲームソフト業界が日本で飛躍的に伸びた原因をネットで調べてみよう。

<第 2 講>

概要：ICT業界—シスコ・システムズ

事前,事後学習ポイント：図書館にはシリコンバレーで活躍した起業家の伝記が多く配架されているので、読んでみよう。ちなみに、シスコシステムはたった二人の学生が始めた企業だった。

<第 3 講>

概要：ICT業界—インテル

事前,事後学習ポイント：図書館にはインテル・インサイド・キャンペーンをネットで調べてみよう。講義後、インテルに関する本を読んでみよう。

<第 4 講>

概要：ICT業界—グーグル

事前,事後学習ポイント：グーグルのサービスをネットで調べてみよう。講義後、グーグルのビジネスモデルをもう一度考え、我々の日常生活や仕事にどのようにインパクトを与えているか考えてみよう。

<第 5 講>

概要：ICT業界—マイクロソフト

事前,事後学習ポイント：マイクロソフトのサービスをネットで調べてみよう。講義後、ワードやエクセル、パワーポイントが将来も市場に残るか考察の対象にしてみよう。

<第 6 講>

概要：ICT業界—アップル

事前,事後学習ポイント：アップルの歴史をネットで調べてみよう。講義後、アップルとソニーの競争について考察してみよう。

<第 7 講>

概要：IT業界—オラクル

事前,事後学習ポイント：データ・ベースの大手オラクルの事業をネットで調べてみよう。講義前、創業者のラリー・エリソンの人柄をネットで調べてみよう。

<第 8 講>

概要：ICT業界—デルコンピュータ

事前,事後学習ポイント：デルコンピュータのサイトに入ってみよう。講義後、デルのビジネスモデルとSCMの関係をネットで調べてみよう。

<第 9 講>

概要：世界のビール業界

事前,事後学習ポイント：ビールと発泡酒、第三のビールの違いをネットで調べてみよう。また、キネス、ハイネケン、パドワイザーの生産国も調べてみよう。講義後、若者のビール離れやキリンやサントリーの近未来戦略を考えてみよう。

<第 10 講>

概要：日本の商社活動

事前,事後学習ポイント：伊藤忠、丸紅、住友商事、三菱商事等の事業展開をネットで調べてみよう。商社復活の原因を資源開発やインフラ設備の観点で考察してみよう。

<第 11 講>

概要：世界のアパレル業界

事前,事後学習ポイント：SPAとは何かネットで調べてみよう。講義後、ナイキやギャップとの競合関係もみてみよう。

<第 12 講>

概要：世界の小売業界

事前,事後学習ポイント：ウォルマートを検索してみよう。講義後、中国経済とウォルマートというマクロな視点で小売業の世界を考察してみよう。

<第 13 講>

概要：世界の鉄鋼業界

事前,事後学習ポイント：新日本製鐵を検索してみよう。講義後、製鉄業は日本にとってオールドビジネスかどうか考察の対象にしてみよう。

<第 14 講>

概要：ウォルト・ディズニー

事前,事後学習ポイント：ディズニーの映画をみてみよう。アメリカの文化を感じ取ってみよう。

<第 15 講>

概要：まとめ

事前,事後学習ポイント：試験に備えて、配布されたコピーをチェックしよう。講義後、理解できない部分があったら積極的に先生に質問しよう。

■教科書

■指定図書

飯田健雄「これならわかる国際経営入門」中央経済社。

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

試験（70%）出席（30%） 試験では書いた分量だけでなく、問題を満たしたその正確さと質を問う。

■評価基準

評価A+（90点以上）：出席は15回中、ほとんど講義にでている学生。試験は5問中、すべてに解答し、90点以上を取得すること。

評価A（89～80点）：出席は、15回中、ほとんど講義に出ている学生。試験は5問中、すべてに解答し、80点以上を取得すること。

評価B（79～70点）：出席は、15回中、10回以上講義に出ている学生。試験は5問中、4問すべてに解答し、70点以上を取得すること。

評価C（69～60点）：出席は15回中、7回以上講義に出ている学生。試験は5問中、3問すべてに解答し、50点以上を取得すること。

評価F（59点以下）：出席が15回中、5回以下、および、試験は5問中、3問以下で50点以下の水準にあること。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名 多国籍企業Ⅱ(Multinational Corporations Ⅱ)

サブタイトル

担当教員 飯田 健雄

■講義目的

後期は多国籍企業の中でインフラ産業に特化している企業を学んでいきます。

■講義分類

■到達目標

21世紀の先進諸国は、B to CからB to Bの戦略展開を積極的に進めています。その事業形態の理解を深めましょう。

■講義形態

講義

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

NHKの経済ニュースを見よう。また、日本経済新聞を毎日、読む習慣をつけよう。隔週ごとの項目に関して、指定教科書を事前に読み、講義後、板書された項目を理解している。

■講義の概要

<第1講>

概要：ODA型のインフラ輸出について

事前,事後学習ポイント：ODAとは何かネットで調べてみよう。

<第2講>

概要：プロジェクト・ファイナンスについて

事前,事後学習ポイント：プロジェクト・ファイナンスをネットで調べてみよう。

<第3講>

概要：重厚長大産業の復活

事前,事後学習ポイント：軽薄短小・重厚長大の用語をネットで検索してみよう。

<第4講>

概要：第三セクターと民営化の違い

事前,事後学習ポイント：第三セクターとPFIをネットで調べてみよう。

<第5講>

概要：先進国のインフラ・プロジェクト

事前,事後学習ポイント：アメリカのインフラ老朽化の問題をネットで調べてみよう。

<第6講>

概要：インフラ政策とインフラ管理

事前,事後学習ポイント：中国のアフリカにおけるインフラ政策とその問題をネットで調べてみよう。

<第7講>

概要：随意契約と一般競争入札

事前,事後学習ポイント：入札・応札・落札の違いをネットで調べてみよう。

<第8講>

概要：レントシーキングの問題

事前,事後学習ポイント：公共事業に関する収賄罪とは何かネットで調べてみよう。

<第9講>

概要：世界のウォータービジネス

事前,事後学習ポイント：ウォーター・ビジネスとはなにか、ネットで調べてみよう。

<第10講>

概要：パーチャル・ウォーター

事前,事後学習ポイント：パーチャル・ウォーターについてネットで調べてみよう。

<第11講>

概要：商社の変容

事前,事後学習ポイント：総合商社とはなにか、ネットで調べてみよう。

<第12講>

概要：PPPについて

事前,事後学習ポイント：PPPをネットで調べてみよう。

<第13講>

概要：イギリスの教訓

事前,事後学習ポイント：1980年代のイギリス首相だったマーガレット・サッチャーの民営化政策をネットで調べてみよう。

<第14講>

概要：ケーススタディ

事前,事後学習ポイント：日本の歴代新幹線の写真と発展形態をネットで調べてみよう。

<第15講>

概要：まとめ

事前,事後学習ポイント：試験に備えて、配布されたコピーをチェックしよう。講義後、

理解できない部分があったら積極的に先生に質問しよう。

■教科書

飯田健雄「これならわかる国際経営入門」中央経済社。

■指定図書

飯田健雄「夢づくり国家 日本」中央経済社。

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

試験(70%) 出席(30%) 試験では書いた分量だけではなく、問題を満たしたその正確さと質を問う。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：出席は15回中、ほとんど講義にでている学生。試験は5問中、すべてに解答し、90点以上を取得すること。

評価A (89~80点)：出席は、15回中、ほとんど講義に出ている学生。試験は5問中、すべてに解答し、80点以上を取得すること。

評価B (79~70点)：出席は、15回中、10回以上講義に出ている学生。試験は5問中、4問すべてに解答し、70点以上を取得すること。

評価C (69~60点)：出席は15回中、7回以上講義に出ている学生。試験は5問中、3問すべてに解答し、50点以上を取得すること。

評価F (59点以下)：出席が15回中、5回以下、および、試験は5問中、3問以下で50点以下の水準にあること。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名 多摩学I(Tama Study I)

サブタイトル 「多摩」地域の歴史の変遷と特性を知る

担当教員 奥山 雅之

■講義目的

地域の特性を把握するには、その歴史的な経緯を知ることが不可欠である。また、歴史を探究することは将来を見通すための鍵になりうるであろう。国際化が重視されている昨今であるが、自らのよりどころを明確にしなければ、国際的な対応はむしろ困難であり、問題発見やその解決のための手がかりを得ることはできない。ここでは、まず地域を学ぶことの意味を明らかにした上で、多摩地域の歴史を辿ることにより、地域に根ざした特性、あるいは地域ビジネスの可能性を考えてみたい。

■講義分類

地域ビジネス グローバルビジネス 社会人育成

■到達目標

- (1) 多摩地域に対する理解を深め、地域的特性と密着した産業社会の実情を探究する。
- (2) 現代を考える上で、歴史的考察が重要であることを認識する。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎回の授業前に、取り上げる時代についてあらかじめ学んでおく。また、復習を重視し、授業内で示されたキーワードについて理解を深めておく。

■講義の概要

<第1講>

概要：授業の方針と取り扱うテーマの紹介

事前、事後学習ポイント：多摩地域に対して関心を向ける。

<第2講>

概要：地形から見た「多摩」—自然環境—

事前、事後学習ポイント：日本・関東地方・東京都・多摩地域の地図を確認し、地形を把握しておく。

<第3講>

概要：発掘された「多摩」

事前、事後学習ポイント：これまでの授業内容を振り返り、多摩地域の歴史的な流れを把握しておく。

<第4講>

概要：多摩地域における「見学施設」

事前、事後学習ポイント：前回の授業内容を復習・整理しておく。また、実際に見学する予定の施設について検討する。

<第5講>

概要：中世における「東国」

事前、事後学習ポイント：奈良時代から室町時代までの日本の歴史を概観しておく。

<第6講>

概要：政治都市江戸の成立と現代の「東京」

事前、事後学習ポイント：奈良時代から室町時代までの日本の歴史を概観しておく。

<第7講>

概要：多摩地域の施設見学レポートの作成

事前、事後学習ポイント：第4講で検討した施設を実際に見学してくる。

<第8講>

概要：江戸時代の地域文化と産業

事前、事後学習ポイント：江戸時代から幕末にいたる政治情勢を段階的に把握しておく。

<第9講>

概要：幕末期における多摩地域の位置づけの変化

事前、事後学習ポイント：幕末期の政治情勢を段階的に確認しておく。

<第10講>

概要：前近代における多摩

事前、事後学習ポイント：これまでの授業内容を振り返り、まとめておく。

<第11講>

概要：近代～現代の「多摩」

事前、事後学習ポイント：近代以降の政治過程を確認しておく。

<第12講>

概要：自由民権運動と多摩地域

事前、事後学習ポイント：自由民権運動とはどのようなものであったかを把握しておく。

<第13講>

概要：戦前における多摩地域の産業

事前、事後学習ポイント：大正期から戦前までの政治過程を確認しておく。

<第14講>

概要：戦後復興と多摩の位置づけ

事前、事後学習ポイント：前回の授業内容を復習し、多摩の位置づけを把握する。

<第15講>

概要：多摩地域の特色—一まとめ—

事前、事後学習ポイント：14回の授業を振り返り、内容をまとめておく。

■教科書

とくに指定しないが、事前学習、および復習のために、高校の日本史教科書、あるいは下記の指定図書のうちいずれかを手許においておくことが望ましい。

■指定図書

『多摩・武蔵野検定 公式テキスト』(ダイヤモンド社)

その他、授業内で適宜指示する

■参考文献・参考URL / Reference List

授業内で適宜指示する。

■評価方法

平常点60%(出席15%、授業内で求める簡単なレポート45%)、見学記録10%、中間試験10%、最終レポート20%を原則とする。ただし受講者数によっては、最終レポートは授業内試験とする場合がある。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：授業の趣旨と内容を十分に理解し、自分の意見を持てるようになった。

評価A (89～80点)：授業の趣旨と内容を、基本的に理解し、自分の意見を持てるようになった。

評価B (79～70点)：授業の趣旨と内容を、一応理解できた。

評価C (69～60点)：不十分なところはあるが、授業のポイントは一応理解できた。

評価F (59点以下)：授業の趣旨、内容ともに理解できていない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

人数制限があるので、履修希望者は初回に必ず出席すること。選抜方法は別途周知する。また、日程の調整がつけば、一度外部講師による講義を入れる予定。

科目名 多摩学Ⅱ(Tama Study II)

サブタイトル ～多摩を学ぶ。多摩から学ぶ。～

担当教員 大森 映子

■講義目的

各地域には、各地域なりの「力」があります。その力の源泉は、地域に生きる人々の共通の記憶を構造的に育んでいることです。多摩地域にあるこの大学で、私たちが一緒に学んで共通の体験から何かを得ようとしているのも、場所の「力」によるものと考えても良いのではないのでしょうか。

私たちの大学が立地している多摩地域にも、地域なりの「力」があります。その「力」と可能性について考えることが、この地域の活性化と発展につながります。

「多摩学」とは、多摩の来歴を探り、多摩の現代について考え、多摩という視点から未来を構想する学問です。多摩川と相模川に挟まれた地域を広義の「多摩」として、その地歴を探り、この地域の特徴と可能性を多角的・学際的に探求していきます。

本講義では、主に多摩地域を様々な産業の面からみていくことで、多摩地域が持つ「力」について考えていきます。講義では豊富な最新事例を交えながら、それぞれの産業について分けて説明しますが、それを束ねて、多摩の産業社会の全体像を描きながら、地域の課題を導き出すことをねらいとしています。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネス創造/社会力育成/地域ビジネス

■到達目標

本講義のゴール(目標)は、次の3つとします。

- (1) 自分なりの「多摩地域」の全体的なイメージを持ち、自分の言葉でその特徴と可能性を説明できること。
- (2) 他の地域と比べた特徴や優位点を自分なりに見つけ出すこと。
- (3) 多摩地域を自分なりに説明することにより、プレゼンテーション能力を高めること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義にあたって多摩地域の地理について基礎的な知識を習得するための予習が必要である。講義内のレポートに加えて、課題レポートを複数回課することを予定しているため、レポートを作成して提出することが求められる。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：オリエンテーション：なぜ「多摩」を学ぶのか

事前,事後学習ポイント：多摩という言葉の由来

<第 2 講>

概要：多摩の鉄道業：多摩の鉄道業から多摩地域の歴史を見る

事前,事後学習ポイント：玉川上水、甲武鉄道

<第 3 講>

概要：多摩の宅地開発：住宅地としての多摩とその歩み

事前,事後学習ポイント：団地、ニュータウン、高齢化

<第 4 講>

概要：多摩の商業：商業集積地としての多摩とその課題

事前,事後学習ポイント：商店街、大規模小売店

<第 5 講>

概要：多摩の織物業：多摩の織物業から、多摩の産業発展の礎を知る

事前,事後学習ポイント：ジャカード、絹の道

<第 6 講>

概要：多摩の機械工業：車庫工場の立地から大規模工場の進出まで

事前,事後学習ポイント：中島飛行機、日野本社

<第 7 講>

概要：産業立地の理論と実際：半導体、電子デバイスなど多くの先端技術に関わる多摩

事前,事後学習ポイント：輸送費、労務費、産業集積、産業クラスター

<第 8 講>

概要：多摩の先端産業：半導体、電子デバイスなど多くの先端技術に関わる多摩

事前,事後学習ポイント：製品開発型中小企業、オンリーワン企業

<第 9 講>

概要：多摩の金融業：地域金融のあり方を考える

事前,事後学習ポイント：信用金庫、信用組合

<第 10 講>

概要：多摩の観光：地域独自の観光資源による賑わいの創出

事前,事後学習ポイント：地域資源、産業観光、ニューツーリズム、着地型観光

<第 11 講>

概要：多摩の農業：都市農業の担い手を考察する

事前,事後学習ポイント：都市農業、6次産業化

<第 12 講>

概要：多摩の林業・水産業：豊かな自然が生み出す産業について考える

事前,事後学習ポイント：多摩産材、アユ・ヤマメ

<第 13 講>

概要：多摩のNPO・社会的事業：地域課題を解決するビジネスについて知る

事前,事後学習ポイント：NPO、ソーシャルビジネス、社会起業家

<第 14 講>

概要：多摩地域の課題整理

事前,事後学習ポイント：高齢化、人口減少、ものづくり産業、中小企業、雇用

<第 15 講>

概要：まとめ、振り返り

事前,事後学習ポイント：一年間の講義を振り返り、自分なりに「多摩の将来」を構想して講義に臨む

■教科書

特にありません。レジュメを配布します。必要があれば適宜指示します。

■指定図書

東京経済大学多摩学研究会編「多摩学のすすめⅠ」けやき出版、1991年11月。

■参考文献・参考URL / Reference List

社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩『タマケン。 知のミュージアム 多摩・武蔵野検定公式テキスト』ダイヤモンド社、2008年4月。

■評価方法

出席(講義内レポート含む)40%、課題(レポート等)60%。

ただし、講義に際して教員の指示に従わない等问题があった者は、減点あるいは単位を付与しないものとする。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：「多摩地域」の全体的なイメージを的確に捉え、地域を様々な視野から考察し、特徴を抽出することに関する高い能力を獲得した。多摩地域を的確に説明できる程度の講義内容の理解とプレゼンテーション能力を獲得した。

評価A (89～80点)：「多摩地域」の全体的なイメージを捉え、地域を様々な視野から考察し、特徴を抽出することができる。多摩地域を説明できる程度の講義内容の理解とプレゼンテーション能力を獲得した。

評価B (79～70点)：「多摩地域」の全体的なイメージをある程度は捉え、地域を考察して特徴をいくつかみつけることができる。多摩地域の概要は説明できる程度の講義内容の理解とプレゼンテーション能力を獲得した。

評価C (69～60点)：「多摩地域」の全体的なイメージを不十分ではあるが捉え、特徴をいくつかみつけることができる。不十分ではあるが、ある程度の講義内容の理解とプレゼンテーション能力を獲得した。

評価F (59点以下)：「多摩地域」の全体的なイメージの捕捉および地域の考察ができていない。講義の内容を理解していない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

【重要】受講希望者が200名を超える可能性がありますので、履修制限(200名)を設けます。履修するためには、必ず初回の講義に出席し、初回の講義内レポートを提出する必要があります。受講希望者(初回受講者)が200名を超えた場合には、講義内レポートによって履修可能者(履修登録をすれば履修できる者)を決定します。

【重要】双方向授業を実施するため、パソコンを毎回持参してください。

科目名 地域観光論 (Regional Tourism Theory)

サブタイトル

担当教員 中庭 光彦

■講義目的

日本の社会経済を支える有力な産業に「観光産業」があります。温泉地、歴史ある都市、魅力ある景観、その土地ならではの名産品・・・様々な観光商品・観光サービスを企業や自治体が開発し、観光客、すなわち「移動する顧客」を相手にしたビジネスを伸ばしてきました。

昔は、大都市の旅行代理店と観光地の宿泊施設が協力して観光客を集めていました。今は、各観光地が魅力づくりを競った結果、海外からの観光客も増え、元気になる地域も出てきています。かつては、「観光業」と言えばどんな仕事か誰も想像できませんでしたが、今では様々な観光業が生まれ、「これ何観光業なの？」という仕事も生まれています。例えば、ネット通販の楽天はホテル予約ポータルサイト運営者として巨大な観光業者となっています。一方観光地の魅力をつくる「着地マーケティング」の力不足が日本の弱点となっています。

そこで、本講義前半では、これまでまったく産業や地域について考えたことがなかった主に2年生を対象に、観光産業の基本・現状を伝え、「移動する人間」が社会経済を変わる影響力や地域観光政策の考え方について学びます。後半では観光まちづくりに焦点を絞り、観光地をつくるマーケティングや政策の戦略について学びます。

■講義分類

地域ビジネス

■到達目標

観光による地域ビジネスの考え方を理解し、基本用語を使い現代の観光についてレポートをかけるようにする。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

事前にT-Nextにアップする講義資料とケースを事前に読み込んでくること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：オリエンテーション

事前,事後学習ポイント：交流人口

<第 2 講>

概要：観光論が対象とする様々なビジネス

事前,事後学習ポイント：観光

<第 3 講>

概要：観光地と観光産業の関係

事前,事後学習ポイント：観光資源

<第 4 講>

概要：観光立国について考える

事前,事後学習ポイント：訪日観光客

<第 5 講>

概要：コンベンション・ビジネスについて考える

事前,事後学習ポイント：MICE

<第 6 講>

概要：ケースで考えるホスピタリティビジネス

事前,事後学習ポイント：ホスピタリティ

<第 7 講>

概要：テーマパークと観光地の関係について考える

事前,事後学習ポイント：テーマパーク

<第 8 講>

概要：マストゥリズムからニュートゥリズムへ

事前,事後学習ポイント：ニュートゥリズム

<第 9 講>

概要：ケースで考える観光まちづくり①変わりつつある観光地プロモーションとブランド化を考える

事前,事後学習ポイント：地域ブランド

<第 10 講>

概要：ケースで考える観光まちづくり②観光地ブランド化と文化の関係を考える

事前,事後学習ポイント：SWOT分析

<第 11 講>

概要：ケースで考える観光まちづくり③ゆるキャラ

事前,事後学習ポイント：象徴化とデザイン

<第 12 講>

概要：ケースで考える観光まちづくり④歴史の魅力と都市観光
事前,事後学習ポイント：都市観光

<第 13 講>

概要：ケースで考える観光まちづくり⑤空間と景観

事前,事後学習ポイント：景観

<第 14 講>

概要：ケースで考える観光まちづくり⑥食によるブランディング

事前,事後学習ポイント：地産地消、6次産業

<第 15 講>

概要：ケースで考える観光まちづくり⑦観光地経営

事前,事後学習ポイント：commons、パターンランゲージ

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

青木美英・廣岡裕一・神田孝治編著『観光入門』新曜社 (2011)

石井淳蔵・高橋一夫『観光のビジネスモデル』学芸出版社 (2011)

安島博幸監修『観光まちづくりのエンジニアリング』学芸出版社 (2009)

岡本伸之編『観光学入門』有斐閣 (2001)

フィリップ・コトラー『コトラーのホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング 第3版』ピアソン・エデュケーション (2011)

宗田好史『創造都市のための観光振興』学芸出版社 (2009)

■評価方法

レポート60%、出席40%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容を十分に理解し、新たな情報を加えて伝えることができる。
評価A (89~80点)：講義内容を十分に理解して、伝えることができる。
評価B (79~70点)：おおよその内容を把握しているが、論理的に伝えるまで至っていない。
評価C (69~60点)：内容をあまり理解できておらず、伝えることも十分ではない。
評価F (59点以下)：著しく理解に欠けており、伝えることはできない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年度次対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名 地域産業論Ⅰ(Theory of Local Industry I)

サブタイトル

担当教員 中庭 光彦

■講義目的

人口が減少する中、生産者と消費者を結び「流通の世界」が大きく変化しつつある。現実のビジネスは単なる市場取引ではなく、様々な流通のしくみが機能している。それらしくは、時々問題解決の結果として生まれてきたものでもある。

本講義では、生の流通の現場で起こる問題解決を念頭に置き、その解決のしくみがどのように進化してきたのか辿ることとする。主に2年生を対象とする。

■講義分類

地域ビジネス

■到達目標

流通論の基本的な考え方を理解し、基本用語を使い現代流通についてレポートをかけるようになる。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習（学習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

事前にT-Nex tにアップする講義資料とケースを事前に読み込んでおくこと。

■講義の概要

<第1 講>

概要：オリエンテーション：流通の世界

事前,事後学習ポイント：流通という言葉の意味

<第2 講>

概要：流通の主体、流通業界

事前,事後学習ポイント：流通経路の意味

<第3 講>

概要：19世紀の商業

事前,事後学習ポイント：江戸時代の商業

<第4 講>

概要：大量生産品をいかに多くの人に届けるか①

事前,事後学習ポイント：流通革命という言葉

<第5 講>

概要：大量生産品をいかに多くの人に届けるか②

事前,事後学習ポイント：チェーンストアという言葉

<第6 講>

概要：社会の成熟期にいかにも様な商品を届けるか①

事前,事後学習ポイント：在庫の意味

<第7 講>

概要：社会の成熟期にいかにも様な商品を届けるか②

事前,事後学習ポイント：ネット販売、流通における情報化の影響について解説する。

<第8 講>

概要：食品流通について

事前,事後学習ポイント：食品流通

<第9 講>

概要：立地論について

事前,事後学習ポイント：立地

<第10 講>

概要：インスタア・マーチャンダイジング

事前,事後学習ポイント：動線

<第11 講>

概要：流通とまちづくり

事前,事後学習ポイント：中心市街地活性化

<第12 講>

概要：ケースで学ぶサプライチェーン

事前,事後学習ポイント：物流業界の実態。

<第13 講>

概要：ケースで学ぶ問屋の役割

事前,事後学習ポイント：仲介のメリット

<第14 講>

概要：ケースで学ぶO2Oマーケティング

事前,事後学習ポイント：オムニマーケティング

<第15 講>

概要：需要縮小に向けた流通

事前,事後学習ポイント：SPA

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

原田栄生・向山雅夫・渡辺達朗『ベーシック流通と商業 新版』有斐閣、2002

流通科学研究会『流通の世界』千倉書房、2011

笠井清志『ビジュアル図解コンビニのしくみ』同文館出版、2007

■評価方法

レポート60%、出席40%

■評価基準

評価A+（90点以上）：講義内容を十分に理解し、新たな情報を加えて伝えることができる。

評価A（89～80点）：講義内容を十分に理解して、伝えることができる。

評価B（79～70点）：おおよその内容は把握しているが、論理的に伝えるまで至っていない。

評価C（69～60点）：内容をあまり理解できておらず、伝えることも十分ではない。

評価F（59点以下）：著しく理解に欠けており、伝えることはできない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

履修制限を行います。履修希望者は第1回のオリエンテーションに必ず出席すること。第1回目で課題を提出してもらい選抜し、200名以内に学生を維持する。

科目名 地域産業論Ⅱ(Theory of Local Industry II)**サブタイトル** ～中小企業の役割、問題点、発展形態および経営～**担当教員** 奥山 雅之**■講義目的**

中小企業は、企業数の99%、就業者数の約70%を占め、地域経済を支えるとともに、「社会をこつしたい」という志を持った多くの中小企業（＝志企業）が新しい製品やサービスを創るなど、「イノベーション」の担い手としても重要な役割を果たしています。

私たちは、よくテレビCMを実施しているような大企業の名前と事業内容はよく耳にしますが、中小企業がどのような企業活動を行っているか、知りうる手段が十分に整っているとは見えません。

しかし、地域の中をよく見ると、規模は小さけれど独自の技術を持って特定の製品で大きな市場シェア（占有率）を持つものづくりの中小企業や、行列のできる小さな店などを見つけることができます。中小企業は、ひとつのイメージでは語りつくせない、極めて多様性のある存在なのです。

中小企業は、当然のことではありますが、大企業と比べて経営の基盤が弱い部分があり、また経営上の課題を抱える企業も多く存在します。こうした中小企業の問題性についても しっかり目を向けていくことも必要ですが、中小企業を決してネガティブのみには捉えずに、豊富な事例を交えながら、その強みや魅力、今後の発展にも迫り、社会に出ても役に立つ実践的知識獲得を目指します。

受講すれば、「中小企業」に対するイメージも一新されるはずです。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネス創造/ビジネスマネジメント/社会人力育成/グローバルビジネス/地域ビジネス

■到達目標

本講義のゴール（目標）は、次の2つとします。

(1) 生活と中小企業、地域と中小企業とのつながりについて、現実感を持ってイメージすること。

(2) 社会における中小企業の役割、問題点、発展形態および経営について、理論を理解したうえで各自が各自の意見と考え方を持つこと。

※各自の「中小企業観」を持つことが重要です。

■講義形態

講義のみ（一部にGDあり）

■単独学習（学習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義にあたって経営学について基礎的な知識を習得するための予習が必要である。講義内のレポートを複数回課することを予定しているため、これらのレポートを作成して提出することが求められる。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：ガイダンス：この講義で学ぶこと
事前、事後学習ポイント：企業は何のためにあるのか。社会と企業。

<第 2 講>

概要：中小企業とは何か：中小企業の定義、特徴について
事前、事後学習ポイント：中小企業の定義、中小企業基本法

<第 3 講>

概要：中小企業で働くこと：中小企業で「働く」ことの特徴
事前、事後学習ポイント：中小企業における職場、キャリア

<第 4 講>

概要：起業家について：起業の現状と課題
事前、事後学習ポイント：起業の意義、起業家精神、起業と「志」について

<第 5 講>

概要：中小企業問題（1）：大企業との関係がもたらす中小企業問題とは何か
事前、事後学習ポイント：規模の経済、取引、二重構造

<第 6 講>

概要：中小企業問題（2）：大企業との関係がもたらす中小企業問題とは何か
事前、事後学習ポイント：規模の経済、取引、二重構造

<第 7 講>

概要：中小企業の発展（1）：時代の変遷と中小企業の発展（「産産型中小企業」など）
事前、事後学習ポイント：環境適応、新事業展開、ネットワーク

<第 8 講>

概要：中小企業の発展：時代の変遷と中小企業の発展（「製品開発型中小企業」など）
事前、事後学習ポイント：環境適応、ベンチャー、下請企業、製品開発型企業

<第 9 講>

概要：中小企業の発展（3）：時代の変遷と中小企業の発展（「老舗」）
事前、事後学習ポイント：中小企業の環境対応、経営理念、経営方針、事業承継

<第 10 講>

概要：中小商業と流通：商店と商店街の現状
事前、事後学習ポイント：大型店、チェーンストア、商店街

<第 11 講>

概要：中小企業経営の実際：ゲストスピーカー（中小企業経営者等）による講演
事前、事後学習ポイント：中小企業の経営における大企業との違い

<第 12 講>

概要：中小企業の経営、競争戦略（1）：中小企業が企業と戦うために必要な戦略
事前、事後学習ポイント：競争戦略

<第 13 講>

概要：中小企業の経営、競争戦略（2）：中小企業が企業と戦うために必要な戦略
事前、事後学習ポイント：ランチェスター戦略、ブルーオーシャン戦略

<第 14 講>

概要：中小企業の経営、競争戦略（3）：中小企業が企業と戦うために必要な戦略
事前、事後学習ポイント：知的財産戦略、知的財産戦略

<第 15 講>

概要：中小企業のグローバル化：中小企業の輸出・海外進出の現状と課題
事前、事後学習ポイント：生産の海外化、中小企業の国際化、海外展開

■教科書

特にありません。レジュメを配布します。また、必要があれば適宜指示します。

■指定図書

渡辺 幸男、黒潮 直宏、小川 正博、向山 雅夫著『21世紀中小企業論—多様性と可能性を探る（第3版）』有斐閣アルマ、2013年9月。

加藤 秀雄『日本産業と中小企業—海外生産と国内生産の行方』新評論、2011年8月。

小川正博編著、奥山雅之共著『中小企業のイノベーション2 事業創造のビジネスシステム』中央経済社、2003年4月。

■参考文献・参考URL / Reference List

中小企業庁『中小企業白書（各年版）』

奥山雅之「東京のものづくり産業集積の今後—中小製造業を中心として—」中小企業家同友会全国協議会企業環境研究センター『企業環境研究年報 第16号』2011年12月。

■評価方法

出席（小レポートを含む）40%、定期試験（中間試験を行う場合はそれを含む）60%。ただし、講義に際して教員の指示に従わない等問題があった者は、減点あるいは単位を付与しないものとする。

■評価基準

評価A+（90点以上）：生活と中小企業、地域と中小企業とのつながりについて、現実感を持って的確にイメージできている。社会における中小企業の役割、問題点、発展形態および経営について、理論の理解度が極めて高く、かつ、自分なりの明確な「中小企業観」を獲得できている。

評価A（89～80点）：生活と中小企業、地域と中小企業とのつながりについて、現実感を持ってイメージできている。社会における中小企業の役割、問題点、発展形態および経営について、理論の理解度が高く、かつ、自分なりの明確な「中小企業観」を獲得できている。

評価B（79～70点）：生活と中小企業、地域と中小企業とのつながりについて、ある程度現実感を持ってイメージできている。社会における中小企業の役割、問題点、発展形態および経営について、理論の理解度があり、かつ、自分なりの「中小企業観」を獲得できている。

評価C（69～60点）：生活と中小企業、地域と中小企業とのつながりについて、少しはイメージできている。社会における中小企業の役割、問題点、発展形態および経営について、理論をある程度理解し、または、自分なりの「中小企業観」を獲得している。

評価F（59点以下）：生活と中小企業、地域と中小企業とのつながりについて、十分にイメージできない。社会における中小企業の役割、問題点、発展形態および経営について、理論を十分に理解していない、あるいは、自分なりの「中小企業観」を獲得できていない。

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

実施する

■留意点

・日頃から、新聞の産業、企業関連の記事（特に中小企業・ベンチャー企業関連の記事）について興味を持ってチェックしてください。

科目名 地域政策プランニング(Planning of Public Policy for Local)

サブタイトル

担当教員 中庭 光彦

■講義目的

「産業社会の問題解決の最前線に立つ人材(志士)を育てる」のが多摩大学の使命であるが、地域における「問題解決手法」の基礎として、「地域政策マネジメント論」を開講する。本講の目的は、地域政策マネジメントの考え方と基礎的な概念を理解することにある。

現代社会において問題解決とは、企業-行政-NPO等、更には個人とグループ、先輩といった「多様な人々の連携」の下で進められる。問題特定-政策企画-政策実施-政策評価という一連の過程を、多元的な組織・個人で合意をしながら、円滑に問題解決を進めるための「術(art)の体系」。これが政策マネジメントである。

国が政策を立案し実行すればそれが全国に行き渡り問題が解決されたのが人口増加を前提とした成長経済の時代だった。しかし、これからは人口減少局面を前提にした政策を企画し、マネジメントしなければならない。多様な問題が現場で起こり、地域ごとに異なる解決方法で社会を変える。この考え方と方法実例を教えるのが本講義の狙いである。

■講義分類

地域ビジネス

■到達目標

政策PDCAの基本的な考え方を理解し、基本用語を使い政策による問題解決についてレポートを書けるようにする。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

事前にT-Nextにアップする講義資料とケースを事前に読み込んでおくこと

■講義の概要

<第 1 講>

概要:オリエンテーション:政策とは何か

事前,事後学習ポイント:政策

<第 2 講>

概要:わが国どのような問題が発生するか:グローバル化が意味する人口増加と人口減少

事前,事後学習ポイント:人口減少

<第 3 講>

概要:人口増加期の地域政策:国土・産業政策・労働・都市・住宅政策

事前,事後学習ポイント:高度成長

<第 4 講>

概要:成長管理政策から持続管理政策へ:地域共有資源を守るソーシャルキャピタル育成への転換

事前,事後学習ポイント:ソーシャルキャピタル

<第 5 講>

概要:政策をつくる枠組み:PDCAサイクル、費用対効果、因果連鎖と政策企画

事前,事後学習ポイント:PDCA

<第 6 講>

概要:ケースから考えるよくある政策マネジメントのミス①複数の政策が統合されていない:中心市街地活性化政策

事前,事後学習ポイント:中心市街地活性化

<第 7 講>

概要:ケースから考えるよくある政策マネジメントのミス②弱者だけを救おうとする:買い物弱者対策

事前,事後学習ポイント:買い物弱者

<第 8 講>

概要:ケースから考えるよくある政策マネジメントのミス③将来のリスクを予想していない:住宅・都市・災害政策と合意形成

事前,事後学習ポイント:リスク

<第 9 講>

概要:ケースから考えるよくある政策マネジメントのミス④利益享受者が固定されてしまう:河川政策

事前,事後学習ポイント:ガバナンス

<第 10 講>

概要:ケースから考えるよくある政策マネジメントのミス⑤短期のニーズに囚われ長期の目的に合っていない:森林政策、教育政策

事前,事後学習ポイント:政策とマーケティングの違い

<第 11 講>

概要:公共政策から地域主体のパートナーシップマネジメントへ

事前,事後学習ポイント:産官学連携

<第 12 講>

概要:ケースで考える地域を変える政策企画と政策評価①

事前,事後学習ポイント:企画

<第 13 講>

概要:ケースで考える地域を変える政策企画と政策評価②

事前,事後学習ポイント:コミュニティデザイン

<第 14 講>

概要:ケースで考える地域を変える政策企画と政策評価③

事前,事後学習ポイント:政策評価

<第 15 講>

概要:ケースで考える地域を変える政策企画と政策評価④

事前,事後学習ポイント:評価基準、合意形成

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

ユージン・バーダック『政策立案の技法』東洋経済新報社(2012)

寛祐介『地域を変えるデザイン』英治出版(2011)

佐藤寛、アジア経済研究所開発スクール編『テキスト社会開発』日本評論社(2007)

■評価方法

レポート60%、出席40%

■評価基準

評価A+(90点以上):講義内容を十分に理解し、新たな情報を加えて伝えることができる。

評価A(89~80点):講義内容を十分に理解して、伝えることができる。

評価B(79~70点):おおよその内容を把握しているが、論理的に伝えるまで至っていない。

評価C(69~60点):内容をあまり理解できておらず、伝えることも十分ではない。

評価F(59点以下):著しく理解に欠けており、伝えることはできない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名

中級簿記(Intermediate Level Bookkeeping)

サブタイトル

【株式会社で行われる商業簿記を学ぶ】

担当教員

金子 邦博

■講義目的

本講義は、産業界を支える最も基本的な情報システムである「簿記」の基本原則についての基礎的な理解を前提に、商業を営む株式会社における簿記についてその仕組みを習得し、商業簿記に関して日本商工会議所が主催する簿記検定試験の2級（日商簿記2級）に合格できる知識と能力を習得することを目的とする。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業の経済活動を会計情報として記録するための技法である「複式簿記」の仕組みについて、株式会社での日常の取引を会計処理できる知識を習得すること。

■講義形態

講義のみ

■準講義学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義を受講するにあたっては、毎回の講義で学習した内容の理解度を確認するため、配付した宿題を解いておくことが必要です。次回講義のなかで、前回講義の理解度を問うミニテストを行います。

また、次回講義の内容を把握するため、テキストの該当部分を事前に一読しておくことも必要です。講義内容の復習と次回講義の準備には概ね1時間程度の取り組みが必要です。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：1.銀行勘定調整表

銀行勘定調整表について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 2 講>

概要：2.手形

特殊な手形取引について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 3 講>

概要：3.有価証券

有価証券にかかる会計処理について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 4 講>

概要：4.固定資産

固定資産にかかる会計処理について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 5 講>

概要：5.一般商品売買

仕入取引、売上取引について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 6 講>

概要：6.特殊商品売買

特殊な商品の引渡形態を伴う取引の会計処理を学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 7 講>

概要：7.株式の発行

8.合併

資金調達のための株式発行と企業合併の会計処理を学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

ておくこと。

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 8 講>

概要：9.剰余金の配当と処分

10.株式会社の税金

剰余金の処分と税金にかかる会計処理について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 9 講>

概要：11.社債

社債の発行に伴う諸取引の会計処理について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 10 講>

概要：12.引当金

引当金の会計処理について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 11 講>

概要：13.精算表

決算整理の総合問題の解き方を学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 12 講>

概要：14.勘定の締切り（栄米式・大陸式）

15.財務諸表の作成

決算の確定方法と会計の報告書である財務諸表について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 13 講>

概要：16.本店会計

本店会計について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

次回講義の範囲について、テキストを読んで、学習する内容を確認しておくこと。

<第 14 講>

概要：17.伝票会計

伝票会計について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

<第 15 講>

概要：18.帳簿組織

特殊仕訳帳について学ぶ。

事前、事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理し、宿題の問題演習を行う

ておくこと。

■教科書

[1] 福島三千代『サクッとわかる日商2級商業簿記 テキスト』ネットスクール

[2] 福島三千代『サクッとわかる日商2級商業簿記 トレーニング』ネットスクール

■指定図書

[1] 福島三千代『すいすい簿記マンガがGO! 日商簿記2級』ネットスクール

[2] 滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の教科書日商2級商業簿記』TAC出版

[3] 滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の問題集日商2級商業簿記』TAC出版

[4] ネットスクール『日商簿記2級過去問題集 出題パターンと解き方』ネットスクール

[5] 滝澤ななみ『日商簿記2級みんなが欲しかった問題演習の本』TAC出版

■参考文献・参考URL / Reference List

適宜、講義のなかで指定する。

■評価方法

期末試験の成績により評価する(100%)。なお、期末試験の成績が80点に満たない者は、期末試験の成績にミニテストの成績を加算して成績判定を行う。

ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、期末試験の成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 期末試験の得点が90点以上

評価A (89~80点) : 期末試験の得点が80点以上90点未満

評価B (79~70点) : 期末試験のミニテストの合計得点が70点以上

評価C (69~60点) : 期末試験とミニテストの合計得点が60点以上70点未満

評価F (59点以下) : 期末試験とミニテストの合計得点が60点未満

■履修していることが望ましい科目

この講義の履修登録には、「初級簿記」の単位が取得済みであることが必要である。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

- 1.この科目の単位取得のためには、検定試験に合格できる水準の知識と会計処理能力を身に付けることが求められる。講義を聴いているだけの漠然とした理解だけではその水準に達することは困難であり、単位取得のためには、宿題及び講義内容の復習を通じて知識の定着を図り、問題演習の積み重ねにより会計処理能力の向上をさせるなどの自主的な学習が必要である。
- 2.講義の際には、教科書のほかに、必ず「電卓」を持参すること。
- 3.講義の理解度合いを各自で確認してもらうことを目的に、講義では毎回ミニテストを実施する。
- 4.講義の資料については、TNEXTの授業資料に掲載する。
- 5.履修制限を行う。選抜方法は別途周知する。

科目名 中国経済論 (Chinese Economy)

サブタイトル

担当教員 バートル

■講義目的

時代は今、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を抽出して分析し、未来を洞察していくことが求められている。

本講義では、世界経済の牽引役として、また政治や外交面でも国際的プレゼンスの高まりを見ている中国を立体的かつ複層的な視点で理解を深めるための基本的な知識の習得と知見の広がり、そして日本をめぐる世界潮流、日本企業のビジネス環境を正しく「読む」力の養成を目指す。

具体的には、中国や日中間のビジネスの最新事例を取りあげながら産業界が求める問題発見能力及問題解決能力及高度なコミュニケーション能力を備えた人材育成を念頭に置いた講義を行う。受講生は、本講義を通じて習得した知識や得た知見を自分の就職や将来に向けて活用できるようにすることが求められる。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

ビジネスマネジメント

社会力育成

グローバルビジネス

地域ビジネス

■到達目標

①中国経済に関する基本的な知識を習得し知見を広げ、中国の実像を把握できるようにする。

②中国経済の現状と課題を分析し、日本企業の新たな経営戦略・ビジネスモデルの立案のほか、日中間の協力の可能性について、履修者が独自の問題意識を持てるようにする。

■講義形態

講義のみ

■事前学習（習字・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

日頃から中国や日中間の時事問題を始め、自分自身が関心をもち特定の分野や業界ないし産業および企業に関する情報を常に収集・分析、調査する習慣をつけ、その過程の中で、自分自身や社会にとって将来役立つであろう問題の発見・解決力・コミュニケーション能力を身につける努力を惜しまない。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：「中国」とは～ガイダンス

講義の目的・内容の説明、中国の一般事情

事前、事後学習ポイント：中華人民共和国に関する情報を図書館や新聞・ネット等で調べる。

<第 2 講>

概要：今、なぜ中国なのか？

「世界の工場」と「世界市場」の両方の視点から「中国像」を提示する。

事前、事後学習ポイント：日本の貿易構造の変化と対外貿易の現状を把握する。

<第 3 講>

概要：計画経済の構築・綻綻(1949-1978)と現代中国の再出発-鄧小平の改革・開放(1978-現在)

毛沢東時代の中国の政治、経済、社会体制と鄧小平時代の改革開放政策の成果と課題

事前、事後学習ポイント：毛沢東時代の計画経済、鄧小平時代の改革開放政策の違いを調べる。

<第 4 講>

概要：<第4講>高度成長の「光」と「影」(1)-エネルギー、環境問題をを中心に

概要：中国のエネルギー需給と環境問題の現状及び今後の見通し

事前学習しておくべき用語ポイント[中国のエネルギー構造]

詳細：具体的データを用いて、エネルギーの需給状況とエネルギー資源の確保へ向けて中国の取り組みを解説する。また、中国の各種環境問題の現状を具体的データや事例を用いて解説した上、問題解決のために中国政府が如何なる対策を講じているのか、その全体の状況を把握する。

事前、事後学習ポイント：毛沢東時代の計画経済と鄧小平時代の改革開放政策の違いを調べる。

<第 5 講>

概要：高度成長の「光」と「影」(2)-食料問題をを中心に

中国の食料需給状況と今後の見通し

事前、事後学習ポイント：三大穀物、食糧自給率など食糧に関する基本的な知識を習得す

る。

<第 6 講>

概要：高度成長の「光」と「影」(3)-格差問題をを中心に

中国の格差問題の現状と対策

事前、事後学習ポイント：中国の格差問題とは何かを調べ、疑問に思ったことを講義当日に講師への質問として準備すること。

<第 7 講>

概要：高度成長の「光」と「影」(4)-人口問題をを中心に

中国の人口構造の現状と今後の見通し

事前、事後学習ポイント：中国の人口構造の現状と今後の課題について事前に調べて講義の臨む。

<第 8 講>

概要：高度成長の「光」と「影」(5)-「農民工」問題をを中心に

中国の戸籍制度と「農民工」の現状についての解説。

事前、事後学習ポイント：新世代農民工と中国の戸籍制度について調べ、疑問に思ったことを講師への質問として準備すること。

<第 9 講>

概要：高度成長の「光」と「影」(6)-民族問題をを中心に

中国の少数民族問題の歴史的背景と現状、今後の展望

事前、事後学習ポイント：中国の少数民族について調べる。

<第 10 講>

概要：高度成長の「光」と「影」(7)-中国共産党の一党支配体制を中心に

中国の政治体制と中国共産党

事前、事後学習ポイント：中国の政治、中国共産党について調べる。

<第 11 講>

概要：中国の地域開発戦略 (1)

「東北振興」戦略

事前、事後学習ポイント：東北振興政策と北東アジア経済圏について調べ、疑問に思ったことを講師への質問として準備すること。

<第 12 講>

概要：中国の地域開発戦略 (2)

「西部大開発」戦略

事前、事後学習ポイント：西部大開発について調べる。

<第 13 講>

概要：中国の地域開発戦略 (3)

「中部掘起」戦略

事前、事後学習ポイント：「中部掘起」プロジェクトについて調べる。

<第 14 講>

概要：日中経済関係の現状と課題

日中経済関係の最新状況

事前、事後学習ポイント：日中関係の歴史と日中経済関係の現状について調べ、疑問に思ったことを講師への質問として準備すること。

<第 15 講>

概要：中国経済の最新動向と春学期の講義内容についての総まとめ

事前、事後学習ポイント：中国経済の最新動向、春学期の総括（感想）を事前に把握・準備すること。

■教科書

■指定図書

関志雄『チャイナ・アズ・ナンバーワン』（東洋経済新報社、2009年）

寺島実郎『世界を知る力』（PHP新書、2010年）

寺島実郎『世界を知る力 日本創生論』（PHP新書、2011年）

寺島実郎『大中華圏』（NHK出版、2012年）

真実喝一『中国経済の実像とゆくえ』（ジェトロ、2012年）

三井物産戦略研究所『アジアを見る眼』（共同通信社、2012年）

久恒啓一『日本-わかりやすい 図解 日本史』（PHP、2014年）

瀬口清之『日本人が中国を嫌いにいられないこれだけの理由』（日経BP、2014年）

杉浦裕見『日本の経済史を知る』（八千代出版、2014年）

トマ・ピケティ『21世紀の資本』（みすず書房、2014年）

宮家邦彦『語られる中国の結末』（PHP新書、2015年）

■参考文献・参考URL / Reference List

以下の機関の発表資料や情報を随時確認すること。

日本外務省HP : <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/index.html>

日本貿易振興機構HP : <http://www.jetro.go.jp/world/asia/cn/>

日本財務省貿易統計HP : <http://www.customs.go.jp/toukei/info/>

日本銀行HP : <http://www.boj.or.jp/statistics/index.htm/>

(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 <http://www.jogmec.go.jp/>

(株) 三井物産戦略研究所 <http://mitsui.mgssl.com/>

東京財団 <http://www.tkfd.or.jp/>

キャンソグローバル戦略研究所 <http://www.canon-igs.org/>

上記のほか、「東洋経済」「エコノミスト」「日経BPオンライン」等雑誌類も常時チェックすること。

■評価方法

出席(30点)、毎回提出の講義メモ(30点)、最終レポート(30点)、質問・意見(10点)により行う。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 絶対評価 出席(30点)、毎回提出する講義メモ(30点)、最終レポート(30点)、講義内の質問・意見(10点)の100点満点のうち、評価点が90点以上。

評価A (89~80点) : 出席(30点)、毎回提出する講義メモ(30点)、最終レポート(30点)、講義内の質問・意見(10点)の100点満点のうち、評価点が89点~80点の間。

評価B (79~70点) : 出席(30点)、毎回提出する講義メモ(30点)、最終レポート(30点)、講義内の質問・意見(10点)の100点満点のうち、評価点が79~70点の間。

評価C (69~60点) : 出席(30点)、毎回提出する講義メモ(30点)、最終レポート(30点)、講義内の質問・意見(10点)の100点満点のうち、評価点が69~60点の間。

評価F (59点以下) : 出席(30点)、毎回提出する講義メモ(30点)、最終レポート(30点)、講義内の質問・意見(10点)の100点満点のうち、評価点が59点以下。

■履修していることが望ましい科目

『アジア経済論』Ⅰ

『韓国経済論』

『特別講座』など、グローバルビジネス関連科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

①講義中のルール順守の徹底。

②推薦された書籍や情報等は必ずチェックすること。

③レポート等の提出期限を必ず順守すること。

④成績評価について

出席と毎回提出する講義メモを重視(30点+30点=60点)する。最終レポート(30点)は、A4用紙3枚以内。講義内の質問・意見(10点)は、講義への積極的な参加・貢献として評価し、発言回数に基づいて1点~10点の評価を加える。講義メモは、講義内容を理解し、かつ独自の問題意識を持ち、問題解決へ向けての取り組み姿勢が顕著に表れているかを重視する。採点后、最後に返却する。

科目名 中国語Ⅰ(Chinese I)

サブタイトル

担当教員 安田 峰俊

■講義目的

21世紀を迎えた現在、国際社会において中華圏の政治・経済・観光などの分野における重要性は高まり続けています。仮に将来、自分が日本国内のみで働くとしても、隣人・同僚・顧客などとして中華圏の人々と接する機会には必ずあることでしょう。本講義では現代中国社会に関する解説をささみつつ、明日からすぐに使える、実用中国語の会話・読解・文法知識の習得を目指していきます（特に会話を重視します）。

中国ビジネスに興味がある人、中華料理や三国志が好きなお人、高校時代まで英語が苦手だったけれど大学では外国語を習得してみたいと考えている人など、どんな動機の方でもOKです。一緒に学んでみましょう。

■講義分類

顧客理解
 ビジネス環境理解
 社会人育成
 グローバルビジネス

■到達目標

中国語で自己紹介ができるようになること。
 現地に行ったときに、空港からホテルまで自分一人で移動できる程度の会話能力の育成を目指します。
 客観的指標としては、1年後に中国語検定4級程度の実力をつけることを目標とする。

■講義形態

講義+PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

教科書を4月中に必ず購入すること（翌月時点で未購入の場合は減点、最悪の場合は不合格もありえます）。

講義前には当日学習予定範囲の教科書該当部分を熟読し、教科書付属のCDを聞いて耳を慣らしておくこと。

■講義の概要

<第1講>

概要：オリエンテーション1

事前、事後学習ポイント：自分の名前の中国語での読み方をちゃんと覚えること。

教科書を4月中旬に必ず購入すること（翌月時点で未購入の場合は減点、最悪の場合は不合格もありえます）

<第2講>

概要：オリエンテーション2

事前、事後学習ポイント：習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第3講>

概要：教科書：発音1～発音2

事前、事後学習ポイント：習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第4講>

概要：教科書：発音3～発音4

事前、事後学習ポイント：習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第5講>

概要：教科書：第一課 単語・本文

事前、事後学習ポイント：習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第6講>

概要：教科書：第一課 文法

事前、事後学習ポイント：習った発音・単語はしっかり復習すること。

進度によっては次の単元に入る場合もあるので予習時には注意。

<第7講>

概要：教科書：第二課 単語・本文

事前、事後学習ポイント：習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第8講>

概要：教科書：第二課 文法

事前、事後学習ポイント：習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第9講>

概要：教科書：第三課 単語・本文

事前、事後学習ポイント：習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第10講>

概要：教科書：第三課 文法

事前、事後学習ポイント：習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第11講>

概要：教科書：第四課 単語・本文

事前、事後学習ポイント：習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第12講>

概要：教科書：第四課 文法

事前、事後学習ポイント：習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第13講>

概要：教科書 第五課

事前、事後学習ポイント：習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第14講>

概要：期末試験

事前、事後学習ポイント：しっかり準備しておくこと。

<第15講>

概要：期末試験

事前、事後学習ポイント：しっかり準備しておくこと。

■教科書

相原茂・陳淑梅・飯田敦子『日中ひがこみ広場 簡明版』朝日出版社

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席30％・授業中小テスト10％・期末テスト60％

■評価基準

評価A+（90点以上）：欠席日数が3回以下、期末テストの点数が高く（発音・声量ともに十分で中国語の基礎的なコミュニケーションに問題がないと判断される）、高い意欲を認められる場合。

評価A（89～80点）：欠席日数が3分の1以下で、期末テストの点数がやや高く（中国語の基礎的なコミュニケーションがひとまず可能と判断される）、意欲を認められる場合。

評価B（79～70点）：欠席日数が3分の1以下で、期末テストの点数が中程度（中国語の基礎的なコミュニケーションが最低限可能と判断される）の場合。

評価C（69～60点）：欠席日数が3分の1を超え、期末テストの結果も悪いが、若干の意欲が認められるなどの場合。

評価F（59点以下）：期末テストに不出席、出席日数が半数に満たない、極度に意欲に欠けるなどの場合。また、小テスト時のカンニング行為も不合格相当とする。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

あり（用事前相談）

■留意点

科目名 中国語Ⅱ(Chinese II)

サブタイトル

担当教員 安田 峰俊

■講義目的

21世紀を迎えた現在、国際社会において中華圏の政治・経済・観光などの分野における重要性は高まり続けています。仮に将来、自分が日本国内のみで働くとしても、隣人・同僚・顧客などとして中華圏の人々と接する機会は必ずあることでしょう。本講義では現代中国社会に関する解説をはさみつつ、明日からすぐに使える、実用中国語の会話・読解・文法知識の習得を目指していきます(特に会話を重視します)。中国ビジネスに興味がある人、中華料理や三国志が好きなお人、高校時代まで英語が苦手だったけれど大学では外国語を習得してみたいと考えている人など、どんな動機の方でもOKです。一緒に学んでみましょう。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
社会人育成
グローバルビジネス

■到達目標

中国語で自己紹介ができるようになること。
現地に行ったときに、空港からホテルまで自分一人で移動できる程度の会話能力の育成を目指します。
客観的指標としては、1年後に中国語検定4級程度の実力をつけることを目標とする。

■講義形態

講義+PR

■単履修学習(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

教科書を4月中に必ず購入すること(翌月時点で未購入の場合は減点、最悪の場合は不合格もありえます)。講義前には当日学習予定範囲の教科書該当部分を熟読し、教科書付属のCDを聞いて耳を慣らしておくこと。

■講義の概要

<第1講>

概要:オリエンテーション1

事前,事後学習ポイント:自分の名前の中国語での読み方をちゃんと覚えること。

教科書を4月中に必ず購入すること(翌月時点で未購入の場合は減点、最悪の場合は不合格もありえます)

<第2講>

概要:オリエンテーション2

事前,事後学習ポイント:習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第3講>

概要:教科書:発音1~発音2

事前,事後学習ポイント:習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第4講>

概要:教科書:発音3~発音4

事前,事後学習ポイント:習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第5講>

概要:教科書:第一課 単語・本文

事前,事後学習ポイント:習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第6講>

概要:教科書:第一課 文法

事前,事後学習ポイント:習った発音・単語はしっかり復習すること。

進度によっては次の単元に入る場合もあるので予習時には注意。

<第7講>

概要:教科書:第二課 単語・本文

事前,事後学習ポイント:習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第8講>

概要:教科書:第二課 文法

事前,事後学習ポイント:習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第9講>

概要:教科書:第二課 単語・本文

事前,事後学習ポイント:習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第10講>

概要:教科書:第三課 文法

事前,事後学習ポイント:習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第11講>

概要:教科書:第四課 単語・本文

事前,事後学習ポイント:習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第12講>

概要:教科書:第四課 文法

事前,事後学習ポイント:習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第13講>

概要:教科書 第五課

事前,事後学習ポイント:習った発音・単語はしっかり復習すること。

<第14講>

概要:期末試験

事前,事後学習ポイント:しっかり準備してこよう。

<第15講>

概要:期末試験

事前,事後学習ポイント:しっかり準備してこよう。

■教科書

相原茂・陳淑梅・飯田敦子『日中いびこみ広場 簡明版』朝日出版社

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席30%+授業中小テスト10%+期末テスト60%

■評価基準

評価A+(90点以上):欠席数が3回以下、期末テストの点数が高く(発音・声量ともに十分で中国語の基礎的なコミュニケーションに問題がないと判断される)、高い意欲を認められる場合。

評価A(89~80点):欠席日数が3分の1以下で、期末テストの点数がやや高く(中国語の基礎的なコミュニケーションがひとまず可能と判断される)、意欲を認められる場合。

評価B(79~70点):欠席日数が3分の1以下で、期末テストの点数が中程度(中国語の基礎的なコミュニケーションが最低限可能と判断される)の場合。

評価C(69~60点):欠席日数が3分の1を超え、期末テストの結果も悪いが、若干の意欲が認められるなどの場合。

評価F(59点以下):期末テストに不出席、出席日数が半数に満たない、極度に意欲に欠けるなどの場合。また、小テスト時のカンニング行為も不合格相当とする。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

あり(用事前相談)

■留意点

科目名

中国ビジネスコミュニケーションI(Chinese Business Communication I)

サブタイトル

担当教員

バートル

■講義目的

この講義は、原則として「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」を履修した学生を対象にして行う。前半は、短い会話文を使って、ピンインの読み方の復習及び声調の再トレーニングを徹底的に行い、会話を自然な形で表現できるようにするなど、実践性を重視した自己表現力の向上に重点を置く。

後半は、中国語検定試験を受験することを想定して模擬テストを数回行う。同時に、中国の社会、文化、生活などの事柄を理解することとビジネス用語・表現の習得も目指す。本講義は、実践性を重視した中国語力の養成を目指すため、意欲的な授業参加を期待すると共に、中国語圏への留学を強く勧める。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会力育成
グローバルビジネス

■到達目標

中国語検定試験4級以上の合格を目指す。

■講義形態

講義を中心としながら留学生との交流会も実施する。

■準備学習(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

①実際のビジネスシーンを想定した中国語での会話(留学生との交流を含む)を始め、講義後の学習・復習に一日当たり最低1時間使つて行う。
②日頃から中国語圏に関する時事問題を始め、自分自身が関心をもつ特定の分野や業界ないし産業および企業に関する情報を常に収集、分析、調査する習慣をつけ、その過程の中で、自分自身や社会にとって将来役立つであろう問題の発見・解決力・コミュニケーション能力を身につける努力を惜しまない。

■講義の概要

<第1講>

概要:オリエンテーション

中国語の発音(ピンイン)、基本的な挨拶言葉の復習

事前,事後学習ポイント:母音・子音・声調・挨拶言葉の事前復習を行う。

<第2講>

概要:名前を尋ねる、自己紹介

出会いとコミュニケーション

事前,事後学習ポイント:“是”の使い方、人称代名詞

<第3講>

概要:疑問詞・指示代名詞

疑問詞を使った疑問文

事前,事後学習ポイント:“誰”“?”の使い方

<第4講>

概要:復習(小テスト)

挨拶と自己紹介、疑問詞を使った疑問文の復習とテスト

事前,事後学習ポイント:第1講~第3講までの学習内容の復習

<第5講>

概要:数の数え方

数の数え方と量詞

事前,事後学習ポイント:数量詞

<第6講>

概要:年月日の言い方

年月日・曜日・時刻

事前,事後学習ポイント:年月日・曜日・時刻

<第7講>

概要:学校・家庭について

所有を表す表現

事前,事後学習ポイント:“有”“在”の使い方

<第8講>

概要:復習(小テスト)

これまでの学習内容を復習する。

事前,事後学習ポイント:第5講~第7講までの学習内容の復習

<第9講>

概要:存在を表す表現

存在を表す表現

事前,事後学習ポイント:“有”“在”の使い方

<第10講>

概要:場所・道・住所を尋ねる
場所・道・住所を尋ねる表現

事前,事後学習ポイント:介詞

<第11講>

概要:招待・訪問

招待・訪問の際の表現

事前,事後学習ポイント:招待・訪問に関連する用語

<第12講>

概要:“補語”の総合的学習

各種補語の表現方法の習得

事前,事後学習ポイント:副詞

<第13講>

概要:能願動詞と“連動文”

能願動詞と連動文の使い方

事前,事後学習ポイント:“会”“能”“可以”“要”“想”の使い方

<第14講>

概要:復習(小テスト)

これまでの学習内容の復習

事前,事後学習ポイント:第9講~第13講までの学習内容の復習

<第15講>

概要:まとめ

春学期の総まとめ

事前,事後学習ポイント:秋学期の学習内容の復習

■教科書

- 中国語の学習用プリントを配布する。
- ビジネス用語や中国語検定試験関連資料を配布する。

■指定図書

随時紹介(資料配布)する。

■参考文献・参考URL / Reference List

相原茂他編『日中いぶこみ広場』、朝日出版
陸偉榮『中国語 リスニング&スピーキング』(国際語学社、2012年)
(株)光生館『中検準4級問題集』『中検4級問題集』『中検3級問題集』(2013年版)
日本中国語検定協会HP: <http://www.chuken.gr.jp/tcp/test.html>
日本ビジネス中国語学会HP: <http://www.toho-shoten.co.jp/business/>

■評価方法

評価は、小テスト(30%)と期末総合試験(50%)、出席状況(20%)で評価する。

■評価基準

評価A+(90点以上):成績は、下記配分により絶対評価で行う。 評価点100点(小テスト30点+期末試験40点+出席30点)のうち90点以上。
評価A(89~80点): 評価点100点(小テスト30点+期末試験40点+出席30点)のうち89~80点。
評価B(79~70点): 評価点100点(小テスト30点+期末試験40点+出席30点)のうち79~70点。
評価C(69~60点): 評価点100点(小テスト30点+期末試験40点+出席30点)のうち69~60点。
評価F(59点以下): 評価点100点(小テスト30点+期末試験40点+出席30点)のうち59点以下。

■履修していることが望ましい科目

中国語Ⅰと中国語Ⅱなど。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

①予習、復習をしっかりとやること。

②中国語検定試験の受験を前提とした対策を行うこと。

③成績評価について

下記配分により絶対評価で行う。

評価点100点 (小テスト30点+期末試験40点+出席30点)のうち60点未満は、不合格とする。

科目名 中国ビジネスコミュニケーションII(Chinese Business Communication II)

サブタイトル

担当教員 バートル

■講義目的

この講義は、原則として「中国語I」と「中国語II」を履修した学生を対象に行う。前半は、短い会話文を使って、ピンインの読み方の復習及び声調の再トレーニングを徹底的に行い、会話を自然な形で表現できるようにするなど、実践性を重視した自己表現力の向上に重点を置く。

後半は、中国語検定試験を受験することを想定して模擬テストを数回行う。同時に、中国の社会、文化、生活などの事柄を理解することとビジネス用語・表現の習得も目指す。本講義は、実践性を重視した中国語力の養成を目指すため、意欲的な授業参加を期待すると共に、中国語圏への留学を強く勧める。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

中国語検定試験4級以上の合格を目指す。

■講義形態

講義を中心としながら留学生との交流会も実施する。

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

- ①実際のビジネスシーンを想定した中国語での会話(留学生との交流を含む)を始め、講義後の予習・復習に一日当たり最低1時間使つて行う。
- ②日頃から中国語圏に関する時事問題を始め、自分自身が関心をもつ特定の分野や業界ないし産業および企業に関する情報を常に収集、分析、調査する習慣をつけ、その過程の中で、自分自身や社会にとって将来役立つであろう問題の発見・解決力・コミュニケーション能力を身につける努力を惜しまない。

■講義の概要

<第1講>

概要：訪問
訪問する際の表現

事前、事後学習ポイント：訪問に関連する挨拶言葉

<第2講>

概要：買い物
買い物する際の表現

事前、事後学習ポイント：品物・金額に関する用語

<第3講>

概要：乗車、乗り換え
乗車、乗り換えの際の表現

事前、事後学習ポイント：交通機関に関連する用語

<第4講>

概要：趣味・興味
趣味や興味についての表現

事前、事後学習ポイント：趣味・興味に関連する用語

<第5講>

概要：復習(小テスト)
これまでの学習内容の復習

事前、事後学習ポイント：第1講～第4講までの学習内容の復習

<第6講>

概要：天気、季節
天気、季節に関する表現

事前、事後学習ポイント：天気や季節関連用語

<第7講>

概要：電話をする
電話をする際の表現

事前、事後学習ポイント：電話内容を想定した用語

<第8講>

概要：食事する

食事する際の表現

事前、事後学習ポイント：食に関する用語

<第9講>

概要：病気、医者 の診察を受ける
病気、医者 の診察を受ける際の表現
事前、事後学習ポイント：医療関連用語

<第10講>

概要：復習(小テスト)
これまでの学習内容の復習

事前、事後学習ポイント：第6講～第9講までの学習内容の復習

<第11講>

概要：比較文
比較文の応用的学習
事前、事後学習ポイント：“比”“比”“一樣”

<第12講>

概要：進行相、完了相
進行相、完了相の表現

事前、事後学習ポイント：“在～?”“了”

<第13講>

概要：形容詞
形容詞を使った表現

事前、事後学習ポイント：形容詞

<第14講>

概要：復習(小テスト)
これまでの学習内容の復習

事前、事後学習ポイント：第11講～第13講までの学習内容の復習

<第15講>

概要：まとめ(期末試験)
秋学期の総まとめ

事前、事後学習ポイント：秋学期の学習内容の復習

■教科書

- (1) 中国語の学習用プリントを配布する。
- (2) ビジネス用語や中国語検定試験関連資料を配布する。

■指定図書

随時紹介(資料配布)する。

■参考文献・参考URL / Reference List

- 相原茂他編『中日いぶこみ広場』、朝日出版
陸偉榮『中国語 リスニング&スピーキング』(国際語学社、2012年)
(株)光生館『中検準4級問題集』『中検4級問題集』『中検3級問題集』(2013年版)
日本中国語検定協会HP: <http://www.chuken.gr.jp/tcp/test.html>
日本ビジネス中国語学会HP: <http://www.toho-shoten.co.jp/business/>

■評価方法

小テスト(30点)と期末試験(40点)、出席(30点)。

■評価基準

- 評価A+(90点以上)：評価点100点(小テスト30点+期末試験40点+出席30点)のうち90点以上。
評価A(89～80点)：評価点100点(小テスト30点+期末試験40点+出席30点)のうち89～80点の間。
評価B(79～70点)：評価点100点(小テスト30点+期末試験40点+出席30点)のうち79～70点の間。
評価C(69～60点)：評価点100点(小テスト30点+期末試験40点+出席30点)のうち69～60点の間。
評価F(59点以下)：評価点100点(小テスト30点+期末試験40点+出席30点)のうち

うち59点以下。

■履修していることが望ましい科目

中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国ビジネスコミュニケーションⅠ

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

①予習、復習をしっかりとやること。

②中国語検定試験の受験を前提とした対策を行うこと。

③成績評価について

下記配分により絶対評価で行う。

評価点100点（小テスト30点+期末試験40点+出席30点）のうち60点未満は、不合格とする。

科目名 データサイエンスI(Data Science I)

サブタイトル 統計データの利活用

担当教員 今泉 忠

■講義目的

高度情報化により、問題解決のためにはデータを収集して、それをもとに考えることが必須になった。この講義ではデータを利活用するための基本力の習得を目指し、統計的データ分析の入門を取り扱う。具体的には、データの要約と因果関係の検証のためのデータ分析の内容とする。このようなスキルは、共通のスキルであるので、受講しておくことをすすめる。なお、講義では実際に検討し、理解を深める事が重要であるので、コンピュータソフトを用いてデータ分析の基礎をも習得する。適宜、グループレポートなどを作成する。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

- (1) データプレゼンテーションの枠組みをからデータを利活用できる。
- (2) データについて視覚化できる
- (3) データの主要な傾向とバラツキを測る事ができる
- (4) 2つのグループの違いを調べられる
- (5) 結果を他者に分かり易く伝えられる

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義形式は、座学+演習形式であるので、事前にデータの整理やレポート作成などの準備が必要である。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：イントロダクション データ分析入門

事前,事後学習ポイント：扱うデータについて、変数の型などについて調べておく

<第 2 講>

概要：データ分析(1):集計データからわかる特徴

事前,事後学習ポイント：EXCELを活用できること

<第 3 講>

概要：データ分析(2):集計データからわかる特徴2

事前,事後学習ポイント：集計しヒストグラムを作成していること

<第 4 講>

概要：データ分析(3):集計データからわかる特徴の図示

事前,事後学習ポイント：PPDAC Problem-Plan-Data-Analysis-Conclusionのプロセスを理解しておくこと

<第 5 講>

概要：データを集計・要約する 集計前データの記述統計

事前,事後学習ポイント：中央値、平均、最頻値

<第 6 講>

概要：データのばらつき・集計前データの記述統計

事前,事後学習ポイント：四分位範囲、分散、標準偏差

<第 7 講>

概要：要約値の表現

事前,事後学習ポイント：箱ひげ図、ダイヤモンド図

<第 8 講>

概要：演習1

事前,事後学習ポイント：ヒストグラム、ダイヤモンド図、箱ひげ図

<第 9 講>

概要：データの要約 演習II

事前,事後学習ポイント：第8講での演習を整理しておくこと

<第 10 講>

概要：誤差:平均値の変化

事前,事後学習ポイント：誤差

<第 11 講>

概要：相関関係

事前,事後学習ポイント：相関係数

<第 12 講>

概要：相関関係II

事前,事後学習ポイント：層別散布図、制御変数

<第 13 講>

概要：因果関係 と特性要因図

事前,事後学習ポイント：因果関係とその表現のための特性要因図について予習しておくこと

<第 14 講>

概要：平均値の活用 説明変数が質的変数である場合

事前,事後学習ポイント：ダイヤモンド図,標準誤差

<第 15 講>

概要：単回帰分析

事前,事後学習ポイント：原因と結果の表現,特性要因図

■教科書

統計学 統計学I：データ分析の基礎 オフィシャル スタディノート 日本統計学会編
日本統計協会発行

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席30%、レポート70%

統計検定試験の結果を成績評価の一部として評価する

■評価基準

評価A+ (90点以上)：データプレゼンテーションの枠組みを用いて、データ利活用を表現できる。(1)平均や相関係数や散布図などの統計グラフを作成できる(2)パブルチャートなどのチャートを活用できる(3)仮説を表現し結果を対応づけることができる。

評価A (89~80点)：データプレゼンテーションの枠組みを用いて、データ利活用を表現できる。(1)平均や相関係数や散布図などの統計グラフを作成できる(2)パブルチャートなどのチャートを活用できる(3)仮説を表現できる

評価B (79~70点)：データプレゼンテーションの枠組みを用いて、データ利活用を表現できる。(1)平均や相関係数や散布図などの統計グラフを作成できる(2)パブルチャートなどのチャートを活用できる

評価C (69~60点)：データプレゼンテーションの枠組みを用いて、データ利活用を表現できる。(1)平均や相関係数や散布図などの統計グラフを作成できる

評価D (59点以下)：データプレゼンテーションの枠組みを用いることができない。データ利活用を表現できない。平均や相関係数や散布図などの統計グラフを作成できない。

■履修していることが望ましい科目

ビジネスコミュニケーション入門II

ビジネス数学

■卒業年次生対象再試験の実施

無し

■留意点

本講義は、毎回の講義の内容を前提として講義を行う。また、講義ではチーム毎のデータ収集、レポート提出のアクティブラーニングを行うので、1回目の講義から欠席せずに受講すること。

科目名 データサイエンスII (Data Science II)

サブタイトル

担当教員 今泉 忠

■講義目的

高度情報化により、情報が数量として扱われるデータを扱う必要性はますます高まっている。本講義では、データに基づく課題解決や問題解決に必須の統計学に関して、その基礎概念の理論的な理解を深め、社会現象を確率モデル・統計モデルとして扱うために必要な統計的方法を利活用できることを目標としている。

■講義分類

顧客理解
 ビジネス環境理解
 ビジネス創造
 ビジネスマネジメント
 社会人力育成
 グローバルビジネス
 ビジネスICT
 地域ビジネス

■到達目標

- (1) 基礎的な確率分布について理解し、適用できる
- (2) 標本抽出について理解できる
- (3) 平均の推定問題が理解でき、適用できる
- (4) 検定問題が理解でき、適用できる

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■学習目標 (学習・復習等) に必要な知識またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

統計学に関する知識の理解だけでなく、実際の問題解決を求める。そのために、講義内で出された課題を次回までの必ず理解しておくことが求められる。

■講義の概要

- <第 1 講>
 概要：統計学の基礎
 事前,事後学習ポイント：質的データ、量的データ、母集団と標本とデータ
- <第 2 講>
 概要：データの整理：平均と標準偏差
 事前,事後学習ポイント：代表値
- <第 3 講>
 概要：平均のバラツキ
 事前,事後学習ポイント：標準誤差
- <第 4 講>
 概要：確率分布の期待値
 事前,事後学習ポイント：離散分布
- <第 5 講>
 概要：離散確率分布について
 事前,事後学習ポイント：分布での平均
- <第 6 講>
 概要：正規分布
 事前,事後学習ポイント：確率密度関数
- <第 7 講>
 概要：2つの確率変数の和と差
 事前,事後学習ポイント：正規分布
- <第 8 講>
 概要：母集団の平均値と分散の推定
 事前,事後学習ポイント：大数の法則
- <第 9 講>
 概要：平均値の区間推定と仮説検定
 事前,事後学習ポイント：標準正規分布
- <第 10 講>
 概要：平均値の差の検定
 事前,事後学習ポイント：分散分析、t検定
- <第 11 講>
 概要：因果分析のための単回帰モデル
 事前,事後学習ポイント：応答変数と説明変数
- <第 12 講>
 概要：単回帰分析での決定係数

事前,事後学習ポイント：分散分析表

- <第 13 講>
 概要：単回帰での係数の検定準備
 事前,事後学習ポイント：単回帰モデル、正規分布
- <第 14 講>
 概要：残差分析
 事前,事後学習ポイント：誤差の等分散性と正規性
- <第 15 講>
 概要：まとめ
 事前,事後学習ポイント：平均値の区間推定、単回帰モデル

■教科書

日本統計学会編 統計学基礎 東京図書

■指定図書

すげれ判断は「統計データ分析」から生まれる 中西達夫 実務教育出版

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

講義中の小テスト(50%)、期末試験(50%)により行う。統計的な基本概念が理解できたかについて評価する。授業ごとに出題する課題を理解でき、適用できるかが評価のポイントとなる。統計的なものの考え方・データの処理の仕方ができているかどうかを評価する。統計検定試験の結果を成績評価の一部として評価する。

■評価基準

- 評価A+ (90点以上)：(1) 基礎的な確率分布について理解し、適用できる (2) 標本抽出について理解できる (3) 平均の推定問題が理解でき、適用できる (4) 検定問題が理解でき、適用できる
- 評価A (89~80点)：(1) 基礎的な確率分布について理解している (2) 標本抽出について理解している (3) 平均の推定問題が理解でき、適用できる (4) 検定問題が理解でき、適用できる
- 評価B (79~70点)：(1) 基礎的な確率分布について理解している (2) 標本抽出について理解している (3) 平均の推定問題が理解でき、適用できる
- 評価C (69~60点)：(1) 基礎的な分布の性質を理解している (2) 平均の推定問題が理解でき、適用できる
- 評価F (59点以下)：上記のいずれも理解しておらず、適用できない

■履修していることが望ましい科目

統計

■卒業年度対象再試験の実施

なし

■留意点

本講義は、毎回の講義の内容を前提として講義を行う。また、講義ではチーム毎のデータ収集、レポート提出のアクティブラーニングを行うので、1回目の講義から欠席せずに受講すること。「統計学II」、「経営科学」、「経営と意思決定」、「データ解析」の履修には本講義を履修しておくことが望ましい。

科目名 データサイエンスIII (Data Science III)

サブタイトル 経営情報のための統計学 / Applied Statistics for Management & Information Sciences

担当教員 今泉 忠

■講義目的

高度情報化社会となり、問題解決のためにはデータを収集して、それをもとに考えることが当然となった。データを開いてどのような目的のために収集して、活用するかが重要となってきている。この講義では経営情報におけるデータを活用するための基本力の習得を目指し、統計的データ分析を取り扱う。具体的には、データの要約と因果関係の検証のためのデータ分析を内容とする。このようなスキルは、共通のスキルであるので、受講しておくことをすすめる。なお、講義では実際に検討し、理解を深める事が重要であるので、コンピュータソフトを用いてデータ分析の基礎をも習得する。適宜、グループレポートなどを作成する。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

- (1) 基礎的な離散分布と連続分布について理解し、統計的思考をもとに実際の場面で活用できる。
- (2) 平均の区間推定や仮説が行える。実際の問題解決問題を、統計的な枠組みで表現し分析できる。
- (3) 分散分析や重回帰モデルを適切に活用できる。因果関係について推測できる。
- (4) 意思決定に役立つ表現ができる

■講義形態

講義（演習含む）

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

統計学Iでの学修内容を理解していること。
講義内に出される課題については次週の講義開始時に回収する。

■講義の概要

- <第1講>
概要：二項分布再入門
事前,事後学習ポイント：確率的試行としてのコインスについてまとめておくこと
ベルヌーイ試行の表現を理解し、これに関する課題を解くこと
- <第2講>
概要：幾何分布とポアソン分布
事前,事後学習ポイント：ベルヌーイ試行から導かれる二項分布についてに関する課題を解いてまとめておくこと
- <第3講>
概要：正規分布再入門
事前,事後学習ポイント：分布の類型化や平均と分散、ベルヌーイ分布について予習しておくこと
- <第4講>
概要： χ^2 分布とF分布
事前,事後学習ポイント：正規分布、質的データなどについて復習しておくこと
- <第5講>
概要：一元配置分散分析 I
事前,事後学習ポイント：正規分布の性質を理解しておくこと
平均の差に検定について十分理解しておくこと
- <第6講>
概要：一元配置分散分析 II
事前,事後学習ポイント：自由度の概念、変動と分散の違いについて理解しておくこと
- <第7講>
概要：分散分析モデル 演習
事前,事後学習ポイント：一元配置分散分析をおこなう場合のポイントについて整理しておくこと
- <第8講>
概要：重回帰モデル
事前,事後学習ポイント：分散分析表、F値、決定係数 R^2 について理解しておくこと

<第9講>

- 概要：重回帰モデルでのパラメータの推定
事前,事後学習ポイント：最小2乗法に関しての理解をしておくこと
行列表記、誤差の分布、t検定についても復習をしておくこと
- <第10講>
概要：回帰分析 モデルの選択
事前,事後学習ポイント：決定係数、F比について復習しておくこと
- <第11講>
概要：重回帰分析 残差の評価
事前,事後学習ポイント：残差の正規性の必要性などについて理解しておくこと
- <第12講>
概要：重回帰モデル 演習
事前,事後学習ポイント：重回帰分析の分析手順について理解しておくこと
- <第13講>
概要：二元配置分散分析
事前,事後学習ポイント：一元配置分散分析について理解しておくこと
- <第14講>
概要：二元配置分散分析 演習 二元配置分散分析に関する演習を行う
事前,事後学習ポイント：二元配置分散分析の手順について理解しておくこと
- <第15講>
概要：まとめ
事前,事後学習ポイント：分散分析モデルと重回帰モデルを理解しておくこと

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

課題提出 60%
期末試験 40%

■評価基準

- 評価A+ (90点以上)：実際の問題を確率モデルで表現できる 確率分布に理解して、実際に利活用できる 実際の問題解決のためにデータプレゼンテーションを用いて提案できる。 目的に応じた統計モデルを選択して、実施、結果を評価できる。
評価A (89~80点)：確率分布を理解して、実際に利活用できる 実際の問題解決のためにデータプレゼンテーションを用いて提案できる。 目的に応じた統計モデルを選択して、実施、結果を評価できる。
評価B (79~70点)：実際の問題解決のためにデータプレゼンテーションを用いて提案できる。 目的に応じた統計モデルを選択して、実施、結果を評価できる。
評価C (69~60点)：実際の問題解決のためにデータプレゼンテーションを用いて提案できる。 統計モデルを適用できる
評価F (59点以下)：評価A+~Cまでのいずれもできない

■履修していることが望ましい科目

経営情報数学I・II、
「統計」、[統計]、「データ解析」等の授業と深く関連している。
事前に「統計学」の履修を前提とする。

■卒業年次生対象再試験の実施

無し

■留意点

本講義は、毎回の講義の内容を前提として講義を行う。また、講義ではチーム毎のデータ収集、レポート提出のアクティブラーニングを行うので、1回目の講義から欠席せずに受講すること。
PCなどを利用するので、その準備をすること

科目名 データサイエンスIV (Data Science IV)

サブタイトル

担当教員 久保田 貴文

■講義目的

さまざまな問題解決のために必要なデータ解析の基礎的な内容を習得し、さらに自ら問題を考えそれを解決できる能力を養います。講義のなかでは、実際のデータを用い、エクセルとRにより解析を行いレポート作成します。

■講義分類

顧客理解
ビジネスマネジメント
社会人育成
ビジネスICT

■到達目標

データ解析の考え方と手法を十分に理解し様々な問題に対して実際に解析を行い解決につなげることが出来る。手法については、具体的に以下の4つの項目について習得していること

1. Excelでのピボットテーブル
 2. Excelを使ったデータ分析 (集計・抽出・分類・並べ替え)
 3. ABC分析・Zチャート
 4. 多変量解析 (判別分析・クラスター分析)
- さらに、自ら問題を設定し、本講義で学んだ手法によってそれを解決できることがさらに望ましい。

■講義形態

講義

■単履修学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

基本的なコンピュータのリテラシー：ファイル・フォルダ (以降単にファイル) を開く、ファイルを選択、コピー、貼り付け、削除などが行える。
ウェブブラウザの操作：Google等を使った情報の検索、t-nextから必要なファイルのダウンロード
エクセル入門：基本的な操作、入力・修正・整形、グラフの挿入
Rのインストールの為に：ファイルの保存、ファイルの実行、フォルダの構造についての基礎的な知識 (どこに保存されているか?等)

■講義の概要

<第 1 講>
概要：オリエンテーション
事前,事後学習ポイント：15回の内容を把握して受講するかどうかを決める
<第 2 講>
概要：エクセルでクロス集計
事前,事後学習ポイント：ピボットテーブル, ピボットグラフ
<第 3 講>
概要：エクセルでデータプレゼンテーション
事前,事後学習ポイント：ピボットグラフ, 条件付き書式
<第 4 講>
概要：データ分析 (集計・抽出)
事前,事後学習ポイント：集計と抽出
<第 5 講>
概要：データ分析 (分類・並べ替え)
事前,事後学習ポイント：分類・並べ替え
<第 6 講>
概要：ランク別の対策や管理
事前,事後学習ポイント：ABC分析
<第 7 講>
概要：時系列データの分析
事前,事後学習ポイント：Zチャート
<第 8 講>
概要：レポート (1)
事前,事後学習ポイント：ピボットテーブル, 条件付き書式, 集計・抽出・分類・並べ替え, ABC分析, Zチャート
<第 9 講>
概要：レポートの解説
事前,事後学習ポイント：ピボットテーブル, 条件付き書式, 集計・抽出・分類・並べ替え, ABC分析, Zチャート
<第 10 講>
概要：R入門

事前,事後学習ポイント：R
<第 11 講>
概要：判別分析
事前,事後学習ポイント：多変量解析, 判別分析
<第 12 講>
概要：演習・レポート (2)
事前,事後学習ポイント：判別分析
<第 13 講>
概要：クラスター分析 (1)
事前,事後学習ポイント：階層型クラスター分析
<第 14 講>
概要：クラスター分析 (2)
事前,事後学習ポイント：k-means法
<第 15 講>
概要：まとめとレポート (3)
事前,事後学習ポイント：クラスター分析

■教科書

エクセルデータ分析のコツと手法 (ビジネス極意シリーズ), 住中光夫 (著), KADOKAWA/アスキー・メディアワークス (第1講~第8講まで)
第9講以降は教科書は使用しない (ただし, 必要に応じて資料を配付する)。

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

レポート (100%) : 第1回 (50%), 第2回 (25%), 第3回 (25%)。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : データ解析の考え方と手法を十分に理解し様々な問題に対して実際に解析を行い解決につなげることが出来る。手法については、具体的に以下の4つの項目について習得していること 1. エクセルでのピボットテーブル 2. エクセルを使ったデータ分析 (集計・抽出・分類・並べ替え) 3. エクセルを使ったグラフの作成とその応用 (ABC分析・Zチャート) 4. 多変量解析 (判別分析・クラスター分析)
さらに、自ら問題を設定し、本講義で学んだ手法によってそれを解決できる。
評価A (89~80点) : データ解析の考え方と手法を十分に理解し様々な問題に対して実際に解析を行い解決につなげることが出来る。手法については、具体的に以下の4つの項目について習得していること 1. エクセルでのピボットテーブル 2. エクセルを使ったデータ分析 (集計・抽出・分類・並べ替え) 3. エクセルを使ったグラフの作成とその応用 (ABC分析・Zチャート) 4. 多変量解析 (判別分析・クラスター分析)
評価B (79~70点) : データ解析の考え方と手法を十分に理解し様々な問題に対して実際に解析を行い解決につなげることが出来る。手法については、具体的に以下の4つの項目のうち3つについて習得していること (ただし4を含む) 1. エクセルでのピボットテーブル 2. エクセルを使ったデータ分析 (集計・抽出・分類・並べ替え) 3. エクセルを使ったグラフの作成とその応用 (ABC分析・Zチャート) 4. 多変量解析 (判別分析・クラスター分析)
評価C (69~60点) : データ解析の考え方と手法を十分に理解し様々な問題に対して実際に解析を行い解決につなげることが出来る。手法については、具体的に以下の4つの項目のうち2つについて習得していること (ただし4を含む) 1. エクセルでのピボットテーブル 2. エクセルを使ったデータ分析 (集計・抽出・分類・並べ替え) 3. エクセルを使ったグラフの作成とその応用 (ABC分析・Zチャート) 4. 多変量解析 (判別分析・クラスター分析)
評価F (59点以下) : データ解析の考え方および手法について十分に理解が出来ない。さらに様々な問題に対して実際に解析を行い解決につなげることが出来ない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年度生対象再試験の実施

■留意点

3回のレポートについては、提出方法以外の方法での提出や提出締め切り日以降の提出は認めない。

科目名 データフィケーション I (Data-verification I)

サブタイトル

担当教員 中村 有一

■講義目的

20世紀後半からコンピュータや通信の技術が急速に発達し、情報技術が社会や産業に大きなインパクトを与えるようになってきた。さらに21世紀になって、それまで予測されていたことがほぼ現実のものとなり、本格的な情報社会が到来した。これに伴って、これまでの工業社会とは異なる考えかたやモラルが必要とされる時代となった。また個人の生活の中にもパソコンなどの情報機器が普及し、それらの原理や役割を正しく把握し、うまく利用することが求められるようになってきた。この講義の目的は、現代の情報社会で必要とされる知識やモラルを身につけ、情報産業などの分野で活躍できる基礎をつくることである。

また、本講義によって情報通信の分野に、より興味をもってもらい、将来のゼミ選択や就職にも参考になるようにしたい。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

情報技術の概略を理解すること。情報化にともなう社会変化、産業構造の変化など、大きな流れを把握した上で、さまざまな課題を自分の頭で考えられるような能力を身につける。また情報社会で生きていくうえで必要なモラルについても習得する。

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

用語の意味を理解し、ミニテストなどの結果を振り返る。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：ハードウェア：コンピュータのハードウェアについて、ミクロな仕組みとマクロな設計思想について学ぶ。

事前,事後学習ポイント：予習用語：2進数、論理回路

<第 2 講>

概要：ハードウェア：コンピュータのハードウェアについて、ミクロな仕組みとマクロな設計思想について学ぶ。

事前,事後学習ポイント：予習用語：半加算器、全加算器、階層構成

<第 3 講>

概要：ソフトウェア：OSの仕組みと役割、代表的なアプリケーションソフトの要点について取り上げる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：基本ソフトウェア、OS、アプリケーションソフトウェア

<第 4 講>

概要：ソフトウェア：OSの仕組みと役割、代表的なアプリケーションソフトの要点について取り上げる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：日本語ワープロ、表計算ソフト、データベース管理ソフト

<第 5 講>

概要：ネットワーク：通信の基礎技術、コンピュータ同士をつなぐインターネットの仕組みなどについて話す。

事前,事後学習ポイント：予習用語：ネットワーク、アナログ通信、デジタル通信

<第 6 講>

概要：ネットワーク：通信の基礎技術、コンピュータ同士をつなぐインターネットの仕組みなどについて話す。

事前,事後学習ポイント：予習用語：パケット交換、インターネット、TCP/IP

<第 7 講>

概要：情報化と社会生活の変化：情報化によって社会がどのように変化したが、またその問題点は何かなどの点について考える。

事前,事後学習ポイント：予習用語：情報化、情報社会

<第 8 講>

概要：情報化と社会生活の変化：情報化によって社会がどのように変化したが、またその問題点は何かなどの点について考える。

事前,事後学習ポイント：予習用語：情報化、情報社会

<第 9 講>

概要：情報産業の発展：情報化による産業構造の変化、および新しい情報産業の発展について考える。

事前,事後学習ポイント：予習用語：産業構造、第3次産業、情報産業

<第 10 講>

概要：情報産業の発展：情報化による産業構造の変化、および新しい情報産業の発展について考える。

事前,事後学習ポイント：予習用語：産業構造、第3次産業、情報産業

<第 11 講>

概要：情報産業の発展：情報化による産業構造の変化、および新しい情報産業の発展について考える。

事前,事後学習ポイント：予習用語：産業構造、第3次産業、情報産業

<第 12 講>

概要：情報社会におけるモラル：情報化によって新しいモラルの考え方が必要になった。

事前,事後学習ポイント：予習用語：モラル、著作権、プライバシー、個人情報保護、不正アクセス、情報セキュリティ

<第 13 講>

概要：情報社会におけるモラル：情報化によって新しいモラルの考え方が必要になった。

事前,事後学習ポイント：予習用語：モラル、著作権、プライバシー、個人情報保護、不正アクセス、情報セキュリティ

<第 14 講>

概要：情報社会におけるモラル：情報化によって新しいモラルの考え方が必要になった。

事前,事後学習ポイント：予習用語：モラル、著作権、プライバシー、個人情報保護、不正アクセス、情報セキュリティ

<第 15 講>

概要：期末テスト：全体を通して期末テストを行う。

事前,事後学習ポイント：予習のポイント：講義ノートや各自が授業中にとったノートをもう一度全体的に読み直し、疑問点は質問して解決しておくこと。用語の意味を確実に説明できるようにしておくこと。2進数などの計算ができるようにしておくこと。

復習のポイント：試験問題は持ち帰り、自分でもう一度解きなおしてみる。わからない点があれば質問して解決しておくこと。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

授業内で適宜紹介する。

■評価方法

学期末試験70% レポートなど平常点30%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：ほぼ完璧な理解度と評価

評価A (89～80点)：上位の評価

評価B (79～70点)：中位の評価

評価C (69～60点)：下位の評価

評価F (59点以下)：不十分な理解度と評価

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

予備学習のポイント：PowerPointの資料は、概略を示したもので、これだけを読んで理解できないだろう。復習するときに、内容を整理するために使う。授業中に適宜紹介する参考文献を読むことにより、授業内容をより深く理解できるようにすることが望ましい。

科目名 データフィケーションII(Data-verification II)

サブタイトル

担当教員 深沢 弘美

■講義目的

産業社会における問題解決において、データは重要な役割を果たす。そのため、コンピュータ上で正しくデータを管理するための技術を身につけることはあらゆる業種、分野において大変重要となる。そこで本講義ではコンピュータでの情報管理の実践的知識として、リレーショナルモデルを中心としたデータベースの基礎概念(データベースマネージメントシステム:DBMS)について学習する。リレーショナルデータベースの基礎概念をもとにデータを効率的に管理することができるようになること、さらにはデータ管理の仕組みを構築することができるようになることが本講義の目標である。講義は演習と課題制作を含み、最終課題ではデータベースを設計・開発する。

■講義分類

ビジネス環境理解
 ビジネスマネージメント
 ビジネスICT

■到達目標

- ①リレーショナルデータベースの基本概念を理解し、効率的なデータ管理ができるようになること。
- ②正しいデータベースを設計できるようになること(ER図、正規化などの理解)。
- ③リレーショナルモデルによるデータベースを構築することができるようになること(Microsoft Accessによるデータベースの作成)。

■講義形態

講義

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

準備学習としては、「データベースとは何か」などインターネットなどを活用して学習しておくことが望ましい。授業は演習と並行して進めるので、ソフトウェアの操作とその理論的意味や必要性との対応を見直し、積極的に復習に取り組むことが必要である。

■講義の概要

- <第 1 講>
 概要: コンピュータ上でのデータ管理の基礎を学ぶ。
 事前,事後学習ポイント: データベースの可能性や有用性, リレーショナル・データベース(関係データベース)
- <第 2 講>
 概要: 住所録, 名簿など, 1つの表から成るもっともシンプルなデータベースを作成する。事前,事後学習ポイント: 表を構成する要素の名称, リレーショナルデータベース, DBMS
- <第 3 講>
 概要: データベース開発の手順を学ぶ。
 事前,事後学習ポイント: Accessの起動方法, 終了方法, 表の作成などの基本的な操作方法の復習, 標準化
- <第 4 講>
 概要: データの抽出と並べ替えについて学ぶ。
 事前,事後学習ポイント: Accessの複製(テーブルの作成, フィールドの定義), クエリの予習, 選択, 射影
- <第 5 講>
 概要: リレーショナルデータベースの基礎を学ぶ。
 事前,事後学習ポイント: 表の作成, フィールドの定義, リレーションシップ, クエリ, 選択, 射影, 結合
- <第 6 講>
 概要: リレーショナルデータベースの設計(1)
 事前,事後学習ポイント: ER図, 正規化
- <第 7 講>
 概要: リレーショナルデータベースの設計(2)
 事前,事後学習ポイント: リレーションシップ, ER図, 正規化
- <第 8 講>
 概要: リレーショナルデータベースの設計(3)
 事前,事後学習ポイント: リレーションシップ, ER図, 正規化
- <第 9 講>
 概要: リレーションシップに着目したデータベースの設計と活用
 事前,事後学習ポイント: リレーションシップ, ER図, 正規化
- <第 10 講>
 概要: リレーションシップに着目したデータベースの設計と活用
 事前,事後学習ポイント: リレーションシップ, ER図, 正規化

<第 11 講>

- 概要: フォーム・レポートの利用
 事前,事後学習ポイント: Access基本操作の復習, 表の設計
- <第 12 講>
 概要: クエリの利用
 事前,事後学習ポイント: クエリ, 選択, 射影
- <第 13 講>
 概要: 課題制作
 事前,事後学習ポイント: リレーショナルデータベース, Accessの操作, クエリ, フォーム, レポート
- <第 14 講>
 概要: 課題制作
 事前,事後学習ポイント: リレーショナルデータベース, Accessの操作, クエリ, フォーム, レポート
- <第 15 講>
 概要: まとめ
 事前,事後学習ポイント: リレーショナルデータベース, オブジェクト指向データベース, MySQL, Posgre, Oracle

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

- [1]弓場秀樹, 武田喜美子「図解 そがけ知りたいたくわかる実践データベース-基礎知識からインテグレーション業務に直結した応用知識まで」
- [2]谷成かをり「これだけはおさえない データベース基礎の基礎」
- [3]実教出版編集部「30時間でマスター Access2010-Windows7対応」実教出版
- [4]教材あきこ「Accessはじめてのデータベース」技術評論社
- [5]高橋麻奈「ここからはじめるデータベース」日本実教出版

■評価方法

期末試験(40%), 授業内課題等平常点(60%)

■評価基準

- 評価A+ (90点以上) : ①リレーショナルデータベースの基本概念を理解し、効率的なデータ管理ができるようになること。 ②正しいデータベースを設計できるようになること(ER図, 正規化などの理解)。 ③リレーショナルモデルによるデータベースを構築することができるようになること(Microsoft Accessによるデータベースの作成)。上記①から③をマスターし、データベースの設計から開発まですべてを一から自分で行える。
- 評価A (89-80点) : ①リレーショナルデータベースの基本概念を理解し、効率的なデータ管理ができるようになること。 ②正しいデータベースを設計できるようになること(ER図, 正規化などの理解)。 ③リレーショナルモデルによるデータベースを構築することができるようになること(Microsoft Accessによるデータベースの作成)。上記①から③について大半を理解し、データベースの設計から開発までを、教師や仲間の助けをかりながら行える力をつけた。ER図や正規化などの理論的な理解に不十分な部分があった。
- 評価B (79-70点) : ・リレーショナルデータベースの基本概念を理解し、効率的なデータ管理ができる。 ・データベースの設計に関する理論的な理解は十分ではないが、指示に従ってデータベースを設計, 作成, 修正することができる。
- 評価C (69-60点) : 基礎となる用語等を理解し, 教科書通り操作することはできたが, 表面的な理解にとどまり手順を反復的に使っただけだった。
- 評価F (59点以下) : 基礎的な用語の理解が不十分で, 教科書等に従って操作することもできなかった。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

初回授業にて調査を行い1回目以降のクラス(1時間目か2時間目か)を決定するので、履修

希望者は必ず出席すること。

授業は、演習形式で学習を積み上げていくので、欠席をしないこと。欠席した場合は、授業内容や課題を確認し各自学習を行うこと。

「Webプログラミング」では、本講義の知識、能力を必要とするため、履修を希望する場合は本科目を履修すること。

科目名 デザインワークショップ I (Design Workshop I)

サブタイトル

担当教員 中村 有一

■講義目的

本講義は、Java言語によるプログラミングの入門コースである。将来SEなどを目指し、職業的なプログラミング技術を身につけたい学生には、この科目を受講することを強く勧める。Java言語は、最近広く普及しているプログラミング言語であり、この言語を一通り習得していると、さまざまな場面で役に立つ。また「情報処理技術者試験」などの資格試験を受ける場合にも有効である。

授業は、基礎的なプログラミングの構造の説明と、その演習の繰り返しで行っていく。単元ごとにレポートの提出を求めるため、各自、空き時間にはしっかりと復習をすることが必要である。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

Java言語を一通り使いこなせるようになることが最終目標である。

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

プログラムの意味を理解し、ミニテストなどの結果を振り返る。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：Java言語入門：プログラム・プログラミング・プログラミング言語についての基礎知識を得る。

事前,事後学習ポイント：予習用語：プログラム、プログラミング、コンパイル、コンパイラ、デバッグ、エラー、ウォーニング

<第 2 講>

概要：開発環境の整備：Javaの開発環境を整備し、使い方を学ぶ。

事前,事後学習ポイント：予習用語：開発環境、コンパイル、コンパイラ、インタプリタ、エディタ、中間言語

<第 3 講>

概要：入出力と変数：入力と出力について取り上げる。また変数の概念、変数名のつけ方、変数の型について理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：入力、出力、標準入出力、変数、型、宣言、変数名

<第 4 講>

概要：四則演算と代入：足し算、引き算、掛け算、割り算のいわゆる四則演算の仕方を学ぶ。また計算式の書き方、代入のしかたも取り上げる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：四則演算、代入文、剰余演算子、実行時のエラー、自動型変換、演算子の優先順位

<第 5 講>

概要：枝分かれ：枝分かれの仕組みと、その使い方を学ぶ。if文とswitch文の違いについても理解する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：枝分かれ、if文、switch文、入れ子構造、ネスト、関係演算子、論理演算子

<第 6 講>

概要：for文による繰り返し：for文によって、回数が決まっているような規則的な繰り返しを行う方法を学ぶ。漸化式の扱いにも慣れておく必要がある。

事前,事後学習ポイント：予習用語：for文、インクリメント、デクリメント、漸化式

<第 7 講>

概要：while文、do while文による繰り返し：while文、do while文の使い方を学ぶ。これらは条件が成り立っているあいだ繰り返しを行う構文である。

事前,事後学習ポイント：予習用語：while文、do while文、無限ループ

<第 8 講>

概要：配列：配列は、規則的に並んだデータを扱う場合に使われるデータ構造である。この使い方を習得する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：配列、添字、最大値、最小値、横棒グラフ、頻度分布、スタック、スタックポインタ、プッシュ、ポップ、ソート、単純選択法

<第 9 講>

概要：関数：関数はひとまとまりの処理に名前を付けて、部品として呼び出せるようにしたものである。

事前,事後学習ポイント：予習用語：関数、関数宣言、関数定義、再帰的定義、クイックソート

<第 10 講>

概要：GUIの利用：GUI(Graphical User Interface)の機能を使ったプログラミ

ング手法を取り上げる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：GUI、ボタン、テキストボックス、ラベル、画面設計

<第 11 講>

概要：グラフィクス：Javaにおけるグラフィクスの機能を取り上げる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：グラフィクス

<第 12 講>

概要：イベント処理：Javaにおけるイベント処理の機能を取り上げる。

事前,事後学習ポイント：予習用語：イベント、イベント処理

<第 13 講>

概要：レポート作成：今までの知識を総動員して、ある程度の大きさの実用的なプログラムを作成する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：なし

<第 14 講>

概要：レポート作成：今までの知識を総動員して、ある程度の大きさの実用的なプログラムを作成する。

事前,事後学習ポイント：予習用語：なし

<第 15 講>

概要：期末テスト：全体を通して期末テストを行う。

事前,事後学習ポイント：予習用語：なし

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

授業の中で適宜紹介する。

■評価方法

学期末試験50% レポートなど平常点50%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：ほぼ完璧な理解度と評価

評価A (89~80点)：上位の評価

評価B (79~70点)：中位の評価

評価C (69~60点)：下位の評価

評価F (59点以下)：不十分な理解度と評価

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

プログラミング言語の学習においては、面倒がらずに自分でプログラムを打ち、実行して確認していくことが重要である。いろいろなエラーを経験すること、つまり失敗することが、成功すること以上に意味を持っている。わからないことは、できるだけ授業中に質問して解決する各自の心がけよう。

授業には、毎回各自のノートPCを必ず持ってくること。

科目名 デザインワークショップ II (Design Workshop II)

サブタイトル

担当教員 田中 雄

■講義目的

オブジェクト指向のプログラミング言語【JAVA】は、サーバ制御、Androidなどの携帯端末、さらには組み込み系など、様々な場面で活躍しているプログラミング言語である。開発効率が高く、フリーの優秀なフレームワークや開発環境が揃っているため、採用している企業も多い。将来SEなどを目指し、職業的なプログラミング技術を身につけたい学生には、この科目を受講することを強く勧める。

本講義の前半では、プログラミング言語Iで学習した順次処理、分岐処理、繰り返し処理を復習して、JAVAのコーディングスキルを確かなものにする。後半では、データの作成や集計、並び替えのプログラミングを実践して、データを処理するアルゴリズムの基礎について理解を深める。

本講義では、教員が先立って答えを提示することはない。指名された受講者が教卓のPCにプログラムを入力していき、課題を完成させていく。自分の頭で考えて、アイデアを表現する力を身につけてもらいたい。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

JAVAのプログラミングと、情報処理技術者試験に出題されるアルゴリズムの基礎を身につけることを目指す。

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義の概要に記載した事前に学習しておくべき用語やポイントについて、講義資料を読んだり、インターネットで検索して意味を調べておく。

また、講義中に解決できなかったエラーや理解が追いつかなかった項目は、次の講義まで調査して、解決しておくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：開発環境の確認と入力

事前,事後学習ポイント：プログラミング言語Iの復習

<第 2 講>

概要：Google Driveのセットアップと復習

事前,事後学習ポイント：プログラミング言語Iの復習、Google Drive

<第 3 講>

概要：四則演算と余りの復習

事前,事後学習ポイント：+、-、*、/、%

<第 4 講>

概要：if文の復習と計算機の開発

事前,事後学習ポイント：if、==、!=、>、>=、<、<=、<

<第 5 講>

概要：if文の復習と計算機の開発

事前,事後学習ポイント：if、==、!=、>、>=、<=、<

<第 6 講>

概要：リュカ数列を求めるプログラムの開発

事前,事後学習ポイント：数列、リュカ数列

<第 7 講>

概要：リュカ数列を求めるプログラムの開発

事前,事後学習ポイント：数列、リュカ数列

<第 8 講>

概要：乱数の生成と繰り返しと配列を復習して、検索アルゴリズムを学ぶ

事前,事後学習ポイント：乱数、Random、繰り返し、for、配列、検索

<第 9 講>

概要：乱数の生成と繰り返しと配列を復習して、検索アルゴリズムを学ぶ

事前,事後学習ポイント：乱数、Random、繰り返し、for、配列、検索

<第 10 講>

概要：ファイルの入出力と合計、平均を学ぶ

事前,事後学習ポイント：ファイル入出力、File、コンマ区切りテキスト(CSV)、平均

<第 11 講>

概要：ファイルの入出力と合計、平均を学ぶ

事前,事後学習ポイント：ファイル入出力、File、コンマ区切りテキスト(CSV)、平均

<第 12 講>

概要：最小値、最大値を探すプログラムの開発

事前,事後学習ポイント：繰り返し、if

<第 13 講>

概要：並び替えプログラムの開発

事前,事後学習ポイント：並び替え、ソート、バブルソート

<第 14 講>

概要：並び替えプログラムの開発

事前,事後学習ポイント：並び替え、ソート、バブルソート

<第 15 講>

概要：学期末試験

事前,事後学習ポイント：これまでの課題をよく復習する。

■教科書

別途指定する。

■指定図書

紀平拓男・春日伸弥 『プログラミングの宝箱 アルゴリズムとデータ構造』 ソフトバンクパブリッシング

中山 清香・国本 大悟 『スッキリわかるJava入門』 インプレスジャパン

■参考文献・参考URL / Reference List

<http://edu.amvd.net/java/>

■評価方法

日常課題50%、期末テスト50%。出席が80%を満たさない場合は減点する。

■評価基準

評価A+（90点以上）：出席、課題、テストを総合して、90%以上の高得点を獲得している。

評価A（89～80点）：JAVAの応用的なプログラムを書くことができる。

評価B（79～70点）：JAVAの簡単なプログラムを書くことができる。

評価C（69～60点）：JAVAのプログラムを読んで理解することができる。

評価F（59点以下）：出席が足りない。あるいは、基本的なJAVAの文法が理解できていない。

■履修していることが望ましい科目

プログラミング言語I

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・プログラミング言語Iの内容を理解していることを前提とする。
- ・講義と日常の課題を通して、JAVAを身につける努力をしたかを学期末試験で問う。出席や日常課題だけでは単位は取れない。
- ・一度身につければ、プログラミングの世界ではとても役に立つ内容である。頭が柔らかく、ガッツがあるうちに、頑張って身につけよう。

科目名 TOEIC I(TOEIC I)

サブタイトル 特に英語検定試験受験を必要とする海外活動のために

担当教員 石川 晴子

■講義目的

English Expressionと並行してまたはその後、英語力を継続的に高め、TOEICの点数アップをめぐり学生のための授業である。英語の総合的な力が上げればTOEICの点数も、もちろん上がって行くはずであるが、特徴のある能力資格試験なので、どのような傾向の問題がどのような形で出題されるのか、といった予備知識や技術的な訓練、慣れも大切な要素となる。

この講義ではTOEICの得点を少なくとも現在の自分の点数から100点を上げることをめざし、リスニングリーディング両セクションで確実に点数を取ることに加えて、語彙、文法、読解力の増強をはかる。ただ、TOEICの点数を上げるだけが英語を学ぶ目的ではないので、単なるノウハウに終わらせることなく、最後には、TOEICの勉強をしたことが一人一人の英語コミュニケーション能力を総合的に高める結果につなげたい。

■講義分類

英語検定試験準備
自己表現・英語コミュニケーション

■到達目標

授業履修前のTOEIC得点より100点アップした実力をつける。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準授業学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

TOEIC受験へ向けての準備

■講義の概要

<第 1 講>

概要：以下の項目を基礎力を中心に講義する。

TOEICの概要と構成

TOEICの概要と構成について説明し、全体をしっかりと把握する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：日における英語検定試験

<第 2 講>

概要：TOEICの出題傾向

TOEICにどのような問題が出題されるのかの傾向と対策

リスニング問題およびリーディング問題がどのようなものかをパート別に説明する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：英語の品詞

<第 3 講>

概要：TOEICの点数を効率よくアップさせるには。

TOEIC Iの点数を効率的に上げるために、まず、特に押さえおく語彙や慣用表現は何か、について解説する。また頻出問題を観察分析することにより、それらの語彙や表現が実際の試験にどのように出てくるかを確認する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：人称、時制

<第 4 講>

概要：リスニング問題で心がけること。

リスニング問題は問題文が印刷されているわけではない一音として流れて来るものをその場で聞き取って理解しなければならず、一瞬の勝負となるので、問題形式や流れに慣れて聞き取る力をつける。仮にすべてが聞き取れなくても、どこの部分に特に注意を向けて聞いたらよいか、というリスニング問題に答えるためのコツをつかむ。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：態

<第 5 講>

概要：英語の音のクセをつかむ。リズム、イントネーション、連結、同化、短縮、破裂、脱落など。

英語の音のつらなりは、日本語とはまったく異なるものであり、日本語には起こらないような音の連結や同化、短縮、脱落などが起こる。日本語者に慣れている「日本語耳」はそれらの現象ととらえにくいので、ただ、英語を聞き続けているだけではなかなか得点アップに結び付かない。上記の現象を説明して英語の聞き取りのポイントを押さえ、「英語耳」を養うことを心がける。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：パラフレーズ

<第 6 講>

概要：TOEICは授業以外の家での自習が大きな要素-効果的な自習とは。

TOEICの得点アップには、教室でのいろいろな活動に加えて、教室外での心構えと学習態度、自習が大きな意味を持つ。一人でTOEICの学習に取り組むときに大切なことを講義する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：英語名詞の可算、不可算

<第 7 講>

概要：TOEICの勉強をすることによって自分を光らせるような英語センスを磨く。

TOEICの勉強の目標は、TOEICの点数を上げることだけでなく、それによって英語コミュニケーション力を上げることである。TOEIC600点を持っていて、ネイティブと円滑にコミュニケーションできないのでは意味がない。この授業でのこれまでの学習項目を実際のコミュニケーションにどのように生かすかについて講義する。一例としてはTOEICによく出題される英語の会話表現を実際を用いて、教室で疑似オフィスミーティングなどを行う。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：英語の否定表現

<第 8 講>

概要：聞き取ると同時に自分の発音もよりよいものに。

第7講と同じように、TOEICのリスニング力を高めるためにこの授業で行ってきたトレーニングに併せて、発音練習も行い、スピーキングテストに対する準備をする。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：英語の進行形

<第 9 講>

概要：ここであらためて、よく出題される語彙、文法問題を押さえ、模擬試験に挑戦する。

TOEICには頻繁に出題される特定のビジネスの場面があるので、そのような場面で頻出する語彙、文法問題を中心に扱う。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：英語の比較表現

<第 10 講>

概要：Reading問題の特徴を知り読解力を高める。

TOEICのリーディング問題には、問題文で用いられた語彙や表現が、質問文ではパラフレーズされる(英語の別の表現に言い換えられる)という特徴がある。TOEICでは、英文和訳は出題されないので、リーディング問題の攻略にはこのパラフレーズを理解し、見破れるかが大きな要素となる。リーディング問題の傾向と特徴を解説するとともに、TOEICのパラフレーズについて説明する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：不定詞

<第 11 講>

概要：読解の時に必要な文法事項を復習する。(現在分詞、過去分詞、関係代名詞を中心に)

reading partの点数を上げるためにどんなものを日ごろ読んでよいかを講義する。特に最近はお金を出して本を買わなくてもインターネット上にも多くの題材が無料で提供されているのでそれらの題材の利用法についても取り上げる。教員が紹介するインターネットサイトにアクセスし、そのサイトの教材を実際に読んでみる。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：現在分詞、過去分詞

<第 12 講>

概要：最近のTOEICの出題傾向を把握する。

最近のTOEICでは、あたりまえのことかもしれないが、IT関係の小トピックに関する問題が多く出題される。その傾向について講義する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：使役

<第 13 講>

概要：英語の定番表現、決まり文句を今一度TOEICの視点から見直して復習する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：仮定法過去

<第 14 講>

概要：速読の技法を身に付ける。

TOEIC受験はある意味時間との勝負である。できれば問題を片づけるコツを身に付ける。また模擬試験を受け、2時間というテスト時間の中でのペース配分を身に付ける。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：仮定法過去完了

<第 15 講>

概要：期末試験および総括

事前,事後学習ポイント：これまでの学習事項の復習

■教科書

プリントを配布

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

評価は、期末テスト、授業内課題や活動、小テスト、宿題の提出を等分の割合で評価する。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：評価方法により計算された総合点が90%以上の場合

評価A (89～80点) : 評価方法により計算された総合点が89～80%以上の場合

評価B (79～70点) : 評価方法により計算された総合点が79～70%の場合

評価C (69～60点) : 評価方法により計算された総合点が69～60%の場合

評価F (59点以下) : 評価方法により計算された総合点が59%以下の場合

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

事前履修科目について

【2011～2013年度入学生適用】同一言語にて4単位 (English Expression IとII、中国語IとII、韓国語IとII、もしくはプログラミング言語入門IとIIの組み合わせ) を修得していること。

【2014年度入学生適用】同一言語にこだわらずD区分4単位を修得していること。

履修定員について

この科目は原則30人の人数制限がある。履修希望者が30人を上回った場合は、初回の授業に出席した学生を優先し、加えて初回の授業で選抜に関する説明や授業の進め方に関して重要な指示を出すので、初回の授業に必ず出席すること。上記理由で初回の授業に欠席した場合履修できないことがある。

科目名 TOEIC II(TOEIC II)**サブタイトル** 特に英語検定試験受験を必要とする海外活動のために**担当教員** 石川 晴子**■講義目的**

English Expressionと並行してまたはその後、英語力を継続的に高め、TOEICの点数アップをめざす学生のための授業である。英語の総合的な力が上げればTOEICの点数も、もちろん上がって行くはずであるが、特徴のある能力資格試験なので、どのような傾向の問題がどんな形で出題されるのか、といった予備知識や技術的な訓練、慣れも大切な要素となる。

この講義ではTOEICの得点を少なくとも現在の自分の点数から100点を上げることをめざし、リスニングリーディング両セクションで確実に点数を取ることに加えて、語彙、文法、読解力の増強をはかる。ただ、TOEICの点数を上げるだけが英語を学ぶ目的ではないので、単なるノウハウに終わらせることなく、最後には、TOEICの勉強をしたことが一人一人の英語コミュニケーション能力を総合的に高める結果につなげたい。

■講義分類

英語検定試験準備

自己表現・英語コミュニケーション

■到達目標

授業履修前のTOEIC得点より100点アップした実力をつける。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■単元学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

TOEIC受験へ向けての準備

■講義の概要

<第1講>

概要：以下の項目を応用力、難易度の高い問題を中心に講義する。

TOEICの概要と構成

TOEICの概要と構成について説明し、全体をしっかりと把握する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：日における英語検定試験

<第2講>

概要：TOEICの出題傾向

TOEICにどのような問題が出題されるのかの傾向と対策
リスニング問題およびリーディング問題がどのようなものかをパート別に説明する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：品詞

<第3講>

概要：TOEICの点数を効率よくアップさせるには。

TOEICの点数を効率的に上げるために、まず、特に押さえておく語彙や慣用表現は何か、について解説する。また頻出問題を観察分析することにより、それらの語彙や表現が実際の試験にどのように出てくるかを確認する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：母音、子音

<第4講>

概要：リスニング問題で心がけること。

リスニング問題は問題文が印刷されているわけではない＝音として流れて来るものをその場で聞き取って理解しなければならず、一瞬の勝負となる＝ので、問題形式や流れに慣れて聞き取り力をつける。仮にすべてが聞き取れなくても、どこ部分に特に注意を向けて聞いたらよいか、というリスニング問題に答えるためのコツをつかむ。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：英語音のリダクション

<第5講>

概要：英語の音のクセをつかむ。リズム、イントネーション、連結、同化、短縮、破裂、脱落など。

英語の音のつらなりは、日本語とはまったく異なるものであり、日本語には起こらないような音の連結や同化、短縮、脱落などが起こる。日本語に慣れている「日本語耳」はそれらの現象をとらえにくいので、ただ、英語を聞き続けているだけではなかなか得点アップに結び付かない。上記の現象を説明して英語の聞き取りのポイントを押さえ、「英語耳」を養うことを心がける。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：助動詞

<第6講>

概要：TOEICは授業以外の家で自分の習が大きな要素-効果的な自習とは。

TOEICの得点アップには、教室でのいろいろな活動に加えて、教室外での心構えと学習態度、自習が大きな意味を持つ。一人でTOEICの学習に取り組むとくに大切なことを講義する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：機能表現

<第7講>

概要：TOEICの勉強をすることによって自分を光らせるような英語センスを磨く。

TOEICの勉強の目標は、TOEICの点数を上げることだけではなく、それによって英語コミュニケーション力を上げることである。TOEIC600点を持っていて、ネイティブを円滑にコミュニケーションできないのでは意味がない。この授業でのこれまでの学習項目を実際のコミュニケーションにどのように生かすかについて講義する。一例としてはTOEICにもよく出題される英語の会話表現を実際に使って、教室で疑似オフィスミーティングなどを行う。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：接続詞と前置詞

<第8講>

概要：聞き取ると同時に自分の発音もよりよいものに。

第7講と同じように、TOEICのリスニング力を高めるためにこの授業で行ってきたトレーニングに併せて、発音練習も行い、スピーキングテストに対する準備をする。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：自動詞、他動詞

<第9講>

概要：ここであらためて、よく出題される語彙、文法問題を押さえて、模擬試験に挑戦する。

TOEICには頻繁に出題される特定のビジネスの場面があるので、そのような場面で頻出する語彙、文法問題を中心に扱う。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：無生物主語

<第10講>

概要：reading問題の特徴を知り読解力を高める。

TOEICのリーディング問題には、問題文で用いれた語彙や表現が、質問文ではパラフレーズされる(英語の別の表現に言い換えられる)という特徴がある。TOEICでは、英文和訳は出題されないので、リーディング問題の攻略にはこのパラフレーズを理解し、見破れるかが大きな要素となる。リーディング問題の傾向と特徴を解説するとともに、TOEICのパラフレーズについて説明する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：複合動詞

<第11講>

概要：読解の時に必要な文法事項を復習する。(現在分詞、過去分詞、関係代名詞を中心に)

reading partの点数を上げるためにどんなものを日ごらんだらよいかを講義する。特に最近はお金を出して本を買わなくてもインターネット上にも多くの題材が無料で提供されているのでそれらの教材の利用法についても取り上げる。教員が紹介するインターネットサイトにアクセスし、そのサイトの教材を実際に読んでみる。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：イディオム、慣用語、コロケーション

<第12講>

概要：最近のTOEICの出題傾向を把握する。

最近のTOEICでは、あたりまえのことかもしれないが、1T関係のトピックに関する問題が多く出題される。その傾向について講義する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：スモルトーク

<第13講>

概要：英語の定書表現、決まり文句を今一度TOEICの視点から見直して復習する。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：コミュニケーションストラテジー

<第14講>

概要：速読の技法を身に付ける。

TOEIC受験はある意味時間との勝負である。できばせと問題を片付けるコツを身に付ける。また模擬試験を受け、2時間というテスト時間の中でのペース配分を身に付ける。

事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：場面、文脈、含意、言外の意味

<第15講>

概要：期末試験および総括

事前,事後学習ポイント：これまでの学習項目の復習

■教科書

プリントを配布

■指定図書**■参考文献・参考URL / Reference List****■評価方法**

評価は、期末テスト、授業内課題や活動、小テスト、宿題の提出を等分の割合で評価する。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 評価方法により計算された総合点が90%以上の場合
評価A (89~80点) : 評価方法により計算された総合点が89~80%の場合
評価B (79~70点) : 評価方法により計算された総合点が79~70%の場合
評価C (69~60点) : 評価方法により計算された総合点が69~60%の場合
評価F (59点以下) : 評価方法により計算された総合点が59%以下の場合

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

事前履修科目について

【2011~2013年度入学生適用】同一言語にて4単位 (English Expression IとII、中国語とII、韓国語IとII、もしくはプログラミング言語入門IとIIの組み合わせ) を修得していること。

【2014年度入学生適用】同一言語にこだわらずD区分4単位を修得していること。

履修定員について

この科目は原則30人の人数制限がある。履修希望者が30人を上回った場合は、初回の授業に出席した学生を優先し、加えて初回の授業で選抜に関する説明や授業の進め方に関して重要な指示を出すので、初回の授業に必ず出席すること。上記理由で初回の授業に欠席した場合履修できないことがある。

科目名 特別講座I(Consideration revolution I)

サブタイトル 寺島実郎学長監修リレー講座

担当教員 寺島・久恒・諸橋・金・バートル・中庭・志賀・小林・奥山・増田・久保田・中澤・栢原

■講義目的

寺島実郎学長が唱えてきた「世界潮流と日本の進路」を軸に、国際情勢、経済、国内行政、IT、歴史など各分野における精鋭の専門家を講師として招き、通年体系的なプログラムを開催する。

現代世界は、単なる同時不況、経済危機を超え、本質的な意味での構造転換に直面している。「外は広く、内は深い」、このことを知るだけで人間の重心は下がる。鈴木大拙の言葉のごとく、より広い視野で世界を見渡し、より深く自らの立脚点を見つめる視座が求められている。

この連続講義では、我々が生きている時代を的確に把握し認識するために、世界から見た日本、また日本国内の諸問題について複数回にわたって多面的に取り上げることで、問題意識の提起と深化を目指す。時代に発信する識者の生の声を聞いて現代世界を生きるヒントを得てもらいたい。

■講義分類

- 顧客理解
- ビジネス環境理解
- ビジネス創造
- ビジネスマネジメント
- 社会人育成
- グローバルビジネス
- ビジネスICT
- 地域ビジネス

■到達目標

自分自身が生きている時代を把握し認識するために、連続講座を通じて提起される数々の問題や課題について自身なりの解決策を考える。

■講義形態

講義とレポート作成。

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

- ①寺島実郎学長監修リレー講座パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。
- ②中間レポートや最終レポートの作成にあたり、「レポートの書き方」について解説する。

■講義の概要

<第1講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第2講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第3講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第4講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第5講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第6講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第7講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第8講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第9講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第10講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第11講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第12講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第13講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第14講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第15講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

■教科書

- ①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)
- ②『世界を知る力 日本編生誕』(寺島実郎、PHP新書、2011年)
- ③『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実郎、文春新書、2013年)
- ④『若き日本の肖像-1900年、欧州への旅-』(寺島実郎、新潮文庫、2014年)

■指定図書

- ①『二十世紀から何を学ぶか(上)(下)』(寺島実郎、新潮選書、2007)
- ②『脳力のレッスンI-正気の時代のために-』(寺島実郎、岩波書店、2004)
- ③『脳力のレッスンII-脳9.11への視座-』(寺島実郎、岩波書店、2007)
- ④『脳力のレッスンIII-問いかけとしての戦後日本と日米同盟-』(寺島実郎、岩波書店、2010)
- ⑤『脳力のレッスンIV-リベラル再生の基軸-』(寺島実郎、岩波書店、2014)
- ⑥『時代との対話 寺島実郎対談集』(寺島実郎、ぎょうせい、2010)
- ⑦『新しい世界観を求めて』(寺島実郎、毎日新聞社、2010)
- ⑧『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK出版、2012年)
- ⑨『時代を見つめる「目」』(寺島実郎、潮出版社、2013)

■参考文献・参考URL / Reference List

随時、配布・紹介する。

■評価方法

出席(40%)、講義メモ(30%)、中間および最終レポート(30%)の割合で評価する。

■評価基準

- 評価A+ (90点以上)：出席(40%)、講義メモ(30%)、中間および最終レポート(30%)の合算点が、90%以上であること。尚、最終レポートは、寺島学長が採点する。
- 評価A (89~80点)：出席(40%)、講義メモ(30%)、中間および最終レポート(30%)の合算点が、89~80%であること。尚、最終レポートは、寺島学長が採点する。
- 評価B (79~70点)：出席(40%)、講義メモ(30%)、中間および最終レポート(30%)の合算点が、79~70%であること。尚、最終レポートは、寺島学長が採点する。
- 評価C (69~60点)：出席(40%)、講義メモ(30%)、中間および最終レポート(30%)の合算点が、69~60%であること。尚、最終レポートは、寺島学長が採点する。
- 評価F (59点以下)：出席(40%)、講義メモ(30%)、中間および最終レポート(30%)の合算点が59%以下の場合は、不合格とする。

■履修していることが望ましい科目

グローバルビジネス系、地域ビジネス系、ビジネスICT系のすべての科目に関連する。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

- ①第1回目のガイダンスに出席しない場合は、履修できない。尚、履修希望者が多い場合(座席数が限られている為)、志望動機書を基準にして履修者を決定する。春学期に履修できなかった場合は、秋学期に履修すること。

- ②地域住民をはじめとする一般参加者350名(有料)と一緒に外部講師の講演を聴講するため、受講ルールを厳守すること。(携帯電話・パソコン使用や私語・帽子着用・飲食の禁止、遅刻および途中退室の厳禁など)
- ③001教室の座席は、事前に指定された席に着席すること。受講態度は、座席番号でチェックする。
- ④自分自身の生きている時代と社会を見つめ、自分はどう生きるべきかを思索し、発見するための講義としたい。講義で学んだ内容は、就職活動や社会生活などで自信を持って話せるようにしてもらいたい。情熱を持って参加して欲しい。

科目名 特別講座II(Consideration revolution II)

サブタイトル 寺島実郎学長監修リレー講座

担当教員 寺島・久恒・諸橋・金・バートル・中庭・志賀・小林・奥山・増田・久保田・中澤・栢原

■講義目的

寺島実郎学長が唱えてきた「世界潮流と日本の進路」を軸に、国際情勢、経済、国内行政、IT、歴史など各分野における精鋭の専門家を講師として招き、通年体系的なプログラムを開催する。

現代世界は、単なる同時不況、経済危機を超え、本質的な意味での構造転換に直面している。「外は広く、内は深い」、このことを知るだけで人間の重心は下がる。鈴木大拙の言葉のごとく、より広い視野で世界を見渡し、より深く自らの立脚点を見つめる視座が求められている。

この連続講義では、我々が生きている時代を的確に把握し認識するために、世界から見た日本、また日本国内の諸問題について複数回にわたり多面的に取り上げることで、問題意識の提起と深化を目指す。時代に発信する識者の生の声を聞いて現代世界を生きるヒントを得てもらいたい。

■講義分類

- 顧客理解
- ビジネス環境理解
- ビジネス創造
- ビジネスマネジメント
- 社会人育成
- グローバルビジネス
- ビジネスICT
- 地域ビジネス

■到達目標

自分自身が生きている時代を把握し認識するために、連続講座を通じて提起される数々の問題や課題について自身なりの解決策を考える。

■講義形態

講義とレポート作成。

■単科学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

- ①寺島実郎学長監修リレー講座パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。
- ②中間レポートや最終レポートの作成にあたり、「レポートの書き方」について解説する。

■講義の概要

<第1講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第2講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第3講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第4講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第5講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第6講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第7講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第8講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第9講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第10講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第11講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第12講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第13講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第14講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

<第15講>

概要：別途、パンフレットを配布する。
事前,事後学習ポイント：パンフレットのテーマにしたがってキーワードを調べる。

■教科書

- ①『世界を知る力』(寺島実郎、PHP新書、2010年)
- ②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実郎、PHP新書、2011年)
- ③『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実郎、文春新書、2013年)
- ④『若き日本の肖像-1900年、欧州への旅-』(寺島実郎、新潮文庫、2014年)

■指定図書

- ①『二十世紀から何を学ぶか(上)(下)』(寺島実郎、新潮選書、2007)
- ②『脳力のレッスンI-正気の時代のために-』(寺島実郎、岩波書店、2004)
- ③『脳力のレッスンII-脳9.11への視座-』(寺島実郎、岩波書店、2007)
- ④『脳力のレッスンIII-問いかけとしての戦後日本と日米同盟-』(寺島実郎、岩波書店、2010)
- ⑤『脳力のレッスンIV-リベラル再生の基軸-』(寺島実郎、岩波書店、2014)
- ⑥『時代との対話 寺島実郎対談集』(寺島実郎、ぎょうせい、2010)
- ⑦『新しい世界観を求めて』(寺島実郎、毎日新聞社、2010)
- ⑧『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実郎、NHK出版、2012年)
- ⑨『時代を見つめる「目」』(寺島実郎、潮出版社、2013)

■参考文献・参考URL / Reference List

随時、配布・紹介する。

■評価方法

出席(40%)、講義メモ(30%)、中間および最終レポート(30%)の割合で評価する。

■評価基準

- 評価A+ (90点以上)：出席(40%)、講義メモ(30%)、中間および最終レポート(30%)の合算点が、90%以上であること。尚、最終レポートは、寺島学長が採点する。
- 評価A (89~80点)：出席(40%)、講義メモ(30%)、中間および最終レポート(30%)の合算点が、89~80%であること。尚、最終レポートは、寺島学長が採点する。
- 評価B (79~70点)：出席(40%)、講義メモ(30%)、中間および最終レポート(30%)の合算点が、79~70%であること。尚、最終レポートは、寺島学長が採点する。
- 評価C (69~60点)：出席(40%)、講義メモ(30%)、中間および最終レポート(30%)の合算点が、69~60%であること。尚、最終レポートは、寺島学長が採点する。
- 評価F (59点以下)：出席(40%)、講義メモ(30%)、中間および最終レポート(30%)の合算点が59%以下の場合は、不合格とする。

■履修していることが望ましい科目

グローバルビジネス系、地域ビジネス系、ビジネスICT系のすべての科目に関連する。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

- ①第1回目のガイダンスに出席しない場合は、履修できない。尚、履修希望者が多い場合(座席数が限られている為)、志望動機書を基準にして履修者を決定する。春学期に履修できなかった場合は、秋学期に履修すること。

- ②地域住民をはじめとする一般参加者350名(有料)と一緒に外部講師の講演を聴講するため、受講ルールを厳守すること。(携帯電話・パソコン使用や私語・帽子着用・飲食の禁止、遅刻および途中退室の厳禁など)
- ③001教室の座席は、事前に指定された席に着席すること。受講態度は、座席番号でチェックする。
- ④自分自身の生きている時代と社会を見つめ、自分はどう生きるべきかを思索し、発見するための講義としたい。講義で学んだ内容は、就職活動や社会生活などで自信を持って話せるようにしてもらいたい。情熱を持って参加して欲しい。

科目名 日本経営史Ⅰ(Business History of Japan Ⅰ)

サブタイトル

担当教員 常見 耕平

■講義目的

近代(明治から昭和前期)日本の企業経営の歴史を理解する。

■講義分類

■到達目標

近代日本の企業経営の歴史を理解すること。

■講義形態

講義

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

日本の近代史について、概括的な理解を持つこと。

■講義の概要

<第1講>

概要:近代経営史を学ぶ

事前,事後学習ポイント:事前学習:日本の近代史をふりかえる。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第2講>

概要:江戸期の経営(その1)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第3講>

概要:江戸期の経営(その2)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第4講>

概要:明治期の経営(その1)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第5講>

概要:明治期の経営(その2)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第6講>

概要:明治期の経営(その3)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第7講>

概要:明治期の経営(その4)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第8講>

概要:大正期の経営(その1)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第9講>

概要:大正期の経営(その2)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第10講>

概要:昭和前期の経営(その1)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第11講>

概要:昭和前期の経営(その2)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第12講>

概要:昭和前期の経営(その3)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第13講>

概要:昭和前期の経営(その4)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第14講>

概要:昭和前期の経営(その5)

事前,事後学習ポイント:事前学習:講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習:講義中に指示された課題に取り組む。

<第15講>

概要:最終試験

事前,事後学習ポイント:事前学習:最終試験の受験に備える。

事後学習:受験した問題について再検討する。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

特になし

■評価方法

最終試験結果のみで評価する(100%)

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 講義内容を90%以上理解していること

評価A (89~80点) : 講義内容を80~89%理解していること

評価B (79~70点) : 講義内容を70~79%理解していること

評価C (69~60点) : 講義内容を60~69%理解していること

評価F (59点以下) : 講義内容の理解が60%に満たないこと

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

明治から昭和前期までの近代日本の企業経営について学ぶ。理解の必要上、江戸期の経営についてもふれる。

授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。

ちなみに、2013年度の単位取得率は37.6% (93名中35名)である。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

科目名 日本経営史II(Business History of Japan II)

サブタイトル

担当教員 常見 耕平

■講義目的

現代日本の企業経営の歴史を理解する。

■講義分類

■到達目標

現代日本の企業経営の歴史を理解すること。

■講義形態

講義

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

日本の現代史について、概括的な理解を持つこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：昭和前期の経営（その1）

事前,事後学習ポイント：事前学習：現実社会の動向に広く目を向ける。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 2 講>

概要：昭和前期の経営（その2）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 3 講>

概要：昭和前期の経営（その3）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 4 講>

概要：昭和後期の経営（その1）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 5 講>

概要：昭和後期の経営（その2）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 6 講>

概要：昭和後期の経営（その3）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 7 講>

概要：昭和後期の経営（その4）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 8 講>

概要：昭和後期の経営（その5）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 9 講>

概要：昭和後期の経営（その6）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 10 講>

概要：昭和後期の経営（その7）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 11 講>

概要：平成期の経営（その1）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 12 講>

概要：平成期の経営（その2）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 13 講>

概要：平成期の経営（その3）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 14 講>

概要：ふり返り

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 15 講>

概要：最終試験

事前,事後学習ポイント：事前学習：最終試験の受験に備える。

事後学習：受験した問題について再検討する。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

特になし

■評価方法

最終試験結果のみで評価する（100%）

■評価基準

評価A+（90点以上）：講義内容を90%以上理解していること

評価A（89～80点）：講義内容を80～89%理解していること

評価B（79～70点）：講義内容を70～79%理解していること

評価C（69～60点）：講義内容を60～69%理解していること

評価F（59点以下）：講義内容の理解が60%に満たないこと

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすめ。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。

ちなみに、2013年度の単位取得率は48.4%（62名中30名）である。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

評価方法

合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。

講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。

試験は、2016年1月13日(水)第3限りに実施する予定である。

但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。指示等は行わない。

科目名 日本経済史Ⅰ(Economic History of Japan I)

サブタイトル

担当教員 常見 耕平

■講義目的

近代(明治から昭和前期)日本経済の歴史を理解する

■講義分類

■到達目標

近代の日本経済史について理解すること

■講義形態

講義

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

日本の近代史について、概括的な理解を持つこと。

■講義の概要

<第1講>

概要: 経済史(歴史)を学ぶ

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 日本の近代史について、概括的な理解を持つ。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第2講>

概要: 江戸期の経済(その1)

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第3講>

概要: 江戸期の経済(その2)

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第4講>

概要: 明治期の経済(その1)

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第5講>

概要: 明治期の経済(その2)

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第6講>

概要: 明治期の経済(その3)

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第7講>

概要: 明治期の経済(その4)

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第8講>

概要: 大正期の経済(その1)

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第9講>

概要: 大正期の経済(その2)

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第10講>

概要: 昭和前期の経済(その1)

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第11講>

概要: 昭和前期の経済(その2)

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第12講>

概要: 昭和前期の経済(その3)

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第13講>

概要: 昭和前期の経済(その4)

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第14講>

概要: 講義の振り返り

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習: 講義中に指示された課題に取り組む。

<第15講>

概要: 最終試験

事前,事後学習ポイント: 事前学習: 最終試験の受験に備える。

事後学習: 受験した問題について再検討する。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

特になし

■評価方法

最終試験結果のみで評価する(100%)

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 講義内容を90%以上理解していること

評価A (89~80点) : 講義内容を80~89%理解していること

評価B (79~70点) : 講義内容を70~79%理解していること

評価C (69~60点) : 講義内容を60~69%理解していること

評価F (59点以下) : 講義内容の理解が60%に満たないこと

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。

ちなみに、2013年度の単位取得率は27.3% (44名中12名)である。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心にに応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

評価方法

合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。

講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。

試験は、2015年7月23日(木)第1時限に実施する。

但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。指示等は行わない。

科目名 日本経済史II(Economic History of Japan II)

サブタイトル

担当教員 常見 耕平

■講義目的

現代日本の経済の歴史を理解する。

■講義分類

■到達目標

現代日本の経済の歴史を理解すること。

■講義形態

講義

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

日本の現代史について、概括的な理解を持つこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：昭和前期の経済（その1）

事前,事後学習ポイント：事前学習：日本の現代史について、概括的な理解を持つこと。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 2 講>

概要：昭和前期の経済（その2）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 3 講>

概要：昭和前期の経済（その3）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 4 講>

概要：昭和後期の経済（その1）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 5 講>

概要：昭和後期の経済（その2）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 6 講>

概要：昭和後期の経済（その3）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 7 講>

概要：昭和後期の経済（その4）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 8 講>

概要：昭和後期の経済（その5）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 9 講>

概要：昭和後期の経済（その6）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 10 講>

概要：昭和後期の経済（その7）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 11 講>

概要：平成期の経済（その1）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 12 講>

概要：平成期の経済（その2）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 13 講>

概要：平成期の経済（その3）

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 14 講>

概要：ふり返し

事前,事後学習ポイント：事前学習：講義中に指示された課題に取り組む。

事後学習：講義中に指示された課題に取り組む。

<第 15 講>

概要：最終試験

事前,事後学習ポイント：事前学習：最終試験の受験に備える。

事後学習：受験した問題について再検討する。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

特になし

■評価方法

最終試験結果のみで評価する（100%）

■評価基準

評価A+（90点以上）：講義内容を90%以上理解していること

評価A（89～80点）：講義内容を80～89%理解していること

評価B（79～70点）：講義内容を70～79%理解していること

評価C（69～60点）：講義内容を60～69%理解していること

評価F（59点以下）：講義内容の理解が60%に満たないこと

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業は文章を読み、内容を理解することを中心においてすめる。したがって出席し、教師の話を聞いているだけというものではない。講義時間のほとんどを課題文の読解に費やすことになる。

ちなみに、2013年度の単位取得率は37.1%（62名中23名）である。

なお、ここに記載しているのは、あくまで計画である。したがって、本シラバスの記載内容にかかわらず、講義開始後、受講生の理解や興味・関心、教員の興味・関心に応じて、講義内容を大幅に変更する場合がある。変更も含む講義内容や進行予定の詳細は、講義開始後指示する。

合否(単位取得)は、試験成績のみで判定する。

講義内容を理解したかどうかを問う問題を中心に論述式の試験を行う。

試験は、2016年1月21日(木)第1時限に実施する予定である。

但し、試験日程等に変更がある場合は講義時間中に指示する。掲示等は行わない。

科目名 日本語講座(初級) (Japanese Language Beginners Course)

サブタイトル

担当教員 TIJ東京日本語研修所

■講義目的

留学生が日本で生活するための日常会話、友達と交流するための会話、また大学の職員、教師とコミュニケーションするための会話、社会から情報を得るための会話能力を身につけると同時に、そのために必要な文法、語彙、表現を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解
 社会人育成
 地域ビジネス

■到達目標

- (1) 日常生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。
- (2) 日常生活や大学生活の中で自分が言いたいことを大体伝えることができる。
- (3) 自分の経験や夢、希望などをスピーチ形式で発表できる。

■講義形態

GD・GW・PR
 その他(ペアワーク・スピーチ・ドリル)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

必要に応じて授業後にはレポートを提出すること

■講義の概要

<第 1 講>

概要: プレゼンメントテスト

家族構成、家族の住んでいるところ、仕事について話す。

事前,事後学習ポイント: [～ています (て形)]

<第 2 講>

概要: 日本でしたいこと、将来したいことを話す。

タクシーの運転手に道を指示する。友達に許可を求める。

事前,事後学習ポイント: [～たい]

[～てください。～てもいいですか。]

<第 3 講>

概要: パーティーの準備の指示を求める。何をしている人が言う。

写真やポスターを見てそれがどこか考える。旅行について相談する。

事前,事後学習ポイント: [～まじょうか。～ています。]

[～と思います、普通形]

<第 4 講>

概要: 旅行の詳細い計画について話す。旅館に電話して、その結果を友だちに伝える。

統計を調べて比較する。日本の生活や物が自分の国と比べてどうか言う。

事前,事後学習ポイント: [普通形、～そうです]

[～より～のほうが～、～は～より～]

<第 5 講>

概要: 世界一、日本一はどこかクイズに答える。世界一のものについてどうしてか理由を考える。

体の調子、けがについて話す。調子の悪い友だちにアドバイスをする。

事前,事後学習ポイント: [～で一番～、～から]

[～んです、～ほうがいいです]

<第 6 講>

概要: 学校・職場の人に事情を話して早退する。いい病院をさく。医者に気を付けることをさく。

目上の人や初めて会った人に自己紹介をする。趣味をさく。

事前,事後学習ポイント: [～んですが、～てもよろしいでしょうか。～ないでください。]

[敬語、お～になる]

<第 7 講>

概要: 電話をかける。目上の人への訪問を受け、もてなしをする。

アルバイトの面接の時間や場所について指示を受ける。自分ができることを言う。

事前,事後学習ポイント: [敬語、お～になってください]

[可能形、～なら]

<第 8 講>

概要: 日本語で何をすることが難しいか話す。日本語が上手になるための方法を話し合う。

おいしいものを食べた経験話す。食べ方を言う。

事前,事後学習ポイント: [～のは～、～といいです]

[～たことがある、～たり～たり]

<第 9 講>

概要: 簡単な料理の作り方を言う。健康・美容のために気をつけていることを話す。

今度の休みにすることを話す。準備としてする必要のあることを言う。

事前,事後学習ポイント: [～て～て、～ようにする]

[～うと思っている、意志形、～なくちゃいけない]

<第 10 講>

概要: 持っていくべきもの、するべきことをアドバイスする。友だちを強く誘う。

友だちに贈り物をする。心に残る贈り物について話す。

事前,事後学習ポイント: [～ば、ば形、親しい友だちとの話し方]

[～をあげる、～をもらう]

<第 11 講>

概要: 出身のおいしい習慣を紹介する。行事などでタブーになっていることを言う。人のためにしてあげること、人がしてくれたことを話す。自分でできないことを人に頼む。

事前,事後学習ポイント: [～と～、～てはいけないことになっている]

[～てあげる、～てもらう、～ていただく]

<第 12 講>

概要: 部屋や建物の様子を言う。準備すること、準備ができていることについて話す。知人のさそいに対して、先約があることを説明し、どんな場合に行けるか言う。知人のうちを訪ねるとき、手みやげに何を持っていくか、友だちと何時に待ち合わせるか話し合う。

事前,事後学習ポイント: [自動詞、～ている、～ておく、～てある]

[～ことになっている、～かどうか、～たら、～ていく]

<第 13 講>

概要: 待ち合わせの時間に遅れたとき、謝つて理由を言う。道をさく。道を教える。

お客様にいけないに話す。どうしてほしいか指示を出す。

事前,事後学習ポイント: [～てくる、～てしまう、～と]

[謙讓語、お～する、～たら、～ておく]

<第 14 講>

概要: 時間がないときは、どんな工夫をしているか話す。日本に来てから生活がどう変わったか話す。

スピーチの原稿を書く。

事前,事後学習ポイント: [～ながら、～ようになる、～なくなる]

[どんなことについてスピーチしたいか考えておく]

<第 15 講>

概要: 期末テスト。スピーチの練習。

今学期のまとめとして、スピーチをする。

事前,事後学習ポイント: [今学期勉強したことを復習しておく]

[スピーチの練習をしておく]

■教科書

はじめよう日本語初級2メインテキスト

同 ドリルと文法

(スリーエネットワーク・TIJ東京日本語研修所)

コピー教材

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

評価は、出席 (30%)、授業中の活動 (30%)、期末テスト (40%) により行います。

※期末テストはペーパーテスト (文法、語彙、表現)、聴解テスト、スピーチを行います。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : (1) 日常生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。(2) 日常生活や大学生活の中で自分が言いたいことをほぼ伝えることができる。

評価A (80~80点) : (1) 日常生活や大学生活の中で話されている会話が大体理解できる。(2) 日常生活や大学生活の中で自分が言いたいことを大体伝えることができる。

評価B (79~70点) : (1) 日常生活や大学生活の中で話されている会話が理解でき

る。(2)日常生活や大学生活の中で自分が言いたいことを伝えることができる。

(3)自分の経験や夢、希望などをスピーチ形式で発表できる。

評価C(69~60点) : (1)日常生活や大学生活の中で話されているやさしい会話が理解できる。(2)日常生活や大学生活の中で自分が言いたいことを少し伝えることができる。(3)自分の経験や夢、希望などを短いスピーチ形式で発表できる。

評価F(59点以下) : 出席・授業中の活動・期末テストが基準を満たさなかった。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は外国人留学生のための講座です。日本人学生が履修しても単位は授与されません。

週2日の両日合わせて一講座となりますので、両方を履修してください。

科目名 日本語講座(中級I)(Japanese Language (Intermediate Course I))

サブタイトル

担当教員 TIJ東京日本語研修所

■講義目的

留学生在が日本で生活するための日常会話だけでなく、大学の授業を聞くため、また授業に積極的に参加するため、及び社会から情報を得るため、また社会に参加し問題解決するための日本語話能力、聴解能力をつけると同時に、そのために必要な文法、語彙、表現を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人育成
地域ビジネス

■到達目標

- (1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。
- (2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことをほぼ伝えることができる。
- (3) 社会の問題について、自分が考えたことが発表できる。

■講義形態

GD・GW・PR
その他(ディベート・スピーチ)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

必要に応じて授業後にはレポートを提出すること

■講義の概要

<第1講>

概要：プレースメントテスト

短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前、事後学習ポイント：世の中の出来事に関心を持ち、日頃から新聞やニュースを見とく。

時事問題の語彙を覚える。

<第2講>

概要：今住んでいるところについて話しましょう。

短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前、事後学習ポイント：[~たら、~つもり]

<第3講>

概要：日本や母国の人の考え方や物事のやり方について話す。

短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。
事前、事後学習ポイント：[少しぐらい~ても、~しか、~も]

<第4講>

概要：引越先を決めるときに心配なことを相談する。

住まいについてスピーチする。

事前、事後学習ポイント：[~たらどうですか]

[~にとどて、~たらいいなと思います]

<第5講>

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

よく利用している乗り物について話す。

事前、事後学習ポイント：[交通関係の語彙、~し、~し、何より~ところがいいです]

<第6講>

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

旅行で利用した乗り物について話す。

事前、事後学習ポイント：[~し、~し、~するな、~っていう意味です]

<第7講>

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

交通標識や道路標識の意味について話す。

事前、事後学習ポイント：[~し、~し、~するな、~っていう意味です]

<第8講>

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

交通事情についてスピーチする。

事前、事後学習ポイント：[~ために、~べきだ]

<第9講>

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

自分のしたい仕事について話す。

事前、事後学習ポイント：[職業に関する語彙、~のは、~ば]

<第10講>

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

面接試験を受ける。

事前、事後学習ポイント：[~たり~たりする仕事、~ないと困る]

<第11講>

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

仕事の経験について話す。

事前、事後学習ポイント：[~んじゃないかと思っていた、~のに]

<第12講>

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

仕事を遊ぶ時大切だと思うことについてスピーチする。

事前、事後学習ポイント：[~かどうかということをお考えます、~ても]

<第13講>

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

教科書を復習する。

事前、事後学習ポイント：[教科書全体を復習しておく]

<第14講>

概要：短いニュースを聞いて理解し、討論する。新聞記事を読んで、討論し、感想を書く。

修了スピーチの原稿を書く。

事前、事後学習ポイント：[何についてスピーチするか考えておく]

<第15講>

概要：期末テスト、スピーチの練習。

今学期のまとめとして、スピーチをする。

事前、事後学習ポイント：[今学期勉強したことを復習しておく]

[スピーチの練習をしておく]

■教科書

はじめよう日本語中級(TIJ東京日本語研修所)

コピー教材

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

評価は、出席(30%)、授業中の活動(30%)、期末テスト(40%)により行います。
※期末テストはペーパーテスト(文法、語彙、表現)、聴解テスト、スピーチを行います。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：(1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことをほぼ伝えることができる。(3) 社会の問題について、自分が考えたことがわかりやすく発表できる。
評価A (89~80点)：(1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話が大体理解できる。(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことを大体伝えることができる。(3) 社会の問題について、自分が考えたことがしかり発表できる。
評価B (79~70点)：(1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話が理解できる。(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことを伝えることができる。(3) 社会の問題について、自分が考えたことが発表できる。
評価C (69~60点)：(1) 社会生活や大学生活の中で話されているやさしい会話が理解できる。(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことを少し伝えることができる。(3) 社会の問題について、自分が考えたことが短く発表できる。
評価F (59点以下)：出席・授業中の活動・期末テストが基準を満たさなかった。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は外国人留学生のための講座です。日本人学生が履修しても単位は授与されません。
週2日の両日合わせて一講座となりますので、両方を履修してください。

科目名 日本語講座(中級II)(Japanese Language (Intermediate Course II))

サブタイトル

担当教員 TIJ東京日本語研修所

■講義目的

留学生在日本で生活するための日常会話、友達と交流するための会話、また大学の職員、教師とコミュニケーションするための会話、社会から情報を得るための会話能力をつけると同時に、そのために必要な文法、語彙、表現を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解
 社会人力育成
 地域ビジネス

■到達目標

- (1) 日常生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。
- (2) 日常生活や大学生活の中で自分が言いたいことを大体伝えることができる。
- (3) 自分の経験や夢、希望などをスピーチ形式で発表できる。

■講義形態

GD・GW・PR
 その他(ペアワーク・スピーチ・ドリル)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

必要に応じて授業後にはレポートを提出すること

■講義の概要

<第 1 講>

概要：1. プレゼンメントテスト
 2. 家族構成、家族の住んでいるところ、仕事について話す。
 事前、事後学習ポイント：1. [~]
 2. [~ています (て形)]

<第 2 講>

概要：1. 日本でしたいこと、将来したいことを話す。
 2. タクシーの運転手に道を指示する。友だちに許可を求める。
 事前、事後学習ポイント：1. [~たい]
 2. [~てください。~てもいいですか。]

<第 3 講>

概要：1. パーティーの準備の指示を求める。何をしている人か言う。
 2. 写真やポスターを見てそれがどこか考える。旅行について相談する。
 事前、事後学習ポイント：1. [~ましょうか。~ています。]
 2. [~と思います、普通形]

<第 4 講>

概要：1. 旅行の詳しい計画について話す。旅館に電話して、その結果を友だちに伝える。
 2. 統計を調べて比較する。日本の生活や物が自分の国と比べてどうか言う。
 事前、事後学習ポイント：1. [普通形、~そうです]
 2. [~より~のほうが、~は~より]

<第 5 講>

概要：1. 世界一、日本一はどこかクイズに答える。世界一のものについてどうしてか理由を考える。
 2. 体の調子、けがについて話す。調子の悪い友だちにアドバイスする。
 事前、事後学習ポイント：1. [~が一番、~から]
 2. [~んです、~ほうがいいです]

<第 6 講>

概要：1. 学校・職場の人に事情を話して早退する。いい病院をさく。医者に気をつけることをさく。
 2. 目上の人や初めて会った人に自己紹介をする。趣味をさく。
 事前、事後学習ポイント：1. [~んですが、~てもよろしいでしょうか。~ないでください。]
 2. [敬語、お~になる]

<第 7 講>

概要：1. 電話をかける。目上の人訪問を受け、もてなす。
 2. アルバイトの面接の訪問や場所について指示を受ける。自分ができることを言う。
 事前、事後学習ポイント：1. [敬語、お~になってください]
 2. [可能形、~なら]

<第 8 講>

概要：1. 日本語で何をすることが難しいかを話す。日本語が上手になるための方法を話し合う。
 2. おいしいものを食べた経験を話す。食べ方を言う。

事前、事後学習ポイント：1. [~のは~、~といいです]
 2. [~たことがある、~たり~たり]

<第 9 講>

概要：1. 簡単な料理の作り方を言う。健康・美容のために気をつけていることを話す。
 2. 今度の休みにすることを話す。準備としてする必要があることを言う。
 事前、事後学習ポイント：1. [~て~て、~ようにしている]
 2. [~うと思っている、意志形、~なくちゃいけない]

<第 10 講>

概要：1. 持っていくべきもの、するべきことをアドバイスする。友だちを強く誘う。
 2. 友だちに贈り物をする。心に残る贈り物について話す。
 事前、事後学習ポイント：1. [~ば、~ば、親しい友だちとの話し方]
 2. [~をあげる、~をもらう]

<第 11 講>

概要：1. 出身国のおいわいの習慣を紹介する。行事などでテーブルになっていることを言う。
 2. 人のためにしてあげること、人がしてくれたことを話す。自分でできないことを人に頼む。
 事前、事後学習ポイント：1. [~と、~。~ではいけないことになっている。]
 2. [~てあげる、~てもらおう、~ていただく]

<第 12 講>

概要：1. 部屋や建物の様子を言う。準備すること、準備ができていることについて話す。
 2. 知人の誘いに対して、先があることを説明し、どんな場合に行けるか言う。知人のうちを訪問するとき、手みやげに何を持っていくか、友だちと何時に待ち合わせるか話し合う。

<第 13 講>

事前、事後学習ポイント：1. [自動詞、~ている、~ておく、~てある]
 2. [~ことになっている、~かどうか、~たら、~ていく]
 概要：1. 待ち合わせの時間に遅れたとき、謝つて理由を言う。道を聞く。道を教える。
 2. お客様にいいに話す。どうしてほしいか指示を出す。

<第 14 講>

事前、事後学習ポイント：1. [~てくる、~てしまう、~と]
 2. [謙譲語、お~する、~たら、~ておく]
 概要：1. 時間が無いときは、どんな工夫をしているか話す。日本に来てから生活がどう変わったか話す。
 2. スピーチの原稿を書く。

<第 15 講>

事前、事後学習ポイント：1. [~ながら、~ようになる、~なくなる]
 2. [どんなことについてスピーチしたいか考えておく]
 概要：1. 期末テスト。スピーチの練習。
 2. 今学期のまとめとして、スピーチをする。
 事前、事後学習ポイント：1. [今学期勉強したことを復習しておく]
 2. [スピーチの練習をしておく]

■教科書

はじめよう日本語中級 (T I J 東京日本語研修所)
 コピー教材

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

評価は、出席 (30%)、授業中の活動 (30%)、期末テスト (40%) により行います。
 ※期末テストはペーパーテスト (文法、語彙、表現)、聴解テスト、スピーチを行います。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：(1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことをほぼ伝えることができる。(3) 社会の問題について、自分が考えたことが論理的に発表できる。
 評価A (89~80点)：(1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話が大体理解できる。(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことを大体伝えることができる。

る。(3) 社会の問題について、自分が考えたことがわかりやすく発表できる。
評価B (79~70点) : (1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話が理解できる。(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことを伝えることができる。(3) 社会の問題について、自分が考えたことが発表できる。
評価C (69~60点) : (1) 社会生活や大学生活の中で話されている平易な会話が理解できる。(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことをなんとか伝えることができる。(3) 社会の問題について、自分が考えたことが短く発表できる。
評価F (59点以下) : 出席・授業中の活動・期末テストで基準を満たさなかった。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は外国人留学生のための講座です。日本人学生が履修しても単位は授与されません。
週2日の両日合わせて一講座となりますので、両方を履修してください。

科目名 日本語講座(上級) (Japanese Language An Upper Course)

サブタイトル

担当教員 TIJ東京日本語研修所

■講義目的

留学生が日本で生活するための日常生活だけでなく、大学の授業を聞くため、また授業に積極的に参加するため、及び社会から情報を得るため、また社会に参加し問題解決するための日本語話能力、聴解能力をつけると同時に、そのために必要な文法、語彙、表現を学ぶ。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
地域ビジネス

■到達目標

- (1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話がほぼ理解できる。
- (2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことをほぼ伝えることができる。
- (3) 社会の問題について、自分が考えたことが発表できる。
- (4) 調べたこと、研究したことをプレゼンテーションできる。

■講義形態

GD・GW・PR
その他(ディベート・スピーチ)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

必要に応じて授業後にはレポートを提出すること

■講義の概要

<第 1 講>

- 概要：1. プレスメントテスト
2. 自己紹介をする。ニュースを聞いて、討論する。

事前,事後学習ポイント：[]

<第 2 講>

- 概要：1. 新聞を読んで、討論し、感想を書く。
2. ニュースを聞いて、討論する。アンケート調査の結果を読む。

事前,事後学習ポイント：[世の中の出来事に関心を持ち、日頃から新聞やニュースを見ておく。時事問題の語彙を覚える]

<第 3 講>

- 概要：1. 新聞を読んで、討論し、感想を書く。
2. ニュースを聞いて、討論する。次回のディベートのための準備をする。

事前,事後学習ポイント：1. [世の中の出来事に関心を持ち、日頃から新聞やニュースを見ておく。時事問題の語彙を覚える]

2. [ディベートの題材について調べておく]

<第 4 講>

- 概要：1. 新聞を読んで、討論し、感想を書く。
2. ニュースを聞いて、討論する。ディベートをする。

事前,事後学習ポイント：1. [世の中の出来事に関心を持ち、日頃から新聞やニュースを見ておく。時事問題の語彙を覚える]

2. [ディベートの練習をしておく]

<第 5 講>

- 概要：1. ニュースを聞いて、討論する。次回のディベートのための準備をする。
2. 新聞を読んで、討論し、感想を書く。

事前,事後学習ポイント：1. [世の中の出来事に関心を持ち、日頃から新聞やニュースを見ておく。時事問題の語彙を覚える]

2. [ディベートの題材について調べておく]

<第 6 講>

- 概要：1. ニュースを聞いて、討論する。ディベートをする。
2. 新聞を読んで、討論し、感想を書く。

事前,事後学習ポイント：1. [ディベートの練習をしておく]

2. [世の中の出来事に関心を持ち、日頃から新聞やニュースを見ておく。時事問題の語彙を覚える]

<第 7 講>

- 概要：1. ニュースを聞いて、討論する。次回のディベートのための準備をする。
2. 新聞を読んで、討論し、感想を書く。

事前,事後学習ポイント：1. [ディベートの題材について調べておく]

2. [世の中の出来事に関心を持ち、日頃から新聞やニュースを見ておく。時事問題の語彙を覚える]

<第 8 講>

- 概要：1. ニュースを聞いて、討論する。ディベートをする。

2. 新聞を読んで、討論し、感想を書く。

事前,事後学習ポイント：1. [ディベートの準備をしておく]

2. [世の中の出来事に関心を持ち、日頃から新聞やニュースを見ておく。時事問題の語彙を覚える]

<第 9 講>

概要：1. ニュースを聞いて、討論する。ディベートをする。

2. 新聞を読んで、討論し、感想を書く。

事前,事後学習ポイント：1. [ディベートの題材について調べておく]

2. [世の中の出来事に関心を持ち、日頃から新聞やニュースを見ておく。時事問題の語彙を覚える]

<第 10 講>

概要：1. 次回のプレゼンテーションのための準備をする。

2. プレゼンテーションをする。

事前,事後学習ポイント：1. [プレゼンテーションの題材について調べておく]

2. [プレゼンテーションの練習をしておく]

<第 11 講>

概要：1. 次回のプレゼンテーションのための準備をする。

2. プレゼンテーションをする。

事前,事後学習ポイント：1. [プレゼンテーションの題材について調べておく]

2. [プレゼンテーションの練習をしておく]

<第 12 講>

概要：1. 次回のプレゼンテーションのための準備をする。

2. プレゼンテーションをする。

事前,事後学習ポイント：1. [プレゼンテーションの題材について調べておく]

2. [プレゼンテーションの練習をしておく]

<第 13 講>

概要：1. 次回のプレゼンテーションのための準備をする。

2. プレゼンテーションをする。

事前,事後学習ポイント：1. [プレゼンテーションの題材について調べておく]

2. [プレゼンテーションの練習をしておく]

<第 14 講>

概要：1. プレゼンテーションの原稿を書く。

2. プレゼンテーションの原稿を完成する。

事前,事後学習ポイント：1. [何についてプレゼンテーションするか考えておく]

2. [原稿を推敲しておく]

<第 15 講>

概要：1. プレゼンテーションの練習。リハーサルをする。

2. 今学期のまとめとして、プレゼンテーションをする。

事前,事後学習ポイント：1. [プレゼンテーションの練習をしておく]

2. [プレゼンテーションの練習をしておく]

■教科書

新聞、コピー教材

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

評価は、出席 (30%)、授業中の活動 (30%)、期末テスト (40%) により行います。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：(1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話が問題なく理解できる。(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことを的確に伝えることができる。(3) 社会の問題について、自分が考えたことが論理的に発表できる。(4) 調べたこと、研究したことをプレゼンテーションで披露できる。

評価A (89~80点)：(1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話がほとんど問題なく理解できる。(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことをかなり的確に伝えることができる。(3) 社会の問題について、自分が考えたことが問題なく発表できる。(4) 調べたこと、研究したことをプレゼンテーションで披露できる。

評価B (79~70点)：(1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話が理解できる。(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことを伝えることができる。

(3) 社会の問題について、自分が考えたことが発表できる。(4) 調べたこと、研究したことなどをプレゼンテーションできる。

評価C (69~60点) : (1) 社会生活や大学生活の中で話されている会話が大体理解できる。(2) 社会生活や大学生活の中で自分が言いたいことを大体伝えることができる。(3) 社会の問題について、自分が考えたことがなんとか発表できる。(4) 調べたこと、研究したことなどをプレゼンテーションできる。

評価F (59点以下) : 出席・授業中の活動・期末テストが基準を満たさなかった。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講座は外国人留学生のための講座です。日本人学生が履修しても単位は授与されません。

週2日の両日合わせて一講座となりますので、両方を履修してください。

日本語講座上級を履修するためには、それ以前に日本語講座中級を履修していることが前提条件となります。

科目名 日本語表現法I(Japanese for Students I)

サブタイトル

担当教員 樋口、中澤

■講義目的

産業社会で活躍し、問題発見、問題解決に不可欠な文章力を養成する。現代の志塾として、将来のビジネスに直結する文章力養成する。そのために、論理的文章、エッセイ、企画書など様々なタイプの文章を書き、豊かに表現することができるようになることをめざす。また、口頭による意見発表、質問などの仕方についても学ぶ。こうすることによって、社会や人間に対する関心も高め、社会人基礎力を高め、自らの志を明確にすることにもなる。

■講義分類

社会人育成、ビジネスICT

■到達目標

600字から800字程度の論理的文章や楽しい文章、生き生きした文章を書く練習をし、同時に、日本語の語彙やさまざまな表現を身につける。そして、志望理由書、自己PR書などを自在に書ける力を養う。

■講義形態

その他(講義+文章作成+PR)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

前もって次の時間に書く問題を示すので、前もって書籍やインターネットサイトで下調べをする。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：オリエンテーション 文章を書くことの意義、文章の書き方について解説。

事前,事後学習ポイント：初回につき、時になし

<第 2 講>

概要：第一回課題の文章(論理的文章)を実際に書く

事前,事後学習ポイント：小論文の「型」について復習

<第 3 講>

概要：第一回課題を添削して返却。その後、解説。

事前,事後学習ポイント：小論文の「型」について復習

<第 4 講>

概要：部分練習・文章トレーニング。

事前,事後学習ポイント：第二回課題について資料を集める

<第 5 講>

概要：第2回課題解説。実際に論理的文章を書く。

事前,事後学習ポイント：第2回課題について資料を整理。調べるべきことについて、授業内で指示する。

<第 6 講>

概要：課題解説。文章トレーニング。

事前,事後学習ポイント：課題に関する本(授業中に指示する)を読む。

<第 7 講>

概要：トレーニング。部分練習。

事前,事後学習ポイント：論理的文章の発展として、レポート、論文の例をネットなどから探して、読んでみる。

<第 8 講>

概要：実際に文章を書く その3 志望理由書

事前,事後学習ポイント：将来就きたい職種、就職したい企業などについて調べておく。

<第 9 講>

概要：課題解説。よい志望理由書、悪い志望理由書について解説。

事前,事後学習ポイント：自分の就職希望先について考えを深める。

<第 10 講>

概要：トレーニング。部分練習。

事前,事後学習ポイント：自分のアピールポイントについて考える。

<第 11 講>

概要：実際に文章を書く その4 自己推薦書

事前,事後学習ポイント：自分のアピールポイントについて考えを深める。

<第 12 講>

概要：課題解説。上手なアピールの仕方解説。

事前,事後学習ポイント：自分のアピールポイントについて、友人と話をして、考えをまとめておく。

<第 13 講>

概要：エッセイの書き方。リアルな文章にするテクニック。

事前,事後学習ポイント：有名なエッセイを読む。

<第 14 講>

概要：実際にエッセイを書く。

事前,事後学習ポイント：有名なエッセイを読む。

<第 15 講>

概要：リアルな文章を書くテクニック

事前,事後学習ポイント：有名なエッセイを読む。

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

「大人の文章道場」(樋口裕一・角川文庫)

■評価方法

提出文章(80パーセント)、平常点(20パーセント)

■評価基準

評価A+ (90点以上)：12回以上の出席をし、提出した文章が平均してBランクを超える者。また、授業中、優れた発言を行った者。

評価A (89~80点)：出席が12回以上で、提出文章の平均がBに近い者。または、それに匹敵する授業中の発言がある者。

評価B (79~70点)：出席が10回以上で、提出文章が平均してCランクを超える者。および、それに匹敵する発言を授業中に行った者。

評価C (69~60点)：出席回数が10回以上で、提出文章の平均がDランクを超える者。

または、それに匹敵する発言を授業中にした者。

評価F (59点以下)：出席回数が9回以下の者。あるいは、提出文章の平均がDランクに満たず、授業中の発言を十分にしなかった者。なお、提出文章の再提出についても加減したうえでの評価となる。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

なし。平常点による。

■留意点

科目名 ▶▶▶ 認知心理 (Cognitive Psychology)

サブタイトル

担当教員 ▶▶▶ 大森 拓哉

■講義目的

認知心理学は、人間の心のしくみを学ぶ心理学の一分野である。人間が外部の環境や刺激をどう感じ、どう理解しているのかといったしくみを様々な角度から考察する。講義中に自分自身についても当てはめ、実験演習も行う。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

この授業で学んだことを日常世界の中においても理解・応用できるか、経済・経営活動においてこの知識を応用・適用できるか。

■講義形態

講義+GW

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各回に新出した用語についてまとめておく。また、講義内で実施した実験実習等についてもまとめて行うこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：概論

事前,事後学習ポイント：認知、認知心理学

<第 2 講>

概要：記憶と忘却

事前,事後学習ポイント：記憶、短期記憶・長期記憶

<第 3 講>

概要：知覚と認識

事前,事後学習ポイント：知覚

<第 4 講>

概要：顔表情の認識と感情表出

事前,事後学習ポイント：顔の表情の認知

<第 5 講>

概要：概念と言語

事前,事後学習ポイント：概念

<第 6 講>

概要：知識と表象

事前,事後学習ポイント：表象

<第 7 講>

概要：イメージと空間の情報処理

事前,事後学習ポイント：空間認知

<第 8 講>

概要：認知の制御過程

事前,事後学習ポイント：認知の制御

<第 9 講>

概要：文章理解

事前,事後学習ポイント：文章理解

<第 10 講>

概要：推論

事前,事後学習ポイント：推論

<第 11 講>

概要：問題解決

事前,事後学習ポイント：方略

<第 12 講>

概要：意思決定

事前,事後学習ポイント：意思決定、効用、主観確率

<第 13 講>

概要：日常世界と認知心理学(1)

事前,事後学習ポイント：進化心理学

<第 14 講>

概要：日常世界と認知心理学(2)

事前,事後学習ポイント：リスク認知

<第 15 講>

概要：まとめ

事前,事後学習ポイント：経営と心理学

■教科書

森敏昭・井上毅・松井孝雄著 『グラフィック認知心理学』 サイエンス社(1995)

■指定図書

道又剛他 『認知心理学』 有斐閣アルマ
栗樹眞男・丹野義彦編著 『心理学の謎を解く』 医学出版
下條信輔 『サブリミナル・マインド』 中公新書
下條信輔 『サブリミナル・インパクト』 ちくま新書
下條信輔 『<意識>とはなんだろうか』 講談社現代新書
戸田正直他編 『認知科学選書』全24巻 東京大学出版会
乾敏郎他編 『認知心理学』全5巻 東京大学出版会
広田すみれ他著 『心理学が拓くリスクの世界』 慶應義塾大学出版会

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席を前提とし、期末定期試験（100%）により評価する。

■評価基準

評価A+（90点以上）：講義内容を完全に理解できている
評価A（89～80点）：講義内容を理解できている
評価B（79～70点）：講義内容をおおよそ理解できている
評価C（69～60点）：最低限の理解ができている
評価F（59点以下）：講義科目の履修目標に達していない

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は、幅広い心理学のうちの一分野である。「消費心理」、「社会心理」などの他の心理学の講義も聴講するとよりいっそう理解が深まる。また、「経営と意思決定」の講義にも関連がある。講義途中で心理実験やそのレポート提出を求められることがあるので、毎回の出席は必須である。私語、飲食、授業と関係のないPC操作、携帯電話操作、帽子・サングラス着用等禁止する。

科目名 ビジネスコミュニケーションI(Business Communication I)

サブタイトル 図解表現

担当教員 久恒 啓一

■講義目的

どのような経営体にも経営資源がある、それはヒト、モノ、カネ、時間、情報、システム、技術、人脈、ブランド、理念、歴史などである。ビジネスにおいてはこれらの経営資源をコミュニケーション活動によって活性化させ商品やサービスを作りだし、それを外販に販売する。そして売った商品に対して、CS(顧客満足)活動によって苦情や意見を消費者から受け取り、再び経営資源を活性化させ、商品を改良し、新商品につなげていく。ビジネスとはこういったコミュニケーション活動の一連の流れのことである。この講義では、上述の観点からビジネスにおけるコミュニケーションと情報に焦点をあて、今までの文章と箇条書きを中心とした情報処理の欠陥を克服するため、図を用いたコミュニケーションの理論と技術を学ぶ。毎回、産業社会の現場の最前線のテーマを題材に実習を行い「図解コミュニケーション」という新しい問題解決の武器を身につけてもらう。

■講義分類

ビジネスマネジメント
グローバルビジネス

■到達目標

- ・新聞社説等による個人ワーク、グループでのプレゼンテーションやディスカッションをふまへ、「日本の論点」(文春)の中の一論者の時事論文をパワーポイントを用いて一枚の図に要約する技術を身につける。
- ・自身で作成した図解を用いて大人数を対象に自信を持ってプレゼンテーションができるようになる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

日についた新聞・雑誌の記事、他の先生の講義内容を努めて図解する。
毎回の授業で作った図解をブラッシュアップする。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：講義「マネジメントと図解コミュニケーション」
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 2 講>

概要：講義「ビジネスと経営」・実習
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 3 講>

概要：講義「コミュニケーションと情報」・実習
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 4 講>

概要：講義と実習「ビジネスに関するトピックス」
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 5 講>

概要：講義と実習「ビジネスに関するトピックス」
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 6 講>

概要：講義と実習「ビジネスに関するトピックス」
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 7 講>

概要：講義と実習「コミュニケーションに関するトピックス」
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 8 講>

概要：講義と実習「コミュニケーションに関するトピックス」
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 9 講>

概要：講義と実習「コミュニケーションに関するトピックス」

事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 10 講>

概要：講義と実習「経営情報に関するトピックス」
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 11 講>

概要：講義と実習「経営情報に関するトピックス」
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 12 講>

概要：講義と実習「商品に関するトピックス」
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 13 講>

概要：講義と実習「時事に関するトピックス」
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 14 講>

概要：講義と実習「時事に関するトピックス」
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

<第 15 講>

概要：講義「経営情報とビジネスコミュニケーション」
事前、事後学習ポイント：日常的に新聞、雑誌等の記事、他の先生の講義内容を図解する訓練を心がけてもらいたい。

■教科書

なし

■指定図書

- 「図で考える技術が身につくトレーニング30」(PHP研究所・久恒啓一)
- 「図解の極意」(アスキー出版・久恒啓一)
- 「図解で身につく! ドラッカーの理論」(中経の文庫・久恒啓一)
- 「図で考えれば文章がうまくなる」(PHP文・久恒啓一)

■参考文献・参考URL / Reference List

「日本の論点2015」(文芸春秋社)

■評価方法

- 1.出席 50点
- 2.提出する図 25点
- 3.毎回の授業に関するレポートの内容 25点

■評価基準

- 評価A+(90点以上)：全出席。レポートが特に優れている。
- 評価A(80~90点)：ほぼ全出席。レポートが優れている。
- 評価B(70~80点)：高い出席率。レポートが良い。
- 評価C(60~70点)：高い出席率。レポートの提出あり。
- 評価F(59点以下)：低い出席率。レポート提出なし。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

毎回実習(作図・プレゼン・ディスカッション)を行うことで力をつけていくので、毎回出席することが望ましい。

科目名 ビジネスコミュニケーションII(Business Communication II)

サブタイトル

担当教員 樋口 裕一

■講義目的

ビジネスマンとして産業界で活躍し、問題発見、問題解決に不可欠なコミュニケーション力を養成する。そのために、社会人に必要な様々な文章を書く技術を身に付ける。

■講義分類

顧客理解、社会人育成、ビジネスICT

■到達目標

状況に応じて、社会に必要な様々な文章を書けるようになる。自分の考えを伝え、相手を説得し、しかもマナーを守って好感を持たれるような文章を書く力を養う。

■講義形態

その他(講義+文章作成+PR)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

前もって次の週に学ぶ内容を予告するので、ネットなどでその実例を調べておく。また、復習として、時間内に書いた自分の文章を書きなおす。

■講義の概要

<第1講>

概要：オリエンテーション 文章の書き方の基本の説明。第1回課題答案作成(200字程度の文章)

事前、事後学習ポイント：初回につき、特になし

<第2講>

概要：課題復習 よい文章、悪い文章を認識し、前回の文章を書きなおす

事前、事後学習ポイント：文章の「型」について復習する

<第3講>

概要：報告文の書き方

事前、事後学習ポイント：事前に報告文をネットなどで読み、学習後、授業内で書いたのとは別のシチュエーションの文章を書いてみる。

<第4講>

概要：リアルな文章の書き方

事前、事後学習ポイント：事前にエッセイをネットなどで読み、学習後、授業内で書いたのとは別のシチュエーションの文章を書いてみる。

<第5講>

概要：自己PR文の書き方

事前、事後学習ポイント：事前に自己PR書をネットなどで読み、学習後、授業内で書いたのとは別のシチュエーションの文章を書いてみる。

<第6講>

概要：志望理由書の書き方

事前、事後学習ポイント：事前に志望理由書をネットなどで読み、学習後、授業内で書いたのとは別のシチュエーションの文章を書いてみる。

<第7講>

概要：説得する文章の書き方1

事前、事後学習ポイント：事前に論理的な文章をネットなどで読み、学習後、授業内で書いたのとは別のシチュエーションの文章を書いてみる。

<第8講>

概要：説得する文章の書き方2

事前、事後学習ポイント：事前に論理的な文章をネットなどで読み、学習後、授業内で書いたのとは別のシチュエーションの文章を書いてみる。

<第9講>

概要：依頼文の書き方

事前、事後学習ポイント：事前に依頼文をネットなどで読み、学習後、授業内で書いたのとは別のシチュエーションの文章を書いてみる。

<第10講>

概要：上手に自慢する文章の書き方

事前、事後学習ポイント：事前に自分の自慢できることを考えておく。学習後、授業内で書いたのとは別のテクニックを用いて文章を書いてみる。

<第11講>

概要：感じよく反論する文章

事前、事後学習ポイント：事前に目上の人に対する反論などをネットで調べておく。学習後、授業内で書いたのとは別のテクニックを用いて文章を書いてみる。

<第12講>

概要：感じよく抗議する文章

事前、事後学習ポイント：事前に抗議文の例をネットで調べておく。学習後、授業内で書いたのとは別のテクニックを用いて文章を書いてみる。

<第13講>

概要：相手が許す気持ちになる言い訳文の書き方

事前、事後学習ポイント：事前に言い訳の例をネットで調べておく。学習後、授業内で書いたのとは別のテクニックを用いて文章を書いてみる。

<第14講>

概要：それとなく相手を叱責する文章の書き方

事前、事後学習ポイント：事前に叱責の例をネットで調べておく。学習後、授業内で書いたのとは別のテクニックを用いて文章を書いてみる。

<第15講>

概要：謝罪文の書き方

事前、事後学習ポイント：事前に謝罪文をネットで調べておく。学習後、授業内で書いたのとは別のテクニックを用いて文章を書いてみる。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

「ホンモノの文章力」 集英社新書

■評価方法

提出文章(80パーセント)、平常点(20パーセント)

出席が3分の2に満たないものは不合格とする。授業中に毎回、文章を書いてもらい、その総合点で採点する。なお、書き直して提出の場合、必ず加点する。授業中の発言についても加点する。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：12回以上の出席をし、提出した文章が平均してBランクを超過者。また、授業中、優れた発言を行った者。

評価A (89~80点)：出席が12回以上で、提出文章の平均がBに近い者。または、それに匹敵する授業中の発言がある者。

評価B (79~70点)：出席が10回以上で、提出文章が平均してCランクを超過者。および、それに匹敵する発言を授業中に行った者。

評価C (69~60点)：出席回数が10回以上で、提出文章の平均がDランクを超過者。または、それに匹敵する発言を授業中にした者。

評価F (59点以下)：出席回数が9回以下の者。あるいは、提出文章の平均がDランクに満たず、授業中の発言を十分にできなかった者。なお、提出文章の再提出についても加点しうたので評価となる。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業中の私語禁止。そのほか、飲食(ただし飲みもの摂取は許す)・ガム・帽子着用・寝る姿勢を整えての居眠り・無断退出・イヤホンの着用・教員に対する暴言など、授業を害する行為についても禁止する。目に余るものは退出させ、欠席とみなす。文章力だけを身につけても説得できる文章を書くことはできない。発信したい内容を持つことによって表現力も増す。それゆえ、多くの時間を、単に表現法ではなく、思考力、社会的知識を身につけることに費やす。

科目名 ビジネスコミュニケーション入門I(Introduction to Business Communication I)

サブタイトル 企画書の作成と企画のプレゼンテーション

担当教員 彩藤・諸橋・久保田・増田

■講義目的

現在のビジネスシーンに必須と言われているスキルとして、文書作成ソフトword およびプレゼンテーションソフトpowerpoint の利活用をメインに、コミュニケーション力を高めることを講義目的とする。

■講義分類

社会人育成
ビジネスICT

■到達目標

- ①ソフトウェアwordを使って企画をまとめることができる。
- ②ソフトウェアPowerPointを使ってわかりやすいプレゼンテーションができる。
- ③グループワークができる。
- ④人前でプレゼンテーションができる。

■講義形態

講義+講義内演習+グループワーク

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

本講義の最も重要なポイントは、解説されるスキルや演習を通じて、各自が運用力を高めることにある。したがって、授業中の集中が一番大切である。あとは、魅力的なプレゼンテーションのために、普段からポスターやCMを見て分析したり、手法を真似してみよう。

■講義の概要

- <第 1 講>
概要：企画の提案とは
事前,事後学習ポイント：企画の提案とは何か、考えてくる
- <第 2 講>
概要：企画の目的を把握する
事前,事後学習ポイント：ヒット商品の企画はどのように練られたのか考える
- <第 3 講>
概要：目的を明確化するための練習
事前,事後学習ポイント：5W2Hのフレームワークについて予習しておく
- <第 4 講>
概要：現状分析
事前,事後学習ポイント：wordの練習、excelの練習
- <第 5 講>
概要：データの整理
事前,事後学習ポイント：excelのグラフを描く練習
- <第 6 講>
概要：現状整理のためのフレームワークを使う
事前,事後学習ポイント：3C分析、SWOT分析、その他の手法について調べておく
- <第 7 講>
概要：課題の設定
事前,事後学習ポイント：既存商品で面白いと思うものをあげ、その企画を逆に考えてみる
- <第 8 講>
概要：事例にみる課題解決
事前,事後学習ポイント：既存企業で、企画が成功した例を探す
- <第 9 講>
概要：企画のコンセプトをつくる
事前,事後学習ポイント：コンセプトとは何か考えてくる
- <第 10 講>
概要：アイデア出し
事前,事後学習ポイント：グループワークの練習。
- <第 11 講>
概要：企画をまとめる
事前,事後学習ポイント：グループワーク
- <第 12 講>
概要：PowerPoint練習
事前,事後学習ポイント：企画書の内容をPowerPointにまとめる
- <第 13 講>
概要：企画のプレゼンテーション練習
事前,事後学習ポイント：発表準備

<第 14 講>

概要：企画をプレゼンテーションするために
事前,事後学習ポイント：鏡をみて発表練習を行う

<第 15 講>

概要：まとめとプレゼンテーション大会
事前,事後学習ポイント：プレゼンテーションの準備

■教科書

■指定図書

ガー・レイノルズ「シンプルプレゼン」
戸田 寛「新・あのヒット商品のナマ企画書が見たい!」

■参考文献・参考URL / Reference List

前年度までに実施した「ビジネスコミュニケーション入門I」の電子報告書のアドレスを授業中に教える

■評価方法

「講義への出席(40%)」「講義内課題(40%)」および「期末課題(20%)」などにより評価する

■評価基準

- 評価A+ (90点以上)：到達目標に対して90%以上と認められること。
- 評価A (89～80点)：到達目標に対して80%以上と認められること。
- 評価B (79～70点)：到達目標に対して70%以上と認められること。
- 評価C (69～60点)：到達目標に対して60%以上と認められること。
- 評価F (59点以下)：到達目標に対して60%以上と認められない場合。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

第1回目の講義で全体のオリエンテーションを行うので必ず出席すること。
第1回目からノートPC(タブレットを含む)と電源をもってこること。
この授業を受けながら、あるいは受けた後に、MOS試験を受験することを推奨する。試験問題の参考書は図書館にも数多くあるので、参考にするとよい。

科目名

ビジネスコミュニケーション入門II(Introduction to Business Communication II)

サブタイトル

担当教員

志賀・栢原・趙・石川

■講義目的

- ①自分が大学で学ぶ意味を考える
 ②聞く力、メモ・ノートをとる力を高める
 ③ネットの使い方、図書館の利用方法を深める
 ④レポート作成力、プレゼンテーション力を高める
 (②~④をまとめて、情報収集・コミュニケーション力強化という)
 ⇒すべては考える力、ビジネスコミュニケーション力につながる

■講義分類

ビジネス環境理解/ビジネスマネジメント/社会力育成

■到達目標

- ①大学で学ぶに値する意味をはっきりさせる
 ②相手の意図を正確に聞き取る力をつける方法を理解する
 ③ネットの使い方、図書館の利用方法の深め方を知る
 ④レポート作成力、プレゼンテーション力の高め方を知る
 ⇒考える力、ビジネスコミュニケーション力強化の動機を高める

■講義形態

- ・講義 + GD・GW・PR
 ・その他(Wordによるレポート、Powerpointによる資料作成)

■準履修学習(予習・復習等)に必要な情報またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎回の宿題クイズ・アンケートに回答する

■講義の概要

<第 1 講>

概要：自分が大学で学ぶ目的・意味を考える
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 2 講>

概要：自分が大学で学ぶ目的・意味についての意見交換
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 3 講>

概要：自分が大学で学ぶ目的・意味をまとめる
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 4 講>

概要：特別講義 図解について(久恒学部長)
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 5 講>

概要：聞く力の重要性
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 6 講>

概要：聞く力の向上練習(1)
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 7 講>

概要：聞く力の向上練習(2)、向上方法まとめ
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 8 講>

概要：特別講義 レポート作成超入門(樋口裕一)
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 9 講>

概要：ネットの使い方/図書館の利用方法(解説と実習)
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 10 講>

概要：特別講義 データ活用超入門(今泉忠)
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 11 講>

概要：図書館の利用方法/ネットの使い方(解説と実習)
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 12 講>

概要：レポート・プレゼンテーション資料作成方法(1)
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 13 講>

概要：レポート・プレゼンテーション作成方法(2)
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 14 講>

概要：プレゼンテーション実習
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

<第 15 講>

概要：本講義の総まとめ
 事前、事後学習ポイント：上記に関する事前・事後のクイズ・アンケートに回答する

■教科書

なし

■指定図書

世界思想社編集部(2014)『大学新入生ハンドブック』世界思想社
 世界思想社編集部(2015)『大学生 学びのハンドブック【3訂版】』世界思想社
 小川清明監修(2011)『大学生生活ナビ』玉川大学出版部
 A.W.コーンハウザー(1995)『大学で勉強する方法』玉川大学出版部

■参考文献・参考URL / Reference List

多摩大学 経営情報学部 学生生活ハンドブック
<http://www.tama.ac.jp/student/smis/index.html>

■評価方法

出席30%
 授業での発表、発言等20%
 最終レポートまたはプレゼンテーション資料(WordまたはPowerpointで作成)50%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：大学で学ぶ意味を考える、情報収集・コミュニケーション力を高める意欲と成果が特段に優れている (特段の意味は、当該学年大学生に求められる程度をはるかに超えること)

評価A (89~80点)：大学で学ぶ意味を考える、情報収集・コミュニケーション力を高める意欲と成果が十分に認められる (十分の意味は、当該学年大学生に求められる程度)

評価B (79~70点)：大学で学ぶ意味を考える、情報収集・コミュニケーション力を高める意欲があり、その努力と成果が相当程度認められる

評価C (69~60点)：大学で学ぶ意味を考える、情報収集・コミュニケーション力を高める意欲はあるが、その努力に相当の向上が必要と判断される

評価F (59点以下)：大学で学ぶ意味を考える、情報収集・コミュニケーション力を高める意欲が示されない

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

コミュニケーションを通じて、自分とまわりの人々の幸せを大切にしよう、そのためになら努力・工夫しようという皆さんの参加を希望します。

私語等による他の受講生への迷惑行為には、教室からの退出を指示し、単位不合格とします。

15分以上の遅刻は、出席の意味が少なく他の受講生の迷惑になりますので、入室しないでください。

科目名 ビジネス数学I(Mathematics for Business I)

サブタイトル

担当教員 久保田 貴文

■講義目的

ビジネスの現場で使える数学の基礎的な実力、特に、数学で物事を考える力を養います。さらに、ICTを活用してECサイトを作成することを学びます。

■講義分類

ビジネスマネジメント
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

ビジネスの現場で使える数学の基礎的な実力、特に、数学で物事を考える力を養います。さらに、ICTを活用してECサイトを作成することを学びます。特に、以下の4つの事を到達目標とします。

1. ABテスト、時系列データ (前日比・前年比)
2. 平均値、分散
3. 相関係数、割合
4. ECサイトの作成についての理解

さらに、自ら問題設定をして、上記1-3のスキルを用いてその問題を解決出来ること、ECサイトを自分で作成するスキルを身につけることがさらに望まれる。

■講義形態

講義+GW・GD・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

コンピュータの基本的なリテラシー：ファイル・フォルダの新規作成、保存、名前変更、コピー、切り取り、貼り付けなど
中学までの数学(算数)：四則演算、割合の計算など

■講義の概要

<第 1 講>

概要：どんな商品が売れる？

事前,事後学習ポイント: ABテスト

<第 2 講>

概要：売上が伸びているってどういこと？

事前,事後学習ポイント: 時系列データ (前日比・前年比)

<第 3 講>

概要：ビッグデータを理解するための数的な感覚 (1)

事前,事後学習ポイント: 平均値, 中央値

<第 4 講>

概要：ビッグデータを理解するための数的な感覚 (2)

事前,事後学習ポイント: 分散, 標準偏差

<第 5 講>

概要：グループワーク (1) ・レポート (1)

事前,事後学習ポイント: ABテスト, 平均値, 分散

<第 6 講>

概要：意思決定 (1)

事前,事後学習ポイント: 相関係数

<第 7 講>

概要：意思決定 (2)

事前,事後学習ポイント: 相関係数

<第 8 講>

概要：分析 (1)

事前,事後学習ポイント: 割合

<第 9 講>

概要：分析 (2)

事前,事後学習ポイント: 割合

<第 10 講>

概要：グループワーク (2) ・レポート (2)

事前,事後学習ポイント: 相関係数, 割合

<第 11 講>

概要：エクセルで作ったグラフの活用 (1)

事前,事後学習ポイント: 折れ線グラフ・棒グラフ・円グラフ

<第 12 講>

概要：エクセルで作ったグラフの活用 (2)

事前,事後学習ポイント: 折れ線グラフ・棒グラフ・円グラフ

<第 13 講>

概要：ECサイトを作る (1)

事前,事後学習ポイント: ECサイト

<第 14 講>

概要：ECサイトを作る (2)

事前,事後学習ポイント: ECサイト

<第 15 講>

概要：レポート (3)

事前,事後学習ポイント: ECサイト

■教科書

数学女子智香が教える仕事で数学を使うって、こういうことです。深沢真太郎 (日本実業出版社)

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

15回の出席および授業態度 (40%) と、3回のレポート (20%×3)

■評価基準

評価A+ (90点以上)：ビジネスの現場で使える数学の基礎的な実力、特に、数学で物事を考える力が養われている。さらに、ICTを活用してECサイトを作成することについて理解出来ている。特に、以下の4つの事を理解していること。1. ABテスト、時系列データ (前日比・前年比) 2. 平均値、分散 3. 相関係数、割合 4. ECサイトの作成についての理解 さらに、自ら問題設定をして、上記1-3のスキルを用いてその問題を解決出来ることと、ECサイトを自分で作成するスキルを身につけること。

評価A (89~80点)：ビジネスの現場で使える数学の基礎的な実力、特に、数学で物事を考える力が養われている。さらに、ICTを活用してECサイトを作成することについて理解出来ている。特に、以下の4つの事を理解していること。1. ABテスト、時系列データ (前日比・前年比) 2. 平均値、分散 3. 相関係数、割合 4. ECサイトの作成についての理解

評価B (79~70点)：ビジネスの現場で使える数学の基礎的な実力、特に、数学で物事を考える力が養われている。さらに、ICTを活用してECサイトを作成することについて理解出来ている。特に、以下の4つのうち3つについて理解していること。

1. ABテスト、時系列データ (前日比・前年比) 2. 平均値、分散 3. 相関係数、割合 4. ECサイトの作成についての理解

評価C (69~60点)：ビジネスの現場で使える数学の基礎的な実力、特に、数学で物事を考える力が養われている。さらに、ICTを活用してECサイトを作成することについて理解出来ている。特に、以下の4つのうち、2つを理解していること。1. ABテスト、時系列データ (前日比・前年比) 2. 平均値、分散 3. 相関係数、割合 4. ECサイトの作成についての理解

評価F (59点以下)：ビジネスの現場で使える数学の基礎的な実力、特に、数学で物事を考える力が養われていない。さらに、ICTを活用してECサイト作成することについて理解できていない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

無

■留意点

3回のレポートについては、提出方法以外の方法での提出や提出締め切り日以降の提出は認めない。

科目名

ビジネス数学II(Mathematics for Business II)

サブタイトル

担当教員

今泉 忠

■講義目的

経営上では、情報を活用して、未来の状態を予測し、そこで発生するで問題を事前に対応できるようにすることは重要である。

本講義では、数学的知識を用いたモデル構築のための基礎としての、数学的な考察およびモデルの構築を目指し、関数の概念とその応用、微分積分の概念と応用について、基礎的な概念についての理解と実際の計算方法についての習得を目指す。できるだけ、実際の問題解決のための数学と位置づけで講義を行う。

■講義分類

ビジネスマネジメント
 社会人育成
 グローバルビジネス
 ビジネスICT
 地域ビジネス

■到達目標

- (1)初等関数について微分積分を理解して行える
- (2)多変数関数の微分を理解して行える
- (3)関数近似について理解して行える

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

微分積分は単に公式に適用するのみでは、経営上活用できない。各講義回において出される課題を毎回次回までの解いて整理しておくことが求められる。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：グラフから学ぶ

事前,事後学習ポイント：グラフ、2次関数

<第 2 講>

概要：関数

事前,事後学習ポイント：変化率、連続性

<第 3 講>

概要：微分の基本

事前,事後学習ポイント：差分

<第 4 講>

概要：基本的な関数の微分法

事前,事後学習ポイント：多項式関数や指数関数や三角関数のグラフ

<第 5 講>

概要：合成関数の微分法

事前,事後学習ポイント：関数の和や積などのグラフ

<第 6 講>

概要：合成関数の微分法 演習

事前,事後学習ポイント：合成関数の微分

<第 7 講>

概要：テラー展開

事前,事後学習ポイント：局所的な変化

<第 8 講>

概要：テラーの公式

事前,事後学習ポイント：テラー展開

<第 9 講>

概要：最適化問題

事前,事後学習ポイント：テラー展開

<第 10 講>

概要：最適化問題II

事前,事後学習ポイント：ニュートン法

<第 11 講>

概要：不定積分の基本

事前,事後学習ポイント：積分の概念

<第 12 講>

概要：不定積分の基本 II

事前,事後学習ポイント：積分の概念

<第 13 講>

概要：置換積分と部分積分

事前,事後学習ポイント：微分の公式

<第 14 講>

概要：多変数関数と偏微分

事前,事後学習ポイント：偏微分と全微分の違い

<第 15 講>

概要：まとめ

事前,事後学習ポイント：微分、積分、関数近似、最適化、偏微分

■教科書

配布する

■指定図書

- [1]岡部恒治・長谷川愛美「図解ざっくりわかる！ 微分・積分入門」青春出版社
- [2]矢野 健太郎・田代 嘉宏「社会科学者のための基礎数学」共立出版
- [3]石村園子「やさしく学べる微分積分」共立出版
- [4]山田善他「経営情報学のための微分積分」共立出版
- [5]志賀浩二「微分積分30講」朝倉書店

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

通常の課題等による平常点(60%)と学期末の試験結果(40%)により総合評価

■評価基準

評価A+ (90点以上)：学習した内容について理解して、実際の問題に適用し、解を求めることができる。

評価A (89~80点)：学習した内容について理解して、解をもとめることができる。

評価B (79~70点)：学習した内容について理解して、少なくとも2つの内容に関する解をもとめることができる。

評価C (69~60点)：学習した内容について理解して、少なくとも1つの内容に関する解をもとめることができる。

評価F (59点以下)：学習した内容について理解が不十分で解を求めることができない

■履修していることが望ましい科目

ビジネス数学基礎

■卒業年次生対象再試験の実施

無し

■留意点

科目名 ビジネス数学基礎 (Practical Mathematics)

サブタイトル

担当教員 大森(拓)、村上(敏)、山本(義)、日本数学検定協会

■講義目的

経営情報学部においては、複合領域での知識や技術の修得が必要となる。このような複合領域を対象とする分野で必要になるデータを扱う数学的手法の基礎について、演習と講義により身につけることが本講義の目的である。この講義は必修科目である。演習の積み重ねを通して技術が身に付く構成になっているので、欠席しないこと。
本講義では、課題を解決するためにどのようなデータの取り扱いをするか、中学から高校1年程度の数学を基点として、問題解決方法の理解とそれを応用した問題解決演習を行い、産業社会において必要な数理技能の基礎を完全習得する。

<第 15 講>

概要：まとめ
事前、事後学習ポイント：これまでの問題・課題を完成させておく

■教科書

講義においてプリントを配布する。

■指定図書

中学・高校の数学の教科書
『社会科学系の数学入門』若尾良男、水谷昌義共著 ムイスリ出版
『高校数学がまるごとわかる』 間地秀三著 ベレ出版
『文系数学超入門』 大川隆夫他著 学術図書出版社
『経済学と数学がイッキにわかる』 石川秀樹著 学習研究社
『計算力が身に付く数学基礎』 佐野公朗著 学術図書出版社
『まんがDE入門経済学』 西村和雄著 日本評論社

■参考文献・参考URL / Reference List

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会力育成、ビジネスICT

■到達目標

経営情報学部で学ぶ上で最低限の数学の能力が身についているか。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

中学・高校数学の最も基礎的な知識を必要とする。各回で完答できなかった問題については時間外に自ら完成させておくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：知識レベルの再評価

事前、事後学習ポイント：これまでの高等学校校までの数学の基礎知識を再確認する。

<第 2 講>

概要：「把握力」

事前、事後学習ポイント：表、グラフ、相関関係

<第 3 講>

概要：「分析力」

事前、事後学習ポイント：データの加工、データの表現

<第 4 講>

概要：「選択力」

事前、事後学習ポイント：意思決定、選択

<第 5 講>

概要：「予測力」

事前、事後学習ポイント：データによる予測、売り上げ予測、将来計画

<第 6 講>

概要：「表現力」

事前、事後学習ポイント：グラフや表による表現

<第 7 講>

概要：まとめ

事前、事後学習ポイント：完答にいらなかった問題について自ら正答を作っておく

<第 8 講>

概要：中間テスト

事前、事後学習ポイント：これまでの学習内容の復習

<第 9 講>

概要：「把握力」を養うグループワークとプレゼンテーション

事前、事後学習ポイント：グループで作業を完成させておく

<第 10 講>

概要：「分析力」を養うグループワークとプレゼンテーション

事前、事後学習ポイント：グループで作業を完成させておく

<第 11 講>

概要：「選択力」を養うグループワークとプレゼンテーション

事前、事後学習ポイント：グループで作業を完成させておく

<第 12 講>

概要：「予測力」を養うグループワークとプレゼンテーション

事前、事後学習ポイント：グループで作業を完成させておく

<第 13 講>

概要：「表現力」を養うグループワークとプレゼンテーション

事前、事後学習ポイント：グループで作業を完成させておく

<第 14 講>

概要：総合課題

事前、事後学習ポイント：グループで作業を完成させておく

■評価方法

成績評価は、80%以上の出席を単位取得の条件とし、その上で試験(90%)、平常点(10%)により評価する。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：日本数学検定協会ビジネス数学検定Liteにおいて90点以上およびそれに相当する成績を取ったもの
評価A (89~80点)：日本数学検定協会ビジネス数学検定Liteにおいて80点以上およびそれに相当する成績を取ったもの
評価B (79~70点)：日本数学検定協会ビジネス数学検定Liteにおいて70点以上およびそれに相当する成績を取ったもの
評価C (69~60点)：日本数学検定協会ビジネス数学検定Liteにおいて60点以上およびそれに相当する成績を取ったもの
評価F (59点以下)：上記以外

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

クラスは自分が割当てられたクラスを確認の上、そのクラスで履修すること。学期途中でクラス替えがあるので注意すること。電車の遅延や病気などの際には、遅延証明書・診断書を提出すること。

科目名 ビジネス戦略I(Business Strategy I)

サブタイトル

担当教員 志賀 敏宏

■講義目的

社会で役に立ち、やりがいを持って生きるための出発点に立つ。
産業社会におけるビジネス活動を、身近にイメージできるようにする。
ビジネスの基本である、需要、競争、収益を学ぶ。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

- ①ビジネスのバリューチェーン（価値連鎖）を理解し、バリューチェーンを描けるようになる。
- ②ビジネス成立の三要件が(i)需要確保、(ii)競争優位、(iii)収益確保であることとその実態を理解する。

■講義形態

・講義 + GD・GW・PR

・その他(Wordによるレポート、Powerpointによる資料作成)

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業前に前回の復習、課された予習課題・宿題を終えること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：ビジネス活動の概要を知る—イントロダクション
・バリューチェーンを描く演習

事前,事後学習ポイント：バリューチェーンに関する予習

<第 2 講>

概要：概要：ビジネス創造の三条件—需要、競争、収益を考える
・先回バリューチェーンを描いたビジネスの需要と収益を考える演習

事前,事後学習ポイント：需要に関する予習

<第 3 講>

概要：概要：ヤマト運輸の宅急便事例を学ぶ (1)

・ビジネス成立の三要件の抽出の演習

事前,事後学習ポイント：宅急便の創業前と創業期に関する予習

<第 4 講>

概要：概要：ヤマト運輸の宅急便事例を学ぶ (2)

・ビジネス成立の三要件に関する検討の演習

事前,事後学習ポイント：損益分岐点に関する予習

<第 5 講>

概要：概要：ビジネス創造の三条件を考える—宅急便事例検討 (1)

・ビジネス創造の要点についてのグループワーク演習

事前,事後学習ポイント：顧客満足に関する予習

<第 6 講>

概要：概要：ビジネス創造の三条件を考える—宅急便事例検討 (2)

・サービス深化に関する演習

事前,事後学習ポイント：ハブアンドスポークに関する予習

<第 7 講>

概要：概要：ビジネス創造の三条件の検討結果発表 (1)

事前,事後学習ポイント：発表準備

<第 8 講>

概要：概要：ビジネス創造の三条件の検討結果発表 (2)

事前,事後学習ポイント：発表の振り返り、発表準備

<第 9 講>

概要：概要：セコムのセキュリティ事業を学ぶ

・ビジネス成立の三要件に関する論点抽出の演習

事前,事後学習ポイント：セコムのビジネスに関する予習

<第 10 講>

概要：概要：ビジネス創造の三条件を考える—セキュリティ事業の事例検討

・ビジネス成立の三要件に関する考察演習

事前,事後学習ポイント：セコムのセキュリティビジネス成立に関する三要件の考察予習

<第 11 講>

概要：概要：徳島県 上勝町のいんどり (葉っぱ) ビジネスを学ぶ

・いんどりビジネス成立三要件に関する演習

事前,事後学習ポイント：いんどりビジネスに関する予習

<第 12 講>

概要：概要：徳島県 上勝町のいんどり (葉っぱ) ビジネスを学ぶ

・需要創造に関する演習

事前,事後学習ポイント：POSに関する予習

<第 13 講>

概要：概要：AppleのiPod事業開発を学ぶ

・同ビジネスの成立三要件に関する演習

事前,事後学習ポイント：ユーザーエクスペリエンスに関する予習

<第 14 講>

概要：概要：ビジネス創造の三要件を考える—iPodの事例検討

・三要件の成立に関する検討演習

事前,事後学習ポイント：ビジネスエコシステム、ネットワーク外部性に関する予習

<第 15 講>

概要：概要：まとめと今後の学びの羅針盤

事前,事後学習ポイント：前回までの総復習

■教科書

小倉昌男 (1999) 『経営学』, 日経BP社
※教科書を利用せずに受講はできません。必ず教科書を利用可能として受講すること。

■指定図書

飯田亮 (2007) 『世界のどこにもない会社を創る』, 草思社
横石知二 (2007) 『そうだ、葉っぱを売ろう!』, ソフトバンク クリエイティブ

■参考文献・参考URL / Reference List

高杉 良 (2000) 『挑戦つることなし 小説ヤマト運輸』, 講談社文庫
小倉 昌男 (2007) 『新装版「なんでだろう」から仕事は始まる』, PHP研究所
ステューブ・レヴィ(2007) 『iPodは何を変えたのか?』, ソフトバンク クリエイティブ

■評価方法

期末レポート (Wordで作成) 100%。ただし、授業中の演習や予習課題 (宿題) の提出・回答状況を加算要因とします。つまり、期末レポートの評価のみの成績よりも良い成績になる場合があります。期末レポートの提出なしで、合格 (C以上) となることはありません。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : ビジネスのバリューチェーンとビジネス成立の三要件の理解とその概念の活用に特段に優れている (特段の意味は、当該学年大学生に求められる程度をはるかに超えること)

評価A (89~80点) : ビジネスのバリューチェーンとビジネス成立の三要件が理解でき、十分にその概念の活用できる (十分の意味は、当該学年大学生に求められる程度)

評価B (79~70点) : ビジネスのバリューチェーンとビジネス成立の三要件が理解でき、その概念の活用がある程度できる

評価C (69~60点) : ビジネスのバリューチェーンとビジネス成立の三要件が必要最低限度程度、理解できている

評価F (59点以下) : ビジネスのバリューチェーンとビジネス成立の三要件が理解できていない

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

私語等による他の受講生への迷惑行為には、教室からの退出を指示し、単位不合格とします。

15分以上の遅刻は、出席の意味が少なく他の受講生の迷惑になりますので、入室しないでください。

科目名 ビジネス戦略II(Business Strategy II)

サブタイトル

担当教員 志賀 敏宏

■講義目的

社会で役に立ち、やりがいを持って生きるために学び続けるべきことを学ぶ。
産業社会におけるビジネスの継続のための活動をイメージできるようにする。
ビジネス継続の基本である、多角化、環境適応、イノベーションを学ぶ。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネス創造/ビジネスマネジメント/社会人力育成

■到達目標

- ①多角化の企画の要点となる、軸足・相補効果・相乗効果を理解する
- ②ポスト産業資本主義時代の意味を理解する
- ③イノベーション成功の要点を考える

■講義形態

- ・講義 + GD・GW・PR
- ・その他(Wordによるレポート、Powerpointによる資料作成)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業前に前回の復習、課された予習課題・宿題を終えること。

■講義の概要

<第1講>

概要：多角化の必要性和事例を学ぶ(1)
事前、事後学習ポイント：本科目のシラバスの理解

<第2講>

概要：多角化の事例を学ぶ(2)

花王、味の素

事前、事後学習ポイント：花王、味の素の多角化に関する予習

<第3講>

概要：多角化の事例を学ぶ(3)

富士フィルム、ヤマト運輸

事前、事後学習ポイント：富士フィルム、ヤマト運輸の多角化に関する予習

<第4講>

概要：多角化の事例を学ぶ(4)

オーデオテクニカ、サンスター

事前、事後学習ポイント：オーデオテクニカ、サンスターの多角化に関する予習

<第5講>

概要：多角化事例のまとめと多角化の理論

軸足、相補効果、相乗効果の概念の理解

事前、事後学習ポイント：軸足という概念、相補効果/相乗効果の差異に関する予習

<第6講>

概要：ポスト産業資本主義(1)

資本主義の本質と第二次大戦後の日本の資本主義の変遷

事前、事後学習ポイント：第二次大戦後の日本の資本主義の変遷に関する予習

<第7講>

概要：ポスト産業資本主義(2)

ポスト産業資本主義の本質とそこで経営

事前、事後学習ポイント：ポスト産業資本主義に関する予習

<第8講>

概要：ポスト産業資本主義に適応した企業経営事例

GoogleとApple

事前、事後学習ポイント：Google、Appleの経営に関する予習

<第9講>

概要：日本における大型イノベーション事例(1)

東海道新幹線(1)

事前、事後学習ポイント：東海道新幹線の事業化に関する予習

<第10講>

概要：日本における大型イノベーション事例(2)

東海道新幹線(2)

事前、事後学習ポイント：東海道新幹線の事業化に関する予習

<第11講>

概要：日本における大型イノベーション事例(3)

VHS-VTR(1)

事前、事後学習ポイント：VHS-VTRの事業化に関する予習

<第12講>

概要：日本における大型イノベーション事例(4)

VHS-VTR(2)

事前、事後学習ポイント：VHS-VTRの事業化に関する予習

<第13講>

概要：日本のサービス業におけるイノベーション事例

セブンイレブン

事前、事後学習ポイント：日本におけるセブンイレブン創業に関する予習

<第14講>

概要：日本におけるポスト産業資本主義に向けてのイノベーション事例

AIBO(ソニー愛玩ロボット)

事前、事後学習ポイント：AIBOの事業化に関する予習

<第15講>

概要：本講義の総まとめ

事前、事後学習ポイント：本講義全体の総復習

■教科書

なし

■指定図書

- 志賀敏宏(2012)『イノベーションの創発プロセス研究』, 文眞堂
- 岩井克人(2009)『会社はこれからどうなるのか』, 平凡社
- 伊丹敬之(2012)『経営戦略の論理 第4版』, 日本経済新聞出版社
- 伊丹敬之・加藤野忠男(2003)『ゼミナール 経営学入門 第3版』, 日本経済新聞社
- アンドリュース・S・グローブ(1997)『インテル戦略転換』, 七賢出版

■参考文献・参考URL / Reference List

なし

■評価方法

期末レポート(Wordで作成)100%。ただし、授業中の演習や予習課題(宿題)の提出・回答状況を加算要因とします。つまり、期末レポートの評価のみの成績よりも良い成績になる場合があります。期末レポートの提出なしで、合格(C以上)となることはありません。

■評価基準

評価A+(90点以上)：軸足・相補効果・相乗効果、ポスト産業資本主義時代、イノベーション成功の要点の理解とその概念の活用(特段に優れている) (特段の意味は、当該学年大学生に求められる程度をはるかに超えること)

評価A(89~80点)：軸足・相補効果・相乗効果、ポスト産業資本主義時代、イノベーション成功の要点を理解して、十分にその概念の活用ができる (十分の意味は、当該学年大学生に求められる程度)

評価B(79~70点)：軸足・相補効果・相乗効果、ポスト産業資本主義時代、イノベーション成功の要点を理解して、その概念の活用がある程度できる

評価C(69~60点)：軸足・相補効果・相乗効果、ポスト産業資本主義時代、イノベーション成功の要点を必要最小限度、理解できている

評価F(59点以下)：軸足・相補効果・相乗効果、ポスト産業資本主義時代、イノベーション成功の要点を理解できていない

■履修していることが望ましい科目

2014年度以前のビジネス戦略入門、または2015年度以降のビジネス戦略I

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

2014年度秋学期のビジネス戦略Iとほぼ同じ内容です(カリキュラムの)。それを単位取得した学生は受講しないでください。

私語等による他の受講生への迷惑行為は、教室からの退出を指示し、単位不合格とします。

15分以上の遅刻は、出席の意味が少なく他の受講生の迷惑になりますので、入室しないでください。

科目名

ビジネスソフトウェア活用(Business Software)

サブタイトル

担当教員

トランスコスモス

■講義目的

現代社会においてはビジネス・日常の場を問わず、Excel(表計算ソフトウェア)の利用シーンが増加しており、社会人として必要不可欠な知識・スキルとなりつつある。本科目では、実務に即したデータを使用し、テキストに沿って操作演習を行いながら、Excel2010の操作スキルを習得する。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

- (1) 企業での業務において、実践的に活用できるExcel2010の操作スキルを身に付ける
- (2) MOS (Microsoft Office Specialist) Excel2010スペシャリスト(一般)レベル
 - ※に相当するExcel2010の操作スキルを身に付ける
 - ※Excel 2010 スペシャリスト (一般) レベル: 数式や基本的な関数の作成、セルの書式設定、グラフ作成など、Excelの基本的な操作を理解している

■講義形態

講義+演習

■準備学習(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

・Microsoft Office2010のインストール及び動作確認
 ・MOS (Microsoft Office Specialist) Excel2010スペシャリストとはどのような資格なのかの理解

■講義の概要

<第1講>

概要:<第1講>Excel環境の管理

概要:ワークシート内を移動する/ワークシートやブックを印刷する/Backstageを使用し環境をカスタマイズする

事前,事後学習ポイント:事前学習しておくべき用語:名前ボックス、クイックアクセスツールバー、リボン、インポート・エクスポート

<第2講>

概要:<第2講>セルデータの作成

概要:セルのデータを作成する/オートフィルを適用する/ハイパーリンクを適用する、操作する

事前,事後学習ポイント:事前学習しておくべき用語:貼り付けのオプション、形式を選択して貼り付け、オートフィル、ハイパーリンク

<第3講>

概要:<第3講>セルやワークシートの書式設定①

概要:セルの書式を適用する、変更する/セルを結合する、解除する/列や行の見出しを作成する

事前,事後学習ポイント:事前学習しておくべき用語:セルの表示形式、セルの結合・結合解除、ヘッダー・フッター

<第4講>

概要:<第4講>セルやワークシートの書式設定②

概要:列や行を表示する、非表示にする/ページ設定のオプションを操作する/セルのスタイルを作成する、適用する

事前,事後学習ポイント:事前学習しておくべき用語:ページ設定、セルのスタイル

<第5講>

概要:<第5講>ワークシートやブックの管理

概要:ワークシートを作成する、書式設定する/ウィンドウの表示を操作する/ブックの表示を操作する

事前,事後学習ポイント:事前学習しておくべき用語:作業グループ、シート見出し、ブックの整理、表示モード、ユーザー設定のビュー

<第6講>

概要:<第6講>数式や関数の適用①

概要:数式を作成する/優先順位を正しく理解する/数式にセル参照を適用する

事前,事後学習ポイント:事前学習しておくべき用語:演算記号、計算の優先順位、相対参照と絶対参照

<第7講>

概要:<第7講>数式や関数の適用②

概要:数式に条件付き論理を適用する/数式に名前付き範囲を適用する/数式にセル範囲を適用する

事前,事後学習ポイント:事前学習しておくべき用語:関数、名前の定義

<第8講>

概要:<第8講>視覚的なデータの表示①

概要:ワークシートのデータを使用してグラフを作成する

事前,事後学習ポイント:事前学習しておくべき用語:グラフの種類、グラフの要素

<第9講>

概要:<第9講>視覚的なデータの表示②

概要:図を適用する、操作する/画像編集機能を使用して画像を作成する、修正する/スパーラインを適用する

事前,事後学習ポイント:事前学習しておくべき用語:SmartArt、スクリーンショット、スパーライン

<第10講>

概要:<第10講>ワークシートのデータの共有 データの分析と整理①

概要:Backstage を使用してブックを共有する/コメントを管理する/データを抽出する

事前,事後学習ポイント:事前学習しておくべき用語:SkyDrive、コメント、データベース機能、フィルター

<第11講>

概要:<第11講>データの分析と整理②

概要:データを並べ替える/条件付き書式を適用する

事前,事後学習ポイント:事前学習しておくべき用語:並べ替え、条件付き書式、データバー、カラースケール、アイコンセット

<第12講>

概要:<第12講>総合演習①

模擬試験プログラムを利用して、習熟度の把握ならびに理解定着を図る

事前,事後学習ポイント:模擬テスト(テキスト付属CD) インストール、テスト受験時の操作方法の確認

<第13講>

概要:<第13講>総合演習②

模擬試験プログラムを利用して、習熟度の把握ならびに理解定着を図る

事前,事後学習ポイント:模擬テスト(テキスト付属CD) インストール、テスト受験時の操作方法の確認

<第14講>

概要:<第14講>総合演習③

模擬試験プログラムを利用して、習熟度の把握ならびに理解定着を図る

事前,事後学習ポイント:模擬テスト(テキスト付属CD) インストール、テスト受験時の操作方法の確認

<第15講>

概要:<第15講>期末定期試験

事前,事後学習ポイント:模擬テスト(テキスト付属CD) インストール、テスト受験時の操作方法の確認

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

評価は、出席率70%以上の者に対し、期末定期試験(100%)により行う(注)遅刻、早退は欠席扱いとする。電卓遅延の際は遅延証明書を提出すること

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 期末定期試験100点満点中90点以上
 評価A (89~80点) : 期末定期試験100点満点中80点以上90点未満
 評価B (79~70点) : 期末定期試験100点満点中70点以上80点未満
 評価C (69~60点) : 期末定期試験100点満点中60点以上70点未満
 評価F (59点以下) : 期末定期試験100点満点60点未満 または出席率70%未満

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

私語、飲食、授業と関係のないPC操作、携帯電話操作、帽子・サングラス着用、その他履修態度としてふさわしくない行為を禁止する。また著しく履修態度の悪い者にはその後の出席ならびに期末試験の受験資格を認めないことがある。

科目名 ▶▶▶ ビジネス特講II(Special Lecture on Business II)

サブタイトル ▶▶▶ ファイナンスとデリバティブ取引

担当教員 ▶▶▶ 日本商品先物振興協会

■講義目的

ファイナンス（金融・財務）とは何か、基礎から仕組みを整理した後に、急速に進展して現在では契約代金ベースでは「世界最大の市場」に成長したデリバティブ市場において、その最先端の実務に携わる講師により、実務に根ざした先物やオプションなどの生きた基礎知識を学ぶ。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

事前にファイナンスの知識がなくとも十分理解できるように、講義では基礎から順を追って平易に解説することで、履修後には金融の基礎知識と実務に則したデリバティブ取引の理論を習得することを目指す。

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業前に前回の復習、課された予習課題・宿題を終えること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：ファイナンスとは何か

事前,事後学習ポイント：ファイナンス、金融工学、デリバティブ

<第 2 講>

概要：金融システム

事前,事後学習ポイント：直接金融・間接金融、融資、株式、債券

<第 3 講>

概要：時間と資源配分①

事前,事後学習ポイント：利子、貨幣の時間価値

<第 4 講>

概要：時間と資源配分②

事前,事後学習ポイント：資産評価、割引率

<第 5 講>

概要：リスクとは何か

事前,事後学習ポイント：不確実性、リスク

<第 6 講>

概要：リスクの評価

事前,事後学習ポイント：投資収益率、期待収益率、リスク

<第 7 講>

概要：ポートフォリオ理論

事前,事後学習ポイント：ポートフォリオの期待収益率、ポートフォリオのリスク

<第 8 講>

概要：資産価格モデル

事前,事後学習ポイント：資本市場線、証券市場線、資産評価モデル

<第 9 講>

概要：市場の効率性

事前,事後学習ポイント：市場の効率性、運用スタイル

<第 10 講>

概要：先物取引・先渡取引

事前,事後学習ポイント：先物、先渡し、取引所取引、相対取引

<第 11 講>

概要：スワップ・オプション取引

事前,事後学習ポイント：スワップ、コール・オプション、プット・オプション

<第 12 講>

概要：デリバティブの価格付け①

事前,事後学習ポイント：先物理論価格

<第 13 講>

概要：デリバティブの価格付け②

事前,事後学習ポイント：オプション評価モデル

<第 14 講>

概要：世界のデリバティブ市場

事前,事後学習ポイント：世界の主要な取引所と取引の現状

<第 15 講>

概要：デリバティブのまとめ

事前,事後学習ポイント：デリバティブとリスク

■教科書

なし（参考資料は講義時に配布する。）

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

「入門デリバティブ市場」宇佐美洋善、東洋経済新報社、2015年刊行予定

■評価方法

期末定期試験にて評価する（100％）

■評価基準

評価A+（90点以上）：ファイナンスとデリバティブ取引の概念を正しく理解して応用することが出来る。

評価A（89～80点）：ファイナンスとデリバティブ取引の概念を正しく理解している。

評価B（79～70点）：ファイナンスとデリバティブ取引の概念を半分程度は理解している。

評価C（69～60点）：ファイナンスとデリバティブ取引の概念を部分的にしか理解していない。

評価F（59点以下）：ファイナンスとデリバティブ取引の概念をほとんど理解していない。

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 ビジネス入門I(Business Principle I)

サブタイトル 職業観の醸成

担当教員 小林 英夫

■講義目的

本講義は、多摩大学経営情報学部におけるキャリア形成科目の一つに位置付けられ、その目的は「職業観の醸成」である。

職業観の醸成され方は多様であり、それは就学期全体を通して、また就業後も継続して形成されていくものである。本講義は、職業観が醸成される過程における主要な要素を、「知識」「能力」「意思=志」の3点からとらえ、これらの要素の基礎を学生諸君に伝えることを目的とする。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

- ・ビジネスとは何かを理解すること
- ・社会人としての基本的なビジネスの知識と能力を、学生生活を通じて身に付けていくための土台を築くこと
- ・自らが持つ職業観を理解し、学生生活での学習の方向性に対する指針を得ること

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業前には、事前学習しておくべき用語やポイントを自分なりに調べその意味を考えてくるとともに、T-NEXTにアップされる授業資料に事前に目を通し、疑問点を明確にしておくこと。

授業後には、授業資料に再度目を通し疑問点が解消されたかを確認し、解消されていない場合は次回の授業までに教員に質問するなどにより解消すること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：働くことの意味と学生時代の意義

事前、事後学習ポイント：事前学習：自分が学生生活で身に付けたいこと

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 2 講>

概要：会社の定義と個人との関わり

事前、事後学習ポイント：事前学習：自分の知人が勤めている会社

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 3 講>

概要：仕事をすることの厳しさ喜び

事前、事後学習ポイント：事前学習：自分の知人の仕事内容

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 4 講>

概要：仕事にはどのようなものがあるか

事前、事後学習ポイント：事前学習：自分の知人の会社の業種、知人の職種や役職

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 5 講>

概要：労働とはどのようなものであるか

事前、事後学習ポイント：事前学習：雇用、給料

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 6 講>

概要：企業活動とはどのようなものか

事前、事後学習ポイント：事前学習：売上、費用、利益

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 7 講>

概要：企画職の職業意識を学ぶ

事前、事後学習ポイント：事前学習：映画プロデューサー

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 8 講>

概要：芸術専門職の職業意識を学ぶ

事前、事後学習ポイント：事前学習：漫画家

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 9 講>

概要：医療関係者の職業意識を学ぶ

事前、事後学習ポイント：事前学習：専門看護師

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 10 講>

概要：企業経営者の職業意識を学ぶ

事前、事後学習ポイント：事前学習：企業家

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 11 講>

概要：技能職人の職業意識を学ぶ

事前、事後学習ポイント：事前学習：すし職人

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 12 講>

概要：IT関連職従事者の職業意識を学ぶ

事前、事後学習ポイント：事前学習：ITエンジニア、システム・エンジニア

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 13 講>

概要：社会人基礎力とモチベーション

事前、事後学習ポイント：事前学習：やる気スイッチ

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 14 講>

概要：ソーシャルキャピタルとソーシャルメディア

事前、事後学習ポイント：事前学習：SNS、炎上

事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 15 講>

概要：ビジネス社会における常識

事前、事後学習ポイント：事前学習：学生と社会人は何が違うか

事後学習：全授業内容の包括的理解

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

講義内で適宜紹介する

■評価方法

授業貢献点 (59点)、期末試験 (41点)

単位取得には60点以上の得点が必要であり、授業に殆ど出席しない場合や、期末試験を受験しない場合は、単位取得は認められない。

毎回の授業においてコメントシートまたはミニレポートの提出を求め、その内容をA(授業を聴き良い気づきがあった)、B(授業を聴いていた)、C(授業を聴いていたとは思われない)の3段階評価し、授業貢献点とする。Aは加点対象(6点)、Bが標準(4点)、Cは減点(-4点)、欠席は0点とする。従って、授業に出席していても、受講態度が悪い場合は欠席以下の評価となる。授業貢献点は最大59点とする。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：授業貢献点と期末試験の合計が90点以上 授業貢献点は単なる出席点ではなく、授業を聞き、更に自ら考えることができるかを評価する。また、授業を改善していくための建設的提言も授業への貢献として評価する。 期末試験では、ビジネスに関する知識、能力の習得度とともに、ビジネス社会で活動していくことに対する意思が窺われたかを評価する。

評価A (89-80点)：授業貢献点と期末試験の合計が80点以上90点未満

評価B (79-70点)：授業貢献点と期末試験の合計が70点以上80点未満

評価C (69-60点)：授業貢献点と期末試験の合計が60点以上70点未満

評価F (59点以下)：授業貢献点と期末試験の合計が60点未満

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 ビジネス入門Ⅱ(Business Principle Ⅱ)

サブタイトル 会社の利益はどのように計算されるのか？

担当教員 清松、金子

■講義目的

本講義は、企業の会計の仕組みを初めて学ぶ人を対象に、企業活動の成果としての「儲け(利益)」を計算する「企業会計」の仕組みを学ぶことで、産業界の実践の場において企業の儲けに結びつく行動を考えられるようになる実践的知識の獲得を目的としている。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

企業活動を描き出す会計情報(特に利益)について、どのように計算されるのか、企業活動と結びつけて理解すること。

■講義形態

講義 + GW

■準備学習(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業の際に課す課題を提出すること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：イントロダクション。本講義の前半でおこなっていくビジネスゲームの概要を解説する。

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： なし

事後学習のポイント： ビジネスゲームの概要について、チームごとに確認しておくこと。

<第 2 講>

概要：ビジネスゲーム①

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： なし

事後学習のポイント： ビジネスゲームで行った計算について、チームごとに確認しておくこと。

<第 3 講>

概要：ビジネスゲーム②

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： なし

事後学習のポイント： ビジネスゲームで行った計算について、チームごとに確認しておくこと。

<第 4 講>

概要：ビジネスゲーム③

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： なし

事後学習のポイント： ビジネスゲームで行った計算について、チームごとに確認しておくこと。

<第 5 講>

概要：ビジネスゲーム④

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： なし

事後学習のポイント： ビジネスゲームで行った計算について、チームごとに確認しておくこと。

<第 6 講>

概要：ビジネスゲーム⑤

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： なし

事後学習のポイント： ビジネスゲームで行った計算について、チームごとに確認しておくこと。

<第 7 講>

概要：利益計算の基本的な考え方

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント、用語： 発生主義会計

事後学習のポイント： 発生主義会計を支える主要な考え方(実現、発生など)について確認すること。

<第 8 講>

概要：利益計算と損益計算書

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント、用語： 損益計算書

事後学習のポイント： 損益計算書に表示される各段階の利益とその意味について確認すること。

<第 9 講>

概要：企業の営業循環

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント、用語： 営業循環

事後学習のポイント： 企業活動の基本的な営業循環について確認すること。

<第 10 講>

概要：資産と損益計算①

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント、用語： 棚卸資産

事後学習のポイント： 棚卸資産の会計処理について確認すること。

<第 11 講>

概要：資産と損益計算②

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント、用語： 有形固定資産

事後学習のポイント： 有形固定資産の会計処理について確認すること。

<第 12 講>

概要：企業の資金調達活動

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント、用語： 借入、支払利息

事後学習のポイント： 企業の資金調達手段、借入の会計処理について確認すること。

<第 13 講>

概要：損益計算書と貸借対照表

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント、用語： 貸借対照表

事後学習のポイント： 貸借対照表の分類について確認すること。

<第 14 講>

概要：財務諸表分析の基礎

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント、用語： 財務諸表分析、安全性、収益性

事後学習のポイント： 典型的な財務諸表分析について解説する。特に、安全性分析、収益性分析を解説する。

<第 15 講>

概要：第 14 回までの講義のまとめ

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント、用語： なし

事後学習のポイント： なし

■教科書

なし(必要に応じて授業内で指定する。)

■指定図書

桜井久勝「財務会計講義」中央経済社

■参考文献・参考URL / Reference List

なし(必要に応じて授業内で指定する。)

■評価方法

授業で提出を求める課題 50%

期末試験 50%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：企業活動を描き出す会計情報(特に利益)について、どのように計算されるのか、企業活動と結びつけて網羅的に理解できている。

評価A (89~80点)：企業活動を描き出す会計情報(特に利益)について、どのように計算されるのか、企業活動と結びつけて概ね網羅的に理解できている。

評価B (79~70点)：企業活動を描き出す会計情報(特に利益)について、どのように計算されるのか、企業活動と結びつけて初歩的な点の半数超を理解できている。

評価C (69~60点)：企業活動を描き出す会計情報(特に利益)について、どのように計算されるのか、企業活動と結びつけて初歩的な点の半数程度の理解できている。

評価F (59点以下)：企業活動を描き出す会計情報(特に利益)について、どのように計算されるのか、企業活動と結びつけて初歩的な点の半数程度の理解に至っていない。

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次対称再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は2015年入学者用の講義である。

科目名 ビジネス法(Business Law)

サブタイトル

担当教員 櫻井 博子

■講義目的

産業社会の中心的な担い手である企業が行うビジネスは、一定の法ルールによって規律されている。昨今、企業にはルール(法)に対するコンプライアンス(法令遵守)が強く求められる。将来、社会人となり、企業の一員として仕事に従事する際には、企業もまた法に従って動いている側面があるというビジネス環境を理解している必要がある。

本講義では、まず、ビジネス上の取引のみならず、日常生活においても重要な役割を果たしている、契約に関する規律のあり方を学ぶ。次に、企業を規律する会社法について学ぶ。このように、ビジネスにかかわる法の根幹をなす、民法と会社法を中心に、基本的な法の在り方を学び、法に基づく問題処理能力を涵養する。

また、それぞれの制度の規定された背景や、意義・役割も含めて学ぶことにより、法的なものの考え方(リーガル・マインド)を身に着けることも目的とする。

■講義分類

ビジネス環境理解、ビジネスマネジメント、社会人育成

■到達目標

ビジネスに関連する主要な法制度の構造と、その前提となっている法の基本概念を理解し、説明できるようになる。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(学習・復習等)に必要な読書またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

教科書の指定箇所を精読していただくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：イントロダクション

事前,事後学習ポイント：教科書 第1講

<第 2 講>

概要：ビジネスと契約(1)

事前,事後学習ポイント：教科書 第3講 1 契約の締結と方法

<第 3 講>

概要：ビジネスと契約(2)

事前,事後学習ポイント：教科書 第4講 3 契約締結における判断の歪み・食い違い等

<第 4 講>

概要：ビジネスと契約(3)

事前,事後学習ポイント：教科書 第3講 2 契約の効力と拘束力

<第 5 講>

概要：ビジネスと契約(4)

事前,事後学習ポイント：第2講2 契約の意義と種類

<第 6 講>

概要：ビジネスと契約(5)

事前,事後学習ポイント：第4講 1 契約自由の原則とその限界

<第 7 講>

概要：権利の客体

事前,事後学習ポイント：教科書第5講

<第 8 講>

概要：商取引法の概要と特色

事前,事後学習ポイント：教科書第6講

<第 9 講>

概要：権利の主体(1)

事前,事後学習ポイント：教科書第7講

<第 10 講>

概要：権利の主体(2)

事前,事後学習ポイント：教科書第8講

<第 11 講>

概要：会社の仕組み(1)

事前,事後学習ポイント：教科書第9講 1 株式会社の機関、4 株主と株主総会の役割

<第 12 講>

概要：会社の仕組み(2)

事前,事後学習ポイント：教科書第11・12講

<第 13 講>

概要：会社の仕組み(3)

事前,事後学習ポイント：教科書第14講

<第 14 講>

概要：支払決済手段

事前,事後学習ポイント：教科書15講

<第 15 講>

概要：筆記試験

事前,事後学習ポイント：これまで講義した内容

■教科書

中村信男・和田宗久『ビジネス法入門』(中央経済社・2014年)

テイリー六法2015 平成27年度版(三省堂)

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

山田剛志・萬澤陽子『入門企業法』(弘文堂・2012年)

■評価方法

授業内期末試験(100%)。

■評価基準

評価A+(90点以上)：講義で説明した法の概念、特定の問題状況に適用されるべき制度につき、意義や機能を理解した上で、要件と効果を正確に説明できる。

評価A(89~80点)：講義で説明した法の概念、特定の問題状況に適用される条文とその要件、効果を正確に説明できる。

評価B(79~70点)：講義で説明した法の概念について理解しており、特定の問題状況に適用されるべき法律の条文を挙げることができる。

評価C(69~60点)：講義で説明した法の概念や法律につき、基礎的な知識を理解している。

評価F(59点以下)：講義で説明した法の概念や法律に関する理解が不十分である。

■履修していることが望ましい科目

法学

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

初回の講義から欠席せずに受講すること(欠席した分の資料は、正当な事由による欠席の場合にのみ、教員が準備します)。

講義に出席する際は、私語を慎み、自分で工夫しながらノートをとること。

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 ビッグデータ活用法(Utilizing method of Big Data)

サブタイトル ビッグデータの理解と活用について

担当教員 姜 秉祐

■講義目的

自分で課題発見ができる洞察力取得。問題解決のための方法として、ビッグデータの取得・分析・活用ができる実践的知識取得と問題解決能力取得。

■講義分類

ビジネス環境理解、ビジネスマネジメント、ビジネスICT

■到達目標

ビッグデータの理解と、ビッグデータを生かしたビジネスへの応用例の学習。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（学習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる具体的な学習内容

特になし

■講義の概要

<第 1 講>

概要：イントロダクション

事前、事後学習ポイント：ここでの紹介を基に、本講義を受講するか否かを決める。

<第 2 講>

概要：IT革命

事前、事後学習ポイント：関連書：「Being Digital (Nicholas Negroponte 著)」

<第 3 講>

概要：ITと経営

事前、事後学習ポイント：関連書：「経営情報論(遠山巖・村田潔・岸眞理子著)」、「CIOのITマネジメント(NTTデータ経営研究所)」、「フラット化する世界(トーマス・フリードマン著)」

<第 4 講>

概要：ビッグデータとは

事前、事後学習ポイント：ビッグデータに関する新聞記事、雑誌に目を通し、講義内容を照らし合わせてみる。

<第 5 講>

概要：ビッグデータがもたらした価値：理論と応用(1)

事前、事後学習ポイント：ビッグデータに関する新聞記事、雑誌に目を通し、講義内容を照らし合わせてみる。

<第 6 講>

概要：ビッグデータがもたらした価値：理論と応用(2)

事前、事後学習ポイント：ビッグデータに関する新聞記事、雑誌に目を通し、講義内容を照らし合わせてみる。

<第 7 講>

概要：(前半) グループワーク報告会のガイダンス、(後半) Officeソフトの使用法の説明

事前、事後学習ポイント：Officeソフトの機能はすべて知る必要はない。その代り、「必要な機能を探して使う」能力は必要。

(注意) 課題作成には必ずOfficeソフトを使用すること。

<第 8 講>

概要：ビッグデータと業種、そして人材

事前、事後学習ポイント：ビッグデータの時代の自身のキャリアについて考えてみる。

<第 9 講>

概要：ビッグデータ活用戦略

事前、事後学習ポイント：ビッグデータに関する新聞記事、雑誌に目を通し、講義内容を照らし合わせてみる。

<第 10 講>

概要：ビッグデータ活用を支える知識(1)：分析手法

事前、事後学習ポイント：本講義では概念だけを知る。

もっと深く知りたい学生は統計学、計量経済学、その他関連科目を受講すること。

<第 11 講>

概要：ビッグデータ活用を支える知識(2)：テクノロジー

事前、事後学習ポイント：本講義では概念だけを知る。

もっと深く知りたい学生は情報工学、プログラミング、その他関連科目を受講すること。

<第 12 講>

概要：ビッグデータとリスク

事前、事後学習ポイント：ビッグデータに関する新聞記事、雑誌に目を通し、講義内容を照らし合わせてみる。

<第 13 講>

概要：ゲストスピーカーによる講義(義)

事前、事後学習ポイント：本講義で学んだ内容を照らし合わせてみる。将来の自分のキャリアについて考えてみる。

<第 14 講>

概要：グループワーク報告会(1)

事前、事後学習ポイント：(注意) 課題作成には必ずOfficeソフトを使用すること。

<第 15 講>

概要：グループワーク報告会(2)

事前、事後学習ポイント：(注意) 課題作成には必ずOfficeソフトを使用すること。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

「データ・アナリティクス 3.0 (トーマス・H・ダベンポート著)」

「ビッグデータの正体 (ビクター・マイヤー＝ショーンバルガー、ケネス・クキエ著)」

「日経ビッグデータ」

■評価方法

課題レポート(50%)、グループワーク(50%)

■評価基準

評価A+ (90点以上)：知識、応用能力、洞察力のすべてを身に付けている。

評価A (89～80点)：知識、応用能力がある。

評価B (79～70点)：最低限の知識を身に付けている。

評価C (69～60点)：最低限の知識を身に付けるには、若干の改善が必要である。

評価F (59点以下)：Cに達しない程度の大規模な改善を要する。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名

Practical English Conversation I (Practical English Conversation I)

サブタイトル

世界でそして地域で活躍するために必要な英語表現力を身に付け、志の実現に向かって社会に自分のアイデアや考え、意見を英語で積極的に発信し、いろいろな形のコミュニケーションを取りましょう!

担当教員

中村 その子

■講義目的

世界でそして地域で活躍するために必要な英語表現力を身に付け、志の実現に向かって社会に自分のアイデアや考え、意見を英語で積極的に発信し、いろいろな形のコミュニケーションを取れるようにする。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

以下講義概要に述べられる学習項目について、英語でのコミュニケーションが取れるようにする。

特に、留学や、国内外での研修、見学、社会的活動に最低限必要な英語表現を習得し、自分の考えやアイデアをいろいろな方法で社会に発信し、また同時に発信された他者の考えを正しく理解できるように
なると、単に英語を話せるだけでなく、英語を話すことによって円滑な人間関係が作れるようになること、またそのために必要な言語以外の資質と素養も身に付けるよう心がける。

■講義形態

グループワーク、グループディスカッション、タスク、プレゼンテーション、授業内での積極的な発言

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

下記の各週講義内容に関して配布される教材を1時間程度予習、復習し、そこに提示されている英語表現を覚えること。

■講義の概要

<第1講>

概要：挨拶、アイスブレイキング、友人作り、スモールトークなど、お互いに知り合いになり今後のお付き合いを発展的にするためには
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第2講>

概要：電話での会話やPC(SNS)に関連した表現、アポイントメントに関連した表現
ちょっとした会話のネタで相手の関係をよくするには
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第3講>

概要：家族や結婚、自分の生活や趣味、ショッピングやデート、スポーツ(産業)に関連する表現

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第4講>

概要：アニメーション、映画やテレビ番組、インターネットラジオ、メディアエンターテインメントに関連する表現
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第5講>

概要：人物、製品、サービスなどを魅力的に描写し、そのあとの会話をはずませるには、よい話し手になると同時によい聞き手になることも大切
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第6講>

概要：食品販売、レストラン、料理など、食に関連した英語表現を学ぶ
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートや教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第7講>

概要：比較対照、提案、オファー、選択決定、意見やアドバイスのやりとりに関連する英語表現を学ぶ

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートや教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第8講>

概要：自分の自由時間に何をするか、充電するために、そしてストレス解消のためにどんなことをするか、を語る。週末の楽しみ方、趣味、旅行、特技、自分が今凝っていることなどを魅力的に語る。

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートや教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第9講>

概要：的確な指示の与え方と説明の仕方、そして指示や説明を受けた時の確かな理解。自分が気に入っているもの、あまり好きになれないものを「好感を持たれる形」で話す。
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートや教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第10講>

概要：アルバイト、インターンシップ、就職活動、職業意識、この世の中にあるいろいろな仕事やボランティア活動などの非営利活動について知る＝仕事に関連した英語表現
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートや教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第11講>

概要：因果関係、同意不同意、将来計画、予想予測、など筋を通して、理論的に話すための訓練

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートや教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第12講>

概要：ファッション、およびファッション関連産業に関する英語表現
音楽、および音楽関連産業に関する英語表現
ジェスチャー、アイコンタクト、声の調子などの話するとき、プレゼンテーションする時の非言語的要素について学ぶ

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートや教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第13講>

概要：地球にやさしい英語表現＝環境保護に関連した英語表現と、健康・美容産業に関連したトピックを学ぶ

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートや教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第14講>

概要：期末スピーキングテストと最終プレゼンテーション
世界に発信すべき日本の伝統と文化(サブカルチャーを含む)について学ぶ
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートや教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと。またこの学期に学んだ学習事項をよく復習し期末試験に備える。

<第15講>

概要：期末ライティングテスト
世界に発信すべき日本の伝統と文化(サブカルチャーを含む)について学ぶ
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に

目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートや教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと。またこの学期に学んだ学習事項をよく復習し期末試験に備える。

■教科書

授業内にて指示

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席 20% 授業内小テスト 20%

宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40%

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、90点以上の場合 中

評価A (89~80点) : 出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、80点から89点の場合 中

評価B (79~70点) : 出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、70点から79点の場合 中

評価C (69~60点) : 出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、60点から69点の場合 中

評価F (59点以下) : 出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、59点以下の場合 中

■履修していることが望ましい科目

海外活動英語コミュニケーションと同時に履修することが望ましい。

■卒業年次対象再試験の実施

実施する。

■留意点

科目名

Practical English ConversationII(Practical Conversation II)

サブタイトル

世界でそして地域で活躍するために必要な英語表現力身に付け、志の実現に向かって社会に自分のアイデアや考え、意見を英語で積極的に発信し、いろいろな形のコミュニケーションを取りましょう!

担当教員

中村 その子

■講義目的

世界でそして地域で活躍するために必要な英語表現力身に付け、志の実現に向かって社会に自分のアイデアや考え、意見を英語で積極的に発信し、いろいろな形のコミュニケーションを取れるようにする。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人育成
グローバルビジネス

■到達目標

以下講義概要に述べられる学習項目について、英語でのコミュニケーションが取れるようになること。

特に、留学や、国内外での研修、見学、社会的活動に最低限必要な英語表現を習得し、自分の考えやアイデアをいろいろな方法で社会に発信し、また同時に発信された他者の考えを正しく理解できるように
なること。単に英語を話せるだけでなく、英語を話すことによって円滑な人間関係が作れるようになること、またそのために必要な言語以外の資質と素養も身に付けるよう心がける。

■講義形態

グループワーク、グループディスカッション、タスク、プレゼンテーション、授業内での積極的な発言

■準備学習(予習・復習)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

下記の各週講義内容に関して配布される教材を1時間程度予習、復習し、そこに提示されている英語表現を覚えること。

■講義の概要

<第1講>

概要：自分の経験やこれからの計画、抱負について語る
そのため必要なちょっとした社会問題ネタを準備する
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第2講>

概要：世の中に出現した新しい仕事、興味深い仕事、珍しい仕事をリサーチして発表。仕事に対する認識を深める。
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第3講>

概要：環境問題とビジネス
環境保護ビジネスについてその可能性を探る
このトピックに関しては調査・研究発表～プレゼンテーションを行う
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第4講>

概要：これまでの歴史に残る画期的な(主としてビジネス分野での)アイデアについて調べ、英語でプレゼンテーションする
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第5講>

概要：1990年以降の記録に残る画期的な ボランティア活動や環境保護運動、非営利組織の活動などについて調べる
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。

<第6講>

概要：主としてペットに関連することになると考えられるが、動物と植物関連ビジネスについて考える
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメート

や教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第7講>

概要：おもちゃ、子供服、教育など子供、および子育てに関連したビジネスに関連した英語表現を学ぶ

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートと教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第8講>

概要：広告、宣伝、組織PR、シティブローモーションなどに関連した英語表現を学ぶ
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートと教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第9講>

概要：インターネット上(主としてSNS)の情報発信、非インターネット上の情報発信について学ぶ

事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートと教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第10講>

概要：音楽関連産業、音楽配信に関連した英語表現を学ぶ
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートと教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第11講>

概要：これからの超高齢化社会に向けて、シニア関連産業やシニアに関連した社会的動きにはどのようなものがあるのだろうか。
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートと教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第12講>

概要：マーケティングやセールスプロモーションの成功例に学ぶ その1
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートと教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第13講>

概要：マーケティングやセールスプロモーションの今までの成功例に学ぶ その2
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートと教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと

<第14講>

概要：期末スピーキングテスト
最終プレゼンテーション
将来、地域、日本国内、世界で活躍するのに必要な、日本の伝統と文化に対する知識と素養を深める

活動
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートと教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと。またこの学期に学んだ学習事項をよく復習し期末試験に備える。

<第15講>

概要：期末ライティングテスト
事前、事後学習ポイント：上記のトピックに関連して配布される教材の英語表現に事前に目を通し、わからない単語を調べておく。また授業後には上記英語表現をよく復習し次の授業で行われる小テストに備える。また授業後は学んだ英語表現を用いて、クラスメートと教員と英語での会話練習を教室外で常に行うこと。またこの学期に学んだ学習事項をよく復習し期末試験に備える。

■教科書

授業内にて指示

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席 20% 授業内小テスト 20%
宿題 20% 中間テストおよび期末テスト 40%

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中
間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、90点以上の場合
評価A (89~80点) : 出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中
間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、80点から89点の場合
評価B (79~70点) : 出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中
間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、70点から79点の場合
評価C (69~60点) : 出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中
間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、60点から69点の場合
評価F (59点以下) : 出席 20% 授業内小テスト 20% 宿題 20% 中
間テストおよび期末テスト 40% の配分で得点を付け、59点以下の場合

■履修していることが望ましい科目

海外活動英語コミュニケーションと同時に履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する。

■留意点

科目名 **ブランドマネジメント (Brand Management)**

サブタイトル

担当教員 **細川 淳**

■講義目的

私たちの身の回りににはなぜブランドがあふれているのか。これは、社会の情報過多とスピード化が加速する現代において、一瞬で多くのメッセージを伝えようという切実な企業や組織のニーズを背景としている。ブランディングの力や戦略を理解する事は、ビジネス創造や顧客理解の学習を促進するだけでなく、学生個人々人の中心的価値の理解・設定の一助にもなる。

本講義ではブランドマネジメントの基本概念の習得を目的とする。ブランド戦略の基礎と理論を学び、また多くの最新事例を見て行く事で、グローバルビジネス、地域ビジネス、志企業の「積み重ね」と「今」を掴み取る。

■講義分類

顧客理解
 ビジネス環境理解
 ビジネス創造
 ビジネスマネジメント
 グローバルビジネス
 地域ビジネス
 社会人力育成

■到達目標

①ブランド戦略の概念と基本理論を体系的に理解する。
 ②多数の最新事例の研究を通じて、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、顧客理解の習得を促し、自身の着眼点、創造力、問題解決力などの社会人力育成を目指す。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

参考文献、その他のブランドやブランディングに関する書籍、雑誌のうち、学生自身の興味を喚起するものを読み込み、また日常生活で触れるブランドの店舗やURLを観察する事により、各目のブランドへの興味を喚起、ブランドというものについての各自のイメージ、疑問、仮説を整理、考察しておく。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：ブランドとは？ ブランドマネジメント論の概要と学習のポイント
 事前,事後学習ポイント：「ルイ・ヴィトン」「ユニクロ」というブランド名を聞き、浮かんでくるイメージや連想をできるだけ多くノートに書き込んでおく。印象、噂、会社の評判、商品、雰囲気、など、どのような連想でも構わない。

<第 2 講>

概要：ブランドとは？② ブランドの種類、歴史、概念
 事前,事後学習ポイント：自分が興味を持つブランドの成り立ちや歴史を文献やURLで調べて、そのブランドや商品にある歴史に触れる。

<第 3 講>

概要：ブランド戦略の基本① ブランドの構造と価値 強いブランドの条件
 事前,事後学習ポイント：事前に学習しておくべき用語：経営資源、資産、ブランド・エクイティ

<第 4 講>

概要：ブランド戦略の基本② ブランドの要素
 事前,事後学習ポイント：授業後に、学生各自が興味を持つブランド商品のミクロ要素、マクロ要素は何かを観察する。

<第 5 講>

概要：ブランド戦略の基本③ ブランド連想
 事前,事後学習ポイント：授業後に、学生各自が興味を持つブランド商品のブランド連想を各項目にそって特定してある。

<第 6 講>

概要：ブランド戦略の基本④ ブランドの枠組みと戦略
 事前,事後学習ポイント：授業後に、各戦略に該当するブランドが学生自身の身の回りにないか、探してみる。

<第 7 講>

概要：ブランド戦略の基本⑤ 強いブランドを作る方法
 事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：文化、アイデンティティ、販路、コミュニケーション戦略

<第 8 講>

概要：ブランド戦略の基本⑥ ブランドの寿命と維持
 事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：ライフサイクル、市場

<第 9 講>

概要：ナショナル・ブランド、インターナショナル・ブランド
 事前,事後学習ポイント：授業後に身の回りにあるナショナル・ブランド、インターナショナル・ブランドを5つずつピックアップし、URLなどで概要を調べる。

<第 10 講>

概要：失敗に学ぶ
 事前,事後学習ポイント：コーチ、ハートマンのホームページを見て、ブランドの概要に触れる。

<第 11 講>

概要：ラグジュアリー・ブランド
 事前,事後学習ポイント：シャネル、カルバン・クライン、エルメス、ロレックスのホームページを見て、ブランドの雰囲気や取扱い商品を確認する。

<第 12 講>

概要：プライベート・ブランドの戦略
 事前,事後学習ポイント：トップバリュ、セブ・プレミアム、無印良品のホームページを見て、プライベート・ブランドの性質を考える。

<第 13 講>

概要：ブランド理論
 事前,事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：ブランド・エクイティ、ポジショニング

<第 14 講>

概要：ブランド戦略の旬① 地域ブランド
 事前,事後学習ポイント：岡山県新庄村、徳島県上勝町、草加せんべい振興協議会のホームページを見て、それぞれの特徴を考察する。

<第 15 講>

概要：ブランド戦略の旬② ビジョン・ブランド、エンカル・ブランド 本講義の総括
 事前,事後学習ポイント：これまで学習してきた事を見直し、できればノートに要約して整理しておく。その際、各講3行以内に要約する事を推奨する。

■教科書

資料配布

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

小川孔輔「よくわかるブランド戦略」日本実業出版社
 デビッド・アーカー「ブランド論」ダイアモンド社
 ケビン・レーン・ケラー「戦略的ブランド・マネジメント」東急エージェンシー

■評価方法

期末試験80%
 授業参画20% (コメント・ペーパー (随時実施)の提出、発言、質問、問いかけへの応答、各1回につき5点。)

■評価基準

評価A+ (90点以上) : ブランドマネジメントの各概念やキーワードをほぼ完全に理解し、使いこなせる。授業参回数が多い。 授業参画の点数は参回数1回5点の加点方式。最大20点 (ただし参画の内容、授業態度により、減点もあり得る。)
 評価A (89~80点) : ブランドマネジメントの各概念やキーワードを充分理解している。授業参回数が比較的多い。
 評価B (79~70点) : ブランドマネジメントの各概念やキーワードを平均以上に理解している。授業参回数がやや多い。
 評価C (69~60点) : ブランドマネジメントの各概念やキーワードある程度理解しているが欠落している部分も多い。授業参回数がやや少ない。
 評価F (59点以下) : ブランドマネジメントの各概念やキーワードの理解度が必要レベルに達していない。授業参回数が少ないかない。

■履修していることが望ましい科目

マーケティング関連の授業を履修していることが望ましいが、必須ではない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名

文章伝達入門(Introduction to Communication in Writing)

サブタイトル

担当教員

樋口、中澤

■講義目的

産業社会で活躍し、問題発見、問題解決に不可欠な文章力を養成する。現代の志士として、将来のビジネスに直結する文章力養成する。同時にそれは、分析的に思考し、的確に判断する力を養うことにもなる。また、社会や人間に対する関心も高め、社会人基礎力を高め、自らの志を明確にすることにもなる。

■講義分類

顧客理解、社会人育成、ビジネスICT

■到達目標

社会についての関心を高め、社会問題について600字から800字程度の論理的な文章を、自在に書ける力を養う。

■講義形態

その他(講義+文章作成+PR)

■準修習(字習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

前もって次の時間に書く問題を示すので、書籍やインターネットサイトで下調べをする。授業後、学習したテクニックを用いて自分の文章を書きなおす。

■講義の概要

<第1講>

概要：オリエンテーション 文章の書き方の基本の説明。第1回課題答案作成(200字程度の文章)

事前、事後学習ポイント：初回につき、特になし

<第2講>

概要：課題復習 よい文章、悪い文章について解説、前回の文章を書きなおす

事前、事後学習ポイント：小論文の「型」を確認する

<第3講>

概要：部分練習 問題提起の作り方、第2段落の書き方

事前、事後学習ポイント：前回答案の欠点を復習して、第2回課題に備える

<第4講>

概要：第2回課題答案作成 実際に600字程度の論理的な文章(第2回課題)を書く

事前、事後学習ポイント：事前に第2回課題について資料を集める

<第5講>

概要：第2回課題解説 文章を書くためのトレーニング

事前、事後学習ポイント：第2回課題について資料を整理する

<第6講>

概要：部分練習 各段落の書き方

事前、事後学習ポイント：第2回課題の自分の答案を見て欠点を直す

<第7講>

概要：論の深め方

事前、事後学習ポイント：新聞などを読んで、自分なりに論を深める練習をする

<第8講>

概要：第3回課題作成(600字程度の文章)

事前、事後学習ポイント：予告された課題について事前に資料を集める

<第9講>

概要：第3回課題解説 読みとり練習

事前、事後学習ポイント：新聞記事や図書館の本などを通じて読み取りの復習をする

<第10講>

概要：文章を読んで論じる練習 文章の読み取り方、論の立て方

事前、事後学習ポイント：新聞記事や図書館の本などを通じて、それについて論じる復習をする

<第11講>

概要：第4回課題答案作成

事前、事後学習ポイント：課題に備えて読み取り練習をする

<第12講>

概要：第4回課題解説 読み取り練習

事前、事後学習ポイント：読み取りの復習をする

<第13講>

概要：トレーニング グラフ・表の読みとり練習

事前、事後学習ポイント：事前、事後にネット上などのグラフ・表を探す

<第14講>

概要：第5回課題答案作成 グラフ・表を読み取って論じる

事前、事後学習ポイント：事前に課題についての資料を集める

<第15講>

概要：第5回課題解説 今後の勉強法

事前、事後学習ポイント：自分の未到達部分を認識して総復習する

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

「ホンモノの文章力」 集英社新書

■評価方法

提出文章(80パーセント)、平常点(20パーセント)

出席が3分の2に満たないものは不合格にする。授業中に合計5～6回、小論文を書いてもらい、1点～5点で採点して返却する。平均2点を超すものについては原則として合格とみなす。なお、書き直して提出した場合、必ず加点する。授業中の発言についても加点する。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：出席が12回以上で、提出文章の平均がBランクを超す者。また、授業中、優れた発言を行った者。

評価A (89～80点)：出席が12回以上で、提出文章の平均がBランクに近い者。または、それに匹敵する授業中の発言がある者。

評価B (79～70点)：出席が10回以上で、提出文章の平均がCランクを超す者。および、それに匹敵する発言を授業中に行った者。

評価C (69～60点)：出席回数が10回以上で、提出文章の平均がDランクを超す者。または、それに匹敵する発言を授業中にした者。

評価F (59点以下)：出席回数が9回以下の者。あるいは、提出文章の平均がDランクに満たず、授業中の発言を十分に示なかった者。なお、提出文章の再提出についても加点したうえでの評価となる。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

授業中の私語禁止。そのほか、飲食(ただし飲みもの摂取は許す)・ガム・帽子着用・寝る姿勢を整えての居眠り・無断退出・イヤホンの着用・教員に対する暴言など、授業を害する行為についても禁止する。目に余るものは退出させ、欠席とみなす。文章力だけを身につけても読得できる文章を書くことはできない。発信したい内容を持つことによって表現力も増す。それゆえ、多くの時間を、単に表現法ではなく、思考法、社会的知識を身につけることに費やす。

科目名

Basic Office EnglishI (Basic Office English I)

サブタイトル

担当教員 ガイ ローズ

■講義目的

The aim of this course is to provide practice for basic office situations as well as develop and practice skills for successful business interactions.

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人育成
グローバルビジネス

■到達目標

- 1 Read and discuss news about current business practices, entrepreneurs and situations
- 2 Learn how to express yourself in English to resolve issues and solve problems
- 3 Learn: Self-Introductions, Introducing others, Talking about companies, Meeting etiquette, At the office situations, Interviews and Socializing.
- 4 Live Conference Calls throughout the semester with foreigners
- 5 Group work and in class presentations.
- 6 Keywords/Things to know: Scheduling: (Ordinal Numbers, Days of the week, Months of the year, Time), Companies (Nationalities, Countries), Introductions ("I'm..." "I work for...") Requests ("Could I/you...") Interruptions ("Excuse me", "Pardon me")

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■単講学習 (学習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎クラスごとに約2時間ほどの課題が与えられる。(時間は英語のレベルによる。)

■講義の概要

<第 1 講>

概要 : Class Introduction

事前, 事後学習ポイント : Class Introduction

<第 2 講>

概要 : Business Introductions

事前, 事後学習ポイント : 1. Good to see you 2. Greeting People 3. Meet and Greet 4. Introducing People
Useful Vocabulary: acquaintance, friend, stranger, shake hands, business cards, exchange

<第 3 講>

概要 : Types of Meetings

事前, 事後学習ポイント : 1. When's the meeting? 2. Days of the week/ Time 3. Schedules
Useful Vocabulary: appointment, conference call, meeting, office party, personnel, planning, presentation, production, tour, visit

<第 4 講>

概要 : Companies

事前, 事後学習ポイント : 1. My company 2. Cities/Nationality 3. Company Information 4. Presenting your company
Useful Vocabulary: stand for, product, famous, head office, major, well-known, factory

<第 5 講>

概要 : Test 1

事前, 事後学習ポイント : Test 1

<第 6 講>

概要 : In the office

事前, 事後学習ポイント : 1. Could I use your... 2. Things in the office 3. Office Layout
Useful Vocabulary: borrow, cheap, expensive, make, popular, use

<第 7 講>

概要 : Work

事前, 事後学習ポイント : 1. Jobs 2. Duties 3. Instructions
Useful Vocabulary: attend, deal with, office worker, receptionist, run, train

<第 8 講>

概要 : Appointments

事前, 事後学習ポイント : 1. Ordinal Numbers 2. Months/Dates 3. Times

<第 9 講>

概要 : Scheduling Meetings

事前, 事後学習ポイント : 1. Scheduling meetings 2. Rescheduling meetings 3. Getting Together
Useful Vocabulary: can't make it, come up

<第 10 講>

概要 : Test 2 / Presentations

事前, 事後学習ポイント : Test 2 / Presentations

<第 11 講>

概要 : Entrepreneurs

事前, 事後学習ポイント : Kickstarter Activity

<第 12 講>

概要 : Business Skills

事前, 事後学習ポイント : Useful language: strengths, weaknesses, communication, problem-solving, management, negotiation, creativity, decision making, leadership, teaching yourself

<第 13 講>

概要 : Requests and Offers

事前, 事後学習ポイント : 1. Could you...? 2. Deadlines

<第 14 講>

概要 : Quiz/Presentation Prep

事前, 事後学習ポイント : Quiz/Presentation Prep

<第 15 講>

概要 : Final Presentations

事前, 事後学習ポイント : Final Presentations

■教科書

■指定図書

Given in class

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

宿題 20%
テスト・クイズ 40%
プレゼンテーション 40%

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 優秀 : 授業参加、試験とプレゼンテーションの成績、宿題・課題の提出の総合で判断

Excellent participation, all homework and assignments completed, excellent grades on tests and presentations

評価A (89~80点) : 平均以上 : 授業参加、試験とプレゼンテーションの成績、宿題・課題の提出の総合で判断

Above average participation, good grades on tests and presentations, homework and assignments completed

評価B (79~70点) : 平均 : 授業参加、試験とプレゼンテーションの成績、宿題・課題の提出の総合で判断

Average participation grades on tests/presentations, some homework and assignments completed

評価C (69~60点) : 平均以下 : 授業参加、試験とプレゼンテーションの成績、宿題・課題の提出の総合で判断

Below average participation, grades on tests and presentations, little to no homework

completed

評価F (59点以下) : 評価無し: 授業に全くもしくは、ほぼ参加がない

試験とプレゼンテーションの成績、宿題・課題の提出の総合で判断ができない場合

Little to no participation, homework or assignments, failed tests and presentations

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

None. (You can only re-take tests if you missed class on test day)

■留意点

Class criteria subject to change

科目名 Basic Office EnglishII(Basic Office English I I)**サブタイトル****担当教員** ガイ ローズ**■講義目的**

The aim of this course is to familiarize you with Basic Office English in common business situations and environments as well as improve overall communication skills in said circumstances.

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人育成
グローバルビジネス

■到達目標

- 1 Read and discuss news about current business practices, entrepreneurs and situations
- 2 Learn how to express yourself in English to resolve issues and solve problems
- 3 Learn: Introducing others, Small Talk, Brainstorming, Expressing Opinions, Interview Skills, Product marketing.
- 4 Live Conference Calls throughout the semester with foreigners
- 5 Group work and in class presentations.

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎クラスごとに約2時間ほどの課題が与えられる。(時間は英語のレベルによる。)

■講義の概要

<第 1 講>

概要: Class Introduction

事前,事後学習ポイント: Class Introduction

<第 2 講>

概要: Business Introductions (Review)

事前,事後学習ポイント: 1. Good to see you 2. Greeting People 3. Meet and Greet 4. Introducing People
Useful Vocabulary: acquaintance, friend, stranger, shake hands, business cards, exchange

<第 3 講>

概要: Client Meetings

事前,事後学習ポイント: 1. Arriving for an appointment? 2. At reception 3. Formal vs. Informal language
Useful Vocabulary: advertising, appointment, amenities, workplace, introduce

<第 4 講>

概要: Improving your Small Talk

事前,事後学習ポイント: Building on conversations given certain topics

<第 5 講>

概要: Test 1

事前,事後学習ポイント: My company, company information,

<第 6 講>

概要: Brainstorming Sessions

事前,事後学習ポイント: Problem solving

<第 7 講>

概要: Opinions and Preferences

事前,事後学習ポイント: 1. Choosing the best candidate 2. Making comparisons
Useful Vocabulary: confident, dynamic, exciting, interrupt, powerful, quality, reliable

<第 8 講>

概要: Opinions (continued)

事前,事後学習ポイント: 1. Agreeing and Disagreeing 2. Interrupting

<第 9 講>

概要: Making Plans

事前,事後学習ポイント: 1. Announcing company plans 2. Talking about objectives 3. Business Trips

<第 10 講>

概要: Test 2 / Presentations

事前,事後学習ポイント: Test 2 / Presentations

<第 11 講>

概要: Entrepreneurs and The Power of Social Media

事前,事後学習ポイント: Discuss popular social media platforms for entrepreneurs (i.e. JapanNight, Kickstarter, IndieGoGo) Useful Vocabulary: Crowdfunding

<第 12 講>

概要: Interviewing

事前,事後学習ポイント: Common interview questions and good responses

<第 13 講>

概要: Product Marketing

事前,事後学習ポイント: 1. Marketing 2. Advertising Campaigns 3. Slogans

<第 14 講>

概要: Quiz/Presentation Prep

事前,事後学習ポイント: This class will focus on preparing final presentations

<第 15 講>

概要: Final Presentations

事前,事後学習ポイント: Final Presentations

■教科書**■指定図書**

Given in class

■参考文献・参考URL / Reference List**■評価方法**

宿題 20%

テスト・クイズ 40%

プレゼンテーション 40%

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 優秀: 授業参加、試験とプレゼンテーションの成績、宿題・課題の提出の総合で判断

Excellent participation, all homework and assignments completed, excellent grades on tests and presentations

評価A (89~80点) : 平均以上: 授業参加、試験とプレゼンテーションの成績、宿題・課題の提出の総合で判断

Above average participation, good grades on tests and presentations, homework and assignments completed

評価B (79~70点) : 平均: 授業参加、試験とプレゼンテーションの成績、宿題・課題の提出の総合で判断

Average participation grades on tests/presentations, some homework and assignments completed

評価C (69~60点) : 平均以下: 授業参加、試験とプレゼンテーションの成績、宿題・課題の提出の総合で判断

Below average participation, grades on tests and presentations, little to no homework completed

評価F (59点以下) : 評価無し: 授業に全くもしくは、ほぼ参加がない試験とプレゼンテーションの成績、宿題・課題の提出の総合で判断ができない場合

Little to no participation, homework or assignments. Failed tests and presentations

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

None (You can only re-take tests if you missed class on test day)

■留意点

Class criteria subject to change

科目名 ベンチャー企業論 (Venture Company Theory)

サブタイトル 企業家精神の習得

担当教員 小林 英夫

■講義目的

付加価値や雇用の創出においてベンチャー企業の果たす役割は非常に大きい。また、ベンチャー企業を興し発展させていくことを司る精神—企業家精神—は、創業に携わるかどにかかわらず、創造的なビジネス活動を行っている上で重要なものである。

本講義では、組織のマネジメントとそれを支える行動規範としての企業家精神について包括的に学ぶとともに、現在活躍中の企業家や事業家の生き方を知ることを通じて、ベンチャー企業の経営やベンチャー企業への参画について学び、自らのライフマネジメントについて考える。

■講義分類

ビジネス創造
 ビジネスマネジメント
 グローバルビジネス

■到達目標

- ・ 企業家という存在とは何かを理解することを通して、自らのキャリアデザインを考えられるようになる。
- ・ 事業立ち上げや発展に必要な知識を習得し、事業創業や急成長時に特有の課題や戦略を理解する。
- ・ 立志につながるアイデアを発見し、それを具体化させられるようになる。

■講義形態

講義
 その他(クラスディスカッション)

■準備学習 (予習・復習等) に必要な事項またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業前には、事前学習しておくべき用語やポイントを自分なりに調べその意味を考えてくるとともに、T-NEXTにアップされる授業資料に事前に目を通し、疑問点を明確にしておくこと。

授業後は、授業資料に再度目を通して疑問点が解消されたかを確認し、解消されていない場合は次の授業までに教員に質問するなどにより解消すること。

■講義の概要

- <第 1 講>
 概要：起業活動の意義
 事前,事後学習ポイント：事前学習：起業
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消
- <第 2 講>
 概要：ベンチャーと企業家精神
 事前,事後学習ポイント：事前学習：ベンチャー、アントレプレナーシップ
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消
- <第 3 講>
 概要：起業プロセス
 事前,事後学習ポイント：事前学習：楽天、三木谷浩史
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消
- <第 4 講>
 概要：女性起業家
 事前,事後学習ポイント：事前学習：テンプスタッフ、DeNA
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消
- <第 5 講>
 概要：学生起業
 事前,事後学習ポイント：事前学習：KLab、リブセンス
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消
- <第 6 講>
 概要：就業後起業
 事前,事後学習ポイント：事前学習：リクルート、千本伸生
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消
- <第 7 講>
 概要：米国の起業家
 事前,事後学習ポイント：事前学習：Apple、Google、Facebook
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消
- <第 8 講>
 概要：カリスマ的起業家
 事前,事後学習ポイント：事前学習：Virgin Group、Softbank
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 9 講>

概要：事業計画の立案
 事前,事後学習ポイント：事前学習：事業計画書
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 10 講>

概要：資金調達とインキュベーション
 事前,事後学習ポイント：事前学習：ベンチャーキャピタル、資本政策
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 11 講>

概要：プロダクト開発とリーンスタートアップ
 事前,事後学習ポイント：事前学習：GREE、田中良和
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 12 講>

概要：連続起業家
 事前,事後学習ポイント：事前学習：ブックオフ、俺のフレンチ
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 13 講>

概要：中小企業からベンチャーへの転換
 事前,事後学習ポイント：事前学習：ユニクロ、柳井正
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 14 講>

概要：企業家精神の展望
 事前,事後学習ポイント：事前学習：企業家精神の本質とは何か
 事後学習：授業資料の確認、疑問点の解消

<第 15 講>

概要：学習成果の確認—授業内期末試験
 事前,事後学習ポイント：事前学習：本講座で扱った全内容の復習
 事後学習：全授業内容の包括的理解

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

講義内で適宜紹介する

■評価方法

授業貢献点 (59点)、期末試験 (41点)
 単位取得には60点以上の得点が必要であり、授業に殆ど出席しない場合や、期末試験を受験しない場合は、単位取得は認められない。

毎回の授業においてコメントシートまたはミニレポートの提出を求め、その内容をA (授業を聴き良い気づきがあった)、B (授業を聴いていた)、C (授業を聴いていたとは思わない) の3段階評価し、授業貢献点とする。Aは加点対象 (6点)、Bが標準 (4点)、Cは減点 (-4点)、欠席は0点とする。従って、授業に出席していても、受講態度が悪い場合は欠席以下の評価となる。授業貢献点は最大59点とする。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：授業貢献点と期末試験の合計が90点以上 授業貢献点は単なる出席点ではなく、授業を聴き、更に自ら考えることができているかを評価する。また、授業を改善していくための建設的提言も授業への貢献として評価する。期末試験では、企業家精神に関する知識の習得度とともに、事業構想活動を通じたライフマネジメントのイメージが掲げられるようになっているかを評価する。

評価A (89~80点)：授業貢献点と期末試験の合計が80点以上90点未満
 評価B (79~70点)：授業貢献点と期末試験の合計が70点以上80点未満
 評価C (69~60点)：授業貢献点と期末試験の合計が60点以上70点未満
 評価F (59点以下)：授業貢献点と期末試験の合計が60点未満

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 法学(憲法) (Jurisprudence (including Constitution Law))

サブタイトル

担当教員 石岡 克俊

■講義目的

本講義は、法なし法的な考え方のエッセンスをできるだけわかりやすく解説していく。最近では、法科大学院(ロー・スクール)をはじめとする専門職大学院の設置に世間の耳目が集なり、わが国でも専門職教育のためのカリキュラムが整いつつある。しかし、いうまでもないことだが、法は弁護士など一部専門家のものでなく、われわれ社会を構成する市民一人ひとりのものである。

われわれが、身近なトラブルに見舞われたとき、その解決に法的素養は不可欠である(トラブルの解決を担う公的な機関は、法をよりどころに判断し、その役割を果たしているからである)。また、昨今制度化され、近い将来実施に移される裁判員制度は、一定の法的判断を司法が行う場合に、一般市民がその判断に義務として関与する仕組みである。社会を構成するわれわれは、社会の問題を他人事としてではなく、わが事として考え、その判断や決定に参加することが期待されるが、このような公共的性質を有する判断や決定の際にも、法的素養を欠くことはできない(法は社会を成り立たせている基本的なルールであり、偏見や思い込みを伴った判断や決定は他者を説得する力を欠くからである)。

このように、法は自分自身の利益ないし必要と、他者や社会全体の利益・必要とを折り合わせるための拠り所であり、法を学ぶことは、自らの自由を享受しつつ、他者を意識した適切・妥当な判断ないし決定を促すことであり、また、公共的な判断や決定に参画するための法を身につけることである。

ここに、専門職教育のための法学とは異なる、いわゆる「教養としての法学」の必要性が存在する。本講義では、「教養としての法学」の意義を踏まえ、法律家(法律学者や裁判官、弁護士などの法曹)と呼ばれる人々の基本的な思考や発想を理解することを目的とする。そして、いくつかの具体的な事例を参照しつつ、さまざまな問題に対してどのような考え方や方法で解決を導いているのか(導いてきたのか)見ていくことにしたい。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会力育成

■到達目標

法と法律に関する基本的な知識や国や行政の仕組みに関する基本的な知識を身につけ、これらの背後にある基本的な発想ないし思想を適度に理解すること、その上で、法律家と呼ばれる人々の思考や発想の端緒に気づくことを目的とする。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

事前に配布する講義資料(原則A4サイズ?1枚)に目を通しておき、ポイントや疑問点などを確認しておくこと(正味1時間程度)。

■講義の概要

<第 1 講>

概要: イントロダクション

事前,事後学習ポイント: 法学と法律学

<第 2 講>

概要: 法/法律のイメージについて

事前,事後学習ポイント: 法・自然法・法律・制定法

<第 3 講>

概要: 法学のイメージについて

事前,事後学習ポイント: 法学・法哲学・法理学

<第 4 講>

概要: 法律家・弁護士のイメージについて

事前,事後学習ポイント: 法曹・裁判官・検察官・弁護士・企業内法律家

<第 5 講>

概要: 法的思考とは何か? (1): 法学を学ぶ意味、法的思考の特徴

事前,事後学習ポイント: 法的思考・リーガルマインド・リーガルシンキング

<第 6 講>

概要: 法的思考とは何か? (2): 法の解釈(法意思説/立法者意思説)、利益衡量論

事前,事後学習ポイント: 法解釈・立法者意思・法意思・利益衡量

<第 7 講>

概要: 法に期待される役割と背景にある思想(1): 民事法の役割

事前,事後学習ポイント: 民法・商法・会社法・私的自治

<第 8 講>

概要: 法に期待される役割と背景にある思想(2): 刑事法の役割

事前,事後学習ポイント: 刑法・刑事訴訟法・罪刑法定主義・構成要件

<第 9 講>

概要: 法に期待される役割と背景にある思想(3): 社会法・経済法の役割

事前,事後学習ポイント: 労働法・社会保障法・経済法・独占禁止法

<第 10 講>

概要: 法に期待される役割と背景にある思想(4): 憲法・行政法の役割

事前,事後学習ポイント: 公法・法治国家・法の支配・法律による留保

<第 11 講>

概要: 憲法の基本概念を学ぶ

事前,事後学習ポイント: 憲法・固有の意味の憲法・実質的意味の憲法・立憲主義

<第 12 講>

概要: 自由(人権)と国家

事前,事後学習ポイント: 人権・消極的自由・積極的自由

<第 13 講>

概要: 「自由」と「秩序」

事前,事後学習ポイント: 法秩序・人為的秩序・自生的秩序

<第 14 講>

概要: 法による支配

事前,事後学習ポイント: 法の支配

<第 15 講>

概要: 自由を守るための制度: 権力分立

事前,事後学習ポイント: 権力分立・抑制と均衡

■教科書

中山竜一『ヒューマニティーズ法学』(岩波書店・2009年)

■指定図書

特定の図書を指定しない。適宜、参照することか?有益?あると考える文献については、講義内において紹介する。

■参考文献・参考URL / Reference List

特定の図書を指定しない。適宜、参照することか?有益?あると考える文献については、講義内において紹介する。

■評価方法

学期末に行われる試験にて評価を行う(100%)

■評価基準

評価A+ (90点以上): 本講義で取り扱われた内容について、ほとんど?す?で正確に理解している。

評価A (89~80点): 法律家と呼ばれる人々の思考や発想の端緒への気づき

評価B (79~70点): 法や法律の背後にある基本的な発想ないし思想の理解

評価C (69~60点): 法と法律に関する基礎的な知識等の習得

評価F (59点以下): 本講義で取り扱われた内容について、あまり理解していない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 マーケティングデータ分析I (Marketing Data Analysis I)

サブタイトル データ分析基礎 (記述統計)

担当教員 酒井 麻衣子

■講義目的

IT化が進んだ現在、企業活動の現場には多くのデータが溢れている。これからの企業人には、そのデータから価値ある情報を読み取り、活用する能力が必須となる。
本講義では、データの入力・加工方法、集計やグラフ化による基本的なデータの特徴の捉え方、データ間の関連性を統計的に明らかにする方法を学ぶ。同時に、企業で広く導入されている専門的な統計解析ソフトIBM SPSS Statistics (旧 SPSS for Windows) の操作方法を身につける。
企業のマーケティング活動においてはさまざまなデータが取得され、活用されるようになってきている。みずからデータを取り扱い、データに基づいた判断ができるようになることは、企業人として大きな武器となるだろう。
講義とIBM SPSS Statistics による演習を中心に、以下のような内容について学ぶ。演習は可能な限り他の受講者とのディスカッションや共同作業によって行う。

■講義分類

顧客理解
社会人育成
ビジネスICT

■到達目標

データの入力・加工方法、集計やグラフ化による基本的なデータの特徴の捉え方、データ間の関連性を統計的に明らかにする方法を習得する。同時に、企業で広く導入されている専門的な統計解析ソフトIBM SPSS Statistics (旧 SPSS for Windows) の操作方法を身につける。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

・指定図書『SPSS完全活用法 データの入力と加工(第3版)』および『SPSS完全活用法 データの視覚化とレポートの作成』
(データの入力方法、データの尺度水準、基礎統計量、1変量および2変量の視覚化、)
・仮説検定の考え方 (「仮説検定」「母集団と標本」「帰無仮説と対立仮説」「有意水準と有意確率」)
各種検定・分析手法 (「相関係数」「偏相関係数」「カイ2乗検定」「t検定」「分散分析」)

■講義の概要

<第 1 講>
概要：※講義の進捗によっては講義内容やスケジュールを変更することがある。詳細はホームページにて確認すること。
<第1講>イントロダクション：マーケティング・データ分析の概要の解説、活用例の紹介、履修や受講に関する諸注意
事前,事後学習ポイント：身近で行われているマーケティング・データ分析の例を調べる
<第 2 講>
概要：<第2~3講>正しいデータの作り方
事前,事後学習ポイント：指定図書『SPSS完全活用法 データの入力と加工(第3版)』該当章
<第 3 講>
概要：<第2~3講>正しいデータの作り方
事前,事後学習ポイント：同上
<第 4 講>
概要：<第4~7講>データの要約と視覚化
事前,事後学習ポイント：指定図書『SPSS完全活用法 データの視覚化とレポートの作成』該当章
<第 5 講>
概要：<第4~7講>データの要約と視覚化
事前,事後学習ポイント：同上
<第 6 講>
概要：<第4~7講>データの要約と視覚化
事前,事後学習ポイント：同上
<第 7 講>
概要：<第4~7講>データの要約と視覚化
事前,事後学習ポイント：同上
<第 8 講>
概要：<第8~9講>仮説検定の考え方
事前,事後学習ポイント：「仮説検定」「母集団と標本」「帰無仮説と対立仮説」「有意

水準と有意確率」
<第 9 講>
概要：<第8~9講>仮説検定の考え方
事前,事後学習ポイント：同上
<第 10 講>
概要：<第10~14講>変数間の関係を捉える
事前,事後学習ポイント：「相関係数」「偏相関係数」「カイ2乗検定」「t検定」「分散分析」
<第 11 講>
概要：<第10~14講>変数間の関係を捉える
事前,事後学習ポイント：同上
<第 12 講>
概要：<第10~14講>変数間の関係を捉える
事前,事後学習ポイント：同上
<第 13 講>
概要：<第10~14講>変数間の関係を捉える
事前,事後学習ポイント：同上
<第 14 講>
概要：<第10~14講>変数間の関係を捉える
事前,事後学習ポイント：同上
<第 15 講>
概要：総合演習
事前,事後学習ポイント：これまでの講義内容を振り返り、疑問点、理解が足りない点を明確にする

■教科書

講義時に資料を配付する。なお、以下の書籍を指定図書とするので、必要に応じて参照すること。

■指定図書

酒井麻衣子 (2011) 『SPSS完全活用法 データの入力と加工(第3版)』 東京図書
酒井麻衣子 (2004) 『SPSS完全活用法 データの視覚化とレポートの作成』 東京図書
石村貞夫 (2004) 『SPSSによる統計処理の手順 第4版』 東京図書

■参考文献・参考URL / Reference List

以下のホームページに各講に各講の実施内容や配布データを掲載する。随時確認すること。
{http://faculty.tama.ac.jp/maiko/index.html}
参考文献は適宜指示、推薦する。

■評価方法

期末試験100%。
なお、講義期間中に数回のレポート提出の機会を設ける。レポート内容に関連する講義について一定の出席回数を満たす受講者に限りレポートの提出を認め、採点のうえ返却する。ただし出席とレポート提出有無は評価に加味しない。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：以下の項目についての到達水準に基づいて評価する。・正しくデータの種類を見極められるか・データの種類に適した要約と視覚化を行い、特徴を把握できるか・仮説検定の考え方を理解し、適切な統計手法を選択し、分析結果を読み取れるか・統計解析ソフトIBM SPSS Statisticsの基本的操作法を身に付けているか等 <A+> 顕著にすぐれた水準に達している
評価A (89~80点)：到達すべき水準を十分に超えている
評価B (79~70点)：到達すべき水準に達している
評価C (69~60点)：十分とは言えないが最低限の水準を満たしている
評価F (59点以下)：本講義で到達すべき水準に達していない

■履修していることが望ましい科目

・「マーケティング・データ分析II」を履修する場合は、本講義の単位取得を前提とする。
・基本として統計の知識は前提としないが、情報系科目、「統計」「リサーチ入門」等で学習した基礎統計量についてあらかじめ復習しておくことを勧める。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・本講義は統計処理ソフトを用いてデータを分析するという専門性を身に付けるものである。毎回の演習の積み重ねで習得していくので、主体的な受講態度を重視する。関心と意欲をもって取り組める学生を対象とする。
- ・「マーケティングリサーチ」の受講を規模する場合は本講義の事前履修を強く推奨する。
- ・本講義は、社会調査士取得のための認定科目(C分野)に該当する。

科目名 マーケティングデータ分析II(Marketing Data Analysis II)

サブタイトル データ分析礎応用(多変量解析)

担当教員 酒井 麻衣子

■講義目的

「多変量解析」というと、何かとても難解なもののように聞こえてしまうかもしれない。しかし、読んで字のごとく「複数の(多)データ(変量)を扱う分析(解析)」であり、扱う変数が多い場合に行うデータ分析と考えればよい。
扱う変数が多くなればなるほど、そこに含まれる関係性を明らかにするには複雑な数学的処理が必要となる。しかし、分析手法の基本的な仕組みを理解し、必ず確認しなくてはならないポイントと、気を付けなければならないポイントをわかっていけば、正しく分析を行い、結果を解釈することが可能になる。
本講義では、多変量解析の中でも代表的な分析手法に焦点を当て、その理論的基礎を理解するとともに、実際のデータに対して目的に即した分析を実施し、正しくその結果を読み取れるようになることを目的とする。データが溢れる現代において、企業のマーケティング活動においてもさまざまなデータが取得され、活用されるようになっている。膨大なデータの後に秘められた関係性を明らかにする多変量解析は、強力な武器となってさまざまな意思決定に役立つことになるだろう。
講義とIBM SPSS Statistics (旧 SPSS for Windows) による演習を中心に、以下のような内容について学ぶ。演習は可能な限り他の受講者とのディスカッションや共同作業によって行う。

■講義分類

顧客理解
社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

多変量解析の中でも代表的な3つの分析手法(回帰分析・クラスター分析・因子分析)について、その理論的基礎を理解するとともに、実際のデータに対して目的に即した分析を実施し、正しくその結果を読み取れるようになる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

マーケティング・データ分析Iで学んだ「変数間の関係性の捉え方」および「仮説検定の考え方」を理解していることが前提となるので、しっかりと復習した上で講義に臨むこと。また、各講の予習・復習に際しては、以下に記した学習ポイントのキーワードを参考にすること。

■講義の概要

<第1講>
概要：※講義の進捗によっては講義内容やスケジュールを変更することがある。詳細はホームページにて確認すること。
<第1講>イントロダクション：多変量解析の概要の解説、活用例の紹介、履修や受講に関する諸注意
事前,事後学習ポイント：回帰分析、クラスター分析、因子分析の概要
<第2講>
概要：<第2~4講>クラスター分析
事前,事後学習ポイント：「階層モデルと非階層モデル」「デンドログラム」「値の標準化」「距離の測定方法」「クラスタ化の方法」
<第3講>
概要：<第2~4講>クラスター分析
事前,事後学習ポイント：同上
<第4講>
概要：<第2~4講>クラスター分析
事前,事後学習ポイント：同上
<第5講>
概要：<第5~9講>回帰分析・判別分析
事前,事後学習ポイント：「従属変数と独立変数」「決定係数・寄与率・R2乗値」「偏回帰変数と標準化偏回帰係数」「ダミー変数」「ステップワイズ法」「多重共線性」「実測値と予測値」
<第6講>
概要：<第5~9講>回帰分析・判別分析
事前,事後学習ポイント：同上
<第7講>
概要：<第5~9講>回帰分析・判別分析
事前,事後学習ポイント：同上

<第8講>
概要：<第5~9講>回帰分析・判別分析
事前,事後学習ポイント：同上
<第9講>
概要：<第5~9講>回帰分析・判別分析
事前,事後学習ポイント：同上
<第10講>
概要：<第10~14講>因子分析・主成分分析
事前,事後学習ポイント：「因子抽出法(代表例：主因子法・最尤法)」「因子回転法(代表例：バリマックス回転・プロマックス回転)」「固有値」「累積寄与率」「スクリーンプロット」「因子の命名」「因子負荷量」「信頼性係数(α係数)」「因子得点」
<第11講>
概要：<第10~14講>因子分析・主成分分析
事前,事後学習ポイント：同上
<第12講>
概要：<第10~14講>因子分析・主成分分析
事前,事後学習ポイント：同上
<第13講>
概要：<第10~14講>因子分析・主成分分析
事前,事後学習ポイント：同上
<第14講>
概要：<第10~14講>因子分析・主成分分析
事前,事後学習ポイント：同上
<第15講>
概要：総合演習
事前,事後学習ポイント：これまでの講義内容を振り返り、疑問点、理解が足りない点を明確にする

■教科書

講義時に資料を配付する。なお、以下の書籍を指定図書とするので、必要に応じて参照すること。

■指定図書

朝野彦彦(2000)「入門 多変量解析の実践 第2版」 講談社サイエンティフィク
石村貞夫(2011)「SPSSによる多変量データ解析の手順 第4版」 東京図書

■参考文献・参考URL / Reference List

以下のホームページに各講の実施内容や配布データを掲載する。随時確認すること。
{http://faculty.tama.ac.jp/maiko/index.html}
参考文献は適宜指示、推薦する。

■評価方法

期末試験100%。
なお、講義期間中に数回のレポート提出の機会を設ける。レポート内容に関連する講義について一定の出席回数を満たす受講者に限りレポートの提出を認め、採点のうえ返却する。ただし出席とレポート提出有無は評価に反映しない。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：以下の項目についての到達水準に基づいて評価する。・各分析手法の基本的な仕組みが理解できているか ・各分析手法を実施する上での重要ポイントや留意点をしっかりと把握しているか ・実際のデータに対し分析を正しく実施し、結果をレポートとして適切に表現することができか 等 <A+> 顕著にすぐれた水準に達している
評価A (89~80点)：到達すべき水準を十分に超えている
評価B (79~70点)：到達すべき水準に達している
評価C (69~60点)：十分とは言えないが最低限の水準を満たしている
評価F (59点以下)：本講義で到達すべき水準に達していない

■履修していることが望ましい科目

- ・本講義を履修する場合は、「マーケティング・データ分析I」の単位取得を前提とする。
- ・基本として多変量解析の知識は前提としないが、「統計学I」「統計学II」「データ解析」等で学習した手法についてあらかじめ復習しておくことを勧める。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・本講義は統計処理ソフトを用いてデータを分析するという専門性を身に付けるものである。毎回の演習の積み重ねで習得していくので、主体的な受講態度を重視する。関心と意欲をもって取り組める学生を対象とする。
- ・本講義は、社会調査士取得のための認定科目(E分野)に該当する。

科目名 ▶ マーケティング入門(Marketing Principle)

サブタイトル ▶ マーケティングの意味と意義を理解する

担当教員 ▶ 村山 貞幸

■講義目的

マーケティングの仕事を知り、その面白さを知ること、志の視野を広げる。
企業のマーケティングに関する問題解決に必要な基本的な概念を、さまざまな企業の最新事例を通じて学び、マーケティング思考力、問題解決力を鍛えることで、実践的知識・能力を獲得することを目的とする。
講義では、インタラクティブを重視し、ディスカッションやプレゼンテーションを組み込んで学んでいく。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会力育成

■到達目標

- (1) マーケティングの仕事を知り、将来のキャリアについて考えるベースをつくる。
- (2) マーケティングの基本的な概念を理解する。
- (3) その概念を利用して、マーケティング戦略を立案できるようにする。
- (4) 学習した内容を、将来ビジネスの現場で使いこなし、さまざまな問題解決につなげるような実践的知識・能力を獲得する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
学外学習 / Off-Campus Learning

■準備学習 (学習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

予習は不要。
前回講義の内容を復習し理解した上で講義に参加すること。

■講義の概要

<第 1 講>
概要：講義の概要、受講姿勢、評価方針、その他注意点を確認する。
事前、事後学習ポイント：プロフェッショナル・マーケティングの意味と意義を確認する。
<第 2 講>
概要：マーケティングの実社会に対する影響の強さを知り、その面白さを確認する。
事前、事後学習ポイント：情報に接する際、企業の関与度を必ず意識するようになる。

<第 3 講>
概要：マーケターのこだわりをPVの中で確認し、マーケティングの面白さを知る。
事前、事後学習ポイント：マーケティング活動の難しさと魅力を確認する。

<第 4 講>
概要：マーケティングとは何か、その本質を確認する。
事前、事後学習ポイント：身の回りの面白いマーケティング事例を確認し、マーケティングの影響を分析してみよう。

<第 5 講>
概要：顧客ニーズには構造があることを理解する。
事前、事後学習ポイント：普段から、何で自分はこの商品を買うのだろうか？何でこのお店、映画、小説に引き付けられるのだろうか？と考えを癖をつけよう！

<第 6 講>
概要：潜在ニーズを理解する。
事前、事後学習ポイント：世の中で充足されていないニーズを探し出す。それを充たす商品やサービスを創れないか？考えてみよう！

<第 7 講>
概要：ニーズが顧客により違う場合と同じ場合があることを確認する
事前、事後学習ポイント：ユニークニーズをとらえた商品、サービスの具体例をさがしてみよう！

<第 8 講>
概要：ポジショニングを理解する。
事前、事後学習ポイント：さまざまな商品・サービスの競争手を検討する。その商品、サービスの競争力を評価しよう！

<第 9 講>
概要：セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングの流れを確認する。
事前、事後学習ポイント：優れたポジショニングの事例を探す。ポジショニングの失敗例を挙げ、リポジショニングによる改善を検討する。自分を売り込む際にも、自分のポジショニングを考えることは有効だ。やってみよう！

<第 10 講>
概要：競争力の違いによる戦い方について学ぶ。
事前、事後学習ポイント：関心のある商品、サービスがどのように競合と戦っているか探ってみよう。アイデアを駆使して面白い戦い方をしている商品がたくさんあるはずだ！

<第 11 講>
概要：マーケティング戦略の立て方を学ぶ
事前、事後学習ポイント：特定の商品・サービスをブランドレベルで選択、そのマーケティング戦略を戦略立案プロセスに沿って考察する。これまで学んできた全ての概念が、戦略立案プロセスのどこに位置づけられるかを確認する。いよいよよまとめの段階に入ってきた。わからない場合は、過去の講義に立ち戻り、基本を復習しよう。

<第 12 講>
概要：マーケティング戦略立案プロセスの理解を深める。
事前、事後学習ポイント：最終レポートに向けて、与えられた課題の環境分析を行う。その際、すべてに裏付けデータを添えることを心がける。必要に応じて調査をかける。レポートを作成することにより、これまでの講義が理解できていたかが確認できる。このプロセスは手を抜かず、しっかりと挑戦しよう！

<第 13 講>
概要：マーケティング戦略を立案する。
事前、事後学習ポイント：レポートの作成。環境分析に基づき、競争優位性のある戦略を立案しよう！マーケティングの醍醐味が感じられる大切なフェーズだ！

<第 14 講>
概要：マーケティング戦略において、顧客の不満にも配慮する必要性を理解する。
事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語やポイント[マーケティング戦略] レポートの作成。マーケティング戦略部分を、環境との整合性、戦略間整合性に充分配慮しながら仕上げる。説得力のある企画書になるよう、内容のみならず、表現にもこだわろう！

<第 15 講>
概要：講義のまとめと質疑応答。

事前、事後学習ポイント：1レポートの仕上げ。読み手（顧客と同じ）の立場になり、その内容、表現に魅了されるか（ニーズを充足）、最終チェックを行う。自分たちが読んで魅力的だと思わないものが、他人の心を動かすことはない！の視点で厳しくチェックしよう！

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

改訂3版 グロービスMBAマーケティング (ダイヤモンド社)

■評価方法

パワーポイントで作成したレポート 100%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：マーケティングの主要概念を完全に理解しており、それを利用して戦略立案ができる。
評価A (89~80点)：マーケティングの主要概念を8割理解しており、それを利用して戦略立案ができる。
評価B (79~70点)：マーケティングの主要概念を7割理解しており、それを利用して戦略立案ができる。
評価C (69~60点)：マーケティングの主要概念を6割理解しており、それを利用して戦略立案ができる。
評価F (59点以下)：マーケティングの主要概念の理解が6割を下回っている。

■履修していることがましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

履修人数などにより講義の構成は変わる可能性がある。
履修制限を行います。選抜方法は別途通知します。

科目名 マーケティングマネジメント論 (Marketing Management)

サブタイトル

担当教員 趙 佑鎮

■講義目的

マーケティングとは「売れる仕組みづくり」である。そして、マーケティングマネジメント論とは、マーケティングをマネジメントの観点から捉える「システムの」、「全体最適」思考からの論である。そして、問題解決における手段と思考の多くが、マーケティングに通じるものである。この講義では、マーケティングマネジメントを行う人にとって必要な知識、概念、理論、手法、発想、技術、思考などの「基礎」を学ぶことで、その実行と問題解決の手がかりを得ることを目的とする。実際のマーケティングにおける企業を中心とした最新事例をできるだけとりあげて、現実のマネジメントに適用可能になるよう説明する。担当教員としてメタリがあり、分かり易い講義を常に心がけたい。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
グローバルビジネス

■到達目標

マーケティング・マネジメント・プロセスの基本を理解し、マーケティング企画・マーケティングマネジメントを行う際の重要概念の修得をめざす。中小企業診断士試験レベルの問題解決を目指す。

■講義形態

講義のみ
その他(マーケティングの事例を扱ったビデオ・視聴覚教育)

■準備学習 (予習・復習等) に必要な事項またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義は教科書に該当する配布資料にそって進むのだが、配布資料には翌週講義の内容が常に記載しており、講義終了際に教員が示す事前学習ポイントを中心に、それらを授業前によく読んでくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：オリエンテーション、マーケティングマネジメントの概要

事前,事後学習ポイント：マーケティングコンセプト、マーケティングマイオバ(マーケティングにおけるニーズとウォンツの違い)

<第 2 講>

概要：戦略とは？ 戦略の構想、ビジョン策定

事前,事後学習ポイント：戦略計画、選択と集中

<第 3 講>

概要：マーケティング環境分析(1)、マーケティング環境の性格

事前,事後学習ポイント：マクロ環境、ミクロ環境

<第 4 講>

概要：マーケティング環境分析(2)、SWOT分析

事前,事後学習ポイント：市場の機会と脅威、マイクロトレンド

<第 5 講>

概要：STP(1)-市場細分化するための基礎

事前,事後学習ポイント：セグメンテーション、ターゲティング

<第 6 講>

概要：STP(2)-ポジショニング成功の鍵

事前,事後学習ポイント：ポジショニング、ティッピングポイント

<第 7 講>

概要：コンセプトメイキング

事前,事後学習ポイント：製品コンセプトづくりとブランドマネジメント

<第 8 講>

概要：サービス(プロダクト)

事前,事後学習ポイント：サービスマーケティング、経験マーケティング

<第 9 講>

概要：価格(プライシング)

事前,事後学習ポイント：スキミングプライシング、ペネトレーションプライシング

<第 10 講>

概要：チャネル(流通経路)

事前,事後学習ポイント：チャネルパワー基盤論、大規模小売業とメーカーの関係、流通系列化

<第 11 講>

概要：コミュニケーション(プロモーション)

事前,事後学習ポイント：広告、販売促進、人的販売、パブリシティ
<第 12 講>

概要：マーケティングマネジメントの実際と日本企業のマーケティング

事前,事後学習ポイント：破壊的イノベーション、顧客志向的組織

<第 13 講>

概要：マーケティングマネジメントに必要な発想法と思考法

事前,事後学習ポイント：関係性マーケティング、マーケティングパラダイムの変遷

<第 14 講>

概要：実社会のブランドマーケティングの専門家、またはマーケティングマネジャーのゲスト講義

事前,事後学習ポイント：ブランドマーケティング、グローバルマーケティング

<第 15 講>

概要：総括

事前,事後学習ポイント：上記述べられたキーワード全般、マーケティング組織とマーケティングマネジメント

■教科書

随時、プリント資料を配布

■指定図書

- ・フィリップ・コトラー『コトラーのマーケティング・マネジメント-ミレニアム版』ピアソン・エデュケーション社
- ・趙佑鎮編著「奇跡を呼びこむ、人-イノベーションの起点、韓国と日本と松下イズム」悠雲舎

■参考文献・参考URL / Reference List

授業ごとに提示

■評価方法

- ・期末試験(筆記試験・100%) + 出席(加算点としての+α) + 授業態度(加算点としての+α)
- ・詳細はオリエンテーション時に提示

■評価基準

評価A+ (90点以上)：マーケティング・マネジメント・プロセスの基本を高度に理解しており、マーケティング企画・マーケティングマネジメントを行う際の重要概念の修得が高度である。中小企業診断士試験を勧めたいレベルの優秀な学生と認められる。

評価A (89~80点)：マーケティング・マネジメント・プロセスの基本をかなり理解し、マーケティング企画・マーケティングマネジメントを行う際の重要概念の修得もかなりのレベルである。販売士試験を勧めたいレベルの学生である。

評価B (79~70点)：マーケティング・マネジメント・プロセスの基本をある程度理解し、マーケティング企画・マーケティングマネジメントを行う際の重要概念の修得もある程度に達している。

評価C (69~60点)：マーケティング・マネジメント・プロセスの基本や、マーケティングマネジメントを行う際の重要概念を実践の場で活用しようとするための一部知識を有している

評価F (59点以下)：マーケティング・マネジメント・プロセスの基本を理解していない結果として不合格

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・授業態度における私語、携帯電話(をいじること)、本授業とは無関係のパソコン使用、途中退室は絶対に不可であり、厳烈に厳しく注意する。これらの注意は学生の社会人としての常識意識のための不可避なもの(教員個人的には極めて不本意)であるが、このような注意と授業態度を静粛に保つ教員の姿勢がいやであれば、本講義の履修は勧められない。
- ・講義の順序は、学生の理解度と進捗度によって前後、変更する場合があることを留意されたい。また、外部講師の講義日もスケジュール状況によって変更になることがあり得る。
- ・履修申請者が多すぎる場合、この科目の履修者制限を行うことがありうる。履修者選抜は、第1回目の講義の際に、出席者に対して「この講義の履修動機」を簡単に書かせてこれをもとに評価し選抜する。選抜詳細は第1回目の際に提示する。

科目名 マーケティングモデリング (Marketing Modeling)

サブタイトル

担当教員 栢原 伸也

■講義目的

人は問題を抱えると、早く解決したいと思うため、「思い付き」で、一面的に対処しようとしてしまう傾向がある。このような姿勢では、問題を正しく解決することができない。
問題は、全体像を把握した上で、解決の方法を探らなければならない。またその際、全体を把握できたかどうか毎回毎回点検しては時間がかかる。
そこで、全体を把握するいくつかの方法を身に付ける事で、効率的にできるよう訓練する。

■講義分類

ビジネス創造
グローバルビジネス

■到達目標

- ①マーケティングのフレームワークを理解し、実践できる。
- ②ビジネスの効率性の指標を理解する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義の概要を参照。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：マーケットの歴史および市場の全体像

事前,事後学習ポイント：3C

<第 2 講>

概要：マーケットを見る目1

事前,事後学習ポイント：4P

<第 3 講>

概要：マーケットを見る目2

事前,事後学習ポイント：4C

<第 4 講>

概要：新しい企業はどのように生まれるだろうか

事前,事後学習ポイント：新しい企業はどのように生まれるだろうか

<第 5 講>

概要：商品開発の現場をみてみよう。

事前,事後学習ポイント：消費者調査

<第 6 講>

概要：ビジネスモデル I

事前,事後学習ポイント：顧客関係性・顧客データベース

<第 7 講>

概要：ビジネスモデル II

事前,事後学習ポイント：顧客関係性・顧客データベース

<第 8 講>

概要：消費者行動モデル

事前,事後学習ポイント：アйдマの法則

<第 9 講>

概要：消費者分類モデル

事前,事後学習ポイント：イノバーター理論

<第 10 講>

概要：効果的なマーケティングを考える。

事前,事後学習ポイント：CPO・CPI

<第 11 講>

概要：効果的な販売キャンペーン立案してみる。

事前,事後学習ポイント：プロモーション

<第 12 講>

概要：立案した販促キャンペーンを発表する。

事前,事後学習ポイント：プレゼンテーション

<第 13 講>

概要：ブランドの意味と目的

事前,事後学習ポイント：価格競争の回避

<第 14 講>

概要：価値の創造実践1

事前,事後学習ポイント：利用価値・便益

<第 15 講>

概要：価値の創造実践2

事前,事後学習ポイント：イノベーション

■教科書

無

■指定図書

無

■参考文献・参考URL / Reference List

無

■評価方法

出席 (30%) 講義中の演習 (70%)

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義中の演習は以下の点を中心に評価する。①用語の意味が理解できているか。②マーケティングのフレームワークを使い、簡易なマーケティング活動ができるようになったか。を講義中に記述し、提出する。内容を点数化し、90点以上。

評価A (89~80点)：講義中の演習は以下の点を中心に評価する。①用語の意味が理解できているか。②マーケティングのフレームワークを使い、簡易なマーケティング活動ができるようになったか。を講義中に記述し、提出する。内容を点数化し、80点以上。

評価B (79~70点)：講義中の演習は以下の点を中心に評価する。①用語の意味が理解できているか。②マーケティングのフレームワークを使い、簡易なマーケティング活動ができるようになったか。を講義中に記述し、提出する。内容を点数化し、70点以上。

評価C (69~60点)：講義中の演習は以下の点を中心に評価する。①用語の意味が理解できているか。②マーケティングのフレームワークを使い、簡易なマーケティング活動ができるようになったか。を講義中に記述し、提出する。内容を点数化し、60点以上。

評価F (59点以下)：講義中の演習は以下の点を中心に評価する。①用語の意味が理解できているか。②マーケティングのフレームワークを使い、簡易なマーケティング活動ができるようになったか。を講義中に記述し、提出する。内容を点数化し、59点以下。

■履修していることが望ましい科目

無

■卒業生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

学外学習としてダイレクトマーケティングの現場見学等を想定しているが、講義の進行および履修生の状況などで変更する場合もある。
履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 マーケティングリサーチ (Marketing Reserch)

サブタイトル

担当教員 酒井 麻衣子

■講義目的

企業のマーケティング活動においては、その目標達成や課題解決のためにさまざまな意思決定が行われる。その際に重要視されるのが、マーケティングリサーチによって得られる客観的なデータである。

マーケティングリサーチの体系は非常に広範でその種類も多岐にわたり、また実務の現場で日々進化しているため、すべてを網羅的にマスターすることは難しい。

本講義では、マーケティングリサーチの全体像をおおまかに把握するとともに、数あるリサーチ手法の中でもっとも一般的で活用範囲が広い、質問紙による定量調査に焦点を当て、その一連の知識・技術を実践的に習得することを目的とする。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネスICT

■到達目標

マーケティングリサーチの役割や種類を理解した上で、マーケティング課題に応じた調査課題の設定ができるようになること。

さらにその調査課題に対し、特に定量調査において適切な調査票設計ができるようになること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

関心のある商品やサービスのマーケティング課題に関する二次データ収集、マーケティングリサーチ全般に関する基礎的な知識、定量調査およびデータ分析に関する基礎的な知識

■講義の概要

<第1講>

概要：※講義の進捗によっては講義内容やスケジュールを変更することがある。詳細はホームページにて確認すること。

<第1講>イントロダクション：マーケティングリサーチの概要の解説、活用例の紹介、履修や受講に関する諸注意

事前、事後学習ポイント：身近で行われているマーケティングリサーチの実践例を調べる

<第2講>

概要：企業はなぜマーケティングリサーチを行うのか

～マーケティングにおけるリサーチの役割～

事前、事後学習ポイント：身近で行われているマーケティングリサーチの実践例を調べる

<第3講>

概要：マーケティングリサーチの成否のカギは何か(1)

～マーケティング目標・課題・仮説の明確化～

事前、事後学習ポイント：身近で行われているマーケティングリサーチの実践例を調べる

<第4講>

概要：マーケティングリサーチの成否のカギは何か(2)

～マーケティング課題に応じた調査課題の設定と調査手法の選択～

事前、事後学習ポイント：マーケティングリサーチ手法にどのような種類があるか調べる

<第5講>

概要：マーケティングリサーチの成否のカギは何か(3)

～適切な調査設計～

事前、事後学習ポイント：身近で行われている企業によるアンケート調査の例を調べる

<第6講>

概要：第6～13講では定量調査の実践演習を行う。第14～15講でその調査結果をまとめて発表を行う。

演習の過程で必要となる知識について学習する。

※関心の近い少人数のメンバーによるグループワーク形式でディスカッション等を行うが、1人が一つの調査を作り、実査・分析を行い、レポートの作成と発表を行う予定である。よって授業内外での取り組みとしての評価も個人単位で行う。

<第6講>調査テーマを考える。グループづくり

事前、事後学習ポイント：関心のある商品やサービスについてマーケティング課題を調べる

<第7講>

概要：<第7講>仮説を立て、マーケティング課題を調査課題に落とし込む

事前、事後学習ポイント：仮説を立てるため、調査テーマに関連する二次データや先行研究を調べる。

母集団とサンプルについて理解する。

<第8講>

概要：<第8～10講>質問項目を作成する

事前、事後学習ポイント：身近で行われているさまざまなアンケートを参考にする

<第9講>

概要：<第8～10講>質問項目を作成する

事前、事後学習ポイント：質問項目作成時の各種注意点を考慮する

<第10講>

概要：<第8～10講>質問項目を作成する

事前、事後学習ポイント：データの尺度水準や、データ取得後適用するデータ分析手法を考慮する

<第11講>

概要：<第11講>実査とデータ取得

事前、事後学習ポイント：調査実施の注意点、インターネット調査ツールの操作方法の確認

<第12講>

概要：<第12～13講>データ分析と結果の解釈

事前、事後学習ポイント：履修推奨科目「マーケティング・データ分析Ⅰ」の学習内容。

EXCEL、SPSS等のデータ分析ツールの操作に関する基礎的な知識。

<第13講>

概要：<第12～13講>データ分析と結果の解釈

事前、事後学習ポイント：同上

<第14講>

概要：<第14～15講>発表

事前、事後学習ポイント：発表資料および内容の精査

<第15講>

概要：<第14～15講>発表

事前、事後学習ポイント：発表資料および内容の精査

■教科書

特に指定しない。適宜、以下の指定図書を参照すること。

■指定図書

上田祐治 (2008) 『マーケティングリサーチの論理と技法 第4版』日本評論社

酒井隆 (2012) 『実務入門 関関アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会

マネジメントセンター

酒井隆 (2004) 『マーケティングリサーチハンドブック』日本能率協会マネジメントセンター

堀洋道 (監修) 『心理測定尺度集Ⅰ～Ⅵ』サイエンス社

■参考文献・参考URL / Reference List

以下のホームページに各講の実施内容や配布データを掲載する。随時確認すること。

[<http://faculty.tama.ac.jp/maiko/index.html>]

参考文献は適宜指示、推薦する。

■評価方法

期末試験50%、授業内外での取り組み（レポート、講義内課題、発表等）50%。

※なお本講義では毎回出席を取るが、出席点は加味しない。ただし特に欠席すると到達目標に達することが困難になる回の出席については、授業内外での取り組みとして評価することがある。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：以下の項目についての到達水準に基づいて評価する。・マーケティングリサーチの基本概念を理解していること・定量調査の一連の流れを理解していること・調査課題に応じた適切な調査票設計に必要な知識を習得し、実際に設計できること・調査結果を正しく理解し、解釈できること <A+> 顕著にすぐれた水準に達している

評価A (89～80点)：到達すべき水準を十分に超えている

評価B (79～70点)：到達すべき水準に達している

評価C (69～60点)：十分とは言えないが最低限の水準を満たしている

評価F (59点以下)：本講義で到達すべき水準に達していない

■履修していることが望ましい科目

・マーケティングリサーチの調査設計においては、調査目的に応じた適切なデータ分析手法の理解が必須となるため、以下の関連授業の事前履修もしくは同時履修を強く推奨する。

「マーケティング・データ分析Ⅰ」「マーケティング・データ分析Ⅱ」

- ・以下の関連授業についても履修していることが望ましい。
「リサーチ入門」「統計」

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・本講義は単なる座学ではなく演習やグループワークを通して理解の促進を図るため、主体的な受講態度を重視する。関心と意欲をもって取り組める学生を対象とする。
- ・本講義では毎回出席を取るが、主体的な受講態度を前提としているため、基本的には評価において出席点は加味しない。ただし特に欠席すると到達目標に達することが困難になる回の出席については、授業内外での取り組みとして評価することがある。
- ・本講義は、社会調査士取得のための認定科目(B分野)に該当する。

科目名 マクロ経済学 (Macroeconomics)

サブタイトル 初級(入門)篇

担当教員 椎木 哲太郎

■講義目的

「(高度)産業社会」のメカニズムを解明するために不可欠なマクロ経済学の原理を学び、「状況認識の学」として実態経済への適用を志向する。そして、マクロ経済の動向が市民生活と深い結びつきを持っていることを理解し、その健全な運営・制御に努める「問題解決の学」としての活用方法を身に付ける。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

初級レベルのマクロ経済学の理論を学び、企業活動の前提となるマクロ経済、諸変数の動向と因果関係に関する理解を深め、生活者・市民として望ましいマクロ経済政策を構想・評価することができる。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(予習・復習等)に必要時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

シラバスの講義概要・「事前学習ポイント」に従って、必ず教科書の該当部分を読むこと。それを怠ると、当日の小テストでよい成績を取ることが困難となるであろう。

■講義の概要

<第1講>

概要：マクロ経済学を学ぶ
経済問題の解決を志向する「経世済民」の学としてのマクロ経済学の特質を明らかにし、よりよい社会の構築に向けた「志」の必要性を説く。

事前,事後学習ポイント：教科書pp.1-6 経世済民、マクロ経済学とミクロ経済学、4つの主体、3つの市場：生産物(財・サービス)市場・労働市場・資産(金融)市場、需要サイド、供給サイド、失業率、インフレ率、経済成長率、経済安定化、豊かさ

<第2講>

概要：経済体制
マクロ経済の土台とも言うべき経済体制・経済制度の概念とその変化について考える。
事前,事後学習ポイント：教科書p.18 経済体制、制度、NPO、サード・セクター、重商主義、アダム・スミス、自由放任型資本主義、金本位制、ケインズ革命、社会民主主義、福祉国家、管理通貨制度

<第3講>

概要：「資本主義」の変貌とマクロ経済学の進化
第二次世界大戦後の「混合経済」とケインズ派マクロ経済学が、1980年代以降のグローバル市場化、情報化の進展によってどのように変化を遂げたのかを考える。「資本主義」の変貌とマクロ経済学の変遷について大まかなイメージを持つ。

事前,事後学習ポイント：教科書pp.12-17 混合経済、ケインズ経済学、新古典派経済学、スタグフレーション、変動相場制、マンデルの実現不可能な三角形、合理的期待(予想)形成理論、新自由主義、収束過速

<第4講>

概要：SNA・GDP・国際収支
一国のマクロ経済のパフォーマンスを体系的に測る統計上の指標SNAについて、GDPとその需要構成を中心に説明する。国際収支、GDPの意義、豊かさや幸福についても考える。

事前,事後学習ポイント：教科書pp.6-12,116-119

<第5講>

概要：有効需要の原理、消費関数と投資関数【財市場】
政府部門のないモデルで有効需要の原理を説明する。
事前,事後学習ポイント：教科書pp.19-29

<第6講>

概要：国民所得の決定、45度線モデル
総需要の構成要因の変化が、マクロ経済全体として国民所得(GDP)にどのような影響を与えるのかを考える。

事前,事後学習ポイント：教科書pp.29-44

<第7講>

概要：IS曲線と財政政策
ISバランス、IS曲線の導出、財政政策によるIS曲線のシフトについて検討する。
事前,事後学習ポイント：教科書pp.44-55

<第8講>

概要：貨幣市場と金融政策
現金通貨と預金通貨を合わせた通貨(貨幣)の需要と供給、金融政策、LM曲線の導出とそのシフトについて理解する。

事前,事後学習ポイント：教科書pp.56-73

<第9講>

概要：IS-LM分析
IS-LM分析を通じて、財政金融政策の理論的フレームワークを理解する。

事前,事後学習ポイント：教科書pp.70-82

<第10講>

概要：物価とインフレ・デフレ
AD-AS分析とインフレ・デフレについて理解する。
事前,事後学習ポイント：教科書pp.83-97 ミクロ経済学の複製として、pp.88-90のコラム「企業行動と限界費用曲線」を必ず理解しておくこと。

<第11講>

概要：労働市場
労働市場の需給、失業概念、フィリップス曲線等について考える。
事前,事後学習ポイント：教科書pp.98-115 ミクロ経済学の複製として、pp.104-106のコラム「無差別曲線と労働供給」を必ず理解しておくこと。

<第12講>

概要：開放経済下の国民所得決定
外国貿易乗数、為替レート、マンデル＝フレミングモデルについて検討する。
事前,事後学習ポイント：教科書pp.119-145

<第13講>

概要：IS-LMモデルの拡張
予想(期待)の要素を導入し、IS-LMモデルの有効性を高める。
事前,事後学習ポイント：恒常所得仮説、ライフサイクル仮説、テイラー・ルール

<第14講>

概要：経済成長理論入門
経済成長とその理論について概観的に学ぶ。
事前,事後学習ポイント：教科書pp.146-160

<第15講>

概要：マクロ経済学の有効性
マクロ経済学は、現代の経済現象を分析するのにどこまで有効かを検討する。
事前,事後学習ポイント：教科書全部

■教科書

大野裕之(2014)『マクロ経済学のエッセンス』(改訂版)創成社【本体2000円】

■指定図書

今年度：なし

■参考文献・参考URL / Reference List

- [1] 福田慎一・照山博司(2011)『マクロ経済学・入門』(第4版)有斐閣アルマ
- [2] 福田慎一・照山博司(2009)『演習式マクロ経済学・入門』有斐閣アルマ
- [3] 吉川洋(2009)『マクロ経済学』(第3版)岩波書店
- [4] 伊藤元重(2012)『マクロ経済学』(第2版)日本評論社
- [5] 藤田泰之・中里透(2008)『コンパクト マクロ経済学』新世社
- [6] 藤田成(2012)『マクロ経済学のナビゲーター』日本評論社
- [7] 中谷徹(2007)『入門マクロ経済学』(第5版)日本評論社
- [8] N・グロブリー・マンキュー【足立英之・地主敏樹・柳川隆記】(2011)『マンキューマクロ経済学Ⅰ 入門篇』(第3版)東洋経済新報社
- [9] N・グロブリー・マンキュー【足立英之・地主敏樹・中谷 徹・柳川隆記】(2012)『マンキューマクロ経済学Ⅱ 応用篇』(第3版)東洋経済新報社
- [10] 齋藤誠・岩本泰志・太田聡一・柴田久(2010)『マクロ経済学』有斐閣
- [11] 齋藤誠(2014)『父が息子に語るマクロ経済学』勁草書房
- [12] ヨラム・パウマン【山形洪生訳】(2012)『この世で一番おもしろいマクロ経済学』ダイヤモンド社

■評価方法

期末試験【持込不可】の結果(60%)、小テスト・レポート・出席(40%)

■評価基準

評価A+ (90点以上)：試験の成績、通常の取り組みとともに顕著に優れている
評価A (89-80点)：試験の成績、通常の取り組みとともに優れている
評価B (79-70点)：試験の成績、通常の取り組みともに良い

評価C (69～60点) : 試験の成績、通常の取り組みともに普通
評価F (59点以下) : 試験の成績、通常の取り組みともに不十分

■履修していることが望ましい科目

ミクロ経済学・経済学入門

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目の特徴として、一度欠席すると講義についていけなくなる危険性が高い。毎回の講義の理解、復習、積み重ねが不可欠な科目であることを十分心得おきたい。講義中に小テストを行うので、居眠りは禁物である。教科書や配布資料に対する理解は欠かせない。従って、一度も出席せずして、或は教科書を購入せずして、単位を取得することは不可能であろう。

講義の中でマクロ経済に関する最新の経済ニュースを取り上げ、分析して頂くので、新聞やネットで日々チェックしておくことが必要とされる。

科目名 ▶▶▶ ミクロ経済学 (Microeconomics)

サブタイトル ▶▶▶ ミクロ経済学 (Microeconomics)

担当教員 ▶▶▶ 下井 直毅

■講義目的

この講義ではミクロ経済学について学ぶ。ミクロ経済学は、産業社会の中で資源配分がどのように行われているのか、あるいはないのかといった、メカニズムを明らかにすることを主たる目的としている。限られた生産資源である労働や資本などをいかに効率的に生産にまわすのか(配分するの)かという問題を扱う。また、企業や産業を取り巻く社会問題についても経済学の発想で分析し、問題把握を行う。

■講義分類

ビジネス環境理解
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

できるだけ現実の産業社会における経済現象に関心を持ち、それを分析するための枠組みとしての経済学を学び、その基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

教科書の該当する範囲の熟読

■講義の概要

<第 1 講>

概要：需要と供給－需要と供給の関係について理解する

事前,事後学習ポイント：需要曲線、供給曲線、均衡、均衡価格、超過供給、超過需要、完全競争

<第 2 講>

概要：需要曲線の構造と消費者の行動－需要曲線と消費者の行動について理解する

事前,事後学習ポイント：需要曲線、需要の価格弾力性、需要曲線のシフト、外生変数、内生変数、消費者余剰、二部料金制

<第 3 講>

概要：費用曲線と企業の行動－費用曲線と企業の行動について理解する

事前,事後学習ポイント：供給曲線、供給の価格弾力性、供給曲線のシフト

<第 4 講>

概要：企業の利潤最大化行動と供給曲線－企業の最適行動について理解する

事前,事後学習ポイント：総費用、固定費用、可変費用、平均費用、限界費用、利潤最大化行動、生産者余剰

<第 5 講>

概要：消費者行動の理論－消費者行動について理解する

事前,事後学習ポイント：効用、無差別曲線、効用最大化仮説、効用関数、限界代替率、予算制約

<第 6 講>

概要：消費者行動理論の展開－様々な財について理解する

事前,事後学習ポイント：エンゲル係数、上級財(正常財)、下級財(劣等財)、需要の所得弾力性

<第 7 講>

概要：企業の生産関数と費用最小化行動－様々な生産関数を理解する

事前,事後学習ポイント：規模に関して収穫一定・収穫逓増・収穫逓減、費用最小化行動、等量曲線

<第 8 講>

概要：一般均衡と資源配分－一般均衡の概念を理解する

事前,事後学習ポイント：交換の利益、一物一価の法則、パレート最適、ボックス・ダイアグラム、資源配分の効率性

<第 9 講>

概要：独占の理論－独占とは何かを理解する

事前,事後学習ポイント：平均収入曲線、総収入曲線、限界収入曲線、独占利潤

<第 10 講>

概要：独占的競争の理論－独占的競争とは何かを理解する

事前,事後学習ポイント：製品の差別化、独占的競争、製品の多様化

<第 11 講>

概要：ゲームの理論－戦略的思考について理解する

事前,事後学習ポイント：囚人のジレンマ、繰り返しゲーム、空倉し

<第 12 講>

概要：市場の失敗I－市場の失敗の事例を理解する

事前,事後学習ポイント：外部効果、私的限界費用、社会的限界費用、ピグー税、正の外

部効果、負の外部効果

<第 13 講>

概要：市場の失敗II－市場の失敗の身近な事例について理解する

事前,事後学習ポイント：費用逓減産業、限界費用価格形成原理、ネットワークの外部性、公共財、フリーライダー

<第 14 講>

概要：不確実性と経済現象－不確実性とは何かを理解する

事前,事後学習ポイント：モラルハザード、期待効用最大化仮説、セントペテルスブルクの仮説、危険回避行動

<第 15 講>

概要：まとめ－これまでの内容を復習する

事前,事後学習ポイント：需要と供給、完全競争、不完全競争、ゲーム理論、一般均衡、市場の失敗

■教科書

伊藤元重「ミクロ経済学」日本評論社(2003年)

■指定図書

神取道宏「ミクロ経済学の力」日本評論社(2014年)

西村和雄「ミクロ経済学入門」(第2版)岩波書店(1995年)

倉澤資成「入門価格理論」(第2版)日本評論社(1988年)

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席点あるいは授業の平常点(30%)、試験(70%)。合計100%で100点満点。

■評価基準

評価A+(90点以上)：分析するための枠組みとしての経済学を学び、その基本的な知識をほぼすべて修得できている

評価A(89~80点)：分析するための枠組みとしての経済学を学び、その基本的な知識をかなり修得できている

評価B(79~70点)：分析するための枠組みとしての経済学を学び、その基本的な知識を十分に修得できている

評価C(69~60点)：分析するための枠組みとしての経済学を学び、その基本的な知識をある程度修得できている

評価F(59点以下)：分析するための枠組みとしての経済学を学ばず、その基本的な知識を修得できていない

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名 問題解決学入門I(Introduction to Complex Problem Solving I)

サブタイトル

担当教員 志賀・彩藤・久保田・増田・栢原

■講義目的

大学での勉学、大学生生活全般に関して、下記の観点から問題解決力を獲得する。
 ①自身の知識・能力・意欲
 ②支援の受け方
 ③各種ツールの使い方
 これは社会人基礎力養成の一環ともなる。

■講義分類

社会人力養成/ビジネスICT

■到達目標

①大学での勉学、大学生生活に必要な基礎知識と能力・意欲を理解する
 ②大学での勉学、大学生生活に必要な支援の受け方を理解する
 ③大学での勉学、大学生生活に必要なツールの使い方を習得する

■講義形態

・講義 + GD・GW・PR
 ・その他(Wordによる文章作成等)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各回の宿題(予習・復習課題)に解答・対応して受講する

■講義の概要

<第 1 講>

概要：履修登録方法の説明と履修登録実習
 事前,事後学習ポイント：事前学習：履修登録計画作成（紙ベース）
 事後学習：履修登録の終了

<第 2 講>

概要：履修登録の確認、T-NEXTの使い方と大学生生活ハンドブックのポイントの説明
 大学生生活ハンドブック：{<http://handbook.tama.ac.jp/>}
 [多摩大学リンク集からすぐに見られます]

事前,事後学習ポイント：事後学習：履修登録確認

<第 3 講>

概要：メールの使い方
 事前,事後学習ポイント：事後学習：復習クイズ解答

<第 4 講>

概要：プリンタとファイルサーバーの使い方
 事前,事後学習ポイント：事後学習：復習クイズ解答

<第 5 講>

概要：多摩大学での学びの意義と学科の仮選択
 事前,事後学習ポイント：事後学習：学科仮選択（授業中に終わらなかった場合）、自分の将来と多摩大学での学びの関係シート記入

<第 6 講>

概要：授業の受け方
 事前,事後学習ポイント：事後学習：復習クイズ解答

<第 7 講>

概要：問題（困りごと）の解決・対応
 事前,事後学習ポイント：事前学習：問題発見・予防シート記入
 事後学習：問題解決・再発防止シート記入

<第 8 講>

概要：国際交流、地域貢献、就職活動について
 事前,事後学習ポイント：事後学習：復習クイズ解答、質問シート記入

<第 9 講>

概要：情報収集
 事前,事後学習ポイント：事後学習：復習クイズ解答、図書館からの図書貸り出し体験

<第 10 講>

概要：レポートの書き方（1）
 事前,事後学習ポイント：事後学習：復習クイズ解答、レポート構成（目次）作成シート記入

<第 11 講>

概要：レポートの書き方（2）
 事前,事後学習ポイント：事後学習：復習クイズ解答

<第 12 講>

概要：プレゼンテーションスキル
 事前,事後学習ポイント：事後学習：復習クイズ解答

<第 13 講>

概要：「志」を考える（1）
 事前,事後学習ポイント：事前学習：「志」立案シート記入
 事後学習：「志」実現シート記入

<第 14 講>

概要：「志」を考える（2）
 事前,事後学習ポイント：事前学習：「志」立案実習（前回に書ききれなかった場合）
 事後学習：「志」実現シート完成

<第 15 講>

概要：多摩大学での学びの意義と本授業の総まとめ
 事前,事後学習ポイント：事前学習：多摩大学での学びの意義シート記入、問題発見・予防シート記入（再度）
 事後学習：問題解決・再発防止シート記入（再度）

■教科書

なし

■指定図書

世界思想社編集部（2011）『大学生 学びのハンドブック』世界思想社
 世界思想社編集部（2014）『大学 新入生ハンドブック』世界思想社
 小原芳樹監修（2011）『大学生生活ナビ』玉川大学出版部

■参考文献・参考URL / Reference List

本学の大学生生活ハンドブック：{<http://handbook.tama.ac.jp/>}
 多摩大学リンク集からすぐに見られます

■評価方法

出席75%

宿題（事前・事後課題等）への対応と授業の参加態度25%

■評価基準

評価A+（90点以上）：出席は2/3程度以上であり、宿題・授業中の努力も抜きん出ている。他の受講生の指導が可能。（勉学・大学生生活全般に関して、知識、支援の受け方、ツールの使い方の理解抜きん出ている）

評価A（89～80点）：出席は2/3程度以上であり、宿題・授業中の努力も十分な程度に達している。（勉学・大学生生活全般に関して、知識、支援の受け方、ツールの使い方の理解が十二分）

評価B（79～70点）：出席は2/3程度であり、宿題・授業中の努力も十分な程度に達している。（勉学・大学生生活全般に関して、知識、支援の受け方、ツールの使い方の理解が十分）

評価C（69～60点）：出席は半数程度を超え、宿題・授業中の努力も必要程度に達している。（勉学・大学生生活全般に関して、知識、支援の受け方、ツールの使い方の理解がほぼ十分）

評価F（59点以下）：出席は半数に足りず、宿題・授業中の努力も不足。（勉学・大学生生活全般に関して、知識、支援の受け方、ツールの使い方の理解が不十分）

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

入学式のオリエンテーションと連続した内容です。オリエンテーションにも参加して下さい。

私語等による他の受講生への迷惑行為には、教室からの退出を指示することがあります。その場合は欠席扱いになりますので、そのようなことがないように注意して下さい。公共交通機関の遅れ以外による15分以上の遅刻は、出席の意味が少なく他の受講生の迷惑になりますので、原則として入室を認めず、欠席扱いとなります。そうしたくないように、十分な余裕を持って登校して下さい。

科目名

問題解決学入門II(Introduction to Complex Problem Solving II)

サブタイトル

担当教員

彩藤・大森(映)・柘原・下井・飯田・中澤

■講義目的

実学志向の多摩大学経営情報学部では、産業社会の問題解決の最前線に立つ力の育成を重視している。そのためには、各種講義や演習で学ぶ知識を組み合わせ、様々な問題にどう挑み、解決するかを修得する必要がある。

この目的から、この科目では毎回異なる教員が様々な分野のテーマを取り上げ、そのテーマに関して「問題はどこにあるか(解くべき問題は何か)」「なぜ問題となっているか」「その問題をどのように解決するか」などを、事例や方法論の立場から解説する。
※6教員がコーディネーターとなり、毎回異なる教員が講義を行うオムニバス形式を採用する。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

ビジネスマネジメント

社会力育成

グローバルビジネス

ビジネスICT

地域ビジネス

■到達目標

様々なテーマの問題解決事例を学び、①それぞれのテーマに自分ならではのアプローチをすすめるか。また、②その事例の問題解決に用いられた方法が、自分の興味がある問題にいかに応用出来るかを考えられることを目標とする。

■講義形態

講義 + レポート

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

オムニバス形式のため、毎回 次の授業の準備項目、復習項目について授業内で知らせる。それに従って、準備を進めること。

■講義の概要

<第 1 講>

概要:オリエンテーションおよび問題解決学基礎

事前,事後学習ポイント:問題発見、問題解決とは何か、自分なりに調べておくこと。

事後学習ポイントおよび第2以降の事前学習ポイントについては、その都度知らせる。

<第 2 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 3 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 4 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 5 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 6 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 7 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 8 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 9 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 10 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 11 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 12 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 13 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 14 講>

概要:問題解決ケーススタディ

事前,事後学習ポイント:各回の講義内容に沿って、事前、事後学習ポイントは授業内で示す。

<第 15 講>

概要:まとめ

事前,事後学習ポイント:これまでのすべての講義の復習。

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

前年度の問題解決学総論の電子報告書が出版される予定。そのアドレスを授業中に知らせる。

■評価方法

出席(50%)および毎回講義の最後に提出するレポート(講義レポート)(30%)と期末レポート(20%)による。

■評価基準

評価A+(90点以上):各回、語られたテーマについて、①自分なりのアプローチを明示することができ、その理由も明確に語ることができる。②その回で示された問題解決事例が、自分の興味ある問題に対して、どこまで応用可能であるかしっかりと示すことができる。

評価A(89~80点):語られたテーマを正しく理解し、自分の言葉でまとめることができる。レポートが理路整然としている。問題解決の方法を自分の問題にあてはめることができる。

評価B(79~70点):レポートを自分の言葉でまとめることができる。問題解決について理解している。

評価C(69~60点):一応の出席と、的外れではないレポートをまとめることができる。自分の興味ある問題を説明することができる。

評価F(59点以下):到達目標に達していない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

前年度までの問題解決学総論の読み替え授業であるため、履修できるかどうか自分で確認すること。

各回のテーマやスケジュールについては、第一回目の講義で配布する。

科目名 問題解決メソッドI(Problem-solving methods I)**サブタイトル****担当教員** 増田 浩通**■講義目的**

問題解決メソッドとして、主に経営科学の基本的な考え方を理解することを目的とします。

■講義形態**■到達目標**

この授業では数学とEXCELを多く使います。数学的思考を身につけ、EXCELの基本が身につくことを到達目標とします。パソコンは毎週持ってきて、EXCELが使えるようにしておくこと。

■講義形態

講義

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

EXCELの基本的な使い方。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：ガイダンス：半年間の講義の目的と授業の予定を述べる。

事前、事後学習ポイント：特になし

<第 2 講>

概要：EXCELの復習1

問題解決メソッドIでは、EXCELを用いて授業を行います。そのためにEXCELの復習を行います。パソコンは毎週持ってくこと。

事前、事後学習ポイント：EXCELの復習：文字や数字を入力して表を作る。

<第 3 講>

概要：EXCELの復習2

事前、事後学習ポイント：EXCELの復習：セルへの入力を効率化する。

<第 4 講>

概要：EXCELの復習3

事前、事後学習ポイント：EXCELの復習：データの種類と数式を理解する。

<第 5 講>

概要：EXCELの復習4

事前、事後学習ポイント：EXCELの復習：関数で複雑な計算がシンプルになる。

<第 6 講>

概要：経営数学で用いられる数学の復習を行う。：経営科学に使われる数学の復習1：等差数列

事前、事後学習ポイント：等差数列

<第 7 講>

概要：経営数学で用いられる数学の復習を行う。：経営科学に使われる数学の復習2：等比数列

事前、事後学習ポイント：等比数列

<第 8 講>

概要：中間課題の作成と提出

事前、事後学習ポイント：特になし

<第 9 講>

概要：財務関数 FV関数の使い方：エクセルの財務関数であるFV関数、将来価値について学びます。

事前、事後学習ポイント：FV関数

<第 10 講>

概要：財務関数 PV関数の使い方：エクセルの財務関数であるPV関数、現在価値について学びます。

事前、事後学習ポイント：PV関数

<第 11 講>

概要：財務関数 PMT、IPMT、PPMT関数の使い方：エクセルの財務関数であるPMT、IPMT、PPMT関数、現在価値について学びます。これによりエクセルによるローン計算を行います。

事前、事後学習ポイント：PMT、IPMT、PPMT関数

<第 12 講>

概要：シミュレーションの考え方①：エクセルを用いて簡単な自動販売機のおつりのシミュレーションを行います。

事前、事後学習ポイント：シミュレーション

<第 13 講>

概要：シミュレーションの考え方②：エクセルを用いて簡単な自動販売機のおつりのシミュレーションを行います。第12講の条件を複雑化させていきます。

事前、事後学習ポイント：価格分析

<第 14 講>

概要：シミュレーションの考え方③：エクセルを用いて簡単な自動販売機のおつりのシミュレーションを行います。第13講の条件をさらに複雑化させていきます。

事前、事後学習ポイント：IF関数

<第 15 講>

概要：期末課題の作成と提出：第9講以降の学習内容を元に最終レポートを課します。

事前、事後学習ポイント：特になし

■教科書**■指定図書****■参考文献・参考URL / Reference List****■評価方法**

授業内でのT-NEXTへの課題 70%

中間課題 15%

期末課題 15%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：T-NEXTに提出された課題と中間課題、期末課題で判定する。

評価A (89～80点)：T-NEXTに提出された課題と中間課題、期末課題で判定する。

評価B (79～70点)：T-NEXTに提出された課題と中間課題、期末課題で判定する。

評価C (69～60点)：T-NEXTに提出された課題と中間課題、期末課題で判定する。

評価F (59点以下)：課題の未提出など

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

実施しない。

■留意点

科目名 問題解決メソッドII (Problem-solving methods II)

サブタイトル

担当教員 今泉 忠

■講義目的

経営では、競争があり、そこではさまざまな問題解決のためには戦略的なアプローチが必要である。それは、これらがリスク下での意思決定問題として表現できることからわかる。本講義では、さまざまな状況下で適切に判断できる能力や技法などの意思決定の基礎について合理的な解決に活用しうる数理的方法及び統計的方法について実例を交えながら学ぶ。いくつかの課題については、グループ課題として行う。

1. 意思決定とは
2. 確実性のもとの意思決定
3. 不確実性のもとの意思決定
4. ベイズ意思決定

■講義分類

ビジネス環境理解
 ビジネスマネジメント
 社会人育成
 ビジネスICT

■到達目標

意思決定に関して、以下の項目について講義する。

1. 意思決定とは
2. 確実性のもとの意思決定
3. 不確実性のもとの意思決定
4. ベイズ意思決定

特に、以下の習得に目標とする。

- (1) AHP法について理解している
- (2) Decision Treeについて理解している
- (3) ベイズ意思決定について理解している

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

この科目は講義と演習からなる科目である。

講義での課題を次回の演習時間に提出することを想定しているが、実際の計算などは演習時間前に終了していないと演習時間でのレポート作成は困難である。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：意思決定を考える：何故定量的意思決定が必要かについて講義する

事前,事後学習ポイント：意思決定の必要性の認識

<第 2 講>

概要：確実性のもとの意思決定

事前,事後学習ポイント：定量と定性

<第 3 講>

概要：確実性のもとの意思決定 機会費用とサンクコスト

事前,事後学習ポイント：ミクロ経済学での費用の考え方

<第 4 講>

概要： 確実性のもとの意思決定 代替案の選択 選択基準

事前,事後学習ポイント： 選択基準の種類

<第 5 講>

概要： 確実性のもとの意思決定 演習

事前,事後学習ポイント： 平均と標準偏差

<第 6 講>

概要： 選択基準（効用を評価する）

事前,事後学習ポイント： ラプラス基準、マクシミン基準

<第 7 講>

概要： 選択基準 期待値

事前,事後学習ポイント： ラプラス基準、マックスミン基準、ミニマックス基準

<第 8 講>

概要： 多属性意思決定 AHP

事前,事後学習ポイント： AHP、多属性意思決定でのモデル化、一対比較

<第 9 講>

概要： 多属性意思決定 AHP演習

事前,事後学習ポイント： AHP、一対比較、行列の演算

<第 10 講>

概要： 多属性意思決定 AHP演習 II

事前,事後学習ポイント： 分岐型の意思決定

<第 11 講>

概要：

不確実性のもとの意思決定 ディジョンツリー

事前,事後学習ポイント：

分岐型の意思決定

<第 12 講>

概要： 不確実性のもとの意思決定 ディジョンツリーII

事前,事後学習ポイント： ディジョンツリーでの意思決定の評価

<第 13 講>

概要： ディジョンツリーとベイズ意思決定I

事前,事後学習ポイント： 条件付き確率、事前確率と事後確率、ディジョンツリーでの期待値の計算

<第 14 講>

概要： ディジョンツリーとベイズ意思決定II

事前,事後学習ポイント： ディジョンツリーでの期待値の計算、リアルオプション

<第 15 講>

概要： まとめ

事前,事後学習ポイント： AHP,ディジョンツリー、選択基準

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席20%、講義内レポート40%、最終課題40%

■評価基準

評価A+（90点以上）： 学習した方法を理解して、問題解決に適用し提案できるか。

評価A（89～80点）： 学習した方法を理解して、問題解決に適用できるか

評価B（79～70点）： 学習した手法のうち、すくなくとも2つの手法について問題解決に適用できるか

評価C（69～60点）： 学習した手法のうち、1つの手法について問題解決に適用できるか

評価F（59点以下）： 学習した手法について、理解不十分で問題解決に適用できない

■履修していることが望ましい科目

ビジネス数学I,II

データサイエンスII（統計学I）

■卒業年次生対象再試験の実施

無し

■留意点

科目名 問題解決メソッドIII (Problem-solving methods III)

サブタイトル

担当教員 今泉 忠

■講義目的

問題解決メソッドとしての経営科学の基本的な考え方を理解することを目的とする。
題材としては、待ち行列と線形計画と需要問題を扱うが、特に、実際の問題について適用できることを重視する。

■講義分類

社会人力育成
ビジネスICT

■到達目標

確率的に変動する経営問題において最適な解を求めて、説明できることを目標とする。
特に以下を目標とします。

- (1) 経営科学で必要とされることについて数理的な理解ができている。
- (2) PCなどを用いて解を求めることができる。
- (3) 最適解を提案できる

■講義形態

講義

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義資料をもとに実際の問題について最適解を求めるので、そのフレームワークを十分理解するとともに、実際の問題に適用できるようにしておくこと

■講義の概要

<第 1 講>

概要：商品購入サービスなどでは必ず行列ができる。この場合のモデルとしての待ち行列理論について説明する。

事前,事後学習ポイント：実際のサービスでの行列の例を2つ整理しておくこと

<第 2 講>

概要：シミュレーションモデル

事前,事後学習ポイント：サービス時間、サービス単位

<第 3 講>

概要：サービス時間の平均

事前,事後学習ポイント：指数関数、等比級数、サービス時間の平均の変化

<第 4 講>

概要：リトルの法則

事前,事後学習ポイント：線形関数、等差数列

<第 5 講>

概要：演習

事前,事後学習ポイント：待ち行列理論を用いた場合の解法について演習を行う。

<第 6 講>

概要：線形計画法入門

事前,事後学習ポイント：連立方程式、solver

<第 7 講>

概要：連立方程式での交点

事前,事後学習ポイント：問題からの定式化、図示化

<第 8 講>

概要：アルゴリズムの理解

事前,事後学習ポイント：シンプレックス法

<第 9 講>

概要：最小化と最大化

事前,事後学習ポイント：問題の解法

<第 10 講>

概要：演習 II

事前,事後学習ポイント：改善案の提案

<第 11 講>

概要：需要予測問題

事前,事後学習ポイント：新規需要と買替え需要

<第 12 講>

概要：シミュレーションモデル

事前,事後学習ポイント：成長曲線

<第 13 講>

概要：データからのモデル化

事前,事後学習ポイント：データでの経験則の適合

<第 14 講>

概要：演習 III

事前,事後学習ポイント：需要予測

<第 15 講>

概要：まとめ

事前,事後学習ポイント：待ち行列、線形計画、需要予測

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席20%、課題提出50%、最終課題30%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：3つの方法に関して、以下ができること (1) 経営科学が必要とされることについて数理的な理解ができている。(2) PCなどを用いて解を求めることができる。(3) 最適解を提案できる

評価A (89~80点)：3つの方法のうち2つに関して、以下ができること (1) 経営科学が必要とされることについて数理的な理解ができている。(2) PCなどを用いて解を求めることができる。(3) 最適解を提案できる

評価B (79~70点)：3つの方法のうち1つに関して、以下ができること (1) 経営科学が必要とされることについて数理的な理解ができている。(2) PCなどを用いて解を求めることができる。(3) 最適解を提案できる

評価C (69~60点)：3つの方法のうち1つについて (1) 経営科学が必要とされることについて数理的な理解ができている。(2) PCなどを用いて解を求めることができる。
評価F (59点以下)：3つの手法について、理解が不十分で、実際の問題に適用できない場合

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

EXCELを用いて演習などを行うので、その操作は習得しておくこと。

科目名 ヨーロッパ経済論 (European Economic)

サブタイトル

担当教員 田中 理

■講義目的

ヨーロッパでは各国・各地域が民族、言語、文化、宗教などの巨根を越え、政治、経済、司法、外交・安全保障など様々な分野で政策の統一や調整を進めている。1950年代に6ヶ国で始まった欧州統合のプロセスは28ヶ国体制に拡大。1999年には域内での単一の通貨を用いるユーロ圏が発足した。急速に統合を進める影で生み出している。ユーロの崩壊や解体の危機が叫ばれた欧州債務危機の最中、ヨーロッパ諸国は統合を次のステージに進めることで危機克服を目指した。だが、長引く景気停滞、失業や貧困の増加から、ヨーロッパ市民の間では現状への不満が高まっており、不満の矛先は統合への批判や移民の排斥という形でヨーロッパの各地で噴出している。ヨーロッパは今、統合の求心力を保てるかの岐路に立たされている。本講義では、こうした現在進行形のヨーロッパ情勢と一般的なヨーロッパ経済の教科書に書かれている内容の“橋渡し”を意識し、時事的なトピックも随時取り上げる。

■講義分類

ビジネス環境理解、社会人力育成、グローバルビジネス

■到達目標

ヨーロッパの政治・経済・金融情勢を題材に、国際問題に関する情報収集の力を磨き、それを整理し、わかりやすく伝える能力を身に付けることを目指す。

■講義形態

講義のみ

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

レジュメや教科書を精読し、キーワードや論点を理解する。講義では教科書に載っていない最新事情についても数多く扱うので、普段から新聞やニュースなどでヨーロッパの経済・政治情勢にアンテナを張り巡らせておく。教科書の内容と現実事象との論点とがどこで結び付いているかを意識して学習する。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：欧州経済・欧州通貨統合の基礎

事前、事後学習ポイント：ヨーロッパについてのイメージを影らませておく。授業の進め方や評価の方法など必要を考えておく。

<第 2 講>

概要：欧州債務危機

事前、事後学習ポイント：ギリシャ危機、欧州債務危機などのキーワードで見つかるニュース解説記事などを読んでおく。

<第 3 講>

概要：EUの財政政策

事前、事後学習ポイント：経済学、公共経済学、財政学の教科書で、財政政策に関連する箇所目を通しておく。

<第 4 講>

概要：ユーロ圏の金融政策

事前、事後学習ポイント：経済学、金融論の教科書で、金融政策に関連する箇所目を通しておく。

<第 5 講>

概要：EUの雇用政策

事前、事後学習ポイント：日本と主なヨーロッパ諸国の失業率を調べておく。

<第 6 講>

概要：欧州の政治潮流

事前、事後学習ポイント：新聞やテレビなどで取り上げられている最近のヨーロッパの政治問題について考えておく。

<第 7 講>

概要：EUの通商政策

事前、事後学習ポイント：『日本国勢協会』などを参考に日本とヨーロッパの貿易取引について調べておく。

<第 8 講>

概要：EUの産業政策

事前、事後学習ポイント：思い当たるヨーロッパの企業をリストアップし、そのイメージについて考えておく。

<第 9 講>

概要：EUの金融制度

事前、事後学習ポイント：世界各地での金融機関救済への批判（例えばウォール街占拠運動）について考えておく。

<第 10 講>

概要：ドイツ経済

事前、事後学習ポイント：世界各地での金融機関救済への批判（例えばウォール街占拠運動）について考えておく。

<第 11 講>

概要：フランス経済

事前、事後学習ポイント：フランスの経済規模、人口、地理、歴史など基礎的な情報を調べ、イメージを影らませておく。

<第 12 講>

概要：英国経済

事前、事後学習ポイント：英国の経済規模、人口、地理、歴史など基礎的な情報を調べ、イメージを影らませておく。

<第 13 講>

概要：中東欧経済

事前、事後学習ポイント：主な中東欧諸国の経済規模、人口、地理、歴史など基礎的な情報を調べ、イメージを影らませておく。

<第 14 講>

概要：その他の欧州経済

事前、事後学習ポイント：これまでの授業で取り上げる機会がなかったヨーロッパの国を題材にするので、受講者が興味のある国やテーマがあれば事前に伝えておく。

<第 15 講>

概要：ロシア経済

事前、事後学習ポイント：ロシアの経済規模、人口、地理、歴史など基礎的な情報を調べ、イメージを影らませておく。

■教科書

レジュメを配布する

■指定図書

授業内容の一部は下記指定図書に従うが、レジュメを配布するので必ずしも購入する必要はない

・田中素春、長部重康、久保広正、岩田健治『現代ヨーロッパ経済（第3版）』（有斐閣アルファ）

・・・ 幅広い内容を網羅したヨーロッパ経済の教科書

・久保広正、田中友義編著『現代ヨーロッパ経済論』（ミネルヴァ書房）

・・・ 欧州連合の様々な政策について詳しい

・森井裕一編『ヨーロッパの政治経済・入門』（有斐閣ブックス）

・・・ 各国別の政治・経済情勢を理解するのに役立つ

■参考文献・参考URL / Reference List

より掘り下げて学習したい受講者には

・田中素春『ユーロ 危機の中の統一通貨』（岩波新書）

・・・ 単一通貨ユーロに詳しい

・網谷龍介、伊藤武志、成広孝編『ヨーロッパのデモクラシー（改訂第2版）』（ナカニシヤ出版）

・・・ ヨーロッパ各国の政治体制や政治制度を調べる際に役立つ

・河村小百合『欧州中央銀行の金融政策』（きんざい）

・・・ ユーロ圏の金融政策に詳しい

・矢野恒太記念会編『世界国勢協会（2014/15）』（矢野恒太記念会）

・・・ ヨーロッパを含む世界の主要国・地域の統計データをまとめたもの

・矢野恒太記念会編『日本国勢協会（2014/15）』（矢野恒太記念会）

・・・ 日本の統計データをまとめたもの、日本とヨーロッパの貿易取引についてのデータもある

■評価方法

出席（30%）

中間レポート（30%）：目安は3,000字程度、テーマ次第だが図表を用いることを奨励する

期末試験（40%）：レポートや発表で代替する希望がある場合、履修者と相談のうえ変更する

評価A+（90点以上）：講義内容をよく理解し、自らの意見としてまとめられる

評価A（89～80点）：講義内容をよく理解している

評価B（79～70点）：講義内容を概ね理解している

評価C（69～60点）：講義内容を概ね理解しているが、不十分な点もある

評価F (59点以下) : 講義内容を理解していない

■履修していることが望ましい科目

・基礎知識を前提としない授業とるように心掛けるが、経済学や金融論の初歩的な知識 (新聞の経済・金融記事が理解できる程度) があることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・授業では最近のヨーロッパ事情や現地情報などを適宜紹介する予定だが、日頃から新聞、テレビ、インターネットなどでヨーロッパのニュースに触れていると、授業の理解や関心が深まるのでお勧めしたい。
- ・レポート執筆にあたって、統計データの入手方法や分析・加工方法を知りたい履修者は、別途指導する機会を設けるので、担当教員に相談すること。
- ・履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 余暇マネジメントI(Management of Leisure Life & Leisure Society I)

サブタイトル

担当教員 杉田 文章

■講義目的

- (1) 以下三点について知り、自分なりの知見を有することに資する
- ① 「余暇」の概念、歴史、現状、意義
 - ② 「余暇市場」の構造、現状、背景
 - ③ 「余暇製品」産業の使命、マーケティング方法の核
- (2) 「余暇をマネジメントする」概念を理解することによって、問題発見・解決の切り口を与えること。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

本講義における「余暇」「レジャー」の概念と意義について十分理解し、たとえばあるレジャー製品（財もしくはサービス）について、そのマーケティングの在り方について論じることができるようになること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

- ① 「余暇」「余暇市場産業」に関する諸情報
- ② 今日の余暇市場動向や観光・レジャー政策の動向に関する情報を、講義内で示される諸資料等より、把握してもらいたい。

■講義の概要

<第 1 講>
概要：「余暇」とは何か
事前、事後学習ポイント：講義概要をよく読み、講義の方向性や扱うテーマ、論点となる社会の情勢について、把握しておくこと。
高度経済成長からこんにちまでの、社会・経済的な推移についても大まかに理解しておくことが望ましい。

<第 2 講>
概要：余暇と社会
事前、事後学習ポイント：ダニエル・ベル「脱工業社会の到来」、ヨゼフ・ピーパー「余暇と祝祭」などの著述の概要について把握しておくこと。講義後は、その指摘するところの意味について、さらに理解を深めることを求めたい。

<第 3 講>
概要：「あそび」とは何か
事前、事後学習ポイント：ロジェ・カイヨワ「遊びと人間」やヨハン・ホイジンガ「ホモ・ルーデンス」などの、遊びや余暇に関する著作の概要と、その社会的意義について、あらかじめ概要を把握するようつとめること。

<第 4 講>
概要：スポーツ現象に見る、「遊び」の制度化と商品化
事前、事後学習ポイント：①「スポーツ」と呼ばれるものが含まれていると思われるあらゆる「価値」を、すべて書き出してみること。
②その中で、各時代において、どのような価値が優位性を持っていたのかについて考察しておくこと。

<第 5 講>
概要：プロスポーツの現状と課題
事前、事後学習ポイント：こんにちのスポーツをめぐる問題点を、各自ブレンストーミングの手法を用いて、列挙してみる。新聞記事などを用いてもよい。それらを、自分なりにカテゴライズし、どのような問題なのかを表す名称を与えてみる。さらに、それらの「問題」は、どのような背景をもとに生じた問題であるのかを分析すること。

<第 6 講>
概要：レジャー産業の市場構造
事前、事後学習ポイント：「産業」「市場」の概念について、今一度経済学、経営学的な概念定義について確認しておくこと。

<第 7 講>
概要：産業政策から見たレジャー産業の市場構造
事前、事後学習ポイント：戦後の我が国における国民所得の増大、GDPの推移について、概要を把握しておくこと

<第 8 講>
概要：産業政策から見たレジャー産業の市場構造
事前、事後学習ポイント：第7講と同じ
<第 9 講>
概要：レジャー産業の業域と市場構造
事前、事後学習ポイント：「レジャー白書2009」（財団法人日本生産性本部）
<http://activity.jpc-net.jp/detail/yoka/activity000929.html> などから、レジャー市場の概要について全体を把握しておくこと。

<第 10 講>
概要：社会変動からみたレジャー産業市場構造
事前、事後学習ポイント：デビッド・リースマン「孤独な群衆」、エーリッヒ・フロム「生きるとは何か」などの著作についての概要を把握し、こんにちの労働と余暇の関係性の視点からその意義について考察しておくこと。

<第 11 講>
概要：社会変動からみたレジャー産業市場構造
事前、事後学習ポイント：第10講と同じ
<第 12 講>

概要：社会変動からみたレジャー産業市場構造
事前、事後学習ポイント：第10講と同じ
<第 13 講>

概要：まとめ
事前、事後学習ポイント：ここまでの講義ノートを振り返り、講義の全体的なテーマ、流れを確認しておくこと。

<第 14 講>
概要：まとめ2
事前、事後学習ポイント：第13講と同じ
<第 15 講>

概要：試験対策、最終振り返りとディスカッション
事前、事後学習ポイント：講義を踏まえて、レジャー、レジャー産業に対する自分の意見形成を試みてほしい。

■教科書

特に指定しない

■指定図書

社会経済生産性本部余暇創研「レジャー白書2014」
ダニエル・ベル「脱工業社会の到来（上・下巻）」
他。

■参考文献・参考URL / Reference List

講義内で逐次指示します。

■評価方法

期末試験6割、講義中のレポート等を含めた受講態度などの参加状況によって4割を評価することとする。

■評価基準

評価A+（90点以上）：講義で学んだ諸理論について深く理解していること。社会・歴史的背景と余暇の在り方の関係を深く理解し、今後の余暇産業・余暇政策の在り方についての意見形成がなされていること。

評価A（89～80点）：講義で学んだ諸理論について深く理解していること。
評価B（79～70点）：余暇の概念について理解できていること。余暇（余暇社会）のマネジメントの必要性について論じることができること。

評価C（69～60点）：余暇をめぐる理論、現状について、最低限理解しており、企業活動にかかわった際にこの理解を生かすことができるようになること。

評価F（59点以下）：上記のいずれも達成されていない場合、F評価とする。

■履修していることが望ましい科目

特に指定等はないが、近代史や経済、経営の基礎系の科目での学修内容を良く理解した上で受講されることを望んでいます。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施します。

■留意点

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 余暇マネジメントII (Management of Leisure Life & Leisure Society II)

サブタイトル

担当教員 杉田 文章

■講義目的

- (1) 以下三点について知り、自分なりの知見を有することに資する
- ① 「余暇」の概念、歴史、現状、意義
 - ② 「余暇市場」の構造、現状、背景
 - ③ 「余暇製品」産業の使命、マーケティング方法の中核
- (2) 「余暇をマネジメントする」概念を理解することによって、問題発見・解決の切り口を与えること。

■講義分類

顧客理解
 ビジネス環境理解
 ビジネス創造
 ビジネスマネジメント
 グローバルビジネス
 地域ビジネス

■到達目標

本講義における「余暇」「レジャー」の概念と意義について十分理解し、たとえばあるレジャー製品(財もしくはサービス)について、そのマーケティングの在り方について論じることができるようになること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

- ① 「余暇」「余暇市場産業」に関する諸情報
- ② 今日の余暇市場動向や観光・レジャー政策の動向に関する情報を、講義内で示される諸資料等より、把握してもらいたい。

■講義の概要

- <第 1 講>
 概要: ガイダンス
 事前,事後学習ポイント: 「幸福」に関する知見を、ある程度自分なりに抑え、意見をまとめておくことが望ましい。
- <第 2 講>
 概要: 「レジャー産業と「公益」」(1)
 事前,事後学習ポイント: バブル経済の概要について調べ、把握・理解しておくことが望ましい。
- <第 3 講>
 概要: 「レジャー産業と「公益」」(2)
 事前,事後学習ポイント: 前講と同じ。くわえて、プロ野球や、プロサッカーの成り立ちなどについても調べ、見解をまとめておくことが望ましい。
- <第 4 講>
 概要: 「余暇の価値」
 事前,事後学習ポイント: インターネットレベルでよいので、「コモディティ」「コモディティ化」という言葉の概念について、あたっておくこと。
- <第 5 講>
 概要: 「レジャー製品のマーケティング上の力点」
 事前,事後学習ポイント: インターネットレベルでよいので、「文化経済学」という領域の概要についてあたっておいてもらいたい。
 可能な範囲で、ジョン・ラスキン、 ウィリアム・モリスなどについても、調べてみてもらいたい。
- <第 6 講>
 概要: レジャーにおける製品政策
 事前,事後学習ポイント: コトラーの「マーケティングマネジメント」などのテキストを参考に、今一度、「製品」「製品政策」に関する知識と、これをめぐる諸課題、テーマについて点検しておいてもらいたい。
- <第 7 講>
 概要: 「「遊び」の中心価値」(1)
 事前,事後学習ポイント: インターネットレベルの検索レベルでよいので、カイヨフのプレイ論やその理論の概要について全体を把握したうえで、講義の望んでもらいたい。
- <第 8 講>
 概要: 「「遊び」の中心価値」(2)
 事前,事後学習ポイント: 今日の人間の「遊び」について、思いつく限り列挙したり、その特徴と、社会的背景との関連などについて考えておいてもらいたい。

<第 9 講>

概要: 「「スポーツ」の価値創造の可視化によるマーケティング事例の検討」
 事前,事後学習ポイント: 松田義幸「スポーツブランド」(大修館)などにより、あらかじめナキについて調べておくこと。

<第 10 講>

概要: 「レジャー分野のブランド政策」
 事前,事後学習ポイント: 製品政策としてのブランディングにかんする過去の学習内容について、振り返りを行った上で講義に臨んでもらいたい。

<第 11 講>

概要: 「レジャー産業の価格政策」
 事前,事後学習ポイント: 価格の一般理論についても触れるが、あらかじめ価格政策に関して概観しておくことが望ましい。

<第 12 講>

概要: 「政府によるレジャー政策、リゾート政策について考える」1
 事前,事後学習ポイント: インターネットレベルでよいので、リゾート開発ブームの状況や、大規模保養地整備法のあらまし等について把握したうえで、講義に望んでもらいたい。

<第 13 講>

概要: 「政府によるレジャー政策、リゾート政策について考える」2
 事前,事後学習ポイント: 第12講と同様である

<第 14 講>

概要: 「レジャー産業のミッション」
 事前,事後学習ポイント: まとめて入っていくので、講義の大まかな流れやテーマのポイントについて振り返り、また自分自身の意見形成を行ったうえで講義に臨んでもらいたい。

<第 15 講>

概要: 「総まとめ」
 事前,事後学習ポイント: 前講と同じ

■教科書

特に指定しない

■指定図書

特に指定しない

■参考文献・参考URL / Reference List

バイン、ギルモア 「経験経済」
 ロジェ・カイヨフ「遊びと人間」
 ヨハン・ホイジンガ「ホモ・ルーデンス」
 チクセントミハイ「楽しみの社会学」
 松田義幸「スポーツ産業論」大修館書店
 松田義幸「スポーツブランド」大修館書店

■評価方法

期末試験6割、講義中のレポート等を含めた受講態度などの参加状況によって4割を評価することとする。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 講義で学んだ諸理論について深く理解していること。 社会・歴史的背景と余暇の在り方の関係を深く理解し、今後の余暇産業・余暇政策の在り方についての意見形成がなされていること。
 評価A (89~80点) : 講義で学んだ諸理論について深く理解していること。
 評価B (79~70点) : 余暇の概念について理解できていること。 余暇(余暇社会)のマネジメントの必要性について論じることができること。
 評価C (69~60点) : 余暇をめぐる理論、現状について、最低限理解しており、企業活動にかかわった際にこの理解を生かすことができるようになること。
 評価F (59点以下) : 上記のいずれも達成されていない場合、F評価とする。

■履修していることが望ましい科目

余暇マネジメントI の講義内容を踏まえた講義となるため、できるだけこれを受講した上で履修していただきたい。(履修の条件とはしません。)

■卒業年次生対象再試験の実施

実施します。

■留意点

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 ライフ・デザイン (Life Design)

サブタイトル

担当教員 梅澤 佳子

■講義目的

生活環境が豊かになり、日本人の平均寿命は80歳を超えるようになりました。高齢化、少子化、人口減少、グローバル化、産業構造の変化、ICTや技術開発の進歩等々により、私たちの生き方（暮らし、仕事、教育、余暇）や社会のあり方は大きく変わろうとしています。足元の暮らしをしっかりと見つめ、これからの生き方、社会のあり方に、一人ひとり真剣に向き合い、考え、行動するための基本的な知識を学ぶことを目的としています。

■講義分類

社会人育成、地域ビジネス

■到達目標

1. 社会学的なもの（見方、考え方を理解すること）
2. 暮らし、地域に興味と関心を持つことができるようになる。
3. 暮らし、地域の課題をみつけ解決のためのデザインを考える習慣がつくこと。
4. 自分自身のライフデザインを考える。

■講義形態

講義＋グループディスカッション、グループワーク、

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

理解を深めるために、予習・復習は大切です。指定図書を多数紹介しておりますので、図書館で手にとって見て下さい。

後半は、アクティブラーニングを中心にいきますが、フィールドワークが含まれます。

■講義の概要

<第1講>

概要：ライフデザインとは何か

1. 講義の目的、概要、講義方法、評価方法、履修上の注意事項について説明を行います。
2. 「ライフデザイン」とは何か、今、なぜ、ライフデザインが必要とされるのかについて学びます。

事前、事後学習ポイント：特にありません。

<第2講>

概要：今、なぜ、ライフデザインが必要なのか①

1. 急激に変化する人口構造とライフスタイルの変化をさまざまなデータ、資料を参考に客観的に理解します。
2. 社会の変化とハピラス・メンタリスの変遷について学びます。

事前、事後学習ポイント：人口減少、高齢化、少子化

<第3講>

概要：今、なぜ、ライフデザインが必要なのか②

1. ライフ、デザインが本来持つ意味、現在、ライフデザインという言葉がどのように使われているのかについて理解し、
2. 自分を活かすライフデザインについて考えます。

事前、事後学習ポイント：J、S、ミル、ウィリアム・モリス、奥山清行の問題意識と解決方法について学習しておいて下さい。

<第4講>

概要：私たちが支えるライフデザイン - 問題解決のデザイン最前線①

暮らしの中にある問題を身近なところから解決するデザイナーたちの活動から学ぶ：国内編

事前、事後学習ポイント：中心市街地の過疎化、限界集落、イノベーション、自助・共助・公助の言葉の意味について事前学習してください。

<第5講>

概要：私たちが支えるライフデザイン - 問題解決のデザイン最前線②

暮らしの中にある問題を身近なところから解決するデザイナーたちの活動から学ぶ：海外編

事前、事後学習ポイント：南北問題、環境の持続可能性、経済の持続可能性

<第6講>

概要：ソーシャルデザイン、コミュニティデザインの潮流について学ぶ。

事前、事後学習ポイント：ソーシャルデザイン、コミュニティデザイン、コミュニティビジネスについて調べておいて下さい。

<第7講>

概要：中間試験

第一講から第六講の範囲で、試験を行うことで学生の理解度を確認します。

事前、事後学習ポイント：第一講から第六講までの講義内容を事前に確認しておくこと。

<第8講>

概要：伝統的な暮らしとコミュニティ

1. 農業を中心とした日本人の伝統的な暮らしと地域社会のかたち、生き方について学び、
2. コミュニティを支えてきた地域の祭り、年中行事について学び、その意味を理解します。

事前、事後学習ポイント：事前に調べておく言葉：自然崇拜、ムラ社会、日本人の死生観、ハレ・ケ・ケガシ、日常・非日常

<第9講>

概要：第二次大戦後の暮らしの変化とコミュニティ

急速に進む暮らしの変化とコミュニティの変容、そのことにより生じた課題と解決への取り組みについて学びます。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：高度経済成長、都市化、クオリティ・オブ・ライフ、レジヤ

<第10講>

概要：共に考える、これからのライフデザイン

「人間らしい豊かな暮らし」をテーマに、これからの暮らし方、働き方、余暇の過ごし方について学び、共に考えます。

事前、事後学習ポイント：事前学習しておくべき用語：学習社会、BOPビジネス、協同、オープンデザイン、NPO、NGO

<第11講>

概要：身近な課題解決のデザインを自ら調査してみよう①

私たちのまわりには、暮らしを便利に、楽しく、豊かにしてくれる、そして同時に課題を解決してくれる優れたデザインが数多くあります。それらのデザインを調べ、その価値について発表してもらいます。

事前、事後学習ポイント：講義時間外でフィールドワークや発表準備を行うこと。

<第12講>

概要：身近な課題解決のデザインを自ら調査してみよう②

私たちのまわりには、暮らしを便利に、楽しく、豊かにしてくれる、そして同時に課題を解決してくれる優れたデザインが数多くあります。それらのデザインを調べ、その価値について発表してもらいます。

事前、事後学習ポイント：講義時間外でフィールドワークや発表準備を行うこと。

<第13講>

概要：課題をみつけ、実現可能な解決方法を自ら提案します。

手順について説明し、作業を開始します。

事前、事後学習ポイント：講義時間外でフィールドワークや発表準備を行うこと。

<第14講>

概要：ライフデザイン最終発表①

課題を解決するために自ら考えたデザインを発表してもらいます。

事前、事後学習ポイント：講義時間外でフィールドワークや発表準備を行うこと。

<第15講>

概要：ライフデザイン最終発表②

課題を解決するために自ら考えたデザインを発表してもらいます。

事前、事後学習ポイント：講義時間外でフィールドワークや発表準備を行うこと。

■教科書

■指定図書

- ①NPO法人・新塾編『「根っこ力」が社会を変える - 志と共に市民の時代を生きる』ぎょうせい、2011。
- ②永井一史・山崎亮・中嶋隆嗣編『幸せに向かうデザイン - 共感とつながりで変えていく社会』日経BP社、2012。
- ③ミヒヤエル・エンデ『モモ』岩波書店、1976。
- ④小林司『「生きがい」とは何か - 自己実現への道』NHKブックス、1989。
- ⑤澤谷浩介・山崎亮『業谷浩介さん、経済成長がなければ僕たちは幸せになれないのでしょうか?』学芸出版社、2012。
- ⑥エレン・ラプン他『WHY DESIGN NOW? - なぜデザインが必要なのか、世界を変えるイノベーションの最前線』英治出版、2012。
- ⑦鮎戸弘・松田義幸編『ゆとり』時代のライフスタイル・フタバにみる生活意識と行動』日経マーケティング、1989。
- ⑧寛裕介『ソーシャルデザイン実践ガイド』英治出版、2013。
- ⑨阿部真大『地方にこもる若者たち - 都市と田舎の間に出現した新しい社会』朝日新書、2013。
- ⑩シンシア・スミス『世界を変えるデザイン - ものづくりに夢がある』英治出版。

2009.

①② グリーンス『ソーシャルデザイン-社会をつくるグッドアイデア集』朝日出版社、2012。
 ③ グリーンス『日本をソーシャルデザインする-ほしい未来は自分たちでつくる』朝日出版社、2013。

④ 国連開発計画『世界とつながるビジネス-BOP市場を開拓する5つの方法』英治出版、2010。

⑤ 永井一史・山崎亮・中崎隆司編『幸せに向かうデザイン-共感とつながりで変えていく社会』日経BP社、2012。

⑥ ジェイン・ジェイクオブス『発展する地域衰退する地域-地域が自立するための経済学』ちくま学芸文庫、2012。

⑦ 鮎戸弘・松田善幸編『「ゆとり」時代のライフスタイル-7タイプにみる生活意識と行動』日経マーケティング、1989。

⑧ 内山節『共同体の基礎理論-自然と人間の基層から』農文協、2010。

⑨ 結城登美雄『地元学からの出発-この土地を生きた人々の声に耳を傾ける』農文協、2009。

⑩ 内山節『ローカリズム原論-新しい共同体をデザインする』農文協、2012。

⑪ 植木力・川本卓史『小さな企業のソーシャルビジネス-京都発ソーシャル行き』文理閣、2011。

21 バス・ヴァン・アベル『オープンデザイン-参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」』オライリー・ジャパン、2013。

22 宮本常一『山と日本人』八坂書房、2013。

23 伊藤幹治『豊と日本人-比較民俗学的アプローチ』中央公論新書

24 リンダ・グラットン『ワーク・シフト』プレジデント社、2012。

■参考文献・参考URL / Reference List

講義の進捗状況にあわせて紹介します。

■評価方法

提出物(30%)、中間テスト(30%)、最終課題(40%)

相対評価

多摩大学の評価基準に基づいて評価します。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 授業内容について十分に理解し、与えられた課題に対して、たいへん優れた提案を行うことができた。

評価A (89~80点) : 授業内容について十分に理解し、与えられた課題に対して、優れた提案を行うことができた。

評価B (79~70点) : 授業内容について理解し、与えられた課題に対して、提案を行うことができた。

評価C (69~60点) : 授業内容について十分に理解できているとは言えない。与えられた課題につてもまとめが不十分である。

評価F (59点以下) : 著しく理解が不十分である。

■履修していることが望ましい科目

特にありません。

■卒業年次生対象再試験の実施

再試験の実施あり。

■留意点

出席は評価のための前提条件です。

科目名 ▶▶▶ リサーチ入門(Introduction to research)

サブタイトル ▶▶▶ リサーチの意義と楽しさを学ぶ

担当教員 ▶▶▶ 村山 貞幸

■講義目的

ビジネスにおいて、リサーチはさまざまな場面で行われている。その方法も多岐に渡っている。本講義では、リサーチを広くとらえ、講義や実践を通じその意義と概要を理解することを目的とする。

ビジネスを取り巻く環境は変化し続け、それに伴いリサーチの範囲や方法も変わり続けている。その動向もふまえながら、できるだけ多くの事例や実践を通じて理解を深めたい。リサーチを身近なものとして関心を高め、関連講義を積極的に受講する動機づけを行う。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

ビジネスマネジメント

社会人育成

■到達目標

リサーチの意義を理解する。

リサーチの概要を理解する。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義だけでなく、リサーチの実践に力を入れるため、時間内では完結しない場合は、講義後にも作業、考察、解釈が継続することになる。
予習は不要。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：オリエンテーションとリサーチの意義

事前,事後学習ポイント：講義の概要を再確認する。

リサーチの意義を理解し、それがどのような場面で行われているか、身近な事例を確認する。

<第 2 講>

概要：リサーチの概要

事前,事後学習ポイント：リサーチの概要を理解し、以降の講義を全体の中で位置づけられるようにしておく。

<第 3 講>

概要：業界リサーチ 1

事前,事後学習ポイント：業界リサーチの方法を確認する。

<第 4 講>

概要：業界リサーチ 2

事前,事後学習ポイント：関心のある業界をピックアップし、リサーチを実践してみる。

<第 5 講>

概要：企業リサーチ 1

事前,事後学習ポイント：企業リサーチの方法を確認する。

<第 6 講>

概要：企業リサーチ 2

事前,事後学習ポイント：関心のある企業をピックアップし、リサーチを実践してみる。

<第 7 講>

概要：リサーチ分析

事前,事後学習ポイント：定量リサーチの分析方法を確認する。

<第 8 講>

概要：定性調査の考え方、方法

事前,事後学習ポイント：定性調査の特徴とその解釈を確認する。

<第 9 講>

概要：顧客リサーチ 1

事前,事後学習ポイント：観察法等を実施し、その特徴、方法を体験的に理解する。

<第 10 講>

概要：顧客リサーチ 2

事前,事後学習ポイント：グループインタビュー等を実施し、その特徴、方法を体験的に理解する。

<第 11 講>

概要：顧客リサーチ 3

事前,事後学習ポイント：デプスインタビュー等を実施し、その特徴、方法を体験的に理

解する。

<第 12 講>

概要：顧客リサーチ 4

事前,事後学習ポイント：ペルソナ リサーチ等を実施し、その特徴、方法を体験的に理解する。

<第 13 講>

概要：顧客リサーチ 5

事前,事後学習ポイント：投影等を実施し、その特徴、方法を体験的に理解する。

<第 14 講>

概要：リサーチ報告

事前,事後学習ポイント：過去に実施したリサーチの報告書を作成する。

<第 15 講>

概要：まとめ

事前,事後学習ポイント：後の専門学習に向けて講義全体を振り返り、内容を整理、再確認する。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

なし

■評価方法

ワードなどで作成するレポート 100%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：リサーチの意義と概要を完全に理解している。

評価A (89~80点)：リサーチの意義と概要を8割理解している。

評価B (79~70点)：リサーチの意義と概要を7割理解している。

評価C (69~60点)：リサーチの意義と概要を6割理解している。

評価F (59点以下)：リサーチの意義と概要の理解が6割を下回っている。

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

入門科目として体系的理解よりも、関心を高めることに注力する。リサーチを広くとらえ、できるだけ多くの体験を通じてリサーチを身近に感じようになることを心掛ける。したがって、内容は難しくないが、「実践」を重視するため講義外の作業が多くなる。

受講人数により、内容を変える可能性がある。

履修制限を行います。選抜方法は別途周知します。

科目名 立志論I(Aspiration Theory I)**サブタイトル** 働く意味を考え、志を確立する。**担当教員** 金子 邦博**■講義目的**

「立志論Ⅰ～Ⅴ」の講義は、大学での学びとその延長線上にある実社会での活躍を展望し、自らの可能性と向き合って、「志」を確立し、大人になった将来の自分をどう創り上げていくのかを考えることを目標としている。

実社会で活躍する大人たちは、様々な経験を積み重ねて、自らを成長させ、社会において必要な存在になることで、安定した生活を確保している。大学での4年間は、大人となって実社会に飛び立つための清走路であり、この4年間に、まず卒業後の進路を見だし、それに向って加速をして、社会人として飛び立ていかなければならない。

大学に入学したばかりで、自由をエンプジョイしたいと思うかもしれないが、飛び立つまでもう4年しかないという時間の制限を考えると、無駄に立ち止まることは、社会人としての成長を遅らせてしまい、大人になった将来の自分にリスクを押しつけることになる。この4年間を有意義に使い切ることが皆さんの未来を切り開くことにつながることを自覚し、「今日」から、理想とする将来の自分を創っていくことに向き合って歩み出さなければならぬ。

ただ、大学入学したものの、自らの将来を見通せず、モヤモヤした閉塞感を感じている人も多くは必ずある。それは、高校までの教育が、大学に進学するのに必要な知識を得ることを目標に全員が同じ方向に向かつて学ぶことを重視して画一化しており、無限大に広がる皆さんの可能性と向き合う時間が少なく、将来の可能性を考えるきっかけとなる「出会い」がなかったことから、将来の希望が見だしきれなかった結果なのです。

大学に入った皆さんは、これからは自らの可能性を考えるために、様々な出会いをして「世界観」を広げるとともに、「成長する自分」を創り上げるために、自分の「人格」を子どもモードから大人モードに切り替えることが必要です。

この「立志論Ⅰ」の講義では、皆さんの将来の活躍を考えてもらうため、まず、「働く意味」を理解してもらうことを目指していきます。講義では、実際に社会で働いている人たちが努力している姿の映像を見ていくことを中心に、自分の「人格」を子どもモードから大人モードに切り替えるために必要な取り組みについて勉強していきます。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会力育成

■到達目標

講義で学習したことを踏まえて、「働く意味」を理解し、社会人としての将来の活躍をイメージして、これから進むべき道を具体的に設定することを目標とします。

■講義形態

講義のみ

■単科学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義を受講するにあたっては、毎回課す次回までの宿題としての「課題」の解答を作成していただく必要があります。課題の解答作成には概ね1時間程度の取り組みが必要で

■講義の概要

<第1講>

概要：1 自らの可能性と向き合う

大学での学びを通じて視野を広げ、自らの可能性に向き合い、成長することの重要性を説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第2講>

概要：2 働くことを楽しむ

仕事を楽しく思えたら人生はめっちゃめちゃ楽しいことを説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第3講>

概要：3 自らが働いている姿を想像する

一つのことにととん向き合うことから得られるものを説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第4講>

概要：4 働く方々を考える

働くことは生きること、人生における労働をどう位置づけるか、働くという経験が人生の可能性を広げるのかを説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第5講>

概要：5 物の見方を変える(インサイド・アウト)

まず前に進むことの重要性を考える。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第6講>

概要：6 第1の習慣(主体性を発揮する)

何のために働くのかを考え、多様な生き方があるなかで、どのような生き方を主体的に選択していくのかを考える。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第7講>

概要：7 第2の習慣(目的を持って始める)

出会いを求めて頑張ることの重要性を説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第8講>

概要：8 第3の習慣(重要事項を優先する)

できない自分から逃げないことの大切さを説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第9講>

概要：9 第4の習慣(Win-Winを考える)

顧客の利益を図る努力が、結果として後に自分の利益になって返ってくることを説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第10講>

概要：10 第5の習慣(理解してから理解される)

支えくれる人の存在に気づくこと、そして感謝することの大切さを説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第11講>

概要：11 第6の習慣(相乗効果を発揮する)

働くというのは、チームワークだということを説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第12講>

概要：12 第7の習慣(刃を研ぐ)

真面目に取り組めなければ、必ず何かを伝えることができることを説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第13講>

概要：13 第8の習慣(ボイスを発見する)

好きなことを仕事にすることで成長が加速的に進むことを説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第14講>

概要：14 仕事の仕方

人とのつながりのなかで、自らの役割を理解してチームプレイに徹底することの重要性を説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第15講>

概要：15 可能性に向き合う

人に負はれるものを作る、サービスをすることの喜びを知ることについて説明する。

事前,事後学習ポイント: 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

■教科書

別冊宝島1805『まんがと図解でわかる7つの習慣』宝島社

■指定図書

- [1] フランクリン・コヴィー・ジャパン(監修)『まんがでわかる7つの習慣』宝島社
 [2] ジョン・コヴィー『7つの習慣 チョイス』キングベアー出版
 [3] ジョン・コヴィー『7つの習慣 チョイス2』キングベアー出版

- [4] スティーブン・R・コヴィー『完訳7つの習慣』 キングペアー出版
- [5] 稲盛和夫『生き方』 サンマーク出版
- [6] 秋元康・鈴木おさむ『天職』 朝日新聞出版
- [7] 坪田信貴『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』 KADOKAWA/アスキー・メディアワークス

■参考文献・参考URL / Reference List

適宜、講義のなかで指定する。

■評価方法

毎回の講義のなかで作成させる課題レポート（評価割合70%）と期末試験（評価割合30%）の成績により評価する。

ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

評価A+（90点以上）： 課題レポートと期末試験の合計得点が90点以上

評価A（89～80点）： 課題レポートと期末試験の合計得点が80点以上90点未満

評価B（79～70点）： 課題レポートと期末試験の合計得点が70点以上80点未満

評価C（69～60点）： 課題レポートと期末試験の合計得点が60点以上70点未満

評価F（59点以下）： 課題レポートと期末試験の合計得点が60点未満

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

(1) この講義は、毎回行う課題の提出がないと単位取得に必要な点数を獲得することができないので、できる限り講義には出席し、課題を提出すること。

(2) この科目は履修登録の制限を行います。履修登録できる者を選抜しますので、履修希望者は必ず第1回目の講義に出席してください。選抜方法は別途周知します。第1回目の講義に出席しない者の履修は原則認めないので注意すること。

(3) 講義資料は、TNEXTの「授業資料」に掲載するので各自ダウンロードすること。

科目名 立志論Ⅱ(Aspiration Theory II)

サブタイトル 海外で活躍する可能性を考える。

担当教員 金子 邦博

■講義目的

「立志論Ⅰ～Ⅴ」の講義は、大学での学びとその延長線上にある実社会での活躍を展望し、自らの可能性と向き合って、「志」を確立し、大人になった将来の自分をどう創り上げたいのかを考えることを目標としている。

実社会で活躍する大人たちは、様々な経験を積み重ねて、自らを成長させ、社会において必要な存在になることで、安定した生活を確保している。大学での4年間は、大人となって実社会に飛び立つための清走路であり、この4年間に、まず卒業後の進路を見いだし、それに向って加速をして、社会人として飛び立ていなければならない。

大学に入学したばかりで、自由をエンジョイしたいと思うかもしれないが、飛び立つまでもう4年しかないという時間の制限を考えると、無駄に立ち止まることは、社会人としての成長を遅らせてしまい、大人になった将来の自分にリスクを押しつけてことになる。この4年間を有意義に使い切ることが皆さんの未来を切り開くことにつながることを自覚し、「今日」から、理想とする将来の自分を創っていくことに向き合って歩み出さなければならない。

ただ、大学入学したものの、自らの将来像を見通せず、モヤモヤした閉塞感を感じている人も多いはずである。それは、高校までの教育が、大学に進学するのに必要な知識を得ることを目標に全員が同じ方向に向かって学ぶことを重視して画一化しており、無限大に広がる皆さんの可能性と向き合う時間が少なく、将来の可能性を考えるきっかけとなる「出会い」がなかったことから、将来の希望が見いだされなかった結果となる。

大学に入った皆さん方は、これからは自らの可能性を考えるために、様々な出会いをして「世界観」を広げるとともに、「成長する自己」を創り上げるために、自分の「人格」を子どもモードから大人モードに切り替えることが必要です。

この「立志論Ⅱ」の講義では、皆さんの将来の活躍の可能性を広げるため、世界の国々はどのようなところなのか知ってもらうことで、まずは海外での生活を体験するため、実際に海外へ出かけるきっかけをつくることを目的に講義を進めていきます。そのため、講義では、各国入国に必要な準備とその国の現状を調べてもらった上で、その国の現状を紹介するビデオを見てもらい、その国の理解を深めていきます。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成

■到達目標

講義で紹介した各国への渡航するための準備、およびその国の治安状況、生活スタイル、移動手段、宿泊施設や食事についての理解を深め、安全にその国へ出かけられるようになる技術を獲得すること、講義で紹介した国への旅行計画を企画できるようになることを目指します。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義を受講するにあたっては、毎回課外回までの宿題としての「課題」の解答を作成していただくことが必要になります。課題の解答作成には概ね1時間程度の取り組みが必要となります。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：1 海外に行ってみよう

海外に出て活躍することにより自らの可能性を広げること、海外での経験が自らを成長させることを説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 2 講>

概要：2 テーマを持って旅に出る

海外での実体験から得られるもの大きさと、それを知って海外を目指す人たちの動機付けを理解する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 3 講>

概要：3 ハワイ

日本人の最も行きたいと思っているハワイとはどのような場所なのか、そこではどのような経験ができるのかを説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 4 講>

概要：4 シンガポール

アジア有数の金融都市として著しい経済成長を続けているシンガポールとはどのような場所なのか、そこではどのような経験ができるのかを説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 5 講>

概要：5 インドネシア(バリ島)

経済成長が著しい、今注目のインドネシアとはどのような場所なのか、そこではどのような経験ができるのか、今回はビーチリゾートとして発展著しいバリ島を中心に説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 6 講>

概要：5-2 インドネシア(ジャカルタ)

経済成長が著しい、今注目のインドネシアとはどのような場所なのか、そこではどのような経験ができるのか、今回は首都ジャカルタを中心に説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 7 講>

概要：6 香港・台湾

すぐいける海外である香港と台湾とはどのような場所なのか、そこではどのような経験ができるのかを説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 8 講>

概要：7 トルコ

8 UAE

ヨーロッパとアジアの接点として注目されるトルコと、アラビア半島のなかで存在感を増しているドバイを中心とするアラブ首長国連邦(UAE)とはどのような場所なのか、そこではどのような経験ができるのかを説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 9 講>

概要：9 スイス

ヨーロッパの中心にある永世中立国スイスとはどのような場所なのか、そこではどのような経験ができるのかを説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 10 講>

概要：10 フランス

花の都と呼ばれる、多くの海外旅行者が集う街/パリを中心にフランスとはどのような場所なのか、そこではどのような経験ができるのかを説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 11 講>

概要：11 ヨーロッパの国々

イタリアやドイツ、オランダ、スペイン、ポルトガルなどヨーロッパの国々の魅力と、そこではどのような経験ができるのかを説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 12 講>

概要：12 アメリカ

広大な国土と様々な人種が集まるアメリカとはどのような場所なのか、そこではどのような経験ができるのかを説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 13 講>

概要：13 南米

南米という地域の特性を説明した上で、その代表としてアルゼンチンとペルーについてのどのような場所なのか、そこではどのような経験ができるのかを説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成していただくこと。

<第 14 講>

概要：14 オーストラリア

広大な大地と豊富な鉱物資源を持つオーストラリアとはどのような場所なのか、そこではどのような経験ができるのかを説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。
宿題で課した「課題」についてよく調べ、課題の解答を作成しておくこと。

<第 15 講>

概要：15 フィリピン

経済成長が著しいフィリピンとはどのような場所なのか、そこではどのような経験ができるのかを説明する。

事前,事後学習ポイント： 講義のなかで理解した内容を整理しておくこと。

■教科書

なし

■指定図書

- [1] ちきりん『社会派ちきりんの世界を歩いて考えよう!』 大和書房
- [2] 田村耕太郎『君は、こんなワクワクする世界を見ずに死ぬるか!?!』マガジンハウス
- [3] 田村耕太郎『アジア・シフトのすすめ』PHP研究所
- [4] 吉越浩一郎『日本人は日本を出ると最強になる』幻冬舎
- [5] 野地 秩嘉『アジアで働く いまはその時だ』日経BP社

■参考文献・参考URL / Reference List

適宜、講義のなかで指定する。

■評価方法

毎回の講義のなかで作成させる課題レポート（評価割合70%）と最終課題の「海外旅行の計画書」（評価割合30%）の成績により評価する。

ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

- 評価A+（90点以上）： 課題レポートと最終課題の合計得点が90点以上
評価A（89～80点）： 課題レポートと最終課題の合計得点が80点以上90点未満
評価B（79～70点）： 課題レポートと最終課題の合計得点が70点以上80点未満
評価C（69～60点）： 課題レポートと最終課題の合計得点が60点以上70点未満
評価F（59点以下）： 課題レポートと最終課題の合計得点が60点未満

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- (1) この講義は、毎回行う課題の提出がないと単位取得に必要な点数を獲得することができないので、できる限り講義には出席し、課題を提出すること。
- (2) この科目は履修登録の制限を行います。履修登録できる者を選抜しますので、履修希望者は必ず第1回目の講義に出席してください。選抜方法は別途周知します。第1回目の講義に出席しない者の履修は原則認めないので注意すること。
- (3) 講義資料は、TNEXTの「授業資料」に掲載するので各自ダウンロードすること。

科目名 立志論III(Aspiration Theory III)**サブタイトル** 立志起業家論**担当教員** 趙 佑碩**■講義目的**

規模が小さくても良いサービスと製品を世の中に提供することでイノベーションを起こし、成長速度が早い企業のことをベンチャー企業という。この「ベンチャー」という言葉を最初日本で広めたのは多摩大学2代目学長である中村秀一郎教授であり、彼はアントレプレナーシップのことを「単なる営利欲ではなく、それを突き抜けた達成動機と人間の気概」としている。要は、ベンチャーの経営者は単なる金儲けだけではなく、アントレプレナーシップを以って社会に貢献し、歴史を前進させる役目があるということを強調しているのである。起業家とベンチャーの経営者は、ほぼ同義語だと理解してよからう。

この「立志論III」では将来、ビジネスを起こしたいと考えている学生、大企業や中小企業の中でコーポレート・ベンチャーを手掛けたいと思う学生、金融機関などで支援側に立ちたいと思う学生等がその実践に生かせる手がかりを学ぶことを科目の目的とする。この場合の「手がかり」とは、起業家に必要な最低限の「知識」すなわち、ビジネス・プラン、戦略、組織、ファイナンス、マーケティング等のことであり、さらにはビジネスを立ち上げようという「志」、「やる気、思い」である。

この授業では、理論を中心とした部分と共に志・実践に役立つ部分を強化している。趙が講義した内容と対応するかたちで、非常勤講師として本学に招いたベンチャー業界の実務家(産業界で活躍し名声を得ている起業家、インキュベーターマネージャー、メンター)は、起業経営の現実と最新事例のダイナミクスさを学生諸君に感じさせるであろう。

将来何をしたいのか漠然としている学生にとっても実務家の体験談を交えた講義は志・キャリア設計の参考のうえで有意義であると思われる。趙は非常勤講師の講義にコーディネーターとして毎回参加し、司会、質疑応答の進行をつとめる。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

ビジネスマネジメント

社会人力育成

グローバルビジネス

地域ビジネス

■到達目標

- ・ビジネスの立ち上げとビジネスプラン作成に必要な知識習得
- ・起業経営特有の戦略、組織、ファイナンス、マーケティングを理解する
- ・自分にとって経営(学)を勉強する意味を含む志・人生設計及び問題解決を考えさせるきっかけづくり

■講義形態

講義のみ

その他(ベンチャー企業の事例を扱ったビデオ・視聴覚教育)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義は教科書に該当する配布資料にそって進むのだが、配布資料には選定講義の内容が常に記載されており、講義終了間際に教員が示す事前学習ポイントを中心に、それらを授業前によく読んでくること。

■講義の概要

<第1講>

概要:ベンチャー企業とは何か、アントレプレナーシップとは何か

事前,事後学習ポイント:ベンチャー企業、アントレプレナーシップ

<第2講>

概要:個人事業と会社設立における手順とルール

事前,事後学習ポイント:定款、会社設立のメリット

<第3講>

概要:起業家としての志と勇気ある生き方(外部講師講演)

事前,事後学習ポイント:メンター、実存主義哲学

<第4講>

概要:世界各地の地域振興の事例とイノベーションの関係

事前,事後学習ポイント:ベンチャー生態系、地域イノベーションシステム(RIS)

<第5講>

概要:ベンチャー企業経営論のフレームワーク

事前,事後学習ポイント:ベンチャー企業特有の戦略論、破壊的イノベーション

<第6講>

概要:インキュベーター事業経験からみた成功する起業家、失敗する起業家(外部講師講演)

事前,事後学習ポイント:インキュベーター、社会的起業

<第7講>

概要:事業機会の発見・評価とビジネスモデル構築

事前,事後学習ポイント:事業計画とビジネスプラン、ビジネスモデル

<第8講>

概要:ベンチャー企業の組織のマネジメント

事前,事後学習ポイント:マネジメント、マックス・ウェバー、リーダーシップ、ネットワーク型組織

<第9講>

概要:ベンチャー企業の新価値創造と組織のあり方(外部講師講演)

事前,事後学習ポイント:リスキューキング、フラットな組織

<第10講>

概要:限りある自社資源の限界を超えるための他社の経営資源活用

事前,事後学習ポイント:アウトソーシング、提携戦略

<第11講>

概要:ベンチャー企業のグローバル化の意義

事前,事後学習ポイント:サイエンスパーク、グローバル経営

<第12講>

概要:ベンチャー・ファイナンス-日本の銀行とベンチャーキャピタル

事前,事後学習ポイント:ベンチャー・キャピタル、公的資金の活用の仕方

<第13講>

概要:起業家・ベンチャー企業のマーケティング

事前,事後学習ポイント:ブルーオーシャン戦略、マーケティングの神話とイノベーションの関係

<第14講>

概要:日本の起業家・志ある経営(外部講師講演)

事前,事後学習ポイント:本田宗一郎、松下幸之助、野田一夫

<第15講>

概要:総括

事前,事後学習ポイント:志と起業家、これまでの学習ポイント全般

■教科書

毎回ごとの資料配布

■指定図書

趙佑碩著「奇跡を呼びこむ、人-イノベーションの起点、韓国と日本と松下イズム」悠雲舎

■参考文献・参考URL / Reference List

講義中に随時紹介

■評価方法

- ・定期期末試験(ペーパーテスト70%) + レポート(3本・30%) + 出席(加算点としての+α) + 授業態度(加算点としての+α)
- ・期末試験は趙の講義内容、レポート3本は外部講師の内容を中心に行う
- ・レポート3本は、MS Office wordを用いた課題作成提出であり、パワーポイントと表計算ソフトのExcelを用いる工夫もほしい
- ・詳細はオリエンテーション時に提示

■評価基準

評価A+ (90点以上) : ・ビジネスの立ち上げとビジネスプラン作成に必要な知識を高度に習得している ・起業経営特有の戦略、組織、ファイナンス、マーケティングを高度に理解している ・自分にとって経営(学)を勉強する意味を含む志・人生設計及び問題解決を考えさせるきっかけづくりをレポートのなかで大変良く述べられている

評価A (89~80点) : ・ビジネスの立ち上げとビジネスプラン作成に必要な知識をかなり習得している ・起業経営特有の戦略、組織、ファイナンス、マーケティングをかなり理解している ・自分にとって経営(学)を勉強する意味を含む志・人生設計及び問題解決を考えさせるきっかけづくりがレポートのなかで良く述べられている

評価B (79~70点) : ・ビジネスの立ち上げとビジネスプラン作成に必要な知識の基本を習得している ・起業経営特有の戦略、組織、ファイナンス、マーケティングの基本をある程度理解している ・自分にとって経営(学)を勉強する意味を含む志・人生設計及び問題解決を考えさせるきっかけづくりがレポートのなかで一部述べられている

評価C (69~60点) : ・ビジネスの立ち上げとビジネスプラン作成に必要な知識の基

本をある程度習得している ・外部講師講義に対するレポートを提出したことで、自分にとっての志を考えさせるきっかけづくりが一部分述べられている
評価F(59点以下) :ベンチャー経営の基本を理解しておらず、レポートも未提出かレポートの要諦を得ていない結果としての不合格

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・講義の順序は、学生の理解度と進捗度によって前後、変更する可能性があることを留意されたい。また、外部講師の講義日もスケジュール状況によって変更になることがあり得る。

科目名 立志論Ⅳ (Aspiration Theory Ⅳ)

サブタイトル 立志人物論

担当教員 久恒 啓一

■講義目的

ビジネスはコミュニケーション活動によって成り立っており、その活動を担うのは人である。経営資源を束ねる人的資源の重要性はますます高まっている。今後はキャリア形成を含むライフマネジメントの視点からの人的資源の活性化を考えながら、組織や経営やビジネスについて考察することが求められる。

この講義においては、近代日本を作った明治期を中心とするわが国の志を実現した偉人の生涯（経営者・政治家・芸術家・作家・ジャーナリスト）の資料やYouTubeの映像を題材に、いくつかの切り口ー仰ぎ見る師匠の存在、敵との切磋・友との拓磨、持続する志、怒涛の仕事量、修養・研鑽、飛躍する構想力、日本への回帰ーを用いて今日の産業社会で生き残るための問題解決の知恵について学び、自らの志とライフマネジメントについて深く考えてもらう。

■講義分類

ビジネスマネジメント
グローバルビジネス

■到達目標

自身のロールモデルを発見し、最終レポートとしてパワーポイントを用いて「私のロールモデル〇〇〇〇の人生鳥瞰図」を作成し、ワードを用いて「私のロールモデル〇〇〇〇から学んだこと」をレポートできる力を身につける。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■単習学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

2回に取り上げる予定の偉人について自分なりに調べておくこと。
毎回の授業で紹介したYouTube映像を視る。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：講義「近代日本のわが国の偉人たちのライフマネジメント」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 2 講>

概要：講義「仰ぎ見る師匠の存在 I」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 3 講>

概要：講義「仰ぎ見る師匠の存在 II」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 4 講>

概要：講義「敵との切磋、友との拓磨 I」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 5 講>

概要：講義「敵との切磋、友との拓磨 II」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 6 講>

概要：講義「持続する志」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 7 講>

概要：講義「怒涛の仕事量 I」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 8 講>

概要：講義「怒涛の仕事量 II」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 9 講>

概要：講義「修養・鍛錬・研鑽」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 10 講>

概要：講義「飛躍する構想力」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 11 講>

概要：講義「日本への回帰」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 12 講>

概要：講義「人物モデルの人生鳥瞰図作成 I」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 13 講>

概要：講義「人物モデルの人生鳥瞰図作成 II」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 14 講>

概要：講義「人物モデルの人生鳥瞰図作成 III」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

<第 15 講>

概要：講義「人物モデルの人生鳥瞰図作成 IV」
事前、事後学習ポイント：取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。

■教科書

なし

■指定図書

「運味き偉人伝ー人生後半に輝いた日本人」（PHP・久恒啓一）

■参考文献・参考URL / Reference List

<http://www.hisatune.net/>

■評価方法

出席 50点
毎回の提出アンケート 25点
最終レポート 25点

■評価基準

評価A+（90点以上）：全回出席。レポートが特に優れている。
評価B（89～80点）：ほぼ全回出席。レポートが良い。
評価C（79～70点）：高い出席率。レポートの提出あり。
評価D（69～60点）：高い出席率。レポートの提出なし。
評価F（59点以下）：低い出席率。レポートの提出なし。

■履修していることが望ましい科目

立志系科目を履修するのが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

次回に取り上げる予定の偉人について、自分なりに調べておくことを心掛けてもらいたい。
講義で興味を持った人物の自伝や伝記を読んでほしい。

科目名 立志論Ⅴ(Aspiration Theory V)

サブタイトル 志の高いビジネスの取り組みを知り、自らの志を確立する

担当教員 清松 敏雄

■講義目的

「立志論Ⅰ～Ⅴ」の講義は、大学での学びとその延長線上にある実社会での活躍を展望し、自らの可能性と向き合って、「志」を確立し、大人になった将来の自分をどう創り上げていけるかを考えることを目標としている。

実社会で活躍する大人たちは、様々な経験を積み重ねて、自らを成長させ、社会において必要な存在になることで、安定した生活を確保している。大学での4年間は、大人となつて実社会に飛び立つための滑走路であり、この4年間に、まず卒業後の進路を見いだし、それにむかって加速をして、社会人として飛び立つていかねばならない。

大学に入学したばかりで、自由をエンジョイしたいと思うかもしれないが、飛び立つまでもう4年しかないという時間の制限を考えると、無駄に立ち止まることは、社会人としての成長を遅らせてしまい、大人になつた将来の自分にリスクを押しつけることになる。この4年間を有意義に使い切ることが皆さんの未来を切り開くことにつながることを自覚し、「今日」から、理想とする将来の自分を創っていくことを歩み出さなければならぬ。

ただ、大学入学したものの、自らの将来像を見通せず、モヤモヤした閉塞感を感じている人も多いはずである。それは、高校までの教育は、大学に進学するのに必要な知識を得ることを目標に全員が同じ方向に向かって学ぶことを重視していることから、将来の可能性を考えるきっかけとなる「出会い」のチャンスが少なかったから、将来の希望が見だしきれなかった結果なのです。

大学に入った皆さん方は、これからは自らの可能性を考えるために、様々な出会いをして「世界観」を広げるとともに、「成長する自分」を創り上げるために自分の「人格」を子どもモードから大人モードに切り替えることが必要です。

この「立志論Ⅴ」の講義では、皆さんの就職、働き方を具体的に考えてもらうため、今ビジネスの世界で成功している志の高いビジネスの取り組みを知ることを通して、皆さんが今後、社会に出て活躍する際、どのような志を持つべきなのかを理解してもらうことを目指していきます。講義では、今注目されているビジネスの取り組みの映像を見て、そこからの学びを基礎に、自らの可能性と向き合い、将来どの様な働き方をするのか、どう成長していくのかを考えてもらいます。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人力育成

■到達目標

志の高いビジネスの取り組みを知ることを通じて、満足感の高い「生き方」を実現するためには、自分は将来どの様な働き方をする必要があるのか、どのように成長していけばいいのかを考え、自らの進路を決定できるようになることを目指す。

■講義形態

講義のみ

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎回、授業の際には課題を提出すること。

■講義の概要

<第1講>

概要：戦後70年 ニッポンの肖像

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第2講>

概要：未来はどこまで予測できるのか

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第3講>

概要：寿命はどこまで延びるのか

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第4講>

概要：人間のパワーはどこまで高められるのか

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第5講>

概要：人生はどこまで楽しくなるのか

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第6講>

概要：人間のフロンティアはどこまで広がるのか

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第7講>

概要：「2015年ホントに儲かるビジネスはどれ？」で大激論

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第8講>

概要：外伝 伝説の「立ち上げ人」 新たな挑戦

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第9講>

概要：今までにない「モール」を作れ！

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第10講>

概要：危機から生まれた幸せ企業戦略

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第11講>

概要：大手に勝つ！地域No.1店のつくり方

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第12講>

概要：下請け脱出スペシャル！ 未来は自分の力で切り拓け！

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第13講>

概要：ニッポンの「越貨」を世界へ！

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第14講>

概要：世界を覇す！ニッポンのお菓子

事前,事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

<第15講>

概要：発展を続けるコンビニ

事前、事後学習ポイント：事前学習のポイント： 課題で指定した内容をよく調べ、理解しておくこと。

事後学習のポイント： 講義で指定した内容について課題を行うとともに、特に興味を持った点についてさらに調べてみること。

■教科書

なし

■指定図書

村上龍『カンブリア宮殿 村上龍×経済人 変化はチャンス』 日本経済新聞出版社

■参考文献・参考URL / Reference List

適宜、講義のなかで指定する。

■評価方法

毎回の講義のなかで課す課題レポート 100%

ただし、講義に際して教員の指示に従わない等の受講態度に問題があった者に対しては、成績が良好であっても単位は付与しない。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 上記の到達目標を念頭におき、毎回の課題に対して十分な検討を行っている。

評価A (89~80点) : 上記の到達目標を念頭におき、毎回の課題に対して概ね十分な検討を行っている。

評価B (79~70点) : 上記の到達目標を念頭におき、毎回の課題に対してある程度の検討を行っている。

評価C (69~60点) : 上記の到達目標を念頭におき、毎回の課題に対して最低限の検討を行っている。

評価F (59点以下) : 毎回の課題に対して検討がなされていない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

(1) この講義は、毎回行う課題の提出がないと単位取得に必要な点数を獲得することができないので、できる限り講義には出席し、課題を提出すること。

(2) 受講希望者が教室の定員を超えた場合、履修登録できる者を選抜しますので、履修希望者は必ず第1回目の講義に出席してください。第1回目の講義に出席しない者の履修は原則認めないので注意すること。

科目名 プレゼミ (Pre-seminar)

サブタイトル 「社会人マイナス四年生」のゼミ入門

担当教員 金子 邦博

■講義目的

- ① 大学におけるキャリア形成を踏まえた、自己認識の端緒とすること。
- ② 大学での学びへのソフトウェアング
- ③ ディスカッションやゼミナル活動を通じた主体的学びの態度を習得すること。

■講義分類

社会人力育成
初年次教育
高等学校から大学への円滑な移行を図るため、主として大学新入生を対象に作られた総合教育プログラム

■到達目標

- ① 就業意識に基づいた4年間の学修イメージが確立すること。
- ② 学びの対象を主体的に見出せるようになること。
- ③ 学びの成果に対する現実的期待を抱くことができるようになること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（学習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

この講義では、自らの成長を促すため、講義や演習で学んだことをしっかりと身につけるために復習に多くの時間を割く必要があります。復習に際しては、単に学んだことを整理するだけでなく、講義を通じて「気づいたこと」を自分の人生のなかで活かすために、追加で関係する情報の収集を行い、学んだことを将来の自分に結びつけていく作業が必要になります。この講義での学びを活かすためには、復習に概ね2時間程度の取り組みが必要です。

■講義の概要

多摩大学では、大学に入学した時点での学生諸君は、「大学一年生」ではなく、「社会人マイナス四年生」である。それは、諸君が4年後に、社会人になることを前提としているからである。したがって、社会から要求されるものを身につけることが、大学4年間の語学のミッション（使命）である。

では、「社会から求められるもの」とは何か。

多摩大学は、これを総称して「問題解決力」と定義する。実社会は「問題」のカタマリであって、日々の社会の営みはその問題を解きほぐしていくことで富を生みだし、豊かな社会を創造している。皆さんが大学を卒業して、実社会において役割を担っていくためには、「問題を解決する」能力が不可欠なのである。

問題を解決していける能力の養成は、講義を通じて学び取る既存の知識の修得だけで達成することはできない。必要なのは、未来に向けて新たな解決策を探索し、解決策を実現していく「技能」を身につけるための実践的な訓練である。本学では、その実践的な訓練の場として「ゼミ形式による学び」を4年間の学習の中心に沿って教育を行っている。

4年間の「ゼミ形式による学び」の中心は、2年次から3年間をかけて専門的、実践的な課題に取り組む「ホームゼミ」である。1年次に配置されているこの「プレゼミ」は、高校を卒業し、大学に入学したばかりの1年生を対象に、「ゼミ」という学びのスタイルに慣れることを目的に、「具体的な問題を認識し、問題構造を明確にし、解決方法を模索し、実行する」という実際の問題解決に挑む活動のプロセス」の基礎を身につけるために、教員が設定した問題に対して問題解決の訓練を積み重ねていく。そして、「プレゼミ」で得られた基礎力を2年次以降の「ホームゼミ」での学びに結びつけていく。

「プレゼミ」では、問題解決に挑む活動のプロセスを身につけて、大学での学びをより大きなものにするため、参加する「社会人マイナス四年生」の皆さんに次のことを求める。

- 1) 緊張感のある「主体的意識」（当事者意識）を持って参加すること。
- 2) 教員や仲間に対し、可能な限り積極的に「情報発信」をすること。
- 3) 「考えて」、そして「行動する」こと。
- 4) そして、問題解決能力を身につける「4年間の道筋」の全体像を把握すること。

「プレゼミⅠ」では、大学での学び方を理解することを中心テーマに「ゼミ形式による学び」を行っている。

「プレゼミⅡ」では、自らの成長の方向性を見いだすことを中心テーマに、今問題になっている実践的な課題を題材にした「ゼミ形式による学び」を行うことで、問題解決力に磨きをかけていく。そして、見いだした方向性を2年次から所属する「ホームゼミ」の選択につなげていく。

<第1講～<第15講>

担当教員が設定したテーマにしたがって、講義の目的達成のための演習を行う。

<事前、事後学習のポイント>

講義を通じて「気づいたこと」を自分の成長につなげていくために、追加で関係する情報の収集を行い、学んだことを将来の自分に結びつけていく作業を行うこと。

■教科書

講義のなかで適宜配付しないし指示する。

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

講義のなかで適宜指示する。

■評価方法

- 1) まず、下記の条件を満たすことが、単位取得のために必要である。
 - ① すべてに出席することがこの科目単位取得の前提である。
3分の2以上の出席がない場合は、単位を取ることはできない。
また、定刻に遅れた場合は、欠席扱いとなる可能性がある。
 - ② 積極的に参加する受講態度。
受講態度が不良と判断された場合、それだけで不合格となる。
 - ③ 指示されたレポートの提出。
提出を指示されたのにレポートが未提出の場合、それだけで不合格となる。
- 2) そのうえで、上記①②③の総合評価（100％）によって、成績評価を決定する。

■評価基準

評価P（合格）：本講義の到達目標に達した。

評価F（不合格）：出席が不十分なしレポート未提出、または到達目標に達していない場合。

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

- 1) 特別な理由のない欠席は認めない。すべての回に必ず出席すること。
- 2) かならず配布されたレポートを持参すること。それ以外の持参物や、予習等については、各担当教員の指示に従うこと。

科目名 ホームゼミ(立志セミナー)

サブタイトル 【立志セミナー】

担当教員 金子・栢原・浜田(正)

■講義目的

この「立志セミナー」は、各専任教員が開講しているホームゼミⅠ～Ⅶに所属していない学生を対象に、まず、栢原、どの様に活躍していくかを考え、「志」を確立することを目指して指導を行っています。参加する皆さんには、確立した「志」を実現するためのキャリア形成を考え、大学卒業後の「働き方」を具体化してもらうことを求めます。

志を見つけるためには、世界観を広げ、自らの可能性と向き合うことが重要です。そのため、この演習では、世界観を広げることや自らの可能性と向き合うことのきっかけになる映像を教材に演習を行っています。また、演習での学習過程で、社会で活躍していくために必要な基本的な思考方式と、説得的な表現が行える論理力を身につけることも目指し、産業社会での社会人基礎力を高め、卒業後の就業力を培っていきます。

各年次別の具体的な目標としては、2年次には、志を見つけていくために世界観を広げていき、自らの可能性に対する考えをまとめ、「志」を確立することを目指していきます。

3年次には、確立した「志」を実現して社会で活躍するためには、大学時代にどのような経験を積み重ねて成長すべきか(キャリア形成すべきか)を考え、それを実践するとともに、就職するために必要なスキルを高めていくことを目指します。

4年次には、就職活動を通じて、「就職するというものすごい苦労(大きな課題)を自分自身の努力で対処したという経験」することで、「人間の成長」を獲得して「大人」となって、社会人としての第一歩を踏み出す準備が整えていくことを目指します。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解 ビジネス創造 ビジネスマネジメント 社会人育成

■到達目標

(ホームゼミⅠ～Ⅱ)

自らの可能性と向き合って、「志」を確立する。

(ホームゼミⅢ～Ⅳ)

「志」を実現するために必要な経験を積み重ねて成長し、「志」の実現可能性を高めていく。

(ホームゼミⅤ～Ⅶ)

就職活動を通じて、人間的な成長を図り、就職の内定を獲得して、社会人として活躍していくための準備を整える。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

この講義では、自らの成長を促すため、講義や演習で学んだことをしっかりと身につけるために復習に多くの時間を割く必要があります。復習の際には、単に学んだことを整理するだけでなく、講義を通じて「気づいたこと」を自分の人生のなかで活かすために、追加で関係する情報の収集を行い、学んだことを将来の自分に結びつけていく作業が必要になります。この講義での学びを活かすためには、復習に概ね2時間程度の取り組みが必要です。

■講義の概要

(ホームゼミⅠ：2年春学期)

「志」をテーマにする教材を題材に演習を行う。

<事前、事後学習のポイント>

講義を通じて「気づいたこと」を自分の人生のなかで活かすために、追加で関係する情報の収集を行い、学んだことを将来の自分に結びつけていく作業を行うこと。

(ホームゼミⅡ：2年秋学期)

「働き方」をテーマにする教材を題材に演習を行う。

<事前、事後学習のポイント>

講義を通じて「気づいたこと」を自分の人生のなかで活かすために、追加で関係する情報の収集を行い、学んだことを将来の自分に結びつけていく作業を行うこと。

(ホームゼミⅢ：3年春学期)

確立した「志」を実現するために必要な能力を身につけるための「経験」を積み重ね、自らの成長を促し、どの様に成長できたのか毎週報告するとともに、就職活動に必要なスキルを身につけるため学内で実施する「キャリア支援講座」に参加する。

<事前、事後学習のポイント>

一週間の活動内容をノートや手帳に記録しておく。

(ホームゼミⅣ：3年秋学期)

確立した「志」を実現するために必要な能力を身につけるための「経験」を積み重ね、自らの成長を促し、どの様に成長できたのか毎週報告するとともに、就職活動に必要なスキルを身につけるため学内で実施する「キャリア支援講座」に参加する。

<事前、事後学習のポイント>

一週間の活動内容をノートや手帳に記録しておく。

(ホームゼミⅤ：4年春学期)

就職活動を通じて、企業で働くことの意味を見いだして、企業に自らの可能性を売り込むための能力を高めていく。毎週、ゼミに参加し、就職活動の進行状況を報告する。就職活動を終了したものは、「志」の実現のための能力をさらに高めるための「経験」を積み重ね、その状況を毎週報告していく。

<事前、事後学習のポイント>

一週間の活動内容をノートや手帳に記録しておく。

(ホームゼミⅥ：4年秋学期)

就職活動が終了していないものは、引き続き春学期とおなじ内容でゼミを行っていく。就職が内定した者は、卒業後の活躍の基礎とするため、高い志を持って生きている人たちの生き様について学んでいく。

<事前、事後学習のポイント>

一週間の活動内容をノートや手帳に記録しておく。

■教科書

- [1] 坪田信貴「年輩ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話」KADOKAWA/アスキー・メディアワークス
 - [2] スティブン・R・コヴィー(監修)「まんがと図解で分かる7つの習慣」宝島社
- その他、演習の各段階で指示する。

■指定図書

- [1] リンダ・グラットン「ワーク・シフト」プレジデント社
- [2] ジェレミー・ドノバン「TEDトーク 世界最高のプレゼン術」新潮社
- [3] 稲盛和夫「働き方」三笠書房

■参考文献・参考URL / Reference List

演習の各段階で指示する。

■評価方法

ゼミへの出席状況(70%)を基本に、提出されたレポートの内容(30%)を加味して評価を行う。

■評価基準

- 評価P(合格) : ゼミ活動の到達目標に概ね達している。
- 評価F(不合格) : ゼミ活動への参加が不十分でゼミ活動の到達目標に達していない。

■履修していることが望ましい科目

ゼミの参加に際して、「立志論Ⅰ」及び「立志論Ⅱ」が履修済みであることが望ましい。ゼミと並行して履修する形でもよい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- (1) 正当な理由なしにゼミ活動を欠席する者には単位を付与しない。
- (2) 正常なゼミ活動を実施するために行う教員の指示に従わない者には単位を付与しない。
- (3) このゼミに参加を希望する者は、各学期の最初の講義に参加して履修許可を得ること。初回の講義に参加できなかったことに正当な理由があると担当教員が認めた者以外は追加で履修許可はしないので、注意すること。

科目名 ▶ ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル ▶ ホームゼミナールI (Seminars I)

担当教員 ▶ 飯田 健雄

■講義目的

英語表現能力の向上 動画製作の効果的表現を習得する

■講義分類

Workshop+アクティブ・ラーニング

■到達目標

日本文化への理解とそれを海外に伝える異文化間のコミュニケーション能力向上と発信能力を磨く

■講義形態

演習

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

日本の文化に関する本を読み、最低でも海外で起こっている文化的行事に興味を持つ

■講義の概要

日本文化への理解

■教科書

八木重和「Youtubeかんたん使いこなしハンドブック」(秀和システム出版)

■指定図書
■参考文献・参考URL / Reference List
■評価方法

ゼミ出席および課外活動参加 7割 : レポート 3割

■評価基準

評価P (合格) : ゼミ活動に積極的に参加して結果を残す

評価F (不合格) : 課外ゼミ活動に参加せず、出席を満たさない場合

■履修していることが望ましい科目

国際経営入門・多国籍企業論

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名 ホームゼミ(Seminars)**サブタイトル** 英語・コミュニケーション**担当教員** 石川 晴子**■講義目的**

石川ゼミは、「英語」、「社会活動」をキーワードにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力(文章・資料作成、口頭発表、ディスカッション)、情報収集・整理能力、論理的思考の向上を図ります。また、他者と協力して課題に取り組む体験を通して、客観的な物の捉え方、適応力、物事の本質について考える力を育てます。具体的なテーマや活動の詳細は、参加する学生がそれぞれ考え、話し合いのち決定します。人生の楽しみである「学び」や「新しい発見」を自主的に探し、共有できる仲間を育てるゼミにしたいと考えています。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

ゼミ内で行う様々な活動を通して、社会人に必要なサーチスキル、論理的思考能力、コミュニケーション能力およびマナーを身につけます。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

第1講：社会の中での現在の自分の立ち位置を意識する。目標をできるだけ具体的にあげ、それをどのように達成するか、他者へ向けて話せるようにする。

第2～14講：

①インターネットや図書館など、必要な資料の検索方法について確認しておく。

②良いプレゼンテーション、悪いプレゼンテーションの例を挙げ、その理由について考える。

③パワーポイントの基本的な操作を身に付けておく。

④ワードの基本的な操作を身に付けておく。句読点を含む基本的な文章作成のルールを確認しておく。

⑤様々なテーマについて、自分の考えをまとめ、発信することに慣れておく。様々な観点から物事を考える習慣をつける。

⑥辞書の使い方、基本的な英文のルールなどについて確認しておく。

第15講：学期中に取り組んだ活動について、ふりかえる。第1講で挙げた目標をどれだけ達成できたか確認する。

■講義の概要

<第1講>

概要：オリエンテーション

<第2講～第14講>

概要：下記①～⑤の内容を順次取り扱う予定

(取り扱うテーマにより順番・内容が変更する場合がある。)

<第15講>

概要：まとめ

■教科書

授業内で指示

■指定図書

授業内で指示

■参考文献・参考URL / Reference List

授業内で指示

■評価方法

毎回の出席を前提とし、課題への取り組み(100%)で評価します。

■評価基準

評価P(合格) : 課題への取り組みの総合点が60%以上である。

評価F(不合格) : 課題への取り組みの総合点が59%以下である。

■履修していることが望ましい科目

語学系科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名

ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル

担当教員

出原 至道

■講義目的

このゼミナールは、社会に出て通用するシステム構築能力を身につけることを目的とする。ゼミナール開始時のスキルは特に必要としないが、未知の領域に対する旺盛な好奇心、自発的学習能力、平均的な社会性・コミュニケーション能力については既に身につけていることを求める。2年次では、まず、手法を指定して機能を実現する練習を行い、その後、オリジナルなアイデアを自力で組み上げる段階に進む。その後3年次で、各自が選択した社会的意義をもつテーマについて、データ解析手法の理論を学んだ上で、プログラミングによって実際にシステムを構築する。次に、このシステムの改良・運用を通して得られる知見について、4年次に各自が論文としてまとめる。講義時間は週1回であるが、この時間は基本的に、それまでに行った研究の発表の場である。作業時間は各自が別に確保すること。発表の場では、成果を全体で共有し、次回までの目標を明確にすることが求められる。作業はそれ以外の時間に各自行うことになる。基本的に、研究テーマについては個人の希望する方向性を尊重しつつ、実現可能性・社会的意義などを検討して決定していく。積極的に外部に成果を応募・発表することを奨励する。目標とする代表的な場として、IVRC (日本)、Laval Virtual (フランス)、SIGGRAPH (アメリカ)、SIGGRAPH ASIA (日本・韓など)がある。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

プロジェクトベースでシステム開発能力を持つ社会人として、社会性・人間性を含めて評価される。「大学で何を勉強したか」ではなく「大学で何を生み出したか」を語るができる。単に「コンピュータが使える」だけの人材とはどこが違うか自分で説明できる。共通の目的を持つ他国の学生との交流を通じて、単なる言語や文化的興味にとどまらない、高いレベルの国際意識を身につける。このうち、ホームゼミ1では、大学において実現する目標の計画を立て、必要なスキルを明確化する。特に、ホームゼミ選抜において研究計画を提出することなくゼミに割り当てられた学生は、ホームゼミ1終了時点で、単位の可否とは別に継続の可否について審査する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義時間は週1回であるが、この時間は基本的に、それまでに行った研究の発表の場である。作業時間は各自が別に確保すること。発表の場では、成果を全体で共有し、次回までの目標を明確にすることが求められている。作業はそれ以外の時間に各自行うことになる。

■講義の概要

学生の成長にとって最も重要なことは、自分の力で考え、自分の力でそれを実現していくプロセスである。このプロセスにおいて、教員からの一方的な知識やスキルの伝達や、目的も理解しないままお仕着せの作業を無理やりやらされる「やらせ感」の漂う指導、グループ作業という名目で個人の資質を無視した無責任な指導は、無意味なだけではなく、むしろ有害である。少人数教育が可能なホームゼミナール指導において、あらかじめ詳細な計画を決定しそれを遵守することは、ゼミ教育の放棄である。

本講義では、少人数のゼミナール教育の利点を活かし、各自が緊張感を持った課題解決プロセスを経験する。まず2年次に、各学生との対話に基いて、各学生に対して3年間を通じてようやく実現されるような規模の「社会的に意義のある研究テーマ」を設定する。その上で、個々の学生の特性や能力に応じて、各自の研究テーマについて「その学生が努力すれば2週間程度なんとか達成可能な課題」をその都度与える。各学生は、発表(次の課題指示)→中間進捗報告(口頭)→発表(次の課題指示)を繰り返す。また、他の学生の発表に対して的確にコメントすることを求められる。教員は、課題に対する成果に応じて各学生の能力を把握し、次の課題のレベルを調整する。

さらに、情報技術を用いた作品を創作し、コンテストなどに応募・展示することで、プロジェクト型の学習をおこなう。この際には、各学生は、単なる肩書の衆としての「グループ」ではなく、それぞれが責任を持ってスキルに応じた分担を実現する「チーム」となることを求められる。

事前学習しておくべき用語：2週間かけて、各自に与えられた課題の解決を試み、他の学生に説明可能な状態で発表資料を用意してゼミに出席することを求める。その間に疑問点があれば、教員の指示や助言を求めること。その過程で必要な用語や概念は、当然各自学習すること。

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

平常点(60%)・期末レポート(40%) (絶対基準)。ただし、期末レポートへの取り組みに応じて、期末レポートの評価の一部を平常点によって評価することができる。

■評価基準

評価P (合格) : F以外
 評価F (不合格) : 無断欠席。自主的な取り組みが見られない場合。その他信義に反する場合。平常点については、以下の点を中心に評価する。・明確な課題意識を持っているか。・定期的な発表で基礎を固めているか。期末レポートについては、以下の点を中心に評価する。・明確な課題意識を持っているか。・既存研究の中での位置づけがはっきりしているか。・独創的な視点を持っているか。・課題に対して成果をあげているか。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル

担当教員 今泉 忠

■講義目的

近年、ビジネスにおける問題解決において、データにもとづく解決案提案は必須になってきている。また、当然、コンピュータを利用する場面が多くなってきている。本演習では、これを、「データ(もの)」という観点から見た場合のデータ分析法やモデル構成法について学ぶ。定量的データ処理能力および統計的分析手法を習得することを目標とする。統計的データ解析やデータマイニングや意思決定問題についても学ぶ。最終的には卒論の提出を行う。基礎知識の習得については履修者全員に必須とする。

■講義分類

■到達目標

卒業時には、以下の手法について理解し、説明でき、活用できるようになることを目標とする。

- ・統計的データ解析 主として、多変量解析の分野での手法を学ぶ。回帰分析、主成分分析、判別分析について習得する。
- ・データマイニング 大量のデータから、ある目的に応じた結果をえることは容易であるが、それを外部からの評価にも耐えられるようにすることは困難である。このような分析手法について実際のデータを用いながら学ぶ。
- ・意思決定問題 ベイズ統計の観点から意思決定の数理的側面について学ぶ。
- ・データプレゼンテーション 解決案提案のためのプロセスにおいて、グラフ、チャート、センチンスを活用して提案できるようにする。

■講義形態

演習 (グループ演習)

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各回での演習内容を理解し、他の状況への適用できるようにする。
データの収集、分析、データプレゼンテーションなどで3時間程度の時間を要する

■講義の概要

以下の順序に演習を行う予定である。

- 1) 基礎知識の習得・学習するのに必要と考えられる基礎を学習する。2) 各人の専攻したい分野について、おおまかに決定する。その後、その分野について各自が作成した資料をもとに説明することを行いながら、その分野での基礎的な事柄の習得を図る。この時、説明用資料を必ず用意することにする。
- 2) 教材については、各人の専攻したい分野(ただし統計、データ解析の分野またはその関連分野)をもとに決める予定である。
- 3) 卒論を書くテーマに関して、卒論計画書を作成し、必要と考えられる文献などをもとに演習を行う。
- 4) 卒論の作成 統計、データ解析の分野またはその関連分野でのテーマについて卒論を作成する。

【2年生ゼミ】基本的な事項について学習するデータ分析基礎 PDCAで分析を行う過程について修得する。数学素養 数字について、実際に使える事を目的に復習を行う統計基礎 統計データ分析の基礎について学ぶSRC冬では、グループ別に発表を行う事前学習：このゼミナルでは、実際のビジネスデータをもとに、分析のストーリーを作成する。その場合にはTableauやRStudioなどを活用する。各回のゼミナル前にWebサイトから必要なファイルをダウンロードし、実際に実行して整理しておくこと。

また、チームでの課題解決の場合には、PDCAサイクルをもとにチームの分析方針について話し合っておくこと。

【3年生ゼミ】統計的な問題解決力を育成する定量的分析 データを定量的に分析するための手法に学ぶことを通じて、問題解決力を修得する統計学基礎 講義での復習を兼ねて、実際のデータに適用するデータ解析 統計的な問題解決のために、統計的データ解析について学ぶ。統計分析手法について学習するSRC夏では、グループ別に発表を行うSRC冬では、個人別に発表を行う事前学習：Rを用いて分析した場合に、結果の読み解くことが難しい場合が多い。例題などを事前に理解して、自分の分析に役立てられるようにしておくこと。

【4年生ゼミ】ビジネス上の問題について、統計的データ分析を用いて解決するための方法を修得する。各人が、自己のテーマ毎に発展させる。統計的データ分析の手法に修得レポート・論文として書く事により、問題分析と解決案の提案を行うSRC夏では、個人別に発表を行うSRC冬では、個人別に発表を行う

■教科書

統計学基礎 日本統計学会編 東京図書

Head First データ解析 オラリー

統計学は最強の学問である 西内 啓、ダイヤモンド社
統計学は最強の学問である 実践編 西内 啓、ダイヤモンド社よくわかる
すぐれた判断は「統計データ分析」から生まれる 中西 達夫 実務教育出版
よくわかる最新ベイズ統計の基本と仕組み 松原望 秀和システム
An Introduction to Statistical Learning, G., James, D., Witten, T., Hastie, R., Tibshirani, Springer

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

「理系のための作文技術」 中公新書

■評価方法

出席 30%
データ収集整理 30%
データ分析とデータプレゼンテーション 40%

■評価基準

評価P (合格) : 各テーマや各課題についてデータプレゼンテーションのフレームで解決案を提案できたか
評価F (不合格) : テーマへの理解が不十分、データ分析ができない

■履修していることが望ましい科目

データサイエンスIII
(統計-統計学II)
データ分析

■卒業年度生対象再試験の実施

0

■留意点

科目名

ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル

担当教員

梅澤 佳子

■講義目的

新しい社会的価値を創造するための新しい生き方や仕組みづくり…ライフデザイン、ソーシャルデザイン、コミュニティデザイン、ソーシャルイノベーション、コミュニティイノベーションの考え方を学び、同時に、今日の私たちの暮らしの中にある課題を発見し、解決のための方法を見出し、実践することを目的としています。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、社会人力育成、地域ビジネス

■到達目標

ゼミ活動の主軸となる地域プロジェクトを通じて企画構想力、交渉力、実践力を身につけます。ホームゼミナールⅠ・Ⅱでは、①文章力、グループワーク、プレゼンテーションなどの基礎的能力を身につけること、②地域プロジェクト活動を行いながら、身近な地域社会を客観的に分析する視点を持つようになること、③連絡・報告・相談の仕方、チームで活動するための作法を身につけること目標とします。Ⅲ・Ⅳでは、地域プロジェクトの中心的な役割を担い、責任をもって自ら企画立案した地域プロジェクトを実施することを目標とし、ⅣではSRC、地域プロジェクト発表祭、学外発表等を行います。Ⅴでは、卒業研究に向けて各自の研究テーマについて研究を進めます。Ⅵでは、SRCでの発表を含め卒業研究の完成を目指します。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

その他(プロジェクト型学習)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ゼミナールの進捗状況にあわせて、毎回、次週のゼミ活動に向けて課題(予備学習課題)を出します。一週間かけてしっかりと準備してください。

■講義の概要

ゼミ活動の主軸となる地域プロジェクトを通じて企画構想力、交渉力、実践力を身につけます。ホームゼミナールⅠ・Ⅱでは、①文章力、グループワーク、プレゼンテーションなどの基礎的能力を身につけること、②地域プロジェクト活動を行いながら、身近な地域社会を客観的に分析する視点を持つようになること、③連絡・報告・相談の仕方、チームで活動するための作法を身につけること目標とします。Ⅲ・Ⅳでは、地域プロジェクトの中心的な役割を担い、責任をもって自ら企画立案した地域プロジェクトを実施することを目標とし、ⅣではSRC、地域プロジェクト発表祭、学外発表等を行います。Ⅴでは、卒業研究に向けて各自の研究テーマについて研究を進めます。Ⅵでは、SRCでの発表を含め卒業研究の完成を目指します。

【外部連携団体】多摩市教育委員会、多摩市立諏訪小学校、社会福祉法人時の会、多摩市諏訪名店街、多摩市永山公民館、関戸公民館、多摩市グリーンライオンセンター、多摩グリーンボランティア森木会、一本杉公園みどりの会、一本杉炭やき倶楽部、聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会、新都市センター開発株式会社

■教科書

■指定図書

寛裕介『ソーシャルデザイン実践ガイド-地域の課題を解決する7つのステップ』英治出版(2013)

菊田道夫『コミュニティ・イノベーション-魅力と活力のある地域をデザインする』NTT出版(2003)

中瀬勲・林まゆみ『みどりのコミュニティデザイン』学芸出版社(2002)

越川秀治『コミュニティガーデン-市民が進めるみどりのまちづくり』学芸出版社(2002)

長坂寿久『NGO発、『市民社会力』-新しい世界モデルへ』明石書店(2007)

長坂寿久『企業とNGOの新しい協働関係』明石書店(2008)

寺島美郎『何のために働くのか-自分を創る生き方』文芸春秋(2013)

アーネ・リンダクウィスト、ヤン・ウェステル『あなた自身の社会』新評論(1997)

河合隼雄『新話の心理学-現代人の生き方のヒント』大和書房(2006)

小林 司『『生きがい』とは何か-自己実現への道』NHKブックス(1989)

多摩大学総合研究所・大和ハウス工業生活研究所編『レジャー産業を考える』実教出版(1993)

リンダ・グラットン『ワーク・シフト』プレジデント社(2012)

バス・ヴァン・アール編『オープンデザイン-参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」』オライリー・ジャパン(2013)

シンシア・スミス『世界を変えるデザイン-ものづくりには夢がある』英治出版(2009)

国連開発計画編『世界とつながるビジネス-BOP市場を開拓する5つの方法』英治出版(2010)

■参考文献・参考URL / Reference List

ザミュエル・スマイルズ『自助論』三笠書房(1998)

その他、ゼミ活動の進捗状況にあわせて随時紹介します。

■評価方法

地域プロジェクト等のゼミ活動への参加態度、貢献度(70%)、提出物(30%)

出席は、評価のための前提条件とします。

■評価基準

評価P(合格) : グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、地域プロジェクト活動、学内・学外の活動を通じてゼミへの参加貢献度(発言が有益であり議論の助けになっている、積極的に地域プロジェクトを運営していく活動意欲など)、提出物で評価します。 SRCで、2・3年次はグループ発表すること、4年次は各自の卒業論文について発表することと、卒業論文の作成は単位取得のための条件となっております。

評価F(不合格) : 上記に満たない場合

■履修していることが望ましい科目

ライフデザイン、余暇マネジメントⅠ・Ⅱ、地域に関する講義科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- (1) ゼミ、ゼミの地域プロジェクトに参加すること
- (2) 「余暇マネジメントⅠ・Ⅱ」の単位を取得すること。
- (3) 「ライフデザイン入門」「ライフデザイン」の単位を取得すること。
- (4) SRCでは、2・3年次はグループ発表すること。4年次は各自の卒業研究について発表すること。
- (5) 目指す卒業後の進路に向かって努力すること。

科目名 ホームゼミ(Seminars)**サブタイトル** 歴史を通して現代を見直す**担当教員** 大森 映子**■講義目的**

歴史を学ぶということは、ただ過去の事象を明らかにするだけではなく、現代社会を相対化・客観化してとらえる視点を養うことでもある。一見、全く無縁と思われるような歴史的事象も、考え方によっては現代社会と深く結びついていることが少なくない。ちょっとした関心や興味を出発点として、過去の歴史事象を吟味・分析し、さまざまな可能性を考えながら、理論化を試み、その上で現代社会に潜む課題を発見し、その問題解決の道を探る。

また見学旅行なども実施する予定であるので、積極的な参加を期待する。なお、出席者の興味・関心などによって内容を変更することがある。

■講義分類

社会人力育成 地域ビジネス

■到達目標

- 1) 現代社会を考えるにあたって、歴史的分析の重要性を認識する。
- (2) 現代の諸問題を客観的に捉えられる視点を養う。
- (3) ディスカッションの中で、自分の意見をまとめ、全体を統括することができる。
- (4) 自らの課題を進めるにあたって、パソコンを活用できるようにする。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

指示する内容に従って報告の準備やレポートの提出、グループごとの打ち合わせなど、準備を整えた上でゼミに参加する。また、ゼミ終了後は、毎回、簡単な報告書を作成する。

■講義の概要

ゼミの進め方については、次の4つを併用する。

- (1) テキストを決め、輪読と討論を行う。(テキストは授業開始後に決定)
 - (2) 特定のテーマをたて、グループワークによる調査を前提に、報告を行う。
 - (3) 各自が興味あるテーマを設定し、それぞれのテーマに基づき調査・分析・報告を軸としながら理解を深める。
 - (4) 時事問題について、関心ある記事を示しながら問題提起し、討論を行う。
- 内容の詳細については、授業開始後に参加者と相談しながら決定するが、当面は次のようなテーマについて話題を提供する。
- ・ 歴史的に見た自然災害への対応のあり方
 - ・ 資源リサイクルに対する江戸時代の方向性
 - ・ 文化の保護と継承
 - ・ 食文化や慣習をめぐる地域特性
- なお、最終年次には、卒論を作成する。

■教科書

特に指定しない。

■指定図書

授業時に随時指示する。

■参考文献・参考URL / Reference List

授業時に随時指示する。

■評価方法

授業への積極的な参加50%、レポート30%、報告20%。
ゼミに欠席した場合には、相応の追加課題が求められる。

■評価基準

評価P(合格) : ①グループワークやディスカッションに積極的、意欲的に参加でき、自らの役割を果たすことができる。 ②歴史的な分析を通して、現代的な課題を発見し、それに対する解決の糸口を見出すことができる。 ③ゼミでの成果を、レポートや報告にまとめることができる。

評価F(不合格) : 到達目標に達していない。

■履修していることが望ましい科目

グローバルヒストリーⅠ(歴史と文化)、グローバルヒストリーⅣ(日本政治史)を履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

学生の主体性を重視する。またこの授業を通して「文献」の重要性も学んで欲しい。

科目名 ホームゼミ (Seminars)**サブタイトル** 心理情報学**担当教員** 大森 拓哉**■講義目的**

生活する社会の中で、情報を的確に収集・分析することは必要不可欠である。本講義では人間行動の調査の方法の習得・データの収集・分析といった一連の流れを経験し、体得することを目的とする。同時に、人間行動のシミュレーションを各自がプログラムを作成することによって行う。最終的には、心理学、統計学、プログラミングの知識と技法を体得し、人間行動の理解とモデリング全般が行えることを目標とする。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

ビジネスマネジメント

社会人力育成

ビジネスICT

■到達目標

人間行動全般の理解と、情報の処理方法、および物事の客観的な判断・意思決定ができること。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

心理学

■講義の概要

心理学・データ分析関連の話題を題材とし、実験演習を通して人間行動の理解を深める。各学期ごとに大きなテーマを決め、そのテーマに関連する事柄について、グループワークを中心に、実験・調査演習を行う。扱うテーマは心理学関連である。データを収集し、分析を行うことにより、客観的な論理の展開を行う能力を身につける。各学期末にはSRCにて成果を発表する。4年時には一人一テーマの卒業論文を執筆する。

■教科書**■指定図書**

長谷川勝也 『ゼロから始めてよくわかる多変量解析』 技術評論社

谷岡一郎 『「社会調査」のウソ』 文春新書

鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

堀洋道監修 『心理測定尺度集』 ワイエンス社

心理学実験指導研究会編 『実験とテスト=心理学の基礎』 実習編・解説編 培風館

■参考文献・参考URL / Reference List**■評価方法**

出席点90%、課題10%

■評価基準

評価P（合格）：全てのゼミ活動に出席し、全ての課題を提出すること。

評価F（不合格）：上記以外

■履修していないことが望ましい科目

情報系科目全般

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

心理学・データ分析関連の話題を題材とし、実験演習を通して人間行動の理解を深める。各学期ごとに大きなテーマを決め、そのテーマに関連する事柄について、グループワークを中心に、実験・調査演習を行う。扱うテーマは心理学関連である。データを収集し、分析を行うことにより、客観的な論理の展開を行う能力を身につける。各学期末にはSRCにて成果を発表する。4年時には一人一テーマの卒業論文を執筆する。講義は各回が連続しており、欠席すると次回講義ではフォローできないため、毎回の出席が必須である。無断欠席は即退ゼミとなる。また、正規の時間外にもゼミの活動を行うので、留意すること。春季休業中・夏季休業中のゼミ合宿は参加必須である。

科目名 ホームゼミ(Seminars)**サブタイトル** 多摩大学地域産業・中小企業研究室**担当教員** 奥山 雅之**■講義目的**

地域産業、中小企業について研究するゼミナールです。
どんな人でも、生活の場である「地域」とは無縁ではられません。奥山ゼミは、そんな「地域」の産業・中小企業の現場を大切にします。

一例として、日の出町に学生が半年違い、地域の方々と一緒に立ち上げた「日の出赤いプロジェクト」では、企画案が東京都に採択され、事業化されました。地域資源を編集していくことで新しい観光ルートを創出し、学生との化学反応で地域も変わりつつあります。

また、学生自身が中小企業の社史を製作する「地域中小企業の社史製作プロジェクト」で、地域中小企業との絆を深めています。

こうした現場に重点を置いたアクティブな学習により、地域産業、中小企業の課題、今後の方向について考察する力を養います。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネス創造/ビジネスマネジメント/社会力育成/地域ビジネス

■到達目標

(1) 「発見力」を高めます

皆さんは普段の生活から、何か疑問を感じたことはありませんか。新しいビジネスの種や仕事上の課題を発見することが上手い人の共通点は、「発見力(アンテナ)」が高いということです。何気ない日常生活からも、「ここはちょっとおかしいのではないかと」といった「疑問」や、「こうなればいいのに」という「あるべき姿」を発見することができるようにします。

(2) 「創造性」を高めます

なかなか解決できそうにない課題に直面しても、物事を様々な角度から見ていくことで、皆さんの中にある「創造性(クリエイティビティ)」が発揮され、課題解決の糸口がつかめるようになります。

(3) 「チームワーク」を高めます

言うまでもなく、ゼミは教師一人が創るものでもありません。教師と学生がチームとなってつくる上げるものです。ゼミの運営の中で、「チームワーク」を高めていきます。

■講義形態

GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎週の校内での学習のほか、頻繁に中小企業見学、地域へのフィールドワーク、地域活動の実践を行う。

■講義の概要

<第1講>オリエンテーション(1)

概要:ゼミの概要・進め方についての説明、自己紹介
事前学習しておくべき用語[地域の課題、ソーシャルビジネス]

<第2講>オリエンテーション(2)

概要:ゼミの役割決め、当面のテーマ・スケジュールについて
事前学習しておくべき用語やポイント[地域の課題、ソーシャルビジネス]

<第3講>基礎学習(1)

概要:地域と生活について
事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

<第4講>基礎学習(2)

概要:産業と生活について
事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

<第5講>基礎学習(3)

概要:地域と産業について
事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

<第6講>現場見学(その1)

概要:現場見学(多摩地域のターミナル駅前の賑わい(予定))
事前学習しておくべき用語やポイント[大型店、商店街]

<第7講>現場見学(その1)についての討論

概要:討論(多摩地域のターミナル駅前の賑わい(予定))

事前学習しておくべき用語やポイント[現場見学で感じたことをまとめておく]

<第8講>基礎学習(4)

概要:ビジネスのつくり方について
事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

<第9講>基礎学習(5)

概要:地域課題について
事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

<第9講>基礎学習(6)

概要:地域ビジネス起業の事例について
事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

<第10講>現場見学(その2)

概要:現場見学(工場(予定))
事前学習しておくべき用語やポイント[多摩の製造業]

<第11講>現場見学(その2)についての討論

概要:討論(工場(予定))

事前学習しておくべき用語やポイント[現場見学で感じたことをまとめておく]

<第12講>研究テーマ設定

概要:研究テーマをみつけだす
事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

<第13講>情報収集(1)

概要:研究テーマについての情報収集
事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

<第14講>情報収集(2)

概要:研究テーマについての情報収集
事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]

<第15講>発表

概要:研究テーマの発表

事前学習しておくべき用語やポイント[地域、多摩、産業、起業]
※なお、上記予定は研究テーマの設定、地域からの要望などによって大きく変更になる場合もある。

■教科書

特にあります。必要があれば適宜指示します。

■指定図書

特にあります。必要があれば適宜指示します。

■参考文献・参考URL / Reference List

特にあります。必要があれば適宜指示します。

■評価方法

学外活動を含めたゼミ活動への出席(50%)、積極的な発言を含めたゼミ活動への貢献度(50%)

■評価基準

評価P(合格) :ゼミのメンバーとチームで行動することに適性がみられ、「チームワーク」を高める力をつけるとともに、課題の「発見力」およびその課題に対応した解決策を導き出す「創造性(クリエイティビティ)」を獲得できた。

評価F(不合格) :ゼミのメンバーとチームで行動することに適性がみられなかった。または、「課題の「発見力」およびその課題に対応した解決策を導き出す「創造性(クリエイティビティ)」が獲得できなかった。

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

実施しない

■留意点

・ホームゼミは教師と学生が力を合わせて運営します。「他人ごと」ではなく、主体性を持ってゼミに参加することを望みます。

・ゼミの仲間は「一生モノ」です。仲間を自分の力としてください。自分も仲間の力となってください。

科目名 ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル 「儲ける」ことを科学する会計を学ぶ。

担当教員 金子 邦博

■講義目的

本ゼミでは、ビジネスにおける意思決定に際して、会計情報を活用することができる人材の育成を目的に、会計学を中心に「儲ける」というビジネスの基本を如何に実現していくのかを学んでいく。

そのため、ゼミでは、将来のビジネスシーンで直面する解決策が明確でない課題群に対して、会計情報を活用して適切な判断、指示が行えるようになるために必要な、財務会計、管理会計、経営学の基本的な思考方式と、説得的な表現が行える論理力を身につけることを目指して計画的に演習により学習し、産業界での社会人基礎力を高め、卒業後の就業力を培っていく。

具体的には、2年次には会計学の基礎知識を固めることを目指し、3年次にはそれを発展させて企業や事業手法の現状を分析する学習を行い「いい企業」とはどのような経営を行っている会社なのかを検討し、4年次にはそれまでに身に付けた知識、能力を社会の実践のなかで活かせるようにOUTPUTの能力を高めることを意図して、情報収集能力と自らが収集した情報を利用した問題解決能力の向上を図るためのフィールドワークや論文作成を指導していくことを予定している。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解 ビジネス創造 ビジネスマネジメント 社会人力育成

■到達目標

(ホームゼミⅠ：2年春) 日本商工会議所の簿記検定3級に合格すること。
 (ホームゼミⅡ：2年秋) 株式会社の会計(日商簿記2級程度)を理解すること。
 (ホームゼミⅢ：3年春) 財務会計の分析手法を理解すること。
 (ホームゼミⅣ：3年秋) プレゼンテーション能力の対応能力を高めること。
 (ホームゼミⅤ：4年春) 卒業論文としてまとめる「テーマ」についての理解を深めること。
 (ホームゼミⅥ：4年秋) 卒業論文作成のための考察を通じて問題解決力を高め、論文にまとめることを通じて文章伝達力を高めコミュニケーション能力の向上を図る。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■詳細学習(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

この講義では、自らの成長を促すため、講義や演習で学んだことをしっかりと身につけるために復習に多くの時間を割く必要があります。復習に際しては、単に学んだことを整理するだけでなく、講義を通じて「気づいたこと」を自分の人生のなかで活かすために、追加で関係する情報の収集を行い、学んだことを将来の自分に結びつけていく作業が必要になります。この講義での学びを活かすためには、復習に概ね2時間程度の取り組みが必要となります。

■講義の概要

(ホームゼミⅠ：2年春学期)
 ビジネスの最新事例を学ぶ、及び日商簿記検定3級(商業簿記)の問題演習
 <事前、事後学習のポイント>
 ビジネスの最新事例から学んだこと発表できるようにとりまとめること
 (ホームゼミⅡ：2年秋学期)
 ビジネスの最新事例を学ぶ、及び日商簿記検定2級(商業簿記・工業簿記)の問題演習
 <事前、事後学習のポイント>
 講義時間内で演習した問題について類似問題を解けるようになること
 (ホームゼミⅢ：3年春学期)
 財務諸表分析の基本書を輪読する。担当者は、事前に指定された箇所を勉強し、レジュメをまとめてゼミ員の前で発表を行い、そこで勉強した論点について全員でディスカッションを行う。
 <事前、事後学習のポイント>
 財務会計の理論を理解すると共に、財務分析の考え方とその手法を理解すること。
 (ホームゼミⅣ：3年秋学期)
 企業が公表している財務情報等に基づき企業間比較を行い、分析したデータをプレゼンテーションし、「いい企業」とはどのような経営がされている企業なのかディスカッションを行う。この分析を、4週間を1サイクルにして、4回程度行う。
 <事前、事後学習のポイント>
 財務分析の結果を吟味し、相対的な比較からいい企業を選び出せるようになること。
 (ホームゼミⅤ：4年春学期)
 3年生までに学んだ会計理論、財務分析手法を前提に、各自がより深めて学びたいと思って選んだ課題について、調査・研究を行い、その中で発見したことを順次、ゼミ員の前でプレゼンテーションし、それに対する質疑を通じて、さらに研究を深めていく。

<事前、事後学習のポイント>

自らが選んだ課題についての理解を深めること。
 (ホームゼミⅠ：4年秋学期)
 春学期の調査・研究で得られた成果をレポートとしてまとめる。研究の成果については、順次、中間報告(プレゼンテーション)を行い、報告に対するディスカッションで得た意見を踏まえ、最終的に提出する卒業論文をまとめる。
 <事前、事後学習のポイント>
 調査・研究で得られた知見を文章にまとめることを通じて問題解決力を高め、さらに第三者によりよく伝えることが出来る報告技術(コミュニケーション能力)を習得すること。

■教科書

- [1] 桜井久勝 『財務諸表分析』 中央経済社
 - [2] 桜井久勝 『財務会計講義』 中央経済社
- その他、演習の各段階で指示する。

■指定図書

- [1] 兼重日奈子 『幸せな売場のつくり方』 商業界
- [2] デイビッド・マッキン 『財務マネジメントの基本と原則』 東洋経済新報社
- [3] クリス・アンダーセン 『ロングテール [アップデート版]』 早川書房
- [4] 丹道夫 『高いコッパは「儲」という字に隠れている』 インフォレスト
- [5] シーナ・アイエンガー 『選択の科学』 文藝春秋

■参考文献・参考URL / Reference List

演習の各段階で指示する。

■評価方法

ゼミへの出席状況(50%)を基本に、報告内容や提出されたレポートの内容(50%)を加味して評価を行う。

■評価基準

評価P(合格) : ゼミ活動の到達目標に概ね達している。
 評価F(不合格) : ゼミ活動への参加が不十分でゼミ活動の到達目標に達していない。

■履修していることが望ましい科目

ゼミの参加に際して、特定の科目の単位取得は条件とはしませんが、「ビジネス入門Ⅱ」が履修済みであることが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- (1) 正当な理由なしにゼミ活動を欠席する者には単位を付与しない。
- (2) 本ゼミ参加者は、原則として財務・会計領域の全ての科目を履修すること。

科目名 ホームゼミ(Seminars)**サブタイトル** 業界・会社研究と起業**担当教員** 金 美徳**■講義目的**

- ①業界・会社研究を通じて、就活力や起業力を身に付けること。
 ②学べる知識のキーワードは、経営・ビジネス、起業、経営戦略、若者・シニア向けマーケティング、製品開発・商品企画、アジアビジネス。
 ③習得できる能力・スキルのキーワードは、業界・企業・国際情報の収集・分析力、プレゼン力、ディスカッション力、グループワーク力、フィールドワーク力。
 ④フィールドワークの実績は、以下の通り。寺島文庫塾アジア・ユーラシア研究会参加(2カ月に1回、経営者・ビジネスパーソンなど社会人との交流)。ゼミ合宿(香川県小豆島)。海外視察は、2014年韓国済州島、2013年香港(香港三井物産、ディズニールランド、香港中文大)と韓国済州島、2012年台湾(台湾三井物産、新竹サイエンスパーク、中華大)、2011年韓国(国会議事堂、韓国三井物産、朝鮮半島38度線)。
 ⑤就職指導は、2年生から4年生までの3年間、常に就活、卒業後の仕事、人生設計を意識して個別指導を行う。また、留学や大学院進学への指導もを行っている。実績は、ゼミ生がオーストラリア大学院留学、中国留学(天津財経大)、台湾留学(開南大)、海外インターンシップ(韓国)を行った。
 ⑥寺島学長ゼミ・インターゼミ(学部生・院生・社会人横断ゼミ)への参加を奨励している。

■講義分類

顧客理解
 ビジネス環境理解
 ビジネス創造
 ビジネスマネジメント
 社会人力育成
 グローバルビジネス
 ビジネスICT
 地域ビジネス

■到達目標

- 2年時は、関心のある業界・会社の知識や情報の収集・分析・発信力を身に付ける。
 3年時は、希望する就職先や自身の将来設計に基づいてキーワードを絞り込み、研究テーマを決定する。
 4年時は、卒業論文を完成させる。

■講義形態

プレゼン、ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク。

■準備学習(予習・復習等)に必要時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

- ①業界・企業情報を収集し、報告する。
 ②アジア・新興国の政治経済概要を調べて報告する。

■講義の概要

- 2年時は、関心のある業界・会社研究を行う。
 3年時は、希望する就職先や自身の将来設計に基づいてキーワードを絞り込み、研究テーマを決定する。
 4年時は、卒業論文を完成させる。就活などの進路指導を行う。
 事前に学習しておくべき用語/予習・復習のポイント：
 <第1～7講>関心のある業界・会社を探す。
 <第8～12講>関心のある業界・会社の経営戦略、若者・シニア向けマーケティング、製品開発・商品企画、アジアビジネスを調べる。また、起業のためのビジネスプランを考える。
 <第13～15講>研究テーマにしたがってフィールドワーク先を探す。会社・工場、経営者・ビジネスパーソンのインタビュー、研究会・セミナーの参加、地方・海外視察など。

■教科書

- ①『なぜ韓国企業は世界で勝てるのか-新興国ビジネス最前線-』(金美徳、PHP新書、2012年)
 ②『図解 韓国四大財閥早わかり』(金美徳、中経出版、2012年)
 ③『日本企業没落の真実-日本再浮上27核心-』(金美徳、中経出版、2013年)
 ④『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実部、文春新書、2013年)

■指定図書

- ①『世界を知る力』(寺島実部、PHP新書、2010年)
 ②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実部、PHP新書、2011年)
 ③『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実部、NHK出版、2012年)
 ④『若き日本の肖像-1900年、欧州への旅-』(寺島実部、新潮文庫、2014年)

■参考文献・参考URL / Reference List

随時、参考文献・URLを配布・紹介する。

■評価方法

出席(40%)、報告(30%)、ディスカッション(30%)の割合で評価する。

■評価基準

評価P(合格) : 出席(40%)、報告(30%)、ディスカッション(30%)の合算点が60%以上の場合は、合格とする。
 評価F(不合格) : 出席(40%)、報告(30%)、ディスカッション(30%)の合算点が59%以下の場合は、不合格とする。

■履修していることが望ましい科目

グローバルビジネス系科目を積極的に履修すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

科目名

ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル

担当教員

清松 敏雄

■講義目的

少人数の環境下で、①個々の実力を伸ばす作業（特に簿記検定の対策）と、②ゼミ全体としての活動（そのためのチームワーク等の醸成）を行うことを通じ、個人個人の力の向上を図る。

■講義分類

■到達目標

- ①簿記検定の合格（それを通じた勉強方法の修得）
- ②協調性やコミュニケーション能力を高めること

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる具体的な学習内容

ほぼ毎回課題が課されるので、次回までにそれを行ってこよう。

■講義の概要

上記の講義目的で述べたように、簿記検定の合格を目指して学習をすすめて、ゼミ全体としての活動を行うことにより、社会人として必要になるコミュニケーション能力等を高めることを目指す。各自の勉強の進み具合については毎回確認し、次回までに課題を示すので、それを行ってこようことを求める（これが、事前・事後の学習ポイントとなる）。なお、講義について、詳細は下記参照。

ホームゼミナルを通じ、特に重点的に行う活動は以下のとおりである。

1. 簿記検定

ホームゼミナルの中で、日本商工会議所による簿記検定の取得のための講義・演習を行う。会計関係のゼミに所属する以上、会計理論および簿記に関する知識は、他の学生よりもはるかに高いレベルまで到達することが求められる。特に、簿記検定については、将来における就職活動等も考慮し、「継続的に努力する能力」を高めていくためにも、ゼミ生全員について受験を必須とし、合格のために必要な指導を行う。

2. 会計理論

1. でも述べたように、会計関係のゼミに所属する以上、会計理論についても知識・思考能力を高めることが求められる。特に、実際の財務諸表を用いながら、会計情報と企業活動がどのように関連しているのかについてディスカッションができるレベルまで指導を行う。

3. 実践

ホームゼミナルの活動の一環として、学園祭等での実際の出店を行う。もちろん、実際の出店にあたっては、さまざまな努力が必要ではあるが、重視しているのは、会計情報を活用して、どのように価格を決定するのか、どのように採算を管理するのかが経験をすることである。実際の企業における活動は、学園祭における活動に比べてはるかに複雑であるが、大学生のうち至少でもきっかけを掴むべく、学園祭を活用していく予定である。

4. ゼミ合宿

本ホームゼミナルで重視していることの一つは、各自継続的な努力をする能力を身につけることであるが、実際の企業活動は広い視野のもと、異なる考えを持つメンバーと協働することも重要である。特に、近年では企業活動が国際化していることに鑑み、ゼミ合宿では国内だけでなく海外への視察等も積極的に行う予定である。

■教科書

なし

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

日々の講義における発言等 100%

■評価基準

評価P（合格）：出席していることを前提に、検定試験のための勉強を継続的に行うことや、ゼミ全体としての活動については、他のゼミ生と協調し、積極的に取り組んでいるかが評価対象となる。

評価F（不合格）：欠席が多い、検定試験に向けた学習を行わない、ゼミ全体の活動について協力しない、のいずれかに該当する場合

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 ホームゼミ (Seminars)**サブタイトル****担当教員** 久保田 貴文**■講義目的**

世の中にある様々な課題をデータやデータ解析の結果を活用することにより、さらに統計的に嗜好することにより解決することを目的とする。

手法としては、以下を想定する。

- ・データの視覚化
- ・空間データと地図との連携による可視化
- ・SBSデータをを用いたネットワーク分析
- ・スマホアプリやWebアプリの作成

■留意点**■講義分類****■到達目標**

自らデータ解析を行うことにより、世の中のみざまな問題について解決を行うことが出来る。

さらに、その方法について説明し、データやデータ解析の結果もしくは作成したアプリケーションによってその正当性を説明し説得することが出来る。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎授業後にはレポートを提出すること。

■講義の概要

第1講：オリエンテーション、

第2-7講：

以下のスキルについて学び演習を行う。

- ・データを収集するスキル
- ・データを解析するスキル
- ・データ解析の結果を理解し、正しい判断をする能力

第8講：中間の報告会を行う

第9-15講：

以下のスキルについて学び演習を行う。

- ・データ解析の結果を文書でまとめる能力
- ・データ解析の結果をまとめてプレゼンテーションする能力

春学期にはSRCおよびグラフコンクールへの出展を

秋学期にはSRCおよびデータコンペ (スポーツデータコンペ) へ参加する。

■教科書**■指定図書****■参考文献・参考URL / Reference List****■評価方法**

ゼミ活動により作成した文書もしくはプレゼン資料 (100%)。

なお15回の出席を必須とする。

■評価基準

評価P (合格) : 以下の項目について、必要な項目により、問題解決が出来ること。

・データを収集するスキル ・データを解析するスキル ・データ解析の結果を理解し、正しい判断をする能力 ・データ解析の結果を文書でまとめる能力 ・データ解析の結果をまとめてプレゼンテーションする能力

評価F (不合格) : 以下の項目のいずれについても習得できていなく、データ解析によって問題解決をすることができない、もしくはその可能性を見いだせない。 ・データを収集するスキル ・データを解析するスキル ・データ解析の結果を理解し、正しい判断をする能力 ・データ解析の結果を文書でまとめる能力 ・データ解析の結果をまとめてプレゼンテーションする能力

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

無

科目名 ▶▶▶ ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル ▶▶▶ 組織マネジメントと企業家精神

担当教員 ▶▶▶ 小林 英夫

■講義目的

本ゼミの目的は、ゼミ活動を通じゼミ生のキャリアの礎を築いていくことである。本ゼミは「組織マネジメント」を対象領域とする。その中で、「組織行動」と「企業家精神」の2つの分野を基本的な研究対象としているが、人が社会で生きていく限り様々な組織との繋がりには欠かせないものであり、何らかの創造的活動を行っている。従って研究テーマはゼミ生の関心に応じて幅広く設定することを可能とするが、設定したテーマに対しては真摯に取り組むことを要求する。

また、大学時代は人格形成においても人間関係形成においても非常に重要な時期である。ゼミはコミュニティとしての役割を果たすものであり、社会活動を学ぶ場としても位置付けられる。

大学生活、ゼミ活動、設定したテーマに対する取り組みを通じて、良き人生を送るための土台を築くことを本ゼミの狙いとする。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

ビジネスマネジメント

社会人力育成

グローバルビジ

ビジネスICT

地域ビジネス

■到達目標

・社会人としての仕事をしていく際に大切な常識と物事に対する真摯な取り組み姿勢を身に付ける。

・社会人として、課題を発見し問題解決を行っていくための方法、理論、科学を身に付ける。

・キャリア選択の判断基準ともなり、その選択肢を広げることにも役立つ知識を身に付ける。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ゼミに出席するにあたっては、事前にアサインされた課題項目に対して学習してくるとともに、発表資料を準備しておくこと。

ゼミ後には、発表内容に対する教員および他のゼミ員からのコメントを取りまとめ、次回発表資料の改善に活かすこと。

■講義の概要

はじめにゼミ生の希望と教員の助言により、各自のゼミでの活動の目標と計画を立案する。以降はその目標に向けての知識の習得や実践的活動を行い、ゼミはその活動の実施と相互支援の場とする。

「組織行動」分野は、組織や社会の中で個人や集団がどのように行動するかを研究する。会社の立場から社員にどのように働いてもらい成果を上げてもらうか、個人がどうやって生きていくかを対象とする。前者は「リーダーシップ」と「モチベーション」が、後者では「キャリア・マネジメント」をキーワードとする。

「企業家精神」分野は、自ら会社を興すことやベンチャー企業に参画して急成長の担い手となることについて研究が中心であるが、それだけでなく、どのような組織におけるものであるかを問わず創造的なことを実現する行動について研究する。

ゼミ活動においては、机上の空論や狭い世界での視野にとどまることの無いように、ビジネスの現場に融れることや学外での活動を行う機会を積極的に取り入れる。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

講義内で適宜紹介する。

■評価方法

出席 (30点)、ゼミ活動への貢献 (40点)、ゼミ発表 (30点)

■評価基準

評価P (合格) : ゼミへの出席、ゼミ活動への積極的な取り組み姿勢と建設的な意見

や質問によるゼミの品質向上への貢献、ゼミにおける発表内容の質を評価する。下記時点で60点以上を合格とする。

評価F (不合格) : 下記時点で60点未満を不合格とする。

■履修していることが望ましい科目

ベンチャー企業論、経営組織Ⅰ、経営組織Ⅱ

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 ホームゼミ (Seminars)**サブタイトル** 3DCGゼミ**担当教員** 彩藤 ひろみ**■講義目的**

3DCGをメインに、マルチメディアのスキルを高め、自己表現の手段として使えるようにする。また、プロジェクトを企画実践することにチャレンジする。個人発表もグループ発表も恐れなく、こなせるようになってもらいたい。

■講義分類

ビジネス環境理解
 ビジネス創造
 社会力育成
 ビジネスICT

■到達目標

- ①Blender (3DCGソフトウェア) の使いこなし (ここにいろいろな段階がある)
- ②3Dプリンターの活用ができるようになる
- ③グループワークでの積極的な発言力や実行力を身につける
- ④理不尽なことに立ち向かう力をつける
- ⑤自己表現やプロモーション資料を自由に作れる力をつける

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

Blenderの練習、デッサン、アイデアをまとめる訓練。
 美術館、博物館訪問などで豊かな芸術に触れる時間をつくる。

■講義の概要

マルチメディアのコンテンツクリエイターとして、PCを利用した様々なコンテンツを作りつつ、それを地域に還元するための方策を考え実施する。主に3DCG (3次元コンピュータグラフィックス) を中心にスキルを身につける。その上で、コミックやムービー、イラスト、WEB、ゲームアプリへの応用も見据える。

フランスの3DCG専門大学ESCINIにて学ぶチャンスがあるので、英語および3DCGを徹底的に身につけてほしい。

卒業後のイメージは、イベント企画者、プロジェクト管理者、ゲームクリエイター、イラストレーター、アニメーター、システムエンジニア、ネットワーク管理者、プログラマー、Webデザイナー等である。

■教科書**■指定図書****■参考文献・参考URL / Reference List**

<http://cat.tama.ac.jp/>

■評価方法

学期ごとに2回の発表会があり、そこでの作品発表を重視する。

普段からのゼミ参加は必須で、無断欠席は許可しない。

ホームゼミナールVIIについては卒業論文または卒業設計を提出しないものは不可とする。

■評価基準

評価P (合格) : 目標に沿って、よく努力したかどうか
 評価F (不合格) : 無断欠席の積み重ね。 目標に到達できない。

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

実施しない

■留意点

・普段から積極的にパソコンに親しみ、表現することが好きな人。使う楽しみを知っている人を求める。

科目名

ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル

担当教員

齋藤 S. 裕美

■講義目的

現代社会において、情報倫理にかかわる問題の解決は急務の課題となっている。企業の保有する様々なコンテンツや顧客データ、営業秘密など重要な情報を保護するために、かつてはフィルズ対策や不正アクセス対策などIT部門によって技術的な対策がとられてきた。しかし、近年ではシステム障害や情報漏えいなどが企業活動の継続に大きな妨げとなる事件などが相次ぎ、企業が保有する様々な情報の保護は事業継続管理や内部統制など経営上の課題と捉えられるようになってきたといえる。さらに、情報公開の仕方や不祥事の際のメディア対応などによって企業イメージが大きく左右されることも多々ある。

このゼミでは、情報モラルやセキュリティ、メディアについて、知識の修得、問題意識の醸成と問題の発見・分析、問題解決方法の考察を行うことを通じて、各個人の知的判断に基づいて内的規制・自己統制が行なえるようにすること、すなわち知的論理に基づく判断能力を習得できること、情報社会で必要な倫理的態度とは何かを理解することを目標とする。また、ゼミを進めていく際に行うグループディスカッションやブレインストーミング、KJ法、アンケート調査、資料調査、データ分析、レポート作成などを通じて、社会に出て必要となる基礎的理論や考える手法、文筆力を身につけることも目標のひとつである。

具体的には、1)著作権、2)プライバシー権、3)個人情報保護、4)情報モラル、5)メディアリテラシーなどの範囲を扱う。

■講義分類

ビジネス環境理解 社会力育成 ビジネスICT

■到達目標

- ① 情報倫理の分野に関する知識の習得
- ② 情報倫理の分野に関する問題意識の醸成、問題発見・分析、問題解決方法の考察
- ③ グループディスカッション、ディベート、ブレインストーミング、KJ法、アンケート調査、資料調査、データ分析、論理的文章の論述ができる

■講義形態

ゼミ形式

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

報告準備、レジュメ作成、発表資料作成等適宜指示する課題について取り組むこと。

■講義の概要

【第1講】 ゼミの概要説明
ゼミで扱う分野や到達目標などゼミで学ぶことは何かを確認する。またゼミ生相互のコミュニケーションを図る。

【第2講～第9講】 著作権とは何か

前半：テキストの各章を2に分割し、それぞれに報告者を割り当て、各講2名ずつ報告を行う(テキスト輪読)。後半：各章の要約文作成と添削。論述文の書き方について理解する。

【第10講～第15講】 著作権に関する意識調査

著作権に関する意識をテーマに、グループで調査を行うための準備を行う。質問紙の作り方として、質問文の作成、回答の方法とそれぞれの相違点、選択式の場合の選択肢の配列とそれぞれの相違点などを理解する。また、データ分析として、表の種類とグラフの種類、それらの使い方を理解する。

【第16講】 調査結果報告会、レポートの書き方

調査結果の報告を行う。また、レポートの書き方について理解し、調査結果からレポート作成を行う。

【第17講～第18講】 レポート作成

各自のレポートを相互に添削し、わかりやすい論述文とはどのようなものかを理解する。

【第19講～第26講】 プライバシーと個人情報の保護

前半：テキスト(仲正昌樹著「[プライバシー]の哲学」ソフトバンク刊/変更の可能性あり)の各章を2～3に分割し、それぞれに報告者を割り当て、各講2名ずつ報告を行う(テキスト輪読)。

後半：各章のポイントの図解作成と添削。図解の方法について理解する。

【第27講～第30講】 個人情報流出経路と図解

個人情報流出事故を題材に、データ分析のための図解を行う。流出経路や流出データの種類、流出元などを整理・分析するための方法として図解の活用を理解する。

【2月上旬】

ゼミ内研究発表会において、著作権侵害に関する実態調査、または個人情報流出に関する実態調査に関するグループ発表を行う。

■教科書

授業内で指示する。

■指定図書

和田英夫・他著 『情報の法と倫理』、北樹出版
佐伯祥・他編 『岩波講座 現代の教育8 情報とメディア』、岩波書店
山下栄・他著 『新版 情報化社会と人権』、明石書店
松浦康彦著 『デジタル世紀のプライバシー・著作権』、日本評論社
サラ・バース著 『IT社会の法と倫理 第2版』、ピアソン・エデュケーション
越智賢一・水谷雅彦・土屋俊彦 『情報倫理学-電子ネットワーク社会のエチカ』、ナカニシヤ出版

■参考文献・参考URL / Reference List

辰巳丈夫著 『情報がひらく新しい世界3 情報化社会と情報倫理』、共立出版
情報教育研究学会・情報倫理教育研究グループ編 『インターネットの光と影』、北大路書房

■評価方法

期末レポート40%、期中のゼミ活動の状況、レポートや課題、発表など60%に出席状況などを加味して総合的に評価する。

■評価基準

評価P (合格) : 演習に積極的に参加し、意欲的に取り組んでいるか・課題、レポートの内容および記述方法
上記評価方法で評価点60点以上
評価F (不合格) : 演習に積極的に参加し、意欲的に取り組んでいるか・課題、レポートの内容および記述方法
上記評価方法で評価点60点未満

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

科目名 ホームゼミ(Seminars)

サブタイトル

担当教員 酒井 麻衣子

■講義目的

本ゼミナールは、マーケティング・データ分析(リサーチ、データマイニング、統計、多変量解析)および知的プロフェッショナルスキル(ロジカルシンキング、コミュニケーション、ドキュメンテーション、プレゼンテーション)を身に付け、ビジネスの現場でデータに基づいた判断・企画・実践ができる人材を育てることを目的とする。

IT(情報技術)の発展により、大量のデータを蓄積し分析できるようになったため、企業活動の現場には多くのデータが溢れている。これからの企業人には、そのデータから価値ある情報を読み取り、活用する能力が必須となる。特に企業のマーケティング活動においてはさまざまなデータが取得され、活用されるようになっている。みずから正しくデータを取り扱い、膨大なデータの背後に秘められた関係性を明らかにし、データに基づいた意思決定ができるようになることは、企業人として大きな武器となるだろう。

本ゼミナールにおける3年間で、データ・ハンドリング能力と基本的なビジネス・スキルを有した、社会に出て即戦力となる人材を目指してもらいたい。

本ゼミナールでは年に1つないし2つ、企業との共同研究プロジェクトを立ち上げる。グループワークにより、その企業を持つ実際の課題解決に取り組みむことを基本とする。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

社会人力育成

ビジネスICT

■到達目標

マーケティング・データ分析(リサーチ、データマイニング、統計、多変量解析)および知的プロフェッショナルスキル(ロジカルシンキング、コミュニケーション、ドキュメンテーション、プレゼンテーション)を身に付け、ビジネスの現場でデータに基づいた判断・企画・実践ができる人材を目指す。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

共同研究プロジェクトでの取り組みに随時必要となる情報収集、研究テーマに関連する基礎的知識の修得等

■講義の概要

3年間を通して、以下のような内容を予定している。

・基礎知識の習得 …統計、多変量解析、リサーチ、データマイニング、マーケティングの基礎を、関連講義と連携しながら学ぶ。

・基本的なビジネス・スキルの習得 …ゼミ活動において、頻繁にディスカッション、ドキュメント作成、プレゼンテーション等を行い、日常的な指導を通して、社会人としての基本的なマナーやビジネス・スキル(知的プロフェッショナル・スキル)を身につける。

・ビジネスの理解(企業活動におけるマーケティング・データ分析活用の実態について理解を深める) …企業との共同研究、社会人向けセミナーやビジネスインターンシップへの参加など。

・マーケティング・データ分析の実践(統計解析ツール・データマイニングツールの操作方法を習得し、実際の企業の課題解決を目的として実践する) …統計解析ツール・データマイニングツール(IBM SPSS Statistics、IBM SPSS Modelerなどの)の習得。データ分析・リサーチの実習、企業との共同研究による実践など。

各年次での中心内容と目標は以下のとおりである。適宜グループワークを想定している。

・2年次:基礎知識の習得を中心に行う。

<到達目標>基礎的なデータ分析を確実に行えるようになる。リサーチの一連の流れを身につける。ビジネスにおけるマーケティング・データ分析の実態について自分なりのイメージをつかめるようになる。

<事前・事後の学習ポイント>経営・マーケティング・リサーチ・データ分析に関わる基礎的な知識全般

・3年次:ビジネスの理解を深め、より高度なマーケティング・データ分析の実践経験を積む。

<到達目標>ビジネスにおけるマーケティング・データ分析の応用について、より具体的な発想をもてるようになる。2年次に習得した基礎知識を背景に、より実践的なリサーチ・データ分析を行えるようになる。

<事前・事後の学習ポイント>プロジェクトで関わるビジネス分野に関する基礎的な知識全般

・4年次:下級生の指導を通し、2年間で学んだ知識・経験をより確実に定着させる。

<到達目標>あらゆる課題・データに対して、ビジネスでの活用を視野に入れた創造的な

マーケティング・データ分析を実践できるようになる。また卒業論文の執筆を通じて、一つのテーマを深く考え抜く力、論理的にもとを文章で表現する力を身に着ける。

<事前・事後の学習ポイント>卒業論文で扱うテーマに関する基礎的な知識全般および先行研究の探索・読了

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

参考文献は適宜指示・推薦する。

多摩大学酒井研究室 {<http://faculty.tama.ac.jp/maiko/>}

■評価方法

出席および取り組み態度50%、課題や発表など定められたアウトプット50%程度の割合で、総合的に評価する。

■評価基準

評価P(合格) : ・ゼミ活動に自主的・積極的に参加し、意欲的な態度で臨んでいるか
・各年次に定めた到達目標水準に達しているか
・創意工夫を試み、創造的な発想ができるか
・社会人として必要なマナーなど基本的なビジネス・スキルを身に付けているか など

評価F(不合格) : 上記基準に到達しない場合

■履修していることが望ましい科目

以下の科目・講座を必ず受講すること。

・「統計」「リサーチ入門」「マーケティング・データ分析ⅠⅡ」「マーケティング・リサーチ」「マーケティング・モデリング」

・プロジェクトゼミナール「実践 知的プロフェッショナルゼミナール」(3年時までの受講を強く推奨)

・すべてのキャリア支援科目・講座

・「文庫伝達入門」「日本語表現法Ⅰ・Ⅱ」

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

科目名 ▶ ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル ▶ グローバル近現代史、グローバル資本主義論、グローバル公共政策

担当教員 ▶ 椎木 哲太郎

■講義目的

経済的豊かさを実現した日本では、高度産業社会に共通した現象である「(環境・福祉・教育を重要な要素とする)社会」や「文化」の重要性が高まっている。本演習では、社会経済政策(国際公共政策)、グローバル近現代史、グローバル資本主義論の視点から現代の経済・社会を分析し、直面する諸課題の解決に向けての方途を模索する。グローバル資本主義、日本経済(社会)、社会経済政策、政治、社会経済システム、歴史(わけても近現代史)、社会経済思想、国際関係、市民活動・NPO等を主たる分析対象とし、各自その範囲内で研究テーマを設定して卒業論文の作成に取り組む。方法論としては、テキストの輪読、報告・討論の形式を中心とするが、できれば学外調査も行いたい。「文献とフィールドワーク」(寺島学長)であり、まずは沢山の本を読み込んで頂く。進展とともに卒論に向けた報告を繰り返し、各自の構想を肉付けして「作品」へと高めていく。毎週のゼミでは、経済、産業・企業分析、時事・政治問題を中心として、プレゼンテーションと討論を通じてコミュニケーション能力の向上に主眼を置き、小レポートの添削により文章表現力強化を図る。ゼミ生の数が増えれば、年度末に議論・調査の結果を小論文集にまとめて発行したい。以上を通じて、経営にとっての外部環境たる社会経済変動に対する洞察力と、問題解決のための提言能力を培う。学生と教員の対話を重視し、(就職面接でも物怖じしないだけの)社会人と十分議論できるプレゼンテーション・コミュニケーション能力、さらに実社会を生き抜くための知的構想力を磨きたい。

■講義分類

ビジネス環境理解
社会人力育成
グローバルビジネス

■到達目標

社会的企業やNGO・NPO、行政機関への就職、政治家等の進路も視野に、国際公共政策・社会経済政策、グローバル近現代史等に精通し、経済学をはじめとした社会科学諸学を用いて現代社会・経済を根源的に分析し、よりよい未来の創造に向けた総体的(トータル)な政策提言を行うことのできるソシオ・エコノミストの眼を身に付ける。地球市民として、主催者たる日本国民として、よりよい社会の構築に主体的にかかわることが出来る。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準履修学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

卒業論文、進級レポートに向けた地道な準備を積み重ねること。

■講義の概要

グローバル近現代史
グローバル資本主義論
グローバル公共政策・社会経済政策
日本近現代史・多摩近現代史

■教科書

開講時に紹介する。

■指定図書

演習単独では特に挙げないが、私の担当科目の指定図書・参考図書は読んでほしい。

■参考文献・参考URL / Reference List

演習の中で随時紹介する。

■評価方法

PR・GW・GD (70%)、レポート・論文 (30%)

■評価基準

評価P(合格) : ゼミへの取り組みが優れている、良い
評価F(不合格) : ゼミへの取り組みが不十分

■履修していることが望ましい科目

グローバルヒストリーⅡ
マクロ経済学
国際公共政策
日本経済論

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

参加希望者は、1年春学期に20単位以上取得していることを条件とする。また、1年秋学期に「マクロ経済学」、2年秋学期に「グローバルヒストリーⅡ」を履修することが望ましい。

科目名 ホームゼミ(Seminars)

サブタイトル

担当教員 志賀 敏宏

■講義目的

志を実現し、自分と和割の人々を幸せにできる人間となる。
意欲、知識、能力、体験のバランスを重視する。
「イノベーション=価値ある革新」を理解し、それに参画する素養、意欲を身につける。
社会力が高い人間となる。

■講義分類

顧客理解/ビジネス環境理解/ビジネス創造/社会力育成/グローバルビジネス/地域ビジネス

■到達目標

- ①産業社会の深い理解
- ②環境とその変化を機会と捉え、イノベーション実現する人材となる準備
- ③社会人となるに十二分な能力の獲得
- ④幸福を創造しうる人材
- ⑤粘り強く考える、工夫する人材、活動的な人材

■講義形態

- ・ 講義 + GD・GW・PR
- ・ その他(ゲストスピーカーの講演等)

■準備内容(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎回の活動記録作成・復習と次回への情報収集や計画、アイデアの立案等

■講義の概要

- I～VI (2～4年次) を通じて、ゼミ活動の柱は3本です。
- ①学び：今という時代(産業社会)、イノベーションに関する学び
 - ②能力育成：問題発見力、問題解決力、コミュニケーション力等の強化(社会力の養成)
 - ③実践：最前線事例の現場での行動体験(フィールドワーク)による教訓の獲得
- 【2年次 (I, II)】**
- ①学び：産業社会及びポスト産業資本主義の理解、典型的なイノベーション事例、イノベーション入門に関する図書の精読。
 - ②能力育成：オフィシャルなメール、議事録、レポート作成等の実践。問題発見、問題解決のための時系列/因果思考、図解思考、ロジカルシンキング、ディベート(討論)等。
- ③実践：サービス・商業、食(農業含)、工業・研究開発等に関する最前線事例の見学と最前線事例での本格実践(3年次以降)のテーマ探索・決定。
- 【3年次 (III, IV)】**
- ①学び：イノベーション理論、複雑なイノベーション事例に関する図書の精読。
 - ②能力育成：論文作成、ロールプレイング、就活文書作成・面談能力育成等。
 - ③実践：企画、実働支援、マーケティング・プロモーション等に関する最前線事例での本格実践活動開始・遂行。
- 【4年次 (V, VI)】**
- ①学び：以上の学びを踏まえた、各自の産業社会と時代環境に関する認識、及びイノベーション論の構築。
 - ②能力育成：問題解決のための理解力、思考力、表現力の集大成、プレゼンテーション。
- ③実践：最前線事例での本格実践の継続、その集大成としての活動記録作成。
- 【事前に学習しておくべきポイント】**
1. 次のキーワードに関する理解・考察：
- ①ポスト産業資本主義社会、差異化、イノベーション、技術革新、価値創造
 - ②問題定義、聴解力、仮説構築、仮説検証、構造(ツリー)分析、時系列分析、因果関係分析
2. 前回の活動記録に基づいて、事前検討及び計画案を作成すること。

■教科書

なし

■指定図書

- ①学びに関して 志賀敏宏(2001)『イノベーションの創発マネジメント研究』, 文真堂、一橋大学イノベーション研究センター(2001)『イノベーションマネジメント入門』, 日本経済新聞社、P.F.ドラッカー(2007)『イノベーションと企業家精神』, ダイアモンド社、若井克人(2009)『会社はこれからどうなるのか』, 平凡社
- ②能力育成に関して 久恒啓一(2012)『図で考える技術が身につくトレーニング30』, U-CAN、上岡トメ・池谷裕二(2008)『のうだまーやる気の秘密』, 幻冬

舎、ハンネレ フォウヴィ他(2008)『フィンランド読解教科書ーフィンランド読解メソッド 4つの基本が学べる 日本語訳版』. 経済界
③実践に関して なし

■参考文献・参考URL / Reference List

なし

■評価方法

出席50% (活動記録作成含む)
各学期のアウトプット (Wordによるレポート、Powerpoint資料による発表) 30%
その他ゼミ活動への積極的取組み 20%

■評価基準

評価P (合格) : 上記到達目標に照らして、下記配分での活動・成果が各学年・学期に達成すべきものとして十分である
評価F (不合格) : 上記到達目標に照らして、下記配分での活動・成果が各学年・学期に達成すべきものとして十分でない 特に必要な記録、連絡等を怠った場合は、不十分と判断する可能性が高い

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次対象再試験の実施

なし

■留意点

意欲、好奇心、行動力を最優先し、その上で工夫を大切にするゼミです。面白いことのためなら努力を惜しまない人を求めます。努力を出し惜しむ人には向きません。

科目名 ホームゼミ (Seminars)**サブタイトル** ホームゼミナールI (Seminars I)**担当教員** 下井 直毅**■講義目的**

この講義では、産業社会における基礎的な政治経済について学ぶ。その際、時事的な経済問題を取りあげ、経済学的に捉えて理解することをめざす。この演習を通じて、経済の表面的な動きに惑わされることなく、変化の本質を見る目が育ち、物事を考える力がついて問題解決ができるようになることをめざす。

■講義分類

ビジネス環境理解
 社会人力育成
 グローバルビジネス
 地域ビジネス

■到達目標

経済学的なものの考え方の修得をめざす。
 word、excel (マクロ関数を含めて) 等のソフトを活用できるようになることをめざす。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
 GD:グループディスカッション
 GW:グループワーク
 PR:プレゼンテーション

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

指定する書籍や論文

■講義の概要

この演習を通じて、経済の表面的な動きに惑わされることなく、変化の本質を見る目が育ち、物事を考える力がついて問題解決ができるようになることをめざす。

取り上げるテーマ ①日本経済 ②世界経済 <第1講> 概要: 日本経済の歩み(I) <第2講> 概要: 日本経済の歩み(II) <第3講> 概要: 日本経済の成長(I) <第4講> 概要: 日本経済の成長(II) <第5講> 概要: 日本の経済政策(I) <第6講> 概要: 日本の経済政策(II) <第7講> 概要: 世界経済の歩み(I) <第8講> 概要: 世界経済の歩み(II) <第9講> 概要: 世界経済の成長(I) <第10講> 概要: 世界経済の成長(II) <第11講> 概要: 演習(「考える力」をつける)(I) <第12講> 概要: 演習(「考える力」をつける)(II) <第13講> 概要: 演習(発表)(I) <第14講> 概要: 演習(発表)(II) <第15講> 概要: 総括

また、学生の就職を踏まえ、新聞やテレビなどのメディアで取り上げられている経済に関する記事が理解でき、自分なりの考え方を身につけることができるようにすることを到達目標としている。

■教科書

講義中に紹介する

■指定図書

日本経済新聞社『身近な疑問が解ける経済学』(日経文庫)(2014年)
 岩田規久男『日本経済を学ぶ』(ちくま新書)(2005年)
 西川潤『新・世界経済入門』(岩波新書)(2014年)

■参考文献・参考URL / Reference List**■評価方法**

ゼミナールへの参加(100%)

■評価基準

評価P(合格) :ゼミナールに積極的に参加し、経済学的なものの考え方を修得できている

評価F(不合格) :ゼミナールへの参加意欲が乏しく、経済学的なものの考え方が修得できていない

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

実施しない

■留意点

科目名 ホームゼミ(Seminars)**サブタイトル** スポーツやレジャーのマネジメントを通じて、社会に貢献する方法を模索する**担当教員** 杉田 文章**■講義目的**

この演習の目的として、2つのことをかけたい。第1は、レジャーやスポーツ分野の職業を志望する学生を前提に、これらの分野で提供される製品(財やサービス)のうちの何を大切にすべきか、またそのためには、レジャー産業に関わるためにはどのような能力や知識が必要かについての全体的認識を育ててもらうことである。第2は、レジャー産業分野における経営を一つの社会現象と捉え、経済現象の一つのケーススタディとして、学習していくことである。これらの目的を達成するために、以下のような方法、内容によって演習を行う。

を持って、同士となった他のゼミ生と互いに影響し合って成長するという強い意思を持った(またはそうなりたくて強く願っている)学生の参加を希望します。
参考(2014年入学生ゼミ募集サイト)
{ <https://sites.google.com/a/tama.ac.jp/214shan-tianzemi-mu-jinsoitai/home> }

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解 ビジネス創造 社会人育成

■到達目標

ビジネスに従事する人として社会に対する行為的な態度と理解を持ち、社会に貢献する意欲や能力を持って社会に出ることが、最終的な到達目標である。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

大学在学中を通じて自分のメインテーマとなるものを発見し、課題を構造化し、他者にこれを説明できるようになるために、論理的整理と、これをプレゼンテーションする諸技法について学んでいく必要があることを踏まえて履修してもらいたい。

■講義の概要

- ① 問題の発見(方法:ディスカッション、教員からの提案、さまざまな情報源からの情報収集)
- ② 問題の構造化、認識(問題の核心と周辺)の構造化をすることにより、テーマを見極めていく)
- ③ 先行研究や、先行事例に関する情報収集、フィールドワーク
- ④ 取り組むべき活動の明確化
- ⑤ 実践
- ⑥ 実践結果の振り返り、総括、評価、今後の課題の抽出
- ⑦ 全体のまとめ、他者への報告の作成と実施(SRCを想定している)

■教科書

ゼミ内で適宜指示する。

■指定図書

広瀬一郎「スポーツマンシップ立国論」

広瀬一郎「スポーツマネジメント」

松田義幸「スポーツブランド」

その他、適宜ゼミ内にて指示する

■参考文献・参考URL / Reference List

ゼミ内にて適宜指示する

■評価方法

評価項目①~⑥をすべて満たした場合にPとする。総合評価となる。

■評価基準

評価P(合格) : 以下の条件を満たした場合、P評価とする。① ゼミの目的を理解しそれに沿った活動を実践すること ② ①により、社会人基礎力を持った人材と認められる資質を持つ方向に「成長」していること ③ 毎回のゼミへの参加 ④ 年2回(9月後半、1月後半または2月前半)の、ゼミ内合同研究発表会での発表 ⑤ SRCへの発表 ⑥ (4年秋学期)卒業論文の執筆、提出、発表
評価F(不合格) : 上のいずれかの条件を満たさなかったと認められた時、F評価とする

■履修していることが望ましい科目

ライフデザイン II

キャリアデザイン入門、

キャリアデザイン II III

■卒業年次生対象再試験の実施

行わない

■留意点

ゼミによる学習は、講義よりもより主体的、積極的な取り組みが重要となる。当事者意識

科目名 ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル

担当教員 趙 佑順

■講義目的

中国古典の戦国策に「智者は未明にみる」という言葉がある。知恵（先見力）のある者は、ものごとが形になる前に（まだ芽が出ないとき）、その兆しを察して有効な手を打つという意味である。このことは経営/経営者にとっても大事であり、若き日の孫正義（ソフトバンク会長）等が代表的ケースともいえる。経営者は、「マーケティング」や「経営戦略」的な発想を土台にして、常に変化している「環境」から、未来にとって意味のあるメッセージを読み取って「実践」していかなければならない。

本演習では「マーケティング」、「経営組織論」、「ベンチャー企業経営」を中心テーマとして「環境と戦略」の具体的なケースを扱いながら企業経営の現実を理解することを目的とする。最前線事例としての具体的なケースをもとにグループディスカッション及び問題解決に関連するプレゼンテーションを通じて、経営における「智者は未明にみる」とは何かを互いに意識できること（学生も教員も気づきを与える）を期待するものである。

本ゼミナールを履修するにあたって、経営基礎、マーケティングマネジメント論、立志論Ⅲ（立志起業家論）、特別講座（リレー講座）の単位取得が好ましい。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

ビジネスマネジメント

グローバルビジネス

地域ビジネス

■到達目標

- ・「環境と経営」の総合的理解
- ・「マーケティング」・「ベンチャー企業経営」・「経営組織論」の3つのテーマにおける基礎知識の理解
- ・学生と教員、ゲスト講演者（経営者等）との活発な発言、ディスカッションを通じてのコミュニケーション力の向上

■講義形態

講義のみ

講義 + GD・GW・PR

その他（マーケティングや経営の事例を扱ったビデオ・視聴覚教育）

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

配布資料またはケーススタディー資料を授業前によく読んでおくこと。特にケーススタディー資料は、グループワークによる発表があるので、授業前と同じグループの学生がゼミ時間外でミーティングし、協力してプレゼン資料をつくってくること

■講義の概要

本演習の方法は大きく4つに大別できる。①具体的なケースを扱った教材を読み込んだ後、それをどう分析し対処していくのかをディスカッションする。②具体的現実を理解するために必要な「マーケティング」、「経営組織論」、「ベンチャー経営」、「イノベーション」、「流通論」に関連するいくつかの基本的知識は講義を通じて習得する。③具体的現実を理解するうえで参考になる経営者を招待して講義とディスカッションを行う④指定図書の内容と発表を行う。

<第1講>～<第10講>

概要：オリエンテーション、ケーススタディーのやり方習得、身近で分かりやすいケーススタディー1本と、組織人事・経営戦略に関するケーススタディーを学習

<事前学習しておくべき用語/予習、復習のポイント>

ケーススタディー・ディベートとは（第1講）、キャリアとは（第2講）、やる気が出ることは・動機付け・官僚制（第3講）、マーケティングマネジメントプロセスのおさらい（第4講）、戦略とは・選択と集中（第5講）、コネクト企業（第6講）、個人の自己実現とプロジェクトドライブ制度（第7講）、ドラッカーの経営論（第8講）、松下幸之助と松下イズム（第9講）、人材育成とイノベーション（第10講）

<第11講>～<第20講>

概要：流通論に関するケーススタディーとこれに関連する教員講義、ゲスト講師講義

<事前学習しておくべき用語/予習、復習のポイント>

商業者の存在意義と売買集中（第11講）、流通における機能分担・取引コストとは（第12講）、チャネルの組織化とパワー関係（第13講）、製販提携と延期型流通（第14講）、サプライチェーンマネジメント（第15講）、小売業態の開発と競争（第16講）、ショッピングセンター（第17講）、コンビニエンスストアとスーパーの経営（第18講）、流通再編成で存在意義を問われる卸売業（第19講）、流通と公共政策（第20講）

<第21講>～<第30講>

概要：マーケティング・ベンチャー経営に関するケーススタディーとこれに関連する教

■講義

<事前学習しておくべき用語/予習、復習のポイント>

クリエイティブティを阻むものは何か（第21講）、マーケティングコンセプトの実践（第22講）、複体系経営とは（第23講）、メーカーと小売業の製品開発と共同開発（第24講）、マーケティング組織論（第25講）、サービスミナントロジックとは（第26講）、破壊的イノベーションとクリステンセンの経営論（第27講）、中小小売商業問題（第28講）、街づくりマーケティング（第29講）、論文の書き方・演繹法・帰納法・レポートあるいはプレゼン発表資料は、MS Office wordを用いた課題作成提出であり、パワーポイントと表計算ソフトのExcelを用いる工夫も好ましい

■教科書

オリエンテーションの際に提示、配布資料

■指定図書

オリエンテーションの際に提示、配布資料

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

- ・出席（60%）+授業態度（20%）（グループディスカッションとプレゼンテーション）+小テスト（10%）+レポート（10%）

■評価基準

評価P（合格）：ゼミナールの良好な出席とレポート（あるいはプレゼン資料）提出、ディスカッションに活発に参加したことで、「環境と経営」の総合的理解に達し、「マーケティング」・「ベンチャー企業経営」・「経営組織論」の3つのテーマにおける基礎知識の習得、コミュニケーション力の向上が成し遂げられた

評価F（不合格）：低調な出席率、レポートの未提出、不誠実な受講態度の結果による不合格

■履修していることが望ましい科目

本ゼミナールを履修するにあたって、経営基礎、マーケティングマネジメント論、特別講座（リレー講座）の単位取得が望ましい

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

特に出席が重要であり無断欠席は絶対に許さない

科目名 ▶▶ ホームゼミ (Seminars)**サブタイトル** ▶▶**担当教員** ▶▶ 常見 耕平**■講義目的**

自ら学ぶ力を身につける。

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

自ら学ぶ力を身につけること

■講義形態

演習

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

日々之学習

■講義の概要**■教科書**

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

特になし

■評価方法

日々の学習姿勢100%

■評価基準

評価P (合格) : 自ら学ぶ力が身につくこと

評価F (不合格) : 自ら学ぶ力が身につかないこと

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

再試験が必要な状況は存在しない。

■留意点

特になし

科目名 ▶ ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル

担当教員 ▶ 豊田 裕貴

■講義目的

豊田ゼミは、マーケティングとマーケティング・リサーチをテーマとする。2から4年次の三年間を通じて、マーケティングセンスの獲得と、リサーチセンスの獲得(視点・仮説・調査・分析・解釈といった調査を用いた論展開が出来るようになる)を目指す。特に3年次には一年間を通じて、「グループでの共通テーマを設定し、各テーマについて必ず調査(質的・量的共に必須)を行った上での研究発表並びにグループとしての報告書の作成」を演習として取り組む。なお、これらの成果については、他者からの評価も重要と考え、インターカレッジによる論文大会への参加を義務づけ、質の高い調査を目指すようにしている。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

ビジネスマネジメント

社会力育成

■到達目標

マーケティング視点からビジネスを考えられる力の習得を目指し、5年後、10年後に活躍できる基礎を固めることを目標とする。また、学外での論文大会(関東10ゼミマーケティング討論会)への出場や企業からの課題への取り組みなどを通じて、学外での成果の発表とそれに対するフィードバックに向き合うことで、実践力を身につけることを目指す。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

その他(講義 + レポート)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

テーマに対する情報収集・レビューならびに発表準備。

■講義の概要

学外の論文大会ならびにビジネスコンペを含め、取り組むテーマを決定し研究を行う。そのためのマーケティング書籍ならびに論文などについても学習する。

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

試験を行わないため、ゼミへの取り組みのみ(100%)で評価する。

■評価基準

評価P(合格) : ・やる気とゼミへの参加姿勢を評価の大前提とする。 ・面白い発想や独自の視点を高く評価する。 ・ゼミ外での発表も高く評価する。

評価F(不合格) : ・参加状況、取り組みが悪い場合には、Fとする。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

なし

■留意点

科目名 ホームゼミ(Seminars)

サブタイトル

担当教員 中庭 光彦

■講義目的

本ゼミナールは観光まちづくり・地域ブランディングを中心とした地域政策分析・立案を専門とするゼミです。今後、人口減少する社会で、地域の魅力を生み出す企画方法を身につけるために、基本的な文献を読み、現場を調査し、分析力を身につけ、討議を行い、ケースやPR制作物をつくり、提案力を身につけます。

■講義分類

地域ビジネス

■到達目標

本ゼミでは、地域の魅力づくりを中心としたまちづくりプランナーを専門的に養成します。必要な力は以下の通りです。

- (1)現場の調査力、社会人とのコミュニケーション力
- (2)ケースライティング、プレゼンテーション力
- (3)広報物等の制作力、イベントの実施力
- (4)チームの一員として周囲に目配りしながら動く力

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

到達目標に関連する文献や資料を読み込んでくること。

■講義の概要

- 第1回：ゼミの進め方について
事前に学習しておくべきポイント：PCの使い方
- 第2回～第4回：地域研究についての基本講義。
事前に学習しておくべきポイント：まちづくりとは何か、観光とは何か、commons、ソーシャルキャピタル
- 第5回～第6回：企業・地域分析の方法について学び、分析の実習。
事前に学習しておくべきポイント：決算書の読み方
- 第7回～第8回：観光まちづくりの手法について論文の書き方、調査の進め方、動画制作の方法。
事前に学習しておくべきポイント：社会調査法
- 第9回～第10回：フィールドワーク。
事前に学習しておくべきポイント：フィールドワークの方法
- 第11回～第15回：企画提案制作、発表
※順番は随時変更します。
※本年度は野沢温泉村をフィールドにブランド調査、ケース制作、PR動画制作を行う。
- ※MOS試験の受験は必須とします。

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

- <地域政策と観光開発>
- ・日本交通公社編著『観光地経営の視点と実践』丸善出版、2013
 - ・宗田好史『創造都市のための観光振興』学芸出版社、2009
 - ・宗田好史『なげりタリアの村は美しく元気なのかー市民のスロー志向に込めた農村の選択』学芸出版社、2012
 - ・森元伸枝『洋菓子の経営学ー神戸スウィーツに学ぶ地場産業育成の戦略』プレジデント社、2009
 - ・稲葉住子『オタクボ都市の力ー多文化空間のダイナミズム』学芸出版社、2008
 - ・武田尚子『もんじやの社会史ー東京月島の近現代の変容』青弓社、2009
 - ・武田尚子・文貞実『温泉リゾート・スタディーズー箱根・熱海の癒やし空間とサービスワーク』青弓社、2010
 - ・テオドル・バスター『築地』木楽舎、2007
 - ・西村幸夫編著『観光まちづくりーまち自慢からはじまる地域マネジメント』学芸出版社、2009
- <地域政策の事例と考え方>
- ・瀬谷浩介『里山資本主義』角川書店、2013
 - ・阿部真大『地方にこもる若者たちー都会と田舎の間に出現した新しい社会』朝日新聞出版、2013

- ・速水健朗『都市と消費とティズニーの夢』角川書店、2012
 - ・日本政策投資銀行地域企画チーム『実践！地域再生の経営戦略』金融財政事情研究会、2010
 - ・瀬谷浩介『実測！ニッポンの地域力』日本経済新聞出版社、2007
 - ・山崎亮『コミュニティデザイン』学芸出版社、2011
 - ・新雅史『商店街はなぜ滅びるのかー社会・政治・経済史から探る再生の道』人文社、2012
 - ・野村進『千年、働いてきましたー老舗企業大國ニッポン』角川書店、2006
- <企画術>
- ・前野隆司『システム×デザイン思考で世界を変える』日経BP社、2014
 - ・水野学『アイデアの殺着剤』朝日新聞出版、2014
 - ・後藤壽彦『まちづくりオーラル・ヒストリー』水曜社、2005
- ※その他、ゼミHPを参照。

■評価方法

成果物への貢献度100%。

■評価基準

評価P(合格)：到達目標1-4が向上している。
評価F(不合格)：到達目標1-4の向上がほとんど見られない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

科目名

ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル

企業PR活動とマーケティングコミュニケーション

担当教員

中村 その子

■講義目的

中村そのこゼミナールは「世の中PRできないものはない」を合言葉にPRコミュニケーションを追求するゼミです。以下を学ぶことがゼミの目的です。

＜活動内容＞

ラジオ番組企画と出演

ラジオコマercial研究・制作

映像・静止画コマercial研究・制作

ポスター、ビラやポップなどの広告印刷物研究・制作

ネーミングとキャッチコピーの手法を学ぶ

世界、そして地域をPRする=シティプロモーション、地方公共団体や非営利組織、福祉関連団体、ボランティア活動などの広報

マスコットキャラクターやアニメキャラクターによるセールスプロモーション活動 イベント活動と企業PRの関係を探る

上記に関連する感覚やコンテストへの応募

コミュニティラジオ局やケーブルテレビ局など、広告に関連の深い企業の見学やインターンシップ その他企業や製品、サービスにかんするPR活動全般に向けて

自分のアイデアを製品開発に結び付けるための研究とそのPR

活動項目

映像・ラジオCM制作

マスコットキャラクターデザイン、ポスター、看板やロゴ制作

お店の販売促進やキャンペーン提案、広告宣伝制作、

ラジオ番組の出演とプロデュース、

イベント・展示企画へ参加、

キャッチコピーやネーミング研究、など

社会で自分の製品やサービス、アイデアを効果的にPRし社会に感動を与える方法を学ぶゼミです。

同時に、人々の心を動かす説得力のある話し方や問題解決に結びつく考え方も学んでいきます。

そのこゼミナールで。。。 社会に影響を与えることは力の世界を探検し、 發達に残るネーミング 歴史に残るキャッチコピー 記憶に残るコマercialメッセージ を創造してみませんか。 中村そのこゼミナールは、「世の中PRできないものはない」をテーマに、コマercial作り、キャッチコピー作成、 ネーミングテクニックなど、社会で自分の製品やアイデアを広告、PRする方法を学ぶゼミです。同時に、人々の心を動かす説得力のある話し方や問題解決に結びつく考え方も学んでいきます。 将来、広告製作やPR活動に関係した分野で志を実現する力をつけることももちろんですが、どんな分野で仕事、社会活動をする場合でも、自分のアイデア、製品のPR、会社業務、活動のPR、など、説得力のあるメッセージを、社会に向けて力強く発信する(訴える)必要があります。このゼミでは(中心は広告になりますが)社会に向けて情報を発信していく「発信力」をどんな分野でも発揮できるような力をつけることをゴールとしています。グループワーク・グループディスカッション・プレゼンテーションなどの活動を重視し、産業界の最新事例や問題解決シミュレーションなども積極的に取り入れます。

■講義内容

顧客理解 ビジネス環境理解 ビジネス創造 ビジネスマネジメント 社会人育成

■到達目標

上記講義目的に沿って、産業界の最前線で問題解決にあたり、自分の志を実現していくのに必要な人間力、社会的見識と資質を身に付ける。

■講義形態

ゼミナール形式の少人数クラス、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、外部での社会的活動、自分のアイデアや研究成果を積極的に外部に発信していくことを主眼とする。

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

教員は講義概要に沿って、毎授業何らかの課題を学生に与える。学生はその課題を授業課題に対する答えを持って授業に臨み、授業後はその課題に対する答え、もしくはその課題にどう対処したかを必ずゼミナールフェイスブックグループにアップする。

■講義の概要

1 コマercial関連

テレビ・ラジオコマercial、町の看板やポスター、新聞雑誌広告、商品キャンペーンや

イベント企画など、PR活動全般について研究し、何かを広告、PRする場合どのようにしたら効果的かを探ります。たとえば。。。 新製品や新マスコットキャラクターなどを開発・想定し、それらにネーミング、併せてキャッチコピーを作成し、プロモーション活動を企画して、動画・静止画コマercialやポスターなどを制作します。次にグループや個人でアイデアを交換してディスカッション後プレゼンテーション。成果をキャッチコピーコンテストやラジオコマercialコンテストに応募して力試しします。 実際には自分たちの作った広告ポスターを貼り出したり、ラジオ・テレビコマercialを放送、放映してもらうなどして外部発信。コミュニティラジオ局、ケーブルテレビ局の見学やインターンシップ活動、イベント関連会社の見学なども行っており、メディアや企業の情報発信の形も体験していきます。

2 ネーミングとキャッチコピー

私たちのまわりには数えきれない商品があふれていますが、名前のないものはない、と言った方がいいでしょう。名前の付け方で商品の消費者に対する訴求力が変わってきますし、商品名を変えただけで売れ行きが爆発的にアップなどということもあります。実際にネーミングに携わっている人たちがどのようなプロセスでネーミングをしているのかを学び、「成功した商品名」にはどんな秘密があるのかを探ります。ネーミングとともに、その魅力を短い文で消費者に訴えるキャッチコピーにも注目。多くの人の心に残る魅力的なキャッチコピーの特徴を研究し、優れたコピーを作るためのテクニックを身につけ、コピーライティングに必要な直感と感性を磨きます。

3 私たちをとりまくことばたち

何かをコマercialしたりPRしたりするときに、「ことば」をまったく使わない、ということはありませんね。そのこゼミでは、有名起業家、アーティスト、スポーツ選手、ドラマやアニメの名句、名文、新語・流行語のメカニズムと特徴、を学び、その分析を行うことによって、社会で人を動かす説得力があることばはどのような生み出されるのかを考え、自分自身もそのような話し方ができるようにトレーニングします。もちろん、それをしっかりと支える問題解決力も身につけていきます。英語学習全般のサポートや広告での英語表現法なども、ゼミ生の要望があれば喜んで対応します！

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

そのこゼミナールの活動多摩大学HPURL

<http://www.tama.ac.jp/cgi-bin/mt/mt-search.cgi?search=%E4%B8%AD%E6%9D%91%E3%81%AE%E5%AD%90%E3%82%BC%E3%83%9F&includeBlogs=2&limit=20>

およびFacebook のゼミナールグループ (非公開グループ)

教員Facebook

<https://www.facebook.com/sonoko.nakamura.378>

■評価方法

上記活動の成果とゼミ活動への出席

■評価基準

評価P (合格) : 上記活動項目について、充分な社会的な貢献ができる形で、教員が、そして関係した外部組織の方々が認めるような成果を生み出すことができたかどうかを評価し、それに合格した場合Pとなる。

評価F (不合格) : 上記活動項目について、充分な社会的な貢献ができる形で、教員が、そして関係した外部組織の方々が認めるような成果を生み出すことができなかったかどうかを評価し、そのような成果が出せなかった場合、またはゼミナール活動に積極的に参加しなかった場合はFとなる。

■履修していることが望ましい科目

リサーチ、マーケティング関連科目、メソ経済学関連科目、地域活性化、社会企業家[起業家]関連科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

出席は極めて重視される

科目名 ホームゼミ(Seminars)**サブタイトル****担当教員** 中村 有一**■講義目的**

情報系のゼミで、主に、コンピュータ、ネットワーク、情報社会、数理モデルなどの分野で研究を進めている。内容的には理科系・工学系であるが、それほど前提となる知識は必要としない。情報系の分野において各自テーマを決め、研究を通して実務的な知識を身に付けることを目的とする。また最終的には卒業論文または卒業製作の形に成果をまとめる。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

自分で研究テーマを決め、研究していく能力を身につける。プログラミングや電子工作などにより、自分のアイデアを実現していくこと。成果を論文や研究発表の形で表現する能力を習得する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各自研究を進め、レポート・卒業論文などを書く。

■講義の概要

研究テーマの列をいくつかあげておく。過去の研究テーマについてはゼミのホームページ参照。(1) コンピュータ プログラミング・・・プログラミング言語、ソフト作成、地理情報の処理 ハードウェア・・・電子工作、組み込みプログラミング、PC自作

(2) ネットワーク サーバ構築・管理・・・インターネットの サービス提供、OSの利用法 ネットワークプログラミング・・・ネット上の新しいサービス開発 情報セキュリティ・・・暗号・認証・信頼性 (3) 情報 社会 情報社会の問題点の考察 知的財産権・・・著作権、特許権 未来予測 (4) 数理モデル 社会現象の数学的モデル化 最適化計画 詳しい計画 は、それぞれの学期の初めに提示する。

予習のポイント：予習すべき点は、そのつど提示する。

復習のポイント：復習すべき点についても、そのつど提示 する。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

ゼミ中に適宜紹介する。

■評価方法

出席点・平常点70%、レポート・発表30%

■評価基準

評価P(合格) : 研究発表を行い、レポート・卒業論文を提出すること

評価F(不合格) : 研究発表を行わない場合、レポート・卒業論文などを提出しない場合

■履修していることが望ましい科目

情報系科目を履修していること、あるいはゼミと並行して履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

やる気をもって積極的に参加することが重要である。自分でテーマを探し、自分で研究を進めていくという自己解決能力を養うことが目標である。

科目名

ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル

担当教員

バートル

■講義目的

時代は今、「知」が重要視される知識情報社会となっており、膨大な情報の中から必要な情報を抽出して分析し、未来を洞察していくことが求められている。

本ゼミでは、世界経済の引継ぎとして、また政治や外交面でも国際的プレゼンスの高まりを見せている中国を中心としながら、中国を含めた大中華圏を立体的かつ複眼的な視点で理解するための基礎的な知識の習得と産業社会が求める問題発見・解決能力に優れた、かつ高度なコミュニケーション能力を備えた「グローバル人材」を念頭に置いた各種調査活動やプレゼンテーションおよびディスカッションを積極的に行うべく、以下三つの点を目的とする。

1. 企業が求める「グローバル人材」の育成である。

近年、日本とアジア・太平洋地域の経済関係の緊密化に伴い、日本企業は「アジア重視」に舵を切り始め、人事戦略の面では「グローバル人材」の育成に注力している。こうした日本企業（外資系企業も含む）の動向を踏まえ、学生諸君の就職活動や大学院への進学の一助となることを念頭に置きながら企業が求めるグローバル人材（主体性、外国語によるコミュニケーション能力、協調性、異文化に対する興味・関心・適応力、多角的・複眼的な手法でグローバルな問題に取り組み能力、規則概念にとられず、チャレンジ精神を持つなど）の育成を最大の目的とする。

2. 中国を中心とした大中華圏への理解を深めることである。

中国を中心とした大中華圏（香港・台湾・シンガポールを含む）の経済、政治、外交関係に関するテーマを取り上げ、全員参加型の議論を重ね、中国及び大中華圏のビジネスに関する基本的な知識やノウハウを身につけることである。

3. 日本企業の新たな経営戦略・ビジネスモデルの立案のほか、日中両国の政府・民間の協力の可能性について考えることである。

本ゼミの運営方法としては、「学生による文献調査+レポート作成+ゼミ報告+ディスカッション」の4形式を採用する。具体的には、ゼミ生が日本を始め、中国・大中華圏に関する時事問題からトピックスを選んだうえ、関連文献やデータの収集、調査を行うと共に、レポートを作成し、プレゼンテーションを行う。それに基づいて、ゼミ生全員で議論し、問題の所在と問題解決のための方法論を検討する。

また、アジア主要国地域の政治経済概況に関する情報やデータの収集と定期的な更新作業を行い、報告する。更には、学外学習の一環として、フィールドワーク調査・人的ネットワーク形成の観点から各種セミナーへの参加、留学生や企業関係者との交流活動も行うほか、海外視察（海外の大学や企業、工場など）にも積極的に参加することを求める。なお、ゼミの運営方法に関しては、学生の意見やアイデアを積極的に取り入れて実行する。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

ビジネスマネジメント

社会人力育成

グローバルビジネス

ビジネスICT

地域ビジネス

■到達目標

①2年次は、「Asian Weekly News (毎週・全員)」や「アジア政治経済概況 (4半期・通年ベース)、全員」の作成と発信・報告を行い、日本を含めたアジア地域全体に関する知見を深める。

2年次後半には、各自の研究テーマを設定し、関連文献や情報の収集、調査を行い、ゼミないしSRCで報告する。

③3年次は、「Asian Weekly News」(毎週・全員)に加え、自分自身が関心を持つ特定の業界や産業、企業などに関するテーマを設定し、関連文献や情報の収集、実地調査を行い、その結果をゼミないしSRCで報告する。また、就活を視野にSPI対策などを始めとする進路指導も行う。

④4年次は、卒業論文(就職希望先に関連する業界・産業・企業の調査を中心、PPT可)を作成し、4年次後半の卒業発表としてゼミないしSRCで報告する。また、同時に就職支援のほか、大学院進学希望者に対する進路指導も行う。

■講義形態

GD/GW/PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

日頃から時事問題を始め、自分自身が関心をもつ特定の分野や業界ないし産業および企業に関する情報を常に収集、分析、調査する習慣をつけ、その過程の中で、自分自身や社会

にとって将来役立つであろう問題の発見・解決力・コミュニケーション能力を身につける努力を惜しまない。

■講義の概要

以下の各種ゼミ活動において、学年毎、全ゼミ生の個々の状況に応じた研究指導や就職支援を積極的に行い、社会が求める「人財」「人物」を育成する。

【概要】(2年次)2年次前半は、「Asian Weekly News」(毎週・全員)とアジア政治経済概況(四半期・通年ベース、全員)の作成と発信・報告を行う。2年次後半には、各自の研究テーマを設定し、一定期間内において関連文献や情報の収集、調査を行い、ゼミやSRCで報告する。

【事前に学習していくべきポイント】自分自身が関心のある国際国内の政治経済情報、特定の産業、企業、業界の最新動向についての情報収集と分析を行い、ゼミないしSRCで報告できるように準備する。

【概要】(3年次)「Asian Weekly News (毎週・全員)」に加え、自分自身が興味を持つ特定の分野や業界、産業、企業などに関するテーマを設定、関連文献や情報の収集、実地調査を行い、その結果をゼミないしSRCで報告する。また、キャリア支援セミナーへの参加やSPI対策など就活の準備も行う。

【事前に学習していくべきポイント】自分自身が関心のある国際国内の政治経済情報、特定の分野や業界、産業、企業などの最新動向についての情報収集を行い、分析しゼミないしSRCで報告できるように準備する。

【概要】(4年次)卒業論文(就職希望先に関連する業界・産業・企業の調査を中心)を作成し、ゼミないしSRCで報告する。また、就職支援を積極的に行うほか、大学院希望者に対する進路指導も行う。

【事前に学習していくべきポイント】自分自身が関心のある国際国内の政治経済情報、特定の分野や業界、産業、企業などの最新動向についての情報収集を行い、分析し卒業発表で報告できるように準備する。

■教科書

■指定図書

関志雄「チャイナ・アズ・ナンバワン」(東洋経済新報社、2009年)

寺島実郎「世界を知る力」(PHP新書、2010年)

寺島実郎「世界を知る力 日本創生編」(PHP新書、2011年)

寺島実郎「大中華圏」(NHK出版、2012年)

真如閣一「中国経済の実象とゆくえ」(ジェトロ、2012年)

三井物産戦略研究所「アジアを見る眼」(共同通信社、2012年)

久恒啓一「日本〜わかりやすい 図解 日本史」(PHP、2014年)

瀬川清之「日本人が中国を嫌いにないこれだけの理由」(日経BP、2014年)

杉浦裕晃「日本の経済史を知る」(八千代出版、2014年)

トマ・ピケティ「21世紀の資本」(みすず書房、2014年)

宮家邦彦「語らざる中国の結末」(PHP新書、2015年)

■参考文献・参考URL / Reference List

常時以下の政府機関・民間企業のウェブサイト上で公表される情報をチェックすること。

日本外務省HP

日本貿易振興機構(JTRO)

日本財務省

日本銀行

(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)

(株)三井物産戦略研究所

東京財団

丸紅経済研究所

キャンブルグローバル戦略研究所

環日本海経済研究所

中国・新華通信

共同通信

在中国日本大使館

在日本中国大使館

■評価方法

評価は、出席(45%)・報告・ディスカッション(25%)・学年毎のレポート(30%)により行う。

■評価基準

評価P(合格) : 絶対評価 出席(45%)と報告・ディスカッション(25%)

およびレポート (30%) の総合点が60点以上の場合は合格。 レポートは、2年次は「Asian Weekly News」とアジア政治経済概況、SRCなど、3年次は「Asian Weekly News」とアジア政治経済概況に加え、特定分野に関する研究報告 (含むSRC)、4年次は「Asian Weekly News」に加え、卒業発表 (含むSRC)。 卒業発表は、日本企業の中国やアジア戦略をテーマに設定し、作成することが望ましい。なお、レポートは、独自の視点や問題意識を持ち、問題解決へ向けての積極的な取り組み姿勢を重視する。

評価F (不合格) : 出席 (45%)、報告・ディスカッション (25%)、レポート (30%) の総合点が59点以下は不合格。

■履修していることが望ましい科目

「特別講座」「中国経済論」「アジア経済論」などグローバル系の科目。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

①ゼミのルール (出欠管理・課題提出期限など) を厳格に順守すること。

②ゼミ内での報告等はペーパーレスで行うため、FacebookとLineの登録は必須。

科目名 ▶ ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル ▶ 組織マネジメント、組織心理学

担当教員 ▶ 浜田 正幸

■講義目的

高い志と、それを社会で実現できる能力と人間性を涵養する。

■講義分類

ゼミナール

■到達目標

卒業時には社会人3年目の実力を有する

■講義形態

演習、GW、GD、学外活動あり

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

組織を把握し、測定するための方法論を学んでおくこと。
具体的には、観察法、面接法、質問紙法などである。

■講義の概要

ゼミナール全体で模擬的な会社組織とし、会社の運営を実践的に学習する。

■教科書

『実践フィールドワーク入門』有斐閣

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

『組織論再入門』ダイヤモンド社
『アンケート調査と統計解析』ナツメ社

■評価方法

出席MUST（100%）、ゼミ活動への参加MUST（100%）

■評価基準

評価P（合格）：授業はもちろん、その他のイベントなどに出席することが必須である。また、ゼミ活動への積極的な参加を要件とする。

評価F（不合格）：無断の欠席、ゼミ活動への理由なき不参加があった場合は不合格とする。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 ホームゼミ(Seminars)**サブタイトル****担当教員** 樋口 裕一**■講義目的**

クラシック音楽や古典芸能を多摩地区のひとつと、とりわけ若者に広めるための活動を行う。ゼミ生が、一流演奏家に出演交渉をし、会場を探し、プログラム、ポスター作りなどをして、ゼミ生主催の本格的コンサート、寄席などを開く。このような活動によって、産業界で活躍し、問題発見、解決に不可欠な企画力、行動力を養成する。また、就職のために必要なコミュニケーション力も養う。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

一つのグループで、クラシック音楽コンサート企画し、出演者・会場などとの交渉、当日のコンサートの運営など、すべてを行えるようになる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ふだんからクラシック音楽や古典芸能に関心を持ち、コンサートに通い、テレビなどでのコンサート中継、寄席中継などに目を配る。また、チラシやポスター、集客方法、イベントの運営などについても関心を持つように努める。

■講義の概要**第一講目**

概要 オリエンテーション グループ分け

事前,事後学習ポイント 各グループの役割分担を確認する

第二講目

概要 バロック音楽についての知識を深める 企画書の書き方

事前,事後学習ポイント 自分たちの企画について企画書を書く

第三講目

概要 バロック音楽についての知識を深める 演奏者への依頼の仕方

事前,事後学習ポイント 依頼文を書く練習をする

第四講目

概要 古典派音楽についての知識を深める 会場確保の方法

事前,事後学習ポイント 各企画の会場について話し合う

第五講目

概要 古典派音楽についての知識を深める チラシ作りのノウハウ

事前,事後学習ポイント チラシを作る練習をする

第六講目

概要 古典派音楽についての知識を深める 客集めのためのノウハウ

事前,事後学習ポイント 客集めのための方法を探る 実践する

第七講目

概要 古典派音楽についての知識を深める 客集めのためのノウハウを深める

事前,事後学習ポイント 客集めの方法を深めて実践する

第八講目

概要 ロマン派音楽についての知識を深める 客集めのためのノウハウ2

事前,事後学習ポイント 客集めの実践を行う

第九講目

概要 ロマン派音楽についての知識を深める コンサートの運営(舞台裏での対応1)

事前,事後学習ポイント コンサート運営練習

第十講目

概要 ロマン派音楽についての知識を深める コンサートの運営(舞台裏での対応2)

事前,事後学習ポイント コンサートの運営練習

第十一講目

概要 国民楽派についての知識を深める コンサート運営(観客席の対応1)

事前,事後学習ポイント コンサートの運営練習

第十二講目

概要 国民楽派についての知識を深める コンサート運営(観客席の対応2)

事前,事後学習ポイント コンサートの運営練習

第十三講目

概要 近代音楽についての知識を深める コンサート運営(観客席の対応3)

事前,事後学習ポイント コンサートの運営練習

第十四講目

概要 近代音楽についての知識を深める 曲目解説の書き方

事前,事後学習ポイント 曲目解説を書く

第十五講目

概要 近代音楽について アンケートのとり方、集計の仕方

事前,事後学習ポイント アンケート集計の練習

■教科書

なし

■指定図書

「知識ゼロからのクラシック音楽鑑賞術」(樋口裕一・幻冬舎)

■参考文献・参考URL / Reference List**■評価方法**

提出文章(50パーセント)、平常点(50パーセント)

■評価基準

評価P(合格) : 出席回数が10回以上で、音楽や古典についての知識に関心持ち、コンサート企画・運営などのゼミ活動に積極的に参加した者。

評価F(不合格) : 出席回数が9回以下の者。あるいは、ゼミ活動に積極的に参加しなかった者。

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

なし。平常点による。

■留意点

科目名 ホームゼミ (Seminars)

サブタイトル 図解ゼミ

担当教員 久恒 啓一

■講義目的

行政、ビジネス、教育などあらゆる分野でのコミュニケーションの手段は、文章と箇条書きが中心である。文章最大の特徴はごまかしができることである。また箇条書きはそれぞれの項目の大小、重なり、関係を示すことができない。関係を意識する図解コミュニケーションを鍛えるのもっとも大きなメリットは、「考える力」を身につけることができる点である。ゼミ生は実戦経験を重ね、卒業までに考えるための強力な武器となる「図解思考」を自分のものにすることができる。

問題解決の武器としての「図解思考」を身につけ、産業社会を形成する企業・地域・行政などの最前線の問題解決プロジェクトに挑戦する中で産業社会の問題解決の最前線に立つ人材を育てる志を持った実学ゼミとする方針である。

◎プロジェクトのテーマ

- ・東京ヴェルディ応援プロジェクト
- ・多摩の手工産プロジェクト
- ・スポーツゴミ拾いプロジェクト
- ・多摩エクセレントカンパニープロジェクト

■講義分類

ビジネスマネジメント

■到達目標

問題解決の武器としての「図解思考」と「図解の技術」を身につける。
パワーポイントを用いて図を描く能力を身につける。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（学習・復習等）に必要な事前またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

- ・新聞、雑誌の記事、他の先生の講義内容を図解する。
- ・毎回のゼミで作った図解をブラッシュアップする。

■講義の概要

<第1講>

概要：オリエンテーション

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第2講>

概要：グループ分け

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第3講>

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第4講>

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第5講>

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第6講>

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第7講>

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第8講>

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第9講>

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第10講>

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第11講>

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第12講>

概要：グループワーク

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第13講>

概要：グループ発表

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第14講>

概要：グループ発表

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

<第15講>

概要：全体発表

事前学習しておくべき用語やポイント[図解思考]

■教科書

なし

■指定図書

「図で考える技術が身につくトレーニング30」（久恒啓一）[自由国民社]

■参考文献・参考URL / Reference List

ゼミ中に随時指示する。

■評価方法

- 1.出席 90点
- 2.ゼミの成果への貢献 10点

■評価基準

評価P（合格）：図解思考と顧客満足の視点を身に付けた。出席率と貢献度が高い。

評価F（不合格）：図解思考と顧客満足の視点への理解が不足している。出席率と貢献度が低い。

■履修していることが望ましい科目

「問題解決学」分野の科目を多数履修することが望ましい。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

参考URL

<http://www.hisatune.net/>

<http://www.hisatune.net/html/01-kyouiku/tamadai/home-seminar/index.htm>

科目名 ホームゼミ (Seminars)**サブタイトル****担当教員** 増田 浩通**■講義目的**

ホームゼミナルを通じて、文献を正しく読め、レポート等を書く力を養う。また、情報化社会の基礎教養として、プログラミングの経験をする。

■講義分類

社会人力育成 ビジネスICT

■到達目標

与えられた課題に対し、自分から積極的に調べ、レポートやパワーポイント資料にまとめられる能力の向上を目標とする。

■講義形態

グループディスカッション グループワーク プレゼンテーション

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

与えられた課題をよく読みこなし、プレゼンテーションを行うこと。
プログラミングは、自分のできる範囲で実際に手を動かして習得すること。

■講義の概要

<第1講> ガイダンス <第2講> から<第5講> 概要：購読書を基に、各自が読み込んで調べたことを、パワーポイントにして発表する。 <第6講>から<第10講> 概要：MOS試験の勉強をする。 <第11講>から<第15講> 概要：社会シミュレーションの一種であるエージェントベースシミュレーションのプログラミングの基礎を学ぶ。

■教科書**■指定図書****■参考文献・参考URL / Reference List****■評価方法**

ゼミの出席 70%
課題の提出と発表 30%

■評価基準

評価P (合格) :ゼミの出席 70%以上 課題の作成と発表
評価F (不合格) :ゼミの無断欠席が多い。与えられた課題を提出しなかったり、発表を行わないなど。

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

実施しない

■留意点

科目名 ホームゼミ(Seminars)

サブタイトル ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスの事業開発

担当教員 松本 祐一

■講義目的

将来、創業・起業したい、お店をやりたい、地域や社会の問題を解決するビジネスをやりたい、NPOの事業をやりたい、企業で商品開発や新規事業開発に携わりたいという学生を対象に、事業開発に関する理論と方法を学ぶとともに、実際に様々なプロジェクトを企画運営しながら、事業開発力を養う。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解 ビジネス創造 ビジネスマネジメント 社会人力育成 ビジネスICT 地域ビジネス

■到達目標

事業開発に関する理論と方法を習得し、自分でビジネスプランを立案できるようになること。さらには実践を通じて、学んだことを再現できることを目指す。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ビジネスプランのケース分析や自身のビジネスプラン作成

■講義の概要

【第1講】キックオフ

概要：ゼミの主旨を理解する。

事前事後学習ポイント：特になし

【第2講・第3講・第4講】チームビルディング

概要：ゼミをチームにするための基盤づくりをする。

事前事後学習ポイント：特になし

【第5講・第6講・第7講・第8講・第9講・第10講】事業開発の基本

概要：ゼミのテーマである事業開発に関する基本的な学習を行う。

事前事後学習ポイント：事業開発、経営戦略、ビジネスモデル

【第11講・第12講・第13講・第14講・第15講】事業開発のケース分析

概要：様々なビジネスのビジネスモデルの検討

事前事後学習ポイント：それぞれ興味あるビジネスのケースの収集

■教科書

特になし

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席40%

課題等のアウトプットの質30%

授業中やプロジェクト中の姿勢30%

■評価基準

評価P(合格) : 8割以上の出席。企画立案などを自分なりの視点で行える。

グループワーク、フィールドワークに自主的・積極的に貢献した。仲間と一緒に協力してプロジェクトを運営できた。

評価F(不合格) : 上記に満たない場合。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

科目名 ホームゼミ(Seminars)**サブタイトル** イベントの企画運営を通じてプロフェッショナル・スキルと社会性を学ぶ。**担当教員** 村山 貞幸**■講義目的**

プロフェッショナル・ビジネスパーソンに必要な社会性とスキルを獲得することで、ビジネスの高度な問題解決を行う能力を養う。それは、就職力向上にもつながり、楽しい就職活動に打ち勝つ能力を獲得することになる。本ゼミでは、プロフェッショナル・ビジネスパーソンを、「社会性を重視し、組織目標を圧倒的に優れた能力により達成する人」とする。そのために必要な能力は、以下と考える。

- 社会性
- 行動力
- 創造力
- 人脈構築力
- コミュニケーション力
- 論理的思考力

■講義分類

顧客理解
 ビジネス環境理解
 ビジネス創造
 ビジネスマネジメント
 社会力育成

■到達目標

- (1) 社会性を高いレベルで獲得する。
- (2) プロフェッショナル・スキルを高いレベルで獲得する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

イベントの企画
 イベント先の開拓
 イベント協力者の開拓
 顧客ニーズの調査
 アンケート調査の分析他

■講義の概要

目的達成のための活動は、教員の提案に基づき、ゼミ生とともに検討する。詳細は以下の通り。

-2年生 ビジネスプランニング フェーズ 主課題: 論理的思考力、創造力
 (-3年生 プラン実行フェーズ 主課題: 行動力 表現力 人脈構築力)
 (-4年生 コーチング フェーズ 主課題: 能力確認)

(別に、3年生後半から4年生にかけて、就職活動を意識したメニューを多彩に用意している。)

基本的に大学にとどまらず、社会人や他大学生、その他の組織の方々とともに、活動する。企画にとどまらず、企画実行することを通じて学びを高める。ゼミ活動にとどまらず、プライベートを含め、あらゆる活動をプロフェッショナル能力の獲得につなげる。

■教科書

グロービス・マネジメント・インスティテュート『改訂3版グロービスMBAマーケティング』(『新版MBAマーケティング』も可) ダイアモンド社

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

なし

■評価方法

出席50%、ゼミ活動に対する貢献度50%。

提出物は、MS Officeのエクセル、ワード、パワーポイントにより作成。

■評価基準

評価P(合格) : 出席9割以上で、活動に貢献している。社会性レベルとプロフェッショナル・スキルが成長した。以上を総合的に評価。

評価F(不合格) : 出席が9割未満で、活動への貢献度が低い。社会性レベルとプロフェッショナル・スキルが成長していない。以上を総合的に評価。

■履修していることが望ましい科目**■卒業年度次対象再試験の実施**

実施しない

■留意点

科目名 ▶ ホームゼミ (Seminars)**サブタイトル** ▶ データの分析と結果に対する洞察**担当教員** ▶ 諸橋 正幸**■講義目的**

インターネットを核とするネットワーク上での情報の扱いがビジネスの世界で注目されている。また、扱うデータも数値だけでなくテキストが大きな比重を占めている。それらの情報を分析する技術を用いて、我々は何かができるのか、その結果を社会のなかでどう活かしていくのかを考える。

■講義分類

ビジネスICT
ビジネス創造
社会力育成

■到達目標

技術に基づいた客観的思考ができ、それを明確に表現できること

■講義形態

各自がそれぞれ自分のテーマを持ち、データ収集・分析・結果に対する考察を行い、発表する。

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ゼミは個人研究の進捗状況報告とそれに対するアドバイスを割り当てているので、予習・復習が研究推進（および達成）のために必須である。

■講義の概要

分析ツールを単に使いこなすだけでなく、どんなデータからどんな結論が導き出されているのかを明確に理解し、それを他人に説明できることで、どんな課題に対しても論理的思考に基づく意見表明ができる社会人を育てあげる。

■教科書**■指定図書**

各自のテーマに合わせて、必要な書籍を紹介する。

■参考文献・参考URL / Reference List**■評価方法**

卒業論文による。

■評価基準

評価P（合格）：各自設定した研究テーマを発表し、卒業論文として提出すること。
評価F（不合格）：研究成果のSRCでの発表と卒業論文の形による提出がなされない場合に不合格となる。 研究の質の評価と向上はゼミ時間における進捗報告の際にチェックする。

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

実施しない

■留意点

科目名 インターゼミ (Inter Seminars)

サブタイトル 寺島学長ゼミ (社会工学研究会)

担当教員 寺島・久恒・諸橋・金・中庭・バートル・奥山・小林・久保田・中澤・木村・荻野・SGS:安田・市岡・(大学院:河野)

■講義目的

現代社会の抱える課題について、学部・大学院・学年・社会人などをまわいで塾形式で切磋琢磨しながら、多様な要素や手法を組み合わせた柔軟な発想で、体系的・総合的な答を志向する総合設計力を身に付ける。

学生自身による問題発見・発見から仮説の提示、そして多様な要素の組み合わせによる問題解決へ至るプロセスの中で、寺島学長以下、学内の教員や社会で活躍する学外の専門家による付加価値を高め、創造的問題解決策を志向する。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成
グローバルビジネス
ビジネスICT
地域ビジネス

■到達目標

①選択したテーマについて、文献調査・フィールドワーク・考察・執筆を行い、1年後に論文を完成させる。②産業社会の持つ課題を発見し、解決へのアプローチを目指す論文内容へと指導する。

■講義形態

講義 + 文献調査 + グループワーク + グループディスカッション + フィールドワーク + プレゼン

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

①各テーマに従って文献一覧を作成する。
②フィールドワークをアレンジする。(調査場所の設定、相手先への連絡、日程調整、学芸員やガイドなどの手配)
③年間スケジュールを作成する。(文献調査、フィールドワーク、調査分担、論文作成分担)

■講義の概要

下記から希望する分野・グループを選ぶ。

- ①多摩学
 - ②サービス・エンターテインメント
 - ③アジアダイナミズム
 - ④地域研究
 - ⑤エネルギー・環境
- <第1講>オリエンテーションと学長講話
<第2講>学長講話と自己紹介
<第3講>グループ分け作業
昨年のテーマおよびグループ
- ①多摩学
 - ②サービス・エンターテインメント
 - ③アジアダイナミズム
 - ④地域研究

<第4講>グループの決定と詳細テーマの検討
<第5講>学長講話と各グループの担当教員と学生からの進捗報告
<第6講>学長講話とグループワーク
<第7講>教員講話とグループワーク
<第8講>グループワークおよびフィールドワーク
<第9講>グループワークおよびフィールドワーク
<第10講>学長講話と各グループの進捗状況報告
<第11講>研究計画の発表と学長のアドバイス
<第12講>学長講話と学長のグループ別指導
<第13講>学長講話と学長のグループ別指導
<第14講>学長講話グループワーク
<第15講>春学期は稲根合宿 (8月中旬、1泊2日) での中間発表。秋学期は最終発表と完成論文の提出。

■教科書

- ①『世界を知る力』(寺島実部、PHP新書、2010年)
- ②『世界を知る力 日本創生編』(寺島実部、PHP新書、2011年)

- ③『何のために働くのか-自分を創る生き方-』(寺島実部、文春新書、2013年)
- ④『若き日本の肖像-1900年、欧州への旅-』(寺島実部、新潮文庫、2014年)

■指定図書

- ①『二十世紀から何を学ぶか(上)(下)』(寺島実部、新潮選書、2007)
- ②『磁力のレッスンI -正気の時代のために-』(寺島実部、岩波書店、2004)
- ③『磁力のレッスンII -脱9.11への視座-』(寺島実部、岩波書店、2007)
- ④『磁力のレッスンIII -問いかけとしての戦後日本と日米同盟-』(寺島実部、岩波書店、2010)
- ⑤『磁力のレッスンIV -リベラル再生の基軸-』(寺島実部、岩波書店、2014)
- ⑥『時代との対話 寺島実部対談集』(寺島実部、ぎょうせい、2010)
- ⑦『新しい世界観を求めて』(寺島実部、毎日新聞社、2010)
- ⑧『大中華圏-ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る-』(寺島実部、NHK出版、2012年)
- ⑨『時代を見つめる「目」』(寺島実部、潮出版、2013)

■参考文献・参考URL / Reference List

<http://www.tama.ac.jp/terashima/>

■評価方法

出席(25%)、グループワーク貢献度(25%)、中間および最終発表(50%)の割合で評価する。
①出席率を重視する。
②問題意識の鋭化、テーマ設定、文献調査、フィールドワークなどグループワークへの貢献度。
③1年間にかけて共同で論文を完成させること。

■評価基準

評価P (合格) : 出席(25%)、グループワーク貢献度(25%)、中間および最終発表(50%)の合算点が、60%以上であること。
評価F (不合格) : 出席(25%)、グループワーク貢献度(25%)、中間および最終発表(50%)の合算点が、59%以下の場合是不合格とする。

■履修していることが望ましい科目

グローバルビジネス系、地域ビジネス系、ビジネスICT系のすべての科目に関連する。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

- ①毎回出席すること。欠席時は、必ず連絡すること。
- ②夏季合宿に参加すること。
- ③寺島学長の講演会やセミナーなどに積極的に参加すること。

科目名 ▶▶▶ プロジェクトゼミ (Project Seminars)

サブタイトル ▶▶▶ 環境問題を考えて、ビジネスコンテストにしよう!

担当教員 ▶▶▶ 荒木 恵理子

■講義目的

来に生きることもたちへ豊かな自然と安心して生活ができる地球環境を残すための「環境問題」をテーマとして、様々な分野の企業やNPOの環境活動を学習し、人々にどんな環境活動や教育・ビジネスを行えば意識変化及び行動変容をもたらすことができるかを検討し実施することで、社会課題解決基礎力をつける。

※春学期、秋学期と通期で受けることを推奨。

■講義分類

環境、課題解決、ビジネス創造、社会力育成

■到達目標

- ・環境問題を切り口に、世の中について知る。
- ・各分野の企業やNPOの環境活動を学習し環境ビジネスのアイデア及び事業案を創出のための既存の環境活動・環境ビジネスについて分析を行い、秋講座（大学生向けピジョンへの参加体験）への準備とする。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

調査などの事前準備（ゼミで発表のため）有

■講義の概要

<第1～4講>

概要：環境問題の全体概要1～4

※途中、PCでの情報検索などもあり。

<第5～7講>

概要：環境映像および環境施設で学ぶ

※2回ほど施設を視察する。

<第8～11講>

概要：ビジネス創出基礎スキル1～4

※エクセル、パワーポイントを使用。

<第12～15講>

概要：企業や団体のリサーチ1～4

※PCでの情報検索、エクセル、パワーポイントを使用。

■教科書

特に指定しない

■指定図書

「eco検定(環境社会検定試験)®」公式テキスト

■参考文献・参考URL / Reference List

講義内で指示する。

■評価方法

講義への参加度50%、提出物の内容評価やプレゼン50%

■評価基準

評価P（合格）：講義への参加度（単なる「出席」ではなく積極的な発言や共同作業への関与度を評価）および提出物の内容評価やプレゼンの総合評価を行う。

WS等ではPCを使用するためPC持参は必須とする。

評価F（不合格）：講義への参加度（単なる「出席」ではなく積極的な発言や共同作業への関与度を評価）および提出物の内容評価やプレゼンの総合評価を行う。

■履修していることが望ましい科目

マーケティング、アカウンティング

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・春学期、秋学期と通期で受けることを推奨。
- ・PC持参（ただし、講義以外での目的での使用はしないこと、講義以外での使用の場合には評価対象外となる）。
- ・積極的に考え議論し、問題意識をもってリサーチし、その中からビジネスについて積極的に学ぶ姿勢、ビジネス創出への意欲をもって取り組める学生を対象とする。

科目名 プロジェクトゼミ(Project Seminars)**サブタイトル** 就職活動に役立つ、自己プレゼン力養成**担当教員** 伊藤 暢人**■講義目的**

実際に企業について研究した後、対象企業を訪問。対象企業の立場に立ってカイゼン策や新製品などをチームで考え提案する。これにより、企業の担当者を納得させるプレゼンテーション能力を養成する。訪問対象は、経営に理念を持つ志企業。産業社会における問題解決のための方法を、実際の企業を対象に学んでいく。こうした手法を身に着けることにより、実際の就職活動で必須となる自己プレゼンテーション力を高めていく。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解 ビジスマネジメント 社会人力育成 ビジネスICT 地域ビジネス

■到達目標

自ら集めた情報に企業側からの情報を加え、相手が納得するプレゼンテーションを実施できるようになることを目標とする

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業時間中にプレゼンテーションが完成できない場合は、次の時間までにプレゼンテーションを用意しておくこと

■講義の概要

- 第1回 オリエンテーション+ホッピービバレッジについて個人で発表(課題図書「ホッピービバレッジの教科書」を読んでおくことが望ましい)
- 第2回 若者の間でホッピーの認知度を上げる方法についてチームでプレゼンを作成、発表
- 第3回 プレゼンを修正し、企業での質疑応答の対策を練る
- 第4回+第5回(2コマ分) ホッピービバレッジを訪問し、担当者の説明を受ける。質疑応答も
- 第6回 ホッピービバレッジに対するプレゼンテーションを修正
- 第7回 若者の間でホッピーの認知度を上げる方法についてプレゼン(評価対象)
- 第8回 ウェブを使い中古マシンのリノベーションサービスを提供する新興企業、リノベるについて個人で発表(課題図書「「明るいバカ」が最高のチームを創る」を読んでおくことが望ましい)
- 第9回 若者の間でリノベるの認知度を上げる方法についてチームでプレゼンを作成、発表
- 第10回 プレゼンを修正し、企業での質疑応答の対策を練る
- 第11回+第12回(2コマ分) リノベるを訪問し、担当者の説明を受ける。質疑応答も
- 第13回 リノベるに対するプレゼンテーションを修正
- 第14回 若者の間でリノベるが知名度を上げる方法についてプレゼン(評価対象)
- 第15回 ホッピーカリノベるのいずれかを選んで最終プレゼン(評価対象)
(訪問企業の都合によりスケジュールは変更になることもある。また企業訪問は2コマ分を要するため、その分はほかの日を休講とする)

■教科書

なし

■指定図書

「ホッピーの教科書」(日経BP社刊)、「「明るいバカ」が最高のチームを創る」(日経BP社刊)

■参考文献・参考URL / Reference List

ホッピービバレッジのホームページ(<http://www.hoppy-happy.com>)
リノベるのホームページ(<http://www.renoveru.jp>)

■評価方法

出席30%。学期中合計3回程度のプレゼンテーションを実施し、その評価が合計70%

■評価基準

評価P(合格) : 学期中、授業中に3回プレゼンテーションの機会を設け、その内容を総合的に判断する。試験やレポートは行わない。利き手を納得させる内容のプレゼンテーションができれば合格。

評価F(不合格) : プレゼンテーションの回数が不足したり、内容が不十分だった場合は不合格となる。

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

試験を実施しないので、再試験も実施しない

■留意点

学期中、2~4回程度、実際に企業を訪問する。その場合は2コマ分となり、その分は別の日を休講とする。2限目を取っている学生については、担当の教員にこの授業の教員から対応を依頼する。訪問先の企業の都合によってはスケジュールが変更になることもある。また、対象企業そのものが変更になることもありうる。

科目名 プロジェクトゼミ (Project Seminars)

サブタイトル

担当教員 大風 薫

■講義目的

コンビニエンスストアやスーパーマーケットなどの各種流通チャネルで売られている食品は、一体どのように作られているのでしょうか。食品メーカーでは、メーカーと呼ばれる人たちが、日々、消費者のニーズを探索し、消費者の心をつかめるような製品を開発するべく努力しています。そして、開発した製品を市場にデビューさせ、持続的な売上や利益を獲得できるようなマーケティング活動をしています。

本ゼミナールでは、さまざまな食品および食品メーカーの事例を研究し、新製品の企画とマーケティング戦略を作成します。食品だけではなく、メーカーの仕事に興味・関心のある学生の参加を期待します。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント

■到達目標

1. 食品メーカーで行われているマーケティングや新製品開発の実際に対する理解が深まる
2. 食品メーカーのマーケティングや新製品開発事例について、そのような活動が行われている理由や目的を、分析的に推測できるようになる。また、そのような事例に対して、生活者(消費者)の視点で問題点を探り、改善策が提案できるようになる。
3. 新製品の企画やマーケティング戦略の立案ができるようになる。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

1. 指定図書を読み、以下の内容についての事前学習をしておくこと。
 - ・マーケティング戦略、マーケティング・ミックス
 - ・顧客ターゲット
2. 食品の流通チャネルを観察しておくこと。
 - ・店頭(スーパーマーケット・コンビニエンスストア・ドラッグストア・駅売店など)
 - ・自動販売機
 - ・インターネットチャネル ほか
3. 定期的に新聞、関連雑誌・書籍などを読み、食品メーカーの経営環境や製品に関する情報を収集しておくこと。

■講義の概要

- 第1回 オリエンテーションと食品メーカーの新製品開発・マーケティング戦略の講義：
食品メーカーの経営環境と近年のマーケティングや新製品開発の傾向の説明
- 第2回～第7回<第1ステップ>：調査・研究・発表
—以下のテーマに沿ってグループごとに調査・研究を実施し、その結果を逐次発表し、ゼミナール内で知見を共有する。
- 第2回～第4回：食品メーカー・新製品の調査・研究・発表：
HP、新聞、その他情報源を探索し、興味関心のある食品メーカーとその競合企業、製品戦略についての調査・研究を行い、発表してもらう
- 第5回～第7回：食品が売られている流通チャネルの調査・研究・発表：
店頭観察、HP、新聞、その他情報源を探索し、食品の流通チャネルについての調査・研究を行い、発表してもらう
- 第8回～第12回<アイデア開発、アイデア評価の実施>
—具体的なカテゴリーを想定し、新製品のアイデアを作成する。その後、アイデアのユニークさや受容性を評価するためのマーケティング・リサーチを実施し、調査結果を踏まえたうえで、アイデアのブラッシュアップをしていく。
- 第8回～第9回：アイデア創出：
これまでの研究をもとに、ターゲット消費者を想定した上で、新奇性のあるユニークなアイデアを創出する
- 第10回～第12回：アイデアの評価とブラッシュ・アップ
アイデアの相互評価から、改善点を抽出し、アイデアのレベルアップを行う。
- 第13回～第15回<新製品の企画・マーケティング戦略の作成>
—第1・2ステップをもとに新製品の企画・マーケティング戦略を立案し、発表する

■教科書

なし

■指定図書

- ①小川孔輔(2009)『マーケティング入門』日経新聞社。
②田中洋(2010)『マーケティング・リサーチ入門』ダイヤモンド社。

■参考文献・参考URL / Reference List

ゼミ内で適宜案内する

■評価方法

出席率：50%
調査・研究への参加、課題への取り組み：40%
最終プレゼンテーションの実施：10%

■評価基準

評価P(合格)：全15回中12回以上出席することが、単位取得の最低条件である。その上で、指示された調査・研究に誠実に取り組むこと、最終プレゼンテーションを実施することが必要になる。

評価F(不合格)：出席が足りない場合、出席はしているが調査・研究への取り組み不足が目立つこと、最終プレゼンテーションへの不参加

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対面再試験の実施

なし

■留意点

- ・ゼミの課題はグループで取り組むため、特段の理由がない限り欠席は認めない
- ・20分以上の遅刻は欠席とみなす
- ・単に出席だけして、ゼミ中の調査・研究・発表に取り組まない場合は、途中で履修を辞退してもらうことがある
- ・第1回目のゼミに出席しないものの履修は認めない

科目名 プロジェクトゼミ(Project Seminars)

サブタイトル 日本と世界-メディアを通して考える

担当教員 荻野 博司

■講義目的

米国で広がる格差社会への異議申立て、不安定さが残る欧州通貨ユーロ、中国のめざましい台頭、韓国との熾烈なライバル関係。世界でこれまでの秩序や常識を覆す事態が進んでいる。その根底にあるもの、これからの方向について、新聞やウェブなどのメディアも活用しながら探っていく。毎回、ゼミ生の発表をもとに授業を進める。それにより情報を主体的に取り込む姿勢を習得することも目指す。
企業訪問の直前になって新聞を読みだす「にわか勉強」では得られない内容の濃いものとし、それぞれの問題解決力を高める。グローバル化に伴って日本政府や企業が解決を迫られる問題を想定し、どのように取り組んだらいいのかをチーム単位で考える機会を設ける。また、小論文の書き方も指導したい。

■講義分類

ビジネス環境理解
 ビジネス創造 ビジネスマネジメント 社会力育成
 グローバルビジネス ビジネスICT

■到達目標

1. 欧米やアジアの変容について、歴史的な視点で考える。
2. メディアの情報を掘りかきするのではなく、その背景も考えて批判的に吸収するメディアリテラシーを得る。
3. 自らの体験を世界の変化と連動させてとらえ直し、産業社会の将来像を考える。
4. 最終的には、自らの考えを積極的に伝える姿勢を確立し、企業社会での活動に役立てる。
5. 自らの視点を盛り込んだ小論文を書く能力を得る。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業前には、その日のテーマに関する報道を読み込んでくるとともに、担当となったゼミ生の発表に対して、積極的に質問を寄せる。

■講義の概要

- <第1講>
 概要：情報の取り込み方
 事前学習しておくべき用語やポイント：[新聞の読み方、テレビの見方]
- <第2講>
 概要：日本経済の現況1=アベノミクス前夜
 事前学習しておくべき用語やポイント[アベノミクス、デフレ、バブル]
- <第3講>
 概要：日本経済の現況2=アベノミクス登場
 事前学習しておくべき用語やポイント[金融、財政、成長戦略、消費税]
- <第4講>
 概要：日本経済の現況3=悪魔のシナリオ
 事前学習しておくべき用語やポイント[財政赤字、デフォルト]
- <第5講>
 概要：TPPと日本1
 事前学習しておくべき用語やポイント[TPP、自由貿易]
- <第6講>
 概要：TPPと日本2
 事前学習しておくべき用語やポイント[食料自給率]
- <第7講>
 概要：米国経済の現況
 事前学習しておくべき用語やポイント[米国の政治制度]
- <第8講>
 概要：米国各論=格差社会
 事前学習しておくべき用語やポイント[ウォール街]
- <第9講>
 概要：米国各論=財政危機
 事前学習しておくべき用語やポイント[財政の崖、ティーパーティー]
- <第10講>
 概要：欧州経済の現況
 事前学習しておくべき用語やポイント[E.U.]
- <第11講>
 概要：欧州各論=曲がり角の通貨統合
 事前学習しておくべき用語やポイント[ユーロ]

<第12講>

概要：アジア経済の現況1=中国
 事前学習しておくべき用語やポイント[人民元]

<第13講>

概要：アジア経済の現況2=韓国、ASEAN
 事前学習しておくべき用語やポイント[ガラパゴス化]

<第14講>

概要：日本の将来
 事前学習しておくべき用語やポイント[市場経済]

<第15講>

概要：補論 これまでの授業で論じきれなかったテーマについて、とりあげる。

■教科書

必要に応じて、授業の中で指示する。

■指定図書

必要に応じて、授業の中で指示する。

■参考文献・参考URL / Reference List

必要に応じて、授業の中で指示する。

■評価方法

ゼミ活動に取り組む姿勢を評価する。とくに、それぞれに割り振られた報告については、その内容を重視する。

具体的には、絶対評価として以下のような観点から判定する

1. 現在起こっている問題の概要を理解しているのか。
2. 国際的な問題を自らの視点から論じられるか。
3. 説得力のある説明ができるか

■評価基準

評価P (合格) : 所定の出席回数を見たり、ゼミ内での課題発表を終えた者
 評価F (不合格) : 所定の出席回数を見たりしていない者。ゼミ内での課題発表を行わなかった者

■履修していることが望ましい科目

経済原論
 証券市場論
 英語読解 (時事問題)
 ジャーナリズム論

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

実社会に出ていく皆さんに、付け焼き刃でない知識を習得してもらうことが最大の狙いであり、新聞など活字メディアからの情報の取得により、しっかりとした考え方を身につけてもらいたい。また、メディア関連業界への就職を考える学生とは、別途、指導の機会を設ける。

科目名 ▶ プロジェクトゼミ (Project Seminars)

サブタイトル ▶ ダイレクトマーケティング

担当教員 ▶ 栢原 伸也

■講義目的

人は問題を抱えると、早く解決したいと思うため、「思い付き」で、一面的に対処しようとしてしまう傾向がある。このような姿勢では、問題を正しく解決することができない。

問題は、全体像を把握した上で、解決の方法を探らなければならない。そこで、ダイレクトマーケティングという概念の理解と実践を通して、物事の全体像を把握するとはどういうことかを体感する。

<第15講>

概要： 価値の創造実践2

事前学習しておくべき用語やポイント[]

■教科書

無し

■指定図書

■講義分類

グローバルビジネス

■到達目標

- ①ビジネスの根幹である「価値の提供」を理解する。
- ②マーケティングのフレームワークを理解し、実践できる。
- ③ビジネスの全体像を体感する。

■講義形態

講義+GW

■準備学習 (学習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

関心のある企業の商品開発や広告宣伝について調べる。

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

出席30%

講義中の制作物 30%

講義中のレポート 40%

■評価基準

評価P (合格) : A+90点以上 A 80点から89点 B 70点から79点 C60点

から69点 F59点以下

評価F (不合格) : F59点以下

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

無し

■留意点

■講義の概要

<第1講>

概要： マーケットの歴史および市場の全体像

事前学習しておくべき用語やポイント[3C]

<第2講>

概要： マーケットを見る目1

事前学習しておくべき用語やポイント[4P]

<第3講>

概要： マーケットを見る目2

事前学習しておくべき用語やポイント[4C]

<第4講>

概要： ビジネスをして儲ける仕組み。

事前学習しておくべき用語やポイント[ビジネスモデル]

<第5講>

概要： ダイレクトマーケティングの構造

事前学習しておくべき用語やポイント[顧客関係性・顧客データベース]

<第6講>

概要： ダイレクトマーケティングの魅力1

事前学習しておくべき用語やポイント[レスポンス広告]

ダイレクトマーケティングはテレビコマーシャルなどと何が違うだろうか？

<第7講>

概要： ダイレクトマーケティングの魅力2

事前学習しておくべき用語やポイント[アイドマの法則]

<第8講>

概要： ダイレクトマーケティングの種類1

事前学習しておくべき用語やポイント[]

<第9講>

概要： ダイレクトマーケティングの種類2

事前学習しておくべき用語やポイント[]

<第10講>

概要： 広告メールを見てみよう1

事前学習しておくべき用語やポイント[]

<第11講>

概要： 広告メールを見てみよう2

事前学習しておくべき用語やポイント[]

<第12講>

概要： ダイレクトマーケティングとブランド

事前学習しておくべき用語やポイント[]

<第13講>

概要： マーケティング分析

事前学習しておくべき用語やポイント[CPO・コンバージョン率等]

<第14講>

概要： 価値の創造実践1

事前学習しておくべき用語やポイント[]

科目名 プロジェクトゼミ(Project Seminars)**サブタイトル** アプリの開発～Webを活用して**担当教員** 梶原 裕**■講義目的**

昨今開発されている、インターネットを介したアプリ開発においては、様々なツールやインターネット上で提供されているサービスのAPI を用いて構築が行われている。
このプロジェクトゼミでは、開発の現場で使われているツールや技法を学び、実践として、それらを用いてPC やスマートフォンから利用するWeb アプリ開発を行う。
また構築を通じて、Webアプリケーションの仕組みを理解し、Web アプリケーション活用・開発のスキル習得を目標とする。

■講義分類

ビジネスICT

■到達目標

- (1)DB を活用したWeb アプリケーションの仕組みを理解する。
- (2)Java・Spring Framework を学習し、利用する。
- (3)JavaScript(AngularJS) を学習し、利用する。
- (4)レスポンシブデザインを学習し、利用する。
- (5)WebAPI を活用し、利用する。
- (6)Web データベースシステムを設計し、開発する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
その他(PCを使用した実習)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ツールの使い方等においては、授業の復習を推奨

■講義の概要

<第1 講>

概要: オリエンテーション

事前学習しておくべき用語: Eclipse Git

<第2 ～3 講>

概要: DI コンテナ・O/R マッパー

事前学習しておくべき用語: DI コンテナ・O/R マッパー

<第4 ～5 講>

概要: REST API 概要

事前学習しておくべき用語: RESTAPI SpringMVC

<第6 ～7 講>

概要: レスポンシブデザイン

事前学習しておくべき用語: Bootstrap レスポンシブデザイン

<第8 ～9 講>

概要: フロントエンドプログラミング

事前学習しておくべき用語: AngularJS

<第10 講>

概要: デプロイ

事前学習しておくべき用語: Heroku PaaS

<第11 ～15 講>

概要: Web アプリケーション開発

事前学習しておくべき用語: なし

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

はじめの Spring Boot: 帆 俊明 著

その他適宜紹介

■評価方法

課題提出(50%)、システム開発(30%)、平常点(20%)

■評価基準

評価P(合格) : 授業内容を理解し、課題提出を行った。

評価F(不合格) : 課題提出を行わなかった。

■履修していることが望ましい科目

Webサービス開発・Webプログラミングを履修、もしくはそれらと同程度の知識を学習

していることを前提とする。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

PC持参必須

この授業では実際に開発の現場で用いているツールや技法を用いるが、それらの習熟の時間は授業内では設けることはできないため、講義時間外に自ら理解を深める努力が求められる。

受講者数や受講者の技術レベルにより、Webを活用するアプリ開発という範囲内で難易度および題材が変わる可能性がある。

科目名 プロジェクトゼミ (Project Seminars)

サブタイトル 地域の歴史と偉人から学ぶ問題解決のための理論

担当教員 河合 敦

■講義目的

史跡・遺物、史資料を用いて偉人や地域の歴史を学習することによって、志を養うとともに、問題解決の方法や実践的知識を獲得する。

■講義分類

顧客理解 社会人育成 地域ビジネス

■到達目標

本講義で学習した偉人の生涯や地域の歴史的事象を、現代社会や自身の問題に置き換えてとらえ、教訓や問題解決のための理論として役立てることができるようにする。

■講義形態

講義+GD+PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

地域の史跡散策、資料館・博物館等の見学など、校外学習を3回予定しているので、事前に行先についての下調べを行い、事後に小レポートを提出する。また、後半に各自プレゼンテーションを実施するので、そのための準備学習が必要である。

■講義の概要

第1回 「オリエンテーション」

本講義の目的・概要等の説明。本講義の評価について。

第2回 「歴史学とは何か。なぜ人は歴史に学ぶなくてはならないのか」

近代歴史学の流れや概要を説明する。同時に近年の歴史研究の動向について解説する。歴史を今にどう生かすかについて具体例を挙げて話す。

本講義では最後に「偉人の行動や歴史的な事件等をどのように生かすか」ということをテーマにプレゼンを行い、それをレポートにまとめて提出させるが、次回までテーマや概要を提出できるよう、具体例や材料を提示する。

到達目標：歴史学の概要について認識できるようにする。最新の歴史学の潮流について理解させる。

第3回 「幕末の志士の生き方から学ぶ問題解決のための理論」

パワーポイントを使って、坂本龍馬、勝海舟、吉田松陰など幕末の志士の生き方を現代にどのように生かすことができるかを講義する。また、彼らの意外な逸話についても紹介する。

次回の校外学習について連絡する。現段階で聖蹟記念館を予定。同館に展示されている志士について学習していく。

到達目標：幕末の志士たちがさまざまな知恵をしばって問題解決をはかったこと、大きな志を抱いて行動したことを理解させる。

第4回 「第1回 校外学習 地域にある資料館・博物館を見学する」

行先：聖蹟記念館 (予定) 幕末の志士の墨跡、貴重な建物を見学する。可能であれば学芸員の説明を受ける。次回は、校外学習についての小レポートを提出する。

到達目標：大学の周辺にも有名な幕末の志士に関する史料、貴重な建造物があることを認識させる。

第5回 「実際の遺物・史料に触れてみよう」

縄文土器、石器、埴輪、江戸時代の本、版木、日露戦争の兵の手紙、地券、衣料付符など、古代から近代の遺物や史料に実際に触れ、歴史を体感してもらう。また、そうした遺物や史料についての来歴やそこから何が学べるのかを講義する。前回の小レポートを提出させる。次回の校外学習について説明する。

到達目標：具体的な歴史的遺物や史料に触れ、歴史に興味・関心を抱かせ、自ら学ぶようとする意欲を高める。

第6回 「第2回 校外学習① 自由民権の里を歩く」

自由民権運動 (町田市) の拠点を散策する。鶴川に集しバス等を使って、現地へ向う。自由民権運動が盛んだった野津田地域の史跡、自由民権資料館等をめぐる。資料館では学芸員から資料を見せてもらうとともに、書庫に入れてもらい、地域の歴史資料がどのように保存されているかを学ぶ。

到達目標：地域に所蔵されている歴史資料や偉人の足跡に触れることで、歴史に興味を持たせるとともに、自ら歴史や偉人に学ぶようとする意欲を高める。

第7回 「第2回 校外学習② 自由民権の里を歩く」

第6回と同日に実施。概要、講義の詳細、到達目標は第6回と同様。

校外学習についての小レポートを次回までに提出する。

第8回 「前回の校外学習の事後学習。次回の校外学習の事前学習」

前回の校外学習「自由民権の里を歩く」で学んだ点、感想等を互いに話し合う。また、前回学んだことをどのように現代に生かせるかを論点にしてディスカッションをおこなう。

次回の校外学習についての事前学習を行う。

前回の小レポートの提出。

第12回以降のプレゼンテーションについて、具体的なテーマを考えさせる。

到達目標：前回の校外学習の体験をふまえて、ディスカッションをおこなうことによって、歴史が現代に役立つことを実感させる。

第9回 「第3回 校外学習① 新撰館の活動拠点・小野路を歩く」

多摩センター駅に集合し、江戸時代の宿場町である小野路の宿を散策する。同地には新撰館の局長・近藤勇と義兄弟を結んだ小島慶之助の子孫が運営する小島記念館もあるので、可能であれば特別に開館してもらい新撰館に関する資料を拝観する。大山街道、小野神社、小野路城などを見学する。

到達目標：地域に所蔵されている歴史資料や偉人の足跡に触れることで、

歴史に興味を持たせるとともに、自ら学ぶようとする意欲を高める。

第10回 「第3回 校外学習② 新撰館の活動拠点・小野路を歩く」

第9回と同日に実施。概要・内容の詳細・到達目標は第9回と同様。

校外学習についての小レポートを次回までに提出する。

到達目標：地域に所蔵されている歴史資料や偉人の足跡に触れることで、

歴史に興味を持たせるとともに、自ら学ぶようとする意欲を高める。

第11回 「プレゼンテーションの準備学習」

前回の校外学習についてのテーマを提出させる。

偉人や歴史をどのように現代や自分の生活に役立てるかというテーマをとし、具体的な人物や事件を選び、自分なりに考えたことをさまざまな方法で発表する。Pワロだけでなく、講義形式、劇など発表形式は自由。

次回以降のプレゼンテーションの方法について、具体的に説明する。

ある程度決めていた発表の順番を最終的に決定する。

到達目標：歴史を学ぶことが、現代の問題解決に役立つことを認識させる。

次回以降のプレゼンテーションのやり方について、理解させる。

第12回 「学生によるプレゼンテーション①」

受講生の人数によるが、1~10分程度のプレゼンを予定。

それを聞いたの質疑応答。教員の講評。

到達目標：短時間で他者に対してわかりやすい適切なプレゼンをおこなうことができる。

人の発表をしっかりと聞いて、自分なりの意見を伝えることができる。

第13回 「学生によるプレゼンテーション②」

講義の概要・内容の詳細・到達は第12回と同様。

第14回 「学生によるプレゼンテーション③」

講義の概要・内容の詳細・到達は第12回と同様。

第15回 「本講義のまとめ」

これまで本講義で学習・体験したことをふりかえり、歴史や偉人の生涯が今を生きていくうえで、あるいは自分の将来に大いに役立つことを再認識してもらう。

到達目標：本講義で学習した偉人の生涯や地域の歴史的事象を、現代社会や自身の問題に置き換えてとらえ、教訓や問題解決のための理論として役立てることができるようにする。

■教科書

なし。その都度、必要に応じてテキストはこちらで準備する。

■指定図書

なし。

■参考文献・参考URL / Reference List

なし。

■評価方法

出席点15%、小レポート(3回分)30%、プレゼンテーション10%、レポート45%

■評価基準

評価P (合格) : ①出席点(15点) …出席が1回につき1点。 ②小レポート(30点) …3回×各10点 ③プレゼンテーション(10点) ④最終レポート(45点)

①~④の合計C++~Fまでの評価をおこなう。 A+100点~90点、A89点~80点、

B79点~70点、C69点~70点

評価F (不合格) : 59点以下

■履修していることが望ましい科目

なし。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

校外学習を2~3回予定している。そのうち2回程度は180分を考えており、講義2回

分として計算する。なお、校外学習は通常の授業日を想定。ただ、具体的には授業者と相談のうえ決定する。

科目名 プロジェクトゼミ (Project Seminars)

サブタイトル メディア実践論Ⅰ～メディアをつくる・大学発情報発信をめざして～

担当教員 木村 知義

■講義目的

メディアの世界に「新しいうねり」が起きている。

ICT(情報通信技術)のめざましい発展によって、これまでは情報の「受け手」としてしか存在しえなかった我々が情報発信の主体、「送り手」になれる時代がやってきました。「オルタナティブ・メディア」あるいは「コミュニティ・メディア」といわれる、市民によるメディア発信も、世界各地で活発におこなわれている。また、従来の「受け手」(視聴者)が自ら番組を企画・制作して放送に参画する「パブリック・アクセス」といわれる試みもはじまっている。さらに、フェイスブックやツイッターといったソーシャルメディアを活用した新たな情報発信をめざましい広がりを見せている。

しかし、それだけに、何を、どう伝えるのが深く問われる時代だといふべきである。

こうした時代認識と問題意識に立って、プロジェクトゼミ「メディア実践論」では、社会や地域を見つめ、自らテーマを発見し、企画、取材、編集といった、メディアにかかわる全プロセスを体験することで、課題発見能力、企画力、取材力、そして問題解決能力にいたる総合的な力の獲得をめざす。

これらの取り組み、学びによって、なによりも実社会で通用する実践的知識と能力の獲得、醸成をめざす。同時に、メディアリテラシーとコミュニケーション能力を鍛え、社会と人間へのまなざし、ものの見方、考え方を深め、現代社会で生きていくために不可欠な人間の陶冶をめざす。さらに多様な発想にもとづくメディア実践を通して、現代社会におけるメディアの使命と責任、ビジネスICTの現状と可能性についても学ぶ。

合言葉は、輪足は多摩に、目は世界に、トキメキのメディア実践論へ!

■講義分類

社会力育成 ビジネスマネジメント ビジネスICT ビジネス創造

■到達目標

1. 広く社会に目を向けて、テーマを見つけ、企画を立て、取材し、インタビューリポートをひく。自らのことばで語り、伝えることができる。
2. 映像や音声によるドキュメンタリーの企画から取材、編集など番組制作にかかわる全過程を体験し、メディア制作についての知識と実際的な技法、方法について修得して、社会に向けて情報発信できる。
3. 多摩大学「学生ジャーナル」の取材、編集に参画して、大学発の情報発信を担う。
4. 多摩地域をベースにしたゼミ活動などと連携し、地域社会に根ざすコミュニティメディアの創造にむけての活動を担う。
5. これらの取り組みによって、課題発見能力、企画力、そして交渉力をはじめとするマネジメント能力、問題解決能力を鍛え、実社会で活用できる水準に到達する。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(学習・復習等) 必要となる場合はそれに準ずる程度の具体的な学習内容

教室で学んだ知識、制作技法にもとづいて、学外での取材やロケに取り組み。また編集作業なども自主的にする。指定する放送番組などを視聴して企画や編集、制作技法を吸収する。配布資料や指定図書を読み込んで、企画・制作にかかわる具体事例についても学ぶ。

■講義の概要

当プロジェクトゼミは、2008年からインターネットラジオでの発信をイメージした音声番組の企画、制作ワークを積み重ね、2011年からはステージを新たに、映像メディアの企画、制作に踏み出した。さらに2012年秋季学期から「学生ジャーナル」の取材・編集に参画することで、音声、映像、活字といったメディアミックスによる情報発信へとフィールドを広げてきた。

2015年度は、大学の立地する多摩地域に貢献できるチャレンジングで創造的なメディア実践-情報発信のプラットフォームの構築に向けて、取り組みの一層の深化をめざす。

教室では「番組制作」の基本的なプロセスにそって各段階の作業に即した知識と実際の技法の修得をめざす。

1. 企画にむけてのリサーチ
2. 映像、音声、活字など各メディアについての基礎知識
3. 企画をどう立てるのか、企画書を書く
4. 構成を立てる
5. 取材交渉の実際
6. 映像撮影や録音取材などの基礎知識
7. ロケ取材・録音取材の実際
8. 編集ソフトの基礎知識と編集作業の実際
9. 再構成と編集手直し、ナレーションコメントの作成

10. ナレーション、字幕作成など、「完プロ」にいたるポストプロダクションのすべて
11. 情報発信の実際

こうした流れに沿って、番組の企画・制作にかかわる基本的な知識と技能の学習、習得をすめながら、学外に出て取材に組み込むことになるが、それぞれの制作ワークの進捗状況に応じて個別に対応しあわせてすすめることになる。

また、これらの取り組みと連携させながら、多摩地域における「コミュニティ・メディア」の創設-「多摩コミュニティFM放送局」の復活、再興に向けたプロジェクトについても同時進行で取り組む。

さらに、ロケ取材などの現場体験をもとに、年4発行の「多摩大学学生ジャーナル」の記事の執筆、編集に参画していく。

これらの取り組みの考え方のベースは、既成メディアとデジタル・Webとの融合という、いまメディアに起きている新たな潮流をふまえた「ハイブリッド・メディア」への挑戦にある。

「ハイブリッド・メディア」とは米、コロンビア大学大学院ジャーナリズム・スクールのシグ・ギスラー教授の「ハイブリッド報道」という提唱に触発された新たなマルチメディアをイメージしたものである。映像表現+音声表現+活字表現を融合して一体のものとして取り組み、デジタル・Webと連携して情報発信していくチャレンジである。

■教科書

なし。教材としてプリントを作成するほか、必要に応じてスライドや映像を準備する。

■指定図書

- 「メディアをつくる～「小さな声」を伝えるために～」白石草(岩波ブックレット2011年)
「映像制作入門 見せることへのファーストステップ」鈴木誠一郎ほか(ナカニシヤ出版2009年)
「市民メディアの挑戦」松本恭寿(リベルタ出版2009年)
「社会の今をみつめて TVドキュメンタリーをつくる」大船三千代(岩波ジュニア新書2012年)
「メディア・ルネサンス～市民社会とメディア再生～」津田正夫他(風媒社2008年)
「コミュニティ・メディア コミュニティFMが地域をつなぐ」金山智子編著(農徳義塾大学出版会2007年)
「メディアが震えた テレビ・ラジオと東日本大震災」丹羽美之ほか編(東京大学出版会2013年)

■参考文献・参考URL / Reference List

- 「ドキュメンタリーの語り方 ポトムアップの映像論」遠藤大輔(勁草書房2013年)
「311を撮る」森達也ほか(岩波書店2012年)
「シリーズ 日本のドキュメンタリー1 ドキュメンタリーの魅力」佐藤忠男編著(岩波書店2009年)
「送り手のメディアリテラシー 地域から見た放送の現在」黒田勇編(世界思想社2005年)
「現場主義の知的生産法」岡 満博(筑摩書房2002年)
「メディアリテラシー～世界の現場から～」菅谷明子(岩波書店2000年)
「それでもテレビは終わらない」今野聡・是枝裕和ほか(岩波ブックレット2010年)

■評価方法

数値上の評価配分の基本は、日常のゼミ活動への出席40% 自主的な取材・制作活動30%、制作成果の評価30%とする。

■評価基準

評価P(合格) : ゼミで修得したことをもとに取材し番組制作を完結させることが第一の評価基準となるが、結果だけではなく、各段階のゼミへの参加の姿勢をはじめ番組制作の全プロセス、プロジェクト活動での努力に真摯さ、積極性があるかどうかで評価。そのうえで、作り上げた作品のレベルとともに発想の豊かさで、企画力、実行力などを総合的に判断する。結果としての番組の出来具合、プロジェクトの目標実現力も大事だが、なによりも真摯に努力する姿勢や日常の積極性を重視する。

評価F(不合格) : ゼミに出席もせず、日常のゼミ活動への真摯さが欠如して、企画を出さず、取材も実行せずに番組制作を最後までやりとげることができない場合。

■履修していることが望ましい科目

「現代メディア論」のほかにICTにかかわる諸科目

■卒業年次生対象再試験の実施

なし。ただし、ゼミのテーマ設定の性格から、不合格とせざるを得ない場合は事前に本人と話し合い、納得性の上に判定する。

留意点

自ら調べ、考え、企画を立てて議論し、取材に歩き、編集に取り組むなど、相当ハードなワークになる。それぞれの自発性にもとづく創造的な「学びの場」をめざすので、チャレンジ精神に富む学生諸君の参加を呼びかけたい。同時に、将来、進路としてメディアでの仕事を志す学生はもちろん、それ以外の学生にとっても重要な、ものの見方や考え方、社会性などを実戦的に鍛え、総合的なコミュニケーション能力の鍛錬をめざしている。メディア志望者に限らず、多様な問題意識をもった学生の参画を期待する。

また「コミュニティFM放送局」の創設-再興プロジェクトでは目標の実現に向けて地域社会に訴え、共感を広げて目標の実現をめざすという、具体的な成果が求められることを十分覚悟して参加してほしい。

以下の諸点について、あらかじめ理解、覚悟したうえで参加すること。

*15回という限られた設定の中で目標を達成する必要があるので、病気、就活などやむを得ない場合を除いて、全回出席することが前提となる。

*また、ゼミ時間外に自主的に取材、編集などの作業に取り組むことが不可欠となる。

*秋学期までの30回を前提に作品の制作計画を立てることが必要になる場合も少なくないので、通年での履修が望ましい。

*「コミュニティFM放送局」再興プロジェクトは通年での取り組みが必須となる。

*重ねて、かなりハードなワークとなるが、かならず努力が実を結び大きな達成感、充実感を手にすることができることを確信する。

*番組の企画、制作に取り組む面白さ、楽しさと「苦労」を体験しながら、社会に出て通用する実戦的な力を身につけたいという、意欲に燃えた諸君の参加を待つ。

科目名 ▶ プロジェクトゼミ (Project Seminars)

サブタイトル ▶ ～多摩大OBより伝授～ プロジェクトマネジメントを活用し、志を達成する

担当教員 ▶ 田口 正剛

■講義目的

メイン目的：プロジェクトマネジメント基礎を習得し、実践の活用をする事で、人生を豊かに過ごす為のヒントを得ること
サブ目的：多摩大OB（講師）が社会に出てから得てきた事を、後輩に伝え、良い人生を送るヒントを得ること

■講義分類

ビジネス環境理解、ビジネスマネジメント、社会力育成

■到達目標

日常生活におけるプロジェクト（サークル活動、就職活動、引越、学園祭実施等）にて、プロジェクトマネジメントを活用できるようになり、志を達成できるようになること

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業前までに、プロジェクトマネジメント関連資料（進捗管理・課題管理等）の更新をしていく事。

■講義の概要

第1回～第4回

① 概要：プロジェクトマネジメント基礎について理解する。

② 事前学習ポイント：プロジェクトマネジメントとは、何か調査し、自分なりの見解をもておく。

事後学習ポイント：手法として知ったプロジェクトマネジメントを日常に落とし込んでいくとどんな時に効果が発揮できるか見つけてくる。

第5～8回

① 概要：プロジェクトチームに分かれて、実際にプロジェクトマネジメントを体感していく。1/2

② 事前学習ポイント：第4回までに学んだ手法を実際に活用するための再確認をしていく。

事後学習ポイント：プロジェクトを推進していく際に、プロジェクトマネジメント上のコントロールを実践していく。

第9回

① 概要：プロジェクト結果報告プレゼン及び、振り返り。

② 事前学習ポイント：プロジェクト終了プレゼンの準備。

事後学習ポイント：振り返り内容を次に活かしていく。

第10回

① 概要：キャリアマネジメントについて知る。

② 事前学習ポイント：将来どうなっていたいかを考えてくる。

事後学習ポイント：自分のキャリア/志について考える場を定期的に持つ癖をもつようにする。

第11～14回

① 概要：プロジェクトチームに分かれて、実際にプロジェクトマネジメントを体感していく。2/2

② 事前学習ポイント：前回の振り返り内容を再確認しておくことで、同じ失敗をしないようにする。

事後学習ポイント：前回の教訓を活かしているかどうか振り返る。

第15回

① 概要：プロジェクト結果報告プレゼン及び、振り返り。

② 事前学習ポイント：プロジェクト終了プレゼンの準備。

事後学習ポイント：振り返り内容を次に活かしていく。

最終レポート

・「プロジェクトマネジメントを活用して、志達成する」についてレポート作成して、講座終了とする。

■教科書

タイトル：PMプロジェクトマネジメント

著者名：中嶋 秀隆

出版元：日本能率協会マネジメントセンター

■指定図書

タイトル：プロジェクトを絶対に失敗させない! やり切りのための100のヒント

著者名：後藤 年成

出版元：日経BP社

■参考文献・参考URL / Reference List

タイトル：プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK?ガイド) 第5版 日本語版

著者：Project Management Institute, Inc.

出版元：Project Management Institute, Inc.

■評価方法

出席40%、授業内中間プレゼン20%、授業内期末プレゼン20%、最終レポート20%

■評価基準

評価P（合格）：下記配分で60%以上の達成

評価F（不合格）：下記配分で40%以下

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

科目名 プロジェクトゼミ (Project Seminars)**サブタイトル** 地域活性化のためのサービスの開発**担当教員** 田中 雄**■講義目的**

- (1) 誰でも利用できる地理情報システム(GIS)を知る。
- (2) 学校や公園など、地域のことを紹介する方法を考える。
- (3) 学んだ技術を使って、紹介するサービスなどを作成して、インターネットで公開する。

■講義分類

- ・ビジネスICT
- ・地域ビジネス

■到達目標

地域活性化につながるようなサービスを企画・開発する方法を学び、実際に開発して、インターネットで公開する。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

講義の概要に記載した事前に学習しておくべき用語やポイントについて、1時間程度、インターネットで調査しておく。

また、まちクエストを事前に遊んでおくことが望ましい。聖蹟桜ヶ丘駅や永山駅近辺に行くと、30分程度でいくつかのクエストをクリアできる。

■講義の概要

<第1～3講>

概要：ゼミ紹介、ソフトウェアのセットアップ、サービスの使い方

事前学習しておくべき用語やポイント：GIS、まちクエスト、散歩リンク、Googleストリートビュー、カシミール3D、山旅口ガー、GPS Master

到達目標：開発環境のインストールを完了させて、利用する予定のサービスを動かして、どのようなものかを知る。

<第4～6講>

概要：コンテンツの作成方法を学ぶ

事前学習しておくべき用語やポイント：GPSログ、まちクエスト、散歩リンク、Googleストリートビュー、カシミール3D、THETA

到達目標：GPSログを理解する。GPSログと写真を組み合わせる体験をする。

<第7～12講>

概要：企画と開発

事前学習しておくべき用語やポイント：まちクエスト、散歩リンク、Googleストリートビュー、カシミール3D、THETA

到達目標：企画書の作成と、コンテンツの作り込み。

<第13～15講>

概要：体験会

到達目標：コンテンツの完成と発表、データの提出。

■教科書

なし

■指定図書

茶谷幸治(2012)。「まち歩き」をしかける 学芸出版社

■参考文献・参考URL / Reference List

ゼミのページ。{<https://github.com/tanakaedu/semi15>}

散歩リンク。{<http://smp.am1.jp/doc/>}

まちクエスト。{<http://machique.st/>}

Google マップ ビュー。{<https://www.google.com/maps/views/>}

■評価方法

出席50%。実習・発表50%。

■評価基準

評価P (合格) : 出席80%以上、かつ、コンテンツを完成させて発表する。

評価F (不合格) : 評価Pの条件を満たせなかった場合。

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

- ・PCを持参する。
- ・スマートフォンとデジタルカメラも持っていれば持参することが望ましい。
- ・開発はチームで行う。
- ・プログラミングの技能は特に必要ではない。
- ・欠席しない。
- ・外を歩くことがあるので、歩きやすい恰好と、防寒対策をする。

科目名 ▶ プロジェクトゼミ (Project Seminars)

サブタイトル ▶ 考力塾 = "記憶力"での勝負は終わった、これからは"考える力"

担当教員 ▶ 富田 直美

■講義目的

混沌とした時代、未来、そこで力強く歩むあなたに最も必要な力、それが"考える力" = "考力"だ。

今までの世の中、特に日本では、先達の成功方法を記憶し、その通りに実行できる者が勝利者だった。しかし、そんな人生をCopy & Paste (コピペ) しても現在そして、将来の成功はありえない。

朗報なのはそんな記憶力での勝者である、日本の一流大学に入学を許可された、君達の人生でのライバル達は、この事実に対し気づいていない。 ⇒ BIG CHANCE しかもその大切な"考力"をしっかりと身に着ける塾も大学も見当たらない。

それをやるのが富田ゼミ。たった15回の授業で、あなたの鍛えられていない"考力"は著しく向上する。 今がその時！

9社のグローバルICT企業のトップマネージメントとコンサル企業を通じて多くの大人を知っているが、彼らも又、人生における"成功"について真面目に、そして真剣に考えている人は極めて少ない。 何故ならば考える事なしに生きてこれたという今までがあるからだ。

そこで、まずは、人生の成功のみならず、幸せな人生を日々歩んで行く為に絶対に必要な"考える力"="考力"を15回の授業の中で、鍛練し、身に付けて行く事がこのプロジェクトゼミの主目的である。

コピペや記憶力中心の生き方から、自らの考えに基づき生き方をできる一人前の"独立し、自由な大人"への"考力塾"である。

■講義分類

社会力育成 ビジネス環境理解 ビジネス創造 グローバルビジネス
ビジネスICT

■到達目標

人生で成功する為の自分自身のライフスタンダード (自己人生規範) の必要性を知り、実際の世の中へ出てから遭遇するであろう諸課題をポジティブ & 創造的に "考える力"の基礎を習得する、
その為に

- (1) 自身の内面を探索する。 特に自分の存在意義をポジティブな観点で発見する。
- (2) 優れたリーダーになる為の資質と要件を探索し、それらを得る育む具体的な方法を世界レベルでの成功哲学者から学び、自身の具体的な実現プランを考え構築を試みる。
- (3) リーダーになる為の自分力、創造的思考力、説得力を具体的に学び、人生を通じて育むヒントを得る。

■講義形態

□ 講義 + GD・GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

初講の前に、富田の経歴等をWikiPediaにて確認し、一人につき一問の質問を用意しておくこと。

本ゼミを選択した理由を説明できるようにしておく事。

■講義の概要

<第1講> <第2講>

概要： 自らを知る (世界で一番大切な存在は?) ・自己スタンダードのチェック
事前学習しておくべき用語やポイント[StandardとStandardizationの意味]

<第3講> <第4講>

概要： "知"について
事前学習しておくべき用語やポイント[データ、情報、知識、知恵の本人的価値とBig Data]

<第5講> <第6講>

概要： 人生での成功とビジネス (プロジェクト) での成功
事前学習しておくべき用語やポイント[人生とビジネスでの成功の相関性、有無も含めて]

<第7講> <第8講>

概要： 成功の為の自分力 (人間力) と創造性の関係を知る
事前学習しておくべき用語やポイント[人間力について事前にレポートを提出]

<第9講> <第10講>

概要： 人間力 (自分力) と創造力のエンパワメント実践編
事前学習しておくべき用語やポイント[全米トップ営業マンに学ぶ "ポジティブ思考" ジェフリー・ギトマー" 日経BPを読んでおく]

<第11講> <第12講>

概要： 説得力の構成要素の理解
事前学習しておくべき用語やポイント[各自に1講~5講までのレポートをPPTにて発表していただく]

<第13講> <第14講>

概要： 説得力エンパワメントの指導
事前学習しておくべき用語やポイント[Mind Map等、PPT以外のプロジェクト見える化ツールをチェック]

<第15講>

概要： 総括

■教科書

全米トップ営業マンに学ぶポジティブ思考 ジェフリー・ギトマー (著) 月沢李歌子 (訳) 日経BP社

■指定図書

まんがで身につくアドラー明日を変える心理学 鈴木義也
1分間アドラー良質な人間関係をつくる7つの原則 桑原 晃弥
ヘタな人生論よりソツパ物語 (河出文庫) 植西 聡

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

講義への出席 50、 授業内での応答 20 講義への参加の姿勢 30

■評価基準

評価P (合格) : 絶対評価 A+ : 91%以上、 A: 75~90% B: 50~74% C: 40~49% F: 40%未満
評価F (不合格) : 2/3 以下の出席でFの評価の場合 ただし、特別な事情があり出席が不可の場合は、事前に富田の許可をもらった場合は、出席とみなす。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施する

■留意点

講義への参加のレベルを
Level 1 : Just Sitting (そこに居るだけ)
Level 2: Participate (消極的参加)
Level 3: Involve (積極的参加)
Level 4: Engage (主体的参加)
と分類する。 自分自身の"考える力" を身に着けるのがこのプロジェクトの目的であるから、当然Level 3以上の参加姿勢を期待する。 また、"考力" は筋トレの筋力アップと同様に、考力アップは日頃使っていない頭脳を鍛えるので、通常の授業より"疲れる"可能性がある。 その覚悟が大切。
疲れない筋トレで筋肉がつくこととは違い。 すべて人生をHappyに生きるために必要な頭脳の筋トレだからである。考力アップを保障する為である。

科目名 ▶ プロジェクトゼミ (Project Seminars)**サブタイトル** ▶ 集客施設のマーケティング**担当教員** ▶ 鳥山 茂**■講義目的**

サンリオピューロランドは、日本初の全天候型テーマパークとして、ブランド力のあるキャラクターや質の高いパフォーマンスを武器に世界中から愛されている集客施設ですが、様々な経営上の課題を抱えています。本ゼミでは、サンリオの企業理念や歴史を学びながら、施設の課題を調査し、学生の視点から、その課題を解決するためのプロジェクトを運営していきます。今年度からはサンリオピューロランドの社員が講師となり、昨年を引き続き集客マーケティングに関しての企画立案・実施に向け共同で施設の魅力を高めていくことを目指します。

社員と一緒に学ぶプロセスの中で、課題発見し、問題解決のための方法を模索し、履修者は集客施設のマーケティングの考え方、の手法を学びます。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解 ビジネス創造 ビジネスマネジメント
 社会人育成 ビジネスICT 地域ビジネス

■到達目標

- 1) 自分たちでプロジェクトを企画、実践し、設定した目標を達成する
- 2) 集客施設のマーケティングの考え方を理解する
- 3) 調査手法やイベントマネジメントの手法を理解する

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

定期的にサンリオピューロランドのホームページを確認、また関連雑誌・書籍等を読み、情報を収集しておくこと

■講義の概要

定期的にサンリオピューロランドのホームページを確認、また関連雑誌・書籍等を読み、情報を収集しておくこと。

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

ゼミ中に指示します。
<http://www.puroland.jp/>

■評価方法

出席点： 50%
 調査・イベントへの参加、課題への取り組み 40%
 最終プレゼンテーションの実施 10%

■評価基準

評価P (合格) : 全15回中12回以上出席することが、単位取得の最低条件である。その上で、指定された調査・研究に誠実に取り組むこと。最終プレゼンテーションを実施することが必要になる。

評価F (不合格) : 出席が足りない場合、出席はしているが調査・イベントへの取り組み不足が目立つこと、最終プレゼンテーションへの不参加。

■履修していることが望ましい科目

なし
 本ゼミは、1年間(春学期・秋学期両方)の履修が前提です。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

講義時間外(放課後、土日祝日、夏休み等)にフィールドワークをしたり、グループで作業したり、大学のイベント、ピューロランドのイベント等に参加したりする場合があります。(希望者ではなく全員)

科目名 ▶ プロジェクトゼミ (Project Seminars)

サブタイトル ▶ 知的プロフェッショナル入門

担当教員 ▶ 中野 未知子

■講義目的

日々、ただ漠然と授業に出て、アルバイトをこなし、インターンなどの学外活動に参加してもつまらない。自分の中によい問いを持ってこそ、経験は価値あるものとなる。本ゼミの目的は、シミュレーションワークを通じて問いの見つけ方を体得することである。勉強の仕方を勉強したい学生の履修を待っている
KEY WORD：課題発見、実践的知識獲得

■講義分類

社会人育成、ビジネス創造

■到達目標

- 1) 2015秋学期以降、大学生活において取り組んでいきたい自分の課題を発見する
- 2) 1) の課題への取り組み計画を立案し、最終講義でプレゼンテーションする

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

毎回講義終了時、学んだ内容の振り返りとしてショートプレゼンを行うこと（毎回真剣に取り組めば、ゼミが終わる頃には、人前で桶深に話すコツを身に付けることができるだろう）

■講義の概要

本ゼミは学習効果を高める観点から、1講義（90分）単位でなく連続講義を行う。スケジュールなどの詳細は初回講義でグループ面談を行い説明する。よって初回講義への参加を必須とする

<第1～2講>

①概要：イントロダクション

②事前、事後学習ポイント：募集要項やシラバスを参照し、質問事項などあれば準備しておくこと

【到達目標】本ゼミの目的や参加ルールを理解すること

<第2～6講>

①概要：学外でのシミュレーションワーク

②事前、事後学習ポイント：課題の捉え方。事後学習として各自でポイントを整理すること

【到達目標】課題を適切に捉える時に気にするべきことは何かを理解すること

<第7～11講>

①概要：学外での体験学習

②事前、事後学習ポイント：問いの見つけ方、深め方。事後学習として各自でポイントを整理すること

【到達目標】考えるに値する問いを発見すること

<第12～15講>

①概要：今後の自分自身の課題発見・取り組み計画立案・プレゼンテーション

②事前、事後学習ポイント：PDCA。事後学習として各自でポイントを整理すること

【到達目標】今後の自分自身の課題を発見すること。課題そのものや課題への取り組み方の妥当性について他人に説明するにはどうしたらいいか学ぶこと

■教科書

なし（講義中に必要に応じて配布する）

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

なし（講義中に必要に応じて配布する）

■評価方法

ゼミへの出欠状況50%、ゼミ参加への積極性20%、課題提出の納期遵守状況15%、成果物（報告書、発表）の品質15%の4点で評価する

■評価基準

評価P（合格）：到達目標にあげた、自分の課題の発見と取り組み計画の立案、並びに、その明示ができる

評価F（不合格）：上記の合格基準未達の場合、あるいは、ゼミへの出席状況、参加姿勢に著しく問題がある場合に不合格とする

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

初回ゼミ参加への参加を必須とする。

科目名 ▶ プロジェクトゼミ (Project Seminars)**サブタイトル** ▶ 多摩市のシティセールス「地域共存型コミュニティの形成」**担当教員** ▶ 浜田 健史**■講義目的**

本ゼミでは、「高齢化の最先端地域」「オールドタウン」等と形容される事の多い、多摩市内において新しい世代を中心としたコミュニティ形成を目指す拠点をモデルケースとして研究し、多摩市のシティセールス（多摩市の魅力を内外にアピールして、活性化を促す）に繋げていく事までを一つの目的として、プロジェクトマネジメントの手法ならびに新たなビジネスモデル創造までのプロセス等を学びます。

今年度は、昨年度に引き続き2014年春に多摩市内の諏訪団地名店街にオープンしたコミュニティカフェを題材として地域との共栄、各種イベント企画、創業支援施設の運営形態に触れながら多摩市のシティセールスに繋がるような企画を立案・運営していきます。

■講義分類

顧客理解 ビジネス環境理解
 ビジネス創造 ビジネスマネジメント 社会力育成
 地域ビジネス

■到達目標

- 1) 自分たちでプロジェクトを企画、実践し、設定した目標を達成する。
- 2) 地域コミュニティならではのマネジメントの考え方を理解する。
- 3) 地域コミュニティそのものの考え方及びこれからのコミュニティビジネスを考える。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容**■講義の概要**

<春学期>

- ・キックオフミーティング
- ・プロジェクトマネジメント、ビジネス企画立案・活動の基礎を学ぶ。
- ・調査活動
- ・プロジェクトの立案、実践

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

適宜提示

■評価方法

ゼミ中に提出してもらったレポートなどとゼミ中の取り組む姿勢等で判断します。

- ・企画立案などを自分なりの視点で行えたか。
- ・グループワーク、フィールドワークに自主的・積極的に貢献したか。
- ・仲間と一緒に協力してプロジェクトを運営できたか。

■評価基準

評価P（合格） :
 評価F（不合格） :

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

あり

■留意点

本ゼミは、春学期のみの開講となります。

講義時間外（放課後、土日祝日、夏休み等）にフィールドワークしたり、グループで作業したり、大学のイベント等に参加したりする場合があります。（希望者ではなく全員）月に一度は諏訪名店街のコミュニティスペースにおいて実地調査、研修等も実施していく為、学外での開講も必ず発生します。

科目名 ▶ プロジェクトゼミ (Project Seminars)

サブタイトル

担当教員 ▶ 原田 曜平

■講義目的

博報堂ブランドデザイン若者研究所（「若者研」）は、毎週金曜の日本テレビ「ZIP!」やフジテレビ「ホンマでっかTV」「週刊フジテレビ批評」などに出演しているマーケティングアナリストの原田曜平が主宰しており、若者たちの肌感覚やネットワークを活用しながら、若者たちと協働し、若者の「新しい消費行動」を研究している。そして、様々な企業とコラボレーションし、その知見を若者向けの調査、商品開発、広告コミュニケーション制作に活かしている。

つまり、「消費者（若者）研究」と、その知見を活かした「マーケティングの実践」の両立が若者研の武器であり、この科目の目的でもある。

なお、若者研には、一般の高校生・大学生～若手社会人まで約100名が所属しており、「現場研究員」と呼ばれ、上記各種業務を行っている。

多摩大のこの科目の受講者にも「現場研究員」の一員になってもらい、様々な業務を体験して頂く。他の大学の学生や様々な企業と実際に接し協働することで、視野を広げて頂きたい。

なお、第一回目の講義は多摩大で行うが、それ以外は全て赤坂にある博報堂（〒107-6322 東京都港区赤坂5丁目3番1号 赤坂Bizタワー）

に来てもらい開催する予定。開催日は未定（第一回目の講義時に確定・発表）だが、毎月月末に1日程度、一回数時間程度の講義を行う。

また、皆で行った若者の消費行動の研究は、東洋経済オンラインの原田の連載上で原稿化する。下記に昨年、多摩大の学生が書いた原稿を掲載したのでご参照頂きたい（東洋経済オンラインは最も読まれているビジネスウェブ雑誌なので、ここに掲載した原稿は就職活動時の自己PRのネタに使える）。

※博報堂ブランドデザイン若者研究所

→<http://consulaction.hakuhodo.co.jp/wakamonoken/>

※東洋経済オンライン（原田連載・多摩大の学生が昨年書いた原稿なので是非ご参照下さい）

↓
<http://toyokeizai.net/articles/-/50857>

■講義分類

顧客理解、社会人育成

■到達目標

マーケティングにおける消費者調査、分析の理解及びそれを文章化すること。

■講義形態

グループワーク

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

復習は必要ありませんが、常に若者の新しいトレンドをチェックしておく必要はあります。

■講義の概要

消費者としての若者分析をグループワークで行い、研究レポートを作成し、東洋経済オンラインという媒体にて発表する。

■教科書

なし

■指定図書

なし

■参考文献・参考URL / Reference List

さとり世代（角川）、ヤンキー経済（幻冬舎）、女子力男子（宝島）

■評価方法

出席80%、アウトプット20%

■評価基準

評価P（合格）：出席をし、アウトプットが出せれば合格

評価F（不合格）：出席をしなかったら不合格

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

なし

科目名 プロジェクトゼミ(Project Seminars)**サブタイトル** ディベート**担当教員** 福田 健一**■講義目的**

日本人はディベートができません。なぜなら、欧米などと異なり学校で本当のディベート教育が行われていないからです。日本でディベートと称するものは調べたことをただ、議論するだけです。欧米と異なり、学校でディベートの理論を教えないのです。それらの事から、日本はディベート能力が低いので、領土問題、外交交渉、スポーツなど様々な分野で大きく損をしています。例えば、冬季オリンピックのノルディック複合で日本が金メダルを取ると日本が金メダルを取れないようにルール改悪が行われます。身長の高い日本人が不利になるようにスキーの板の長さを身長と正比例させたり、体力のある外国人に有利なようにジャンプと距離の得点比率がジャンプを少なくされて日本が不利になりました。そのために金メダルが取れなくなりました。これは日本がディベート能力が低いために適正な反論できないので、こういう結果になるのです。ある面では主要国で日本ほどディベート能力が低い国はないでしょう。ここでは、欧米の大学のようにアカデミックな理論に基づくディベートを教えます。具体的な理論としては「サウンドバイト」「三分割法」「コア法」「サポーター法」「数値法」などがあります。これらの理論を身につけることにより、ディベート能力を向上すれば日本にもっと有利で公正な結果を作り出せます。また、日本の大企業も国際社会で活躍するための、ディベート能力の高い学生を求めています。ここでは理論と技術を徹底的に学び、ビジネスなど様々なフィールド、日本、国際社会などで実際に活躍できる人材を育成します。期待してください。

■講義分類

ビジネス創造、ビジネスマネジメント、社会人育成、グローバルビジネス

■到達目標

適切に自分で考えて、その考えを正確に相手に充分理解できるようにできるようにします。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

特に復習をして理解度を上げてください。

■講義の概要

ディベートの基礎理論(サウンドバイト、三分割法、コア法、サポーター法、数値法など)の理論を最初にDVDなどを見ながら理解を深め、その後その理論を説明する方法で進めます。例えば①アメリカの大学で教えられているディベート理論、②アメリカ大統領選の映像でのディベートの実践例、③アメリカの大学でのディベート理論の講義の様子、内容説明、④日本のビジネスフィールドでのディベートの実践応用事例、⑤社会人になった後に日本、国際社会でディベートを実際に応用できる事例、などを映像で見てもらいます。そして、それらの学んだディベート理論を基にそれぞれディベートの試合をします。学生の皆さんの希望も多いため就職面接で高い評価が得られて希望の就職ができるように3分間スピーチなども三分割法などの理論と組み合わせて学びます。企業などを含めて、国際社会の進展と共に増々ディベート能力の高い日本人が求められています。日本ではこれまで、その要求に対応する授業が行われていませんでした。日本の大学でも理論に基づくディベートを教えている大学は増えてはきましたが、しかし、まだ、多摩大学を含めて、全国でも数校しかありません。これでは国際社会では通用しません。アメリカの名門大学で教えているような理論に基づいたディベートを教えます。ですから、それらを前提に、就職面接、大学院面接などのあらゆる圧迫質問された時も冷静に対応できるように多様な内容で教えます。現代は民主主義社会であり、民主主義社会はディベートによる説得により成立しています。授業では自分の考えを正確に相手に理解し納得させることができるようになります。実践的に役にたつように学生参加型授業を行い、DVD教材などを使用しながら楽しく分かりやすい授業を行います。

■教科書

追って指示します。

■指定図書

追って指示します。

■参考文献・参考URL / Reference List

追って指示します。

■評価方法

平常点(出席等)70%、授業参加等30%

■評価基準

評価P(合格) : 真面目に出席をして理論を理解し、実践を行い希望の就職、大学院入試合格、などができる能力を身につけ、社会での適応能力を増した場合。

評価F(不合格) : 真面目に出席をせず、適切な授業参加をしなかった場合。

■履修していることが望ましい科目

特にありません。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しません

■留意点

必要な予備知識などはいりませんが、積極的に授業参加をしようと考えている学生を歓迎します。真面目に参加すれば、かならず社会で役にたつ授業になります。

科目名 プロジェクトゼミ (Project Seminars)

サブタイトル 事業構想入門講座 (1) Introductory Seminar of Business and Project Design-1

担当教員 見山 謙一郎

■講義目的

羅針盤なき今の時代は、学生諸君にとっては柔軟な発想を生かしたビジネスプランを構想し、それを実現するチャンスでもある。本ゼミナールは、ビジネスプランの作成と、ビジネスプランコンテスト (ビジコン) への応募を通じて、グローバルとローカル双方の視点から、事業構想力と経営戦略、マーケティングについて学ぶ実践型のゼミナールである。春学期には、経営学基礎講座から事業構想入門講座 (初級編、中級編) までを行なう。具体的には、グループワーク、グループディスカッションにより、学生の関心の高い身近な事例から経営学の基礎を学んでもらい、徐々に「自分ごとに置き換えて考える力」を身につけてもらう。その後、ビジネスアイデアの構想からビジネスプラン作成へとステップアップしてもらうことを目指す。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
グローバルビジネス
地域ビジネス

■到達目標

- (1) 世界、アジア、及び日本の現状と課題を理解すること
- (2) 現代社会の様々な課題を自分ごとに置き換え理解するとともに、経営学の基礎知識を習得すること。
- (3) グループワークを通じて、多面的且柔軟な思考と事業構想力を身につけ、ビジネスプランを作成すること

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習 (学習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

ゼミで出された「課題」に対し、必ず次回までに自分なりの意見にまとめてくること。

■講義の概要

<第1講>

- ① 概要：オリエンテーション(1)
- ② 事前、事後学習のポイント

本ゼミナールの生命線である、グループワーク (ディスカッション) に慣れるとともに、「考える力」を身につけること

<第2講>

- ① 概要：オリエンテーション(2)
- ② 事前、事後学習のポイント
- ③ 本ゼミナールの生命線である、グループワーク (ディスカッション) に慣れるとともに、学生自らが「問い」を生み出す力をつけること

<第3講>

- ① 概要：オリエンテーション(3)
- ② 事前、事後学習のポイント
- ③ 本ゼミナールの生命線である、グループワーク (ディスカッション) に慣れるとともに、「当事者」として、自分ごとに置き換えて物事を考える力をつけること

<第4講>

- ① 概要：経営学基礎講座 (1) ソーシャルビジネス
 - ② 事前、事後学習のポイント
- 「ソーシャルビジネス」とは何か?なぜそのようなビジネスが求められているのかを考える

<第5講>

- ① 概要：経営学基礎講座 (2) 環境ビジネス
 - ② 事前、事後学習のポイント
- 「環境問題」とは何か?「環境ビジネス」とは、どのようなビジネスなのか?を考える

<第6講>

- ① 概要：経営学基礎講座 (3) BOPビジネス-1
 - ② 事前、事後学習のポイント
- 開発途上国の「貧困問題」とは何か?「BOPビジネス」とは、どのようなビジネスなのか?を考える

<第7講>

- ① 概要：経営学基礎講座 (4) BOPビジネス-2
- ② 事前、事後学習のポイント

パングラデシュの現状と課題について考える

<第8講>

- ① 概要：経営学基礎講座 (5) 地方創生、地域活性化
 - ② 事前、事後学習のポイント
- 日本の課題、地方創生、地域活性化の現状と課題について考える

<第9講>

- ① 概要：経営学基礎講座 (6) アジア、ASEANとの連携について考える
- ② 事前、事後学習のポイント

世界における日本の立ち位置、役割をアジア、ASEANとの連携から考える

<第10講>

- ① 概要：事業構想基礎講座 初級編(1) ビジネスアイデアを構想する
- ② 事前、事後学習のポイント

国内と開発途上国におけるビジネスアイデアを思いっただけ考える+相手に伝わるように説明する

<第11講>

- ① 概要：事業構想基礎講座 初級編(2) ビジネスアイデアを絞り込む
- ② 事前、事後学習のポイント

ビジネスアイデアの精度を高める

<第12講>

- ① 概要：事業構想基礎講座 初級編(3) ビジネスアイデアのプレゼンテーション
- ② 事前、事後学習のポイント

ビジネスアイデアを整理し、相手に伝わるように説明する

<第13講>

- ① 概要：事業構想基礎講座 中級編(1) ビジネスプランの骨格
- ② 事前、事後学習のポイント

ビジネスプランの骨格を学ぶ

<第14講>

- ① 概要：事業構想基礎講座 中級編(2) ビジネスプラン作成の勘所
- ② 事前、事後学習のポイント

ビジネスプラン作成の勘所を学ぶ

<第15講>

- ① 概要：事業構想基礎講座 中級編(3) ビジネスプランの骨格のプレゼンテーション
- ② 事前、事後学習のポイント

ビジネスプランの骨格を相手に伝わるように説明する

■教科書

■指定図書

■参考文献・参考URL / Reference List

参考文献

「ネクスト・マーケット【増補改訂版】」C.K.ブラハラード(英治出版 2010年)
「コトラーのマーケティング3.0 ソーシャル・メディア時代の新法則」フィリップ・コトラー他 (朝日新聞出版 2010年)
「激変な変動! ウィリアム・イースター(東洋経済新報社 2009年)
「パングラデシュ国づくり奮闘記」池田洋一郎 (英治出版 2013年)

参考URL

元銀行マンの准教授が語る「腹に落ちる! 環境学」ダイヤモンド・オンライン

バックナンバー:

http://diamond.jp/category/s-miyama_econews/

「この「環境ビジネス」をブックマークせよ!」ダイヤモンド・オンライン

バックナンバー:

<http://diamond.jp/category/s-miyama/>

■評価方法

出席状況 (50%)、講義内での発言や貢献度 (30%)、最終プレゼンテーション (20%)にて評価を行う。
(単位取得には2/3以上の出席が必要となる。)

■評価基準

評価P (合格) : 60点以上 (単位取得には2/3以上の出席が必要となる)
評価F (不合格) : 60点未満

■履修していることが望ましい科目

必ず、秋学期に開講される事業構想入門講座(2)を履修すること。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

必ず、秋学期に開講される事業構想入門講座(2)を履修すること。
また、ゼミ時間外や、夏休み期間中にグループワークが発生することも予め留意のこと。
尚、応募予定のビジネスプランコンテストは、以下の通り（追加の可能性もある）
①UVGP (University Venture Grand Prix)
<http://www.jeenet.jp/uvgp/>
②40億人のためのビジネスアイデアコンテスト
<http://www2.icnet.co.jp/bizcon2014/>

科目名 ▶ プロジェクトゼミ (Project Seminars)

サブタイトル ▶ 顧客の声活用実践講座 (もしもしホットライン)

担当教員 ▶ ももしホットライン

■講義目的

本ゼミでは、顧客の声 (Voice Of Customer=VoC) を基点としたCRM (カスタマーリレーションシップマネジメント) 事例を学び、実践的知識獲得を目的とします。皆さんが、製品やサービスに関して、企業のコンタクトセンターに問合せをする思いですが、現代のコンタクトセンターは、お客様から問合せに応えるだけではなく、マーケティング情報収集という重要な機能も担っています。企業のビジネスに 役立つ情報収集のあり方、ICTを活用した課題解決の方法、具体的なマネジメントプロセス等を講義します。この科目では学生にケース企業を想定したグループワークを実施します。このグループワークを通じて、自らが課題発見、問題解決の方法を経験することができ、実社会でも役立つ実践講座となります。

席にならない場合があります。

■講義分類

顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネスICT

■到達目標

顧客の声データの収集、分析、レポートिंगといった一連のデータ活用プロセスの体験を通じて、ビジネスでのデータに基づいた事実の発見、共有するスキルを身に着ける。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習 (学習・復習等) に必要な時間またはそれに準する程度の具体的な学習内容

予習：マーケティングの基礎に関する書籍を講読

復習：講義での課題が完了しなければ、次回の講義まで完成させる作業

■講義の概要

<第1~4講> イントロダクション (講義の目指すもの) ①企業に蓄積される様々なデータの中で顧客の声 (VOC) がある。その顧客の声から ビジネス課題の発見、分析、共有、施策展開 (活用) を行う全体像を理解する。②CRMについての考え方、ビジネス課題の背景、課題解決に必要なデータの取得方法を学ぶ (例：VOCヒアリング技法、新しいマーケティングリサーチの活用など)。③テキストマイニングや データマイニングを使いこなす為に必要な分析視点を学ぶ。

<第5~8講>顧客の声収集実践、①調査企画の設計②調査票の設計の技術と作成③実査 (データ収集)

<第9~12講>顧客の声データ分析実践、①データ加工②集計③分析④レポートング作成

<第13~15講>プレゼンテーション資料作成と発表の実践

<事前に学習しておくべき用語>

VoC (ボイス・オブ・カスタマー)、CRM (カスタマーリレーションシップマネジメント)、マーケティングリサーチ、テキストマイニング、データマイニング、コンタクトセンター、ビッグデータ

■教科書

特になし

■指定図書

特になし

■参考文献・参考URL / Reference List

特になし

■評価方法

ゼミへの出席状況 (60%)、ゼミへの積極的発言 (10%)、グループワークの成果物 (30%)

■評価基準

評価P (合格) : 顧客の声活用プロセス、各プロセスの要点が理解できていると講師が判断した場合

評価F (不合格) : 出席状況および、ゼミ参加への積極性を著しく欠くと講師が判断した場合

■履修していることが望ましい科目

マーケティング入門、リサーチ入門を履修しておくことを推奨する

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

PCにて分析ツールを演習として使用予定。PC必須の授業です。PC持参でない場合は出

科目名 プロジェクトゼミ(Project Seminars)

サブタイトル スポーツデータ分析講座

担当教員 森本 美行

■講義目的

近年の情報技術の発達、普及により莫大な量のデータいわゆるビッグデータの取得が可能になりました。またビッグデータを効率的に処理するためのテクノロジーも同様に発達し、普及し始めています。
しかし重要な事は様々な問題をそれらのデータを上手に活用して解決に結び付けることです。
起きた現象の原因を探るために仮説を立て、データを収集し、分析を行い検証し、最終的には問題解決に役立てると言う一連のプロセスをスポーツという身近なコンテンツで学び、実践的知識を得ることを本講義の目的としています。

■講義分類

ビジネスマネジメント/ビジネスICT/課題発見/ビジネス環境理解/社会人育成/ビジネス創造

■到達目標

(1) スポーツの試合で起きている様々なアクションを映像からデータ化し、それらのデータを元に仮説を立て、質の高い分析を元に検証を行い原因の探求及び問題解決のための考え方を習得する。
(2) サッカー、フットサル、野球、バレーボール等のスポーツ競技種目から勝敗、得失点、ゲームの進め方(優勢、劣勢)を決める要因はどのようなことが考えられるか、またプロスポーツの入場者の増減、傾向等はどのような因子によって影響を受けるか等データというFact(事実)を元に説得力のある分析を行う。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

プレゼン等チームでの発表がある場合のグループでの事前ディスカッション。ゲストスピーカー等の発表に関係する競技について事前に理解を深めておくこと。

■講義の概要

<第1講>自己紹介/この講義の目的の説明/近代スポーツの歴史とデータ分析の必要性
概要：データ分析の必要性を理解し、本講義の最終アウトプットのイメージを共有する。
事前学習しておくべき用語やポイント[改善/客観性]
<第2講>分析とは？
概要：スポーツを元に「分析」という知的作業について理解する。
事前学習しておくべき用語やポイント[PDCAサイクル]
<第3講>セイバーメトリクスの考え方
概要：スポーツにおけるデータ分析の活用方法を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[SABR METRIX]
<第4講>スポーツにおけるビジネスマネジメントについて考える (1)
概要：スポーツ組織における財務構造を理解する。その上で選手の評価と報酬についてマネージメントサイドから考える。
事前学習しておくべき用語やポイント[評価]
<第5講>スポーツにおけるビジネスマネジメントについて考える (2)
概要：スポーツ組織における評価と報酬の仕組みの設計について学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[評価]
<第6講>データ分析に必要な統計的考え方、分析の際注意すべきこと
概要：実際に分析する際に必要な知識と注意点を学ぶ。
事前学習しておくべき用語やポイント[統計]
<第7講>最新のデータ分析テクノロジーの紹介
概要：欧米の最先端技術に関する最新事例の紹介。
事前学習しておくべき用語やポイント[トラッキングシステム]
<第8講>実際の現場での分析の事例紹介
概要：トッププロで行われた分析の事例を紹介する。
事前学習しておくべき用語やポイント[トッププロ]
<第9講>フィールドスタディ
概要：実際の試合を観察する。
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
<第10講>フィールドスタディフィードバック
概要：実際の試合を見て感じたことを元にディスカッション。
<第11講>プレゼンのためにチーム分けと分析テーマの決定
概要：チーム分けを行い、誰がどの競技を対象に分析するかを明確にする。またどのような仮説を立て、何を分析するか方向性を確定させる。
事前学習しておくべき用語やポイント[仮説/検証]

<第12講>情報(データ)の収集と蓄積、加工の方法

概要：どのような情報(データ)をどのように収集、加工し最終的に提供するかの。事前学習しておくべき用語やポイント[伝える力]
<第13講>スポーツにおけるデータ取得方法の事例紹介(バレーボール/ラグビー/野球/フエントング等)
概要：ゲストスピーカーによる事例紹介。
事前学習しておくべき用語やポイント[該当する競技]
<第14講>プレゼンテーション
概要：グループ毎の発表と質疑応答
事前学習しておくべき用語やポイント[特になし]
<第15講>プレゼンテーション
概要：グループ毎の発表と質疑応答

■教科書

特になし。

■指定図書

なし。

■参考文献・参考URL / Reference List

ビッグデータの正体 情報の産業革命が世界のすべてを変える会社を変える分析の力
プロスポーツクラブのマネジメント
スポーツ・マネジメント理論と実務

■評価方法

出席率30%、授業中の発言等貢献度20%、プレゼンテーション50%。

■評価基準

評価P(合格)：授業への出席及びプレゼンテーションへの参加。
評価F(不合格)：授業への出席率及び、授業中の発言の貢献度が低く、プレゼンテーションに参加していない場合。

■履修していることが望ましい科目

ビジネスICT,統計関連。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

起きている現象をより本質的に理解するために多種、大量のデータ(ビッグデータ)から分析を行い経営の意思決定に役立てる手法が重要視され始めている。しかし様々な環境において、必ずしも常にビッグデータが入手できるとは限らない。今回のゼミではスポーツという身近なコンテンツにおいて各自が入手可能なデータを考えて取得する手法を学ぶ。その先にスポーツに限らず様々なビジネスシーンにおいても適用できるような実践的知識を身につけるように心がける。そのためにも授業への出席率を高めることを特に留意して頂きたい。

科目名 ▶ キャリア・デザインII(Career Design II)

サブタイトル ▶ 就職筆記試験対策を中心とした能力開発

担当教員 ▶ 栢原・杉田(修)・中村(有)

■講義目的

これは、直接的には企業による新入社員選考の際の筆記試験を確実にパスするための能力開発を行うが、決して言語、非言語のリメディアルエデュケーションではなく、より前向きに、産業界で有用な人材となるために必要なスキルを磨くことを目的としている。これまで学んできたことを再チェックし、課題を見つけた場合しっかりと対応した上でまずは就職活動に立ち向かい、さらには、職業の最前線の現場で活躍できるようになれることが大切である。

■講義分類

ビジネス環境理解
ビジネス創造
社会人力育成

■到達目標

学生がより望ましい就業観を持ち、また就職就業に必要な知識とスキルを身に付けることが、本講座の目標である。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR
主に講義が中心となる

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

予習・復習の繰り返しは極めて重要であり、特に講師の指示に従った目標設定に応じた繰り返し復習を推奨したい

■講義の概要

秋学期に開講される「筆記試験対策講座」への参加により、単位を認定することとする。

■教科書

講義内で指示する。

■指定図書

必要がある場合は、講義内で指示する。

■参考文献・参考URL / Reference List

必要がある場合は、講義内で指示する。

■評価方法

少なくとも11回の参加を必要とする。これをクリアした場合、単位を認定する。ただし、受講態度に問題があるとみなされた場合、出席と認められないことがある。

■評価基準

評価N（認定）：所定の回数の出席と、受講態度によって単位を認定する。
評価F（認定せず）：出席回数が不足しているときみなされた場合と、出席していても受講態度が良くないと見られた場合は、単位を認定しないことがある。

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

行わない

■留意点

特になし

科目名 キャリア・デザインIII (Career Design III)**サブタイトル** 就職活動を学ぶ。**担当教員** 杉田(文)・栢原・杉田(修)・浜田(正)**■講義目的**

本学の理念の一つは、「すべての道はキャリアに通ず」である。就職し、就業し、職業を通して成長し、職業を通じて社会の問題解決に貢献する人材を育成する事であり、就職活動は、その中核にある。多摩大学の教育をこの理念に近づけるために本講義を設置する。

すなわち、就職、就業に向けて

- ① 自己を知る
- ② 産業社会を知る
- ③ 企業を知る
- ④ 何をすべきかを知り、実践する

ことがよりよく実践されるために必要な講義を、ここで行う。

■講義分類

ビジネス環境理解

ビジネス創造

社会力育成

■到達目標

学生がより望ましい就業観を持ち、また就職就業に必要な十分な知識とスキルを身に着けることが、本講座の目標である。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

履修書等に収められていくべき「自己理解」「開発が必要なスキルへの認識」を育成するための予習、復習を必要とする。

■講義の概要

2015年度春学期(当該時間:火曜日4時限目)に行われるキャリア支援講座に参加し所定の基準を満たすことによって、単位を認定する者とする。

■教科書

特に指定はしない。

■指定図書

必要に応じて講義内にて紹介する。

■参考文献・参考URL / Reference List

必要に応じて講義内にて紹介することとする。

■評価方法

出席8割、受講の姿勢評価2割、とする。 それぞれの具体的な基準等については、講義内で指示する。

■評価基準

評価N(認定) : ① 6回の講義と、9回の所定の講座に出席することにより単位を認定する。 ② ①に加えて、講義の目的を良く理解し、当事者意識を持って積極的に関与し、特にGWではリーダーシップを発揮することが求められる

評価F(認定せず) : 上の条件を満たさなかったとみなした場合は、F評価とする。

■履修していることが望ましい科目

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

行わない

■留意点

積極的な関わりと、何事にも挑戦する当事者としての態度が求められる。
授業全体のマイナスになると担当者が判断する場合には、他の学生の利益を確保するために、退出を命じることもあるので、くれぐれも留意されたい。

科目名 ▶ キャリア・デザインIV (Career Design IV)

サブタイトル ▶ 就職活動を学ぶ。

担当教員 ▶ 杉田(文)・栢原・浜田(正)

■講義目的

本書の理念の一つは、「すべての道はキャリアに通ず」である。就職し、就業し、職業を通じて成長し、職業を通じて社会の問題解決に貢献する人材を育成する事であり、就職活動は、その中核にある。多摩大学の教育をこの理念に近づけるために本講義を設置する。

すなわち、就職、就業に向けて

- ① 自己を知る
- ② 産業社会を知る
- ③ 企業を知る
- ④ 何をすべきかを知り、実践する

ことがよりよく実践されるために必要な講義を、ここで行う。

■講義分類

ビジネス環境理解

ビジネス創造

社会力育成

■到達目標

学生がより望ましい就業観を持ち、また就職就業に必要な十分な知識とスキルを身に着けることが、本講座の目標である。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

履歴書等に取れんされていくべき「自己理解」「開発が必要なスキルへの認識」や、企業や産業に対する認識や見方を育成するための予習、復習を必要とする。

■講義の概要

2015年度秋学期（当該時間:火曜日4時限目）に行われるキャリア支援講座に参加し所定の基準を満たすことによって、単位を認定する者とする。

■教科書

特に指定はしない。

■指定図書

必要に応じて講義内にて紹介する。

■参考文献・参考URL / Reference List

必要に応じて講義内にて紹介することとする。

■評価方法

出席8割、受講の姿勢評価2割、とする。 それぞれの具体的な基準等については、講義内で指示する。

■評価基準

評価N（認定）：① 15回の所定の講座に出席することにより単位を認定する。（詳しくは、秋学期第1講の中で伝える）② ①に加えて、講義の目的を良く理解し、当事者意識を持って積極的に関与し、特にGWではリーダーシップを発揮することが求められる

評価F（認定せず）：上の条件を満たさなかったとみなした場合は、F評価とする。

■履修していることが望ましい科目

特になし。

■卒業年次生対象再試験の実施

行わない

■留意点

積極的な関わりと、何事にも挑戦する当事者としての態度が求められる。

授業全体のマイナスになると担当者が判断する場合には、他の学生の利益を確保するために、退出を命じることもあるので、くれぐれも留意されたい。

科目名 スタディーアブロード I～Ⅷ(Study Abroad I～Ⅷ)**サブタイトル** 志を持って海外で活動する学生のための単位認定**担当教員** 中村 その子**■講義目的**

原則として、大学が認定した海外留学に参加した学生が、留学先で取得した単位を多摩大学の正規の単位として読み替えるための科目である。ただし大学が認定した海外での活動で顕著な成果をあげた学生に授与される場合もある。いずれの場合も担当教員との事前面談、審査と学習、事後学習、審査、成果報告が必須である。事前面談、審査、学習、事後学習、審査、報告、については学期開始後にT-nextなどを通して学生に周知される予定である。

また、原則として海外活動、地域関連活動に関連して大学で実施される諸プログラムに参加して教員の認定を受けた学生の単位認定にも用いられる場合がある。

■講義分類

グローバルビジネス
語学・コミュニケーション

■到達目標

- 1) 自分たちの意見、考え方、アイデアをしっかりとした形で伝え、提案できる = 発信
- 2) 相手からの発信を正確に理解し、状況に応じた的確な処理が行える = 受信
- 3) 自分が必要な情報(WEB/論文をはじめとする資料や文献など)を検索し、内容を読み取って利用できる = 情報理解
- 4) 社会の課題をビジネスの現場で解決していく力の一つとして英語でのコミュニケーション能力を身につける
- 5) グローバリズムに対する正しい知識と、地球人として自分の志を実現するための社会における人間力を留学を通して身につける。

■講義形態

海外留学、インターンシップ、海外研修、その他、海外、日本国内での社会的活動、学外活動など

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

海外・国内での単位認定を伴う社会的活動のための事前事後審査シートの記入、担当教員との複数回の面接、担当教員が必要と判断する研修見学への参加、活動報告プレゼンテーション大会への参加、必要に応じて多摩大学ホームページ(海外NOWなど)への投稿。参加する社会的活動に関連したすべての書類と資料の提出

■講義の概要

経営情報学部認定留学プログラム、または(および)グローバルスタディーズ学部認定留学プログラムに参加し、この科目の単位を取得することができる。また、大学が認定した海外および国内での社会的活動で、顕著な成果をあげた学生、海外活動、地域関連活動に関連して大学で実施される諸プログラムに参加して、教員の認定を受けた学生の単位授与にも用いられる場合がある。

この科目の単位取得に関係するプログラムに参加希望の学生は、T-next上に掲載される関連情報やお知らせを注意深くチェックし、指示が出たら、担当教員中村その子 sonoko-n@tama.ac.jpに必ずメールでコンタクトを取ること。出発前教員と充分に相談をし、入念な準備をする必要がある。このコンタクトがない場合はプログラムに参加することはできない。

言い換えると、たとえば夏休みの留学プログラムに参加したい場合、夏休み直前に、急に参加したいと言っても参加することはできない。

留学先教育機関での単位認定を多摩大学の単位として読み替える。または国内外での活動の内容を審査することにより、それにふさわしい単位数を原則として認定する。

留学先教育機関の単位認定制度に原則として準じる。または、海外での活動内容を担当教員が審査、評価する。多摩大学の学生にふさわしい志をもって産業界の問題解決が行えたかどうか为重視される。

■教科書**■指定図書****■参考文献・参考URL / Reference List****■評価方法**

海外・国内での単位認定を伴う社会的活動のための事前事後審査シートの記入、担当教員との複数回の面接、担当教員が必要と判断する研修見学への参加、活動報告プレゼンテーション大会への参加、必要に応じて多摩大学ホームページ(海外NOWなど)への投稿。参加する社会的活動に関連したすべての書類と資料の提出

■評価基準

評価N(認定)：原則として、留学先、インターンシップ先、研修、活動先の組織の成績認定に準じる。また、は該当する留学、インターンシップ、国内外での社会的活動を責任と熟意を持って行い、十分な成果を出したかどうかで単位を認定する

評価F(認定せず)：原則として、留学先、インターンシップ先、研修、活動先の組織の成績認定に準じる。該当する留学、インターンシップ、国内外での社会的活動を責任と熟意を持って行い、十分な成果を出さなかった場合、海外・国内での単位認定を伴う社会的活動のための事前事後審査シートの記入、担当教員との複数回の面接、担当教員が必要と判断する研修見学への参加、活動報告プレゼンテーション大会への参加、必要に応じて多摩大学ホームページ(海外NOWなど)への投稿。参加する社会的活動に関連したすべての書類と資料の提出などを怠った場合

■履修していることが望ましい科目

English Expression
Basic Office English
Practical English Conversation
TOEIC
海外生活英語コミュニケーション

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

海外・国内での単位認定を伴う社会的活動のための事前事後審査シートの記入、担当教員との複数回の面接、担当教員が必要と判断する研修見学への参加、活動報告プレゼンテーション大会への参加、必要に応じて多摩大学ホームページ(海外NOWなど)への投稿。参加する社会的活動に関連したすべての書類と資料の提出

科目名 教育原理(Educational Principle)

サブタイトル 「教育学」の全体像をとらえ、教師観を形成する

担当教員 峯岸 久枝

■講義目的

1. 「教育」を身近なものとしてとらえ、受講者自身の経験を意識化する。
2. 「教育」を学校教育だけでなく、社会教育や生涯教育との連携について把握し、広い視野を持てるようになる。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

1. 教育の目的・目標を歴史的観点からとらえ、また、最新の教育事情や課題を理解できる。
2. 自らの教育観・学習観・教師観を形成することができる。

■講義形態

講義+GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準する程度の具体的な学習内容

指定教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要: ガイダンス

事前,事後学習ポイント: 大学生活に至るまでに受けてきた「教育」の場と、それに関わった人や事柄について振り返っておくこと。

<第 2 講>

概要: 教育の原理と本質

事前,事後学習ポイント: 学校という存在が教育に与える影響、学校外で行われる教育について考えを深める。指定教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

<第 3 講>

概要: 教育の思想と歴史的展開①

事前,事後学習ポイント: 日本の教育の歴史について学習する。指定教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

<第 4 講>

概要: 教育の思想と歴史的展開②

事前,事後学習ポイント: 世界の教育の歴史や思想について学習する。指定教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

<第 5 講>

概要: 学校教育の目的および目標 (教育の意義)

事前,事後学習ポイント: 日本国憲法、教育基本法 (旧法・現行法)、学校教育法、「子どもの権利条約」について学習する。指定教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

<第 6 講>

概要: 教育課程

事前,事後学習ポイント: 教育課程の意義、類型、学習指導要領の変遷について学習する。指定教科書の該当部分および取得する免許状の学習指導要領を事前に読んでおくこと。

<第 7 講>

概要: 日本の学校教育制度と行政の役割

事前,事後学習ポイント: 学校教育制度のみならず、社会教育・生涯学習制度・教育行政の制度について学習する。指定教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

<第 8 講>

概要: 教育の方法と技術

事前,事後学習ポイント: 授業を「設計」「実施」「評価」する過程について学習する。大学生活に至るまでに受けてきた「教育」の場面でモラルケースとなるような授業を振り返っておくこと。

<第 9 講>

概要: 教育改革と学校

事前,事後学習ポイント: 各自治体の提示している教育改革のビジョンについて、事前にインターネット等で調べ、事前に読んでおくこと。

<第 10 講>

概要: 生徒指導の原理

事前,事後学習ポイント: 『生徒指導提要』を文部科学省のホームページからダウンロードし、事前に読んでおくこと。

<第 11 講>

概要: 「学力」論争と「学力」論

事前,事後学習ポイント: 国際学力調査 (PISA, TIMSS) や全国学力・学習状況調査、学習環境による学力の変化について学習する。指定教科書の該当部分を事前に読ん

でおくこと。

<第 12 講>

概要: 道徳教育と特別活動

事前,事後学習ポイント: 大学生活に至るまでに受けてきた道徳の授業、学校行事などの特別活動について振り返っておくこと。指定教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

<第 13 講>

概要: キャリア教育と進路指導

事前,事後学習ポイント: 大学生活に至るまでに受けてきた進路指導、キャリアを決定するときにサポートしてくれた体制について振り返っておくこと。指定教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

<第 14 講>

概要: シーズンシップ教育とインクルーシブ教育

事前,事後学習ポイント: 大学生活に至るまでに周囲にいた多様な人々との関わりについて振り返っておくこと。指定教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

<第 15 講>

概要: 現代の教育における諸問題

事前,事後学習ポイント: これまでの講義を受けて印象に残っている教育問題について復習しておくこと。指定教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

■教科書

安彦忠彦ら編著『よくわかる教育学原論』、ミネルヴァ書房

その他、授業時にプリントを配布する。

■指定図書

授業中に指示する。

■参考文献・参考URL / Reference List

広田照幸監修『リーディングス 日本の教育と社会 第1~20巻』、日本図書センター

その他は授業時に指示する。

■評価方法

平常点 (授業参加態度・出席) 70%、レポート30%

■評価基準

評価A+ (90点以上): 教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を十分に発揮している

評価A (89~80点): 教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を発揮している

評価B (79~70点): 講義に参加しているが、積極的な姿勢が十分ではない

評価C (69~60点): 講義に参加しているが、理解度が十分ではなく、また提出物の

提出についても遅滞が多い

評価F (59点以下): 欠席が多い、講義内容がほとんど理解できていない、他者と協力することができていないなど、いずれか一つ以上に該当する

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・この授業は受講生の主体的な働きかけで進めていくので、自主的に積極的に発言することを望む。

・教師を目指している人だけでなく、教師を目指すか迷っている人もぜひ受講し、進路選択の一助としてほしい。

・状況によって、講義内容や扱う回の入れ替えなどが生じることもある

科目名 教育史(Education History)

サブタイトル

担当教員 齋藤 S.裕美

■講義目的

本講義は、諸外国と日本の教育の歴史的展開と代表的な思想家の教育思想や教育実践についての基礎的な知識を習得し、理解を深めることを目的とする。この講義を通じて、歴史を全体的にどう見るかという根本的なものの見方を考え、歴史的事象と教育の間に関連を見出すことによって、教職を目指す者が身に付けなければならない必須の教養を深める。教育史上に重要な役割を果たした人物を中心に、その背景となっている歴史の流れをたどり、教育の本質について考察を進める。

■講義分類

■到達目標

諸外国および日本の教育史を時系列的にたどり、教職に就く者として求められる教育の歴史について、基本的な知識の習得をめざす。具体的には、①諸外国の教育史および代表的な思想家の教育思想や教育実践についての知識の習得、②日本の教育史、とりわけ近代以降の公教育制度の整備の歴史についての知識の習得、③教育観や子ども観の変遷についての知識の習得の3点をめざす。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各講で取り扱う時代について、世界史の教科書等で時代背景を確認しておくこと。

■講義の概要

<第1講>

概要：古代ギリシアの教育

事前,事後学習ポイント：ポリス、ソフィスト、ソクラテス、産婆術、プラトン、アカデメイア、アリストテレス、自由七科などのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第2講>

概要：中世ヨーロッパの教育

事前,事後学習ポイント：教会での教育、中世の大学、自由七科、騎士道、徒弟制、ギルド、宗教改革、ルター、マキャベリ、ルネサンスなどのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第3講>

概要：17世紀の教育

事前,事後学習ポイント：実主義、汎知主義、コメニウス、直観教育、民衆教育などのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第4講>

概要：18世紀の教育改革

事前,事後学習ポイント：ロック、労働学校、ルソー、子どもの発見、ペスタロッチ、民衆教育、カント、汎愛派、百科全書派などのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第5講>

概要：市民革命と教育

事前,事後学習ポイント：ピューリタン革命、名誉革命、アメリカ独立革命、教育の機会均等、フランス革命、自然権の承認、公教育計画などのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第6講>

概要：産業革命と教育

事前,事後学習ポイント：産業革命、監督権、公教育などのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第7講>

概要：近代公教育制度の発達

事前,事後学習ポイント：ナポレオン学制、プロイセン憲法、ドイツ統一、コモン・スクール、教育税制度、教育委員会制度などのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第8講>

概要：19世紀の教育思想

事前,事後学習ポイント：ヘルバルト、ツィラー、ライン、教授役段説、フレベール、幼稚園、スペンサー、三育論などのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第9講>

概要：世界新教育運動の展開

事前,事後学習ポイント：児童の世紀、デュエイ、実験学校、プロジェクト・メソッド、ドルトン・プラン、モンテッソリなどのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第10講>

概要：民主主義の発展と教育

事前,事後学習ポイント：複線型・単線型・分岐型、統一学校運動、ユネスコ、児童権利

宣言、教育の現代化、脱学校化、生涯教育などのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第11講>

概要：近世までの教育

事前,事後学習ポイント：大宝律令の学令、大学寮、武士道、金沢文庫、足利学校、五山文学、朱子学、藩校、寺子屋、私塾などのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第12講>

概要：近代教育制度の創始

事前,事後学習ポイント：学制、教育令、教育聖旨、教科書、開発主義などのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第13講>

概要：公教育制度の整備と近代日本の教育方法の発達

事前,事後学習ポイント：検定教科書、教育勅語、義務教育、5段階教授説、「新しい学校」、八大教育主張、教育組合などのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第14講>

概要：第二次世界大戦前後の教育

事前,事後学習ポイント：国民学校令、学徒勤労令、戦時教育令、四大教育指令、教育基本法、学校教育法、単線型学校体系、教育委員会、中央教育審議会、学習指導要領、コア・カリキュラムなどのキーワードについて理解し、説明できるか。

<第15講>

概要：現代の教育

事前,事後学習ポイント：第1講から第14講までの資料を読み、西洋と日本の教育の歴史的展開を復習しておくこと。

■教科書

教師養成研究会・森秀夫『教育史 西洋・日本』、学芸図書

■指定図書

柴田義松他編著『ポイント教育史 教育史』 学文社
教員試験情報研究会編『教職教養 教育史』 一ツ橋書店

■参考文献・参考URL / Reference List

荒井武編著『教育史』 福村出版

■評価方法

レポート35%、発表35%、出席30%

レポート等は次の3点を中心に評価する。

- (1)ヨーロッパ諸国の歴史と教育との関連について理解しているか。
- (2)日本の歴史と教育との関連について理解しているか。
- (3)様々な教育思想家の思想や教育実践の内容を理解しているか。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容について十分理解し、評価方法に示した3つの観点について、その内容を関連づけ、自分の考察を含めて的確に説明できる。

評価A (89-80点)：講義内容について理解し、評価方法に示した3つの観点について、その内容を個別に、自分の考察を含めて説明できる。

評価B (79-70点)：講義内容について理解し、評価方法に示した3つの観点について、いずれか2つ以上の内容を説明できる。

評価C (69-60点)：講義内容について理解し、評価方法に示した3つの観点について、いずれか1つ以上の内容を説明できる。

評価F (59点以下)：講義内容について著しく理解が不足している。

■履修していることが望ましい科目

■卒業生・対生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

・講義は毎回出席し、積極的な態度が望まれる(原則として、欠席・遅刻はしないこと)。

・教員としての資質を啓発するために、資料を収集・整理して発表する機会を設ける。

科目名 教育実習(Practice Teaching)

サブタイトル

担当教員 大森 拓哉

■講義目的

本講義は、教育実習の前後に行う指導である。事前に、教育実習の意義、実習上の留意事項、授業の見方、授業の実施方法、実習校とのかわり方などについて講義するとともに、模擬実習を組み込んで2週間～3週間の教育実習の指導・助言を図る。

実習後には、実習体験の整理の方法などについてふれる。その際に、教育実習が単に教える技術を学ぶだけでなく、主体的に行動し人間関係を創ってゆく総合的な体験の機会であったことを思い起こし、この体験を通じて得た自信を今後の社会人としての生活に生かせるように総括する。

■講義分類

顧客理解

ビジネス環境理解

ビジネス創造

ビジネスマネジメント

社会人力育成

ビジネスICT

■到達目標

教職に就く者として求められる教育実習について、講義技法と教育者としての態度を身に付け、基本的な知識の修得をめざす。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準する程度の具体的な学習内容

教職科目・教科科目のすべてを履修し、完璧な理解をしておくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：事前学習1

事前、事後学習ポイント：教育実習の意義を考える

<第 2 講>

概要：事前学習2

事前、事後学習ポイント：教育実習生としてのあり方を考える

<第 3 講>

概要：事前学習3

事前、事後学習ポイント：教育実習授業の準備を行う

<第 4 講>

概要：事前学習4

事前、事後学習ポイント：教育実習授業の準備を行う

<第 5 講>

概要：事前学習5

事前、事後学習ポイント：実習中における教材研究、授業研究の視点を考える。

<第 6 講>

概要：事前学習6

事前、事後学習ポイント：実習中における教材研究、授業研究の視点を考える。

<第 7 講>

概要：教育現場実習

事前、事後学習ポイント：教育現場実習におけるすべてを学ぶ。

<第 8 講>

概要：教育現場実習

事前、事後学習ポイント：教育現場実習におけるすべてを学ぶ。

<第 9 講>

概要：教育現場実習

事前、事後学習ポイント：教育現場実習におけるすべてを学ぶ。

<第 10 講>

概要：教育現場実習

事前、事後学習ポイント：教育現場実習におけるすべてを学ぶ。

<第 11 講>

概要：教育現場実習

事前、事後学習ポイント：教育現場実習におけるすべてを学ぶ。

<第 12 講>

概要：教育現場実習

事前、事後学習ポイント：教育現場実習におけるすべてを学ぶ。

<第 13 講>

概要：教育現場実習

事前、事後学習ポイント：教育現場実習におけるすべてを学ぶ。

<第 14 講>

概要：事後学習1

事前、事後学習ポイント：教育現場実習において学んだことを振り返る。

<第 15 講>

概要：事後学習2

事前、事後学習ポイント：教育現場実習において学んだことを振り返る。

■教科書

講義の中で、プリント資料・インターネットからの資料・DVD資料などを指示する。

■指定図書

小松喬生編 『教員採用シリーズ 教育実習を成功させよう』 一ツ橋書店

寺崎昌男編 『教育実習57の質問』 学文社

教師養成研究会編 『教育実習の研究』 学芸図書

入江昌明他著 『教育実習』 EXP

■参考文献・参考URL / Reference List

■評価方法

全講義・全実習・全提出物を完了すること。

■評価基準

評価A+（90点以上）：講義内容を完全に理解できている

評価A（89～80点）：実習に行く準備、実習後のまとめがきちんとできている

評価B（79～70点）：講義内容が理解できている

評価C（69～60点）：最低限の理解ができている

評価F（59点以下）：講義科目の履修目標に達していない

■履修していることが望ましい科目

3年次までの教職科目を単位履修していないと、本講義を受講することはできない。

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

教育実習は、高等学校では2週間～3週間の期間で行われる。その前後に1単位の事前および事後指導をすることが教員免許法で定められている。その中身は特に定められていないが、はじめに実習校で生徒の前に立って授業をする以上、少しでも円滑に進められるように準備をしておくことになる。また、高等学校の教育活動の全体を知り、経験を通じて学ぶことも教育実習の重要な目的とされており、そのための基礎的な知識を与えることも大切なことである。

教育実習の講義では、こういった目的を果たすために教育実習前(事前)の指導に必要な準備をする。また、教育実習後(事後)に、主体的に行動し人間関係を創ってゆく総合的な体験の機会であったことを思い起こし、この体験を通じて得た自信を今後の社会人としての生活に生かせるように総括する。

本講義は集中授業であるため、実施日については別途連絡する。

科目名 教育心理学(Educational Psychology)**サブタイトル****担当教員** 大森 拓哉**■講義目的**

教育心理学とは、人間の「教える」「学ぶ」という営為について、心理学の観点から科学的に理解・考察する学問である。この学問の目的は、心理学の研究から得られた知見や技術を教育活動の場に応用することによって、教育という活動を社会において効率的・効果的に行えるようにすることである。

■講義分類

顧客理解
ビジネス環境理解
ビジネス創造
ビジネスマネジメント
社会人力育成

■到達目標

教育・発達について、心理学的な観点から科学的に理解し、一般社会における学校教育・社会教育においても本講義で学んだ知見を応用できるようにすることを目標とする。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（学習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各回に新出した用語についてまとめておくこと。また、授業内課題について十分な考察ができなかった箇所については授業後にまとめておくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：教育心理学とは何か

事前,事後学習ポイント：教育心理学、発達、学習

<第 2 講>

概要：教育と発達

事前,事後学習ポイント：発達心理学

<第 3 講>

概要：認知発達

事前,事後学習ポイント：認知、成長

<第 4 講>

概要：学習理論

事前,事後学習ポイント：学習、習得、記憶、忘却

<第 5 講>

概要：教授・学習過程

事前,事後学習ポイント：集団学習、個別学習

<第 6 講>

概要：意欲と動機づけ

事前,事後学習ポイント：古典的条件付け、オペラント条件付け

<第 7 講>

概要：パーソナリティ・個人差

事前,事後学習ポイント：パーソナリティ、障害

<第 8 講>

概要：個に応じた学習指導

事前,事後学習ポイント：個別指導、個別学級

<第 9 講>

概要：集団における人間関係

事前,事後学習ポイント：集団行動

<第 10 講>

概要：言語の発達

事前,事後学習ポイント：言語発達

<第 11 講>

概要：数概念の発達と算数・数学の学習

事前,事後学習ポイント：数概念の獲得

<第 12 講>

概要：知能と学力

事前,事後学習ポイント：知能検査、学力検査

<第 13 講>

概要：教育評価

事前,事後学習ポイント：テスト、評価

<第 14 講>

概要：ライフスキルを高める教育

事前,事後学習ポイント：生涯学習

<第 15 講>

概要：まとめ

事前,事後学習ポイント：これまでの講義内容

■教科書

特に指定なし。講義ごとに紹介する。

■指定図書

教育心理学 I、大村彰道編、東京大学出版会、1996

教育心理学、荒井邦二郎他、培風館、2009

よくわかる教育心理学、中澤潤編、ミネルヴァ書房、2008

■参考文献・参考URL / Reference List**■評価方法**

出席50%、課題+テスト50%

■評価基準

評価A+（90点以上）：全ての講義に出席し、講義内容を十分理解しているか。
評価A（89～80点）：2/3以上の出席をし、講義内容を十分理解しているか。
評価B（79～70点）：2/3以上の出席をし、講義内容を理解しているか。
評価C（69～60点）：本講義における最低限の理解をしているか。
評価F（59点以下）：上記を満たさない場合

■履修していることが望ましい科目

特になし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

本講義は教職科目の中の一科目でもあるので、教職課程履修のものは必修の授業である。講義中の飲食、携帯電話操作、帽子・サングラスの着用等は厳禁である。

科目名 教育制度論 (Educational System)

サブタイトル 教育の制度を比較的な視点でとらえる

担当教員 峯岸 久枝

■講義目的

1. 教育をとりまく社会・行政の制度改革の動向を含めて、広く考察する。
2. 現在の日本の教育制度・行政等について、歴史的視点と国際的視点の両面から比較する。

■講義分類

社会人育成

■到達目標

現在の日本の教育制度設計を、政策の動向を加味しながら客観的に評価できる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

指定教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：「教育の制度」とは何か

事前,事後学習ポイント：教育のフィールド、学校教育の制度、教育の機会均等

<第 2 講>

概要：学校体系① ヨーロッパ諸国の学校体系

事前,事後学習ポイント：指定教科書の該当部分を、事前に読んでおくこと。

<第 3 講>

概要：学校体系② 日本の学校体系の変遷

事前,事後学習ポイント：戦前の学校体系と戦後の学校体系の比較、米国教育使節団報告書の概要

<第 4 講>

概要：学校体系③ 学校制度体系の類型と諸外国が抱える課題

事前,事後学習ポイント：パブリックスクール、シックスフォーム、バカロレア、アピトゥー、アーティキュレーション

<第 5 講>

概要：教育に関する法規

事前,事後学習ポイント：学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律

<第 6 講>

概要：教育に関する行政と財政制度① 教育行政の原理と文部科学省

事前,事後学習ポイント：文部科学省のホームページを事前に見ておくこと

<第 7 講>

概要：教育に関する行政と財政制度② 教育委員会設置の意味

事前,事後学習ポイント：自分の住んでいる地域の教育委員会のホームページを事前に見ておくこと

<第 8 講>

概要：教育に関する行政と財政制度③ 大阪府の教育基本条例案を読む

事前,事後学習ポイント：教育委員会廃止論

<第 9 講>

概要：教育内容と学習指導要領① 学習指導要領の歴史の変遷と改定のポイント

事前,事後学習ポイント：学習指導要領の「改訂の要点」

<第 10 講>

概要：教育内容と学習指導要領② 学級経営と集団づくり

事前,事後学習ポイント：生活指導、仲間づくり、学級集団づくり、異質共同性、構成的グループ・エンカウンター

<第 11 講>

概要：教育の平等を考える① 機会の均等と平等

事前,事後学習ポイント：指定図書を事前に読んでおくこと。

<第 12 講>

概要：教育の平等を考える② 「機会の平等」と「結果の平等」

事前,事後学習ポイント：教育の機会均等と結果の平等

<第 13 講>

概要：教育の市場化と新自由主義

事前,事後学習ポイント：福祉国家観、新自由主義(新保守主義)

<第 14 講>

概要：臨時教育審議会の検討とその意味

事前,事後学習ポイント：指定教科書の該当部分を、事前に読んでおくこと。

<第 15 講>

概要：まとめ

事前,事後学習ポイント：教育制度論で学習した内容を総括しておくこと

■教科書

安彦政彦編著『よくわかる教育学原論』、ミネルヴァ書房
その他は、授業時に指示する。

■指定図書

ケネス・ハウ『教育の平等と正義』、学術出版社
解説教育六法編修委員会『解説 教育六法2015』、三省堂
その他は授業時に指示する。

■参考文献・参考URL / Reference List

黒崎勲『新しいタイプの公立学校—コミュニティ・スクール立案過程と選択による学校改革』同時代社
その他は授業時に指示する。

■評価方法

平常点（授業参加態度・出席）70%、レポート30%

■評価基準

評価A+（90点以上）：教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を十分に発揮している
評価A（89～80点）：教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を発揮している
評価B（79～70点）：講義に参加しているが、積極的な姿勢が十分ではない
評価C（69～60点）：講義に参加しているが、理解度が十分ではなく、また提出物の提出についても遅滞が多い
評価F（59点以下）：欠席が多い、講義内容がほとんど理解できていない、他者と協力することができていないなど、いずれか一つ以上に該当する

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・この授業は受講生の主体的な働きかけで進めていくので、自主的に積極的に発言することを望む。
- ・最新の教育情報や、新聞等で常にチェックしておくこと。
- ・状況によって、講義内容や扱う回の入れ替えなどが生じることもある。

科目名 教育方法(Teaching Method)

サブタイトル

担当教員 齋藤 S.裕美

■講義目的

平成25年度入学生より学習指導要領が改訂され、基礎的な知識・技能の習得に加え、確かな学力が重要視されるようになった。また、習得した知識・技能を活用して自ら考え、判断し、表現することにより様々な問題に積極的に対応し、解決する力を求められるようになった。

本講義では、教育方法の変遷を欧米における教授理論の展開と日本における教育課程の変遷において概観し、その上で授業構成要素である学習目標、学習内容、指導方法・学習方法、指導組織・形態、学習環境・メディア、学習評価等について基礎理論を学ぶ。さらに具体的な指導案や教材・教具の開発を行い、事例に基づいて理解を深め、それら事例における工夫や改善のあり方についても検討する。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

- ・教育方法の基本的な概念がわかる。
- ・教育方法の変遷、現代的課題がわかる。
- ・教授-学習過程の構造がわかり、教授原理について説明できる。
- ・指導内容、教材、教具の関係について説明でき、教材を活用した授業を設計できる。
- ・教材研究の機能を説明し、具体的な教材開発ができる。
- ・教育評価の機能と授業評価の種類や方法を説明できる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各講とも、前講までの資料を読んでおくこと。授業内の指示に従って学習指導案や教材教具を作成すること。

■講義の概要

<第1講>

概要：教育方法の二つの側面

学習指導-知識の習得とその応用・活用についての指導について、生徒が学習する意味や学校教育の意味を考察し、そこから敷衍して「教育方法」という科目の意義について確認する。

事前、事後学習ポイント：生徒にとって学校教育において学ぶ意味とはどのようなことであるか、「教育方法」を学ぶ意味は何か。

<第2講>

概要：近代までの教育方法の思想

西洋古代から西洋中世までの教育方法(クワテラの産婆術、アリストテレスの演繹法、7自由科の成立、F.ペーコンの帰納法)、西洋近代的教育方法(コメニウスの近代教授学、実学主義と直感主義、ペスタロッチの教育方法、ヘルバルト学説)、現代的教育方法(経験主義、児童中心主義、新教育運動、エッセンシャルイズム、プログレッシビズム)の順に追い、教育方法の歴史の変遷について確認する。

事前、事後学習ポイント：古代から近代までにどのような教育方法が生み出されてきたのだろうか。

<第3講>

概要：近現代的教育方法の思想

近現代的教育方法(経験主義、児童中心主義、新教育運動、エッセンシャルイズム、プログレッシビズム)について確認し、現在の日本の学校教育との関連について確認する。

事前、事後学習ポイント：近現代的教育方法とはどのようなものか。

<第4講>

概要：近代日本教育方法の変遷

江戸時代の教育方法から明治期の学制に見られる教育観、大正新教育運動と各学校の成立過程、戦後の学習指導要領と教育方法の変遷を確認し、現行の学習指導要領と新学習指導要領の特徴について概説する。

事前、事後学習ポイント：近現代の日本の教育方法とはどのような歴史的変遷をたどったのが、学習指導要領改訂とはどのような社会的背景のもとになされたのか。

<第5講>

概要：教育課程とその類型

経験カリキュラム、教科カリキュラム、融合カリキュラム、広領域カリキュラム、コア・カリキュラムなどのカリキュラムの類型について確認し、現行の教育課程の特徴と教育課程編成の特徴などについて概説する。

事前、事後学習ポイント：教育課程とは何か、その類型にはどのようなものがあるか、教育課程の編成はどのような原理のもとで行われるのか。

<第6講>

概要：学習の諸原理

興味の原理、経験の原理、自発性の原理、社会性の原理、直観の原理について確認し、さらに学力とは何か、学力低下問題やPISA型学力などの現代的問題についても取り上げる。

事前、事後学習ポイント：学習の原理にはどのようなものがあるか。

<第7講>

概要：教授学習の過程

教授学習過程の流れについて確認し、授業を構成する三要素、授業の構造について概説する。さらに、授業設計と主題研究の関わり、指導法検討の意義についても考察する。

事前、事後学習ポイント：授業とは何か、主題研究の意義はどのようなものであるか。

<第8講>

概要：単元の設定と展開

カリキュラムについて、大単元と小単元、導入-展開-まとめについて概説する。

事前、事後学習ポイント：単元とは何か、導入-展開-まとめの意義はどのようなものであるか。

<第9講>

概要：教材教具

教材とは何か、教具とは何か、教材教具の必要性について概説し、教材教具をどのような場合に開発すべきかを考察する。

事前、事後学習ポイント：教材教具はどのような場合に必要か。課題として教材作成を行う。

<第10講>

概要：教育工学

教育機器や視聴覚教材の利用について、フラット教材、オーディオ教材、ビジュアル教材などについて概説する。

事前、事後学習ポイント：教育機器や視聴覚教材にはどのようなものがあるか、どのような場面で活用すべきか。

<第11講>

概要：授業設計(1)

授業設計の手順と方法について概説する。

事前、事後学習ポイント：授業設計の手順と方法はどのようなものか。

<第12講>

概要：授業設計(2)

学習指導案の作成法について概説する。

事前、事後学習ポイント：学習指導案を作成し、どのような手順で学習指導案を作成するのか、作成時の留意点とは何かを理解する。

<第13講>

概要：授業設計(3)

模擬授業演習を行う。

事前、事後学習ポイント：模擬授業のための準備を行うこと。課題として学習指導案作成を行う。

<第14講>

概要：教育評価

学習評価の分類、測定の方法、絶対評価と相対評価、観点別評価と絶対評価の尺度、データ解析の方法について概説する。

事前、事後学習ポイント：教育評価の目的は何か、観点別評価と絶対評価の関連はどのようなものであるか。課題として評価規準と評価基準の作成を行う。

<第15講>

概要：全体のまとめ

事前、事後学習ポイント：第1講から第14講を振り返り、教育方法に関する基礎理論について確認しておくこと。

■教科書

谷田貝公昭・成田国英・林邦雄著 『教育方法論』 一豊社

■指定図書

樋口直宏・林尚示・牛尾直行著 『実践に活かす 教育課程論・教育方法論』 学事出版

柴田敦松・山崎肇二著 『教育の方法と技術』 学文社

西之園晴夫・宮寺晃夫著 『教育の方法と技術』 ミネルヴァ書房

日本教育方法学会著 『日本の授業研究(上巻) 授業研究の歴史と教師教育』 学文社

日本教育方法学会著 『日本の授業研究(下巻) 授業研究の方法と形態』 学文社

■参考文献・参考URL / Reference List

日本教育方法学会著 『現代カリキュラム研究と教育方法学—新学習指導要領・PISA型

学力を問う』図書文化社

植野真臣著 『知識社会におけるe-learning』 培風館

■評価方法

期末試験45%、学期中のレポートや課題、発表40%、出席状況15%を基本とし、授業への参加態度などを加味して総合的に評価する。

期末試験および学期中のレポートや課題は次の5点を中心に評価する。

- (1)教育方法史や教育課程の変遷について理解しているか。
- (2)教育現場における方法技術を理解しているか。
- (3)授業設計について理解しているか。
- (4)教材教具について理解し、必要な教材教具を作成することができるか。
- (5)学習評価について理解しているか。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 講義内容について十分理解し、評価方法に示した5つの観点について、その内容を関連づけ、自分の考察を含めて的確に説明できる。

評価A (89~80点) : 講義内容について理解し、評価方法に示した5つの観点について、その内容を個別に、自分の考察を含めて説明できる。

評価B (79~70点) : 講義内容について理解し、評価方法に示した5つの観点について、いずれか3つ以上の内容を説明できる。

評価C (69~60点) : 講義内容について理解し、評価方法に示した5つの観点について、いずれか2つ以上の内容を説明できる。

評価F (59点以下) : 講義内容について著しく理解が不足している。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

科目名 教職課程総論(Curriculum)

サブタイトル

担当教員 山原 克明

■講義目的

教育課程(Curriculum:カリキュラム)は、教育内容の一般的な計画の側面をもっており、学校における教育活動は教育課程を核として展開される。教育課程により、包括的に教育内容を捉え、教育全般を概観できる。この研究を通じて、新しい時代を担う教員としての資質・能力を形成することを目的とする。

本講義では、教育課程の意義と編成の方法について、「学ぶため・学び方のコース」としての一般方針・配慮事項、編成の基準、類型と評価、指導計画の編成と指導の工夫などを取り扱う。

■講義分類

教育：人を教え・育てる者としての資質・能力の育成

■到達目標

教職に就く者として、教育指導の根幹構造を示す教育課程(カリキュラム)について、基本的な知識の修得し、時代の進展や社会の変化に応じた指導力を生かすために、留意すべき諸点に注目し、必要な知識と編成の技能が着実に身に付くことを目指す。

■講義形態

講義・グループディスカッション・実習・プレゼンテーション(発表)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

90分程度の関連資料の整理と準備
 日常生活を通じて、「教育」にかかわる情報に留意する。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：教育課程(curriculum:カリキュラム)は、教育内容の一般的な計画の側面をもっており、学校における教育活動は教育課程を核として展開される。教育課程により、包括的に教育内容を捉え、教育全般を概観できる。この研究を通じて、新しい時代を担う教員としての資質・能力を形成する。

教育課程とは何か 教育課程改革と学習指導要領 (1)

内容

・教育内容を捉え、教育全般を概観

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

教育課程とは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第 2 講>

概要：教育課程とは何か 教育課程改革と学習指導要領 (2)

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

新しい学習指導要領の基本的な考え方(「生きる力」をはぐくむこと)を理解し、教員として求められる知識が身に付いたか。

<第 3 講>

概要：教育課程(curriculum)の意義と編成(1)

一般的に教育課程といわれ、教育目標に即して生徒の学習を指導するために、学校が計画的・組織的に編成して課す教育内容の全体計画を意味する。その意義と編成について考える。

内容

・教育課程編成の一般方針

・普通教育に関する各教科・科目及び標準単位数

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

教育課程の意義と編成について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第 4 講>

概要：教育課程(curriculum)の意義と編成(2)

内容

・学校設定科目・学校設定教科

・各教科・科目の履修等

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

教育課程の意義と編成について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第 5 講>

概要：・教育課程(curriculum)の意義と編成(3)

内容

・教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項

・単位の修得および卒業の認定

・通信制の課程における教育課程の特例

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

21世紀を展望し、我が国の教育について、「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむこ

とを重視する提言は、教育課程にどのように生かされているのか。

<第 6 講>

概要：教育課程の類型とその評価

教育課程のいろいろな類型を取り上げ、その評価について考えてみる。

内容

・教科カリキュラム

・相関カリキュラム

・融合カリキュラム

・広域カリキュラム

・コア・カリキュラム

・経験カリキュラム

・各国のカリキュラムの比較

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

教育課程の類型と評価について理解し、求められる知識が身に付いたか。

各国のカリキュラムの特色を把握できたか。

<第 7 講>

概要：教育課程のデザインと指導計画の作成演習

一模擬教育課程の編成一

内容

・各高等学校のホームページから、具体的な教育課程表を収集し、教育目標や実際の教育内容の特徴とを比較検討

・問題点と改善点の指摘

・新しい形の高等学校のホームページから、各校の教育課程の特色の指摘

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

具体的な教育課程を読み取る知識が身に付いたか。

<第 8 講>

概要：教育委員会の役割

・文部科学省ホームページ(<http://www.mext.go.jp>)から、各審議会による答申等を検索して、関連するデータを収集・分析する。

・実際の教育課程(母校の教育課程表)を改めて見直ししてみる。

・各県立高等学校のカリキュラム、指導目標などを比較してみる。

事前,事後学習ポイント：予習・復習ポイント>

我が国の教育行政における教育委員会の役割割りについて理解できたか。

<第 9 講>

概要：教育課程総論 第8講科目のため空欄

事前,事後学習ポイント：教育課程総論 第8講科目のため空欄

<第 10 講>

概要：教育課程総論 第8講科目のため空欄

事前,事後学習ポイント：教育課程総論 第8講科目のため空欄

<第 11 講>

概要：教育課程総論 第8講科目のため空欄

事前,事後学習ポイント：教育課程総論 第8講科目のため空欄

<第 12 講>

概要：教育課程総論 第8講科目のため空欄

事前,事後学習ポイント：教育課程総論 第8講科目のため空欄

<第 13 講>

概要：教育課程総論 第8講科目のため空欄

事前,事後学習ポイント：教育課程総論 第8講科目のため空欄

<第 14 講>

概要：教育課程総論 第8講科目のため空欄

事前,事後学習ポイント：教育課程総論 第8講科目のため空欄

<第 15 講>

概要：教育課程総論 第8講科目のため空欄

事前,事後学習ポイント：教育課程総論 第8講科目のため空欄

■教科書

文部科学省編 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』

■指定図書

[1] 文部科学省編 『高等学校学習指導要領解説 総則編』 東山書房

[2] 柴田義孝編 『教育課程 カリキュラム入門』 有斐閣

■参考文献・参考URL / Reference List

<http://www.mext.go.jp/>

■評価方法

本講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質をや意欲を勘案して評価する。

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 期末試験(30%) 提出物・模擬指導(10%) 出席(60%)

本講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質をや意欲を勘案して評価する。 ・指導者(教員)として生徒指導の方法をよく理解し、安定した資質を発揮して、心ざわしい考え方・もの見方を身に付けているか。 ・期末試験 ・教員を目指す者として、講義内容の全般にわたる知識を十分に身に付けているか。 ・教員としての教養を身に付け、指導に関する事項を正確に理解しているか。 ・出題の意図よく理解し、適当な分量で的確に答えているか。 ・提出物 ・教員としての視点から、講義で取り上げた内容をよく理解しているか。 ・主要な論点を取り出し、適切な分量で論述しているか。 ・正確でわかりやすい表現で、整理された論理構成で話されているか。

評価A (89~80点) : 本講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質をや意欲を勘案して評価する。

評価B (79~70点) : 本講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質をや意欲を勘案して評価する。

評価C (69~60点) : 本講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質をや意欲を勘案して評価する。

評価F (59点以下) : 本講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質をや意欲を勘案して評価する。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・講義には、欠席・遅刻なく出席することが必要である。(原則として、欠席・遅刻はできない。)

・教員を目指す者として真剣に受講する必要がある。

・課題を設定して、指導上の諸問題を解決する研究を適宜指示する。

科目名 教職実践演習

サブタイトル 大学4年間のキャリアを振り返り、自己の教職観を再構築する

担当教員 峯岸 久枝

■講義目的

大学4年間の学生生活(特に、教職に関すること)を省察し、その過程で、自己の強み・弱みを明らかにする。また、キャリアの振り返りを行うことで、自己の教職観を再構成する。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

1. 各自のワークや全体討議を通して、教育実習の振り返りを行い、経験の共有化を図る。
2. 学生時代の振り返りを通して、今後の自己成長に必要なことを見出す。
3. 講義内での活動を通して、自己の授業観・教職観を再構築する。

■講義形態

GD・GW・PR

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

- ・教育実習での記録をきちんとつけておくこと。
- ・大学生活(教職に関する)で得たことを整理しておくこと。

■講義の概要

<第1講>

概要：学生時代を振り返る①

事前,事後学習ポイント：大学生活に至るまでの生活や経験の場と、それに関わった人や事柄について振り返っておくこと。

<第2講>

概要：学生時代を振り返る②

事前,事後学習ポイント：大学生活に至るまでの生活や経験の場と、それに関わった人や事柄について振り返っておくこと。

<第3講>

概要：学生時代を振り返る③

事前,事後学習ポイント：学生時代の振り返りをもとに、学生時代にできることについて考える。

<第4講>

概要：教育実習を振り返る①

事前,事後学習ポイント：教育実習での記録を読み直し、実習中の出来事を細かく振り返っておくこと。

<第5講>

概要：教育実習を振り返る②

事前,事後学習ポイント：教育実習での記録を読み直し、実習中の出来事を細かく振り返っておくこと。また、プレゼンテーションができるよう準備しておくこと。

<第6講>

概要：教育実習を振り返る③

事前,事後学習ポイント：第5講で提示された問題点や自己の意見を書き留めておき、自分なりの意見をまとめておくこと。

<第7講>

概要：教育実習を振り返る④

事前,事後学習ポイント：教育実習での記録を読み直し、実習中の出来事を細かく振り返っておくこと。

<第8講>

概要：教育実習を振り返る⑤

事前,事後学習ポイント：第7講でまとめた内容に基づいて、プレゼンテーションができるよう準備しておくこと。

<第9講>

概要：教育実習を振り返る⑥

事前,事後学習ポイント：教育実習での記録を読み直し、実習中の出来事を細かく振り返っておくこと。

<第10講>

概要：教育実習を振り返る⑦

事前,事後学習ポイント：第9講でまとめた内容に基づいて、プレゼンテーションができるよう準備しておくこと。

<第11講>

概要：教育実習を振り返る⑧

事前,事後学習ポイント：第10講で意見交換したことを振り返りながら、特に自己の意見がどのようなものであったのかについてメモしたことを振り返り、教師としてどのような指向を以ているのかを確認しておく。

<第12講>

概要：教育実習を振り返る⑨

事前,事後学習ポイント：第4～11講で行った振り返りと、意見交換、およびそれに対する自己の意見表明の傾向等をまとめながら、自己の教師観について考えておくこと。

<第13講>

概要：教育実習を振り返る⑩

事前,事後学習ポイント：これまでの講義を振り返っておくこと。また、指定図書を読んでおくこと。

<第14講>

概要：自己の教師観を再構築する

事前,事後学習ポイント：各自がこれまでの振り返り活動を通して得られた自己理解・他者理解に基づいて自己の教師観について考えておくこと。

<第15講>

概要：反省的实践と教職観

事前,事後学習ポイント：指定図書を読んでおくこと。

■教科書

なし

■指定図書

F・コルトハーヘン『教師教育学—理論と実践をつなぐリアリステック・アプローチ—』学文社

■参考文献・参考URL / Reference List

授業時に指示する。

■評価方法

授業時の積極的な姿勢(特に、ワークやディスカッション)を平常点(100%)として評価する。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を十分に発揮している
 評価A (89～80点)：教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を発揮している
 評価B (79～70点)：講義に参加しているが、積極的な姿勢が十分ではない
 評価C (69～60点)：講義に参加しているが、理解度が十分ではなく、また提出物の提出についても遅滞が多い
 評価F (59点以下)：欠席が多い、講義内容がほとんど理解できていない、他者と協力することができていないなど、いずれか一つ以上に該当する

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年度生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・この授業は受講生の主体的な働きかけで進めていくので、自主的に積極的に発言することを望む。
- ・本講は集中授業の形式で行うため、事前学習は講義の中に含んでいくことも多い。指定図書については、講義開始前に行っておくことが求められる。
- ・状況によって、講義内容や扱う回の入れ替えなどが生じることもある。

科目名 教職概論 (Teaching Profession)

サブタイトル 自らの「講師像」を構成する

担当教員 峯岸 久枝

■講義目的

1. 教職についての基本的事項（教職の意義、教員の役割、職務内容等）をおさえる。
2. 現行教員養成制度の原理や政策的な課題について理解する
3. 近年の政策動向のなかで、新たに求められつつある教師の資質と力量について考えながら、自己の教職観・教師像の構築をはかる。

■講義分類

社会人力育成

■到達目標

1. 教員の養成・採用・研修を、「教師の成長」という観点から考え、教職の意義、教師の仕事、教職の専門性について総合的に説明できる。
2. 現在の地方分権、構造改革下の教員養成政策を確認しながら、新たな教師像を模索する動向について世界的な流れを含めて説明できる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

指定教科書の該当部分や文部科学省等のホームページを事前に読んでおくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：ガイダンス

事前、事後学習ポイント：教員免許の取得を目指そうとした理由を振り返る

<第 2 講>

概要：教師の職務内容とその範囲

事前、事後学習ポイント：教師の職務内容

<第 3 講>

概要：教師の地位と身分① 教師の「地位」

事前、事後学習ポイント：全体の奉仕者、教育基本法第9条、地方公務員法第30～38条

<第 4 講>

概要：教師の地位と身分② 教師の義務と身分保障の意味

事前、事後学習ポイント：「不適格教員」と「指導力不足教員」の違ひ

<第 5 講>

概要：教師の地位と身分③ 教師の待遇

事前、事後学習ポイント：人材確保法、給与等特措法

<第 6 講>

概要：教員研修の種類と意義

事前、事後学習ポイント：自分の住んでいる地域の教員研修施設（教育センター等）の調査

<第 7 講>

概要：教師のやりがいとバーンアウト

事前、事後学習ポイント：バーンアウト

<第 8 講>

概要：価値多様化社会の中の専門職①

事前、事後学習ポイント：教職の専門職化、専門職、教員の地位に関する通告、教師教育、同僚性

<第 9 講>

概要：価値多様化社会の中の専門職②

事前、事後学習ポイント：反省的実践家、「効果のある学校」

<第 10 講>

概要：教員免許制度の現状分析

事前、事後学習ポイント：日本の教員免許制度の問題点

<第 11 講>

概要：教職観の変遷 開放制の「ゆらぎ」

事前、事後学習ポイント：開放制教員養成、師範学校

<第 12 講>

概要：新しい教師の力量①

事前、事後学習ポイント：教員研修、教員免許制度、各国の教員養成制度の比較(文科省HP)

<第 13 講>

概要：新しい教師の力量②

事前、事後学習ポイント：OECDの政策提言（「日本再生のための政策 OECDの提言」）について、ホームページを事前に読んでおくこと。

<第 14 講>

概要：新しい教師の力量③

事前、事後学習ポイント：開かれた学校づくり

<第 15 講>

概要：教師への聞き取りから見えるもの

事前、事後学習ポイント：理想の教師像を、再考して授業に臨むこと。

■教科書

佐藤学『教師というアリア』、世織書房

ドナルド・A・ショーン『省察的実践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考—』風

書房

解説教育六法編修委員会編『解説 教育六法 2015』、三省堂

■指定図書

授業中に指示する。

■参考文献・参考URL / Reference List

Betty E. Steffy, Michael P. Wolfe, 三村隆男訳『教師というキャリア—成長

続ける教師の六局面から考える』、雇用問題研究会

その他は授業時に指示する。

■評価方法

平常点（授業参加態度・出席）50%、レポート50%

レポートは、教師へのヒアリングをもとに作成するので、できる限り早めに教師や学校にアポイントメントを取っておくことが望ましい。レポートについては、期日を過ぎたものは原則として評価をしない。

■評価基準

評価A+（90点以上）：教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を十分に発揮している

評価A（89～80点）：教員たるにふさわしい態度、参加意欲等を発揮している

評価B（79～70点）：講義に参加しているが、積極的な姿勢が十分ではない

評価C（69～60点）：講義に参加しているが、理解度が十分ではなく、また提出物の

提出についても遅滞が多い

評価F（59点以下）：欠席が多い、講義内容がほとんど理解できていない、他者と協

力することができていないなど、いずれか一つ以上に該当する

■履修していることが望ましい科目

なし

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

・この授業は受講生の主体的な働きかけで進めていくので、自主的に積極的に発言することを望む。

・教師を目指している人だけでなく、教師を目指すか迷っている人もぜひ受講し、進路選択の一助としてほしい。

・状況によって、講義内容や扱う回の入れ替えなどが生じることもある。

科目名 情報科教育法 (Teaching Method on Information Education)

サブタイトル

担当教員 齋藤 S. 裕美、山原

■講義目的

本講義は、高等学校情報科の教員として多様な高校生に「情報」の本質を指導する基本的な能力を身に付けることを目的とする。情報にかかわる理念、制度、知識・技能、指導法等の情教育の基本的な事項の理解を深めながら、実践的な指導力や教師としての資質の習得を図ることを目的とする。

本講義では、新学習指導要領(平成25年度入学生から学年進んで実施)の改訂ポイントや主な改善事項について触れ、模擬授業などの実習を通じて情報科教育の研究を進め、教材研究の方法、学習指導の工夫などの授業創りの実践を体験する。

なお、15週を通じての講義概要は以下の通りである。

- ・講義と研究授業の形式による模擬授業(教壇実習)を行う。
- ・高等学校(情報科)の教員として、基本的な理念、制度、知識・技能、指導法等の情報教育の基本的な事項の理解を深めながら、実践的な資質や指導力の習得を図る。
- ・「高等学校学習指導要領解説 情報編」(文部科学省編 開隆堂出版)を中心に、指導用図書(高等学校で使用する教科書)や参考資料を配布して講義を進める。

■講義分類

社会人育成

■到達目標

教職に就く者として求められる教育情報(情報)について、基本的な知識と授業実践の手法の習得をめざす。

- ・情報教育の沿革と現状、在り方について説明できる。
- ・共通教科「情報」(各学科に共通する教科「情報」)と専門教科「情報」(主として専門学科において開設される教科「情報」)の基本的な理念について説明できる。
- ・共通教科「情報」と専門教科「情報」の目標、内容、構成を理解する。
- ・指導計画を作成し、それを基に模擬授業を通じた実践ができる。
- ・他の学生の模擬授業を見て、改善点や修正点を相互に指摘できる。
- ・指摘を受け入れて、自らの指導計画や授業などを改善・工夫できる。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習(学習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

学習指導要領を精読すること。授業内の指示に従って学習指導案を作成すること。

■講義の概要

<第1講>

概要: 情報教育の沿革と現状

事前,事後学習ポイント: 「情報」、「情報教育」、「情報科教育」についてよく理解し、教職に就く者として求められる知識が身に付いたか。

<第2講>

概要: 高等学校学習指導要領における情報教育の全体像

事前,事後学習ポイント: ・共通教科「情報」の全体像を理解し、教職に就く者として求められる知識が身に付いたか。

・専門教科「情報」の全体像を理解し、教職に就く者として求められる知識が身に付いたか。

<第3講>

概要: 高等学校学習指導要領「第2章 普通教育に関する各教科 第10節 情報」・「第3章 専門教育に関する各教科 第7節 情報」の各科目の「目標」・「内容」・「内容の取扱い」の要点の解説

事前,事後学習ポイント: ・各科目の基本的な概念や要点を理解し、指導するうえで基礎的な知識が身に付いたか。

・知識を情報教育に展開させ、わかりやすい指導に結び付けることができるか。

<第4講>

概要: 高等学校学習指導要領「第2章 普通教育に関する各教科 第10節 情報」・「第3章 専門教育に関する各教科 第7節 情報」の各科目の「目標」・「内容」・「内容の取扱い」の要点の解説

事前,事後学習ポイント: ・各科目の基本的な概念や要点を理解し、指導するうえで基礎的な知識が身に付いたか。

・知識を情報教育に展開させ、わかりやすい指導に結び付けることができるか。

<第5講>

概要: 高等学校学習指導要領「第2章 普通教育に関する各教科 第10節 情報」・「第3章 専門教育に関する各教科 第7節 情報」の各科目の「目標」・「内容」・「内容の取扱い」の要点の解説

事前,事後学習ポイント: ・各科目の基本的な概念や要点を理解し、指導するうえで基礎的な知識が身に付いたか。

・知識を情報教育に展開させ、わかりやすい指導に結び付けることができるか。

<第6講>

概要: 高等学校学習指導要領「第2章 普通教育に関する各教科 第10節 情報」・「第3章 専門教育に関する各教科 第7節 情報」の各科目の「目標」・「内容」・「内容の取扱い」の要点の解説

事前,事後学習ポイント: ・各科目の基本的な概念や要点を理解し、指導するうえで基礎的な知識が身に付いたか。

・知識を情報教育に展開させ、わかりやすい指導に結び付けることができるか。

<第7講>

概要: 指導計画の作成

事前,事後学習ポイント: ・指導計画の作成について理解し、創意・工夫した指導計画を作成する知識・技能が身に付いたか。

・どの程度適切なものであるか、自ら評価できるか。

<第8講>

概要: 指導計画の作成

事前,事後学習ポイント: ・指導計画の作成について理解し、創意・工夫した指導計画を作成する知識・技能が身に付いたか。

・どの程度適切なものであるか、自ら評価できるか。

<第9講>

概要: 指導計画の作成

事前,事後学習ポイント: ・指導計画の作成について理解し、創意・工夫した指導計画を作成する知識・技能が身に付いたか。

・どの程度適切なものであるか、自ら評価できるか。

<第10講>

概要: 模擬授業

事前,事後学習ポイント: ・指導計画の作成について理解し、創意・工夫した指導計画を作成する知識・技能が身に付いたか。

・どの程度適切なものであるか、自ら評価できるか。

<第11講>

概要: 模擬授業

事前,事後学習ポイント: ・学習指導案を作成するために、教科書などの印刷教材、インターネット上の資料を収集し、要点をよく把握した教材研究が十分にこなされているか。

・学習指導案の作成に十分な時間をかけて、内容をよく理解したうえで、授業の進め方、板書・配布物の準備ができていくか。

・教育を実践する者として、円滑に模擬授業を進め、その大切さを自覚できたか。

・1単位時間分(50分)の指導を実践して、教員としての態度・見識がしっかりと身に付いたか。

<第12講>

概要: 模擬授業

事前,事後学習ポイント: ・学習指導案を作成するために、教科書などの印刷教材、インターネット上の資料を収集し、要点をよく把握した教材研究が十分にこなされているか。

・学習指導案の作成に十分な時間をかけて、内容をよく理解したうえで、授業の進め方、板書・配布物の準備ができていくか。

・教育を実践する者として、円滑に模擬授業を進め、その大切さを自覚できたか。

・1単位時間分(50分)の指導を実践して、教員としての態度・見識がしっかりと身に付いたか。

<第13講>

概要: 模擬授業

事前,事後学習ポイント: ・学習指導案を作成するために、教科書などの印刷教材、インターネット上の資料を収集し、要点をよく把握した教材研究が十分にこなされているか。

・学習指導案の作成に十分な時間をかけて、内容をよく理解したうえで、授業の進め方、板書・配布物の準備ができていくか。

・教育を実践する者として、円滑に模擬授業を進め、その大切さを自覚できたか。

・1単位時間分(50分)の指導を実践して、教員としての態度・見識がしっかりと身に付いたか。

<第14講>

概要: 模擬授業

事前,事後学習ポイント: ・学習指導案を作成するために、教科書などの印刷教材、インターネット上の資料を収集し、要点をよく把握した教材研究が十分にこなされているか。

・学習指導案の作成に十分な時間をかけて、内容をよく理解したうえで、授業の進め方、板書・配布物の準備ができていくか。

・教育を実践する者として、円滑に模擬授業を進め、その大切さを自覚できたか。

・1単位時間分(50分)の指導を実践して、教員としての態度・見識がしっかりと身に付いたか。

<第 15 講>

概要：教育課程の編成

事前,事後学習ポイント：教育課程の編成について理解し、教職に就く者として求められる思考力・判断力が身に付いたか。

■教科書

文部科学省編 『高等学校学習指導要領解説 情報編』 開隆堂出版
この他に、課題研究や模擬授業に必要な高等学校の教科書等の資料を配布する。

■指定図書

文部科学省編 『高等学校学習指導要領』 国立印刷局

■参考文献・参考URL / Reference List

文部科学省ホームページ 『新学習指導要領 パンフレット』・『新学習指導要領 新旧対照表』

■評価方法

期末試験30%、提出物30%、出席40%

なお、期末試験、提出物、発表（模擬授業）については次の4点を中心に評価する。

- (1)教職および情報にかかわる専門用語を正確に理解しているか。
- (2)学習指導要領および講義内容をよく理解して学習指導案を作成できるか。
- (3)十分な教材研究に基づいて、正確・簡潔な表現で、よく整理された授業の構成になっているか。
- (4)学習指導案(導入⇒展開⇒まとめ)の指導プロセスと模擬授業が整合しているか。

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容について十分理解し、評価方法に示した(1)の観点について、その内容を自分の考察を含めて的確に説明できる。かつ(2)から(4)の全てを満たす授業の設計ができる。

評価A (89～80点)：講義内容について理解し、評価方法に示した(1)の観点について、その内容を自分の考察を含めて説明できる。かつ(2)から(4)のいずれか2つ以上を満たす授業の設計ができる。

評価B (79～70点)：講義内容について理解し、評価方法に示した(1)の観点について、その内容を説明できる。かつ(2)から(4)のいずれか1つ以上を満たす授業の設計ができる。

評価C (69～60点)：講義内容について理解し、評価方法に示した(1)の観点について、その内容を十分ではないが説明できる。かつ50分間の授業の設計ができる。

評価F (59点以下)：講義内容について著しく理解が不足している。または50分間の授業の設計ができない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

- ・高等学校で使用している「情報」の教科書を講義の中心に位置付け、レジュメおよび参考資料を配布する。
- ・講義には毎回出席し、意欲的な受講態度や丁寧な教案・資料作りが求められる。
- ・各自で学習指導案・単元指導案および参考資料(手許資料)を作成して、他の実習予定者にも配布する。
- ・研究課題ごとに、複数回の教材研究と模擬授業の機会を課する。
- ・教職に就く者として教科教育について強い「意志」が求められ、基本的な知識・態度と授業実践の手法の十分な習得が欠かせない。
- ・教員としての資質を啓発するために、指定した課題についての発表・模擬授業の機会を設け、教員としての適性の有無を観察・評価する。

科目名 生徒指導(Student Direction)**サブタイトル****担当教員** 山原 克明**■講義目的**

生徒指導の意義と課題、生徒指導の原理、生徒理解の考え方と方法、生徒指導と教育課程、生徒指導のあり方について理解を深め、教員として生徒指導上の諸問題に対応できる能力を高めることを目的とする。

いじめや登校拒否など深刻な問題が生じており、教科指導以外の生徒指導やホームルーム経営の面でも、新たな資質・能力が求められている。生徒の指導にあたって、特に重視されている学校における教育相談、進路指導(キャリア教育:望ましい職業観・勤労観に関する知識や技能を身に付けさせる)の現状とその課題などについても理解を深める。本講義では、『生徒指導提要』を基本教材として、生徒指導の意義と課題、生徒指導の原理、生徒理解の考え方と方法、生徒指導と教育課程、生徒指導のあり方について理解を深め、生徒指導上の諸問題に対応できる能力を高めることを目的とする。

■講義分類

教育：人を教える・育てる者としての資質・能力の育成

■到達目標

講義のほかにグループディスカッション、プレゼンテーションを通じて、教職に就くものとして求められる生徒指導の重要性について深く考察し、基本的な知識の確実な習得をめざす。

学校教育の成否は、生徒の教育に直接携わる教員の資質能力に負うところが極めて大きく、その向上がその重要なポイントとなる。

■講義形態

講義・グループディスカッション・実習・プレゼンテーション(発表)

■単元学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

90分程度の関連資料の整理と準備
 日常生活を通じて、「教育」にかかわる情報に留意する。

■講義の概要

<第1講>

概要：生徒指導の意義と課題

生徒指導は、学校がその教育目標を達成するための重要な機能の1つであり、子どもの人格の形成を図るうえで、大きな役割を担っている。

平成21年6月に「生徒指導提要の作成に関する協力者会議」が設置され、生徒指導の実践に際し教員間や学校間で共通理解を図り、小学校段階から高等学校段階までの組織的・体系的な生徒指導を進めることができるよう、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として、『生徒指導提要』(平成22年4月2日)が取りまとめられた。この提要では、学校種間の連携についても述べ、複雑化・多様化する児童生徒をめぐる課題について、児童生徒全体への指導と、個別の課題ごとの指導の基本的な考え方について解説し、発達障害者についての理解と支援の在り方についてもふれている。

この提要をそって、「生徒指導とは何か(生徒指導の意義と原理)」から講義を進める。

内容

・教育課程における生徒指導の位置付け

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

生徒指導の意義や原理をよく理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第2講>

概要：生徒指導の意義と課題

一 生徒指導とは何か(生徒指導の意義と原理)---

内容

・生徒指導の前提となる発達観と指導観

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

生徒指導の意義や原理をよく理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第3講>

概要：生徒指導の意義と課題

一 生徒指導とは何か(生徒指導の意義と原理)---

内容

・集団指導・個別指導の方法原理

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

生徒指導の意義や原理をよく理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第4講>

概要：生徒理解の考え方と方法

生徒指導における生徒理解の考え方、生徒指導における生徒理解の必要性、生徒理解の対

象、生徒理解の立場、生徒理解のための資料、生徒理解のための資料を集める方法、生徒理解の留意点について考える。

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

生徒理解とは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第5講>

概要：生徒理解の考え方と方法

内容

・生徒理解のための資料

・生徒理解の留意点

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

生徒理解とは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第6講>

概要：生徒指導と教育課程

教育課程の展開としての生徒指導は、生徒に直接働きかける教育活動として、休憩時間や放課後などにおいて個別に行われる指導やいろいろな形式で行われる教育相談などが生徒指導の仕事としてあげられる。

内容

・教科における生徒指導

・道徳教育における生徒指導

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

生徒指導と教育課程と生徒指導について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第7講>

概要：生徒指導と教育課程

教育課程の展開としての生徒指導は、生徒に直接働きかける教育活動として、休憩時間や放課後などにおいて個別に行われる指導やいろいろな形式で行われる教育相談などが生徒指導の仕事としてあげられる。

内容

・総合的な学習の時間における生徒指導

・特別活動における生徒指導

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

生徒指導と教育課程と生徒指導について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第8講>

概要：生徒指導の在り方

学校における生徒指導体制、生徒指導とホームルーム担任の教員、生徒指導と社会環境について、ホームルーム担任という想定のもとに、具体的な研究内容のロングホームルーム形式の視察実習を行う。

内容

・生徒指導体制の基本的な考え方

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

生徒指導の在り方について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第9講>

概要：生徒指導の在り方

内容

・生徒指導の組織と生徒指導主事の役割・

・年間指導計画 ・生徒指導のための教員の研修

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

生徒指導の在り方について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第10講>

概要：生徒指導の在り方

内容

・資料の保管・活用と指導要録

・全校指導体制の確立

・生徒指導の評価と改善

事前,事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

生徒指導の在り方について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第11講>

概要：学校における教育相談

生徒指導における教育相談の意義と特質、教育相談の方法、教育相談の限界と他の機関との連携、教育相談を担当する教員の資質と訓練について、具体的な研究内容として、カウンセリング研修ビデオを視聴し、事例を通じて生徒指導上で必要なカウンセリングの基本的な知識・技術によるいじめ・暴力行為・不登校への対応理解を図る。

内 容

- ・教育相談の意義
- ・教育相談体制の構築
- ・教育相談の進め方

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>

教育相談について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第 12 講>

概要: 学校における教育相談

内 容

- ・スクールカウンセラー、専門機関等との連携
- ・守秘義務と説明責任

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>

教育相談について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第 13 講>

概要: 進路指導と学級担任・ホームルーム担任の指導

進路指導については、学習指導要領に規定がある。人間としての在り方や生き方に関する教育の一環として位置づけられ、学校の教育活動全体を通じて推進を図る。

内 容

- ・生徒指導における学級担任・ホームルーム担任の立場
- ・基本的な生活習慣の確立
- ・校内規律に関する指導の基本
- ・児童生徒の安全にかかわる問題
- ・個別の課題を抱える児童生徒への指導

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>

進路指導の在り方や課題について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第 14 講>

概要: 進路指導と学級担任・ホームルーム担任の指導

— 望ましい職業観・勤労観および職業に関する知識や技能を身につけるために —

内 容

- ・キャリアとキャリア教育
- ・進路指導(キャリア教育)の充実
- ・出口指導から自己の個性を理解する指導への展開
- ・主体的に進路を選択する能力・態度の育成

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>

進路指導の在り方や課題について理解し、求められる知識が身に付いたか。

<第 15 講>

概要: これからの生徒指導

- ・人間関係の改善と望ましい人間関係の促進
- ・生徒の自然体験や生活体験の不足を補うような望ましい習慣の形成
- ・生徒の将来展望の不確実さや不安の解消および自己指導能力の伸長

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>

これからの生徒指導について考え、何が求められているかが考察できたか。

■教科書

『生徒指導提要』(文部科学省,電子データ)を印刷教材として配布する。

■指定図書

- [1]文部省新学校経営研究会編 『Q&A生徒指導の基礎知識』 教育開発研究所
[2]白井三恵編著 『生徒の自己実現を促げる生徒指導』 学事出版

■参考文献・参考URL / Reference List

<http://www.mext.go.jp>

■評価方法

期末試験 (30%)、提出物・模擬指導 (10%)、出席 (60%)

■評価基準

評価A+ (90点以上): 期末試験(30%) 提出物・模擬指導(10%) 出席(60%)

本講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質や意欲を勘案して評価する。 ・指導者(教員)として生徒指導の方法をよく理解し、安定した資質を発揮して、ふさわしい考え方やもの見方を身に付けているか。 期末試験 ・教員を目指す者として、講義内容の全般にわたる知識を十分に身に付けているか。 ・教員としての教養を身に付け、生徒指導に関する事項を正確に理解しているか。 ・出題の意図よく理解し、適当な分量で的確に答えているか。 ・提出物 ・教員としての視点から、講義で取り上げた内容をよく理解しているか。 ・主要な論点を取り出し、適切な分量で論述しているか。 ・正確でわかりやすい表現で、整理された論理構成で話されているか。

評価A (89-80点) : 本講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質や意欲を勘案して評価する。

評価B (79-70点) : 本講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質や意欲を勘案して評価する。

評価C (69-60点) : 本講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員とし

ての資質や意欲を勘案して評価する。

評価F (59点以下) : 本講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質や意欲を勘案して評価する。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年生次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・講義には、欠席・遅刻なく出席することが必要である。(原則として、欠席・遅刻はできない。)
- ・『生徒指導提要』によるレジュメを中心に、参考資料を配布して講義を進める。
- ・生徒指導上の課題を具体的に考察し、実践的、基礎的・基本的な考え方を扱う。

科目名 教育相談(Educational Counseling)**サブタイトル****担当教員** 大森 拓哉**■講義目的**

本講義は、教育場において相談を受ける立場となった時のその方法や技術・知識の習得と、理論的学問的な背景、実践場面での応用などについて学ぶ。実際にカウンセラーとなつて業務を行うには数多くの経験と豊富な知識が必要であり、本講義だけでそれを満たすことは不可能であるが、相談を受ける立場の者として最低限必要な素養を身につけることを目的とする。教育場とは、学校教育のみならず、社会人教育、人材教育などの場面も想定し、実社会に必要な、意味のある知識を習得する。

■講義分類

志、キャリア
産業社会、サービス、最新事例
課題発見、問題解決、実践的知識獲得
問題解決のための理論、問題解決のための科学、問題解決のための方法
顧客理解、ビジネス環境理解、ビジネス創造、ビジネスマネジメント、
社会人育成、社会人基礎力

■到達目標

教育相談の理論と実践について、適切に理解し、実際の場面でも応用できるかどうか。

■講義形態

講義 + GD・GW・PR

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

各回に新出した用語についてはまとめておくこと。また、実習等行った課題については、自分自身の振り返りとともにまとめておくこと。

■講義の概要

<第 1 講>

概要：教育相談とは何か

事前、事後学習ポイント：教育相談、カウンセリング

<第 2 講>

概要：幼児・児童期の発達

事前、事後学習ポイント：幼児期、児童期

<第 3 講>

概要：思春期・青年期の発達

事前、事後学習ポイント：思春期、成年期

<第 4 講>

概要：不適応・不登校

事前、事後学習ポイント：不登校、不適応

<第 5 講>

概要：いじめ・虐待

事前、事後学習ポイント：いじめ・虐待

<第 6 講>

概要：学習障害・発達障害

事前、事後学習ポイント：アスペルガー症候群、ADHD

<第 7 講>

概要：学校カウンセリング

事前、事後学習ポイント：相談室、スクールカウンセラー

<第 8 講>

概要：カウンセリングの技法①

事前、事後学習ポイント：心理カウンセリング、来談者中心療法

<第 9 講>

概要：カウンセリングの技法②

事前、事後学習ポイント：精神分析、行動療法、認知行動療法

<第 10 講>

概要：カウンセリングの技法③

事前、事後学習ポイント：自律訓練法、森田療法、音楽療法、箱庭療法

<第 11 講>

概要：心理テスト①

事前、事後学習ポイント：質問紙法、性格検査

<第 12 講>

概要：心理テスト②

事前、事後学習ポイント：面接法、投影法

<第 13 講>

概要：ソーシャルスキル・ライフスキル教育

事前、事後学習ポイント：社会性、対人関係、生涯教育

<第 14 講>

概要：進路・キャリア相談

事前、事後学習ポイント：進路指導、キャリア支援、就職指導

<第 15 講>

概要：まとめ

事前、事後学習ポイント：-

■教科書

プリント等を配布

■指定図書

教師のための学校カウンセリング、小林正幸他、有斐閣アルマ、2008

生徒指導と教育相談、角田豊編、創元社、2009

教師のためのカウンセリング実践講座、菅野純、金子書房、2007

教師のための教育相談の基礎、久芳美恵子、三省堂、2003

■参考文献・参考URL / Reference List**■評価方法**

出席点60%、期末テスト40%

■評価基準

評価A+ (90点以上)：講義内容を完全に理解できている

評価A (89～80点)：講義内容を理解できている

評価B (79～70点)：講義内容をおおよそ理解できている

評価C (69～60点)：最低限の理解ができている

評価F (59点以下)：講義科目の履修目標に達していない

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

実施しない

■留意点

本講義は教職科目の中の一科目でもあるので、教職課程履修のものは必修の授業である。

科目名 特別活動(Extracurricular activity)

サブタイトル

担当教員 山原 克明

■講義目的

特別活動では、教科・科目、総合的な学習の時間で学んだことを生活や行動に生かすという自主的、実践的な態度を育てることが求められる。本講義は、学習指導要領の改訂による教育の基調の転換をふまえて、特別活動の「なすことによる学ぶ」という本質に基づき、体験的指導力(人間的な魅力)の育成を目指す、教育的な意義と目標、特質、教員としての実践的な資質や指導力の習得を図ることを目的とする。

■講義分類

教育：人を教える・育てる者としての資質・能力の育成

■到達目標

特別活動および教育課程の意義と編成について、講義とともにグループディスカッション、プレゼンテーションを通じて、教員としてホームルーム活動・生徒会活動・学校行事の重要性について考察し、教職に就く者としての基本的な知識の確実な習得と実践する力を身に付けることをめざす。

■講義形態

講義・グループディスカッション・実習・プレゼンテーション(発表)

■準備学習(予習・復習等)に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

90分程度の関連資料の整理と準備

日常生活を通じて、「教育」にかかわる情報や社会の動向に留意する。

■講義の概要

<第1講>

概要：意義と目標・改訂の経緯と趣旨 一意義・課題(1)

特別活動と道徳、総合的な学習の時間のそれぞれの役割を明確にし、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性の育成を図るという特別活動の特質を踏まえ、特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する。

学習指導要領の改善の方向性

・改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂

・「生きる力」という理念の共有

・基礎的・基本的な知識、技能の習得

・思考力・判断力・表現力等の育成

・確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保

・学習意欲の向上や学習習慣の確立

・豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

・総論(改訂の経緯・改訂の趣旨・改訂の要点)

事前、事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

特別活動とは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。

・新たに規定されたホームルーム活動、生徒会活動、学校行事この3つの目標について

・21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成を目指すという観点(教育基本法の改正)

<第2講>

概要：意義と目標・改訂の経緯と趣旨 一特別活動の目標(2)

特別活動の目標は、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の三つの内容の目標を総括する目標である。

「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築くこととする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」

・目標(特別活動の目標・各活動・学校行事の目標との関連)

事前、事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

特別活動の目標について理解し、各特別活動の目標との関連を明確にできたか。

・よりよい人間関係を築く力

・集団や社会の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度の育成

・人間としての在り方生き方

<第3講>

概要：意義と目標・改訂の経緯と趣旨 一改訂の経緯(3)

各教科以外の教育活動」と呼ばれていたものを中学校の「特別活動」に合わせて名称を変更し、中学校特別活動との一貫性を明確にするよう改められたものである。しかし、この特別活動は、昭和53年の改訂で全く新しく設けられた領域であるということではなく、戦後の学校教育の中にその前身と考えられる教育内容があり、それらを基盤の一つの領域にまで徐々に整備されてきたものである。

平成11年の学習指導要領の改訂

これまでの特別活動の基本的性格については、それを継承しながら、社会や学校の変化に対応した学校教育の推進、完全学校週5日制の下での教育活動の展開という観点から、生徒の「生きる力」の育成を目指した改善を進めるとともに、特別活動の内容構成についても見直しを行った。

平成21年の改訂

特別活動の教育課程における位置づけについては従来ものを継承しているが、目標として「よりよい人間関係」を築くことが新たに加えられ、各活動・学校行事の目標が明示されるとともに、各教科・科目及び総合的な学習の時間との関連が一層強められることとなった。

・基本的な性格と教育的意義

・教育課程上の位置付け

・人間形成と特別活動

事前、事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

特別活動の教育課程上の位置付け、人間形成との関係が理解できたか。

・体験活動や生活改善する実践

・話し合い活動の一層の充実

<第4講>

概要：意義と目標・改訂の経緯と趣旨 一人間形成と特別活動の基本的性格(4)

子どもたちが、これらから生きていかなければならない社会は、変化が激しく、複雑な人間関係の中で新しい未知の課題に試行錯誤しながら対応することが求められる難しい社会である。このような社会をたくましく生きていかなければならない生徒にとっては、このような複雑で変化の激しい社会での生き方などについて体験的に学ぶ必要がある。

特別活動は、その重要な場や機会として、学校教育において、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、実際の社会で生きて働くことに資する力を身に付けるなど、生徒の人間形成を図る教育活動である。

・学校における集団活動や体験的な活動の一層の充実

・発達の段階を踏まえた指導の充実

・集団活動を特質とすること

・「なすことによる学ぶ」ことを通じた全人的な人間形成

・特別活動の内容相互の関連

事前、事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

特別活動の内容相互の関係が理解できたか。

・ボランティア活動などの社会参画にかかわる内容を充実

・実際の生活体験や体験活動による学習(「なすことによる学ぶ」)

<第5講>

概要：ホームルーム活動の内容と指導(1)

ホームルームは、学校における生徒の生活の単位組織と、固有の生徒の活動が行われ、学校における生徒の様々な活動の基盤としての役割を果たす場である。学校における生徒指導(進路指導を含む)を進めるために、生徒が心理的に最も安定して帰属できる「心の居場所」としての意義も大きい。相互の受容と共感による親密な人間関係に基づく家庭的な雰囲気の中で指導が行われる。

内容

・ホームルーム活動の目標

「ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。」

・高等学校の特別活動における道徳教育

・人間としての在り方生き方に関する指導を通じた充実

事前、事後学習ポイント：<予習・復習ポイント>

ホームルームとは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。

・生徒が心理的に最も安定して帰属できる「心の居場所」としての意義

・相互の受容と共感による親密な人間関係に基づく家庭的な雰囲気

・健全な生活態度を身に付け他者と共生しながら自己実現

開かれた人間関係

<第6講>

概要：ホームルーム活動の内容と指導(2)

・ホームルームや学校の生活づくり

・適応と成長及び健康安全

・学業と進路

内容

・ホームルーム活動の内容

ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決

ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動

年期の悩みや課題とその解決
自己及び他者の個性の理解と尊重
コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立
国際理解と国際交流
生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立
学びごとと働くことの意義の理解
教科・科目の適切な選択
望ましい勤労観・職業観の確立

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>
ホームルーム活動の内容とは何かについて理解し、求められる知識が身に付いたか。
・ホームルームや学校の生活づくり
・適応と成長及び健康安全
・学業と進路
<第 7 講>
概要: ホームルーム活動の内容と指導 一ホームルーム活動の指導計画 (3)
・特学校の創意工夫を生かすこと。
・学校の実態や生徒の発達の段階及び特性等を考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。
・各教科・科目や総合的な学習の時間などの指導との関連を図ること。
・家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫すること。
・ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験的な活動や就業体験などの勤労にかかわる体系的な活動の機会をできる限り取り入れること。
・指導内容の重点化と内容間の関連や統合などを工夫すること。

内容
・ホームルーム活動の指導計画
・ホームルーム活動の内容の取扱い

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>
ホームルーム活動の指導計画とは何かについて理解し、指導内容を取り扱う知識が身に付いたか。
・特学校の創意工夫
・学校の実態や生徒の発達の段階及び特性等の考慮
・生徒による自主的、実践的な活動の助長
・各教科・科目や総合的な学習の時間などの指導との関連
・家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などの工夫
・ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験的な活動
・就業体験などの勤労にかかわる体系的な活動の機会
<第 8 講>
概要: 生徒会活動の内容と指導 一生徒会活動の目標 (1)
「生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。」

内容
・生徒会活動の目標(自主的、実践的な態度)
・生徒会活動で期待されること(生徒の自主性・主体性を育てる)

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>
生徒会活動について理解し、求められる知識が身に付いたか。
・生徒会活動の目標
・生徒会活動に期待されること
・生徒会活動で育てたい「望ましい人間関係」、「自主性・実践的な態度」
<第 9 講>
概要: 生徒会活動の内容と指導 一生徒会活動の内容 (2)
(1) 生徒会の計画や運営
(2) 異年齢集団による交流
(3) 生徒の総活動についての連絡調整
(4) 学校行事への協力
(5) ボランティア活動などの社会参画

内容
・学校の全生徒で組織する生徒会
・学校生活の充実と向上を図る活動
・学校集団としての活力を高めること
・健全で豊かな学校生活が展開できるような集団を育成すること

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>
生徒会活動にの活力ついて理解し、求められる知識が身に付いたか。
・学校生活における規律とよき校風確立のための活動
・異年齢集団による交流
・学校行事への協力
・ボランティア活動などの社会参画
<第 10 講>
概要: 学校行事の内容と指導 (1)

学校行事の目標
「学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」

学校行事は、全校若しくは学年またはそれらに準ずる比較的大きな集団を単位として、日常の学習や授業を総合的に発揮し、その発展を図る体験的な活動である。学校行事の目標は、大きな集団における望ましい集団活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築き、社会的に自立しようとする自主的、実践的な態度を育成することにある。

内容
・望ましい人間関係を形成
・集団への所属感や連帯感

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>
学校行事について理解し、求められる知識が身に付いたか。
・公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築く
・社会的に自立しようとする自主的、実践的な態度の育成
<第 11 講>
概要: 学校行事の内容と指導 (2)
儀式的行事(学習指導要領第 5 章の第 2)
学校生活に有意義な変化や折り返しを付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと。
文化的行事(学習指導要領第 5 章の第 2)
平素の学習活動の成果を総合的に生かし、その向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするような活動を行うこと。

内容
・儀式的行事
・文化的行事

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>
儀式的行事・文化的行事について理解し、求められる知識が身に付いたか。
<第 12 講>
概要: 学校行事の内容と指導 (3)
健康安全・体育的行事(学習指導要領第 5 章の第 2)
心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団活動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。
旅行・集団宿泊的行事(学習指導要領第 5 章の第 2)
平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。

内容
・健康安全・体育的行事
・旅行・集団宿泊的行事

事前,事後学習ポイント: 予習・復習ポイント
健康安全・体育的・旅行・集団宿泊的行事について理解し、求められる知識が身に付いたか。
<第 13 講>
概要: 学校行事の内容と指導 (4)
勤労生産・奉仕的行事(学習指導要領第 5 章の第 2)
勤労の尊ぶと創造することの喜びを体得し、就業体験などの職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。

内容
勤労生産・奉仕的行事

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>
勤労生産・奉仕的行事について理解し、求められる知識が身に付いたか。
<第 14 講>
概要: 指導計画の作成と内容の取扱いとこれらからの課題
各教科および特別活動の指導計画は、学校の教育目標達成の上で重要な役割を果たすものである。学習指導要領の特別活動の分析を行い、相互の違いを明らかにして、21世紀の教育の目指すところを考えてみる。

内容
・教育課程(カリキュラム)の意義と編成
・指導計画の種類(全体指導計画・各内容の全体計画・年間指導計画・位時間の指導計画(指導案)など)
・文部科学省ホームページから特別活動に関連するデータの収集・分析

事前,事後学習ポイント: <予習・復習ポイント>

- ・指導計画の作成と内容の取り扱いと指導計画の作成
- ・高等学校のカリキュラム編成と基準について理解
- ・指導計画作成の配慮事項
- ・ガイダンス機能の充実

<第 15 講>

概要：■高等学校の学習指導要領を理解

内容

- ・「生きる力」をはぐくむという理念を実現するためのこれまでの手立て・課題
- ・「生きる力」の意味や必要性
- ・授業時数の確保

■入学式や卒業式などにおける国旗・国歌の指導

内容

- ・国旗・国歌に対する一層正しい認識をもたせ、尊重する態度を育てることの重要性

■特別活動の指導と担当する教師

内容

- ・特別活動の指導を担当する教師の在り方

事前,事後学習ポイント：<学習・復習ポイント>

- ・高等学校の学習指導要領を理解し、教職に就く者として求められる知識が身に付いたか。

か。

- ・「生きる力」をはぐくむという理念実現のため手立て・課題
- ・「生きる力」の意味や必要性

・授業時数

- ・国旗・国歌の意義ならびにそれらを相互に尊重することが国際的な礼儀であることが理解できたか。

- ・対象となる生徒の集団の種類や規模に応じて適切な分担が必要であることを理解できたか。

■教科書

文部科学省編 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』 東山書房

■指定図書

[1]文部科学省編 『高等学校特別活動指導資料』 海文堂出版

[2]山崎準二編 『教育課程』 学文社

[3]森崎昭伸他編著 『高等学校新学習指導要領の解説 特別活動』 学事出版

■参考文献・参考URL / Reference List

日本特別活動学会編 『キーワードで拓く新しい特別活動』 東洋館出版社

文部科学省ホームページ 『新学習指導要領 パンフレット』

<http://www.mext.go.jp/>

■評価方法

講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質をや意欲を勘案して評価する。

(期末試験(30%) 提出物(10%) 出席(60%))

■評価基準

評価A+ (90点以上) : 期末試験(30%) 提出物・模範指導(10%) 出席(60%)

本講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質をや意欲を勘案して評価する。 ・指導者(教員)として生徒指導の方法をよく理解し、安定した資質を発揮して、ふさわしい考え方・ものの見方を身に付けているか。 ・期末試験 ・教員を目指す者として、講義内容の全般にわたる知識を十分に身に付けているか。 ・教員としての教養を身に付け、特別活動に関する事項を正確に理解しているか。 ・出題の意図よく理解し、適当な分量で的確に答えているか。 ・提出物 ・教員としての視点から、講義で取り上げた内容をよく理解しているか。 ・主要な論点を取り出し、適切な分量で論述しているか。 ・正確でわかりやすい表現で、整理された論理構成で話されているか。

評価A (89~80点) : 講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質をや意欲を勘案して評価する。

評価B (79~70点) : 講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質をや意欲を勘案して評価する。

評価C (69~60点) : 講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質をや意欲を勘案して評価する。

評価F (59点以下) : 講義は 絶対的な評価基準を採用し、講義を通じて教員としての資質をや意欲を勘案して評価する。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない

■留意点

- ・教育課程(カリキュラム)の意義と編成についてもふれる。

- ・講義には毎回出席して、教員としての立場から真剣に受講することが求められる(原則として、欠席・遅刻はできない)。

- ・『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』を中心に、参考資料を配布して講義を進める。

- ・適宜研究課題を提示するので、教育を担当する立場で、指導上の取り上げかたを検討し、模範的な形式の授業やショートホームルームで実践してみる。

科目名 スタディーアブロード (地域学生センター) I～VIII (Study Abroad I～VIII)**サブタイトル** スタディーアブロード (地域学生センター) I～VIII**担当教員** 奥山 雅之**■講義目的**

「多摩グローバル人材」のめざし、地域学生センターで生活しながら、地域住民のニーズを踏まえて地域貢献活動を行うことで、ニュータウン地域の課題について現実感を持って把握し、その解決の手法を習得することを目的とする。

■評価基準

評価N (認定) : 一定時間以上の地域活動等に参加し、地域の課題と解決策の検討を含めた一定の質の地域活動報告書をまとめる。この2つが備わっているかどうかで認定を行う。

評価F (認定せず) : 一定時間以上の地域活動に参加しない場合、または上記地域活動報告書を提出しない場合には認定しない。

■講義分類

地域ビジネス

■到達目標

- (1) 地域の方々に対して、自分たちの意見、考え方、アイデアをしっかりとした形で伝え、提案できる。
- (2) 地域の課題、地域の方々のニーズを的確に読み取り、状況に応じて対応ができる。
- (3) 自分が必要な地域の情報 (web、資料、文献等) を検索し、内容を読み取って適切に利用できる。
- (4) 多摩地域が抱える課題を生活に理解し、地域住民の一人として自覚と責任を持った行動をとるとともに、「多摩大学経営情報学部地域学生センター学生委員」として地域の方々と積極的にネットワーク形成を図る。

■講義形態

多摩ニュータウン地域を中心とする広域多摩での社会的諸活動、学内での打ち合わせ、検討会議等

■準備学習 (予習・復習等) に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

地域への理解活動 (文献研究を含む)、地域活動の準備

■履修していることが望ましい科目**■卒業年次生対象再試験の実施**

実施しない

■留意点

この認定科目の履修は、地域学生センターに入居していることが条件となる。

■講義の概要

地域学生センターで生活しながら、地域住民のニーズを踏まえて地域貢献活動を行う。必要に応じて活動の前後でアドバイスを実施する。こうした活動を通じて、ニュータウン地域の課題について現実感を持って把握し、その解決の手法を検討する。

地域学生センターに入居し、一定時間以上の地域活動に参加した場合、さらに地域活動に関する報告書を提出した場合にこの科目の単位を取得することができる。

こうした一連の活動の内容を審査することにより、それにふさわしい単位数 (原則半期2単位) を原則として認定する。

活動記録に基づき、活動内容を担当教員が審査、評価する。多摩大学の学生にふさわしい志をもって産業社会の問題解決が行えたかどうか重視される。

■教科書**■指定図書****■参考文献・参考URL / Reference List****■評価方法**

海外・国内での単位認定を伴う社会的活動のための事前事後審査シートの記入、担当教員との複数回の面接、担当教員が必要と判断する研修見学への参加、活動報告プレゼンテーション大会への参加、必要に応じて多摩大学ホームページ (海外NOWなど) への投稿。参加する社会的活動に関連したすべての書類と資料の提出

科目名 ▶ スタディーアブロード（地域実習）I～VIII（Study Abroad I～VIII）

サブタイトル ▶ 国内で志をもって活動する学生のための単位認定

担当教員 ▶ 梅澤 佳子

■講義目的

大学が主催ないしは認定した国内活動に参加した学生が、参加活動時間を正規の単位として読み替えるための科目である。担当教員との事前面談、学習、事後学習、報告が必要となる。このような科目を設ける目的は、学生の異文化体験を促進することにある。海外・国内問わず社会環境は異文化との関係で成立している。これを解釈し伝達することが問題解決には不可欠である。特に国内の異文化と関わり、その能力を身につけるのが本講義の目的である。

■講義分類

地域ビジネス

■到達目標

- 1) 参加経験を通じた自分たちの意見、考え方をしっかりと伝えることができる。
- 2) 参加した地域に暮らす人々の多様な情報を摂取し、各地域の文化の差異を認識する。
- 3) 異文化体験が問題解決に有効であることを認識する。

■講義形態

講義・地域実習

■準備学習（予習・復習等）に必要な時間またはそれに準ずる程度の具体的な学習内容

事前学習日です。

■講義の概要

今年度のスタディアブロードは、庄内、出羽三山をフィールドとする。独自の自然環境を受け入れ、折り合いをつけて生きてきた地域の暮らしと、長い歴史の中で形成された山・森林の文化について学ぶ。地域の暮らしと文化を支える人々と共に活動し、地域の伝承文化、食文化等に触れることで、地域文化に対する理解を深める。さらに、日本固有の自然に対する見方・考え方や地域文化が、国内外から来る旅行者にとっていかなる魅力となっているのか学ぶ。グローカルなものの見方・考え方を醸成し、今後、日本が向き合わなければならない地域の課題、解決への取り組みについて視野を広げる。

■教科書

特になし。

■指定図書

特に指定しない。

■参考文献・参考URL / Reference List

- 1) 内山節『ローカリズム原論』農文協、2012年
- 2) 奥田政行『人と人をつなぐ料理・食で地域はよみがえる』新潮社、2010年
- 3) 敷田麻実『地域からのエコツーリズム－観光・交流による持続可能な地域づくり』学芸出版、2008年
- 4) 森敦『月山』河出書房新社、1974年
- 5) 横山紘一『十牛図の世界』講談社、1987年
- 6) 齋藤修『環境の経済史－森林・市場・国家』岩波書店、2014
- 7) 宇沢弘文・関良基『社会的共通資本としての森』東京大学出版会、2015

■評価方法

講義（20％）、現地実習への参加（60％）、課題レポート（20％）の割合で評価する。

■評価基準

評価F（認定）：1）事前・事後の講義、現地実習に学習意欲をもって参加していた。
2）与えられた課題を提出した。
3）本講義の目的を理解し、到達目標に至ることができた。
上記の内容を含め、十分な成果が認められた場合、単位を認定する。
評価F（認定せず）：1）事前・事後の講義、現地実習において、学習意欲と主体的な参加態度がみられなかった。
2）課題が提出されなかった。
3）本講義の目的を理解し、到達目標に至らなかった。
上記の内容を含め、学習成果が認められず、到達目標に達していないと判断した場合は単位を認めない。

■履修していることが望ましい科目

■卒業年次生対象再試験の実施

実施しない。

■留意点

積極的に受け身になり、自然、地域を「学ばせていただく」という謙虚な姿勢を求めます。羽黒山・月山・湯殿山を歩きます。ある程度の体力が必要です。